工 事 仕 様 書

工事名称　　西小学校長寿命化改修工事（建築主体工事）

工事場所　　三原市西宮二丁目

工事内容　　三原市立西小学校の管理・特別教室棟と屋内運動場における、改修工事を行う。

【工事概要】
・管理・特別教室棟
　RC造、地上3階、延床面積1,268㎡
・屋内運動場
　RC造、地上1階、延床面積726㎡

準　則　　公共建築工事標準仕様書（最新版）、公共建築改修工事標準仕様書（最新版）、
建築物解体工事共通仕様書（最新版）に基づき施工する。

関係法令等　　本工事については、次の関係法令その他の規定等に基づき施工すること。
・建築基準法、同施行令、同施行規則
・消防法、同施行令、同施行規則
・廃棄物の処理及び清掃に関する法律、同法施行令、同法施行規則
・労働安全衛生法、同法施行令、労働安全衛生規則
・建設工事公衆災害防止対策要綱
・石綿障害予防規則
・大気汚染防止法、振動規制法及び土壌汚染対策法
・建設工事に係る再資源化等に関する法律、同法施行令、同法施行規則
・その他関係法令

工事保険等　　受注者は、本工事において第三者に与えた損害を補填する保険又はその他必要とする建設工事に関連する保険等に加入しなければならない。

疑義変更　　本設計図書は、設計の大要を示すものであり、詳細部等について技術的必要事項は明記なくとも完全に施工すること。
施工に際して疑義を生じた場合、または軽微な変更を必要とする場合には、速やかに監理者と協議し、監督員の指示により施工すること。ただし、これらに於いて受注金額の増減はなきものとする。

提出書類　　施工に先立ち、工事工程表、仮設計画図及び監督員の指示する書類を提出し、監督員の承認を受けること。商品名及び製造者名が記載された材料については、当該商品又は同等品を使用するものとし、同等品を使用する場合は、監督員の承諾を受けるものとする。また、設計図書に定める品質及び性能を有することの証明となる資料を提出して監督員の承諾を受けるものとする。

工　期　　本工事は請負契約締結の後、令和8年2月24日をもって工期とする。このうち検査期間として13日間を見込んでいる。

留意事項

・工事受注後、すみやかに関連工事施工者及び関係機関と工程調整等を実施し、早期着手・早期完成に努めること。また、これらについては、受注者が主体となって協議・調整を行うこと。
・コンクリート破砕等の作業において、低騒音型機械を使用するものとする。また、重機運転操作にあたっては、慎重な運転を行うこと。
・本工事内及び近接する地域住民、学校等には工事内容等を十分に周知・調整したうえで、苦情やトラブルのないよう施工に努めること。また、特記仕様書及び設計図書に明示していない事項、または、その内容に疑義が生じた場合は、監督員の指示を受けること。
・本工事は、近隣住民等の安全はもとより、丁寧な説明と施工により、関係者の理解と協力を得ながら実施すること。
・入札に先立ち現地調査を十分に行ない、質疑がある場合は入札前に確認すること。
・行政機関の休日に関する法律（昭和63年法律第91号）に定める行政機関の休日に工事の施工を行わない。ただし、あらかじめ監督職員の承諾を受けた場合は、この限りではない。
・工事中に粉塵の発生が予想される工種については、周辺の環境対策のため散水を確実に行うこと。
・工事期間中は付近の交通の安全を図ると共に、必要な場合には交通誘導員を配置し事故及び危険防止に努めること。
・周辺道路の保全及び清掃については、常に注意を払い定期的に清掃を行うこと。
・工事車両等により周辺の道路を汚した場合は、清掃を行うこと。
・工事に支障を及ぼす雨水及び湧水等の排水については、ノッチタンクにより汚泥等の処理を行ったうえ、適切に排水すること。
・第三者災害防止及び飛散防止対策のため、必要に応じて監督員の指示する範囲に、バリケード等を設置すること。また、苦情等発生した場合にはこれに対応すること。
・台風等の強風が見込まれる場合、事前に足場等の養生シートを折りたたむなど対策を施すこと。
・工事に係る電気、水道及び下水道料金等は受注者の負担とする。
・施工面積（外構工事含む）が3,000㎡以上の場合、土壌汚染対策法第4条第1項に規定する届け出を工事着手30日前までに所轄官庁へ提出すること。
・石綿含有建材の調査について、工事着手前までに書面及び目視調査を、一般建築物石綿含有建材調査者、特定建築物石綿含有建材調査者、またはこれらの者と同等以上の能力を有すると認められる者が行うこと。
・また、含有建材の調査結果を工事着手前までに発注者に対し説明を行うこと。
・廃石綿等が発見された場合は、建築物解体工事共通仕様書のアスベスト含有建材の除去等に基づき、適切に除去を行うこと。
・その他石綿の飛散防止等については、改正大気汚染防止法、施行令（令和3年4月1日施行）及び「建築物等の解体等に係る石綿ばく露防止及び石綿飛散漏えい防止対策徹底マニュアル」（令和6年2月改正）に基づくこと。
・屋内運動場外壁アスベスト除去作業の時期については、夏休み期間等に実施すること。また、除去作業は屋内運動場を使用を休止するため、学校関係者等と協議のうえ除去時期を決める。
・アスベスト除去作業時についてはアスベスト粉じん濃度測定を実施すること。濃度測定方法はJIS K3850-1に基づいた測定とすること。なお、実施方法・時期についてはA-07図による。
・アスベスト除去作業については別添「石綿除去作業要領」を遵守し実施すること。
・別途工事（電気設備工事）に引き渡す必要があるため、屋内運動場外部改修工事と、それに伴う折版屋根一時撤去・再取付工事は令和7年12月までに完成させること。
・官公署その他への手続きは受注者の負担で遅滞なく行うこと。
・施工箇所周囲の備品、機器等については、養生及び清掃等を確実に行うこと。
・図面に明示されていない事項であっても、工事上必要とされる事は工事範囲とする。
・工事に伴い各種申請手数料等が発生した場合は受注者の負担とする。
・配筋検査は、受注者による自主検査を行ったうえ、監理者及び監督員による検査を受検すること。なお、これらの検査は、種類、径及び数量については全数検査を行うこと。
・本工事の外注資材、労務等の調達については、極力、三原市内に主たる営業所を有する業者に発注すること。困難な場合は、あらかじめ、理由を添えて発注者の承認を受けること。
・本工事は週休2日（4週8休以上の現場閉所）の対象工事として全体工期の設定及び積算している。

・契約後、受注者が工事着手前に発注者に対して週休2日に取り組む旨を協議した上で取り組むこととする。なお、工事着手前に週休2日に取り組むことについて協議が整わなかった場合（受注者が週休2日の取り組みを希望しない場合を含む）及び達成状況を確認して4週8休に満たないものは、その達成状況に応じて労務費と共通費の補正分を減額変更する。
・定例会議の頻度と方法は協議による。方法は現場事務所での現地開催を基本とし、一部Web会議（現場事務所と市役所を想定)併用とする。現場でのWeb会議の環境設定（受注者側がホスト。現場の通信費等を含む。）は、工事に含む。
・資料の削減を目的として、電子機器の利用を主とすること。
・定例会の資料は、電子データとすること。
・受注者は各定例会の前日までに必要な資料を所定の場所に提出すること。
・受注者は各定例会後の5日以内に議事録を作成して、所定の場所に提出して出席者に内容を共有すること。
・現場事務所には、HDMI規格を出力できるモニター（50インチ以上）を設置すること。
・現場事務所内は、無線通信（同時接続10台以上）が可能な環境とすること。
・交通誘導員は本工事で見込んでいる。実施数量が設計数量に満たない場合は設計変更（減額）の対象とする。
・工事作業期間中の交通誘導員は、常時1人／日に加え、重機・機材・材料の出入り等につき、1人／日を見込んでいる。
・外部足場等に過剰な宣伝広告はしないこと。
・受注者事務所、休憩所及び便所等は関係法令に従って設けること。
・工事完了後、完成図として製本図面（二つ折り・A3縮小版）を3部提出すること。
・以下の設計図面は、A1版をA3版に縮小している。（縮小率50％）
・杭等の図面にない地中工作物が発見された場合は、位置や寸法の記録を完成図書に加えること。
・広島県工事中情報共有システムを利用すること。なお、本工事にシステム利用料金を見込む。
・工事完了後、完成図として製本図面（二つ折り・A3縮小版）を3部提出すること。
・広島県工事中情報共有システムを利用すること。なお、本工事にシステム利用料金を見込む。
・近隣住民等への支障を最小限とするため、騒音、振動及び粉塵等の対策については最大限配慮した施工方法を採用すること。
・工事車両の通行については施設利用者等の安全を最優先すること。
・工事に係る電気、水道及び下水道料金等は受注者の負担とする。
・仮使用申請、道路使用、道路改築申請等の手続きについては、受注者の負担により遅滞なく行うこと。
・雨水の浸入を防止する部分、屋根、外壁又はこれらの開口部に設ける戸、わくその他の建具周り等からの雨水の浸入に関する瑕疵については引渡しの日の翌日から10年間責任を負うこと。
・請負契約の締結後から現場施工に着手するまでの期間（現場事務所の設置、資機材の搬入又は仮設工事等が開始されるまでの期間）については、現場代理人及び主任（監理）技術者の専任を要しない。なお、現場施工に着手する日については、監督職員との打合せにおいて定める。
・本工事は、「発注者指定型」による週休2日工事等の対象工事であり、実施にあたっては「三原市　週休2日工事等実施要領」に基づき実施するものとする。
・要求の確保に必要な仮設は工事に含むものとする。
・各公園における工事が完了する毎に、検査員による検査を受け、合格したトイレを使用できるようにすること。
・本工事は学校を利用しながらの施工を想定している。よって、学校利用者等へ工事の影響を最小限とするよう、騒音、振動及び粉塵等の対策に最大限配慮した施工方法を採用すること。

（別添）

石綿除去作業要領

負圧隔離養生+集塵装置付きディスクグラインダーケレン工法及び超音波ケレン工法

（HEPAフィルター付き掃除機併用）の場合

工事期間は夏休み等を利用し、屋内運動場内部を使用禁止とする。

	［作業手順］	［主な内容］
［事前準備］	工事計画・要領書作成 必要機器・資材の準備・調達	・アスベストにかかわる解体などの工事報告 ・適用事業報告書
〔除去工事施工〕		
［事前調査］	事前調査結果・お知らせ看板の掲示	作業を行う石綿の種類含有率等を掲示する。 発注者・作業期間・請負業者・連絡先等を専用掲示板を設置する。
	作業員の健康診断	一般健康診断 ・特定化学物質等健康診断（6ヶ月以内に1回定期健診40年保管） ・じん肺健康診断 作業員の特別教育の実施 ①アスベストの有害性及び取り扱い方法に関すること ②主要機器及び保護具等の性能及び取り扱い方法に関すること ③作業手順に関すること ④アスベストに起因する疾病について ⑤アスベストの法規制関係 ⑥その他安全衛生上特に留意する事項
［準備作業］	処理工事の実施の表示	作業管理区域の設定 作業場の出入り口の見やすいところに「作業関係者以外立入禁止」の表示をする。
	作業管理区域の清掃	HEPA付真空掃除機その他で清掃する。また、撤去可能なものは、あらかじめ作業場外へ持ち出しておく。
	固定機器養生	コンパネ・養生材使用して固定機器養生を行う。
	養生ヶ所の確認	1・2次下請、元請担当者、市が委託する監督員、市監督員により実施
［養生］	床の養生 保護具、半面型6000/2091-RL3同等装着	厚さ0.15㎜のプラスチックシートを1枚床に敷き、目地をずらして二重に敷く。
	壁の養生 保護具、半面型6000/2091-RL3同等装着	厚さ0.1㎜のプラスチックシートを接着シートで貼るが、隔離しやすいときは、スプレー式接着剤を使用する。 重みで剥落するときは桟木を使い釘止めする。
	その他の養生 保護具、半面型6000/2091-RL3同等装着	・厚さ0.1㎜のプラスチックシート1枚で、剥れて脱落しないように確実に固定する。 ・作業場内の電力は事前に供給を断っておくこと。 ・作業者は、保護マスクを着用すること。 ・養生により落下した吹付けアスベストは、HEPA真空掃除機で清掃すること。

負圧除塵装置の点検・確認

保護具、半面型6000/2091-RL3同等装着

・負圧粉塵装置の設置
1時間7回以上換気できる装置を出入口から遠くの位置に設置する。
プレフィルターは、変色すればすぐに取替え、中間フィルターは2日に1回、HEPAフィルターは規定時間経過後交換する。
作業区画入口に差圧計を設置し負圧状況の確認・記録する。
・負圧粉塵装置の排気は、直線部はビニールダクトを使用する。
・負圧粉塵装置稼動し排気口の中で、濃度測定（JISK3850-1）を行う。
※負圧装置は、アスベスト付着防止のために養生をする。
これ以降の作業は、作業主任者は常時次の事項に留意し対策を行う。
・負圧装置の異常時
負圧装置の点検補修、電気系統の点検と復旧（コンセントの点検、ブレーカーの　復旧）、機械系統の点検復旧
（フィルターの交換、排気ダクトの補修等）
・養生シートの損傷時
定期的な点検の励行により、破損箇所の早期発見に努めると同時に、接着テープなどによる迅速な補修を作業員に指示する。

保護衣・シューズカバー・手袋

保護具　全面型電動BL-700H同等装着

除去作業場所の出入の際、次の次項に留意すること。
・除去作業場所から退出（休憩時、終了時）する場合
1）除去作業場所から前室に入る前に、保護衣・呼吸用保護具等についている大きな付着物を取り除くこと。
2）前室では、保護衣・ゴム長靴・ゴム手袋等に付着しているアスベストを高性能真空掃除機で十分に取り除くこと。
なお、本室内は、設置している高性能真空掃除機のアタッチメントを替えて適宜清掃すること。
3）保護衣等着脱室では、保護衣等を脱ぎ所定の場所に保管する。また使用済みの保護衣等は廃棄用のプラスチック袋に入れる。
4）作業主任者は除去作業中に作業員に対し、安全確保に努める。

検査（自主検査）

下請け１回元請２回(担当者・有資格者)による区画養生検査を行う。
（セキュリティゾーンへの出入口以外の扉、窓、換気口、空調吹出口等の石綿を外部へ飛散させるおそれのある全個所を含む。）

検査（三原市が委託する監督員）

区画養生検査を行う。
（セキュリティゾーンへの出入口以外の扉、窓、換気口、空調吹出口等の石綿を外部へ飛散させるおそれのある全個所を含む。）

検査（三原市建築課）

区画養生検査を行う。

保護衣・呼吸用保護具の着用
負圧・除塵装置の稼動

［除去作業］

粉塵飛散抑制剤の吹付

散布、飛散抑制剤
・飛散抑制剤の浸透状況、散布量を決定したら吹付け石綿表面全面に飛散抑制剤を散布する。
・薬剤の所要量は、厚み及び硬さによって異なるが、材料メーカーの標準平均使用量を目安とする。

保護衣・シューズカバー・手袋

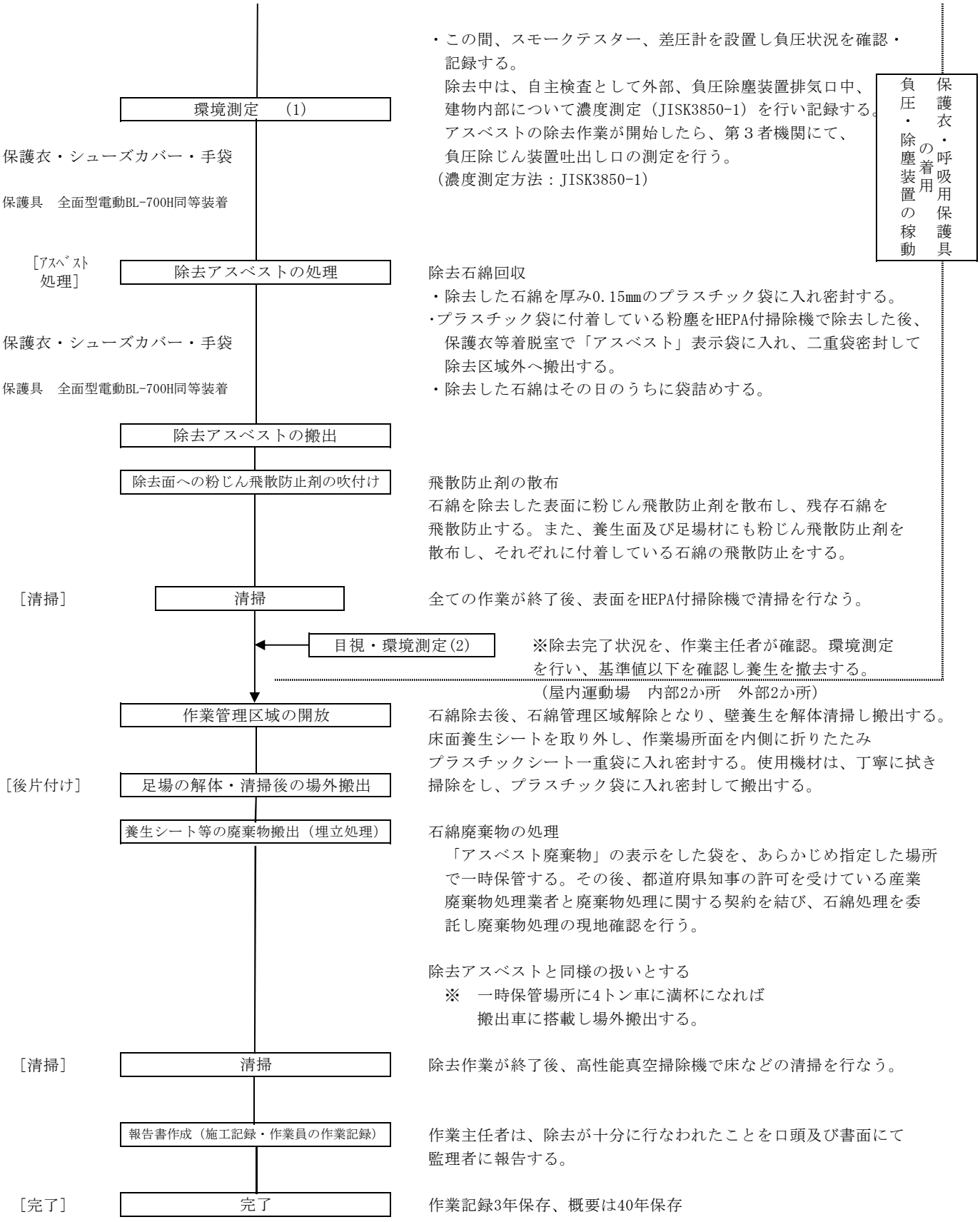
保護具　全面型電動BL-700H装着

仕上材の除去
HEPAフィルター付き真空掃除機に集じん機サンダーを取り付け、ディスクグラインダーケレンを行う。
集じん装置付きディスクグラインダーケレン工法
入角・出隅部は、超音波振動塗膜剥離機械を使用して石綿含有塗材及び下地調整材を除去する。その際HEPAフイルター付き掃除機の吸引ノズルを超音波振動塗膜剥離マシーンの刃先に近づけ石綿含有塗材を吸引回収する。
超音波ケレン工法（HEPAフィルター付き掃除機併用）

仕上材の除去（石綿含有）

保護衣・シューズカバー・手袋

保護具　全面型電動BL-700H装着



漏洩発生時の対策
漏えい監視のほか漏えいが生じたときは直ちに漏えい箇所周辺を立ち入り禁止し関係作業者及び第三者が石綿にばく露することを回避させると共に市、県環境管理課、労働基準監督署等の関係機関に報告すること。

西小学校長寿命化改修工事
（建築主体工事）

図面番号	図面名称	縮尺	図面番号	図面名称	縮尺	図面番号	図面名称	縮尺	図面番号	図面名称	縮尺
【意匠図】									【構造図】		
A-00	表紙・図面リスト	—	A-31	受水槽廻り詳細図	1/20・1/100	A-62	〔屋内運動場〕　外部仕上表（1）	—	S-01	改修工事特記仕様書-10（構造関係）	—
A-01	改修工事特記仕様書-1	—	A-32	既設受水槽撤去図	1/30・1/50	A-63	〔屋内運動場〕　外部仕上表（2）	—	S-02	改修工事特記仕様書-11（構造関係）	—
A-02	改修工事特記仕様書-2	—	A-33	〔管理・特別教室棟〕　1階平面詳細図（1）	1/50	A-64	〔屋内運動場〕　内部仕上表	—	S-03	鉄筋コンクリート構造配筋標準図	—
A-03	改修工事特記仕様書-3	—	A-34	〔管理・特別教室棟〕　1階平面詳細図（2）	1/50	A-65	〔屋内運動場〕　1階平面図	1/100	S-04	鉄骨構造標準図(1)	—
A-04	改修工事特記仕様書-4	—	A-35	〔管理・特別教室棟〕　1階展開図（1）	1/50	A-66	〔屋内運動場〕　2階平面図	1/100	S-05	鉄骨構造標準図(2)	—
A-05	改修工事特記仕様書-5	—	A-36	〔管理・特別教室棟〕　1階展開図（2）	1/50	A-67	〔屋内運動場〕　屋根伏図	1/100	S-06	屋外鉄骨階段改修図	1/30・1/50
A-06	改修工事特記仕様書-6	—	A-37	〔管理・特別教室棟〕　1階展開図（3）	1/50	A-68	〔屋内運動場〕　立面図（1）	1/100			
A-07	改修工事特記仕様書-7	—	A-38	〔管理・特別教室棟〕　1階展開図（4）	1/50	A-69	〔屋内運動場〕　立面図（2）	1/100		【参考図】	
A-08	改修工事特記仕様書-8	—	A-39	〔管理・特別教室棟〕　1階展開図（5）	1/50	A-70	〔屋内運動場〕　断面図	1/100	K-01	仮設計画ステップ図	
A-09	改修工事特記仕様書-9	—	A-40	〔管理・特別教室棟〕　2階平面詳細図（1）	1/50	A-71	〔屋内運動場〕　断面詳細図（1）	1/50	K-02	（参考図）　1階平面詳細図(仮設図)	
A-10	外壁改修工事特記仕様書-1	—	A-41	〔管理・特別教室棟〕　2階平面詳細図（2）	1/50	A-72	〔屋内運動場〕　断面詳細図（2）	1/50	K-03	（参考図）　3階職員室レイアウト図	
A-11	外壁改修工事特記仕様書-2	—	A-42	〔管理・特別教室棟〕　2階展開図（1）	1/50	A-73	〔屋内運動場〕　断面詳細図（3）	1/50	K-04	家具図（1）	
A-12	外壁改修工事特記仕様書-3	—	A-43	〔管理・特別教室棟〕　2階展開図（2）	1/50	A-74	〔屋内運動場〕　展開図（1）	1/100	K-05	家具図（2）	
A-13	工事区分表	—	A-44	〔管理・特別教室棟〕　2階展開図（3）	1/50	A-75	〔屋内運動場〕　展開図（2）	1/100	K-06	家具図（3）	
A-14	付近見取図・配置図	1/2500・1/500	A-45	〔管理・特別教室棟〕　2階展開図（4）	1/50	A-76	〔屋内運動場〕　展開図（3）	1/100	K-07	家具図（4）	
A-15	〔管理・特別教室棟〕　外部仕上表（1）	—	A-46	〔管理・特別教室棟〕　3階平面詳細図（1）	1/50	A-77	〔屋内運動場〕　ポーチ・器具庫 平面詳細図・展開図	1/50	K-08	手摺補強図	
A-16	〔管理・特別教室棟〕　外部仕上表（2）	—	A-47	〔管理・特別教室棟〕　3階平面詳細図（2）	1/50	A-78	〔屋内運動場〕　1階天井伏図	1/100			
A-17	〔管理・特別教室棟〕　内部仕上表（1）	—	A-48	〔管理・特別教室棟〕　3階展開図（1）	1/50	A-79	〔屋内運動場〕　2階天井伏図	1/100			
A-18	〔管理・特別教室棟〕　内部仕上表（2）	—	A-49	〔管理・特別教室棟〕　3階展開図（2）	1/50	A-80	〔屋内運動場〕　建具表（1）	1/100			
A-19	〔管理・特別教室棟〕　内部仕上表（3）	—	A-50	〔管理・特別教室棟〕　3階展開図（3）	1/50	A-81	〔屋内運動場〕　建具表（2）	1/100			
A-20	〔管理・特別教室棟〕　1・2階平面図	1/100	A-51	〔管理・特別教室棟〕　3階展開図（4）	1/50	A-82	〔屋内運動場〕　建具表（3）	1/100			
A-21	〔管理・特別教室棟〕　3階平面図・屋根伏図	1/100	A-52	〔管理・特別教室棟〕　3階展開図（5）	1/50	A-83	〔屋内運動場〕　部分詳細図（1）	1/20・1/10			
A-22	〔管理・特別教室棟〕　立面図（1）	1/100	A-53	〔管理・特別教室棟〕　天井伏図	1/200	A-84	〔屋内運動場〕　部分詳細図（2）	1/5			
A-23	〔管理・特別教室棟〕　立面図（2）・断面図 ・高架水槽基礎撤去図	1/100	A-54	〔管理・特別教室棟〕　建具表（1）	1/100	A-85	〔屋内運動場〕　部分詳細図（3）	1/30・1/10			
A-24	〔管理・特別教室棟〕　断面詳細図	1/50	A-55	〔管理・特別教室棟〕　建具表（2）	1/100	A-86	〔屋内運動場〕　体育室コートライン図	1/100			
A-25	〔管理・特別教室棟〕　屋内階段廻り平面詳細図	1/50	A-56	〔管理・特別教室棟〕　建具表（3）	1/100	A-87	〔屋内運動場〕　（参考図1）　ブドウ棚正面図・断面図	1/30・1/50			
A-26	〔管理・特別教室棟〕　屋内階段廻り断面詳細図	1/50	A-57	〔管理・特別教室棟〕　建具表（4）	1/100	A-88	〔屋内運動場〕　（参考図2）　前方吊上式バスケット	1/30			
A-27	〔管理・特別教室棟〕　屋内階段廻り展開図（1）	1/50	A-58	〔管理・特別教室棟〕　建具表（5）	1/100	A-89	〔屋内運動場〕　（参考図3）ｼﾞｬﾊﾞﾗ式ﾊﾞｽｹｯﾄ・ﾊﾞﾚｰﾎﾞｽﾄ ﾊﾞﾄﾞﾐﾝﾄﾝﾎﾞｽﾄ・床金具	1/30・1/20			
A-28	〔管理・特別教室棟〕　屋内階段廻り展開図（2）	1/50	A-59	〔管理・特別教室棟〕　部分詳細図（1）	1/50・1/20・1/10	A-90	〔屋内運動場〕　（参考図4）　吊縄・助木・鏡	1/30			
A-29	〔管理・特別教室棟〕　屋外階段詳細図	1/50	A-60	〔管理・特別教室棟〕　部分詳細図（2）	1/10・1/30	A-91	仮設計画図（1）	1/200・1/50			
A-30	〔管理・特別教室棟〕　渡り廊下 平面図・断面図	1/100	A-61	〔管理・特別教室棟〕　部分詳細図（3）	1/30・1/4・1/10	A-92	仮設計画図（2）	1/100			

事業年度　年度 工事完成　年度	設計 令和 年 月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 西小学校長寿命化改修工事（建築主体工事）	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社　ＭａｓＭａｓ 一級建築士登録　第198542号 美野　健治　印	図面名称・縮尺　－　(A3版-71%縮小) 表紙・図面リスト	図番 A-00

Ⅰ.工　事　概　要

１．工事名称：西小学校長寿命化改修工事（建築主体工事）　　仕　様　書
２．工事場所：三原市西宮2丁目7-1
３．敷地面積：　11,411 ㎡
４．構造規模：管理・特別教室棟　鉄筋コンクリート造3階建て・平屋建て　1268㎡
　　屋内運動場　鉄筋コンクリート造１階建て　726㎡
５．工事種目
６．別途工事
７．調査協力について
本工事は工事中及び竣工後、次の調査を行うため、発注者より連絡があれば対応すること。
（１）公共事業労務費調査…工事中に実施（調査票等の記入提出、発注者の調査実施への協力等）
（２）契約不適合調査…建設工事請負契約約款第５３条に定める期間内
（３）公共建築物木材利用事例調査票…工事中に実施（調査票の記入提出、発注者の調査実施への協力等）
８．公衆災害防止措置
（１）工事に際し、工事関係者以外の第三者の生命、身体及び財産の危機、並びに迷惑を防止するために必要な措置をとること
（２）上記について、「建設工事公衆災害防止対策要綱（平成５年１月１２日付　建設事務次官通達）」に基づき実施すること
９．現状復旧
工事に際し、隣接建物等に損傷を与えた場合は、速やかに現状復旧を行うこと
１０．主要資材等
（１）主要資材を購入しようとする場合は、極力三原市内に営業所・本店を有する業者に発注するものとし、予め購入先の名称
（２）当該工事に使用する砂については、海砂（県外産を含む）を使用しないこと
　　所在地及び資材名等を発注者に通知するものとする
（３）この工事の施工に際し、やむを得ず工事の一部（主体的部分を除く）を第三者に請け負わせようとする場合は、原則として三原市内にまたる営業所・本店を有する業者に発注するものとする
（４）当該工事に使用する木材については、原則広島県産材（特に三原市産）とする。

Ⅱ.建築改修工事仕様

１．図面及び特記仕様書に記載されていない事項は、すべて国土交通省大臣官房官庁営繕部制定「公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編）（令和４年版）」（以下、「改修標準仕様書」という。）による。
　図面、本特記仕様書及び改修標準仕様書に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部制定「公共建築工事標準仕様書（建築工事編（令和４年版）」以下、「標準仕様書」という。）による。
２．特記仕様
（１）項目は番号に○印のついたものを適用する
（２）特記事項は⊙印のついたものを適用する
　⊙印のつかない場合は、※印のついたものを適用する
　⊙印と　㊒　印のついた場合は共に適用する
（３）項目に記載［　　］の内表示番号は、改修標準仕様書の当該項目、当該図又は当該表を示す。
　（　　）の内表示番号は、標準仕様書の当該項目、当該図又は当該表を示す。
（４）工事施工上必要な官公署その他への諸手続き及び届出は、全て受注者の負担において遅滞無く行うこと
（５）関係法令の改正等により（条例を含む）、工事内容が法令等に抵触する恐れがあることを認識した場合には、その対応等について、監督職員と協議すること。
（６）材料及び製造所等の記載は順不同である

章		項　　目	特　　記　　事　　項
1 一般共通事項	①	適用基準等	※公共建築工事標準仕様書（建築工事編）　国土交通省大臣官房官庁営繕部監修（最新版） ※建築工事標準詳細図　国土交通省官房官庁営繕部監修（最新版） ※建築工事公衆災害防止対策要綱　※建設副産物適正処理実施要領（広島県土木局制定） ※建築工事安全施工技術指針　※再生資源利用促進実施要領（広島県土木局制定） ※県産木材の利用促進に関する指針 図面、本特記仕様書、標準仕様書及び改修標準仕様書に記載のない事項は次による。 ※建築物解体工事共通仕様書　令和４年版　国土交通省大臣官房官庁営繕部
	2	電気保安技術者 ［１．３．３］	※配置する
	3	工事実績情報の登録 ［１．１．４］	受注者は、受注時又は変更時において請負金額が５００万円以上の工事について、工事実績情報サービス（ＣＯＲＩＮＳ）に基づき、受注、変更、竣工、訂正時に工事実績情報として「工事実績データ」を作成し、監督職員の確認を受けた後に登録機関に登録申請し、登録機関発行の「登録内容確認書」を監督職員に提出しなければならない。また、途中変更時の登録が必要な場合とは、工期の変更、技術者の変更があった場合とする。
	④	施工条件 ［１．３．５］	下記以外は現場説明書による。 ・施工時間帯　（※指定あり　　） ・部位別の施工順序　（※図示　・　　） ・工事車両の駐車場所　（※図示　・　　） ・資機材置場　（※図示　・　　） ・建設発生土仮置場　（※図示　・　　）
	⑤	工事安全計画書	建築工事安全施工技術指針及び建設工事公衆災害防止対策要綱（建築工事編）を参考に、工事の施工に先立ち工事現場の安全対策に関する具体的な工事安全計画書を監督職員に提出する
	⑥	発生材の処理等 ［１．３．１２］	・引渡しを要するもの（　　） ・特別管理産業廃棄物（　　） 　処理方法（　　） ・現場において再利用を図るもの（　　） ・再生資源化を図るもの 　・コンクリート塊　・アスファルトコンクリート塊　・建設発生木材 ・PCB含有シーリング材の処理 　・第一次判定 　現場にてサンプルを採取し、シーリング材種及び分析の要否を判定する。 　採取箇所数　計　箇所 　採取箇所　※図示 　・第二次判定 　専門分析機関にてPCB含有量の分析を行う。 　分析個数　計　箇所 　・除去処理工事 　除去範囲　※図示 ・せっこうボードの処理 　・石綿含有せっこうボード　改修特記仕様書第８章環境配慮改修工による 　・ひ素・カドミウム含有せっこうボード 　・製造業者に回収委託 　・埋立処分（管理型最終処分場） ・石綿含有、ひ素・カドミウム含有以外のせっこうボード 　・再生資源化（再資源化施設）　・最終処分（管理型最終処分場） （１）本工事で発生した建設廃棄物は、広島県（環境県民局）及び保健所設置政令市等（広島市、呉市、福山市）が廃棄物処理法に基づき許可した適正な施設（許可対象とならない中間処理施設にあっては、廃棄物処理法に定められた基準に従った適正な施設）で処理することただし、建設廃棄物が破砕等（選別を含む）により有用物となった場合、その用途に応じて適切に処理すること（原則、県内処分） （２）本工事における再資源化に要する費用（運搬費を含む処分費）は、前記（１）に掲げる施設のうち受入れ条件が合うものの中から、運搬費と受入れ費（平日の受入れ費用）の合計が最も経済的になるものを見込んでいる。従って、正当な理由がある場合を除き、再資源化に要する費用（単価）は変更しない （３）本工事で発生する建設廃棄物のうち、広島県内の最終処分場に搬入する建設廃棄物については、広島県産業廃棄物埋立税が課税されるので適正に処理すること。なお、広島県産業廃棄物埋立税は見込んでいる

1 一般共通事項			
	⑦	建設発生土	※　現場説明書の施工条件明示による ⊙構内指示場所に堆積 ・構内指示場所に散き均し
	⑧	環境への配慮 ［１．４．１］	化学物質を放散させる建築材料等 本工事の建物内部に使用する建築材料等は、設計図書に規定する品質及び性能を有すると共に、次の（１）から（４）を満たすものとする （１）合板、木質系フローリング、構造用パネル、集成材、単板積層材、ＭＤＦ、パーティクルボード、その他の木質建材、ユリア樹脂板、壁紙、接着剤、保温材、緩衝材、断熱材、塗料、仕上塗材は、アセトアルデヒド及びスチレンを発散しない又は発散が極めて少ない材料で、設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」の区分に応じた材料を使用する （２）接着剤及び塗料にトルエン、キシレン及びエチルベンゼンの含有量が少ない材料を使用する （３）接着剤は、可塑剤（フタル酸ジ－ｎ－ブチル及びフタル酸ジ－２－エチルヘキシル等を含有しない難揮発性の可塑剤を除く）が添加されていない材料を使用する （４）（１）の材料を使用して作られた家具、書架、実験台、その他の什器類等は、ホルムアルデヒド、アセアルデヒド及びスチレンを発散しないか、発散が極めて少ない材料を使用したものとする また、設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」の区分において、「規制対象外」 とは次の①又は②に該当する材料を指し、同区分「第三種」とは次の③又は④に該当する材料を指す。 ①建築基準法施行令第２０条の第７第１項に定める第一種、第二種及び第三種ホルムアルデヒド発散建築材料以外の材料 ②建築基準法施行令第２０条の第７第４項の規定により国土交通大臣の認定を受けた材料 ③建築基準法施行令第２０条の第７第１項に定める第三種ホルムアルデヒド発散建築材料 ④建築基準法施行令第２０条の第７第３項の規定により国土交通大臣の認定を受けた材料 国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律（平成１２年法律第１００号）に基づき制定された「広島県グリーン購入方針」に掲載されている品目については、他の特記事項及び図面表記の範囲内で、環境負荷を低減できる材料を優先的に選定するよう努めるものとする
	⑨	材料の品質等 ［１．４．２］	材料・機材等の品質及び性能 （１）本工事に使用する材料は、設計図書に定める品質及び性能の他、通常有すべき品質及び性能を有するものとする （２）備考欄に商品名が記載された材料は、当該商品又は同等品を使用するものとし、同等品を使用する場合は監督職員の承諾を受ける。 （３）標準仕様書に記載されていない特別な材料の工法については、材料製造所の指定する工法とする （４）本工事に使用する材料のうち、（５）に指定する材料の製造業者等は、次の①～⑥の事項を満たすものとし、その証明となる資料（外部機関が発行する証明書の写し）を監督職員に提出して承諾を受けるものとする。ただし、あらかじめ監督職員の承諾を受けた場合はこの限りではない ①品質及び性能に関する試験データを整備していること ②生産施設及び品質の管理を適切に行っていること ③安定的な供給が可能であること ④法令等で定める許可、認可、認定又は免許を取得していること ⑤製造又は施工の実績があり、その信頼性があること ⑥販売、保守等の営業体制を整えていること。 （５）製造業者等に関する資料の提出を定める材料

床型枠用鋼製デッキプレート	オーバーヘッドドア
鉄骨柱下無収縮モルタル	防水剤
無収縮グラウト材	現場発泡断熱材
乾式保護材	フリーアクセスフロア
既調合モルタル	可動間仕切
既調合目地材	移動間仕切
ルーフドレン	トイレブース
吸水調整材	天井点検口
錠前類	床点検口
クローザ類	グレーチング
自動扉機構	屋上緑化システム
自閉式上吊り引戸機構	トップライト
重量シャッター	ポリマーセメントモルタル
軽量シャッター	鋳鉄製ふた

	⑩	石綿含有建材の調査 ［１．５．１］	調査 ※ 石綿含有建材の事前調査 工事着手に先立ち、あらかじめ関係法令に基づき、石綿含有建材の事前調査を行う。 貸与資料（　分析結果報告書　　） ・ 分析による石綿含有建材の調査 分析対象 アクチノライト、アモサイト、アンソフィライト、クリソタイル、クロシドライト、トレモライト 分析方法

材料名	分析方法（定性）JIS A 1481-1又はJIS A 1481-2	分析方法（定量）JIS A 1481-3、JIS A 1481-4又はJIS A 1481-5
	・　箇所	・　箇所
	・　箇所	・　箇所
	・　箇所	・　箇所

材料が仕上塗材の場合は、層ごとの分析を行うこと
サンプル数　１箇所あたり３サンプル
採取箇所　・図示　・

	⑪	施工数量調査 ［１．６．２］	調査範囲　㊒外壁（庇、笠木共）　⊙屋根　・図示 調査方法　※テストハンマーによる打診及び目視　・図示 外壁調査は、外壁改修フローに対応する外壁面のひび割れ、浮き、欠損部、内部まで貫通したひび割れ及び雨漏りの有無についての位置及び数量（幅、長さ、面積）の調査を行う 屋根調査は、防水面のひび割れ、浮き、欠損部、目地欠損部及び雨漏りの有無についての位置及び数量（幅、長さ、面積）の調査を行う。 また、その報告書は、結果を立面図等に記載し集計表を添えて監督職員に２部提出する（必要に応じ写真等を添付する）

1 一般共通事項			
	12	調査のための破壊部分の補修 ［１．６．３］	補修方法　※図示 補修範囲　※図示
	13	技能士 ［１．７．２］	

工事種目	技能検定職種	技能検定作業
仮設工事	とび	とび作業
防水改修工事	防水施工	アスファルト防水工事作業
		ウレタンゴム系塗膜防水工事作業
		アクリルゴム系塗膜防水工事作業
		合成ゴム系シート防水工事作業
		塩化ビニル系シート防水工事作業
		セメント系防水工事作業
		シーリング防水工事作業
		改質アスファルトシートトーチ工法防水工事作業
		ＦＲＰ防水工事作業
外壁改修工事	樹脂接着剤注入施工	樹脂接着剤注入工事作業
	左官	左官作業
	タイル張り	タイル張り作業
建具改修工事	サッシ施工	ビル用サッシ施工作業
	ガラス施工	ガラス工事作業
	自動ドア施工	自動ドア施工作業
	ガラス用フィルム施工	建築フィルム作業
塗装改修工事	塗装	建築塗装作業
内装改修工事	タイル張り	タイル張り作業
	建築大工	大工工事作業
	建築板金	銅製下地工事作業
		内外装板金作業
	左官	左官作業
	内装仕上施工	プラスチック系床仕上げ工事作業
		カーペット系床仕上げ工事作業
		ボード仕上げ工事作業
	表装	壁装作業
耐震改修工事	とび	とび作業
	鉄筋施工	鉄筋組立作業
	型枠施工	型枠工事作業
	コンクリート圧送施工	コンクリート圧送工事作業
	鉄工	構造物鉄工作業
環境配慮改修工事	配管	建築配管作業
	路面表示施工	溶融ペイントハンドマーカー工事作業
		加熱ペイントマシンマーカー工事作業
	造園	造園工事作業

※技能士においては、積極的な活用を図ること。

	14	化学物質の濃度測定 ［１．７．９］	測定対象室及び測定箇所数は図示による。 （１）ホルムアルデヒド・トルエン・キシレン・スチレン・エチルベンゼンの室内濃度を測定し、厚生労働省が定める指針値以下であることを確認し、監督職員に報告する 測定箇所は仕上表による、施工方法は施工条件明示による パッシブ型採取機器を用いて測定を行う場合には、次の要領で測定及び分析を行う ①３０分間換気 測定対象室のすべての窓及び扉（造り付け家具、押し入れ等の収納部分の扉を含む）を開放し、３０分間換気する ②５時間閉鎖 ①の後、測定対象室のすべての窓及び扉を５時間閉鎖する ただし、造り付け家具、押し入れ等の収納部分の扉は開放したままとする ③測定 イ　②の状態のまま測定する ロ　測定時間は、原則として２４時間とする。ただし工程等の都合により、２４時間測定が行えない場合は、８時間測定とする。なお、８時間測定の場合は、午後２時～３時が測定時間帯の中央となるよう、１０時３０分～１８時３０分までの時間帯で測定する ハ　測定回数は１回とし、複数回の測定は不要とする ④分析 測定対象化学物質を採取したパッシブ型採取機器を分析機関に送付し、濃度を分析する ⑤その他 監督職員から測定方法に関する注意事項等の指示を受けること （２）木材の防腐・防蟻処理剤は、クロルピリホス、ダイアノジン及びフェノブカルブを含有しない薬剤とし、加圧式防腐・防蟻処理等は工場で行い十分乾燥させた後現場に搬入する （３）保温材、断熱材、緩衝材については、ホルムアルデヒドを発散しないか発散が極めて少ないＦ☆☆☆☆等級のものとする （４）塗料、壁紙、仕上塗材、合板、接着剤等で屋内に面するものについては、ホルムアルデヒドを発散しないか、発散が極めて少ないＦ☆☆☆☆等級のものとする （５）屋内に面して用いる材料は、上記（２）～（４）に適合した上で、揮発性有機化合物の発散が無い若しくは極めて少ないものを選択するように努め、（１）の規定を満たすこと
	15	中間技術検査 ［１．８．２］	※行う（回数及び時期については監督職員の指示による）　・行わない
	16	工事写真等	下記のものを監督職員に提出する。工事中写真及び完成写真の撮影は国土交通省大臣官房官庁営繕部制定の「営繕工事写真撮影要領」によるものとする （１）工程写真 工事の進捗に伴い工事全体状況及び主要工程の写真（カラー・サービス版）を期間別工事工程報告書に添付するものとする （２）工事中写真 水中又は地下に埋設される部分、その他完成後外部から検査・確認する事が出来なくなる部分、及びその他監督職員が指示する箇所は、Ａ４版写真台帳にまとめて完成検査日までに提出するものとする 【提出部数】：１部 （３）完成写真 【撮影箇所】建物外観各方向、主要箇所、主要室内その他監督職員が指示する箇所 【規格・提出部数】※Ａ４版クリアファイル　部　・Ａ４版写真台帳　部 （４）その他の写真 隣接建物等に損傷のおそれがある場合は、施工前・施工後の写真（カラー・キャビネ版）を監督職員の指示により提出するものとする （５）保管 工事写真のデータは、受注者において工事完成後２年間保管すること
	17	完成時の提出図書	※提出を要する　完成図書：１部 竣工図の種類（※全て　・　） 竣工図の作成方法　CAD（ＣＡＤデータの提出（※要　・不要）） 原図　・普通紙　※ 不要 竣工図　二つ折製本（・Ａ１版　部　・Ａ２版　部　⊙Ａ３版　３　部） 竣工図は原則としてCADにて修正を行い、施工図・保全に関する資料で必要なものの提出は監督職員の指示による なお、１８　電子納品で対象工事である場合は、加えて電子成果品を　２部提出すること 工事完了時の建物仕様に関する資料（保全マネジメントシステム） ・建物基本情報 ・型式台帳 工事完了時の建物使用に関する資料は、監督職員が指定する様式で作成する。

	18	電子納品	※電子納品対象工事とする 電子納品とは、「調査、設計、工事などの各業務段階の最終結果を電子データで納品すること」をいう。ここでいう電子データとは、「営繕工事電子納品要領（以下、要領という）」に基づいて作成されたものを指す 成果品については、「要領」に基づいて作成した電子成果品を電子媒体で提出する。「要領」で特に記載がない項目については、原則として電子データを提出する義務はないが、「要領」の解釈に疑義がある場合は監督職員と協議の上、電子化の是非を決定する また、成果品提出の際には、ウイルス対策を実施したうえで提出すること
	19	工事中情報共有システム	（１）本工事は、受発注者間の情報を電子的に交換・共有することにより、業務の効率化を図る情報共有システムの対象である。なお、運用にあたっては「広島県工事中情報共有システム運用ガイドライン」に基づき実施すること （２）本工事で使用する情報共有システムは次とする 広島県工事中情報共有システム（http://chotatsu.pref.hiroshima.lg.jp/asp/index.html） （３）監督職員及び受注者が使用する情報共有システムのサービス提供者（以下「サービス提供者」という）との契約は、受注者が行い、利用料を支払うものとする （４）受注者は、監督職員又はサービス提供者から技術上の問題点の把握、利用にあたっての評価を行うためのアンケート等が求められた場合、協力しなければならない
	20	施工図及び施工計画書	提出した施工図及び施工計画書の著作に係る当該建物に限る使用権は、発注者に委譲するものとする
	21	設備工事との取合い	設備機器の位置、取り合い等が検討できる施工図を提出して、監督職員の承諾を受ける
	22	撤去部分	コンクリート、モルタル等の撤去部分の境目は、原則としてダイヤモンドカッター切りとする
	23	適用区分	建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重の算定には次の条件を用いる 基準風速　Ｖ０＝　32ｍ／ｓ 地表面粗度区分　・Ⅰ　・Ⅱ　⊙Ⅲ　・Ⅳ 積雪区分　平成12年5月31日建設省告示第１４５５号　別表（　　）
	24	騒音・振動の防止	「低騒音型・低振動型建設機械の指定に関する規定」に基づき指定された建設機械を使用する
	25	施工中の安全確保	・同一場所で別契約の関連工事が行われる場合は、労働安全衛生法第３０条第２項に基づき、当該工事について、同条第１項に規定する措置を講ずべき者として本工事現場代理人を指名する ・労働安全衛生法第１５条に基づく統括安全衛生責任者を選任したときは、本契約後直ちに「統括安全衛生責任者選任届出書」（任意様式）を提出すること
	26	実施工程表 ［１．２．１］	工事期間は建築設備を含んだ期間とし、工事全体を把握して作成し、監督職員の承諾を受ける
	27	工程報告	別紙様式による期間別工事工程報告書を毎月１回１部提出すること
	28	保証書	次の工事について保証書を提出すること

工事区分	材　料　名	保証年数	備　　考
⊙防水改修工事	・アスファルト防水	年	漏水の場合等
	・改質アスファルトシート防水	10年	漏水の場合等
	・合成高分子ルーフィング防水	年	漏水の場合等
	⊙塗膜防水	10年	漏水の場合等

	29	コンクリートの試験 （6.9.1～6）	※コンクリートの強度試験 公的機関又はこれに準ずる機関で行う。ただし、調合管理強度の管理試験用及び型枠取外し時期の決定用については、生コン工場試験室でもよい

2 仮設工事	1	騒音・粉じん等の対策	騒音・粉じん等の対策　・防音パネル　・防音シート　［２．１．３］ 防音パネル、防音シートを取り付ける足場の設置範囲 ※ 工事に必要な範囲
	2	足場等	［２．２．１］［表２．２．１］ 「手すり先行工法に関するガイドライン」に基づく足場の設置に当たっては、同ガイドラインの別紙１手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」における2の②手すり据置き方式又は③手すり先行専用足場方式により行う。 外部足場　⊙設置する（範囲　※ 工事に必要な範囲　・　）　・設置しない 防護シート　⊙設置する（範囲　※ 工事に必要な範囲　・　）　・設置しない 内部足場　⊙設置する（㊒脚立、足場板等　⊙枠組本足場　）　・設置しない 材料、搬去材等の運搬方法　・Ａ種　※Ｂ種　・Ｃ種　・Ｄ種　・Ｅ種 Ｃ種：利用可能なエレベーター（　　） Ｄ種：利用可能な階段（　　）
	3	既存部分の養生	養生方法等　［２．３．１］ ⊙既存部分の養生方法　※ ビニルシート、合板等による　・ ⊙既存家具、既存設備等の養生方法　※ビニルシート等　・ ⊙既存ブラインド、カーテン等の養生方法　※ ビニルシート等（取外し再取付を行う） 保管場所　※ 構内既存施設内　・ ⊙固定された家具等（備品、机、ロッカー等）の移動　※ 行う（図示） 既存部分に汚染又は損傷を与えるおそれのある場合は養生を行う。また、万一損傷等を与えた場合は、受注者の責任において速やかに修復等の処置を行う。
	4	仮設間仕切り	仮設間仕切り及び仮設扉の設置箇所　※ 図示　［２．３．２］［表２．３．１］ 仮設間仕切りの種別と材質等 ・Ａ種　※Ｂ種　・Ｃ種　・図示 Ａ、Ｂ種の仕上げ材 ※ せっこうボード（GB-R 厚さ9.5mm）　・合板（普通合板 厚さ9mm） Ａ、Ｂ種の片面への塗装等　※ 行わない　・行う Ａ種のグラスウールの充填 ※行う（ＪＩＳ　Ａ　６３０１グラスウール吸音材３２Ｋ厚５０mm） ・行わない 仮設扉の種別　※木製（合板張り程度）　・
	5	監督職員事務所等	・ 設ける　※ 設けない　［２．４．１］ 現場に設置する備品等は、現場説明書の施工条件明示による
	6	工事用水	構内既存の施設　※ 利用できる（ ※ 有償　・ 無償）　⊙ 利用できない
	7	工事用電力	構内既存の施設　※ 利用できる（ ※ 有償　・ 無償）　⊙ 利用できない
	8	仮囲い等の安全施設	別紙設計図による
	9	工事現場の表示	現場の見えやすい位置に、監督職員が指示する次の表示板を設置する ※工事名等の表示板（900mm×600mm）　⊙工事概要等の説明看板（900mm×600mm）
	10	交通誘導員	㊒配置する　・配置しない ㊒大型車両進入時　（ １ ）人／日　⊙常時配置　（ １ ）人／日 ・（　　）作業期間　（　）人／日
	11	快適トイレモデル工事	本工事は快適トイレモデル工事（※発注者指定型　・受注者希望型）であり、「快適トイレモデル工事試行要領（令和４年６月１日一部改正）」に基づき実施するものとする。 快適トイレチェックシートの様式は、「広島県の調達情報」の「様式集＞建設工事関係_その他の契約関係の様式」に掲載している。 また、完成検査までに提出するアンケートは、「広島県の調達情報」の「入札・契約制度＞入札・契約制度関係要綱」に掲載している。

事業年度　年度 工事完成　年度	設 計 令和 年 月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 西小学校長寿命化改修工事（建築主体工事）	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社　ＭａｓＭａｓ 一級建築士登録　第198542号 美野　健治　印	図面名称・縮尺　non scale　(A3版-71%縮小) 改修工事特記仕様書-1	図 番 A-01

③ 防水改修工事

1 降雨等に対する養生方法

※ 改修標準仕様書3.1.3(5)(ｱ)～(ｳ)による。 [３．１．３]
・

② 既存防水の処理

既存保護層の撤去 ・ 行う（範囲 ※ 図示 ・ ） [３．１．４] [３．２．３、４、６]
⊙ 行わない
既存防水層の撤去 ⊙ 行う（範囲 ※ 図示 ・ ）
・ 行わない
既存露出防水層表面の仕上げ塗装の除去
・ 行う（ ・ M4AS ・ M4ASI ・ M4C ・ M4DI ・ L4X）
⊙行わない

3 既存下地の処置

既存下地の補修箇所の形状、長さ、数量等 ※ 図示 [３．２．６]
POS工法及びPOSI工法（機械的固定工法）の既存保護層を撤去し防水層を非撤去とした立上り部等の処置 ※ 改修標準仕様書3.2.6(4)(ｳ)(g)①～③による ・
設備機器架台、配管受部、パラペット、貫通パイプ回り、手すり・丸環の取付け部、塔屋出入口部等の欠損部及び防水層末端部の納まり部の処理
※ 図示。ただし、図示が無いものは監督職員と協議する

4 アスファルト防水

屋根保護防水 [３．３．２～５]
防水層の種別

工法	種別	施工箇所	断熱材 □	絶縁用シート	立上り部の保護
・Ｐ２Ａ	・Ａ－１ ※Ａ－２ ・Ａ－３			※ポリエチレンフィルム 厚さ 0.15mm以上 又はフラット ヤーンクロス 70／m2程度	・乾式保護材 ・コンクリート押え ・れんが押え ※JIS R 1250 ・
・Ｐ１Ｂ	・Ｂ－１ ※Ｂ－２				
・Ｐ２Ａ Ｉ	・Ａ Ｉ－１ ※Ａ Ｉ－２ ・Ａ Ｉ－３		(材質) JISA9521に基づく押出法ポリスチレンフォーム断熱材3種ｂＡ（スキン層付き) (厚さ)（mm） ※25 ・50 ・	※フラット ヤーンクロス 70／m2程度 ・	
・Ｐ１Ｂ Ｉ	・Ｂ Ｉ－１ ※Ｂ Ｉ－２				

改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ
※ 改修標準仕様書表3.3.5から表3.3.6による
・JIS A 6013に基づく種類及び厚さ
用途による区分
材料構成による区分 ※ R種
厚さ （ mm以上）

部分粘着層付改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ
※ 改修標準仕様書表3.3.3から表3.3.4による
・JIS A 6013に基づく種類及び厚さ
用途による区分
材料構成による区分 ※ R種
厚さ （ mm以上）

平場の保護コンクリートの厚さこて仕上げ
こて仕上げ ※ 水下 80mm以上
床タイル張り ※ 水下 60mm以上

乾式保護材
窯業系パネル：無石綿の繊維質原料等を主原料として、板状に押出成形しオートクレーブ養生したもの。
金属複合板：金属板と樹脂を積層一体化したもの。

（品質・性能）

分類・規格		・ 窯業系パネルⅠ類（寒冷地仕様）	・ 窯業系パネルⅡ類（一般地仕様）	・ 金属複合板
寸法（mm）	厚さ（mm）			
	幅（mm）			
寸法の許容差		厚さ：＋10%、－5%、幅：±1%		
出荷時の含水率		出荷時において10%以下		－
曲げ強さ・曲げモーメント（N・cm）（スパン40ｃｍにおける単位幅1ｃｍあたりの曲げモーメント）	標準時	550以上	450以上	300以上
	凍結融解完了時（試験サイクル数）	400以上（300）	320以上（200））	250以上（300）
吸水率（%）		20以下	20以下	1以下
吸水による長さ変化率(%)		0.07以下	0.07以下	0.01以下
難燃性		不燃	不燃	表面材は不燃
耐凍結融解性能		３００サイクル後、著しい割れ、剥離がなく、外観上の異常がないこと。	２００サイクル後、著しい割れ、剥離がなく、外観上の異常がないこと。	３００サイクル後、著しい割れ、剥離がなく、外観上の異常がないこと。（明らかに吸水しないと認められるものは耐凍結融解試験を省略できる。）
耐衝撃性能		質量500（窯業系パネルⅠ類は1,000）のなす形おもりを高さ1.0mから試験体の弱点部に落としたとき、裏面に達する穴があかないこと。		質量5000のなす形おもりを高さ1.0mから試験体の弱点部に落としたとき、裏面に達する穴があかないこと。残留変形量1/100以下。
剛性（E×I）（スパン40ｃｍ幅30ｃｍの中央曲げ時に荷重720Nの時、たわみ4mm以下となる剛性）		－	－	80,000N・cm2以上

（試験方法）
（1）寸法の測定方法
（厚さ）供試体の周辺から20mm以上内側の四隅を0.05mmまで測定できる測定器で測り、4点の平均値を求めてパネルの厚さとする。
（幅）供試体を平らな台に置き、供試体のほぼ中央１箇所の幅寸法を、JIS B 7512「鋼製巻尺」に規定する目量が1mmの1級コンベックスルール又は、JIS B 7516「金属性直尺」に規定する目量が1mmの1級直尺を用いて測定する。
（2）曲げ強度試験は、JIS A 1408「建築用ボード類の曲げ及び衝撃試験方法」による。試験体は3号試験体とする。幅及び厚さは製品寸法とし、支持スパン長さは400mmとする。試験方法は試験体の表面からスパン中央全幅に集中荷重を載荷し、試験体が破壊した時の最大荷重を測定する。同時に破壊時の中央部のたわみ量について、変位計を用いて測定する。測定項目については、凍結融解試験前、同試験100、200、300サイクル完了後の合計4項目に亘って測定する。
（窯業系パネルⅡ類は200サイクルまでとする。）なお、荷重を加える時の平均速度は、1～3分間で予想最大荷重に達する程度とする。
（3）吸水率試験は、JIS A 5430「繊維強化セメント板」に準じて行う。
（4）難燃性試験は、JIS A 1321「建築物の内装材料及び工法の難燃性試験方法」に準じて行う。
（5）吸水による長さ変化率試験は、試験体（幅40mm×長さ160mm×素材厚さ）を乾燥機に入れ、その温度を60±3℃に保ち24時間経過した後取り出してJIS K 8123「塩化カルシウム（試薬）」に規定する塩化カルシウム又は JIS K 1464「工業用乾燥剤」に規定する品質に適合するシリカゲルで調湿したデシケータに入れ、常温まで冷却する。次に、試験片の標線間隔が140mmになるように標線を刻む。その後、1/150mm以上の精度をもつコンパレータを用いて標線間の長さを測定し、それを基準（Ｌ1）とする。次に試験片の長さ方向を水平にこば立てし、その上端が水平下約30mmとなるように保持して、常温の水中に浸せきする。
24時間経過した後、試験片を水中から取り出して湿布で表面に付着した水を拭き取り、再び標線間の長さ（Ｌ2）を測る。
吸水による長さ変化率（ΔＬ）は、次式によって求める。
（ΔＬ）＝（Ｌ2 － Ｌ1）／Ｌ1×１００ ΔＬ ：吸水による長さ変化率（%）
Ｌ1：乾燥時の標線間の長さ（mm） Ｌ2 ：吸水時の標線間の長さ（mm）
（6）耐凍結融解性能試験は、JIS A 5422「窯業系サイディング」の気中凍結水中融解法によって行う。100、200、300各サイクル完了時の曲げ強度測定及び外観の状態を観察する。（窯業系パネルⅡ類は200サイクルまでとする。）
凍結融解操作の試験条件は、試験片の切断小口面をあらかじめシール し、5～35℃の清水中に24時間浸せきさせた後、凍結融解試験装置の槽内に設置し、-20±3℃の気中で約2時間の凍結20±3℃の水中で約1時間の融解を行う約3時間を1サイクルとする。
（7）耐衝撃性能試験は、JIS A 1408「建築用ボード類の曲げ及び衝撃試験方法」の衝撃性試験に準じて行う。試験体の支持装置は、記号Ｓ2対辺単純支持方法による。
試験体の大きさは、4号（長さ400mm、幅300mm）とする。おもりは、鋼製のなす形おもりとし、記号（Ｗ1－1000）、質量1.000gとする。試験体を支持装置で支持して、堅固な床に水平に置き、おもりを試験体のほぼ中央の鉛直上1.0mから試験体の弱点部に自然落下させ、裏面に達する穴の「有・無」を確認する。金属複合板の残留変形量は、最大くぼみ深さを測定する。

屋根露出防水 防水層の種別

工法	種別	施工箇所	断熱材	仕上塗料 種類	仕上塗料 使用量	高日射反射率の防水	備考
・M4C	・C-1 ※C-2 ・C-3 ・C-4			・	・ ※製造所の仕様	・適用する	
・M3D ・P0D	・D-1 ※D-2			・	・ ※製造所の仕様	・適用する	脱気装置 ・設ける ・設けない 改修用ドレン ・設ける ・設けない
・P0DI ・M3DI ・M4DI	・DI-1 ※DI-2		JIS A 9521(建築用断熱材)に基づく発泡プラスチック断熱材 (種類) ※硬質ウレタンフォーム断熱材２種２号 ・ (厚さ)（mm） ※25 ・50	・	・ ※製造所の仕様	・適用する	脱気装置 ・設ける ・設けない 改修用ドレン ・設ける ・設けない

改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ
※ 改修標準仕様書表3.3.7から表3.3.9による
・JIS A 6013に基づく種類及び厚さ
用途による区分
材料構成による区分 ※ R種
厚さ （ mm以上）
・
部分粘着層付改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ
※ 改修標準仕様書表3.3.8から表3.3.9による
・JIS A 6013に基づく種類及び厚さ
用途による区分
材料構成による区分 ※ R種
厚さ （ mm以上）
・
脱気装置の種類 ※ アスファルトルーフィング類の製造所の指定 ・
脱気装置の設置数量 ※ アスファルトルーフィング類の製造所の指定 ・ （個）

屋根露出防水絶縁断熱工法の場合の、ルーフドレン回り及び立上り部周辺の断熱材の張りじまい位置 ※ 図示
屋内防水

工法	種別	施工場所	保護層
・Ｐ１Ｅ	・Ｅ－１		・設ける
・Ｐ２Ｅ	※Ｅ－２		・設けない

Ｅ－１の場合で工程３を行う部位（※ 貯水槽、浴槽等常時水に接する部位 ・ ）
保護層 ・ 設ける（ ※ 図示 ・ ） ・設けない
立上り部の押え金物の材質、形状及び寸法
※ アルミニウム製 L-30×15×2.0mm程度
屋上排水溝 ・ 図示 ・

5 改質アスファルトシート防水

屋根露出防水
防水層の種別 [３．４．２、３]

工法	種別	施工箇所	断熱材	仕上塗料 種類	仕上塗料 使用量	高日射反射率の防水	備考
・M4AS	・AS-T1 ・AS-T2 ・AS-J2			・	・ ※製造所の仕様	・適用する	
・M3AS ・P0AS	・AS-T3 ・AS-T4 ⊙AS-J1 ・AS-J3	管理・特別教室棟		・	・ ※製造所の仕様	⊙適用する	脱気装置 ⊙設ける ・設けない 改修用ドレン ⊙設ける ・設けない
・M3AS Ⅰ ・M4AS Ⅰ ・P0AS Ⅰ	・AS Ⅰ-T1 ・AS Ⅰ-J1		JIS A 9521(建築用断熱材)に基づく発泡プラスチック断熱材 (種類) ※硬質ウレタンフォーム断熱材２種２号 ・ (厚さ) ※25mm ・50mm	・	・ ※製造所の仕様	・適用する	脱気装置 ・設ける ・設けない 改修用ドレン ・設ける ・設けない 防湿層 ・設ける ・設けない

改質アスファルトシートの種類及び厚さ
※ 改修標準仕様書表3.4.1から表3.4.3による
・JIS A 6013に基づく種類及び厚さ
用途による区分
材料構成による区分 ※ R種
厚さ （ mm以上）
・
粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ
※ 改修標準仕様書表3.4.1から表3.4.3による
・JIS A 6013に基づく種類及び厚さ
用途による区分
材料構成による区分 ※ R種
厚さ （ mm以上）
・
部分粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ
※ 改修標準仕様書表3.4.1から表3.4.3による
・JIS A 6013に基づく種類及び厚さ
用途による区分
材料構成による区分 ※ R種
厚さ （ mm以上）
・
脱気装置の種類 ※ 改質アスファルトシートの製造所の指定 ・
脱気装置の設置数量 ※ 改質アスファルトシートの製造所の指定 ・ （個）

立上り部の押え金物の材質、形状及び寸法
※ アルミニウム製 L-30×15×2.0mm程度

絶縁断熱工法の防水層シート
・設置する
・設置しない

6 合成高分子系ルーフィングシート防水

[３．５．２～４] [表３．５．１～３]
防水層の種別

工法	種別	施工箇所	断熱材	仕上塗料 種類	仕上塗料 使用量	高日射反射率防水	備考
・POS ・S4S	・S-F1			・	・ ※製造所の仕様	・適用する	脱気装置 ・設ける ・設けない 改修用ドレン ・設ける ・設けない
	・S-F2					・適用する	
	・S-M1			・	・ ※製造所の仕様	・適用する	
	・S-M2					・適用する	
・S3S	・S-F1			・	・ ※製造所の仕様	・適用する	脱気装置 ・設ける ・設けない
	・S-F2					・適用する	
・M4S	・S-M1			・	・ ※製造所の仕様	・適用する	脱気装置 ・設ける ・設けない
	・S-M2					・適用する	
・POSI ・S3SI ・S4SI ・M4SI	・SI-F1		改修標準仕様書3.5.2(3)(ｲ)(b)による (種類) ※硬質ウレタンフォーム断熱材２種２号 ・ (厚さ)（mm）	・	・ ※製造所の仕様	・適用する	脱気装置 ・設ける ・設けない 改修用ドレン ・設ける ・設けない
	・SI-F2		※25 ・50			・適用する	
	・SI-M1		改修標準仕様書3.5.2(3)(ｲ)(a)による (種類) ※硬質ウレタンフォーム断熱材２種２号 ・ (厚さ)（mm）	・	・ ※製造所の仕様	・適用する	
	・SI-M2		※25 ・50			・適用する	

Ｓ－Ｆ１、Ｓ－Ｍ１、Ｓ－Ｆ２、Ｓ－Ｍ２の仕様
※ 非歩行用 ・ 軽歩行用
ＳＩ－Ｆ１、ＳＩ－Ｆ２、ＳＩ－Ｍ１及びＳＩ－Ｍ２における防湿用フィルムの設置
※ 設置しない ・ 設置する
ＳＩ－Ｍ２の絶縁用シートの材種
※ 発泡ポリエチレンシート
Ｓ－Ｍ２及びＳＩ－Ｍ２の立上り部の工法
※ 接着工法（立ち上がり面のシートの厚さ ※ 1.5mm ・ ） ・ 機械的固定工法

屋内防水
防水層の種別

種別	施工箇所	保護層 平場のモルタル塗り 塗厚	保護層 平場のモルタル塗り 工法	保護層 立上り部の保護モルタルの塗厚
・ Ｓ－Ｃ１	・	・	・ 床塗り ・ 下地モルタル塗り ・	※ 7mm以下 ・

屋内防水で平場を保護コンクリート仕上げとする場合の厚さ
合成高分子系ルーフィングシートの種類及び厚さ
※ 改修標準仕様書表3.5.1から表3.5.3による
・JIS A 6008に基づく種類及び厚さ
用途による区分
材料構成による区分 ※ R種
厚さ （ mm以上）
・
固定金具の材質及び寸法形状
※ 防錆処理した鋼板、ステンレス鋼板又はそれらの鋼板の片面若しくは両面に樹脂を積層加工したもので、厚さ0.4mm以上のもの
・
脱気装置の種類及び設置数量
接着工法の場合の脱気装置の種類 ※ ルーフィングシートの製造所の仕様 ・
接着工法の場合の脱気装置の設置数量 ※ ルーフィングシートの製造所の仕様 ・ （個）
プレキャストコンクリート部材下地の目地処理（接着工法の場合）
・ 行う（ ・ 図示 ・ ） ・ 行わない
プレキャストコンクリート部材の入隅部の増張り（種別S-F1、SI-F1の場合）
・ 行う（ ・ 図示 ・ ） ・ 行わない
機械的固定工法の場合の一般部のルーフィングシートの張付け
1章 17 適用区分による風圧力の（ ・ 1 ・ 1.15 ・ 1.3）倍の風圧力に対応した工法

⑦ 塗膜防水

防水層の種別 [３．６．２、３]

工法	種別	施工箇所	仕上塗料 種類	仕上塗料 使用量	高日射反射率防水	備考
・ＰＯＸ	※Ｘ－１ ・Ｘ－２ ・Ｘ－１Ｈ ・Ｘ－２Ｈ		※2成分形アクリルウレタン樹脂系 ・ふっ素樹脂系 ・アクリルシリコン樹脂系	※主材料の製造所の仕様 ・	・適用する	脱気装置 ・設ける ・設けない 改修用ドレン ・設ける ・設けない
⊙Ｌ４Ｘ	※Ｘ－１ ・Ｘ－２ ・Ｘ－１Ｈ ・Ｘ－２Ｈ		※主材料の製造所の仕様 ・	⊙適用する		脱気装置 ・設ける ⊙設けない
・Ｐ１Ｙ	※Ｙ－２					保護層 ・設ける ・設けない
・Ｐ２Ｙ	※Ｙ－２					保護層 ・設ける ・設けない

Ｘ－１（絶縁工法）の脱気装置の種類 ※ 主材料の製造所の仕様 ・
Ｘ－１（絶縁工法）の脱気装置の設置数量 ※ 主材料の製造所の仕様 ・ （個）

⑧ シーリング

シーリング改修工法の種類 [３．７．２、３、３．７．７]
⊙ シーリング充填工法
・ シーリング再充填工法
・ 拡幅シーリング再充填工法
・ ブリッジ工法
ボンドブレーカー張り ・ 適用する ・ 適用しない
エッジング材張り ・ 適用する ・ 適用しない
シーリング材の種類、施工箇所
下表以外は、改修標準仕様書表3.7.1による

施工箇所	シーリング材の種類（記号）

仕上げを行わない施工箇所
・ 図示による ・ 打継目地
シーリング材の目地寸法 ※ 改修標準仕様書3.7.3(1)による
接着性試験 ※ 簡易接着性試験 ・ 引張接着性試験

⑨ とい

といの材種 ・ 配管用鋼管 [３．８．２、３]
⊙ 硬質ポリ塩化ビニル管
・ ルーフドレン
・ 表面処理鋼板（表面及び裏面の塗膜の種類 ・ ）

ルーフドレン

種別	施工箇所
・ ろく屋根用（ ・ 縦型 ・ 横型）	
・ バルコニー用	
・ バルコニー中継用	

| | | | | |

4—1 外壁改修工事（共通事項）

① ポリマーセメントモルタル

（品質・性能） ［4．2．2］

項目			品質・性能
だれ	下がり量（mm）		5以内
	表面の状態		ひび割れの発生が無いこと。
曲げ強さ（N/mm2）			6.0以上
圧縮強さ（N/mm2）			20.0以上
接着強さ（N/mm2）	標準条件		1.0以上
	特殊条件	湿潤時	0.8以上
		低温時	0.5以上
透水性			裏面のぬれ、水滴の付着が無いこと。
その他			1）均質で有害と認められる異物の混入がないこと。 2）高分子エマルションは、常温常湿において製造後6か月保存しても、変質しないこと。

② ポリマーセメントスラリー

（品質・性能） ［4．2．2］

広がり速度（cm/s）	長さ変化率（収縮）（%）	引張接着性（材齢28日）（N/mm2）	曲げ性能（材齢28日）（N/mm2）	吸水性（72時間）（%）	耐久性（劣化曲げ強さ）（N/mm2）
3以上	3以下	0.5以上	5.0以上	15以下	5.0以上

保水係数　0.35～0.55
粘調係数　0.50～1.00

③ 吸水調整材

改修標準仕様書表4.3.2による ［4．3．5］

4 既調合モルタル

［4．3．5］

モルタル下地としたタイル工事に使用する張付け用モルタルとして、セメント、細骨材、混和剤等を予め工場において所定の割合に配合した材料とする。

（品質・性能）

項目	品質・性能	項目	品質・性能
保水率	70.0%以上	長さ変化率	0.20%以下
単位容積質量	1.80ｋｇ/Ｌ以上	曲げ強さ	4.0N/mm2以上
接着強さ・ 標準時	0.60N/mm2以上		
温冷繰り返し後	0.40N/mm2以上		

（試験方法）

（1）試料の調製
製造業者の定める、正味質量と標準練り上がり量より換算して、所定量の試料を練り上げるのに要する材料と練り混ぜ水を計量して用意する。
練り混ぜは、JIS R5201「セメントの物理試験方法」の10.2に規定する練り混ぜ機を使用し、練りばちに用意した水を入れ、撹拌しながら30秒間に材料を投入し、3分間練り混ぜて試料とする。

（2）保水率の試験方法
JIS R3202「フロート板ガラス及び磨き板ガラス」に規定する磨き板ガラス（縦150mm、横150mm、厚さ5mm）の上にJIS P3801「ろ紙（化学分析用）」に規定する5 Aろ紙（直径11ｃｍ）をのせ、その中央部に真ちゅう製リング型わく（内径50mm、高さ10mm、厚さ3mm）を設置し、（1）で調製した試料を平滑に詰込む。
その後、直ちにリング型わく上部にガラス板を当てて上下を逆さまにし、ろ紙部分が上部になるようにして静置する。 60分後にろ紙へにじみ出した水分の広がりが最大と認められた方向とこれに直角な方向の長さをノギスを用いて、1mmの単位まで測定する。
試験は3回実施し、その平均値を用いて次式により保水率を求める。
保水率＝50／平均値×100　（注） 50：リング型わくの内径　mm

（3）単位容積質量の試験方法
JIS A 1171「ポリマーセメントモルタルの試験方法」に準ずる。

（4）接着強さ（標準時）の試験方法
イ）適用タイルが「モザイクタイル」の場合
（試験体の作製）JIS A5371「プレキャスト無筋コンクリート製品」に規定する普通平板N—300を下地板とし、表面をサンドペーパーを用いて軽く研磨した後、水湿しを行い直ちに（1）で調製した試料を厚さ5mmになるように塗付ける。直ちにJIS A 5209「セラミックタイル」に規定するタイルで押出し又はプレス成形による施ゆうの「50角ユニットタイル（外のり寸法約300mm×300mm）」を圧着する。その後、28日間、温度20±2℃、湿度80%以上の状態で湿空養生を行い、これを試験体とする。
（試験方法）JIS A 6909「建築用仕上塗材」の7.10付着強さ試験に準じて行う。試験体をダイヤモンドカッターを用いて、タイル周辺に沿って下地板に達するまで切り込みを入れ、シ樹脂接着剤で鋼製アタッチメントを接着し、引張試験機を用いて接着強さエポキ試験を行う。なお、接着強さの測定箇所は、試験体の中からまんべんなく5箇所を選び抜き取る。（全てが0.6N/mm2以上を確保していること）
また、試験後の部材破断位置の表示を下記の中から選び明記する。
T　：タイルの母材破断
TM：既調合モルタルとタイルの界面破断
M　：既調合モルタルの母材破断
MG：既調合モルタルと下地板の界面破断
G　：下地板の母材破断

ロ）適用タイルが「小口タイル・二丁掛けタイル」の場合
（試験体の作製）JIS A5371「プレキャスト無筋コンクリート製品」に規定する普通平板N—300を下地板とし、表面をサンドペーパーを用いて軽く研磨した後、水湿しを行い直ちに（1）で 調製した試料を厚さ7mmになるよう塗付ける。直ちに JIS A 5209「セラミックタイル」 に規定するタイルで押出し又はプレス成形による施ゆうの「小口タイル 108mm×60mm×12mm」を4枚2列、計8枚を圧着する。その後、28日間、温度20±2℃、湿度80%以上の状態で湿空養生を行い、これを試験体とする。
（試験方法）「モザイクタイル」の場合と同様に行う。

（5）接着強さ（温冷繰返し後）の試験方法
（試験体の作製）「モザイクタイル」及び「小口タイル・二丁掛タイル」とも、各々（4）接着強さ（標準時）の試験方法の「試験体」と同様とする。
（温冷繰返し試験）「モザイクタイル」及び「小口タイル・二丁掛タイル」とも、各々JIS A6909「建築用仕上塗材」に規定する7.11温冷繰返し試験に準じて行う。
試験の手順は、試験体を20±2℃の水中に18時間浸せきした後、直ちに−20±2℃の恒温器中で3時間冷却し、次に50±3℃の別の恒温器中で3時間加温し、この24時間を１サイクルとする操作を10回繰返した後、試験室に2時間静置し、ひび割れ及び脱れの有無を目視によって調べる。
（温冷繰返し後の接着強さ試験方法）「モザイクタイル」及び「小口タイル・二丁掛タイル」とも、各々温冷繰返し試験完了後の試験体を標準状態で2日間静置養生した後、標準時の接着強さ試験方法と同様に行う。（全てが0.4N/mm2以上を確保していること）

（6）長さ変化率の試験方法
JIS A6203「セメント混和用ポリマーディスパージョン及び再乳化形粉末樹脂」9.9 長さ変化率に準ずる。

（7）曲げ強さの試験方法
JIS A6916「建築用下地調整塗材」の7.11 曲げ強さ試験に準ずる。
試験室の状態：試験室は温度20±2℃、湿度65±10%とする。

防水改修フロー及び数量
・既存保護層の補修及び処置

防水面調査（施工数量調査）

ひび割れ部補修	欠損部改修	浮き部補修	ぜい弱部補修	既存目地欠損部補修	既存目地欠損部補修（脱気に利用する場合）
アスファルト防水工事用シール材（幅2mm未満） 0m	Uカットのうえポリウレタン系シーリング材（幅2mm以上） 0m	ポリマーセメントモルタル補修 0m	ポリマーセメントモルタル補修 0m2	撤去のうえ、ポリマーセメントモルタル補修 0m2	ケレン等のうえ、ポリマーセメンベース下補修 0m2	アスファルト防水工事用シール材 0m	ポリマーセメントモルタル補修 0m	既存目地撤去のうえポリウレタン系シーリング材 0m

シーリング改修	
シーリング再充填工法	
mm× mm 0m	mm× mm 0m

4—2 外壁改修工事（コンクリート打放し仕上げ外壁）

① ひび割れ部改修工法

※ 樹脂注入工法 ［4．1．4］［4．2．4、5、6、7］

工法の種類	ひび割れ幅（mm）	注入口間隔（mm）	注入量（mL／m）
※ 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	200～300	※40 ・
	0.3以上0.5未満		※40 ・
	0.5以上1.0未満		※70 ・
・ 手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	50～100	※40 ・
・ 機械式エポキシ樹脂注入工法	0.3以上0.5未満	100～200	※ 70
	0.5以上1.0未満	150～250	※130

注入状況の確認方法 ※ 注入量により確認 ・ コアの抜取りを行う
コア抜取りの場合の個数 ※ 長さ500mごと及びその端数につき1個
コア抜取りの場合の抜取り部の補修方法 ※ポリマーセメントモルタル充填 ・ 図示
・ Uカットシール材充填工法
・シーリング材
充填材料 ※1成分形又は2成分形ポリウレタン系 ・
シーリング材の上にポリマーセメントモルタルの充填 ※ 行う ・ 行わない
※ 可とう性エポキシ樹脂
・ シール工法
※ パテ状エポキシ樹脂 ・ 可とう性エポキシ樹脂

② 欠損部改修工法

［4．1．4］［4．2．4、8］

※ 充填工法
・ エポキシ樹脂モルタル ・ ポリマーセメントモルタル
・

4—3 外壁改修工事（モルタル塗仕上げ外壁）

1 ひび割れ部改修工法

※ モルタルを撤去しないで改修 ［4．1．4］［4．3．5、6、7、8］
※ 樹脂注入工法

工法の種類	ひび割れ幅（mm）	注入口間隔（mm）	注入量（mL／m）
※ 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	200～300	※40 ・
	0.3以上0.5未満		※40 ・
	0.5以上1.0未満		※70 ・
・ 手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	50～100	※40 ・
・ 機械式エポキシ樹脂注入工法	0.3以上0.5未満	100～200	※ 70
	0.5以上1.0未満	150～250	※130

注入状況の確認方法 ※ 注入量により確認 ・ コアの抜取りを行う
コア抜取りの場合の個数 ※ 長さ500mごと及びその端数につき1個
コア抜取りの場合の抜取り部の補修方法 ※ポリマーセメントモルタル充填 ・ 図示
・ Uカットシール材充填工法
・シーリング材
充填材料の種類 ※ 1成分形又は2成分形ポリウレタン系 ・
シーリング材の上にポリマーセメントモルタルの充填 ※ 行う ・ 行わない
※可とう性エポキシ樹脂
・ シール工法
※ パテ状エポキシ樹脂 ・ 可とう性エポキシ樹脂
・ モルタルを撤去して改修
モルタル撤去後のコンクリート部分の改修は、4-2 外壁改修工事（コンクリート打放し仕上げ外壁）による
モルタル撤去後のモルタル欠損部の補修は、 2 欠損部改修工法による

2 欠損部改修工法

［4．1．4］［4．3．9、10］

※ 充填工法（欠損部の面積が0.25m2／箇所程度以下の場合）
充填材の種類 ※ ポリマーセメントモルタル ・ エポキシ樹脂モルタル
・ モルタル塗替え工法
モルタルの材料 ※ 現場調合材料 ・ 既調合材料
既製目地材 ・ 使用する（形状 ）
仕上げ厚又は全塗厚が25mmを超える場合の措置 ※ 図示

3 浮き部改修工法

※ モルタルを撤去しないで改修 ［4．1．4］［4．3．11～16］
・ アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法
・ アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法
・ アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法
※ 注入口付アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法
・ 注入口付アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法
・ 注入口付アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法

4—4 外壁改修工事（タイル張り仕上げ外壁）

1 タイルの形状、寸法等

タイル部分張替え工法及びタイル張替え工法用接着剤の種類 ［4．4．5、8］
・ JIS A 5557による一液反応硬化形の変成シリコーン樹脂系
タイルの形状、寸法等

施工箇所	形状/寸法（mm）	再生材料の適用	吸水率による区分		うわぐすり		役物		色		耐凍害性		耐滑り性	備考
			Ⅰ類	Ⅱ類	施ゆう	無ゆう	有	無	標準	特注	有	無		
		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・		
		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・		

耐滑り性：JIS A 1509-12（セラミックタイル試験方法—第12部：耐滑り性試験方法） で規定する C.S.R値は0.4～1.0とする。

役物の使用箇所

内	装	出隅　天端
外	装	出隅、窓台、マグサ（標準一体成型品以外は接着成型品とする）

見本焼き
・行う（施工箇所： ） ※行わない
試験張り
・行う（施工箇所： ） ※行わない

2 ひび割れ部改修工法

［4．1．4］［4．5．5、6］

※ タイルを撤去して改修
下地モルタルまで撤去後のコンクリート部分の改修は、4-2 外壁改修工事（コンクリート打放し仕上げ外壁）による
モルタルを存置した場合のモルタル部分の改修は、4—3 外壁改修工事（モルタル塗仕上げ外壁）による
タイル撤去後のタイル欠損部の補修は、 3 欠損部改修工法による
・ タイルを撤去しないで改修

※ 樹脂注入工法

工法の種類	ひび割れ幅（mm）	注入口間隔（mm）	注入量（mL／m）
※ 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	200～300	※40 ・
	0.3以上0.5未満		※40 ・
	0.5以上1.0未満		※70 ・
・ 手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	50～100	※40 ・
・ 機械式エポキシ樹脂注入工法	0.3以上0.5未満	100～200	※ 70
	0.5以上1.0未満	150～250	※130

注入状況の確認方法 ※ 注入量により確認 ・ コアの抜取りを行う
コア抜取りの場合の個数 ※ 長さ500mごと及びその端数につき1個
コア抜取りの場合の抜取り部の補修方法 ※ ポリマーセメントモルタル ・ 図示
・ Uカットシール材充填工法
・ シーリング材
充填材料の種類 ※1成分形又は2成分形ポリウレタン系 ・
シーリング材の上にポリマーセメントモルタルの充填 ※ 行う ・ 行わない
※ 可とう性エポキシ樹脂

3 欠損部改修工法

［4．1．4］［4．5．7、8］

・ タイル部分張替え工法（欠損部の面積が0.25m2／箇所以下の場合及び下地モルタルがある場合）
接着剤の種類 ・ ポリマーセメントモルタル ・ 外装タイル接着剤張りの接着剤
・ タイル張替え工法（下地モルタルを撤去する場合）
貼付けモルタルの材料 ※ 現場調合材料 ・ 既調合材料
伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地の位置 ※ 改修標準仕様書表4.4.2による
外装タイル張り下地等の下地モルタル及び下地調整材塗りの接着力試験 ・ 行う ・ 行わない
・ セメントモルタルによるタイル（セラミックタイル）張り
タイル張りの工法 ・ 外装タイル（ ・ 密着張り ・ 改良圧着張り ・ 改良積上げ張り）
・ ユニットタイル（ ・ マスク張り ・ モザイクタイル張り）
・ 有機系接着剤によるタイル（セラミックタイル）張り
目地詰め ※行う ・行わない
下地モルタル塗りを行うコンクリート素地面の処理
※ 目荒し工法
シーリング材の種類 打継ぎ目地及びひび割れ誘発目地 ※ ポリウレタン系
伸縮調整目地その他の目地 ※ 変成シリコーン系 ・

4 浮き部改修工法

［4．1．4］［4．4．5、9～15］［4．5．9～15］

・ アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法
・ アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法
・ アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法
※ 注入口付アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法
・ 注入口付アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法
・ 注入口付アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法
・ 注入口付アンカーピンニングエポキシ樹脂注入タイル固定工法
注入口付アンカーピン本数 ・
アンカーピンの材質 ※ ステンレス鋼（SUS304）呼び径4mmの丸棒で全ネジ切り加工をしたもの

注入口付アンカーピンの材質 ※ ステンレス鋼（SUS304）呼び径外径6mm程度

・ タイル部分張替え工法
接着剤の種類 ・ ポリマーセメントモルタル ・ 外装タイル接着剤張りの接着剤
・ タイル張替え工法（下地モルタルを撤去する場合）
貼付けモルタルの材料 ※ 現場調合材料 ・ 既調合材料
伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地 位置 ※ 改修標準仕様書表4.5.1による
外装タイル張り下地等の下地モルタル及び下地調整材塗りの接着力試験 ・ 行う ・ 行わない
・ セメントモルタルによるタイル（セラミックタイル）張り
タイル張りの工法 ・ 外装タイル（ ・ 密着張り ・ 改良圧着張り ・ 改良積上げ張り）
・ ユニットタイル（ ・ マスク張り ・ モザイクタイル張り）
・ 有機系接着剤によるタイル（セラミックタイル）張り
下地モルタル塗りを行うコンクリート素地面の処理
※ 目荒し工法
シーリング材の種類 打継ぎ目地及びひび割れ誘発目地 ※ ポリウレタン系
伸縮調整目地その他の目地 ※ 変成シリコーン系 ・

5 目地改修工法

［4．1．4］［4．5．5、16］

・ 目地ひび割れ部改修工法
・ 伸縮調整目地改修工法 伸縮調整目地の位置及び寸法 ※ 図示

6 外壁複合改修構工法

平成７年度建設省告示第１８６０号による「外壁複合改修構工法の開発」において、建設大臣の技術評価を取得した工法とする

4—5 外壁改修工事（仕上塗材仕上げ外壁）

① 既存塗膜等の除去、下地処理及び下地調整

［4．5．4］

工法	処理範囲	下地の補修
⊙ サンダー工法	※既存仕上げ面全体 ・ 図示	4-2 外壁改修工事（コンクリート打放し仕上げ外壁）、4—3 外壁改修工事（モルタル塗仕上げ外壁）による
・ 高圧水洗工法 吐出圧力 ・ 30MPａ～50MPａ ・ 50MPａ～100MPａ ・ 100MPａ以上	※既存仕上げ面全体 ・ 図示	
・ 塗膜はく離剤工法	※既存仕上げ面全体 ・ 図示	
・ 水洗い工法	※サンダー工法、高圧水洗工法、塗膜はく離剤工法の処理範囲以外の既存仕上面全面 ・ 図示	

石綿含有仕上げ塗材の除去は、９章環境配慮改修工事による

② 下地調整材

※ 下地調整塗材 ・ ポリマーセメントモルタル ［4．5．2］

③ 仕上塗材仕上げ

［4．1．5］［4．5．2］［表4．5．1］

建物内部に使用する塗料のホルムアルデヒド放散量
※ Ｆ☆☆☆☆ ・

仕上塗材の種類

⊙ 薄付け仕上塗材

呼び名	仕上げの形状	工法	防火材料
※ 外装薄塗材Ｅ			・
⊙可とう形外壁薄塗材Ｅ	ゆず肌	ローラー	・

・ 厚付け仕上塗材

呼び名	仕上げの形状	工法	上塗り材	防火材料
			・ 適用する	・
			・ 適用する	・

⊙ 複層仕上塗材

呼び名	仕上げの形状	工法	上塗り材の種類	耐候性	防火材料
※ 複層塗材Ｅ ※防水形複層塗材Ｅ	凹凸状	吹付け	溶媒 ※ 水系 樹脂 ※ アクリル系 外観 ※ つやあり	※ 耐候形 3種 ・	・
・ 複層塗材RE	ゆず肌	ローラー			

軽量骨材仕上塗材

呼び名	防火材料
	・
	・

④ マスチック塗材塗り

［4．1．5］［4．6．2］［表4．6．1］

種別 ・ Ａ種 ・ Ｂ種

⑤ 外壁用塗膜防水材塗り

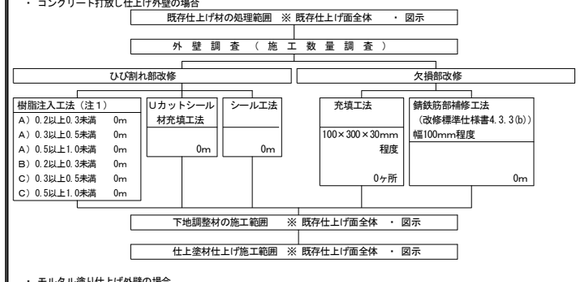
［4．1．5］［4．7．2、3］［表4．7．1］

仕上げの形状
工 法
仕上塗材の耐候性 ・ 耐候形1種 ・ 耐候性2種 ・ 耐候性3種
下地挙動緩衝材 ・ 適用する ・ 適用しない
模様材の種類 ・
仕上塗料の種類
・

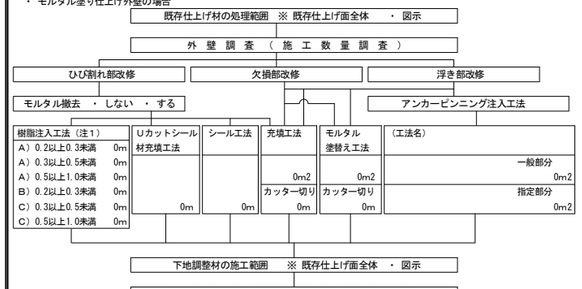
| | | |

外壁改修フロー及び数量

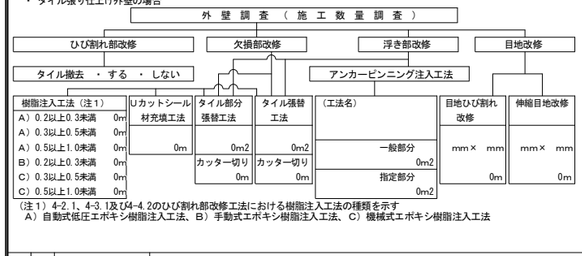
・ コンクリート打放し仕上げ外壁の場合



・ モルタル塗り仕上げ外壁の場合



・ タイル張り仕上げ外壁の場合



（注１）4-2.1、4-3.1及び4-4.2のひび割れ部改修工法における樹脂注入工法の種類を示す
A）自動式低圧エポキシ樹脂注入工法、B）手動式エポキシ樹脂注入工法、C）機械式エポキシ樹脂注入工法

⑤ 建具改修工事

① 改修工法　［5．1．3］

建具の種類		かぶせ工法	撤去工法	適用箇所
⊙ アルミ製建具		⊙	⊙	※ 建具表による
・ 樹脂製建具		・	・	※ 建具表による
⊙ 鋼製建具	・ 外部	⊙	⊙	※ 建具表による
	・ 内部	・	・	※ 建具表による
・ 鋼製軽量建具		・	・	※ 建具表による
・ ステンレス製建具		・	・	※ 建具表による

新規に建具を設ける場合
　壁部分の開口の開け方　※ 図示
　新規建具周囲の補修工法及び範囲　※ 図示　・

② 防火戸　［5．1．4］

・ 適用する　指定箇所（ ※ 建具表による　・　　）

防火戸の自動閉鎖機構及び防火戸とヒューズ装置、熱感知器又は煙感知器との連動
※連動させる　適用箇所（・建具表による　・　　）
・連動させない

③ 見本の製作等　［5．1．5］

建具見本の製作　・行う（建具符号：　　）　・行わない
特殊な建具の仮組　・行う（建具符号：　　）　・行わない

④ 防犯建物部品　［5．1．7］

・ 適用する　適用箇所（ ※ 建具表による　・　　）

⑤ アルミニウム製建具　［5．2．2～5］［表5．2．2］

性能値等
・ 耐風圧性の等級（　　）、気密性の等級（　　）、水密性の等級（　　）
※ 改修標準仕様書表5.2.1による種別
　外部に面する建具の種別 ⊙ A種（建具符号：⊙ 全て　・ 建具表による　・　　）
　・ B種（建具符号：・ 全て　・ 建具表による　・　　）
　・ C種（建具符号：・ 全て　・ 建具表による　・　　）
防音ドア、防音サッシ　遮音性の等級（　　）
　（建具符号：・ 建具表による　・　　）
断熱ドア、断熱サッシ　断熱性の等級（　　）
　（建具符号：・ 建具表による　・　　）

耐震性能
　建築非構造部材の耐震性能に係る特記事項による
ステンレス鋼板の材料　※ SUS304、SUS430JIL又はSUS443J1
形状及び仕上げ
　枠の見込み寸法　※ 建具表による　・
表面処理
　外部に面する建具　種別 ⊙ BB-1種　・ BB-2種　・
　　色合等　※ 標準色（　　）　・ 特注色（　　）
　屋内の建具　種別　・ BC-1種　・ BC-2種　・
　　色合等　※ 標準色（　　）　・ 特注色（　　）

結露水の処理方法　※ 図示　・
取付工法
　水切り板、ぜん板　※ 図示　・
　木下地の場合の内付け建具　・ 適用しない　・ 適用する

⑥ 網戸等　［5．2．3］［5．3．3］

種類	材質	線径	網目
・ 防虫網	※ 合成樹脂製 ・ ガラス繊維入り合成樹脂製 ・ ステンレス（SUS316）製	※ 0.25mm以上 ・	※ 16～18メッシュ ・
・ 防鳥網	ステンレス（SUS304）線材	1.5mm	網目寸法15mm

⑦ 樹脂製建具　［5．2．2］［5．3．2～5］

性能値等
・ 耐風圧性の等級（　　）、気密性の等級（　　）、水密性の等級（　　）
※ 改修標準仕様書表5.3.1による種別
　外部に面する建具　・ A種（建具符号：・ 全て　・ 建具表による　・　　）
　・ B種（建具符号：・ 全て　・ 建具表による　・　　）
　・ C種（建具符号：・ 全て　・ 建具表による　・　　）
防音ドア、防音サッシの遮音性の等級　・ T－1　・ T－2
　（建具符号：・ 建具表による　・　　）
断熱ドア、断熱サッシ　の断熱性の等級　・ H－4　・ H－5　・ H－6　・ H－7　・ H－8
　（建具符号：・ 建具表による　・　　）
外部に面する建具の日射熱取得性の等級
・
形状及び仕上げ
　枠の見込み寸法　※ 建具表による
表面色　※標準色　・ 特注色
取付工法
　水切り板、ぜん板　※ 図示
　木下地の場合の内付け建具　・ 適用しない　・ 適用する

⑧ 鋼製建具　［5．2．2］［5．4．2～4］［表5．4．2］

性能値等（建具符号：・ 建具表による　・　　）
　簡易気密型ドアセット　気密性の等級　・ A－3
　　水密性の等級　⊙ W－1
　外部に面する面する建具の耐風圧性　・ S－4
　　・ S－5
　　・ S－6
　防音ドア、防音サッシ　遮音性の等級（　　）
　断熱ドア、断熱サッシ　断熱性の等級（　　）
　耐震ドア　面内変形追従性の等級（　　）
耐震性能
　建築非構造部材の耐震性能に係る特記事項による
ステンレス鋼板の材料　※ SUS304、SUS430JIL又はSUS443J1
形状及び仕上げ
　鋼板類の厚さ　※ 改修標準仕様書表5.4.2による
　　使用箇所（　　）
標準型鋼製建具の形状及び寸法　※建具表による

⑨ 鋼製軽量建具　［5．2．2］［5．5．2～4］

性能値等（建具符号：・ 建具表による　・　　）
　簡易気密型ドアセット　・適用する
　防音ドア、防音サッシ　遮音性の等級（　　）
　断熱ドア、断熱サッシ　断熱性の等級（　　）
　耐震ドア　面内変形追従性の等級（　　）
耐震性能
　建築非構造部材の耐震性能に係る特記事項による
鋼板の材料　※ 亜鉛めっき鋼板　・ ビニル被覆鋼板　・ カラー鋼板　・ ステンレス鋼板
ステンレス鋼板の材料　※ SUS304、SUS430JIL又はSUS443J1
形状及び仕上げ
　鋼板類の厚さ　※ 改修標準仕様書表5.5.1による
　　使用箇所（　　）
召合せ、縦小口包み板の材質　※ 鋼板
標準型鋼製建具の形状及び寸法　※建具表による

⑩ ステンレス製建具　［5．2．2］［5．4．2］［5．6．2～5］［5．7．2、3］

性能値等（建具符号：・ 建具表による　・　　）
　簡易気密型ドアセット　・ 適用する
　外部に面する面する建具の耐風圧性　・ S－4
　　・ S－5
　　・ S－6
　防音ドア、防音サッシ　遮音性の等級（　　）
　断熱ドア、断熱サッシ　断熱性の等級（　　）
　耐震ドア　面内変形追従性の等級（　　）
耐震性能
　建築非構造部材の耐震性能に係る特記事項による
ステンレス鋼板の材料　※ SUS304、SUS430JIL又はSUS443J1　・
くつずりの仕上げ
　ステンレス鋼板を用いる場合　※ ＨＬ以上
形状及び仕上げ
　表面仕上げ　※ ＨＬ　・ 鏡面仕上げ　・
工法
　ステンレス鋼板の曲げ加工　※ 普通曲げ　・ 角出し曲げ（・ a角　・ b角　・ c角）

⑪ 建具用金物

金物の種類及び見え掛り部の材質等
　※ 改修標準仕様書表5.7.1及び適用は建具表による　・
金属製建具に使用する丁番の枚数及び大きさ　※ 改修標準仕様書表5.8.2による
樹脂製建具に使用する丁番の枚数及び大きさ　※ 標準仕様書表5.8.3による　・
木製建具に使用する丁番の枚数及び大きさ　※標準仕様書表5.8.4による
木製建具に使用する戸車及びレール　※標準仕様書表5.8.5による
握り玉及びレバーハンドル、押板類、クレセントの取付け位置　※ 建具表による　・

錠前類
【シリンダ箱錠及びシリンダ本締まり錠】
（品質）
　デッドボルトの出寸法は17mm以上とする。 鍵付きのものはマスターキー、グランドマスターキー、コンストラクション キーなどのキーシステムが構築できるものとする。
（性能）
〈使用頻度による性能〉
　1）（シリンダ箱錠のみ）ラッチボルトの開閉繰り返し試験（40万回）を行った後、ハンドルでの開閉操作力及びラッチング力が試験前の2倍未満であり、動作に支障がない。
　2）キーによるデッドボルトの施解錠繰り返し試験（10万回）を行った後、 試験前の回転トルクの2倍未満であり、施解錠操作に支障がない。（シリンダ本締り錠のみ）シリンダ単体の施解錠繰り返しの評価は、シリンダ だけの回転トルクが10Ｎ・ｃｍ以下とする。
　3）キーによる施錠機構の施解錠繰り返し試験（10万回）を行なった後、 試験前の回転トルクの2倍未満であり、施解錠操作に支障がない。
　4）キーの抜き差し繰り返し試験（10万回）を行なった後、キーの抜き差 しに要する荷重は10N以下である。また、未使用の合鍵でシリンダが回転でき、かつ、1箇所1段差浅い刻みをもつ異なるキーでは、シリンダが回転しないこと。（キーに加えるトルクは、150N・ｃｍとする）
〈外力に対する性能 〉
　1）デッドボルトの押込み強度試験（10ＫＮ）を行なった後、荷重を除い ときのデッドボルトの出寸法は8mm以上であること。
　2）デッドボルトの側圧強度試験（10ＫＮ）を行なった際、加圧板がデッドボルトを通過しない。
　3）デッドボルトの押込み強度（衝撃荷重）試験（58．8Ｊ）の衝撃荷重を加えたとき、解錠状態（デッドボルトの突出量が8mm未満）にならないこと。
　4）デッドボルトの側圧強度（衝撃荷重）試験(58．5Ｊ)の衝撃荷重を加えたとき、解錠状態（加圧板がデッドボルトを通過した状態）にならないこと。
　5）（シリンダ本締り錠はグレード3以上の彫込錠の場合）ストライクプレートの厚さ1．5mm以上のステンレス鋼製とし、トロヨケは厚さ1．6mm以上の鋼製の一体絞りとする。又はストライクの強度と同等以上の強度をもつものとする。
〈使用扉の質量に対する性能（シリンダ箱錠のみ）〉
　1）ラッチボルトの側圧強度試験（4Ｋ Ｎ）を行い、荷重を除いたとき、ハンドル操作及びラッチングに支障がない。
　2）レバーハンドルのねじり強度試験（3．5ＫＮ・ｃｍ）を行なった後、トルクを除いたとき、ハンドルが正常に作動していること。また、施錠時ハンドルが固定される錠は、施錠状態が維持され、かつ、施解錠操作に支障がない。
　3）握り玉のねじり強度試験（3ＫＮ・ｃｍ）を行なった後、 トルクを除いたとき、握り玉が正常に作動していること。また、施錠時握り玉が固定される錠は、施錠状態が維持され、かつ、施解錠操作に支障がない。
　4）ハンドルの引張強度試験（2ＫＮ）を行い、荷重を除いたとき、ハンドルが正常に作動していること。また、施錠時ハンドルが固定される錠は、施錠状態が維持され、かつ、施解錠操作。に支障がない。
　5）ハンドルの垂直荷重強度試験（2ＫＮ）を行い、荷重を除いたとき、ハンドルが正常に作動していること。また、施錠時ハンドルが固定される錠は、施錠状態が維持され、かつ、施解錠操作に支障がない。
〈鍵〉
　1）かぎ（鍵）違い数は、1．5万以上とする。ただし、異なるキーウェイ形状であっても、共通のキーセクションが存在する場合は、有効かぎ（鍵）違い数とみなさないものとする。
　2）同一タンブラーの使用数は、60%以下とする。また、６本タンブラーにおいては、キーの同一刻みは、最大2連続までとしていること。
　試験方法は、JIS A 1541-1（建築金物－錠－第１部：試験方法）による。

【レバーハンドル】
（性能）
〈ねじり強度〉
　レバーハンドルのねじり強度試験（3．5ＫＮ・ｃｍ）を行なった後、トルクを除いたとき、ハンドルが正常に作動していること。また、施錠時ハンドルが固定される錠は、施錠状態が維持され、かつ、施解錠操作に支障がないこと。
〈引張り強度〉
　ハンドルの引張強度試験（2ＫＮ）を行い、荷重を除いたとき、ハンドル が正常に作動していること。また、施錠時ハンドルが固定される錠は、 施錠状態が維持され、かつ、施解錠操作に支障がないこと。
〈垂直荷重強度〉
　ハンドルの垂直荷重強度試験（2Ｋ Ｎ）を行い、荷重を除いたとき、ハンドルが正常に作動していること。また、施錠時ハンドルが固定される錠は、施錠状態が維持され、かつ、施解錠操作に支障が ないこと。
試験方法は、JIS A 1541-1（建築金物－錠－第１部：試験方法）による。

クローザー類
（品質・性能）

性能試験項目 ＼ 区分			① ドアクローザー		② ヒンジクローザー		③ フロアヒンジ	
開閉力（N）（ラッチ及びストップを設けるときは、ラッチ及びストップを解除するために必要な力）（注1）（注2）	Grade2	番手	閉じモーメント（N・m）	効率（%）	閉じモーメント（N・m）	効率（%）	閉じモーメント（N・m）	効率（%）
		1	5以上	30以上	5以上	30以上	5以上	30以上
		2	10以上	30以上	10以上	30以上	10以上	30以上
		3	15以上	35以上	15以上	35以上	15以上	35以上
		4	25以上	40以上	25以上	40以上	25以上	40以上
		5	35以上	45以上	35以上	45以上	35以上	45以上
		6	45以上	45以上	45以上	45以上	45以上	45以上
閉じ速度（秒）			常温（5～35℃）無風状態において、開扉（70°）から全開（0°）までの時間を5～8秒に調整できること。					
温度依存性（℃）			緩衝油の流動点は、JIS K 2269(原油及び石油製品の流動点並びに石油製品 重り点試験方法）により測定し、－15℃以下であること。					
ラッチ及びストップ	ストップ入力		60N・m以下 但し、コンシールド型は200N・m以下		100N・m以下		100N・m以下	
	ストップ解除力		8N・m以上		3N・m以上		10N・m以上	
バックチェック性能（秒）（バックチェック機能を有する機種のみ適用）			ドア開扉方向に荷重60N/m2を開扉50°から負荷する。バックチェック開始角度（70～85°）から更に20°まで開く間の時間は0.8秒以上としていること。		—		—	
ディレードアクション性能（秒）ディレード アクション解除角度（60～75°）（ディレードアクション機能を有する機種のみ適用）			開扉90°の位置からディレードアクション解除角度までの時間が10秒以上確保でき、また、その時間の調整が可能であること。		—		—	
戸の閉鎖位置（中心吊り込み両自由のみに適用）			—		—		±3mm以内	
耐久性 繰返し開閉後の閉じモーメント（N・m）	Grade2		耐久試験後も上記初期値を満足していること。		耐久試験後も上記初期値を満足していること。		耐久試験後も上記初期値を満足していること。	
繰返し開閉後の効率（%）	Grade2		耐久試験後も上記初期値を満足していること。		耐久試験後も上記初期値を満足していること。		耐久試験後も上記初期値を満足していること。	
繰返し開閉後の閉じ速度（秒）			耐久試験後も上記初期値を満足していること。					
繰返し開閉後のバックチェック性能（秒）			耐久試験後も上記初期値を満足していること。		—		—	
繰返し開閉後のディレードアクション性能（秒）			耐久試験後も上記初期値を満足していること。		—		—	
繰り返し開閉後の戸閉鎖位置（mm）			—		—		耐久試験後±6mm以内	
耐久性の試験回数（繰り返し開閉回数）	Grade2		20万回		10万回		30万回	

注１．パラレル取付けは、右記の閉じモーメントの70%程度までとする。
注２．コンシールド型は右記の閉じモーメントの50%程度までとする。
Grade1を選定する場合は、図示による。
（試験方法）
１）性能試験は、JIS A 1510-3（建築用ドア金物の試験方法－第３部：フロアヒンジ、ドアクローザ及びヒンジクローザ）に規定する試験方法による。
２）試験ドアの質量は、1番手は25ｋ、2番手は40ｋ、3番手は60ｋ、4番手は80ｋ、5番手は100ｋ、6番手は120ｋとする。

⑫ 鍵　［5．8．4］

マスターキー　※ 製作する（　　組）　・ 製作しない　⊙ 既存に組込む
鍵の製作本数　※ 各室３本１組（室名札付き）
鍵箱　・ 設ける（　　個用　組）　・ 設けない

⑬ 自動ドア開閉装置　［5．9．2、3］

引き戸用駆動装置
性能値

※ 改修標準仕様書表5.8.1による
種類　・ SSLD-1　・ SSLD-2　・ DSLD-1　・ DSLD-2

多機能トイレ出入口引き戸用駆動装置
性能値

※ 改修標準仕様書表5.9.2による
引き戸用検出装置の種類は、多機能トイレスイッチとする

引き戸用検出装置
性能値

※ 改修標準仕様書表5.9.3による
種類　・ 光線（反射）センサー　・ 熱線センサー　・ 音波センサー　・ 光電センサー
　・ 電波センサー　・ タッチスイッチ　・ 押しボタンスイッチ
戸の開閉方式　※ 建具表による
防錆　・ 適用する　・ 適用しない
凍結防止措置　・ 適用する　・ 適用しない

⑭ 自閉式上吊り引戸装置　［5．10．3］

性能値等　※ 標準仕様書表5.10.1による
（試験方法）
（１）耐久性（開閉繰り返し）試験
　閉については外力によらず、試験体の自閉装置及び制御装置のみにより戸を開端位置から閉端位置までの作動を確認できる試験を行う。同試験に用いる試験体は片引戸とし、開口内法有効高さ2,000mm、幅は最大寸法とする。適用戸総質量の区分毎に試験を行う。自閉装置、制御装置は10万回以上の時点で1回のみ調整を行えるものとし、また、その他の制御装置についてはメーカーの耐久性能試験成績書において2万回以上の耐久性能を確認することで、試験に代えることができるものとする。
（２）耐衝撃性試験
　落下高さ17ｃｍにて、ドアの中央部にドアが外れる方向に衝撃を与える。
　耐衝撃性試験に用いる試験体は片引戸、開口内法有効寸法は高さ2,000mm、幅900mmとする。
　適用戸総質量の区分毎に試験を行う。
（３）気密性能試験
　JIS A 1516「建具の気密性試験方法」による。

⑮ 重量シャッター　［5．11．2、3］

シャッターの種類　・ 管理用シャッター
　・ 外壁用防火シャッター
　・ 屋内用防火シャッター
　・ 防煙シャッター
外壁開口部に設ける重量シャッターの耐風圧強度（　　）Pa
開閉方式の種類　※ 上部電動式（手動併用）　・ 上部手動式
安全装置
急降下制動装置、急降下停止装置を設けた電動シャッターの設置箇所
　※ 図示　・
障害物感知装置を設けた電動シャッターの設置箇所　※ 図示　・
屋内用防火シャッター若しくは防煙シャッターの危害防止機構の設置箇所
　※「防火区画に用いる防火設備等の構造方法を定める件」（昭和48年12月28日建設省告示第2563号）に定める基準に適合するもの
　・
管理用シャッターのシャッターケース　・ 設ける　・ 設けない
スラット及びシャッターケース用鋼板
　鋼板の種類　※ JIS G 3302（溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯）
　　・ JIS G 3312（塗装溶融亜鉛めっき及び鋼帯）
　めっきの付着量　※ Z12又はF12を満足するもの
ガイドレール、まぐさ、雨掛りに用いる座板及び座板のカバー、雨掛りに用いるスイッチボックスの ふたの材質
　ステンレス鋼板の材料　※ SUS304、SUS430JIL又はSUS443J1　・

⑯ 軽量シャッター　［5．12．2～4］

開閉方式の種類　※ 手動式　・ 上部電動式（手動併用）
耐風圧強度　（　　）N／m2
障害物感知装置を設けた電動シャッターの設置箇所
　※図示
スラットの材質の種類
　※ JIS G 3312（塗装溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼板）
　　めっきの付着量（ ※ Z06 又はF06を満足するもの　・　　）
　・ JIS G 3312（塗装溶融５５%アルミニウム－亜鉛合金めっき鋼板及び鋼板）
　　めっきの付着量（ ※ AZ90を満足するもの　・　　）
スラットの形状　※ インターロッキング形　・ オーバーラッピング形
シャッターケース　※ 設ける　・ 設けない
ガイドレール（中柱共）の材質　※ ステンレス鋼板（SUS304）　厚さ1.0mm

座板の材質（屋外の場合）　※ ステンレス製既製品　・

⑰ オーバーヘッドドア　［5．13．2、3］

セクション材料による区分	耐風圧性能区分	開閉方式による区分	収納方式による区分	ガイドレールの材料
※スチールタイプ ・アルミニウムタイプ ・ファイバーグラスタイプ	・ 175 ・ 125 ・ 100 ・ 75 ・ 50	※バランス式 ・チェーン式 ・電動式	・スタンダード形 ・ローヘッド形 ・ハイリフト形 ・バーチカル形	※溶融亜鉛めっき鋼板 ・ステンレス鋼板

電動式タイプで障害物感知装置を設ける箇所　※図示　・

⑱ 木製建具　［5．7．2～4］

建具材の加工、組立時の含水率　※ Ａ種　・
建物内部の木製建具に使用する表面材及び接着剤のホルムアルデヒド放散量
　※ Ｆ☆☆☆☆　・
⊙ フラッシュ戸
　表面材のホルムアルデヒド放散量等　※標準仕様書16.7.2(2)(f)(a)による
　表面材の会版の種類

合板の種類	規格等	備考
⊙ 普通合板	表面の樹種 生地、透明塗料塗り （ ※ ラワン合板程度　・　　） 不透明塗料塗り （ ※ しな合板程度　・　　） 板面の品質（　・ 広葉樹１等　・　　） 接着の程度（ ・ 1類　・ 2類 ）	
・ 天然木化粧合板	樹種名（　　） 接着の程度（ ・ 1類　・ 2類 ）	
・ 特殊加工化粧合板	化粧加工の方法 （ ・ オーバーレイ　・ プリント　・ 塗装） 表面性能（　　）タイプ 接着の程度（ ・ 1類　・ 2類 ）	
・ ミディアムデンシティファイバーボード（ＭＤＦ）	表裏面の状態による区分（　　） 曲げ強さによる区分（　　） 接着剤による区分（　　） 難燃性による区分（　　）	

表面板の厚さ　※改修標準仕様書表5.7.6による　・
引戸の召合せかまちのいんろう付きの適用　・ 適用する　・ 適用しない
・ かまち戸
　かまち樹種（　　）　鏡板樹種（　　）
　見込み寸法　※建具表による　・

事業年度　年度 工事完成　年度	設 計 令和 年 月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 西小学校長寿命化改修工事（建築主体工事）	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社　ＭａｓＭａｓ 一級建築士登録　第198542号 美野　健治　印	図面名称・縮尺　non scale　(A3版-71%縮小) 改修工事特記仕様書-4	図 番 A-04

⑲ ガラス

・ふすま
張りの種別（ ・ Ⅰ型 ・ Ⅱ型）
上張り（押入等の裏側以外） ・ 鳥の子 ・ 新鳥の子又はビニル紙程度
縁仕上げ ・ 塗り縁 ・ 生地縁（素地） ・ 生地縁（ウレタンクリヤー塗装）
見込み寸法 ※ 建具表による ・
・戸ぶすま 見込み寸法 ※ 建具表による ・
・紙張り障子 見込み寸法 ※ 建具表による ・
枠の材料 ※ 木製枠（6章内装改修工事による）
・ 鋼製枠（※亜鉛めっき鋼板 ・ビニル被覆鋼板 ・カラー鋼板 ・ステンレス鋼板）
くつずりの材料 ・ ステンレス鋼板 ⊙ 木製 （3．7、5．13．2～4）（図5．14．1）
下記のガラス以外の品種、厚さの呼びによる種類等
※建具表による
合わせガラスの材料板ガラスの種類及び厚さの組合せ並びに合わせガラスの合計厚さ及び特性による種類 ※ 下記以外は建具表による

材料板ガラスの種類、組合せ	落球衝撃はく離特性並びにショットバック衝撃特性による種類
⊙ フロート板、フロート板合わせガラス	・Ⅰ類 ・Ⅱ－１類 ・Ⅱ－２類 ・Ⅲ類

強化ガラスの形状による種類、材料板ガラスの種類による名称及び特性による種類
※ 下記以外は建具表による

材料板ガラスによる種類による名称	材料板ガラス	破片の状態及びにショットバック衝撃特性による種類
・フロート強化ガラス ・	・フロート板ガラス ・	・Ⅰ類 ・Ⅲ類
	・	

熱線吸収板ガラスの板ガラスによる種類、厚さによる種類及び性能による種類
※ 下記以外は建具表による

材料板ガラスによる種類	性能による種類	色 調
・熱線吸収フロート板ガラス	・１種 ・２種	・グリーン
・熱線吸収網入り磨き板ガラス		

複層ガラスの材料板ガラスの種類及び厚さの組合せ並びに複層ガラスの厚さ
※ 下記以外は建具表による

断熱性による区分	乾燥気体の種類
・Ｔ１ ・Ｔ２ ・Ｔ３ ・Ｔ４ ・Ｔ５ ・Ｔ６	・空気 ・アルゴン

日射取得性、日射遮蔽性による区分	乾燥気体の種類
・Ｇ ・Ｓ	・空気 ・アルゴン

熱線反射ガラスの材料板ガラスの種類及び厚さによる種類
※ 下記以外は建具表による

材料板ガラスによる種類	日射熱遮蔽性による区分	耐久性による区分
・ 色調（ ・ブルー ・ グレー ・ ）	・１種	Ａ類
	・２種	・Ａ類 ・Ｂ類
	・３種	Ｂ類

反射皮膜面 ・内面 ・外面
映像調整 ・行わない ・行う

ガラスの留め材及び溝の大きさ

建具の種類	ガラス留め材	ガラス溝の大きさ（mm）
アルミニウム製	※ シーリング材 ・ ガスケット ・ グレイジングチャンネル形 ・	※ 建具の製造所の仕様による ・
鋼製及び鋼製軽量	※ シーリング材 ・	※ 建具の製造所の仕様による ・
ステンレス製	※ シーリング材 ・	※ 建具の製造所の仕様による ・
樹脂製	※ シーリング材 ・ ガスケット ・ グレイジングチャンネル形 ・	※ 建具の製造所の仕様による ・

耐震性能
建築非構造部材の耐震性能に係る特記事項による

20 ガラスブロック積み

［5．14．5］

表面形状	呼び寸法（mm）	厚さ（mm）	色調 クリア	色調 乳白	目地幅（mm） 平積み	目地幅（mm） 曲面積み	伸縮調整目地位置（mm）	防火性能
・正方形	・160×160	・95 ・125	・	・	※8～15	外側 ※標準仕様書5.14.5(2)(ｲ)(a)② ・ 内側 ※標準仕様書5.14.5(2)(ｲ)(a)② ・	※6mm以下ごとに幅10～25 ・図示 ・	・無し ・有り
	・200×200	・95 ・125	・	・				

壁用金属枠及び補強材の材質・形状 ※ 図示

力骨 材質 ※ ステンレス鋼（SUS304）
寸法 ※ 径5.5mm
形状 ※ はしご形状複筋及び単筋
化粧目地モルタルの色（ ）
シーリングの種類 （ ）
金属製化粧カバー 材質 ・ ステンレス製 ・ アルミニウム製
寸法 ※ 図示
形状 ※ 図示
工法 1章 適用区分による風圧力の（ ・ 1 ・ 1.15 ・ 1.3）倍の風圧力に対応した工法
目地部の横力骨の納まり
※ガラスブロック製造所の仕様による ・ 図示

21 ガラス用フィルム

種 類	記号 内張り用	記号 外張り用	その他性能等
・ 日射調整フィルム	・ＳＣ－１	・ＳＣ－２	日射遮へい性能による区分 ・Ａ ・Ｂ ・Ｃ ・Ｄ ・Ｅ
・ 低放射フィルム	ＬＥ		熱還流率による区分 ・Ａ ・Ｂ ・Ｃ ・Ｄ
・ 衝撃破壊対応ガラス飛散防止フィルム	・ＧＩ－１	・ＧＩ－２	
・ 相間変位破壊対応ガラス飛散防止フィルム	・ＧＤ－１	・ＧＤ－２	
・ ガラス貫通防止フィルム	ＳＦ		ガラスの貫通防止性能による区分 ・Ａ ・Ｂ

品質 ＪＩＳ Ａ５７５９による

6 内装改修工事

1 他の部位との取り合い等

既存間仕切壁の撤去に伴う当該壁の取り合う天井、壁面及び床の改修範囲 ［6．1．3］
※ 壁厚程度とし、既存仕上げに準じた仕上げを行う ・ 図示
天井内の既存壁の撤去に伴う当該壁の取り合う天井の改修範囲
※ 壁面より両側600mm程度とし、既存仕上げに準じた仕上げを行う ・ 図示
既存天井の撤去に伴う取り合い部の壁面の改修
※ 既存のまま ・ 図示

② 既存床の撤去及び下地補修

ビニル床シート等の撤去 ※ 仕上材のみ（接着剤とも） ［6．2．2］
・ 下地モルタルとも（ ・ 図示の範囲 ・ 撤去範囲全て）
合成樹脂塗床材の除去工法 ・ 機械的除去工法 ・ 目荒し工法
既存のコンクリート又はモルタル面の下地処理に用いるポリマーセメントモルタル及びエポキシ樹脂モルタルは、４章外壁改修工事による。

3 既存壁の撤去及び下地補修

間仕切壁撤去に伴う他の構造体の補修 ［6．3．2］
※ 改修標準仕様書4.3.10によるモルタル塗り
（仕上げ厚又は全塗厚25mmを超える場合の処置 ※ 図示 ・ ）
・

④ 製材

ホルムアルデヒド放散量 ※ Ｆ☆☆☆又は標準仕様書6.5.2(1)(ｳ)(b)による ・
・JAS 1083-5 製材 - 第５部に基づく下地用製材 ［6．5．2］

施工箇所	寸法（mm）	等級	含水率	保存処理	間伐材等の適用
		※２級 ・	※Ａ種 ・Ｂ種 ・		・
		※２級 ・	※Ａ種 ・Ｂ種 ・		

・ JAS 1083-2 製材 - 第２部に基づく造作用製材

施工箇所	寸法（mm）	等級	含水率	保存処理	間伐材等の適用
見え掛り面		※上小節 ・	※Ａ種 ・Ｂ種 ・		・
見え掛り面以外		※小節以上 ・	※Ａ種 ・Ｂ種 ・		・

・ JAS 1083-6 製材 - 第６部に基づく広葉樹製材

施工箇所	寸法（mm）	等級	含水率	保存処理	間伐材等の適用
		※１等 ・	※10%以下 ・Ａ種 ・Ｂ種 ・		・
		※１等 ・	※10%以下 ・Ａ種 ・Ｂ種 ・		・

・ JAS 1083（製材）以外の製材

施工箇所	寸法（mm）	材面の品質	防虫処理	含水率	間伐材等の適用
		（ ） 造作材の場合（※Ａ種 ・Ｂ種）	・適用する ・適用しない	※Ａ種 ・Ｂ種 ・	・

［6．5．2］

⑤ 造作用集成材

ホルムアルデヒド放散量 ※ Ｆ☆☆☆又は標準仕様書6.5.2(1)(ｳ)(b)による ・
⊙「集成材の日本農林規格」による造作用集成材

施工箇所	品名	樹種名	寸法（mm）	見付け材面	見付け材面の品質	間伐材等の適用
					※１等 ・２等	・

・「集成材の日本農林規格」による化粧ばり造作用集成材

施工箇所	品名	樹種名	寸法（mm）	化粧薄板の厚さ（mm）	見付け材面	見付け材面の品質	間伐材等の適用
		化粧薄板：芯材：				※１等 ・２等	・

・「集成材の日本農林規格」以外の造作用集成材

施工箇所	樹種	寸法（mm）	化粧薄板の厚さ（mm）	見付け材面の品質	含水率	間伐材等の適用
	化粧薄板：芯材：				※15%以下 ・	・

6 造作用単板積層材

［6．5．2］

ホルムアルデヒド放散量 ※ Ｆ☆☆☆又は標準仕様書6.5.2(1)(ｳ)(b)による ・
・ JAS 0701に基づく造作用単板積層材

施工箇所	品名	寸法（mm）	表面の化粧加工	防虫処理	間伐材等の適用
			・有り（加工：・天然木化粧加工 ・塗装加工） ・無し（等級： ）	・適用する ・適用しない	・

・ JAS 0701以外の造作用単板積層材

施工箇所	品名	寸法（mm）	表面の化粧加工	防虫処理	含水率	間伐材等の適用
			・有り（加工：・天然木化粧加工 ・塗装加工） ・無し（ ）	・適用する ・適用しない	※14%以下 ・	・

・ JAS 3079に基づく直交集積板

施工箇所	品名	強度等級	種別	接着性能（使用環境）	樹種名	寸法（mm）	間伐材等の適用
							・

7 合板等

［6．5．2］

ホルムアルデヒド放散量 ※Ｆ☆☆☆又は標準仕様書6.5.2(1)(ｳ)(b)による ・
⊙ 普通合板

施工箇所	厚さ（mm）	単板の樹種名	接着の程度	板面の品質	防虫処理	間伐材等の適用
	※5.5 ・		※1類 ・2類	広葉樹 ※2等以上 ・1等 針葉樹 ※C-D以上	⊙適用する ・適用しない	・

⊙ 構造用合板

施工箇所	等級	単板の樹種名	接着の程度	板面の品質	厚さ（mm）	防虫処理	強度等級	間伐材等の適用
	※2級以上 ・1級		※1類 ・特類	※C-D以上 ・	※12 ・	⊙適用する ・適用しない	・適用する（ ） ・適用しない	・

・「合板の日本農林規格」による化粧ばり構造用合板

施工箇所	厚さ（mm）	単板の樹種名	接着の程度	防虫処理	間伐材等の適用
			※１類 ・特類	・適用する ・適用しない	・

・「合板の日本農林規格」による天然木化粧合板

施工箇所	化粧板に使用する単板の樹種名	厚さ（mm）	接着の程度	防虫処理	間伐材等の適用
			※１類 ・２類	・適用する ・適用しない	・

・「合板の日本農林規格」による特殊加工化粧合板

施工箇所	厚さ（mm）	接着の程度	表面性能	化粧加工の方法	防虫処理	間伐材等の適用
		※１類 ・２類			・適用する ・適用しない	・

・ パーティクルボード

施工箇所	表裏面の状態による区分	曲げ強さによる区分	耐水性による区分	難燃性による区分	厚さ（mm）
		※13タイプ ・	※Ｐ又はＭ ・		※15 ・

・ JAS 0360に基づく構造用パネル

施工箇所	等級	寸法（mm）
	・１級 ・２級 ・３級 ・４級	

・ ミディアムデンシティーファイバーボード（ＭＤＦ）

施工箇所	厚さ（mm）	表裏面の状態による区分	曲げ強さによる区分	接着剤による区分	難燃性による区分	間伐材等の適用

8 接合具等

造作材の化粧面の釘打ち ［6．5．3］
※隠し釘打ち ・釘頭埋め木 ・つぶし頭釘打ち ・釘頭現し
諸金物
※かすがい、座金、箱金物、短冊金物
（標準仕様書 表6.5.3～5に示す程度の市販品 表8.20.1のF種程度）
・（形状： 寸法： 材質： ）

9 防腐・防蟻処理

・ 薬剤の加圧注入による防腐防蟻処理 ・ ［6．5．5］

適用部材	保存処理性能区分
	・Ｋ２ ※Ｋ３ ・Ｋ４
	・Ｋ２ ※Ｋ３ ・Ｋ４
	・Ｋ２ ※Ｋ３ ・Ｋ４

・ 薬剤の塗布等による防腐、防蟻処理

適用部材	処理の方法	薬剤の種類
	※ 薬剤の製造所の仕様による ・	※ JIS K 1571に適合又は同等品 ・

・ 薬剤の接着剤への混入による防腐、防蟻処理
適用部位（ ）
・ 合板等の加圧注入処理等の適用
適用部位（ ）

10 内部間仕切り軸及び床組み

・ 間仕切軸組に用いる木材の樹木名（製材を用いる場合） ［6．5．6］
※杉又は松
・ 床組みに用いる木材の樹種名（製材を用いる場合）

11 窓、出入口その他

・ 窓、出入口その他に用いる木材の樹木名（製材を用いる場合） ［6．5．7］
※吊元枠、水掛りの下枠及び敷居はひのき、その他は杉又は松

12 床板張り

・ 縁甲板及び上がりかまちに用いる木材の樹種名（製材を用いる場合） ［6．5．8］
※ひのき

13 壁及び天井下地

・ 壁胴縁、野縁受桟、野縁及び吊木に用いる木材の樹種名（製材を用いる場合）［6．5．9］
※杉又は松

⑭ 軽量鉄骨天井下地

野縁等の種類 ［6．6．2～4］
屋外（※ 25形 ・ ） 屋内（※ 19形 ・ 25形）
・ 屋外の軒天井、ピロティ天井等
工法
1章 適用区分による風圧力の（ ・ 1 ・ 1.15 ・ 1.3）倍の風圧力に対応した工法
野縁受、つりボルト及びインサートの間隔 ・ 図示 ・
周辺部の端からの間隔 ・ 図示 ・
野縁の間隔 ・ 図示 ・
既存の埋込みインサート ⊙ 使用する ・ 使用しない
あと施工アンカーの施工後の確認試験
⊙ 行う（試験箇所数 ※屋内の場合、当該階において3箇所 ・ ）
（確認強度 ※改修標準仕様書6.6.4(1)(ｳ)による ・ ）
・ 行わない

・ つりボルトの間隔が900mmを超える場合
補強方法 ※ 図示 ・
・ 天井のふところが3.0mを超える場合
補強方法 ※ 図示 ・

・ 天井の下地材における耐震性を考慮した補強
補強箇所 ※ 高さが６mを超える天井 ・ 図示 ・
補強方法 ※ 「特定天井及び特定天井の構造耐力上安全な構造方法を定める件」（平成25年国土交通省告示第771号）第３第２項第二号に適合させる。
・ 図示
耐震性能
建築非構造部材の耐震性能に係る特記事項による

⑮ 軽量鉄骨壁下地

スタッド、ランナの種類 ［6．7．3、4］［表6．7．1］
※ 改修標準仕様書表6.7.1によるスタッドの高さによる区分に応じた種類 ・図示
スタッドの高さが5.0mを超える場合 ※ 図示
出入口及びこれに準ずる開口部の補強 ※ 改修標準仕様書6.7.4.(5)による

⑯ ビニル床シート

［6．8．2、3］

種類の記号	色柄	特殊機能	厚さ（mm）	備考
※ ＦＳ ・	・ 無地 ・ マーブル柄 ⊙ 柄物※Ⅱ群 上等品	・ 帯電防止 ・ 耐動荷重性 ⊙ 防滑性	※ 2.0 ⊙ 2.5	

※目地処理（工法 ※ 熱溶接工法 ・ ） ・ 突付け（施工箇所： ）
特殊機能
帯電防止 ・ 帯電防止性能評価値（JIS A 1455）1.2以上～3.2未満
又は体積電気抵抗値（JIS A 1454）1×10^{7}～$1\times10^{9}\Omega$程度
・

⑰ ビニル床タイル

［6．8．2］

種類の記号	色柄	寸法	特殊機能	厚さ（mm）	備考
※ ＫＴ ・ ＴＴ ・ ＦＴ ・ ＦＯＡ ・ ＦＯＢ	・ 無地 ⊙ 柄物	・ 300×300 ⊙ 450×450 ・ 500×500	⊙ 帯電防止 ・ 防滑性	※ 2.0 ・ 2.5 ・ 3.0	

特殊機能
帯電防止 ⊙ 帯電防止性能評価値（JIS A 1455）1.2以上～3.2未満
又は体積電気抵抗値（JIS A 1454）1×10^{7}～$1\times10^{9}\Omega$程度
・

⑱ 接着剤

［6．5．3、4］［6．8．2］［6．9．3］［6．11．4、5］
接着剤は可塑剤（難揮発性の可塑剤を除く）が添加されていないものとする。
ホルムアルデヒド放散量
※ 規制対象外 ・
施工箇所の下地がセメント系下地及び木質系下地以外の場合の接着剤の種別
・ 図示

⑲ ビニル幅木

［6．8．2］

材質の種類 ※ 軟質 ・ 硬質
高さ（mm） ※ 60 ・ 75 ・ 100
厚さ（mm） ※ 1.5以上 ・

20 ゴム床タイル

［6．8．2］

種類 ・ 単層品 ・ 複層品
色柄 （ ）
厚さ（mm） ・ 3.0 ・ 4.5 ・ 6.0 ・ 9.0
寸法（mm）（ ）

㉑ カーペット敷き

［6．9．2、3］［表6．9．1］

・ 織じゅうたん

織り方	パイルの形状	帯電性	備考
・ ウィルトンカーペット ・ ダブルフェースカーペット ・ アキスミンターカーペット	・ カットパイル ・ ループパイル ・ カット、ループ併用	・ 適用する ・ 適用しない	

色柄
※模様のない無地
パイル糸の繊維種等
※無地の織りじゅうたんの種別（ ・A種 ・B種 ・C種）
織じゅうたんの接合方法
※ ヒートボンド工法 ・ つづり縫い

・ タフテッドカーペット

パイルの形状	パイル長さ（mm）	工法	帯電性	備考
・ カットパイル	・ 5～7 ・	※ 全面接着工法	・ 適用する	
・ ループパイル	・ 4～6 ・	・ グリッパー工法	・ 適用しない	
・ カット、ループ併用	・			

タフテッドカーペット用接着剤のホルムアルデヒド放散量
※F☆☆☆

⊙ タイルカーペット

パイルの形状	種類	施工箇所	寸法（mm）	総厚さ（mm）	備 考
※ ループパイル	※ 第一種 ・ 第二種	校長室	※ 500×500	※ 6.5	
・ カットパイル	・ 第一種 ・ 第二種		※ 500×500	※ 6.5	
・ カット、ループ併用	・ 第一種 ・ 第二種		※ 500×500	※ 6.5	

タイルカーペット用接着剤のホルムアルデヒド放散量
※F☆☆☆
タイルカーペットの敷き方 平 場 ※ 市松敷き ・ 模様流し ・
階段部分 ※ 模様流し ・ 市松敷き ・
見切り、押え金物の材質、種類及び形状 ※ 図示 ・
下敷き材 ※ 反毛フェルト（JIS L 3204）の第2種2号 呼び厚さ 8mm ・

| | | | | | | | |

22 合成樹脂塗床 ［6．10．2、3］

種別	施工箇所	工法	仕上げの種類
・厚膜型塗床材 弾性ウレタン樹脂系塗床			※ 平滑仕上げ ・防滑仕上げ ・つや消し仕上げ
・厚膜型塗床材 エポキシ樹脂系塗床		・薄膜流しのべ工法 ・厚膜流しのべ工法 ・樹脂モルタル工法	・平滑仕上げ ・防滑仕上げ
・薄膜型塗床材			※ 平滑仕上げ

塗料のホルムアルデヒド放散量 ※Ｆ☆☆☆☆ ・

23 防じん用塗床

材料 水性アクリル系樹脂塗材とし、製造所の指定する製品とする
工法 製造所の指定する工法とする
なお、上塗りは２回塗りとし、総塗布量は０．２５ｋ／m2以上とする
仕上げの種類（ ※ 平滑仕上げ ・防滑仕上げ ）（ ※ 標準色 ・ ）
JIS K 5970に基づく塗料のホルムアルデヒド放散量 ※ Ｆ☆☆☆☆ ・

㉔ フローリング張り ［6．11．2～6］

単層フローリング

種類	工法	樹種	厚さ（mm）	間伐材等の適用
・フローリングボード１等	・釘留め工法（根太張り）	※ なら ・	15	・
	・釘留め工法（直張り）	※ なら ・	・ 12	・
	・接着工法	※ なら ・	・ 8	・
・フローリングブロック１等	・接着工法	※ なら ・	15	・

複合フローリング

種類	工法	樹種	種別	厚さ（mm）	間伐材等の適用
⊙ 天然木化粧複合フローリング	・釘留め工法（根太張り）	※ なら ・	・ A種	・ 15	・
	・釘留め工法（直張り）		・ B種	・ 12	
			※ C種	・ 12	
	⊙ 接着工法	※ なら ・	・ A種	・ 12	・
			・ B種	・ 12	
			※ C種	・ 12	

フローリング及び接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※ 改修標準仕様書6.11.2(2)による ・
各工法に使用する接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※Ｆ☆☆☆
接着工法の場合の裏面緩衝材 ※ 合成樹脂発泡シート
現場塗装仕上げ ・ 行う
※ ウレタン樹脂ワニス塗り
・ オイルステインの上、ワックス塗り
・ 生地のままワックス塗り
・ 行わない

25 畳敷き ［6．12．2］

種別 ・A種 ・B種 ・C種 ※D種（畳床：・KT-Ⅰ ・KT-Ⅱ ※KT-Ⅲ ・KT-K ・KT-N）
下地の種類 ・ 標準仕様書表12.6.1による床組
・ ポリスチレンフォーム床下地（ノンフロン ）
・
畳表及び畳床にはホルムアルデヒド、アセトアルデヒド及びスチレンを発散しないか、発散が極めて少ない材料を使用したものとする。
衝撃緩和型畳（畳表：・C1 ・C2）

㉖ せっこうボードその他ボード及び合板張り ［6．13．2、3］

MDF、パーティクルボード及び接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※Ｆ☆☆☆☆
合板のホルムアルデヒド放散量
※標準仕様書19.7.2(2)(イ)の(a)～(d)のいずれか

種類	JISの記号	厚さ（mm）、規格等
・硬質木毛セメント板	HW	・15 ・20 ・25 ・
・中質木毛セメント板	MW	・15 ・20 ・25 ・
・普通木毛セメント板	NW	・15 ・20 ・25 ・
・硬質木片セメント板	HF	・12 ・15 ・18 ・21 ・
・普通木片セメント板	NF	・30 ・
・けい酸カルシウム板	0.8FK 1.0FK	タイプ 2（無石綿） ・6 ・8
・ロックウール化粧吸音板	DR	・フラットタイプ（・9(不燃) ・12(不燃) ・ ） ・凹凸タイプ（・12(不燃) ・15(不燃) ・ ）
・ロックウール吸音ボード1号	RW-B	・25 ・
・グラスウール吸音ボードG32K	GW-B	・25（ガラスクロス包） ・
・せっこうボード	GB-R	※ 12.5（不燃） ・15（不燃）
・不燃積層せっこうボード	GB-NC	9.5（不燃） 化粧無（下地張り用） 化粧有（トラバーチン模様）
・シージングせっこうボード	GB-S	12.5 （※不燃 ・準不燃）
・強化せっこうボード	GB-F	・12.5（不燃） ・15（不燃）
・せっこうラスボード	GB-L	9.5
・化粧せっこうボード（木目）	GB-D	12.5 （不燃）幅 440㎜ 程度 模様（・ 桜目 ・ 板目） 専用下地材有り
⊙ 化粧せっこうボード（吉野石膏スクエアトーン同等品）	GB-D	9.5（準不燃）
⊙ 普通合板		表板の樹種名 生地、透明塗料塗り （※ ラワン程度 ・ ） 不透明塗料塗り （※ しな程度 ・ ） 板面の品質（ ） 厚さ（mm）（ ） 接着の程度（・1類 ・2類 ） 防虫処理（・行う ・行わない）
・天然木化粧合板		樹種名（ ） 接着の程度（・1類 ・2類 ） 厚さ（mm）（ ） 防虫処理（・行う ・行わない）
・特殊加工化粧合板		化粧加工の方法（・オーバーレイ ・プリント ・塗装） 表面性能（ ）タイプ 接着の程度（・1類 ・2類 ） 厚さ（mm）（ ） 防虫処理（・行う ・行わない）
・メラミン樹脂化粧板		JIS K 6903 による厚さ （※ 1.2 ・ ）
・ポリエステル樹脂化粧板		
・ミディアムデンシティファイバーボード	MDF	・3 ・7 ・9 ・12 ・
・単板張り パーティクルボード		・無研磨板 VN ・研磨板VS ・10 ・12 ・15 ・18 ・
・化粧石こう吸音板		9.5（準不燃）
・化粧パーティクルボード		・単板オーバーレイ DV ・プラスチックオーバーレイ DO ・塗装 DC ・10（難燃） ・12（難燃） ・
・ハードボード（素地）	HB	・無研磨板（ ・スタンダード ・テンパード RN） ・研磨板（ ・スタンダード ・テンパード RS）
・ハードボード（化粧）		・内装用D I ・外装用D E ・2.5 ・3.5 ・5 ・7 ・
・インシュレーションボード	IB	A級（ ・天井仕上げ ・内装仕上げ ・ ） ・9 ・12 ・15 ・18 ・

天井のボード類（ロックウール吸音板を除く）の重ね張りを行う場合
※ 図示による
合板の張付け ・A種 ・B種
せっこうボードの目地工法 ・仕上表による ・

㉗ 壁紙張り ［6．14．2、3］

ホルムアルデヒド放散量 ※ Ｆ☆☆☆☆

施工箇所	壁紙の種類 紙	繊維	プラスチック	無機質	その他	防火性能	備考
校長室	・	・	・	⊙	・	⊙ 不燃 ・準不燃 ・難燃	
	・	・	・	・	・	・ 不燃 ・準不燃 ・難燃	

モルタル・せっこうプラスター面の素地ごしらえの種別 ※ B種 ・
コンクリート面の素地ごしらえの種別 ※ B種 ・
せっこうボード面及びその他ボード面の素地ごしらえの種別 ※ B種 ・

28 モルタル塗り ［6．15．3、5、6］

モルタル ※ 現場調合材料 ・ 既調合材料（材料 ）
既製目地材 ・設ける 施工箇所（ ） 形状（ ※ 図示 ・ ）
・設けない
床の目地 ・設ける（目地割り ※ ２m2程度（最大目地間隔３m程度 ・ ）
（種類 ※ 押し目地 ・ ）
・設けない
外装タイル張り下地等の下地モルタル塗り及び下地調整材塗りの接着力試験
・適用する ・適用しない
壁面の仕上げ厚又は全塗り厚が25㎜を超える場合の下地処理
・図示による
建具回り等の充填モルタルに使用する防水剤
（品質・性能）
（試験方法）JIS A1404「建築用セメント防水剤の試験方法」による

項目	品質・性能
防水剤の種別	建築用のモルタルに用いるセメント防水剤
混合割合	セメント重量の5%以下
凝結及び安定性	（凝結時間）始発：1時間以上 終結：10時間以内 （安定性）収縮性、膨張性のひび割れ及びそりの有無について確認する。
曲げ及び圧縮強度比	防水剤を混入したもの、しないものの曲げ強度比及び圧縮強度比 70%以上
吸水比	防水剤を混入したもの、しないものの吸水比 95%以下
透水比	防水剤を混入したもの、しないものの透水比 80%以下 ただし、透水試験における水圧は、3.0×10^{5} Paとし1時間行う

29 タイル張り ［6．16．2～4］

伸縮調整目地の位置 床タイル（ ※ 縦、横とも4m以内ごと ・ 図示 ・ ）
床タイル以外（ ※ 図示 ・ ）
・ セメントモルタルによるタイル（セラミックタイル）張り

施工箇所	形状/寸法（mm）	再生材料の適用	吸水率による区分 I類	II類	III類	施ゆう	無ゆう	うわぐすり 有	無	色 標準	特注	耐凍害性 有	無	耐滑り性	備考
		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	
		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	

耐滑り性：JIS A 1509-12（セラミックタイル試験方法―第12部：耐滑り性試験方法） で規定する
C.S.Rは0.4～1.0とする。
標準的な曲がりの役物は一体成形とする
試験張り ・行う ※ 行わない
見本焼き ・行う ・行わない

既調合モルタル
モルタル下地としたタイル工事に使用する張付け用モルタルとして、セメント、細骨材、混和剤等を予め工場において所定の割合に配合した材料とする。

（品質・性能）

項目	品質・性能	項目	品質・性能
保水率	70.0%以上	長さ変化率	0.20%以下
単位容積質量	1.80ｋ／L以上	曲げ強さ	4.0N/mm2以上
接着強さ 標準時	0.60N/mm2以上		
温冷繰り返し後	0.40N/mm2以上		

（試験方法）
（１）試料の調製
製造業者の定める、正味質量と標準練り上がり量より換算して、所定量の試料を練り上げるのに要する材料と練り混ぜ水を計算して用意する。
練り混ぜは、JIS R5201「セメントの物理試験方法」の10.2に規定する練り混ぜ機を使用し、練りばちに用意した水を入れ、撹拌しながら30秒間に材料を投入し、3分間練り混ぜて試料とする。
（２）保水率の試験方法
JIS R3202「フロート板ガラス及び磨き板ガラス」に規定する磨き板ガラス（縦150mm、横150mm、厚さ5mm）の上にJIS P3801「ろ紙（化学分析用）」に規定する5 Aろ紙（直径11ｃｍ）をのせ、その中央部に真ちゅう製リング型わく（内径50mm、高さ10mm、厚さ３mm）を設置し、（１）で調製した試料を平滑に詰込む。
その後、直ちにリング型わく上部にガラス板を当てて上下を逆さまにし、ろ紙部分が上部になるようにして静置する。 60分後にろ紙へにじみ出した水分の広がりが最大と認められた方向とこれに直角な方向の長さをノギスを用いて、１mmの単位まで測定する。
試験は３回実施し、その平均値を用いて次式により保水率を求める。
保水率＝50／平均値×100 （注） 50：リング型わくの内径 mm
（３）単位容積質量の試験方法
JIS A 1171「ポリマーセメントモルタルの試験方法」に準ずる。
（４）接着強さ（標準時）の試験方法
イ）適用タイルが「モザイクタイル」の場合
（試験体の作製）JIS A5371「プレキャスト無筋コンクリート製品」に規定する普通平板N－300を下地板とし、表面をサンドペーパーを用いて軽く研磨した後、水湿しを行い直ちに（１）で調製した試料を厚さ5mmになるように塗付ける。直ちにJIS A 5209「セラミックタイル」に規定するタイルで押出し又はプレス成形による施ゆうの「50角ユニットタイル（外のリ寸法約300mm×300mm）」を圧着する。その後、28日間、温度20±2℃、湿度80%以上の状態で湿空養生を行い、これを試験体とする。
（試験方法）JIS A 6909「建築用仕上塗材」の7.10付着強さ試験に準じて行う。試験体をダイヤモンドカッターを用いて、タイル周辺に沿って下地板に達するまで切り込みを入れ、シ樹脂接着剤で鋼製アタッチメントを接着し、引張試験機を用いて接着強さエポキ試験を行う。なお、接着強さの測定箇所は、試験体の中からまんべんなく5箇所を選び抜き取る。
（全てが0.6N/mm2以上を確保していること）
また、試験後の部材破断位置の表示を下記の中から選び明記する。
T ：タイルの母材破断 M：既調合モルタルと下地板の界面破断
TM：既調合モルタルとタイルの界面破断 ：下地板の母材破断
M ：既調合モルタルの母材破断
ロ）適用タイルが「小口タイル・二丁掛けタイル」の場合
（試験体の作製）JIS A5371「プレキャスト無筋コンクリート製品」に規定する普通平板N－300を下地板とし、表面をサンドペーパーを用いて軽く研磨した後、水湿しを行い直ちに（１）で 調製した試料を厚さ7mmになるよう塗付ける。直ちに JIS A 5209「セラミックタイル」 に規定するタイルで押出し又はプレス成形による施ゆうの「小口タイル 108mm×60mm×12mm」を4枚2列、計8枚を圧着する。その後、28日間、温度20±2℃、湿度80%以上の状態で湿空養生を行い、これを試験体とする。
（試験方法）「モザイクタイル」の場合と同様に行う。
（５）接着強さ（温冷繰返し後）の試験方法
（試験体の作製）「モザイクタイル」及び「小口タイル・二丁掛タイル」とも、各々（４）接着強さ（標準時）の試験方法の「試験体」と同様とする。
（温冷繰返し試験）「モザイクタイル」及び「小口タイル・二丁掛タイル」とも、各々JIS A6909「建築用仕上塗材」に規定する7.11温冷繰返し試験に準じて行う。
試験の手順は、試験体を20±2℃の水中に18時間浸せきした後、直ちに－20±2℃の恒温器中で3時間冷却し、次いで50±3℃の別の恒温器中で3時間加温し、この24時間を１サイクルとする操作を10回繰返した後、試験室に2時間静置し、ひび割れ及び膨れの有無を目視によって調べる。
（温冷繰返し後の接着強さ試験方法）「モザイクタイル」及び「小口タイル・二丁掛タイル」とも、各々温冷繰返し試験完了後の試験体を標準状態で2日間静置養生した後、標準時の接着強さ試験方法と同様に行う。（全てが0.4N/mm2以上を確保していること）
（６）長さ変化率の試験方法
JIS A 6203「セメント混和用ポリマーディスパージョン及び再乳化形粉末樹脂」9.9 長さ変化率に準ずる。
（７）曲げ強さの試験方法
JIS A 6916「建築用下地調整塗材」の7.11 曲げ強さ試験に準ずる。
試験室の状態：試験室は温度20±2℃、湿度65±10%とする。
既調合目地材
（品質・性能）

項目	品質・性能	項目	品質・性能
保水率	30.0%以上	吸水量	50以下
長さ変化率	0.2%以下（収縮）	単位容積質量	1.80ｋ／L以上

（試験方法）
（１）試験の条件
試験室は、温度20±2℃、湿度65±5% RHの標準状態とする。また、試験に使用する材料、器具などを、予め24時間以上標準状態に置いた後使用する。
（２）試料の調整
正味質量と標準練り上がり量より、1.0～1.2Lの試料を練り上げるのに要する材料に相当する量を計算して用意し、さらに標準加水量より用意した材料に相当する量の練り混ぜ水を計算して用意する。 練り混ぜは、JIS R 5201「セメントの物理試験方法」11.2に規定する練り混ぜ機を使用し、練りばちに用意した水を入れ、撹拌しながら30秒間に材料を投入し3分間練り混ぜて試料とする。
（３）保水性（ろ紙法）
JIS R 3202「フロート板ガラス及び磨き板ガラス」に規定する磨き板ガラス（縦200mm、横200mm、厚さ5mm）の上にJIS P 3801「ろ紙（化学分析用）」に規定する5 Aろ紙（直径18.5ｃｍ）をのせ、その中央部に真鍮製リング型わく（内径50mm、高さ10mm、厚さ3mm）を設置し、２）で練り混ぜた試料を金ベらで平滑に詰め込む。その後、直ちにリング型わく上部にガラス板を当て上下を逆さにし、ろ紙部分が上部になるようにして静置する。
10分後にろ紙へにじみ出した水分の広がりが最大と認められた方向とこれに直角な方向の長さをノギスを用いて１mmまで測定する。 試験は3回実施し、その平均値を用いて次式により保水率を求める。
保水率（%）＝50／平均値×100 注）50：リング型わくの内径（mm）
（４）単位容積質量
（２）で練り混ぜた試料を、JIS A 1171「ポリマーセメントモルタルの試験方法」の6.4に規定する方法で求める。
（５）長さ変化率
（２）で調整した試料を用いてJIS A 1171の7.8長さ変化率試験に従って行う。
（６）吸水量
（２）で調整した試料を用いてJIS A 1404「建築用セメント防水剤の試験方法」7.5に規定する方法で24時間の吸水量を求める。試験体数は3個とし、その平均値とする。
有機系接着剤によるタイル（セラミックタイル）張り
タイルの形状、寸法等

施工箇所	形状/寸法（mm）	再生材料の適用	吸水率による区分 I類	II類	III類	施ゆう	無ゆう	うわぐすり 有	無	色 標準	特注	耐凍害性 有	無	備考
		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	
		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	

標準的な曲がりの役物は一体成形とする
有機質接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※Ｆ☆☆☆☆ ・

30 セルフレベリング材塗り ［6．17．2、3］

塗厚（mm） ※10mm程度 ・

⑦ 塗装改修工事

① 材料 ［7．1．3］

屋内で使用する塗料のホルムアルデヒド放散量
※ Ｆ☆☆☆☆ ・
防火材料 ※ 屋内の壁、天井仕上げは防火材料とする
・ 次の箇所を除き防火材料とする（・ ）

② 下地調整、素地ごしらえ ［7．2．1～7］

塗替え種別がＲＢ種の場合の既存塗膜の除去範囲
※ 劣化部分は除去し、活膜部分は残す ・
下地調整、素地ごしらえ

下地面の種別	塗替え 下地調整の種別	新規 素地ごしらえの種別	ひび割れ部の補修
木部	※ＲＢ種 ・	・A種 ・B種	—
鉄鋼面	※ＲＢ種 ・	C種	—
鉄鋼面（ＤＰ）	※ＲＢ種 ・	B種	—
亜鉛めっき面	※ＲＢ種 ・	・A種 ・B種	—
モルタル面、せっこうプラスター面	※ＲＢ種 ・	・A種 ・B種	・行う
コンクリート面（ＤＰ以外） ＡＬＣパネル	※ＲＢ種 ・	・B種	・行う
押出成形セメント板面（ＤＰ） コンクリート面	・ＲＢ種 ・ＲＣ種	・A種 ・B種	・行う
せっこうボード面、その他ボード面	※ＲＢ種 ・	・A種 ・B種	—

③ 錆止め塗料塗り ［7．4．2、3］

錆止め塗料塗りの種別

塗装面		塗料の種別	工程の種別
鉄鋼面	ＳＯＰ	新規見え掛り	・A種 ・
		新規見え隠れ	・B種 ・
		塗替え	・C種 ・
	ＥＰ－Ｇ	新規見え掛り	・A種 ※B種 ・A種 ・
		新規見え隠れ	・B種 ・
		塗替え	・C種 ・
	ＤＰ	新規	・A種 ・
亜鉛めっき鋼面	ＳＯＰ	新規鋼製建具等	※A種 ・B種 ・A種 ・
		新規その他	・B種 ・
		塗替え	・C種 ・
	ＥＰ－Ｇ	新規鋼製建具等	・A種 ・
		新規その他	・B種 ・
		塗替え	・C種 ・

④ 仕上げ塗料塗り ［7．5．2～7．13．2］

塗装の種類	塗装面	工程 塗替え	新規
⊙合成樹脂調合ペイント塗り（ＳＯＰ） 塗料の種類 ※１種 ・２種	木部屋外	※Ｂ種 ・	※Ａ種 ・
	木部屋内	※Ｂ種 ・	※Ｂ種 ・
	鉄鋼面	※Ｂ種 ・	・Ａ種 ※Ｂ種
	亜鉛めっき鋼面（鋼製建具以外）	※Ｂ種 ・	※Ｂ種 ・
	亜鉛めっき鋼面（鋼製建具）	※Ａ種 ・	※Ｂ種 ・
・クリアラッカー塗り （ＣＬ）	木部	・Ａ種 ※Ｂ種	・Ａ種 ※Ｂ種
・アクリル樹脂系非水分散形塗料塗り（ＮＡＤ）		・Ａ種 ※Ｂ種	・Ａ種 ※Ｂ種
⊙耐候性塗料塗り（ＤＰ） 上塗り等級 ・１級 鉄骨階段、庇：構造部材 ・２級 ⊙３級 上記以外	コンクリート面及び押出成形セメント板面	・Ａ－１種 ・Ｂ－１種 ・Ｃ－１種	・Ａ－１種 ・Ｂ－１種 ・Ｃ－１種
⊙つや有合成樹脂エマルションペイント塗り（ＥＰ－Ｇ）	コンクリート面	※Ｂ種 ・	・Ａ種 ・Ｂ種
	モルタル面	※Ｂ種 ・	・Ａ種 ・Ｂ種
	せっこうプラスター面	※Ｂ種 ・	・Ａ種 ・Ｂ種
	せっこうボード面	※Ｂ種 ・	・Ａ種 ・Ｂ種
	屋内木部	※Ｂ種 ・	※Ａ種
	屋内鉄鋼面	※Ｂ種 ・	・Ａ種 ・Ｂ種
	屋内亜鉛めっき面	※Ａ種 ・	※Ａ種 ・Ｂ種
⊙合成樹脂エマルションペイント塗り（ＥＰ）		※Ｂ種 ・	・Ａ種 ・Ｂ種
・ウレタン樹脂ワニス塗り （ＵＣ）		・Ａ種 ※Ｂ種	・Ａ種 ※Ｂ種
・ステイン塗り			・ピグメントステイン塗り ・オイルステイン塗り（ＯＳ）
・木材保護塗料塗り （ＷＰ）		・Ａ種 ※Ｂ種	・Ａ種 ※Ｂ種

つや有合成樹脂エマルションペイント塗り（コンクリート面、モルタル面、せっこうプラスター面、せっこうボード面、その他ボード面）の塗替えの場合のしみ止め
※ Ｂ種又はD種の場合は改修標準仕様書表7.9. 1のＡ種１の下塗りをしみ止めシーラーとする

合成樹脂エマルションペイント塗りの塗替えの場合のしみ止め
※ Ｂ種又はD種の場合は改修標準仕様書表7.10. 1のＡ種１の下塗りをしみ止めシーラーとする

・ 高日射反射率塗料塗り
下地調整（改修標準仕様書表7.2.2） ・ＲＡ種 ※ ＲＢ種 ・ ＲＣ種

工程	塗料その他 規格番号	規格名称	種類	等級	塗付け量（ｋ/m2）
塗料塗り	JIS K 5675	屋根用高日射反射率塗料	2種	・ 1級 ・ 2級 ・ 3級	塗料製造所の仕様による

クリアラッカー塗りＡ種の工程２の着色
・適用しない ・適用する（着色剤：・溶剤形着色剤 ・油性染料着色剤）
ウレタン樹脂ワニス塗りの工程１の着色
・適用しない
・適用する（着色剤：・ 油性顔料着色剤 ・ 溶剤形顔料着色剤）
オイルステイン塗りの工程等

8 耐震改修工事 特記仕様書（構造関係）による

⑨ 環境配慮改修工事

① 石綿含有建材の除去工事 ［9．1．1、3～5］

調査
⊙ 石綿含有建材の事前調査
工事着手に先立ち、あらかじめ関係法令に基づき、石綿含有建材の事前調査を行う。
貸与資料（ 分析結果報告書 ）

⊙ 分析による石綿含有建材の調査
分析対象
アクチノライト、アモサイト、アンソフィライト、クリソタイル、クロシドライト、トレモライト
分析方法

材料名	分析方法（定性） JIS A 1481-1又はJIS A 1481-2	分析方法（定量） JIS A 1481-3又はJIS A 1481-4
	・ 箇所	・ 箇所
	・ 箇所	・ 箇所
	・ 箇所	・ 箇所

材料が仕上塗材の場合は、層ごとの分析を行うこと
サンプル数 １箇所あたり３サンプル
採取箇所 ・図示 ・

⊙ アスベスト粉じん濃度測定
測定時期、場所及び測定点

適用	測定名称	測定時期	測定場所	測定点（各施工箇所ごと）
・	測定１	処理作業前	処理作業室内	・計 点
・	測定２		調査対象室外部の付近	・計 点
・	測定３	処理作業中	処理作業室内	・計 点
※	測定４		セキュリティゾーン入口	・計 点
※	測定５		集じん・排気装置の排出口（処理作業室外の場合）	出口吹出し風速１m／ｓ以下の位置 ・計 点
※	測定６		処理作業室外 ・施工区画周辺 ・敷地境界	・計 点
※	測定７	処理作業後（シート養生中）	処理作業室内	・計 点
・	測定８	処理作業後（シート撤去後１週間以降）	処理作業室内	・計 点
・	測定９		調査対象室外部の付近	・計 点

事業年度 年度 / 工事完成 年度	設計 令和 年 月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 西小学校長寿命化改修工事（建築主体工事）	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社 ＭａｓＭａｓ 一級建築士登録 第198542号 美野 健治 印	図面名称・縮尺 non scale （A3版-71%縮小） 改修工事特記仕様書-6	図番 A-06

測定方法
⊙ 自動測定器による測定

測定名称	測定方法
・測定4 ・測定5 ・測定（　　）	粉じん相対濃度計（デジタル粉じん計）、パーティクルカウンター、繊維状粒子自動測定器（リアルタイムファイバーモニター）等の粉じんを迅速に測定できる機器を用いた測定

⊙ JIS K 3850-1に基づいた測定　（位相差顕微鏡とし測定は作業区画ごとに実施すること）

測定名称	メンブレンフィルタ直径（mm）	試料の吸引流量（l/min）	試料の吸引時間（min）
⊙ 測定（1・2・4・6・7・8）定量限界0.5f/l	25	5	120
⊙ 測定（　5　）定量限界0.3f/l	47	10	240
⊙ 測定（　3　）定量限界50f/l	25	1	5

石綿含有建材の処理
⊙ 石綿含有吹付け材の除去
除去対象範囲　※ 図示
除去工法　※ 改修標準仕様書9.1.3(2)(ｱ)による
・
除去した石綿含有吹付け材等の飛散防止措置　※ 湿潤化　・ 固形化
除去した石綿含有吹付け材等の処分
・ 埋立処分（管理型最終処分場）　・ 中間処理（溶融施設又は無害化処理施設）

・ 石綿含有保温材等の除去
除去対象範囲　※ 図示
除去工法　※ 原形のまま、手ばらし　・ 破砕して除去
除去した石綿含有吹付け材等の飛散防止措置　※ 湿潤化　・ 固形化
除去した石綿含有保温材等の処分
・ 埋立処分（管理型最終処分場）　・ 中間処理（溶融施設又は無害化処理施設）

⊙ 石綿含有成形板（石綿含有けい酸カルシウム板第1種以外）の除去
除去対象範囲　※図示
除去した石綿含有成形板の処分
⊙ 石綿含有石こうボード
※ 埋立処分（管理型最終処分場）
⊙ 石綿含有せっこうボードを除くアスベスト含有成形板
・ 埋立処分（安定型最終処分場）
・ 中間処理（溶融施設又は無害化処理施設）

⊙ 石綿含有成形板（石綿含有けい酸カルシウム板第1種）の除去
除去対象範囲　※図示
養生方法
・
除去した石綿含有けい酸カルシウム板第1種の処分
⊙ 埋立処分（安定型最終処分場）
・ 中間処理（溶融施設又は無害化処理施設）

⊙ 石綿含有仕上塗材又は石綿含有成形板（下地調整材）の除去
下記以外は、改修標準仕様書9.1.1及び9.1.2による
除去工法
※ 石綿障害予防規則（平成十七年二月二十四日厚生労働省令第二十一号）第６条による措置と同等以上の効果を有する措置とされる工法
・ 集じん装置併用手工具ケレン工法
・ 集じん装置付き高圧水洗工法（15ＭＰａ以下、30～50ＭＰａ程度）
・ 集じん装置付き超高圧水洗工法（100ＭＰａ以上）
・ 超音波ケレン工法（ＨＥＰＡフィルター付き掃除機併用）
・ 剥離剤併用手工具ケレン工法
・ 剥離剤併用高圧水洗工法（30～50ＭＰａ程度）
・ 剥離剤併用超高圧水洗工法（100ＭＰａ以上）
・ 剥離剤併用超音波ケレン工法
・ 集じん装置付きディスクグラインダーケレン工法
⊙ 泡噴出・集じん装置付き湿式ディスクグラインダーケレン工法
・ 負圧隔離養生＋集じん装置付きディスクグラインダーケレン工法
（レベル１同等の隔離養生を実施すること）
除去対象範囲　※ 図示
作業場の隔離　※ 行わない　⊙ 行う
試験施工　※ 行わない　⊙ 行う
除去した石綿含有仕上塗材の処分
・ 埋立処分（安定型最終処分場）　⊙ 埋立処分（管理型最終処分場）
⊙ 中間処理（溶融施設又は無害化処理施設）
除去した石綿含有仕上塗材の保管、運搬及び処分
※ 改修標準仕様書9.1.3(3)による
確認及び後片付け　※ 改修標準仕様書9.1.3(4)の(ｱ)、(ｲ)、(ｶ)及び(ｷ)による

石綿含有建材除去後の仕上げ工事　※ 図示

2　外断熱改修工事

断熱材　［9．2．1～4］
断熱材の種類（　　）、断熱材の厚さ（　　mm）
施工箇所　・ 図示　・
ホルムアルデヒド放散量　※ Ｆ☆☆☆　・
外装材

種類	防火性能	備考
・		

既存外壁の処置
既存外壁仕上材の撤去　・ あり　・ なし
下地面の清掃　・ 行う　・ 行わない
欠損部がある場合の改修工法　※ ４章外壁改修工事にる

工法
1章適用区分による風圧力（　・1　・1.15　・1.3）倍の風圧力に対応した工法
不陸等の下地調整　・ 図示
通気層の有無　・ あり（　　mm）　・ なし
断熱材、外装材の施工及び外装材の外壁への取付け
※ 断熱材及び外装材製造所の仕様による　・

3　断熱・防露改修工事　［9．3．2～4］

フェノールフォーム断熱材又は保温材、接着剤のホルムアルデヒド放散量
※ Ｆ☆☆☆　・
・ 断熱材打込み工法

種類		厚さ（mm）	施工箇所
・ ビーズ法ポリスチレンフォーム断熱材		・ 25	・
※ 押出法ポリスチレンフォーム断熱材（スキン層なし）	※ 2種ｂＡ・	※ 25	※ 外壁・
	※ 3種ｂＡ・	※ 25	※ スラブ・
・ 硬質ウレタンフォーム断熱材		・ 25	・
・ フェノールフォーム断熱材		・ 25	・

施工箇所の詳細は、仕上表及び図示による

・ 断熱材現場発泡工法
断熱材の種類　※ Ａ種１　・ Ａ種１Ｈ
吹付け厚さ（mm）　・ 25　・ 30　・
施工箇所　※ 窓回り等の断熱材補修部分、ルーフドレン回りの床版下等、部分的に後張りとしなければならない箇所
・ 図示

現場発泡断熱材
（品質・性能）

項目	品質・性能
難燃性	下記のいずれかによっていること （１）JIS Ａ 1321「建築物の内装材及び工法の難燃性試験方法」による難燃2級表面加熱試験又は難燃3級表面加熱試験に適合していること。 （２）法定準不燃材料、難燃材料の評価方法に使用している発熱性試験（コーンカロリー試験）に適合していること。
発熱性	準不燃材料試験の加熱時間は10分、難燃材料試験の加熱時間は5分において次の （１）～（３）に適合していること。 （１）総発熱量が8ＭＪ／m2以下であること。 （２）防火上有害な裏面まで貫通する亀裂及び穴がないこと。 （３）最高発熱速度が、10秒以上継続して200ＫＷ／m2を超えないこと。

（試験方法）
（１）原液試験（原液粘度試験）
JIS Ｋ 7117-1「プラスチック－液状、乳濁状又は分散状の樹脂－ブルックフィールド形回転粘度計による見掛け粘度の測定方法」による。
（２）発泡品試験
１）試料の作製は、JIS Ａ 9526「建築物断熱用吹付け硬質ウレタンフォーム」の6.2.1による。
２）試料の状態調節は、JIS Ａ 9526の6.2.2による。また、試験片の作製はJIS Ａ 9526の6.2.3による。
３）試験場所は、JIS Ａ 9526の6.2.4による。
４）圧縮強さ試験は、JIS Ａ 9526の6.2.5による。
５）熱伝導率試験は、JIS Ａ 9526の6.2.6による。
６）接着強さ試験は、JIS Ａ 9526の6.2.7による。
７）透湿率試験は、JIS Ａ 9526の6.2.8による。
（３）難燃性の試験は、下記のJIS Ａ 1321に規定する表面試験及び発熱性試験による。
１）難燃性の試験については、JIS Ａ 1321に規定する試験方法に準じる。
２）発熱性試験は、建築基準法に基づく指定性能評価機関が準不燃材料、難燃材料の評価方法に使用している試験方法に準じる。

・ 断熱材後張り工法
断熱材の種類（　　）
断熱材の厚さ（　　mm）
・ 断熱材にせっこうボード等を張り付けたパネル（材質　　厚さ　　mm）
・ 張り付け工法
断熱材の張り付け工法　・
断熱材へのボードの張り付け工法　・

4　屋上緑化改修工事　［9．4．2～4］

植栽基盤及び材料
屋上緑化軽量システム　・ 適用する　・ 適用しない
芝及び地被類の種類等　※ 図示　・
見切り材、舗装材、排水穴、マルチング材等　※ 図示　・

（品質・性能等）

項目	品質・性能
透水、排水層等構成材の主要材質	合成樹脂等で耐腐食性及び耐久性のあるものであること。（保水層を有する場合は、保水層共）
透水層	目詰まりにより植物の生育に支障を生じることがなく、植え込み用土を流出させない構造であること。
排水層	植物の生育に必要な排水性能を持ち、通気性及び植込み土壌を支え、流出しない構造をもつこと。
排水層の鉛直方向の排水性能	240Ｌ／m2・ｈ以上
耐荷重性能（排水層の許容圧縮強度）	一般メンテナンス時の上部歩行に際し破壊しないこと。 3×10^{4} Ｎ／m2以上の載荷重で破損・有害な変形がないこと。
耐根層	重ね合わせ部を含め、クマザサ等の地下茎伸長力の強い植物に対して３年以上の耐根性能を有し、かつ、耐腐食性及び耐久性のあるものであること。
耐根層保護層	材質は、合成樹脂等とし、耐腐食性及び耐久性を有し、かつ、施工中及び施工後の耐根層を保護するものであること。ただし、耐根層を保護コンクリート（絶縁シートも含む）の下に設ける場合は省略することができるものとする。

（試験方法）
（１）排水基盤の耐荷重性能
（イ）3×10^{4} Ｎ/m2の等分布荷重による加圧試験を行ない、排水層及び耐根層等に有害な変形・破壊の起きないことを確認する。また、その時の圧縮応力に対する歪み（%）を測定する。（保水層を有する場合は保水層も対象とする。）
（ロ）試験体は耐根層から透水層までを通常使用状態にセットした3体とする。
加圧速度は10mm／ｍｉｎ以下とする。

1章 適用区分による風圧力の（　・1　・1.15　・1.3）倍の風圧力に対応した工法
かん水装置　・ 設置する（種類　・　　）
既存保護層の撤去　・ 行う　・ 行わない

新植した芝及び地被類の枯補償の期間　※ 引き渡しの日から1年

5　透水性アスファルト舗装改修工事　［9．5．2～5、9］

下記以外は、１０章その他による

既存舗装の撤去及び再利用　※ 図示

１０　その他

① フリーアクセスフロア　（２０．２．２）

構法	・ 置敷式	⊙ 支柱調整式
所定荷重	※ 3,000Ｎ　・ 5,000Ｎ	※ 3,000Ｎ　・ 5,000Ｎ
耐震性能	・ 1.0　・ 0.6	・ 1.0　⊙ 0.6
パネル寸法（mm）		500×500
高さ（mm）		50・100
表面仕上材	※ タイルカーペット ・ 帯電防止床タイル	※ タイルカーペット ⊙ 帯電防止床タイル
施工箇所	※ 図示	※ 図示

寸法精度
※ 標準仕様書20.2.2(2)(ｵ)(a)～(c)による

スロープ及びボーダー　※ 製造所の仕様による　・ 図示
配線用取り出しパネル
フリーアクセスフロア全体面積に対する設置割合　※ 製造所の仕様による　・ 20～30パーセント
配線取り出し開口　※ 製造所の仕様による
・ パネル枚につき、40mm×80mm程度の開口１箇所以上

空調用吹き出し（吸い込み）パネル　・ なし　・ あり（形式、施工箇所：※ 図示　・　　）

（性能）
（１）耐荷重性能　変形5.0mm以下　残留変形3.0mm以下
（２）耐衝撃性能　残留変形3.0mm以下及び損傷がないこと
（３）ローリングロード性能
所定荷重1,000Ｎ（5,000Ｎの積載荷重は1,000Ｎ以上で任意）による繰り返し試験後、
残留変形3.0mm以下
（４）耐震性能

ｲ）固定台試験による耐震性能

項目	性能
①ベースプレート又はアンカーが耐力に達したとき又はコンクリート接着面が剥離したとき	水平荷重の1/2が下記の＜適用地震時水平力＞以上
②上記①以外の部分が耐力に達したとき	水平荷重の1/1.5が下記の＜適用地震時水平力＞以上
③適用地震時水平力を加力した時の支柱頂部の変位	構造床面からの高さの1/50以下

＜適用地震時水平力＞
3,000Ｎ 0.6タイプ 支柱一本が負担する床加重
｛（m2当り自重＋3,000Ｎ）/m2当りの支柱本数｝×0.6
3,000Ｎ 1.0タイプ 支柱一本が負担する床加重
｛（m2当り自重＋3,000Ｎ）/m2当りの支柱本数｝×1.0
5,000Ｎ 0.6タイプ 支柱一本が負担する床加重
｛（m2当り自重＋5,000Ｎ）/m2当りの支柱本数｝×0.6
5,000Ｎ 1.0タイプ 支柱一本が負担する床加重
｛（m2当り自重＋5,000Ｎ）/m2当りの支柱本数｝×1.0

ﾛ）振動台試験による耐震性能（設計床高さ≦300mmの場合のみ）
振動台試験において、パネルの脱落や使用上支障をきたす損傷、せり上がり、隙間及び水平移動がない。
（５）耐燃焼性能
建築基準法第２条第９号の規定に基づく不燃材料又は燃焼終了後の残炎時間が0秒
（６）帯電防止性能評価値（Ｕ）
0.6以上
（７）感電防止性能
漏えい抵抗(R)≧1×10^{6} Ω
（８）歩行感
通常の歩行において空洞音やがたつきがなく、歩行感に違和感がない
（９）メンテナンス性
交換が必要な部品については交換できるよう設計されている。
（試験方法）
（１）耐震性能
１）設計床高さ≦300mmの場合
試験体ユニット1000mm×2500mm程度
所定の重りの質量　3000Ｎ：200ｋ　5000Ｎ：350ｋ
加振　0.6：所定加速度600ｃｍ／S2　1.0：所定加速度1000ｃｍ／S2
２）300mm＜設計床高さ≦600mmの場合
①固定台による耐震性能試験
ｲ、支柱調整式－支柱分離型・支柱固定タイプの全てのタイプ共、下記の試験方法－１又は、試験方法－２による。
ﾛ、原則として、試験方法－１はパネル単体設置（Ａタイプ）に適用し、試験方法－２はパネル連結設置（Ｂタイプ）に適用するものとする。
②試験方法－１
ｲ、試験は、コンクリート（JIS Ａ 5371プレキャスト無筋コンクリート製品 種類：Ｎ300）に接着した支柱の頂部に対し、水平方向に設置地震時水平力及び水平最大耐力まで加力し、各測定点における水平力、支柱頂部の変形量を測定する。
ﾛ、加力方向は、支柱要素に対して最も不利な方向とする。試験体数は、３個とする。
③試験方法－２
ｲ、試験は、コンクリート（JIS Ａ 5371プレキャスト無筋コンクリート製品 種類：Ｎ300）に接着した数ユニットの支柱の頂部に対し、水平方向に数ユニット分相当の、適用地震時水平力及び水平最大耐力まで加力し、各測定点における水平力、支柱頂部の変形量を測定する。加力方向は、支柱要素に対して最も不利な方向とする。
ﾛ、最終的に水平力を支持する支柱の本数で除した値を、支柱１本当たりの水平力とする。又、800mm×800mmに荷重板1,900Ｎ（3,000Ｎ／１m2 相当）を１箇所設ける。試験体数は、１セットとする。
④常点補正及び測定記録
試験体と試験機の隙間等を除去するため、始めに適用地震時水平力の1／2程度の水平力を加力した後、速やかに除荷して“０”にした状態を零点とする。又、水平力による各測定点の荷重及び変形曲線を測定し記録する。
３）共通事項
試験に使用する表面仕上げ材
種類：タイルカーペット　繊維素材：ナイロン100 %
パイル携帯：ループパイル
パイル長：3.0mm～4.0mm　パッキング素材：塩化ビニル樹脂
全厚：6.0mm～7.0mm　単位質量：4.0ｋ/m2～6.0ｋ/m2
人体耐電圧：２KV以下

② 表示　（２０．２．１１）
案内用図記号はJIS Ｚ 8210による。
誘導標識、非常用進入口等の表示　※消防法に適合する市販品　・
室名札、ピクトグラフ、案内板等の形状、寸法、材質、色、書体、印刷等の種別、取付け形式等
※ 図示

③ ブラインド　（２０．２．１４）

形式	操作方法	種類	スラットの材質	スラット幅（mm）	ボックスレールの材種	幅・高さ取付箇所
・横形	※手動	※ギア式 ・コード式 ・操作棒式	※アルミニウム合金製 □	※ 25 ・	※鋼製 ・	※図示 ・
	・電動	―				
・縦形	※手動	※２本操作コード式 ・１本操作コード式	※アルミスラット ・クロススラット	・ 80 ・ 100	アルミニウム合金製	※図示 ・
	・電動	―				

アルミスラットの材質　焼付け塗装仕上げ
クロススラットの材質　消防法で定める防炎性能の表示がある特殊樹脂加工

④ ロールスクリーン　（２０．２．１５）

材種	操作方式	遮光性能	寸法（mm）	取付箇所	備考
・ガラス繊維製 ・合成・天然繊維製 ・木製 ・	・電動式 ・スプリング式 ※ チェーン式 ・	・１級 ・２級 ・３級 ・	※ 図示 ・	※ 図示 ・	

巻取りパイプ、ウェイトバー、操作コード又は操作チェーンその他の材料
※ 製造所の仕様

⑤ カーテン　（２０．２．１６）

形式		開閉操作	ひだの種類	生地の種別、品質、特殊加工等	取付箇所	備考
・シングル ・ダブル	・片引き ・引分け	・手引き ・ひも引き ・電動	・つまみひだ ・箱ひだ、片ひだ ・プレーンひだ		※図示 ・	
						（暗幕）

暗幕カーテンの両端、上部及び召合せの重なり　※ 300mm以上

⑥ カーテンレール　（２０．２．１６）
材料による区分　※ アルミニウム又はアルミニウム合金の押出し成型材
・ ステンレス製
強さによる区分　※ 10-90
仕上げ　※ アルマイト
形状　※ 角形

⑦ ブラインドボックス及びカーテンボックス
溝幅×深さ（mm）　・ 90×150　・ 120×80　・ 120×150　・ 150×80　・ 図示
材質　・ 集成材（仕上げ：　　）
・ アルミニウム製　押出し型材（市販品）
表面処理　・ BC-1　・ BC-2（※標準色（　　）　・ 特注色（　　））
・ 鋼製（仕上げ：　　）

⑧ 天井点検口

材種	寸法（mm）	形式		外枠	内枠
※ アルミニウム製	※ 450×450	※ 一般形	・ 屋内外用	※ 額縁タイプ	※ 額縁タイプ
	・ 600×600		※ 屋内用	・ 目地タイプ	・ 目地タイプ
・	・	・ 気密形			

（品質・性能）
内外枠の材質　アルミニウム製
JIS Ｈ 4100 A6063S-5又は同等の性能を有するもの
表面処理　陽極酸化皮膜JIS Ｈ 8601(AA6)又は同等の性能を有するもの
（外部に用いる場合は、JIS Ｈ 8602のB種又は同等以上の性能を有するもの）
内枠及び外枠のコーナーピース
鋼板に亜鉛めっき等の防錆処理を行ったもの又は同等の性能を有するもの
外枠の取付け金物
鋼板に亜鉛めっき等の防錆処理を行ったもの又は同等の性能を有するもの
内枠の仕上げ材留付金物
アルミニウム及びアルミニウム合金押出形材、亜鉛めっき鋼板又は同等の性能を有するもの
耐久性能（繰り返し開閉試験）
（１）50回、100回、300回の内蓋の垂れ下がりが、0.5mm以内。
（２）開閉試験後、使用上支障をきたす異常がないこと。
枠の寸法許容差　±0.5mm以内
外枠と内枠のクリアランス　片側2.0mm以内
（試験方法）
内蓋（内枠）の繰り返し開閉試験
（１）試験体は、枠見込み40mm程度のものとする。
吊り金物は、外枠を天井下地取付用補強材に直接留付ける方式（天井ボードなどの仕上材を挟んで固定しない方式）とする。標準仕様書14章4節により製作した試験体固定用天井下地開口補強に試験体の天井点検口450mm×450mmを吊り金具4箇所にて各メーカー仕様に従い取付ける。なお、野縁の種類は、19形とし仕上げ材は、せっこうボード厚さ9.5mm（JIS Ａ 6901「せっこうボード製品」のGB－Rの難燃2級又は発熱性２級以上）二重張りとする。
（２）試験は、内蓋を閉じた状態から自由開放状態にする動作を繰り返し行う。
（３）測定は、上記繰り返し試験において、各50回、100回、300回毎に内蓋の垂れ下がり状態を測定する。

事業年度　年度 工事完成　年度	設計 令和 年 月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 西小学校長寿命化改修工事（建築主体工事）	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社　ＭａｓＭａｓ 一級建築士登録　第198542号 美野　健治　印	図面名称・縮尺　non scale　(A3版-71%縮小) 改修工事特記仕様書-7	図番 A-07

⑨ 床点検口

材種	寸法（mm）	形式		備考
・アルミニウム製 ・ステンレス製 ・鋼製	・450×450 ※ 600×600 ・	・一般形 ・密閉形	・屋内外用 ・屋内用	・鍵付き

密閉形とは、ボルト、ナット等メカニカル構造にパッキンを装着したものとする。
（品質・性能）

部品名	材質	屋内外用	屋内用
受枠材 蓋枠材	アルミニウム及びアルミニウム合金押出形材	JIS H 4100のA6063S -T5 （表面処理）JIS H 8602のB種又はJIS H 8601のAA15	
	ステンレス製	JIS G 4305のSUS304、SUS430J1L、SUS443J1 （表面処理）HL又は2B 仕上げ程度	JIS G 4305のSUS430 （表面処理）HL又は2B 仕上げ程度
	鋼製	ー	標準仕様書表18.3.1及び表18.3.2のさび止め塗料塗り等の防錆処理を行ったもの
二重蓋の中蓋	鋳鉄	JIS G 5501のFC150、FC200	
	その他	塩化ビニル樹脂製等	
目地材	黄銅	JIS H 3100 のC2600、C2720、C2801 JIS H 3250 のC3602、C3604	
	ステンレス	JIS G 4305のSUS304、SUS430J1L又はSUS443J1 JIS G 4308のSUS304	
底板材コーナーピース底板補強材	ステンレス鋼板	JIS G 4305のSUS304、SUS430J1L、SUS443J1 JIS G 4308のSUS304	JIS G 4305のSUS430
	アルミニウム板	JIS H 4000 (A1100P H24) 表面処理：陽極酸化塗装複合被膜 JIS H 8601(AA15) JIS H 8602(B)	ー
	鋼材	ー	鋼製又はJIS G 3313にメラミン樹脂焼付塗装若しくは、標準仕様書表18.3.1及び表18.3.2のさび止め塗料塗り等の防錆処理を行ったもの
パッキン材		塩化ビニル系ゴム、軟質塩化ビニル、クロロプレン、スポンジラバー、エチレンプロピレン等枠の材質、形状に適した弾力性、密着性を有するもの	
アンカー材		鋼製に電気亜鉛めっき又は防錆塗料を行ったもの	
取手		黄銅鋳鉄製、黄銅製、アルミニウム押出形材・合金鋳鉄製、ステンレス鋳鋼品、ステンレス製等 ステンレス鋼材、アルミニウム押出形材などで被覆した、合成樹脂製のものは、衝撃による変形・割れが生じないものとする	
鍵		黄銅製、ステンレス製、亜鉛合金製とする 施錠・開錠は、鍵又は開閉用ハンドル式とする	
蓋の耐荷重性能		蓋中央部が荷重値Pn=1,000Nにおいて残留たわみが点検口の有孔径の0.08%以内であること。 受け枠、蓋その他の使用上支障がないこと。 破壊荷重は、荷重値のPnの2倍以上であること 。	

受け枠寸法の許容差　±0.5mm以下
蓋付寸法の許容差　　±0.5mm以下
受け枠と蓋枠のクリアランス　片側2.0mm以内
（試験方法）
耐荷重試験
　試験体は、張物用とし、600mm角程度、枠見込みは、40mm以下とする。
　試験は、蓋枠の四周を支持させ、蓋の中央部にφ50mmの加圧板を設置し、加圧する。
　本試験前に200Nを加圧した後、本試験を行う。
　本試験は、1,000Nで加圧、荷重除去を3回繰り返し行った後、その後試験体が破壊する（終局荷重）まで加圧する。
　測定は、蓋中央部にかかる加圧を200N増す毎にたわみと受け枠の変形その他の異常について1,000Nまで3回繰り返す。

⑩ 手すり

材質	表面仕上げ	直径（mm）	取付箇所
・集成材	・クリアラッカー　・	・35　・45　・	
・ステンレスパイプ	・ＨＬ程度　・		
・鋼製パイプ	・ＳＯＰ　・ＥＰ－Ｇ		
・ビニル製ハンドレール			

⑪ 天井見切り縁等
壁及び下がり壁と天井の取合いの見切縁（天井見切縁、下がり壁見切縁）の材種
※ アルミニウム既製品　・ビニル既製品

12 視覚障害者用床タイル（視覚障害者誘導用ブロック）　（１１．２．２、１９．２．２）

施工箇所		種類	寸法（mm）	厚さ（mm）
屋内		・塩化ビニル製	※ 300×300　・	・7.0　・
		・セラミックタイル	※ 300×300　・	・
		・レジンコンクリート製	※ 300×300　・	・
		・コンクリート製		
屋外		・セラミックタイル	※ 300×300　・	・
		・レジンコンクリート製	※ 300×300　・	・
		・コンクリート製		

突起の形状、配列及び寸法は JIS T 925Iによる

⑬ 鉄筋　８章耐震改修工事にかかる部分は除き、下記による　（５．２．１）（表５．２．１）

種類の記号	呼び名	備考
※ ＳＤ２９５Ａ	※ Ｄ１６以下	
※ ＳＤ３４５	※ Ｄ１９以上	

⑭ 溶接金網　８章耐震改修工事にかかる部分は除き、下記による　（５．２．２）

種類	網目寸法、鉄線の径（mm）	備考
※ 溶接金網		
・鉄筋格子		

⑮ 鉄筋の継手及び定着　８章耐震改修工事にかかる部分は除き、下記による　（５．３．４）
鉄筋の継手の方法等
※ 重ね継ぎ手
・
鉄筋の重ね継手の長さ
※ ４０ｄと標準仕様書表５．３．２の重ね継手の長さのうち大きい値とする
・
鉄筋の定着長さ
※ 柱に取り付ける梁の引っ張り鉄筋の直線定着長さは４０ｄ以上とし、それ以外は標準仕様書表５．３．４による
・
機械式定着工法
・適用する
適用箇所　・図示による　・
種類　・摩擦圧接接合　・螺合グラウト固定　・嵌合グラウト固定

⑯ コンクリートの気乾単位容積質量による種類及び強度等
８章耐震改修工事にかかる部分は除き、下記による　（６．２．１～４）
※ 普通コンクリート

設計基準強度（Ｆｃ）{Ｎ／mm2}	スランプ（ｃｍ）	適用箇所
※ ２４ ・	※ 標準仕様書表6.2.2による ・	※ コンクリート全て（無筋コンクリートを除く） ・

⑰ セメント　種類　（６．３．１）
※ 普通ポルトランドセメント、高炉セメントＡ種、シリカセメントＡ種又はフライアッシュセメントＡ種
・高炉セメントＢ種
・フライアッシュセメントＢ種

⑱ 型枠　８章耐震改修工事にかかる部分は除き、下記による　（６．８．２）
せき板の材料　※ 合板　厚さ（ ※ １２mm　・　　）
・メッシュ型枠
・断熱材を兼用した型枠　厚さ２５mm以下かつ熱抵抗値１ｍｈ℃／ｋＣａｌ以上

19 無筋コンクリート　８章耐震改修工事にかかる部分は除き、下記による　（６．１４．１）

種　類	設計基準強度（Ｆｃ）{Ｎ／mm2}	スランプ（mm）	施　工　箇　所
※ 普通コンクリート ・	※ １８ ・	※ １５ ・	※ 標準仕様書6.14.1(4)(ｱ)～(ｶ)による ・

種類
※ 普通ポルトランドセメント、高炉セメントＡ種、シリカセメントＡ種又はフライアッシュセメントＡ種
・高炉セメントＢ種
・フライアッシュセメントＢ種

⑳ 床コンクリート直均し仕上げ　（８．１．４）（表８．１．５）
仕上げの平たんさは、図示以外は下記による

改修標準仕様書表8.1.5による平たんさの種別	施工箇所
ａ種	合成樹脂塗床、ビニル系床材張り、床コンクリート直均し仕上げ、フリーアクセスフロア（置敷式）　（　　）
ｂ種	カーペット張り、防水下地、セルフレベリング材塗り（　　）
ｃ種	タイル張り、モルタル塗り、フリーアクセスフロア（支柱調整式）（　　）

㉑ あと施工アンカー　（１４．１．３）
６章内装改修工事　軽量鉄骨天井下地及び８章耐震改修工事にかかる部分は除き、下記による
あと施工アンカー施工後の確認試験　※ 行う　・行わない

22 トイレブース　（２０．２．５）

表面材の材料	脚部	ドアエッジ
	形状	材質
※ メラミン樹脂系化粧板 ・ポリエステル樹脂系化粧板	※ 幅木タイプ ・	※ アルミニウム製 ・ステンレス製 ・表面材と同材

（品質・性能）
（１）パネル

項目	品質・性能
表面材	メラミン樹脂系、ポリエステル樹脂系化粧板又はメラミン樹脂系単一材とする。
裏打材	JIS A 6512「可動間仕切」の表9に対応する材質のうち、鋼材については、防食処理及び防錆処理を施した材料とする。ただし、メラミン樹脂系単一材の場合は適用しない。
心材	JIS A 6512「可動間仕切」の表9に対応する材質とする。ただし、メラミン樹脂系単一材の場合は適用しない。
枠材	JIS A 6512「可動間仕切」の表9に対応する材質のうち、鋼材については、亜鉛めっき処理を施した材料とする。
エッジ材	
小口	防水処理を施す。

（２）構造金物

項目	品質・性能
脚部（脚具、幅木）	JIS G 4305「冷間圧延ステンレス鋼板及び鋼帯」に規定するSUS304、SUS430J1L、SUS443J1とし、仕上げは㎖程度とする。

（３）付属金物

項目	品質・性能
ヒンジ	耐蝕性のあるものとする。
ラッチセット	
戸当り	腐蝕の恐れのある材料には防錆処理を施してあるものとする。 戸当り部のゴムは、使用に十分耐える材質であるものとする。

（４）外観は、JIS A 6512「可動間仕切」の5.b）による。

（５）パネル表面材の耐薬品性・耐汚染性・耐ひっかき性・開閉耐久性

項目	品質・性能	
	耐薬品性及び耐汚染性	耐引っかき性
メラミン樹脂系化粧板及びメラミン樹脂系単一材	JIS K 6903(2008)「熱硬化性樹脂高圧化粧板」の表８品質による耐汚染性（Ｂ法）の規定を満足していること。	ー
低圧メラミン樹脂系化粧板	ポリエステル樹脂系加工化粧合板、ポリエステル樹脂系化粧ＭＤＦ、ポリエステル樹脂系化粧パーティクルボードのいずれかの品質に適合していること。	
ポリエステル樹脂系加工化粧合板	JAS「合板の日本農林規格」第９条特殊加工化粧合板に示された耐汚染性Ｂ試験において、試験片の表面に色が残らないこと。	JAS「合板の日本農林規格」第９条特殊加工化粧合板に示された耐引っかき性Ｂ試験において、きずの深さの平均値が10㎛以内であること。
ポリエステル樹脂系化粧ＭＤＦ	JIS A 5905「繊維板」の表18の規定に適合していること。	
ポリエステル樹脂系化粧パーティクルボード	JIS A 5908「パーティクルボード」の表11の規定に適合していること。	

（試験方法）
（１）ヒンジは、JIS A 1510-2「建築用ドア金物の試験方法－第2部：ドア用金物」に規定する試験による。
（２）戸当りの衝撃試験は、JIS A 1510-2に規定する試験による。
パネル材料のホルムアルデヒド放散量　※ JIS A 6512によりＦ☆☆☆以上

事業年度　年度 工事完成　年度	設計 令和 年 月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 西小学校長寿命化改修工事（建築主体工事）	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社　ＭａｓＭａｓ 一級建築士登録　第198542号 美野　健治　印	図面名称・縮尺　non scale　(A3版-71%縮小) 改修工事特記仕様書-8	図番 A-08

建築非構造部材の耐震性能に係る標準的な特記事項

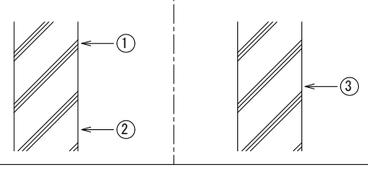
建築設計基準		項目	特記事項
外壁	帳壁	CW（メタルPCa）	CW工事 取付方法、性能等 地震力に対する安全性 設計用震度：設計用水平震度（KH）※1．0・　設計用鉛直震度（Kv）※0．5・ 帳壁（仕上面及び構造体から仕上面までの接合部材）の性能：設計用震度の地震力に対して、部材に生じる応力度が所定の応力度以内にあり、有害な残留ひずみが生じないこと。ただし、所定の応力度以内にあることの確認が困難な場合は、試験等により設計用震度の地震力に対して有害な残留ひずみが生じないことを確認する。なお、水平方向の地震力に対する確認は面内方向及び面外方向について行う。所定の応力度は、短期許容応力度とし、短期許容応力度が定められていない材料については、関連基規準（製造者等により構成される協会等が定める指針等を含む。）が定める値とする。 構造体の層間変形に対する追従性 層間変形角：・1／100・1／200・ 帳壁（仕上面及び構造体から仕上面までの接合部材）の性能：左記の層間変形角に対して、脱落しないこと 層間変形角1／300に対して、ほとんど補修の必要がなく、継続使用に耐えること。
		ALCパネル	外壁パネルの耐震性 地震力に対する安全性 設計用震度：設計用水平震度（KH）※1．0・　設計用鉛直震度（Kv）※0．5・ 帳壁（仕上面及び構造体から仕上面までの接合部材）の性能：設計用震度の地震力に対して、部材に生じる応力度が所定の応力度以内にあり、有害な残留ひずみが生じないこと。ただし、所定の応力度以内にあることの確認が困難な場合は、試験等により設計用震度の地震力に対して有害な残留ひずみが生じないことを確認する。なお、水平方向の地震力に対する確認は面内方向及び面外方向について行う。所定の応力度は、短期許容応力度とし、短期許容応力度が定められていない材料については、関連基規準（製造者等により構成される協会等が定める指針等を含む。）が定める値とする。 構造体の層間変形に対する追従性 層間変形角：・1／100・1／200・ 帳壁（仕上面及び構造体から仕上面までの接合部材）の性能：左記の層間変形角に対して、脱落しないこと
		押出成形ｾﾒﾝﾄ板（ECP）	外壁パネルの耐震性 地震力に対する安全性 設計用震度：設計用水平震度（KH）※1．0・　設計用鉛直震度（Kv）※0．5・ 帳壁（仕上面及び構造体から仕上面までの接合部材）の性能：設計用震度の地震力に対して、部材に生じる応力度が所定の応力度以内にあり、有害な残留ひずみが生じないこと。ただし、所定の応力度以内にあることの確認が困難な場合は、試験等により設計用震度の地震力に対して有害な残留ひずみが生じないことを確認する。なお、水平方向の地震力に対する確認は面内方向及び面外方向について行う。所定の応力度は、短期許容応力度とし、短期許容応力度が定められていない材料については、関連基規準（製造者等により構成される協会等が定める指針等を含む。）が定める値とする。 構造体の層間変形に対する追従性 層間変形角：・1／100・1／200・ 帳壁（仕上面及び構造体から仕上面までの接合部材）の性能：左記の層間変形角に対して、脱落しないこと
外壁	仕上げ	石工事	—
扉	特定室等及び避難経路の扉重量がある扉	ADSDLDSSD	RC壁に設置する特定室等及び避難経路の扉 ・耐震ドア　面内変形追随性の等級（・　） （建具符号：※建具表による　・　） 重量がある扉 以下の設計用震度の地震力に対して、脱落が生じないものとする。なお、水平方向の地震力に対する確認は面内方向及び面外方向について行う。 設計用水平震度（KH）※1．0 設計用鉛直震度（Kv）※0．5 （建具符号：※建具表による　・　）
ガラス	ガラス	ガラス	構造体の層間変形に対する追従性 以下の構造体の層間変形角に対して、破損、脱落が生じないよう取り付けられているものとする。 構造体の層間変形角　・1／100・1／200・／
天井	特定天井	軽量鉄骨天井下地（特定天井）	範囲　※図示 特定天井の設計用震度及びクリアランスは以下による。 特定天井告示（平成25年国土交通省告示第771号）による特定天井の設計用震度 検証ルート（　） 室名／階／設計用水平震度（KH）／設計用鉛直震度（Kv）／クリアランス（mm）：・／・／・
天井	特定天井以外の在来工法による吊り天井のうち天井材の落下により著しい影響がある室のもの	軽量鉄骨天井下地（緊結吊天井）	範囲　※図示 標準仕様書14．4．1～14．4．4に加えて、天井下地材における耐震性を考慮した補強は、以下の1）～4）のとおりとする。 1）野縁受けは、相互にジョイントを差し込んだ上でねじ留め。 2）野縁や野縁受けの隣り合うジョイントの位置は、互いに1m以上離し、千鳥状に配置。 3）野縁受けと吊りボルトの接合に用いるハンガーは、ねじ留め等の措置（開き止め）を講じる。 4）野縁と野縁受けの接合に用いるクリップは、特定天井告示（平成25年国土交通省告示第771号）第3第3項に適合する天井に用いられるもの又は耐風圧クリップ相当の緊結度合を「新たな特定天井の技術基準（天井と周囲の壁等との間に隙間を設けない仕様の追加）の解説（平成28年7月版）」（国土交通省国土技術政策総合研究所他）の「付録1クリップの接合部の衝撃試験」により確認されたものを使用する。なお、当該クリップは、JIS A 6517によらなくてもよいものとする。
天井	在来工法の吊り天井	軽量鉄骨天井下地	—
天井	システム天井	システム天井	※グリッドタイプ　・システム天井 範囲　※図示 耐震性 以下の設計用震度の地震力及び構造体の層間変形角に対して、脱落しないものとする。なお、水平方向の地震力に対する確認は面内方向及び面外方向について行う。 設計用水平震度（KH）※1．0 設計用鉛直震度（Kv）※0．5 構造体の層間変形角　・1／100・1／200・／
間仕切り	間仕切り	ALCパネル	間仕切りパネルの耐震性 地震力に対する安全性 設計用震度：設計用水平震度（KH）※1．0・　設計用鉛直震度（Kv）※0．5・ 帳壁（仕上面及び構造体から仕上面までの接合部材）の性能：設計用震度の地震力に対して、部材に生じる応力度が所定の応力度以内にあり、有害な残留ひずみが生じないこと。ただし、所定の応力度以内にあることの確認が困難な場合は、試験等により設計用震度の地震力に対して有害な残留ひずみが生じないことを確認する。なお、水平方向の地震力に対する確認は面内方向及び面外方向について行う。所定の応力度は、短期許容応力度とし、短期許容応力度が定められていない材料については、関連基規準（製造者等により構成される協会等が定める指針等を含む。）が定める値とする。 構造体の層間変形に対する追従性 層間変形角：・1／100・1／200・ 帳壁（仕上面及び構造体から仕上面までの接合部材）の性能：左記の層間変形角に対して、脱落しないこと
		押出成形ｾﾒﾝﾄ板（ECP）	間仕切りパネルの耐震性 地震力に対する安全性 設計用震度：設計用水平震度（KH）※1．0・　設計用鉛直震度（Kv）※0．5・ 帳壁（仕上面及び構造体から仕上面までの接合部材）の性能：設計用震度の地震力に対して、部材に生じる応力度が所定の応力度以内にあり、有害な残留ひずみが生じないこと。ただし、所定の応力度以内にあることの確認が困難な場合は、試験等により設計用震度の地震力に対して有害な残留ひずみが生じないことを確認する。なお、水平方向の地震力に対する確認は面内方向及び面外方向について行う。所定の応力度は、短期許容応力度とし、短期許容応力度が定められていない材料については、関連基規準（製造者等により構成される協会等が定める指針等を含む。）が定める値とする。 構造体の層間変形に対する追従性 層間変形角：・1／100・1／200 帳壁（仕上面及び構造体から仕上面までの接合部材）の性能：左記の層間変形角に対して、脱落しないこと
		軽量鉄骨壁下地	—
その他の建築非構造部材	フリーアクセスフロア	フリーアクセスフロア	20章　フリーアクセスフロアの特記事項による
	エキスパンションジョイント金物	エキスパンションジョイント金物	材質／階区分／建築物間のクリアランス（mm）／変位追従量（mm）／耐火性能／断熱性能／備考 ・アルミニウム製・ステンレス製／（　）階～（　）階／・50・100・150・／（避難経路の床等）・以上（その他）・以上／・有り（　）・無し／・有り（　）・無し／ ・アルミニウム製・ステンレス製／（　）階～（　）階／・50・100・150・／（避難経路の床等）・以上（その他）・以上／・有り（　）・無し／・有り（　）・無し／ 外部に設置するものは、防水型とする。 エキスパンションジョイントカバーには、脱落防止措置を講じる。
家具、門扉・囲障その他の工作物	壁等に固定する家具	壁等に固定する家具	固定方法　・壁固定（図示）・床固定（図示） 以下の設計用震度の地震による引抜き力に対して固定金具に生じる応力度が所定の応力度以内にあり、有害な残留ひずみが生じないものとする。ただし、所定の応力度以内にあたる事の確認が困難な場合は、試験等により設計用震度の地震による引抜き力に対して有害な残留ひずみが生じないことを確認する。なお、水平方向の地震力に対する確認は面内方向及び面外方向について行う。 所定の応力度は、短期許容応力度とし、短期許容応力度が定められていない材料については、関連基規準（製造者等により構成される協会等が定める指針等を含む。）が定める値による。 設計用水平震度（KH）※1．0 設計用鉛直震度（Kv）※0．5 家具名称／設置場所／備考：・／・／・ ・軽量鉄骨壁下地等への補強　（　※図示　・　） ※収納物の散乱防止措置（ラッチ機構、ロック機構等）を講ずる。 ・

事業年度　年度 工事完成　年度	設計 令和 年 月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 西小学校長寿命化改修工事（建築主体工事）	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社　MasMas 一級建築士登録　第198542号 美野　健治　印	図面名称・縮尺　－　(A3版-71%縮小) 改修工事特記仕様書-9	図番 A-09

名　称：A　表面劣化部処理

記号・仕様：A－1　打放し面表面劣化部処理　［サンダー工法］

改修前 / 改修後



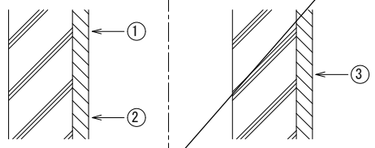
工　程

①既存仕上げ材及び脆弱層サンダーケレン（＊全面　・部分）
②高圧水洗浄（１５０～２００kg／c㎡）
③セメント系下地調整材コテ塗り（１．５mm±０．５mm）

参考数量：外部仕上表による

記号・仕様：A－2　モルタル面表面劣化部処理　［サンダー工法］

改修前 / 改修後



工　程

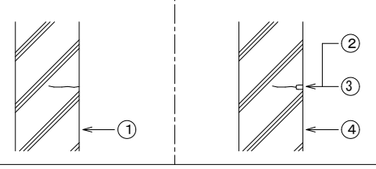
①既存仕上げ材及び脆弱層サンダーケレン（＊全面　・部分）
②高圧水洗浄（１５０～２００kg／c㎡）
③セメント系下地調整材コテ塗り（１．５mm±０．５mm）

参考数量：

名　称：B　ひび割れ部処理

記号・仕様：B－1　打放し面樹脂注入工法［標仕４．２．５］ ひび割れ幅　０．２～１．０mm

改修前 / 改修後



工　程

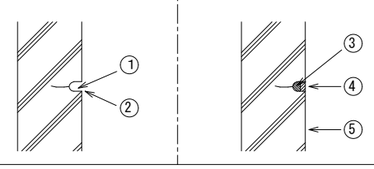
①サンダーケレン
②ひび割れ部シール
③エポキシ樹脂注入
④セメント系下地調整材コテ塗り（１．５mm±０．５mm）

※A－１工法を行う場合は，①，④の工程はA－１工法に含む。

参考数量：外部仕上表による

記号・仕様：B－2　打放し面Uカットシール材充てん工法［標仕４．２．６］ ひび割れ幅　１．０mm以上

改修前 / 改修後



工　程

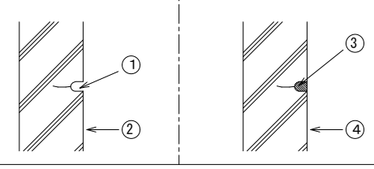
①ひび割れ部Uカット
②高圧水洗浄（１５０～２００kg／c㎡）
③シーリング材打設
④Uカット部埋戻し　（ポリマーセメントモルタル）
⑤セメント系下地調整材コテ塗り（１．５mm±０．５mm）

※A－１工法を行う場合は，②⑤の工程はA－１工法に含む。

参考数量：外部仕上表による

記号・仕様：B－3　打放し面Uカットシール材充てん工法［標仕４．２．６］ ひび割れ幅　０．２～１．０mm

改修前 / 改修後



工　程

①ひび割れ部Uカット
②高圧水洗浄（１５０～２００kg／c㎡）
③可とう性エポキシ樹脂充てん後けい砂
④セメント系下地調整材コテ塗り（１．５mm±０．５mm）

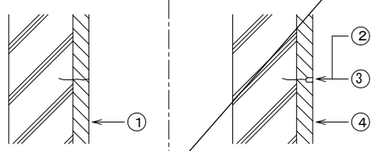
※A－１工法を行う場合は，②④の工程はA－１工法に含む。

参考数量：外部仕上表による

名　称：B　ひび割れ部処理

記号・仕様：B－4　モルタル面樹脂注入工法［標仕４．３．６］ ひび割れ幅　０．２～１．０mm

改修前 / 改修後



工　程

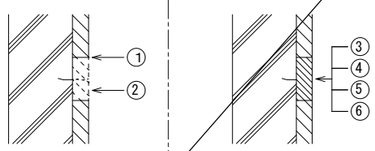
①サンダーケレン
②ひび割れ部シール
③エポキシ樹脂注入
④セメント系下地調整材コテ塗り（１．５mm±０．５mm）

※A－２工法を行う場合は，①，④の工程はA－２工法に含む。

参考数量：　ひび割れ幅　０．２～０．５mm　（　　）
　　ひび割れ幅　０．５～１．０mm　（　　）
　　（　）内は挙動ひび割れ数量を示す

記号・仕様：B－5　モルタル面躯体部樹脂注入工法［標仕４．３．６］ ひび割れ幅　０．２～１．０mm

改修前 / 改修後



工　程

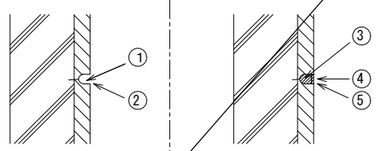
①ひび割れ周囲モルタルカッター切り
②モルタル除去
③ひび割れ部シール
④エポキシ樹脂注入
⑤埋戻し
⑥セメント系下地調整材コテ塗り（１．５mm±０．５mm）

※A－２工法を行う場合は，⑥の工程はA－２工法に含む。

参考数量：

記号・仕様：B－6　モルタル面Uカットシール材充てん工法 ひび割れ幅　１．０mm以上

改修前 / 改修後



工　程

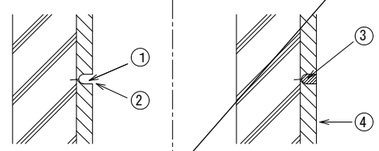
①ひび割れ部Uカット
②高圧水洗浄（１５０～２００kg／c㎡）
③シーリング材打設
④Uカット部埋戻し　（ポリマーセメントモルタル）
⑤セメント系下地調整材コテ塗り（１．５mm±０．５mm）

※A－２工法を行う場合は，②⑤の工程はA－２工法に含む。

参考数量：

記号・仕様：B－7　モルタル面Uカットエポキシ樹脂充てん工法 ひび割れ幅　０．２～１．０mm

改修前 / 改修後



工　程

①ひび割れ部Uカット
②高圧水洗浄（１５０～２００kg／c㎡）
③可とう性エポキシ樹脂充てん後けい砂
④セメント系下地調整材コテ塗り（１．５mm±０．５mm）

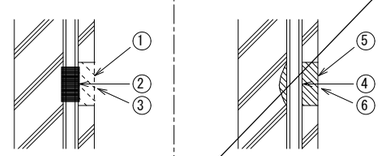
※A－２工法を行う場合は，②④の工程はA－２工法に含む。

参考数量：

名　称：C　錆鉄筋部処理

記号・仕様：C－1　打放し面錆鉄筋部処理

改修前 / 改修後



工　程

①錆鉄筋周辺のはつり
②錆落とし
③高圧水洗浄（１５０～２００kg／c㎡）
④防錆処理
⑤はつり部埋戻し整形
⑥セメント系下地調整材コテ塗り（１．５mm±０．５mm）

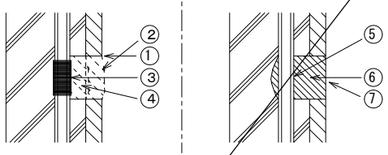
※A－２工法を行う場合は，③⑥の工程はA－２工法に含む。

参考数量：

名　称：C　錆鉄筋部処理

記号・仕様：C－2　モルタル面錆鉄筋部処理

改修前 / 改修後



工　程

①カッター縁切り
②浮き部はつり
③錆落とし
④高圧水洗浄（１５０～２００kg／c㎡）
⑤防錆処理
⑥はつり部埋戻し整形
⑦セメント系下地調整材コテ塗り（１．５mm±０．５mm）

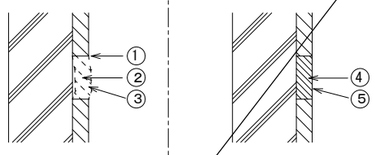
※A－２工法を行う場合は，④⑦の工程はA－２工法に含む。

参考数量：

名　称：D　浮き部処理

記号・仕様：D－1　モルタル面はつり

改修前 / 改修後



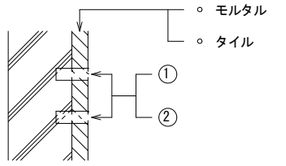
工　程

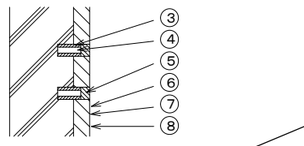
①カッター縁切り
②浮き部はつり
③高圧水洗浄（１５０～２００kg／c㎡）
④はつり部埋戻し整形
⑤セメント系下地調整材コテ塗り（１．５mm±０．５mm）

※A－２工法を行う場合は，③⑤の工程はA－２工法に含む。

参考数量：

記号・仕様：D－2，モルタル面アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法　［標仕４．３．１１］
D－2’　タイル面アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法　［標仕４．４．９］





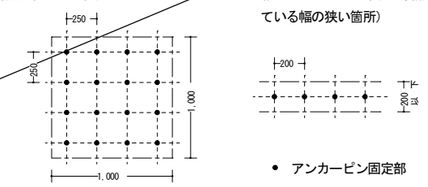
工　程

①穿孔	一般部	ケ所	⑤穿孔跡埋戻し［パテ状エポキシ樹脂］	一般部	ケ所
	指定部	ケ所		指定部	ケ所
②孔内エアー清掃	一般部	ケ所	⑥サンダーケレン		
	指定部	ケ所	⑦高圧水洗浄（１５０～２００kg／c㎡）		
③エポキシ樹脂注入	一般部	ケ所	⑧セメント系下地調整材コテ塗り（１．５mm±０．５mm）		
	指定部	ケ所			
④ステンレスピン挿入	一般部	ケ所			
	指定部	ケ所			

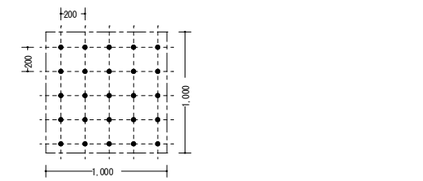
※A－２工法を行う場合は，⑥，⑦，⑧の工程はA－２工法に含む。

参考数量：①一般部分：
　　②指定部分：
　　③峡幅部：

①一般部分標準グリッド（２５０×２５０）　③峡幅部
（指定部以外の部分）　（幅２００mm以下で帯状に剥離している幅の狭い箇所）



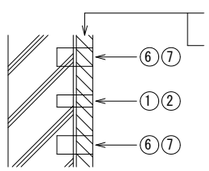
②指定部分標準グリッド（２００×２００）
（見上げ面、ひさしのはな、まぐさ隅角部分等）

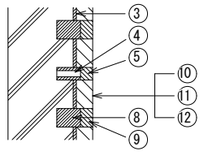


事業年度　年度 工事完成　年度	設計 令和 年 月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 西小学校長寿命化改修工事（建築主体工事）	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社　ＭａｓＭａｓ 一級建築士登録　第198542号 美野　健治　印	図面名称・縮尺　non scale　(A3版-71%縮小) 外壁改修特記仕様書-1	図番 A-10

名　称	D　浮き部処理
記号・仕様	D－3　モルタル面アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法　［標仕４．３．１２］ D－3'　タイル面アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法　［標仕４．４．１０］

改修前　改修後





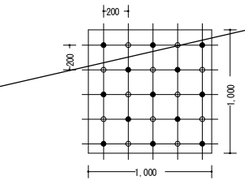
工　程

①ﾋﾟﾝ固定部穿孔	一般部	ケ所	⑥注入口穿孔	一般部	ケ所	⑫セメント系下地調整材コテ塗り（１．５mm±０．５mm）
	指定部	ケ所		指定部	ケ所	
②孔内ｴｱｰ清掃	一般部	ケ所	⑦孔内エアー清掃	一般部	ケ所	
	指定部	ケ所		指定部	ケ所	
③ｴﾎﾟｷｼ樹脂注入	一般部	ケ所	⑧ｴﾎﾟｷｼ樹脂注入	一般部	ケ所	
	指定部	ケ所		指定部	ケ所	
④ｽﾃﾝﾚｽﾋﾟﾝ挿入	一般部	ケ所	⑨穿孔跡埋戻し［ｴﾎﾟｷｼﾊﾟﾃ］	一般部	ケ所	
	指定部	ケ所		指定部	ケ所	
⑤穿孔跡埋戻し［ｴﾎﾟｷｼﾊﾟﾃ］	一般部	ケ所	⑩ｻﾝﾀﾞｰｹﾚﾝ			
	指定部	ケ所	⑪高圧水洗浄（１５０～２００kg／ｃ㎡）			

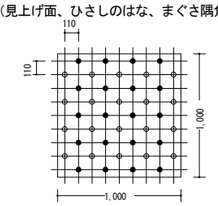
※Ａ－２工法を行う場合は，⑩，⑪，⑫の工程はＡ－２工法に含む。

参考数量：①一般部分：
②指定部分：
③峡幅部：

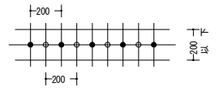
①一般部分標準グリッド（２００×２００）
（指定部以外の部分）



②指定部分標準グリッド（１１０×１１０）
（見上げ面、ひさしのはな、まぐさ隅角部分等）



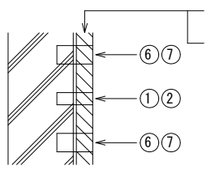
③峡幅部
（幅２００mm以下で帯状に剥離している幅の狭い箇所）

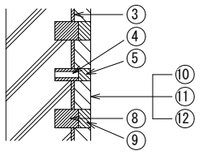


● アンカーピン固定部
○ 注入口

名　称	D　浮き部処理
記号・仕様	D－４　モルタル面アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法　［標仕４．３．１３］ D－４'　タイル面アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法　［標仕４．４．１１］

改修前　改修後





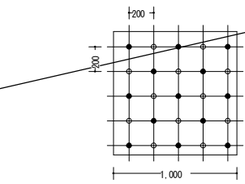
工　程

①ピン固定部穿孔	一般部	ケ所	⑥注入口穿孔	一般部	ケ所	⑫セメント系下地調整材コテ塗り（１．５mm±０．５mm）
	指定部	ケ所		指定部	ケ所	
②孔内エアー清掃	一般部	ケ所	⑦孔内エアー清掃	一般部	ケ所	
	指定部	ケ所		指定部	ケ所	
③ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄｽﾗﾘｰ注入	一般部	ケ所	⑧ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄｽﾗﾘｰ注入	一般部	ケ所	
	指定部	ケ所		指定部	ケ所	
④ｽﾃﾝﾚｽﾋﾟﾝ挿入	一般部	ケ所	⑨穿孔跡埋戻し［ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄｽﾗﾘｰ］	一般部	ケ所	
	指定部	ケ所		指定部	ケ所	
⑤穿孔跡埋戻し［ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄｽﾗﾘｰ］	一般部	ケ所	⑩ｻﾝﾀﾞｰｹﾚﾝ			
	指定部	ケ所	⑪高圧水洗浄（１５０～２００kg／ｃ㎡）			

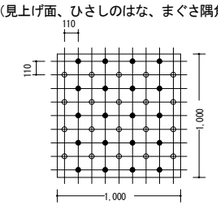
※Ａ－２工法を行う場合は，⑩，⑪，⑫の工程はＡ－２工法に含む。

参考数量：①一般部分：
②指定部分：
③峡幅部：

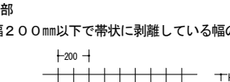
①一般部分標準グリッド（２００×２００）
（指定部以外の部分）



②指定部分標準グリッド（１１０×１１０）
（見上げ面、ひさしのはな、まぐさ隅角部分等）



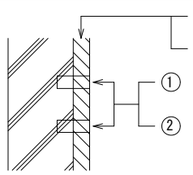
③峡幅部
（幅２００mm以下で帯状に剥離している幅の狭い箇所）

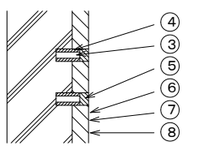


● ｱﾝｶｰﾋﾟﾝ固定部
○ 注入口

名　称	D　浮き部処理
記号・仕様	D－５　モルタル面注入口付アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法　［標仕４．３．１４］ D－５'　タイル面注入口付アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法　［標仕４．４．１２］

改修前　改修後





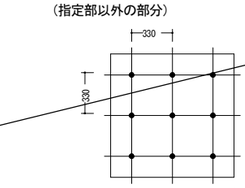
工　程

①穿孔	一般部	ケ所	⑤穿孔跡埋戻し［エポキシパテ］	一般部	ケ所
	指定部	ケ所		指定部	ケ所
②孔内エアー清掃	一般部	ケ所	⑥サンダーケレン		
	指定部	ケ所	⑦高圧水洗浄（１５０～２００kg／ｃ㎡）		
③ステンレスピン（注入口付）挿入	一般部	ケ所	⑧セメント系下地調整材コテ塗り（１．５mm±０．５mm）		
	指定部	ケ所			
④エポキシ樹脂注入	一般部	ケ所			
	指定部	ケ所			

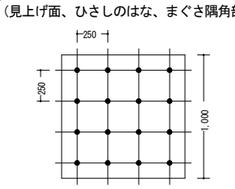
※Ａ－２工法を行う場合は，⑥，⑦，⑧の工程はＡ－２工法に含む。

参考数量：①一般部分：
②指定部分：
③峡幅部：

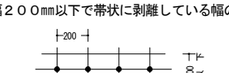
①一般部分標準グリッド（３３０×３３０）
（指定部以外の部分）



②指定部分標準グリッド（２５０×２５０）
（見上げ面、ひさしのはな、まぐさ隅角部分等）



③峡幅部
（幅２００mm以下で帯状に剥離している幅の狭い箇所）



● 注入口付アンカーピン固定部

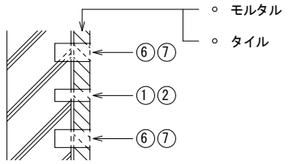
事業年度　年度 工事完成　年度	設 計 令和 年 月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 西小学校長寿命化改修工事（建築主体工事）	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社　ＭａｓＭａｓ 一級建築士登録　第198542号 美野　健治　印	図面名称・縮尺　non scale　(A3版-71%縮小) 外壁改修特記仕様書-2	図 番 A-11

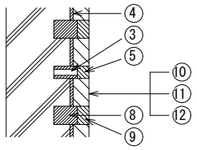
名　称：D　浮き部処理

記号・仕様

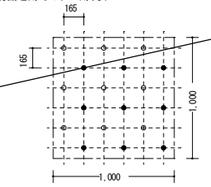
D－6　モルタル面注入口付アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法　［標仕4．3．15］
D－6’　タイル面注入口付アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法　［標仕4．4．13］

改修前／改修後

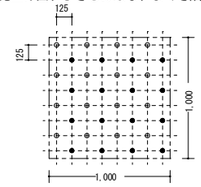




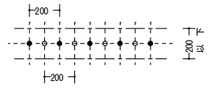
①一般部分標準グリッド（１６５×１６５）
（指定部以外の部分）



②指定部分標準グリッド（１２５×１２５）
（見上げ面、ひさしのはな、まぐさ隅角部分等）



③峡幅部
（幅２００㎜以下で帯状に剥離している幅の狭い箇所）



● 注入口付アンカーピン固定部
○ 注入口

工　程

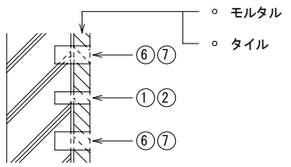
①ピン固定部穿孔	一般部	ヶ所	⑤穿孔跡埋戻し［エポキシパテ］	一般部	ヶ所	⑨穿孔跡埋戻し［エポキシパテ］	一般部	ヶ所
	指定部	ヶ所		指定部	ヶ所		指定部	ヶ所
②孔内エアー清掃	一般部	ヶ所	⑥注入口穿孔	一般部	ヶ所	⑩サンダーケレン		
	指定部	ヶ所		指定部	ヶ所	⑪高圧水洗浄（１５０～２００kg／ｃ㎡）		
③ステンレスピン（注入口付）挿入	一般部	ヶ所	⑦孔内エアー清掃	一般部	ヶ所	⑫セメント系下地調整材コテ塗り（１．５mm±０．５mm）		
	指定部	ヶ所		指定部	ヶ所			
④エポキシ樹脂注入	一般部	ヶ所	⑧エポキシ樹脂注入	一般部	ヶ所	※Ａ－２工法を行う場合，⑩，⑪，⑫の工程はＡ－２工法に含む		
	指定部	ヶ所		指定部	ヶ所	参考数量：①一般部分：		
						②指定部分：		
						③峡幅部：		

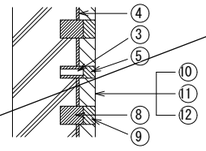
名　称：D　浮き部処理

記号・仕様

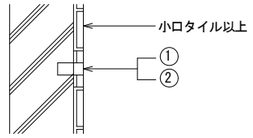
D－7　モルタル面注入口付アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法　［標仕4．3．16］
D－7’　タイル面注入口付アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法　［標仕4．4．14］
※標準グリッド等は，D－6，D－6’と同じ

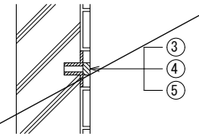
改修前／改修後





D－8　タイル面注入口付アンカーピンニングエポキシ樹脂注入タイル固定工法（小口タイル以上）［標仕4．4．15］





工　程

①ピン固定部穿孔	一般部	ヶ所	⑥注入口穿孔	一般部	ヶ所	⑫セメント系下地調整材コテ塗り（１．５mm±０．５mm）		
	指定部	ヶ所		指定部	ヶ所			
②孔内エアー清掃	一般部	ヶ所	⑦孔内エアー清掃	一般部	ヶ所			
	指定部	ヶ所		指定部	ヶ所			
③ステンレスピン（注入口付）挿入	一般部	ヶ所	⑧ポリマーセメントスラリー注入	一般部	ヶ所			
	指定部	ヶ所		指定部	ヶ所	※Ａ－２工法を行う場合，⑩，⑪，⑫の工程はＡ－２工法に含む		
④ポリマーセメントスラリー注入	一般部	ヶ所	⑨穿孔跡埋戻し［ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄﾓﾙﾀﾙ］	一般部	ヶ所	参考数量：①一般部分：		
	指定部	ヶ所		指定部	ヶ所	②指定部分：		
⑤穿孔跡埋戻し［ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄﾓﾙﾀﾙ］	一般部	ヶ所	⑩サンダーケレン			③峡幅部：		
	指定部	ヶ所	⑪高圧水洗浄（１５０～２００kg／ｃ㎡）					

D－8　タイル面注入口付アンカーピンニングエポキシ樹脂注入タイル固定工法（小口タイル以上）［標仕4．4．15］

工　程

①穿孔
②孔内エアー清掃
③ステンレスピン（注入口付）挿入
④エポキシ樹脂注入
⑤穿孔跡埋戻し　［化粧キャップもしくは調色樹脂パテ］

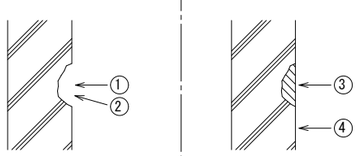
参考数量：

名　称：E　欠損部処理

記号・仕様

E－1　打放し面充填工法［標仕4．2．8］

改修前／改修後



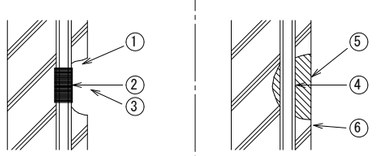
工　程

①欠損部はつり等での整形
②高圧水洗浄（１５０～２００kg／ｃ㎡）
③欠損はつり部埋戻し［※ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄﾓﾙﾀﾙ　・エポキシ樹脂モルタル］
④セメント系下地調整材コテ塗り（１．５mm±０．５mm）

※Ａ－１工法を行う場合，②，④の工程はＡ－１工法に含む

参考数量：

E－2　打放し面欠損部処理［標仕4．2．3］

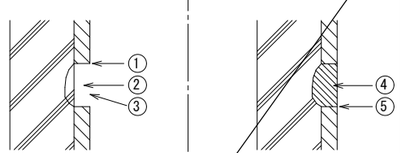


①欠損部・錆鉄筋周辺はつり等での整形
②鋲落とし
③高圧水洗浄（１５０～２００kg／ｃ㎡）
④防錆処理
⑤欠損はつり部埋戻し［※ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄﾓﾙﾀﾙ　・エポキシ樹脂モルタル］
⑥セメント系下地調整材コテ塗り（１．５mm±０．５mm）

※Ａ－１工法を行う場合，③，⑥の工程はＡ－１工法に含む

参考数量：

E－3　モルタル面欠損部処理［標仕4．3．3］



①カッター縁切り
②欠損部はつり等での整形
③高圧水洗浄（１５０～２００kg／ｃ㎡）
④欠損はつり部埋戻し［※ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄﾓﾙﾀﾙ　・エポキシ樹脂モルタル］
⑤セメント系下地調整材コテ塗り（１．５mm±０．５mm）
（鉄筋の露出部がある場合はＥ－２による）

※Ａ－２工法を行う場合，③，⑤の工程はＡ－２工法に含む

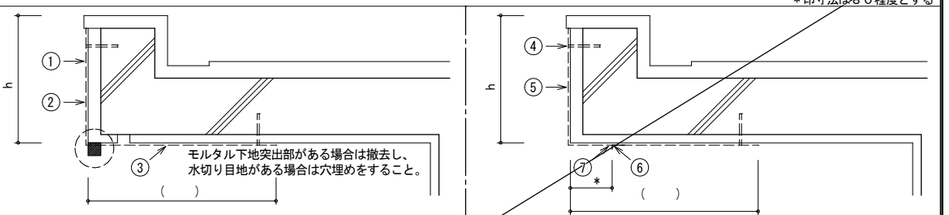
参考数量：

名　称：F　外壁複合改修工法

記号・仕様

F　外壁複合改修工法

＊印寸法は８０程度とする



下地補修後
① プライマー下塗り
② ポリマーペースト中塗り
③ 三軸ネット張り
④ ワッシャー付アンカーピン打ち込み
⑤ ポリマーペースト中塗り
⑥ アルミ水切り取付け（L-30×15×2.0　ステンレスビス止@450）
⑦ シーリング打設（MS-2）

参考数量	ネット張り	㎡
	水切	m

事業年度　年度 工事完成　年度	設 計 令和 年 月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 西小学校長寿命化改修工事（建築主体工事）	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社　ＭａｓＭａｓ 一級建築士登録　第198542号 美野　健治　印	図面名称・縮尺　non scale　(A3版-71%縮小) 外壁改修特記仕様書-3	図 番 A-12

工事区分表

区分は○印を適用する。●印が有る場合は●印を適用する。

	項目	建築	電気	機械	昇降機	備考
1．躯体関係						
1．RC造（梁・壁・床）の貫通孔・開口部	貫通スリーブ					各工事の開口用
	貫通スリーブの補強					各工事の開口用
	開口補強を要する型枠材及び取付け					
	開口部の補強	○		○		
	開口補強を要しない型枠材及び取付け					
	貫通孔・開口部の墨出し	○		○		
	スリーブ・型枠の穴埋め					
2．S・SRC造（梁・壁・床）の貫通孔・開口部	S・SRC造鉄骨貫通鋼管スリーブ・補強					各工事の開口用
	開口補強を要する型枠材及び取付け					
	開口部の補強					各工事の開口用
	開口補強を要しない型枠材及び取付け					
	貫通スリーブ（工場施工部分）					各工事の開口用
	貫通スリーブ（工場施工部分以外）					
	貫通孔・開口部の墨出し					
	スリーブ・型枠の穴埋め					防火区画・防煙区画
	予備スリーブの穴埋め					防火区画・防煙区画
3．設備機器の基礎	屋上設置の基礎					
	屋上基礎で保護コンクリートにアンカーしない軽微なもの					
	室内設置のコンクリート基礎で軽微なもの					
	室内設置のコンクリート基礎で軽微なもの以外					
	屋外設置の基礎			○		
	機器取り付け用アンカー・架台			○		
4．昇降機関連	昇降路及び機械室の築造					
	昇降路内又は機械室天井のフック					
	ピットの防水仕上げ					
	各階出入口三方枠及び位置表示器乗場ボタン取付け用口部の仮枠穴開け					
	三方枠・出入口扉					
	乗り場敷居受け					
	乗場機器取付け後の壁・床・天井仕上げ					
	昇降路がRC造の時の軌条・中間ビーム・ブラケット他昇降路内の鉄製部材一式					
	昇降路がS造の時の中間ビームブラケット受けピース、ファスナー					
	昇降路がS造の時のブラケット受け、中間ビーム・ファスナー以外の昇降路内の鉄製部材一式					
	電源及び接地線工事					
	機械室・ピットの点検用コンセント					
	煙感知器設置工事					
	停電時非常電源識別接点引込み工事					
	火災時識別リレー接点引込み工事					
	放送用信号線引込み工事					
	エレベーター監視盤への電源引込み工事					
	インターホン・エレベーター監視盤の昇降路外配管工事					
	同上配線工事					
	ピット点検用タラップ					
	機械室の配管用コンクリート及び床用防塵塗料					
	機械室床の機器搬入口の仮枠・補強及び復旧					
	機械室床のロープ用穴等の仮枠穴開け					
	機械室マシンビーム受け梁					
	機械室換気設備工事					

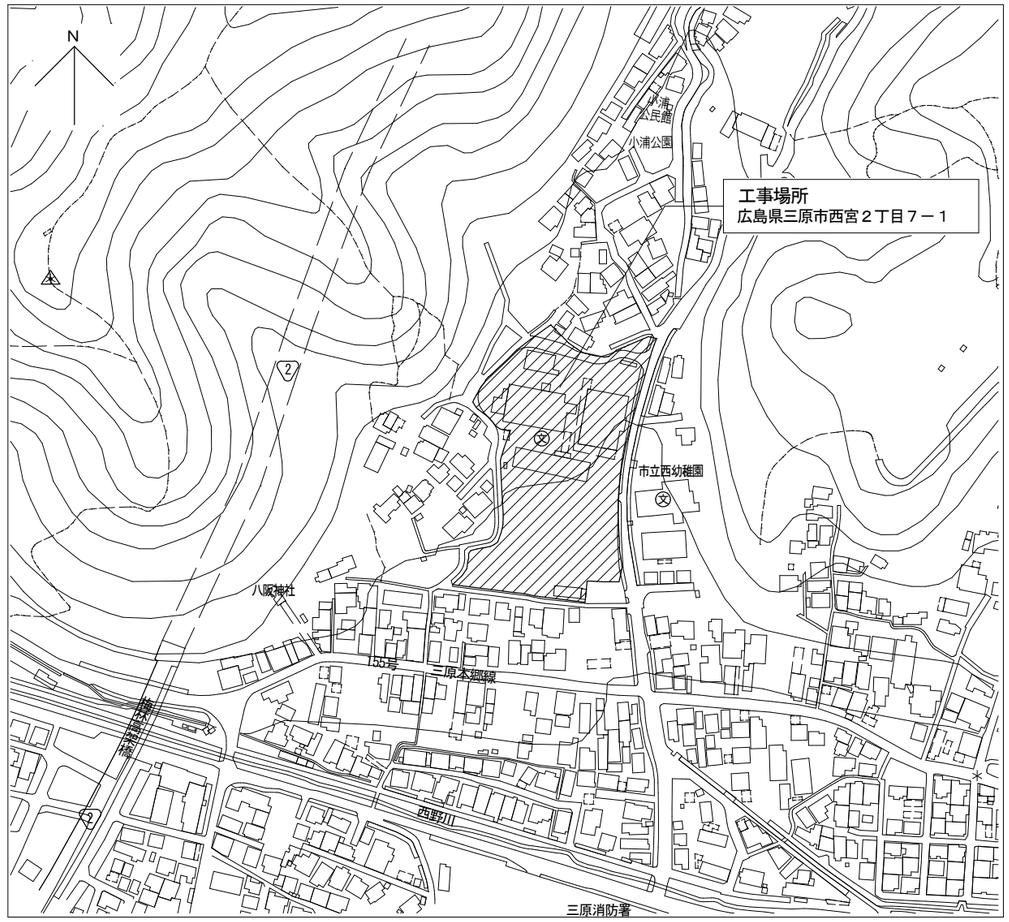
	項目	建築	電気	機械	昇降機	備考
	機械室照明設備工事					
	設備機器メンテナンス歩廊					
2．仕上げ関係						
1．軽鉄天井・壁下地	補強を要するボードの切込み及び下地の補強	○				
	補強を要しないボードの切込み	○				
	開口部の墨出し	○	○	○		
	リブ天井仕上げ材の器具廻り取合い					
2．既製間仕切り	切込み及び補強	○				
	位置ボックス		○			
	衛生器具類・機器類取付用の壁補強			○		
3．吊りボルト及びインサート	設備機器・器具・配管・配線・ダクト用			○		
	S造の場合の設備吊りボルト用構造部材					打合わせによる
4．外壁廻り	外壁ガラリ及びダクト接続用フランジ			○		
	ウエザーカバー、ベントキャップ			○		
	換気扇及び換気扇用枠			○		
5．湯沸室廻り	流し台・吊戸棚・水切り棚・コンロ台					
	湯沸器					
	既製品レンジフード換気扇					
	現場製作ＳＵＳフード					
	ミニキッチン本体					
	ミニキッチン用換気送風機・ダクト					
	ミニキッチン用衛生配管					
6．便所廻り	洗面カウンター（既製品）			○		
	洗面カウンター（既製品以外）					
	鏡（Ｗ６００×Ｈ９００まで）			○		
	鏡（Ｗ６００×Ｈ９００を越えるもの）			○		
	衛生陶器及び水栓類			○		
	手すり・ペーパーホルダー	○		○		ﾍﾟｰﾊﾟｰﾎﾙﾀﾞｰは機械設備工事
	オストメイト対応水洗器具			○		
	大型ベッド					
	乳幼児用いす					
	収納式着替え台					
7．浴室廻り	ユニットバス・ユニットシャワー					
	同上、出入口壁取合い部枠					
	既製品浴槽（風呂蓋含む）					
	浴槽・洗い場の排水金物					
	洗濯機パン					
8．事務室廻り	ドアガラリ及びアンダーカット					
	フリーアクセスフロアの切込み及び補強					
	フリーアクセスフロア用マーカー					
9．その他	２重ピット及びトレンチのマンホール蓋					
	機器搬入用フック、ビーム					
	化粧マンホール上蓋及び蓋の仕上げ					屋外を除く
	点検口（天井・床下・壁）	○				
	排煙口等の天井仕上材の取付け	○				
	自動閉鎖装置を取付ける防火戸の切込み補強					
	消火器ＢＯＸ					
	厨房用グリーストラップ					
	トラフ・ピット類（蓋を含む）					

	項目	建築	電気	機械	昇降機	備考
	地下各水槽躯体及び防水・マンホール・タラップ					
	ＡＬＣ、押出成形セメント板（ＥＣＰ）壁の開口補強					
	油サービスタンク及びポンプの防油堤					
	フリーアクセスフロア内の防水堤					
	電気錠本体					
3．屋外排水設備・外構						
1．雨水	屋外雨水排水設備					
	桝及び桝蓋					
	ルーフドレン	○				
	たてとい及び横走り管	○				
	雨水利用配管（ストレーナーまで）					
	雨水利用配管（ストレーナー以降）					
2．雑排水・汚水	屋外雑排水及び屋外汚水排水設備			○		
	桝及び桝蓋			○		
	化粧マンホール上蓋及び蓋の仕上げ					
3．煙突	煙突					
	発電機室から煙突までの排気管					
	煙道接続用スリーブ					
4．浄化槽	現場施工形の土工事・山留め・杭・地盤改良・躯体工事					
	ユニット形の本体設置工事					
	ユニット形の山留め・杭・地盤改良・躯体工事					
	ユニット形の土工事（根切り）					
	ユニット形の土工事（埋戻し）					
	良好な地盤（山留め・杭・地盤改良が不要）で、浄化槽上部に重量物が載らない場合のユニット形の土工事・躯体工事					
5．地下貯油槽（タンク室を設ける場合）	タンク室の躯体（山留め工事関係を含む）					
	タンク室の乾燥砂充填					
	タンク室のタンク本体及び配管					
	タンク室を設けない場合のタンク及び設置工事					
6．その他	駐車場ガソリントラップ					
4．電気配線配管						
	機器附属の制御盤以降の配管配線（接地線共）					２次側
	機器附属の制御盤への電源供給配管配線					１次側
	自動制御と動力盤との電源供給の渡り配管配線					
	自動扉への電源供給					
	自動扉キースイッチ及びキースイッチまでの配管					
	自動扉本体及びキースイッチ以降の配線					
	電動シャッター電源供給					
	電動シャッター操作スイッチ用位置ボックス及び配管					
	電動シャッター本体・操作スイッチ及びその間の配線					
	室内機と屋外機の渡り（連絡）配線			○		エアコン、湯沸器等
	機器と附属操作スイッチの位置ボックスとその渡り配管		○			エアコン、全熱交換器等
	機器と操作スイッチの渡り配線			○		
	小便器用節水装置への電源供給		○			
	注油口内アース端子よりのアース用配管配線					

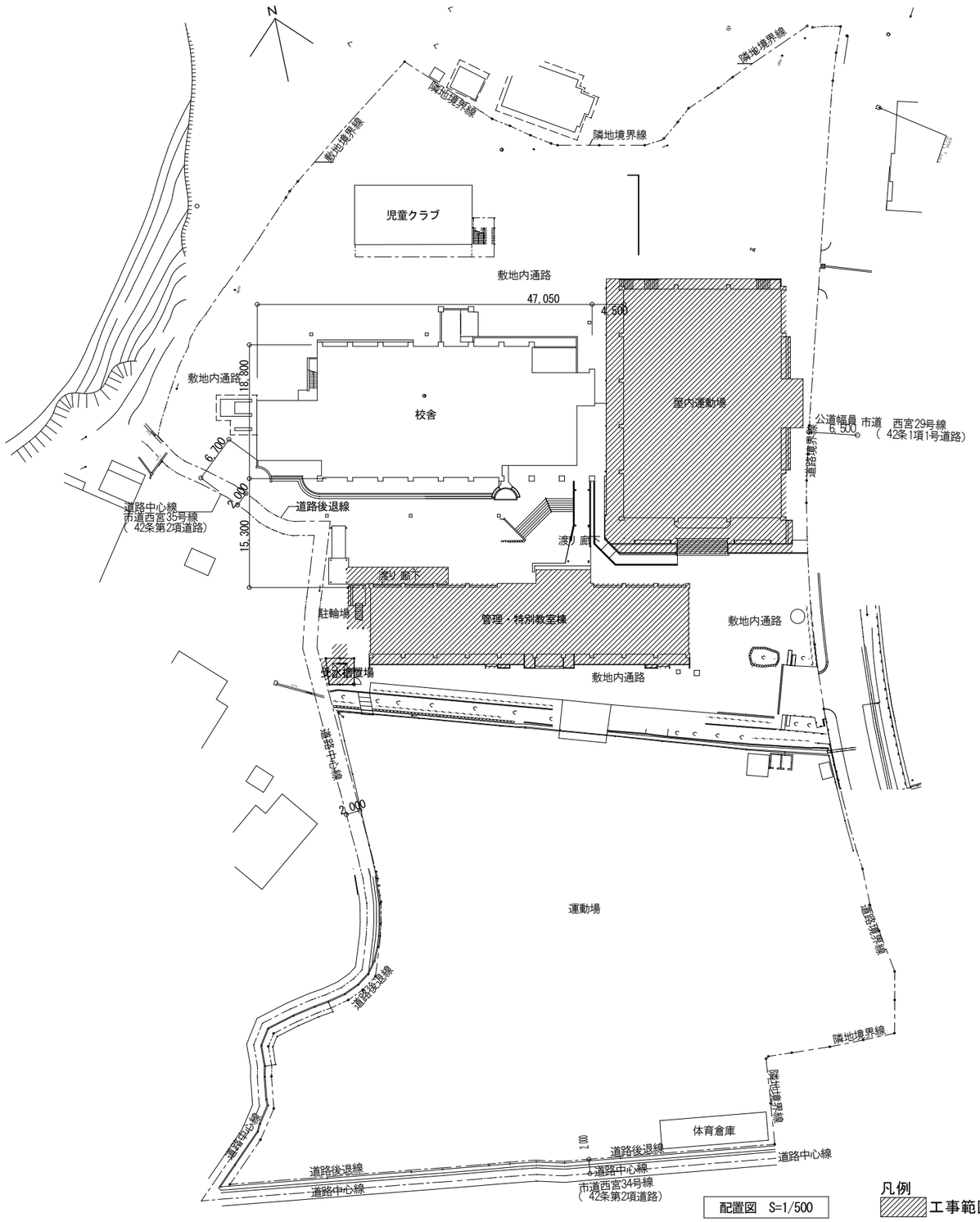
事業年度　年度 工事完成　年度	設計 令和　年　月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 西小学校長寿命化改修工事（建築主体工事）	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社　ＭａｓＭａｓ 一級建築士登録　第198542号 美野　健治　印	図面名称・縮尺　non scale　(A3版-71%縮小) 工事区分表	図番 A-13

■工事概要

1．工事名称：西小学校長寿命化改修工事（建築主体工事）
2．工事場所：広島県三原市西宮2丁目７－１
3．工事内容：
・管理・特別教室棟　内部・外部改修工事
・屋内運動場　内部・外部改修工事
・上記に伴う、折版屋根一時撤去・再取付工事
・受水槽・ポンプ室撤去工事
・受水槽基礎新設工事



付近見取図　S=1/2,500



配置図　S=1/500

凡例
工事範囲を示す。

事業年度　年度 工事完成　年度	設 計 令和 年 月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 西小学校長寿命化改修工事（建築主体工事）	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社　ＭａｓＭａｓ 一級建築士登録　第198542号 美野　健治　印	図面名称・縮尺　S=1/2,500・S=1/500　(A3版-71%縮小) 付近見取図・配置図	図 番 A-14

外部仕上げ表

改修前					下地補修																										既存塗膜等の除去			下地調整												改修後			
					コンクリート打放し仕上げ							モルタル塗り仕上げ																																				
					ひび割れ部				欠損部			ひび割れ部					欠損部																																
					(1)	(1)	(2)	(1)	(1)	(2)		(1)	(1)	(2)	(1)	(2)	(3)	(1)	(1)	(1)	(1)	(2)	(3)	(イ)	(ロ)	(ハ)	(ニ)	(ホ)	(ヘ)																			
符号	場所・部位	下地	仕上げ		樹脂注入工法	Uカットシール材充填工法（0.2mm～1.0mm）	Uカットシール材充填工法（1.0mm超）	シール工法（0.2mm未満）	充填工法	充填工法（発錆部分）	充填工法（番線・セパ跡等）	樹脂注入工法（0.2mm～1.0mm）	Uカットシール材充填工法（0.2mm～1.0mm）	Uカットシール材充填工法（1.0mm超）	シール工法（0.2mm未満）	充填工法（撤去部）	充填工法	充填工法（発錆部分）	0.2m²以上	モルタル塗替え工法	サンダー工法	高圧水洗工法 30MPa以上	塗膜はく離剤工法	水洗い工法 9MPa以上	ポリマーセメントペースト	下地調整材 C-2	鉄鋼面	コンクリート面 モルタル面・ボード面	VP管面	鋼製建具面	符号	仕上げ		備　考
①	根廻り	C	ﾓﾙﾀﾙ刷毛引	（既存のまま）		○		○													○			○																							
②	外壁	C	ｱｸﾘﾙﾘｼﾝ吹付	（撤去）		○		○													○					○																					
③	軒裏	C	ｱｸﾘﾙﾘｼﾝ吹付	（撤去）		○		○	○	○											○			○	○		○																			
④	屋根（1）	C	塩ビシート防水機械固定 ｺﾝｸﾘｰﾄ金鏝押え	（撤去） （既存のまま）																						○																					
⑤	屋根（1）（ﾊﾟﾗﾍﾟｯﾄ立上）	C	塩ビシート防水密着張 ｺﾝｸﾘｰﾄ金鏝押え	（撤去） （既存のまま）																																									
⑥	屋根（1）（ﾊﾟﾗﾍﾟｯﾄ笠木）	C	ｳﾚﾀﾝ塗膜防水 [X-2]	（撤去）																																									
⑦	屋根（2）（3）	C	ｱｽﾌｧﾙﾄ露出防水	（撤去）																																									
⑧	屋根（2）（3）（立上）	C	ｱｽﾌｧﾙﾄ露出防水	（撤去）																																									
⑨	屋根（2）（3）（笠木）	C	防水ﾓﾙﾀﾙ塗	（既存のまま）																																									
⑩	窓台・梁型	C	防水ﾓﾙﾀﾙ塗	（既存のまま）																																									
⑪	ﾙｰﾌﾄﾞﾚｲﾝ（屋根１）		横型改修用ﾄﾞﾚｲﾝφ100	（撤去）																																									
⑫	ﾙｰﾌﾄﾞﾚｲﾝ（屋根２）		φ100	（撤去）																																									
⑬	竪樋		VPφ100　VP塗	（撤去）																						○																					
⑭	竪樋（養生管）		炭素鋼管φ125　FP塗	（撤去）																						○																					
⑮	ﾃﾗｽ　床	C	ﾓﾙﾀﾙ金鏝押え	（既存のまま）																																									
⑯	ﾃﾗｽ　壁（内側）	C	ｺﾝｸﾘｰﾄ打放	（既存のまま）																																									
⑰	ﾃﾗｽ　壁（外側）	C	ｱｸﾘﾙﾘｼﾝ吹付	（撤去）																								○																				
⑱	ﾃﾗｽ　笠木	C	ﾓﾙﾀﾙ塗	（既存のまま）																																									
⑲	ﾃﾗｽ　巾木	C	ﾓﾙﾀﾙ塗　H=100	（既存のまま）																																									
⑳	渡り廊下　柱・梁	S		（既存のまま）																																									
㉑	渡り廊下　屋根	S	折板屋根	（一時撤去）																								○																				
㉒	屋外階段	C	ﾓﾙﾀﾙ金鏝押え	（既存のまま）																							○																				
㉓	屋外階段	S	OP塗	（撤去）																								○																				
㉔	玄関　床	M	磁器質100角タイル張	（既存のまま）																																									
㉕	手すり	S	SOP	（既存のまま）																								○																				
㉖	外部笠木		ﾓﾙﾀﾙ塗	（既存のまま）																																									
参考数量					m	3,155 m	m	2,145.4 m	m²	m²	か所	m²	m²	m²	m²	m²	m²	m²	m²	m²	m²	m²	m²																							

略号			
	C	：コンクリート	SOP　：合成樹脂調合ペイント
	M	：モルタル塗り	防水形複層塗材E　：アクリルゴム系複層仕上塗材
	S	：軽量鉄骨	複層塗材RE　：水性エポキシ樹脂エマルション系複層仕上塗材

特記事項

1　外壁改修については、設計時の全数調査報告書を基に、下地補修の前にひび割れ、コンクリートの剥落、タイルひび割れ･浮き及び仕上塗材の劣化部分等の不良箇所を十分に調査して、施工数量調査報告書及び工事施工計画書を作成し、監督員の承諾を受けた後、改修に着手すること。

2　外部建具周囲・打継目地等のシーリングは既存シーリング材を除去後打替えとする。
※　シーリングの打替えを行う場合は、既存シーリング材及びバックアップ材を除去し、下地及び除去したシーリング材について監督員の確認を受けた後に施工すること。
また、除去したシーリング材は重量を測り、全量の写真撮影を行うこと。

3　本工事に支障となるものは、一時取外し、支障のないよう復旧すること。
既設配管等により、取外しできない場合は監督員と協議すること。

4　水洗い工法は、高圧水洗機（９MPa以上）を使用して、粉化物・付着物等の除去、清掃を行う。

5　クリーニングは、金属、建具及びガラスに適合する洗剤での水洗い程度とする。

6　外壁塗材の除去
(1)　改修範囲内の塗材除去を行うこと。
(2)　除去作業については、平らな面を集塵装置付ディスクグライダーケレン工法で行い、建具取合い・出隅・入隅等を超音波ケレン工法で行うこと。

7　屋外既設 防水層（立上り共）は、撤去とする。脱気テープは@3.0m程度とする。

8　既存塗膜壁面で脆弱と思われる箇所については、付着強度が1.0 N/mm²以上であることを各面３ヶ所以上であることを確認すること

9　外壁のひび割れから常時漏水が認められた場合は、別途漏水防止工事を行う必要があるため、監督員と協議すること。

10　硬質塩化ビニル製雨樋のSOP塗りは、C-2種を適用する。下地調整は、研磨紙ずりによる目荒しの上、溶剤ぶきにより油類の除去を行う。

〔 管理・特別教室棟 〕

事業年度　年度 工事完成　年度	設 計 令和 年 月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 西小学校長寿命化改修工事（建築主体工事）	事務所名･建築士登録番号･氏名 有限会社　ＭａｓＭａｓ 一級建築士登録　第198542号 美野　健治　印	図面名称・縮尺　non scale　(A3版-71%縮小) 外部仕上表（１）	図 番 A-15

外部仕上げ表

| 改修前 | | |

階	室名		床 下地	床 仕上	床ﾚﾍﾞﾙ	巾木 下地	巾木 仕上	巾木 塗装	腰壁・壁 下地	腰壁・壁 仕上	腰壁・壁 塗装	天井 下地	天井 仕上	天井 塗装	天井 廻り縁	天井高(CH)	天井 梁型	備考
共通	廊下	改修前	M	塩化ﾋﾞﾆﾙ長尺ｼｰﾄ張り t=2.5 (撤去)	±0	C	ﾓﾙﾀﾙ H=60	AEP (撤去)	C	ﾓﾙﾀﾙ塗	AEP (撤去)	LGS	化粧石膏吸音ﾎﾞｰﾄﾞ t=9		塩ビ	3,020	AEP (撤去)	水飲場、流し、天井点検口、掲示板 消火ﾎﾞｯｸｽ(一時撤去) SUS手洗場(一時撤去) 室名札(撤去)
		改修後	M (下地調整)	ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄ t=2.0 (新設)	±0	C (既存のまま)	ﾓﾙﾀﾙ H=60 (下地調整)	SOP (塗替)	C (既存のまま)	ﾓﾙﾀﾙ塗 (下地調整)	EP−G (塗替)	LGS (既存のまま)	化粧石膏吸音ﾎﾞｰﾄﾞ t=9 (下地調整)	EP (新設)	塩ビ (既存のまま)	3,020	EP−G (塗替)	水飲場、流し、天井点検口 (既存のまま) 消火ﾎﾞｯｸｽ(再取付) 掲示板枠(SOP塗替) SUS手洗場(再取付) 室名札(新設)
	階段室	改修前	M	塩化ﾋﾞﾆﾙ長尺ｼｰﾄ張り t=2.5 (撤去) (踏面・蹴上共)		C	ﾓﾙﾀﾙ H=60	AEP (塗装)	C	ﾓﾙﾀﾙ塗	AEP (撤去)		化粧石膏吸音ﾎﾞｰﾄﾞ t=9 段裏：ｺﾝｸﾘｰﾄ打放 ﾐﾈｺｰﾄS t=4吹付 (撤去)			2,600		掲示板、ﾀﾗｯﾌﾟ 額(卒業記念)、手すり(一時撤去) ﾉﾝｽﾘｯﾌﾟ(撤去)
		改修後	M (下地調整)	ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄ t=2.0 (新設) (踏面・蹴上共)		C (既存のまま)	ﾓﾙﾀﾙ H=60 (下地調整)	SOP (塗替)	C (既存のまま)	ﾓﾙﾀﾙ塗 (下地調整)	EP−G (塗替)		化粧石膏吸音ﾎﾞｰﾄﾞ t=9 (下地調整) 段裏：ｺﾝｸﾘｰﾄ打放 (下地調整)	EP (新設) 内装薄塗材Si (吹替)		2,600		ﾀﾗｯﾌﾟ (既存のまま) 額(卒業記念)、手すり(再取付) 掲示板枠(SOP塗替) ﾉﾝｽﾘｯﾌﾟ(新設)
1	玄関	改修前	M	磁器質100角ﾀｲﾙ張り (一部撤去) 上り框：ﾃﾗｿﾞｰﾌﾞﾛｯｸ	-150	C	ﾃﾗｿﾞｰﾌﾞﾛｯｸH=150		C	ﾓﾙﾀﾙ塗	AEP (撤去)	C LGS (撤去)	石綿板t=4(ｱｽﾍﾞｽﾄ含有) (撤去) ﾐﾈｺｰﾄS t=4吹付 (撤去)			2,888		担架ﾎﾞｯｸｽ(一時撤去)
		改修後	M (既存のまま)	磁器質100角ﾀｲﾙ張り (一部新設) 上り框：ﾃﾗｿﾞｰﾌﾞﾛｯｸ (既存のまま)	-150	C (既存のまま)	ﾃﾗｿﾞｰﾌﾞﾛｯｸH=150 (既存のまま)		C (既存のまま)	ﾓﾙﾀﾙ塗 (下地調整)	EP−G (塗替)	C LGS (新設)	ｺﾝｸﾘｰﾄ打放 (下地調整) GB-D t=9.5 (新設)	内装薄塗材Si (吹替)		2,888		担架ﾎﾞｯｸｽ(再取付)
	ホール	改修前	M	塩化ﾋﾞﾆﾙ長尺ｼｰﾄ張り t=2.5 (撤去)	±0	C	ﾓﾙﾀﾙ H=60	AEP (撤去)	C	ﾓﾙﾀﾙ塗	AEP (撤去)	C LGS (撤去)	石綿板t=4(ｱｽﾍﾞｽﾄ含有) (撤去) ﾐﾈｺｰﾄS t=4吹付 (撤去)			2,738 3,650	ﾐﾈｺｰﾄS t=4吹付 (撤去)	下駄箱、掲示板 校歌額(一時撤去)
		改修後	M (下地調整)	ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄ t=2.0 (新設)	±0	C (既存のまま)	ﾓﾙﾀﾙ H=60 (下地調整)	SOP (塗替)	C (既存のまま)	ﾓﾙﾀﾙ塗 (下地調整)	EP−G (塗替)	C LGS (新設)	ｺﾝｸﾘｰﾄ打放 (下地調整) GB-D t=9.5 (新設)	内装薄塗材Si (吹替)		2,738 3,650	内装薄塗材Si (吹替)	下駄箱、掲示板(既存のまま) 校歌額(再取付)
	昇降口	改修前	M	磁器質100角ﾀｲﾙ張り (一部撤去) 塩化ﾋﾞﾆﾙ長尺ｼｰﾄ張り t=2.5 (撤去) 上り框：ﾃﾗｿﾞｰﾌﾞﾛｯｸ	-150	C	ﾓﾙﾀﾙ H=60 ﾃﾗｿﾞｰﾌﾞﾛｯｸH=150	AEP (撤去)	C	ﾓﾙﾀﾙ塗	AEP (撤去)	C	ｺﾝｸﾘｰﾄ打放 ﾐﾈｺｰﾄS t=4吹付 (撤去)			2,880		下駄箱
		改修後	M (下地調整)	磁器質100角ﾀｲﾙ張り (一部新設) ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄ t=2.0 (新設) 上り框：ﾃﾗｿﾞｰﾌﾞﾛｯｸ (既存のまま)	-150	C (既存のまま)	ﾓﾙﾀﾙ H=60 (下地調整) ﾃﾗｿﾞｰﾌﾞﾛｯｸH=150 (既存のまま)	SOP (塗替)	C (既存のまま)	ﾓﾙﾀﾙ塗 (下地調整)	EP−G (塗替)	C (既存のまま)	ｺﾝｸﾘｰﾄ打放 (下地調整)	内装薄塗材Si (吹替)		2,880		下駄箱(SOP塗)
	保健室 【VOC濃度測定】	改修前	M	塩化ﾋﾞﾆﾙ長尺ｼｰﾄ張り t=2.5 (撤去)	±0	C	ﾓﾙﾀﾙ H=60	AEP (撤去)	C	ﾓﾙﾀﾙ塗 流し台前： 半磁器100角ｶﾗｰﾀｲﾙ張り	AEP (撤去)	LGS	化粧石膏吸音ﾎﾞｰﾄﾞ t=9	EP	塩ビ	3,100	AEP (撤去)	掃除道具入 ｶｰﾃﾝ、ｶｰﾃﾝﾚｰﾙ、給気ｶﾞﾗﾘ、換気扇、煙突 給湯器、電池時計 流し台、ｶﾞｽ台、水屋 ｶｰﾃﾝﾎﾞｯｸｽ、戸棚 鏡、吊りｶｰﾃﾝ、吊りｶｰﾃﾝﾚｰﾙ (一時撤去)、掲示板
		改修後	M (下地調整)	ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄ t=2.0 (新設)	±0	C (既存のまま)	ﾓﾙﾀﾙ H=60 (下地調整)	SOP (塗替)	C (既存のまま)	ﾓﾙﾀﾙ塗 (下地調整) 流し台前： 半磁器100角ｶﾗｰﾀｲﾙ張り (既存のまま)	EP−G (塗替)	LGS (既存のまま)	化粧石膏吸音ﾎﾞｰﾄﾞ t=9 (下地調整)	EP (塗替)	塩ビ (既存のまま)	3,100	EP−G (塗替)	掃除道具入 (既存のまま) ｶｰﾃﾝ、ｶｰﾃﾝﾚｰﾙ、給気ｶﾞﾗﾘ、換気扇、煙突(既存のまま) 給湯器、電池時計 (既存のまま) 流し台、ｶﾞｽ台、水屋、ｼｬﾜｰﾕﾆｯﾄ (既存のまま) ｶｰﾃﾝﾎﾞｯｸｽ(下地調整のうえSOP塗)、戸棚(部分補修) 鏡、吊りｶｰﾃﾝ、吊りｶｰﾃﾝﾚｰﾙ(再取付)、掲示板(SOP塗)
	校長室	改修前	M	ﾀｲﾙｶｰﾍﾟｯﾄ敷 (撤去)	±0	C	米栂 H=60	OP (撤去)	M	ﾋﾞﾆﾙｸﾛｽ張 (撤去)		LGS	石膏ﾎﾞｰﾄﾞ t=9下地 ﾋﾞﾆﾙｸﾛｽ張 (撤去)		塩ビ	3,030 2,750	ﾋﾞﾆﾙｸﾛｽ張 (撤去)	行事用白板、額掛け、ｶｰﾃﾝﾚｰﾙ、洗面化粧台 換気扇(設備)、ｶｰﾃﾝﾎﾞｯｸｽ、戸棚 ｶｰﾃﾝ(一時撤去)
		改修後	M (既存のまま)	ﾀｲﾙｶｰﾍﾟｯﾄ敷 (新設)	±0	C (既存のまま)	米栂 H=60 (下地調整)	SOP (塗替)	M (下地調整)	ﾋﾞﾆﾙｸﾛｽ張 (新設)		LGS (既存のまま)	石膏ﾎﾞｰﾄﾞ t=9下地 (既存のまま) ﾋﾞﾆﾙｸﾛｽ張 (新設)		塩ビ (既存のまま)	3,030 2,750	ﾋﾞﾆﾙｸﾛｽ張 (新設)	行事用白板、ｶｰﾃﾝﾚｰﾙ、洗面化粧台 (既存のまま) 換気扇(設備) (既存のまま) ｶｰﾃﾝﾎﾞｯｸｽ (SOP塗替)、 額掛け(OS塗替) 戸棚 (部分補修) ｶｰﾃﾝ(再取付)

凡例

符号	名称	符号	名称	符号	名称	符号	名称
M	モルタル	OP	油性調合ペイント	GB-S	耐水ボード		
C	コンクリート	SOP	合成樹脂調合ペイント	GB-R	石膏ボード		
CB	コンクリートブロック	EP	合成樹脂エマルションペイント	GB-D	化粧石膏ボード		
RC	鉄筋コンクリート	EP-G	つや有合成樹脂エマルションペイント	GB-F	強化石膏ボード		
LGS	軽量鉄骨下地	AEP	アクリル樹脂水性エマルションペイント	GB-R-H	普通硬質強化石膏ボード		
				DR	ロックウール化粧吸音板		

＊特記事項　巾木・壁の塗装(新設)は、既存塗装面の下地調整を行うこと。

〔 管理・特別教室棟 〕

事業年度　年度 工事完成　年度	設計 令和 年 月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 西小学校長寿命化改修工事（建築主体工事）	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社　ＭａｓＭａｓ 一級建築士登録　第198542号 美野　健治　印	図面名称・縮尺　non scale (A3版-71%縮小) 内部仕上表（１）	図番 A-17

階	室名		床 下地	床 仕上	床レベル	巾木 下地	巾木 仕上	巾木 塗装	腰壁・壁 下地	腰壁・壁 仕上	腰壁・壁 塗装	天井 下地	天井 仕上	天井 塗装	天井 廻り縁	天井高(CH)	天井 梁型	備考
1	職員室 【VOC濃度測定】	改修前	M	塩化ﾋﾞﾆﾙ長尺ｼｰﾄ張り t=2.5 (撤去)	±0	C	ﾓﾙﾀﾙ H=60 ｿﾌﾄ巾木 H=60 (撤去)	AEP (撤去)	C C LGS	流し台前：半磁器100角ｶﾗｰﾀｲﾙ張り ﾓﾙﾀﾙ ﾌﾚｷｼﾌﾞﾙﾎﾞｰﾄﾞ t=5	AEP (撤去) AEP (撤去)	LGS	化粧石膏吸音ﾎﾞｰﾄﾞ t=9	EP	塩ビ	3,100	AEP (撤去)	平面黒板、行事用黒板、掲示板、煙突口蓋 掃除道具入、水屋 換気扇(設備)、給気ｶﾞﾗﾘ ｶｰﾃﾝﾚｰﾙ、ｶｰﾃﾝﾎﾞｯｸｽ、戸棚 ｶｰﾃﾝ(一時撤去) 流し台、ｶﾞｽ台 (撤去)
		改修後	M 鋼製床組 (新設)	帯電防止ﾋﾞﾆﾙ床タイル t=5.0 (新設) スロープ部 防滑ビニル床シートt=2.5 (新設)	+50	C (既存のまま)	ﾓﾙﾀﾙ H=60 (下地調整) ﾋﾞﾆﾙ巾木 H=60 (新設)	SOP (塗替)	C (既存のまま) C (既存のまま) LGS (既存のまま)	流し台前：半磁器100角ｶﾗｰﾀｲﾙ張り (既存のまま) ﾓﾙﾀﾙ (下地調整) ﾌﾚｷｼﾌﾞﾙﾎﾞｰﾄﾞ t=5 (下地調整)	EP一G (塗替) EP一G (塗替)	LGS (既存のまま)	化粧石膏吸音ﾎﾞｰﾄﾞ t=9 (下地調整)	EP (新設)	塩ビ (既存のまま)	3,050	EP一G (塗替)	行事用黒板、掲示板、掃除道具入、水屋 (既存のまま) 流し台、ｶﾞｽ台 (新設) 換気扇(設備)、給気ｶﾞﾗﾘ (既存のまま) ｶｰﾃﾝﾚｰﾙ、ｶｰﾃﾝﾎﾞｯｸｽ (既存のまま) ｶｰﾃﾝ(再取付) 戸棚(既存のまま) 平面黒板枠、煙突口蓋(SOP塗替)
	印刷室	改修前	M	塩化ﾋﾞﾆﾙ長尺ｼｰﾄ張り t=2.5 (撤去)		C	ﾓﾙﾀﾙ H=60 ｿﾌﾄ巾木 H=60 (撤去)	AEP (撤去)	C LGS	ﾓﾙﾀﾙ ﾌﾚｷｼﾌﾞﾙﾎﾞｰﾄﾞ t=5	AEP (撤去) AEP (撤去)	LGS	化粧石膏吸音ﾎﾞｰﾄﾞ t=9	EP	塩ビ	2,500		戸棚
		改修後	M (下地調整)	ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄ t=2.0 (新設)		C (既存のまま)	ﾓﾙﾀﾙ H=60 (下地調整) ﾋﾞﾆﾙ巾木 H=60 (新設)	SOP (新設)	C (既存のまま) LGS (既存のまま)	ﾓﾙﾀﾙ (下地調整) ﾌﾚｷｼﾌﾞﾙﾎﾞｰﾄﾞ t=5 (下地調整)	EP一G (塗替) EP一G (塗替)	LGS (既存のまま)	化粧石膏吸音ﾎﾞｰﾄﾞ t=9 (下地調整)	EP (既存のまま)	塩ビ (既存のまま)	2,500		戸棚 (既存のまま)
	放送室	改修前	M	塩化ﾋﾞﾆﾙ長尺ｼｰﾄ張り t=2.5 (撤去)		C	米栂 H=60	OP (撤去)	W	ﾌﾚｷｼﾌﾞﾙﾎﾞｰﾄﾞ有孔板t=4 ｶﾝﾚｲｼｬ裏打ｸﾞﾗｽｳｰﾙ充填t=25	AEP (撤去)	C	ﾌﾚｷｼﾌﾞﾙﾎﾞｰﾄﾞ有孔板t=4 ｶﾝﾚｲｼｬ裏打ｸﾞﾗｽｳｰﾙ充填t=25	AEP (撤去)	塩ビ	3,100	AEP (撤去)	平面黒板、ｶｰﾃﾝﾚｰﾙ ｱﾝﾌﾟ台 ｶｰﾃﾝﾎﾞｯｸｽ ｶｰﾃﾝ(一時撤去)
		改修後	M (下地調整)	ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄ t=2.0 (新設)		C (既存のまま)	米栂 H=60 (下地調整)	SOP (塗替)	W (既存のまま)	ﾌﾚｷｼﾌﾞﾙﾎﾞｰﾄﾞ有孔板t=4 (下地調整) ｶﾝﾚｲｼｬ裏打ｸﾞﾗｽｳｰﾙ充填t=25 (既存のまま)	EP一G (塗替)	C (既存のまま)	ﾌﾚｷｼﾌﾞﾙﾎﾞｰﾄﾞ有孔板t=4 (下地調整) ｶﾝﾚｲｼｬ裏打ｸﾞﾗｽｳｰﾙ充填t=25 (既存のまま)	EP (塗替)	塩ビ (既存のまま)	3,100	EP一G (塗替)	平面黒板、ｶｰﾃﾝﾚｰﾙ (既存のまま) ｱﾝﾌﾟ台、ｶｰﾃﾝﾎﾞｯｸｽ (既存のまま) ｶｰﾃﾝ(再取付)
	男女更衣室	改修前	M	塩化ﾋﾞﾆﾙ長尺ｼｰﾄ張り t=2.5 (撤去)		C	ﾓﾙﾀﾙ H=60 ｿﾌﾄ巾木 H=60 (撤去)	AEP (撤去)	C LGS	ﾓﾙﾀﾙ ﾌﾚｷｼﾌﾞﾙﾎﾞｰﾄﾞ t=5	AEP (撤去) AEP (撤去)	LGS	化粧石膏吸音ﾎﾞｰﾄﾞ t=9	EP	塩ビ	2,500		鏡(一時撤去)
		改修後	M (下地調整)	ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄ t=2.0 (新設)		C (既存のまま)	ﾓﾙﾀﾙ H=60 (下地調整) ｿﾌﾄ巾木 H=60 (新設)	SOP (塗替)	C (既存のまま) LGS (既存のまま)	ﾓﾙﾀﾙ (下地調整) ﾌﾚｷｼﾌﾞﾙﾎﾞｰﾄﾞ t=5 (下地調整)	EP一G (塗替) EP一G (塗替)	LGS (既存のまま)	化粧石膏吸音ﾎﾞｰﾄﾞ t=9	EP (既存のまま)	塩ビ (既存のまま)	2,500		鏡(再取付)
	倉庫	改修前	M	塩化ﾋﾞﾆﾙ長尺ｼｰﾄ張り t=2.5 (撤去)		C	ﾓﾙﾀﾙ H=60 ｿﾌﾄ巾木 H=60	AEP (撤去)	C LGS	ﾓﾙﾀﾙ ﾌﾚｷｼﾌﾞﾙﾎﾞｰﾄﾞ t=5	AEP (撤去) AEP (撤去)	LGS	化粧石膏吸音ﾎﾞｰﾄﾞ t=9	EP	塩ビ	2,500		金庫(一時撤去)
		改修後	M (下地調整)	ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄ t=2.0 (新設)		C (既存のまま)	ﾓﾙﾀﾙ H=60 (下地調整) ｿﾌﾄ巾木 H=60 (新設)	SOP (塗替)	C (既存のまま) LGS (既存のまま)	ﾓﾙﾀﾙ (下地調整) ﾌﾚｷｼﾌﾞﾙﾎﾞｰﾄﾞ t=5 (下地調整)	EP一G (塗替) EP一G (塗替)	LGS (既存のまま)	化粧石膏吸音ﾎﾞｰﾄﾞ t=9	EP (既存のまま)	塩ビ (既存のまま)	2,500		金庫(再取付)
	物入れ (階段下)	改修前	C	ﾓﾙﾀﾙ塗	±0	C	ﾓﾙﾀﾙ H=60		C	ﾓﾙﾀﾙ塗		C	ﾓﾙﾀﾙ塗					
		改修後	C (既存のまま)	ﾓﾙﾀﾙ塗 (既存のまま)	±0	C (既存のまま)	ﾓﾙﾀﾙ H=60 (既存のまま)		C (既存のまま)	ﾓﾙﾀﾙ塗 (既存のまま)		C (既存のまま)	ﾓﾙﾀﾙ塗 (既存のまま)					
2	図書室 【VOC濃度測定】	改修前	C	ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞ	±0	C	米栂 H=60	OP (一部撤去)	M	ﾓﾙﾀﾙ塗	AEP (一部撤去)	LGS	化粧石膏吸音ﾎﾞｰﾄﾞ t=9	EP	塩ビ	3,100	AEP (撤去)	曲面・学習黒板、掲示板、書架、煙突口蓋 掃除道具入、ｶｳﾝﾀｰ、机、椅子、電池時計 ﾌﾞﾗｲﾝﾄﾞﾎﾞｯｸｽ ﾌﾞﾗｲﾝﾄﾞ(一時撤去)
		改修後	C (既存のまま)	ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞ (既存のまま)	±0	C (既存のまま)	米栂 H=60 (下地調整)	SOP (一部塗替)	M (下地調整)	ﾓﾙﾀﾙ塗 (一部下地調整)	EP一G (一部塗替)	LGS (既存のまま)	化粧石膏吸音ﾎﾞｰﾄﾞ t=9 (下地調整)	EP (新設)	塩ビ (既存のまま)	3,100	EP一G (塗替)	曲面・学習黒板、掲示板 (既存のまま) 書架、掃除道具入、ｶｳﾝﾀｰ、机、椅子 (既存のまま) 電池時計、ﾌﾞﾗｲﾝﾄﾞﾎﾞｯｸｽ (既存のまま) ﾌﾞﾗｲﾝﾄﾞ(再取付) 煙突口蓋(SOP塗替)

凡例

符号	名称	符号	名称	符号	名称	符号	名称		
M	モルタル	OP	油性調合ペイント	GB-S	耐水ボード				
C	コンクリート	SOP	合成樹脂調合ペイント	GB-R	石膏ボード				
CB	コンクリートブロック	EP	合成樹脂エマルションペイント	GB-D	化粧石膏ボード				
RC	鉄筋コンクリート	EP-G	つや有合成樹脂エマルションペイント	GB-F	強化石膏ボード				
LGS	軽量鉄骨下地	AEP	アクリル樹脂水性エマルションペイント	GB-R-H	普通硬質強化石膏ボード				
				DR	ロックウール化粧吸音板				

＊特記事項　巾木・壁の塗装(新設)は、既存塗装面の下地調整を行うこと。

〔 管理・特別教室棟 〕

事業年度　年度 工事完成　年度	設計 令和 年 月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 西小学校長寿命化改修工事（建築主体工事）

事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社　ＭａｓＭａｓ 一級建築士登録　第198542号 美野　健治　印	図面名称・縮尺　non scale (A3版-71%縮小) 内部仕上表（２）	図番 A-18

階	室名		床 下地	床 仕上	床レベル	巾木 下地	巾木 仕上	巾木 塗装	腰壁・壁 下地	腰壁・壁 仕上	腰壁・壁 塗装	天井 下地	天井 仕上	天井 塗装	天井 廻り縁	天井 天井高(CH)	天井 梁型	備考
2	教材室	改修前	M	塩化ﾋﾞﾆﾙ長尺ｼｰﾄ張り t=2.5 (撤去)		C	ﾓﾙﾀﾙ H=60	AEP (撤去)	C	ﾓﾙﾀﾙ塗	AEP (撤去)	LGS	化粧石膏吸音ﾎﾞｰﾄﾞ t=9		塩ビ	3,100	AEP (撤去)	戸棚、ｶｰﾃﾝﾚｰﾙ、ｶｰﾃﾝﾎﾞｯｸｽ ｶｰﾃﾝ(一時撤去)
		改修後	M (下地調整)	ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄ t=2.0 (新設)		C (既存のまま)	ﾓﾙﾀﾙ H=60 (下地調整)	SOP (塗替)	C (既存のまま)	ﾓﾙﾀﾙ塗 (下地調整)	EP－G (塗替)	LGS (既存のまま)	化粧石膏吸音ﾎﾞｰﾄﾞ t=9 (下地調整)	EP (新設)	塩ビ (既存のまま)	3,100	EP－G (塗替)	戸棚、ｶｰﾃﾝﾚｰﾙ、ｶｰﾃﾝﾎﾞｯｸｽ (既存のまま) ｶｰﾃﾝ(再取付)
	音楽準備室	改修前	M	塩化ﾋﾞﾆﾙ長尺ｼｰﾄ張り t=2.5 (撤去)		C	ﾓﾙﾀﾙ H=60 ｿﾌﾄ巾木 H=60 (撤去)	AEP (撤去)	C LGS	ﾓﾙﾀﾙ塗 ｹｲｶﾙ板 t=6	AEP (撤去)	LGS	化粧石膏吸音ﾎﾞｰﾄﾞ t=9		塩ビ	3,100	AEP (撤去)	掲示板、煙突、見切三方 ｶｰﾃﾝﾚｰﾙ、ｶｰﾃﾝﾎﾞｯｸｽ ｶｰﾃﾝ(一時撤去) 棚
		改修後	M (下地調整)	ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄ t=2.0 (新設)		C (既存のまま)	ﾓﾙﾀﾙ H=60 (下地調整) ﾋﾞﾆﾙ巾木 H=60 (新設)	SOP (塗替)	C LGS	ﾓﾙﾀﾙ塗 (下地調整) ｹｲｶﾙ板 t=6 (下地調整)	EP－G (塗替)	LGS (既存のまま)	化粧石膏吸音ﾎﾞｰﾄﾞ t=9 (下地調整)	EP (新設)	塩ビ (既存のまま)	3,100	EP－G (塗替)	掲示板、煙突 (既存のまま) ｶｰﾃﾝﾚｰﾙ、ｶｰﾃﾝﾎﾞｯｸｽ (既存のまま) ｶｰﾃﾝ(再取付) 棚 (部分補修) 見切三方(SOP塗替)
3	図工室 【VOC濃度測定】	改修前	M	塩化ﾋﾞﾆﾙ長尺ｼｰﾄ張り t=2.5 (撤去)		C	ﾓﾙﾀﾙ H=60	AEP (撤去)	C	ﾓﾙﾀﾙ塗	AEP (撤去)	LGS	化粧石膏吸音ﾎﾞｰﾄﾞ t=9		塩ビ	3,100	AEP (撤去)	平面黒板、掲示板、煙突 ｽｸﾘｰﾝ、地図掛、ﾃﾚﾋﾞ台、ｶｰﾃﾝﾚｰﾙ、 教台、ｶｰﾃﾝﾎﾞｯｸｽ、戸棚、流し台 ｶｰﾃﾝ(一時撤去)
		改修後	M (下地調整)	ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄ t=2.0 (新設)		C (既存のまま)	ﾓﾙﾀﾙ H=60 (下地調整)	SOP (塗替)	C (既存のまま)	ﾓﾙﾀﾙ塗 (下地調整)	EP－G (塗替)	LGS (既存のまま)	化粧石膏吸音ﾎﾞｰﾄﾞ t=9 (下地調整)	EP (新設)	塩ビ (既存のまま)	3,100	EP－G (塗替)	平面黒板、掲示板、煙突 (既存のまま) ｽｸﾘｰﾝ、地図掛、ﾃﾚﾋﾞ台、ｶｰﾃﾝﾚｰﾙ (既存のまま) ｶｰﾃﾝﾎﾞｯｸｽ(既存のまま)、流し台SUSｶﾊﾞｰ(新設) 教台(天板補修) ｶｰﾃﾝ(再取付) 戸棚(既存のまま)
	図工準備室	改修前	M	塩化ﾋﾞﾆﾙ長尺ｼｰﾄ張り t=2.5 (撤去)		C	ﾓﾙﾀﾙ H=60	EPA (撤去)	C	ﾓﾙﾀﾙ塗	AEP (撤去)	LGS	化粧石膏吸音ﾎﾞｰﾄﾞ t=9		塩ビ	3,100	AEP (撤去)	掃除道具入、台 ｶｰﾃﾝ、ｶｰﾃﾝﾚｰﾙ ｶｰﾃﾝﾎﾞｯｸｽ 戸棚
		改修後	M (下地調整)	ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄ t=2.0 (新設)		C (既存のまま)	ﾓﾙﾀﾙ H=60 (下地調整)	EP－G (塗替)	C (既存のまま)	ﾓﾙﾀﾙ塗 (下地調整)	EP－G (塗替)	LGS (既存のまま)	化粧石膏吸音ﾎﾞｰﾄﾞ t=9 (下地調整)	EP (新設)	塩ビ (既存のまま)	3,100	EP－G (塗替)	掃除道具入、台、ｶｰﾃﾝ、ｶｰﾃﾝﾚｰﾙ (既存のまま) ｶｰﾃﾝﾎﾞｯｸｽ (既存のまま) 戸棚 (既存のまま)
	視聴覚室 【VOC濃度測定】	改修前	大引・根太 (撤去)	複合ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞ t=15 (撤去)	±0	C	米栂 ｿﾌﾄ巾木 H=60 (撤去)		C	ﾋﾞﾆﾙｸﾛｽ張		LGS	化粧石膏吸音ﾎﾞｰﾄﾞ t=9 (一部撤去)		塩ビ	3,100		引分黒板、掲示板、煙突、換気扇(設備) ｽｸﾘｰﾝ、地図掛、机、椅子、電池時計 ｶｰﾃﾝﾎﾞｯｸｽ、戸棚 ﾌﾞﾗｲﾝﾄﾞ(一時撤去)
		改修後	鋼製床組 (新設)	帯電防止ﾋﾞﾆﾙ床タイル t=5.0 (新設)	±0	C (既存のまま)	米栂 (下地調整) ﾋﾞﾆﾙ巾木 H=60 (新設)	SOP (塗替)	C (既存のまま)	ﾋﾞﾆﾙｸﾛｽ張 (既存のまま)		LGS (既存のまま)	化粧石膏吸音ﾎﾞｰﾄﾞ t=9 (一部新設)		塩ビ (既存のまま)	3,100		引分黒板、掲示板、煙突、換気扇(設備) (既存のまま) ｽｸﾘｰﾝ、地図掛、机、椅子 (既存のまま) 電池時計、ｶｰﾃﾝﾎﾞｯｸｽ、戸棚 (既存のまま) ﾌﾞﾗｲﾝﾄﾞ(再取付)
	視聴覚準備室			塩化ﾋﾞﾆﾙ長尺ｼｰﾄ張り t=2.5 (撤去)		C	ﾓﾙﾀﾙ H=60	AEP (撤去)	C	ﾓﾙﾀﾙ塗	AEP (撤去)	LGS	化粧石膏吸音ﾎﾞｰﾄﾞ t=9		塩ビ	3,100	AEP (撤去)	ｶｰﾃﾝ(一時撤去)
				ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄ t=2.0 (新設)		C (既存のまま)	ﾓﾙﾀﾙ H=60 (下地調整)	SOP (塗替)	C (既存のまま)	ﾓﾙﾀﾙ塗 (下地調整)	EP－G (塗替)	LGS (既存のまま)	化粧石膏吸音ﾎﾞｰﾄﾞ t=9 (下地調整)	EP (新設)	塩ビ (既存のまま)	3,100	EP－G (塗替)	ｶｰﾃﾝ(再取付)
	ＰＴＡ事務室	改修前	M	塩化ﾋﾞﾆﾙ長尺ｼｰﾄ張り t=2.5 (撤去)		C	ﾓﾙﾀﾙ H=60	AEP (撤去)	C	ﾓﾙﾀﾙ塗	AEP (撤去)	LGS	化粧石膏吸音ﾎﾞｰﾄﾞ t=9		塩ビ	3,100	AEP (撤去)	平面黒板、行事用黒板、掲示板、換気扇 掃除道具入、電池時計、ｶｰﾃﾝﾚｰﾙ、机、椅子 ｶｰﾃﾝﾎﾞｯｸｽ、戸棚 ｶｰﾃﾝ(一時撤去)
		改修後	M (下地調整)	ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄ t=2.0 (新設)		C (既存のまま)	ﾓﾙﾀﾙ H=60 (下地調整)	SOP (塗替)	C (既存のまま)	ﾓﾙﾀﾙ塗 (下地調整)	EP－G (塗替)	LGS (既存のまま)	化粧石膏吸音ﾎﾞｰﾄﾞ t=9 (下地調整)	EP (新設)	塩ビ (既存のまま)	3,100	EP－G (塗替)	平面黒板、行事用黒板、掲示板、換気扇 (既存のまま) 掃除道具入、電池時計、ｶｰﾃﾝﾚｰﾙ、机 (既存のまま) 椅子、ｶｰﾃﾝﾎﾞｯｸｽ (既存のまま) ｶｰﾃﾝ(再取付) 戸棚(部分補修)

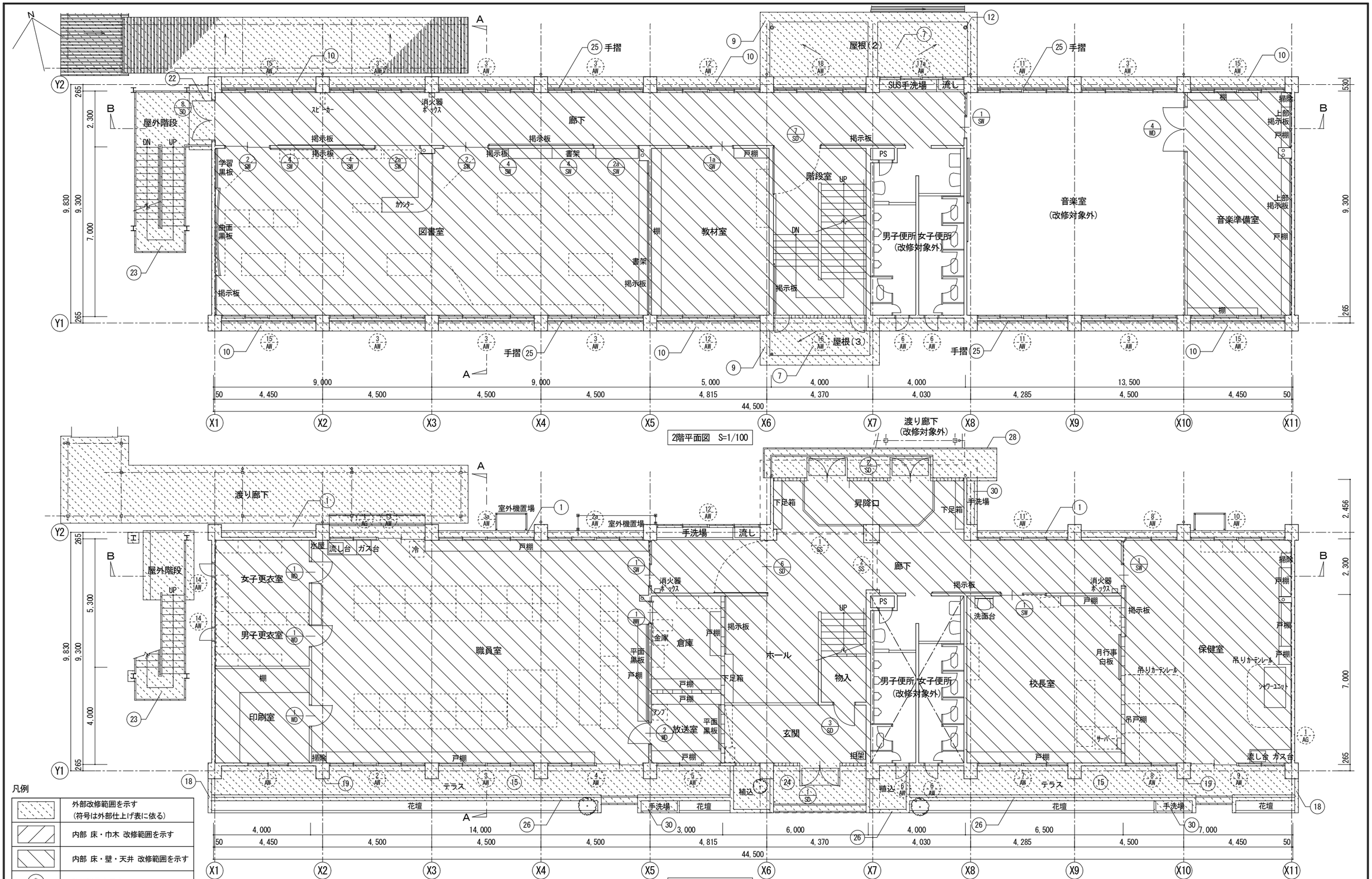
凡例

符号	名称	符号	名称	符号	名称	符号	名称		
M	モルタル	OP	油性調合ペイント	GB-S	耐水ボード				
C	コンクリート	SOP	合成樹脂調合ペイント	GB-R	石膏ボード				
CB	コンクリートブロック	EP	合成樹脂エマルションペイント	GB-D	化粧石膏ボード				
RC	鉄筋コンクリート	EP-G	つや有合成樹脂エマルションペイント	GB-F	強化石膏ボード				
LGS	軽量鉄骨下地	AEP	アクリル樹脂水性エマルションペイント	GB-R-H	普通硬質強化石膏ボード				
				DR	ロックウール化粧吸音板				

＊特記事項　巾木・壁の塗装(新設)は、既存塗装面の下地調整を行うこと。

〔 管理・特別教室棟 〕

事業年度　年度 工事完成　年度	設計 令和 年 月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 西小学校長寿命化改修工事（建築主体工事）	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社　ＭａｓＭａｓ 一級建築士登録　第198542号 美野　健治　印	図面名称・縮尺　non scale (A3版-71%縮小) 内部仕上表（３）	図番 A-19

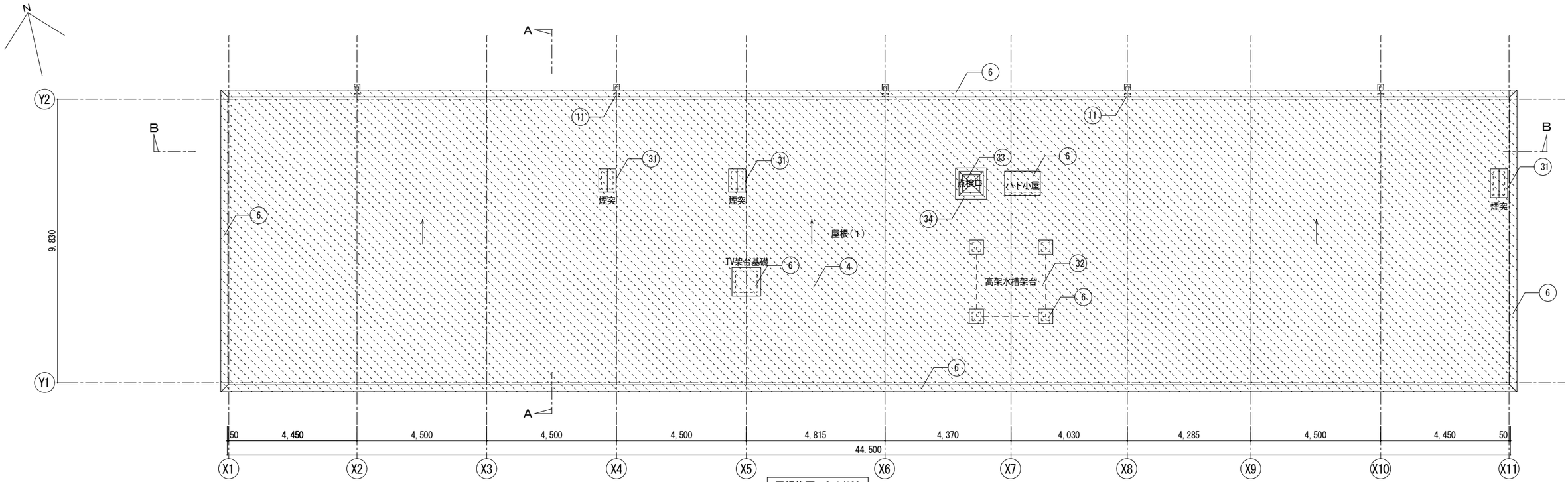


凡例

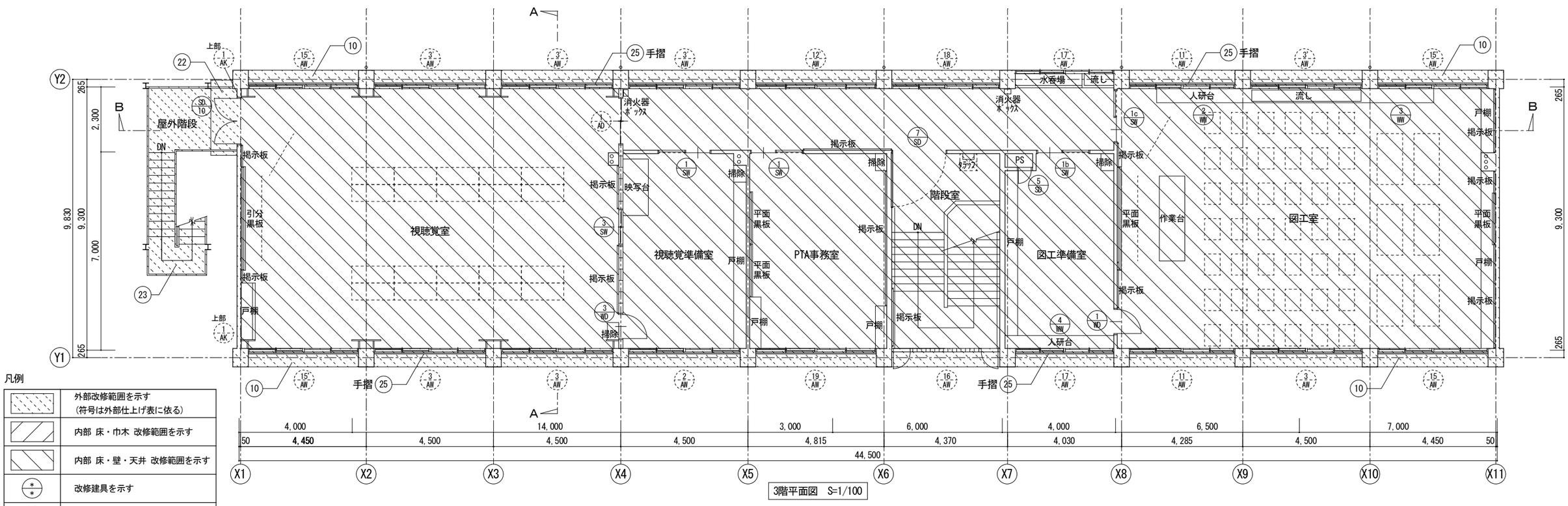
	外部改修範囲を示す (符号は外部仕上げ表に依る)
	内部 床・巾木 改修範囲を示す
	内部 床・壁・天井 改修範囲を示す
	改修建具を示す
	既存のままの建具を示す

〔 管理・特別教室棟 〕

事業年度 年度 工事完成 年度	設 計 令和 年 月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 西小学校長寿命化改修工事（建築主体工事）	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社 ＭａｓＭａｓ 一級建築士登録 第198542号 美野 健治 印	図面名称・縮尺 S=1/100 (A3版-71%縮小) １・２階平面図	図 番 A-20



屋根伏図　S=1/100



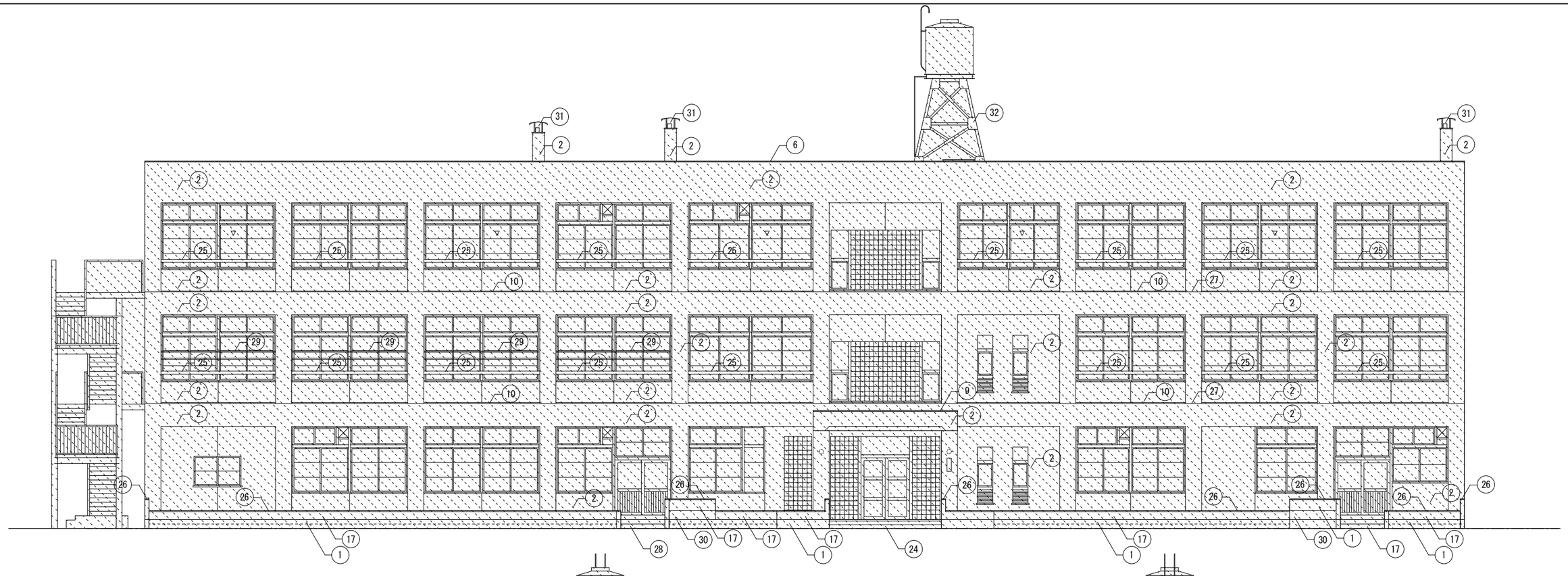
3階平面図　S=1/100

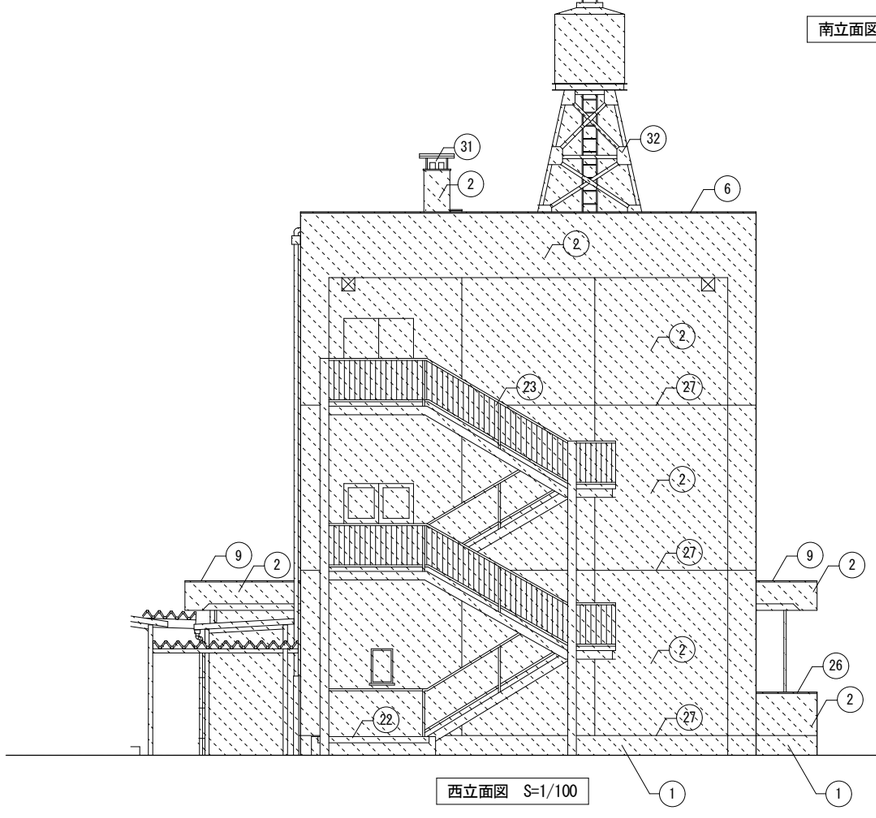
凡例

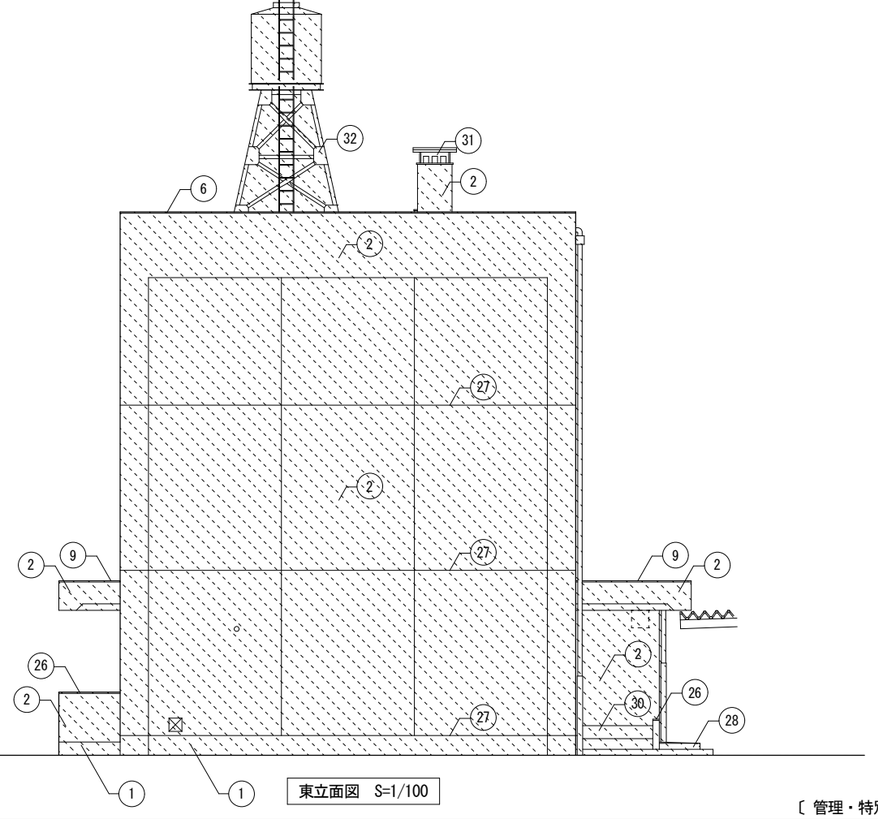
	外部改修範囲を示す （符号は外部仕上げ表に依る）
	内部 床・巾木 改修範囲を示す
	内部 床・壁・天井 改修範囲を示す
	改修建具を示す
	既存のままの建具を示す

〔 管理・特別教室棟 〕

事業年度　年度 工事完成　年度	設 計 令和 年 月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 西小学校長寿命化改修工事（建築主体工事）	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社　ＭａｓＭａｓ 一級建築士登録　第198542号 美野　健治　印	図面名称・縮尺　S=1/100　(A3版-71%縮小) ３階平面図・屋根伏図	図 番 A-21





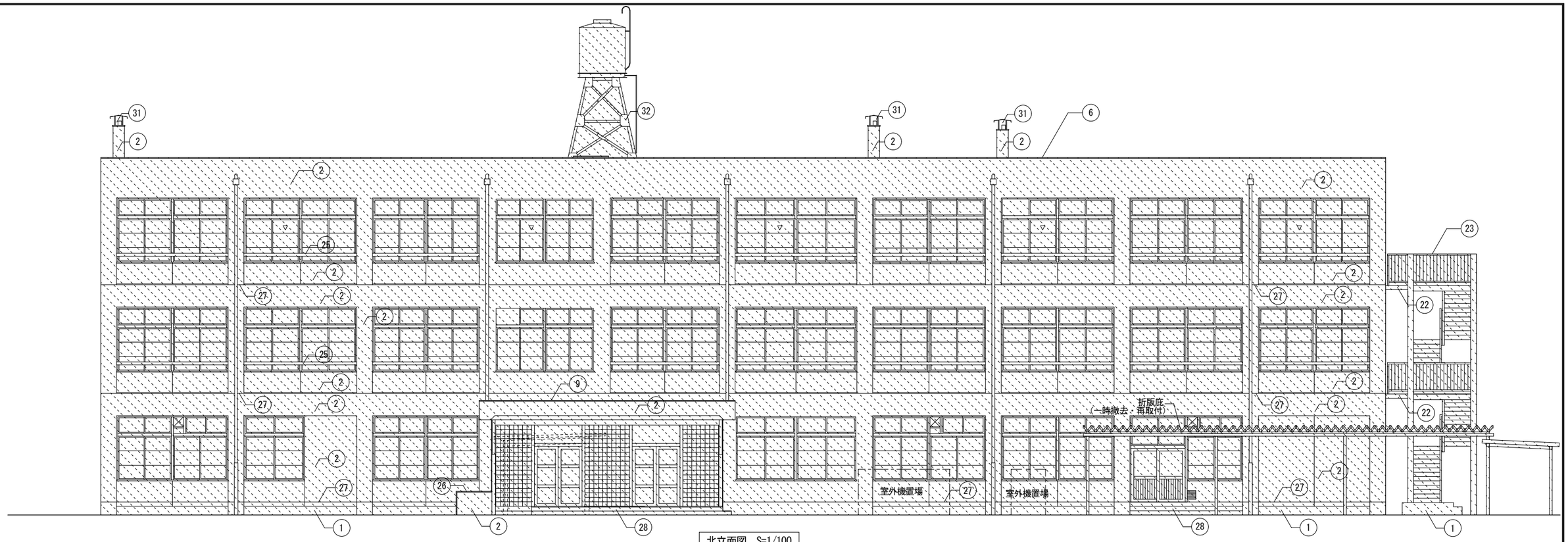


凡例

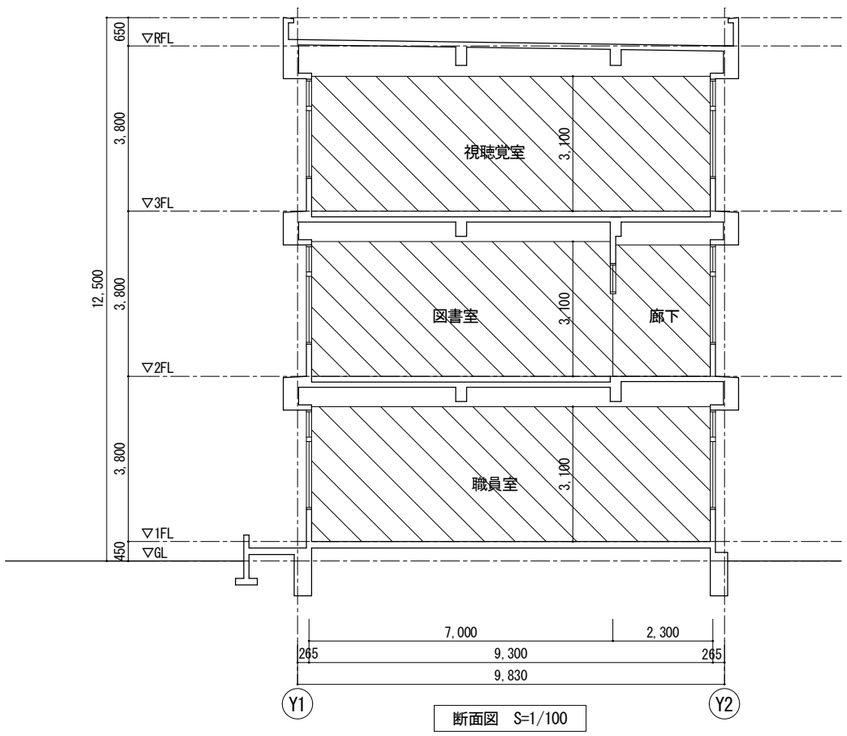
	外部改修範囲を示す （符号は外部仕上げ表に依る）

〔 管理・特別教室棟 〕

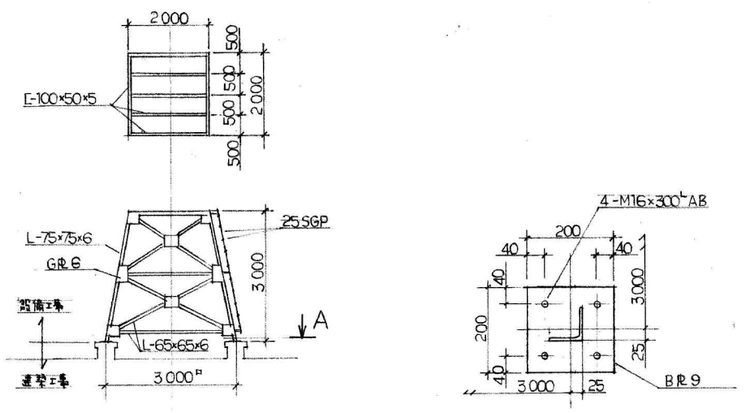
事業年度　年度 工事完成　年度	設 計 令和 年 月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 西小学校長寿命化改修工事（建築主体工事）	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社　ＭａｓＭａｓ 一級建築士登録　第198542号 美野　健治　印	図面名称・縮尺　S=1/100　(A3版-71%縮小) 立面図（１）	図 番 A-22



北立面図　S=1/100



断面図　S=1/100



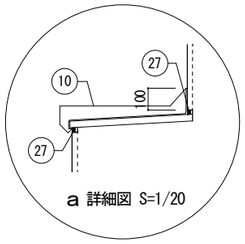
高架水槽基礎　撤去図　S=1/100

凡例

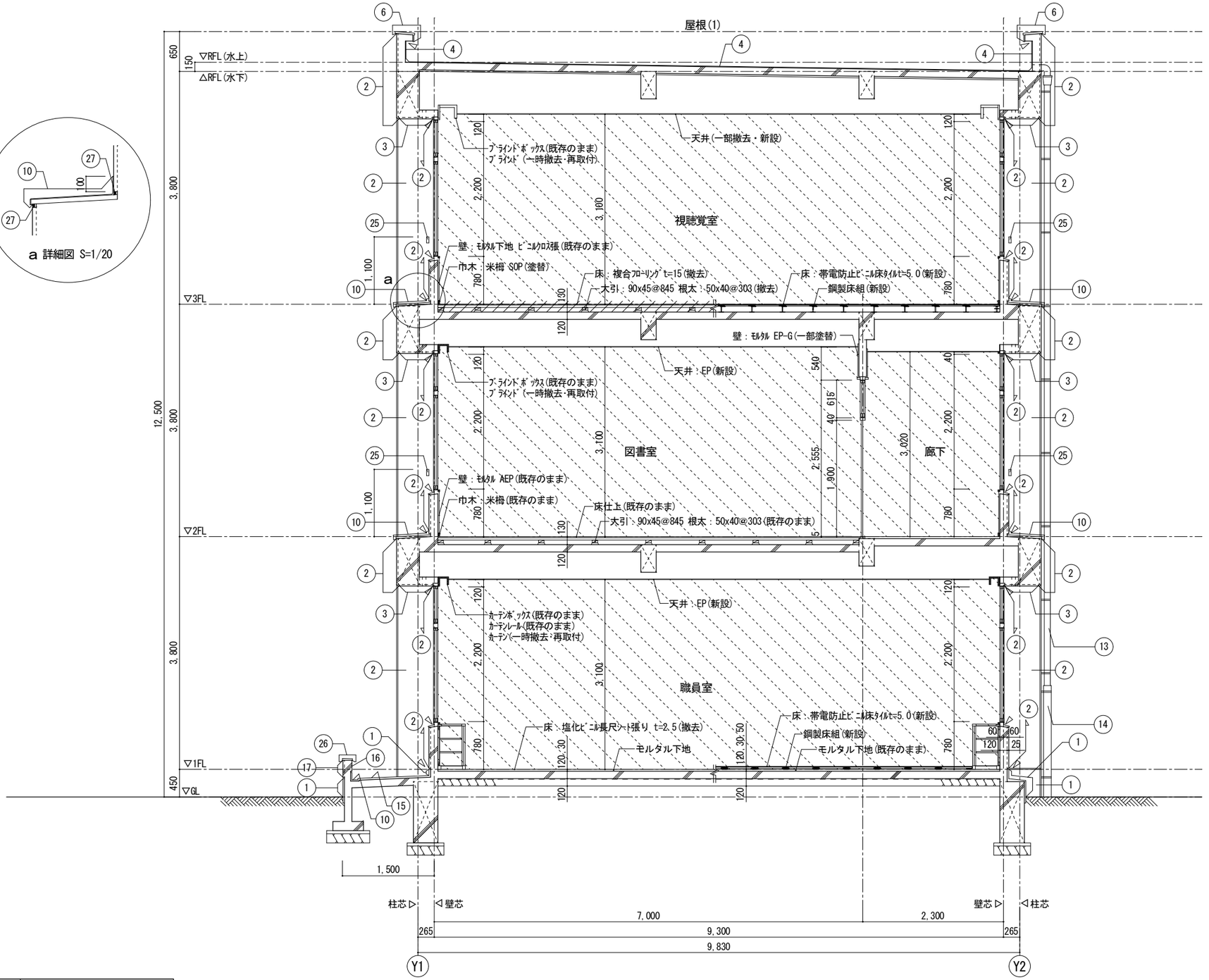
	外部改修範囲を示す (符号は外部仕上げ表に依る)
	内部 床・巾木 改修範囲を示す
	内部 床・壁・天井 改修範囲を示す

〔 管理・特別教室棟 〕

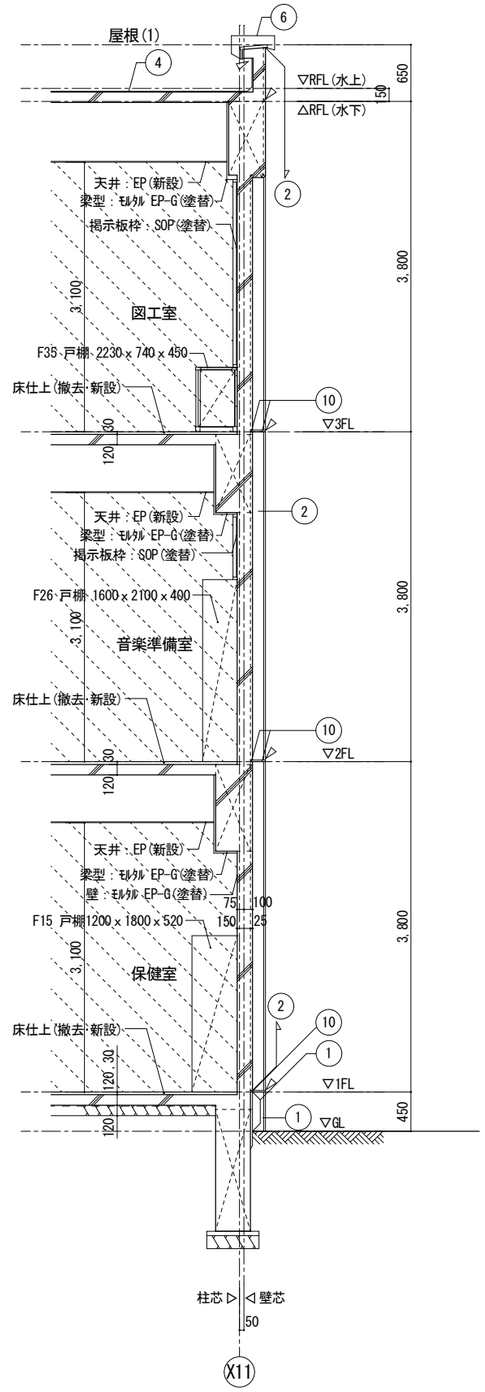
事業年度　年度 工事完成　年度	設 計 令和 年 月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 西小学校長寿命化改修工事（建築主体工事）	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社　ＭａｓＭａｓ 一級建築士登録　第198542号 美野　健治　印	図面名称・縮尺　S=1/100　(A3版-71%縮小) 立面図（２）・断面図 高架水槽 基礎 撤去図	図 番 A-23



a 詳細図 S=1/20



Ａ－Ａ断面詳細図 S=1/50
(X3-X4通り間)



Ｂ断面詳細図 S=1/50

凡例

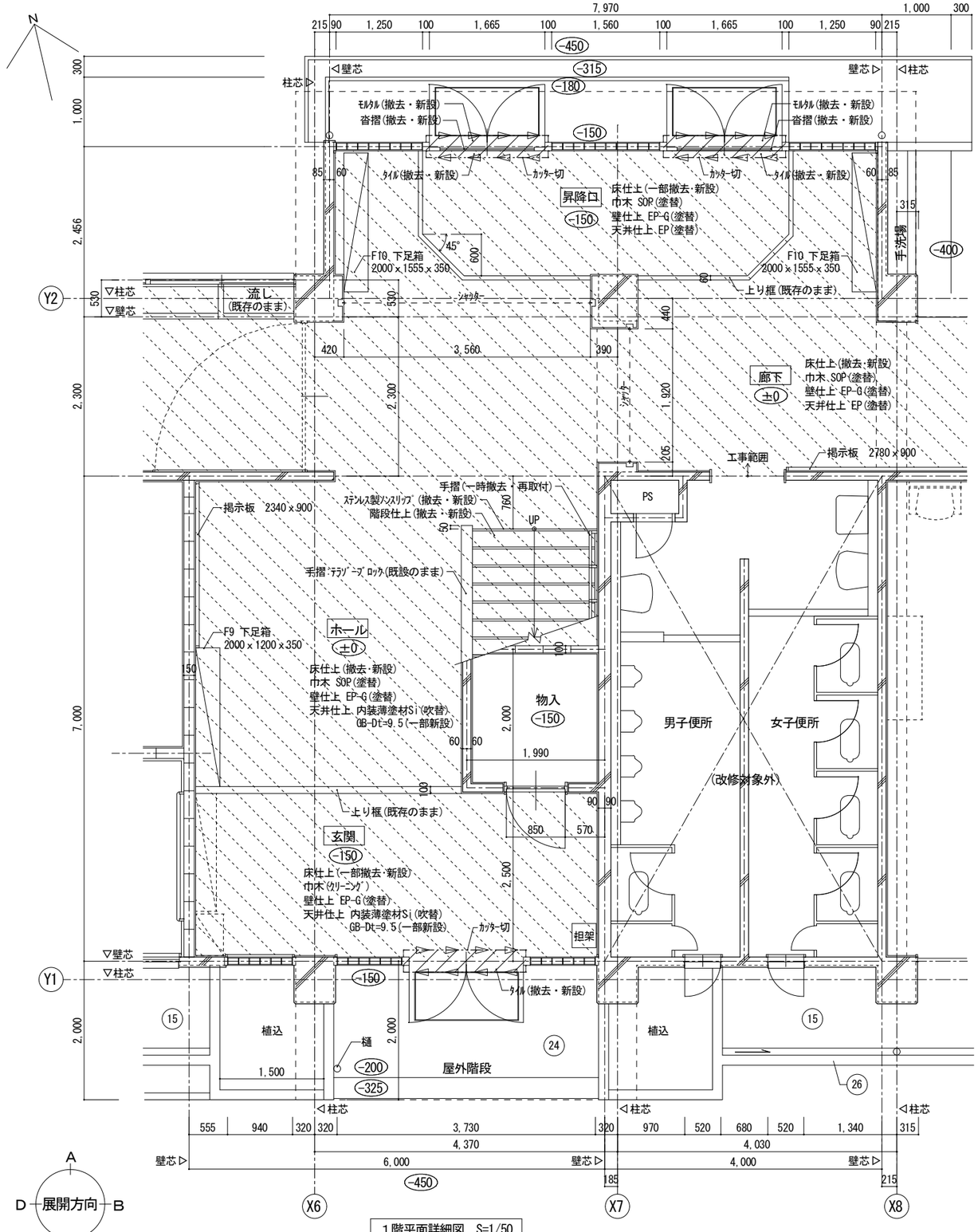
	内部改修範囲を示す
	撤去を示す
	カッター切を示す。

〔 管理・特別教室棟 〕

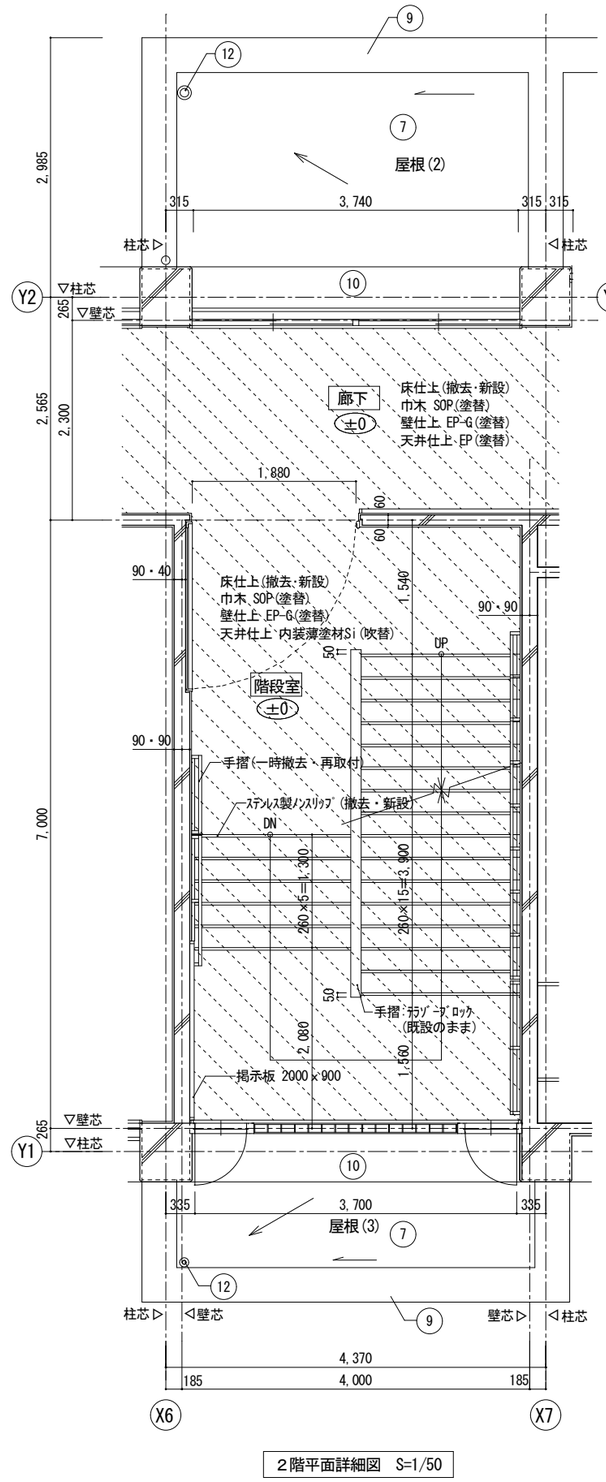
事業年度 年度 工事完成 年度	設 計 令和 年 月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 西小学校長寿命化改修工事（建築主体工事）	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社 ＭａｓＭａｓ 一級建築士登録 第198542号 美野 健治 印	図面名称・縮尺 S=1/50 (A3版-71%縮小) 断面詳細図	図 番 A-24

凡例

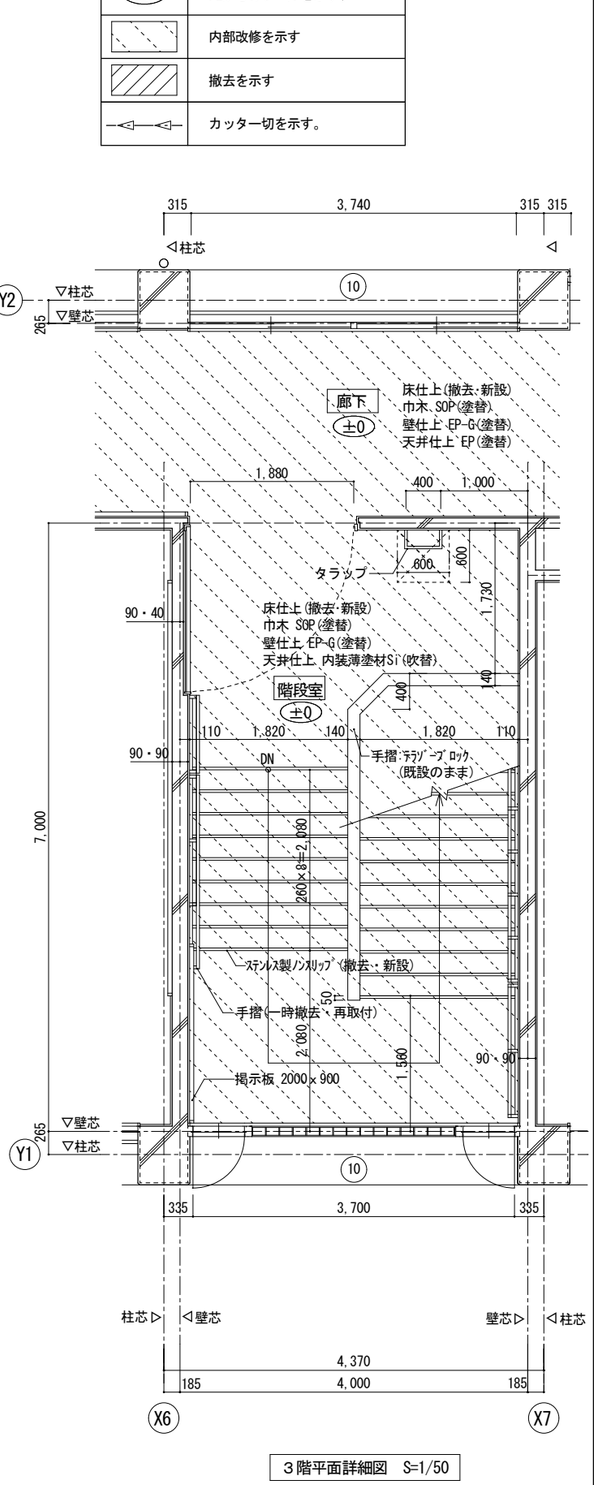
室名	工事対象室を示す。
±0	FLからのレベルを示す。
	内部改修を示す
	撤去を示す
	カッター切を示す。



1階平面詳細図 S=1/50



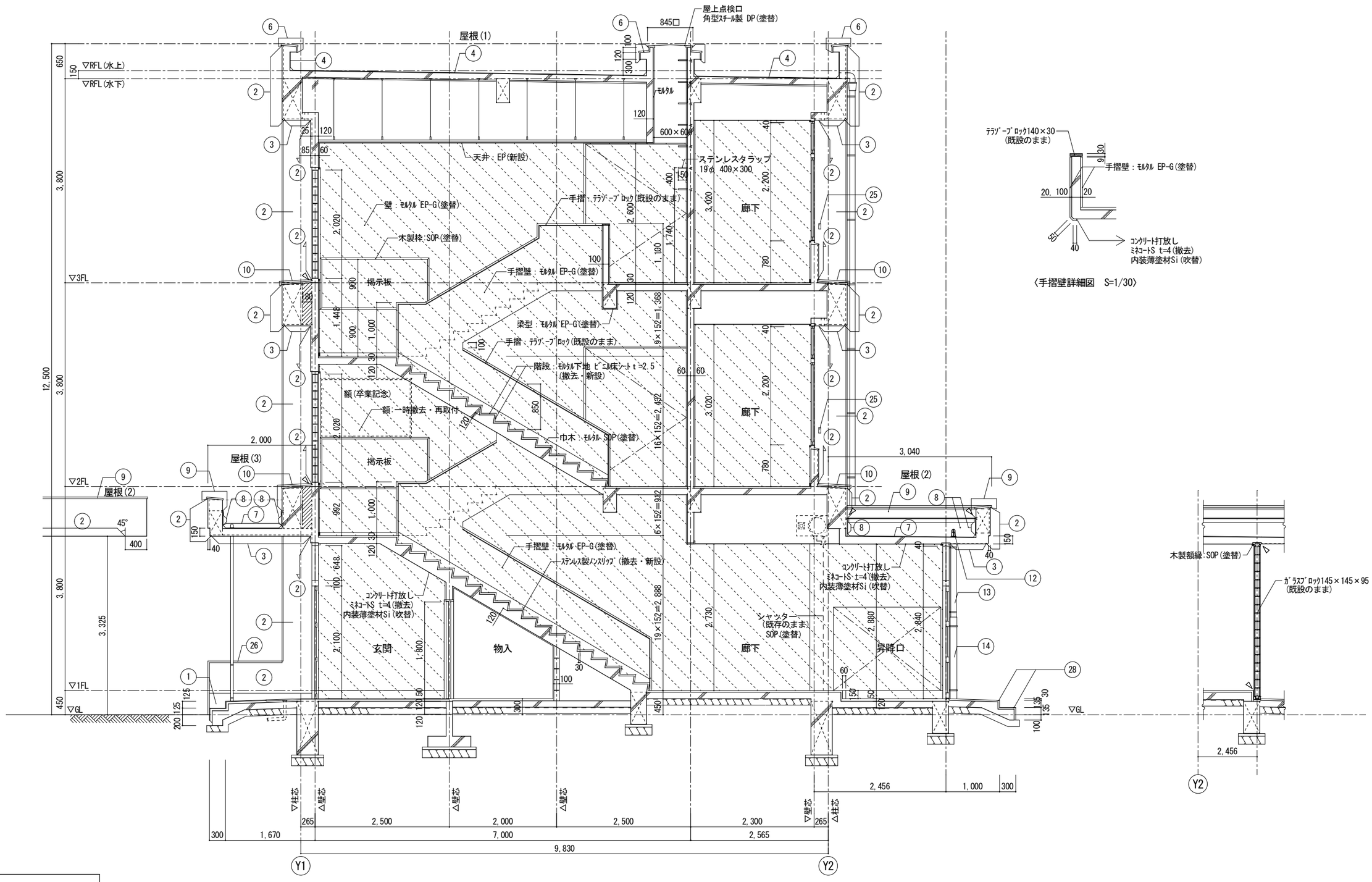
2階平面詳細図 S=1/50



3階平面詳細図 S=1/50

〔 管理・特別教室棟 〕

事業年度 年度 工事完成 年度	設 計 令和 年 月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 西小学校長寿命化改修工事（建築主体工事）	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社 ＭａｓＭａｓ 一級建築士登録 第198542号 美野 健治 印	図面名称・縮尺 S=1/50 (A3版-71%縮小) 屋内階段廻り平面詳細図	図 番 A-25



〈手摺壁詳細図　S=1/30〉

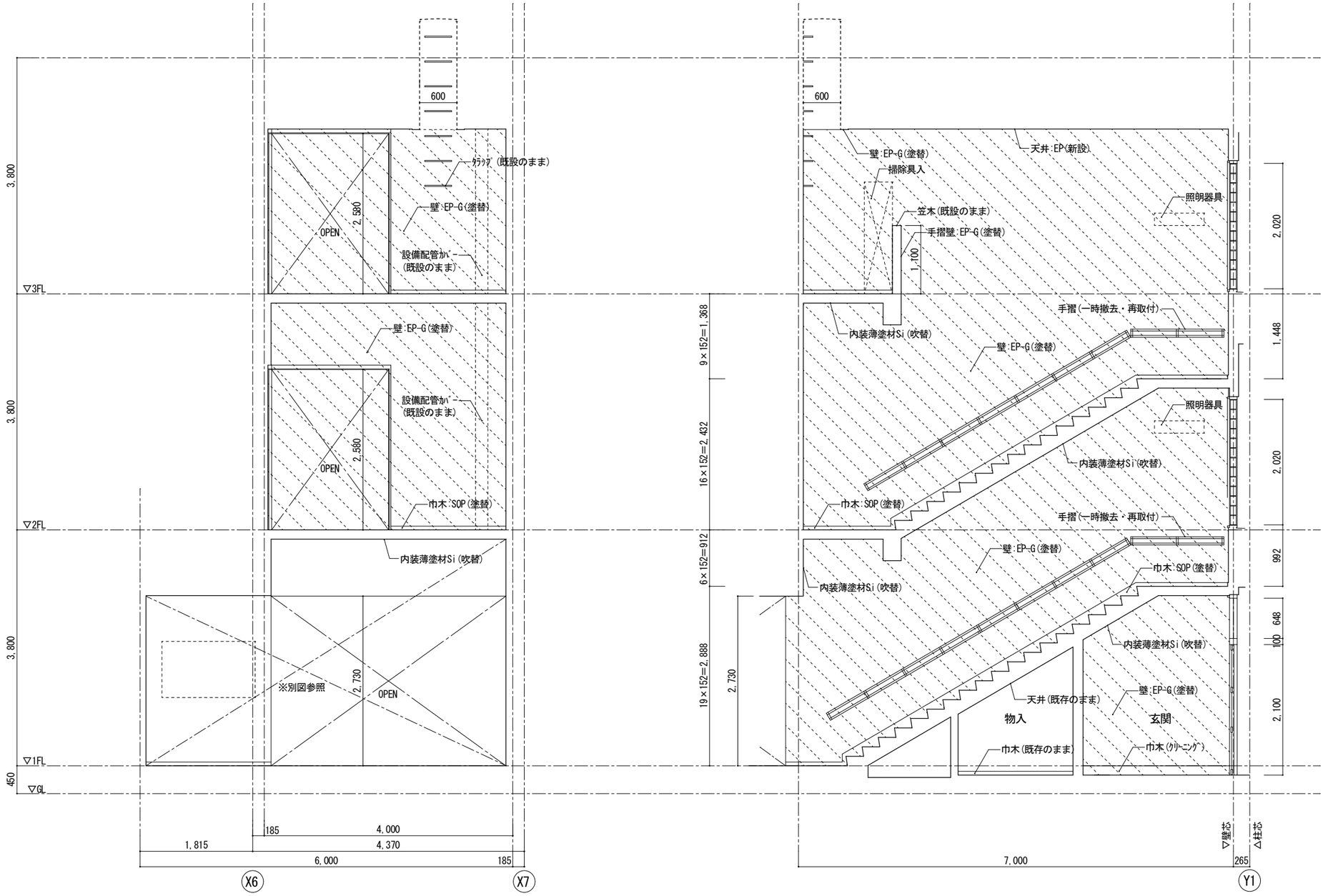
階段廻り断面詳細図　S=1/50

凡例

	内部改修範囲を示す
	撤去を示す
	カッター切を示す。

〔 管理・特別教室棟 〕

事業年度　年度 工事完成　年度	設 計 令和 年 月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 西小学校長寿命化改修工事（建築主体工事）	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社　ＭａｓＭａｓ 一級建築士登録　第198542号 美野　健治　印	図面名称・縮尺　S=1/50　(A3版-71%縮小) 屋内階段廻り断面詳細図	図 番 A-26



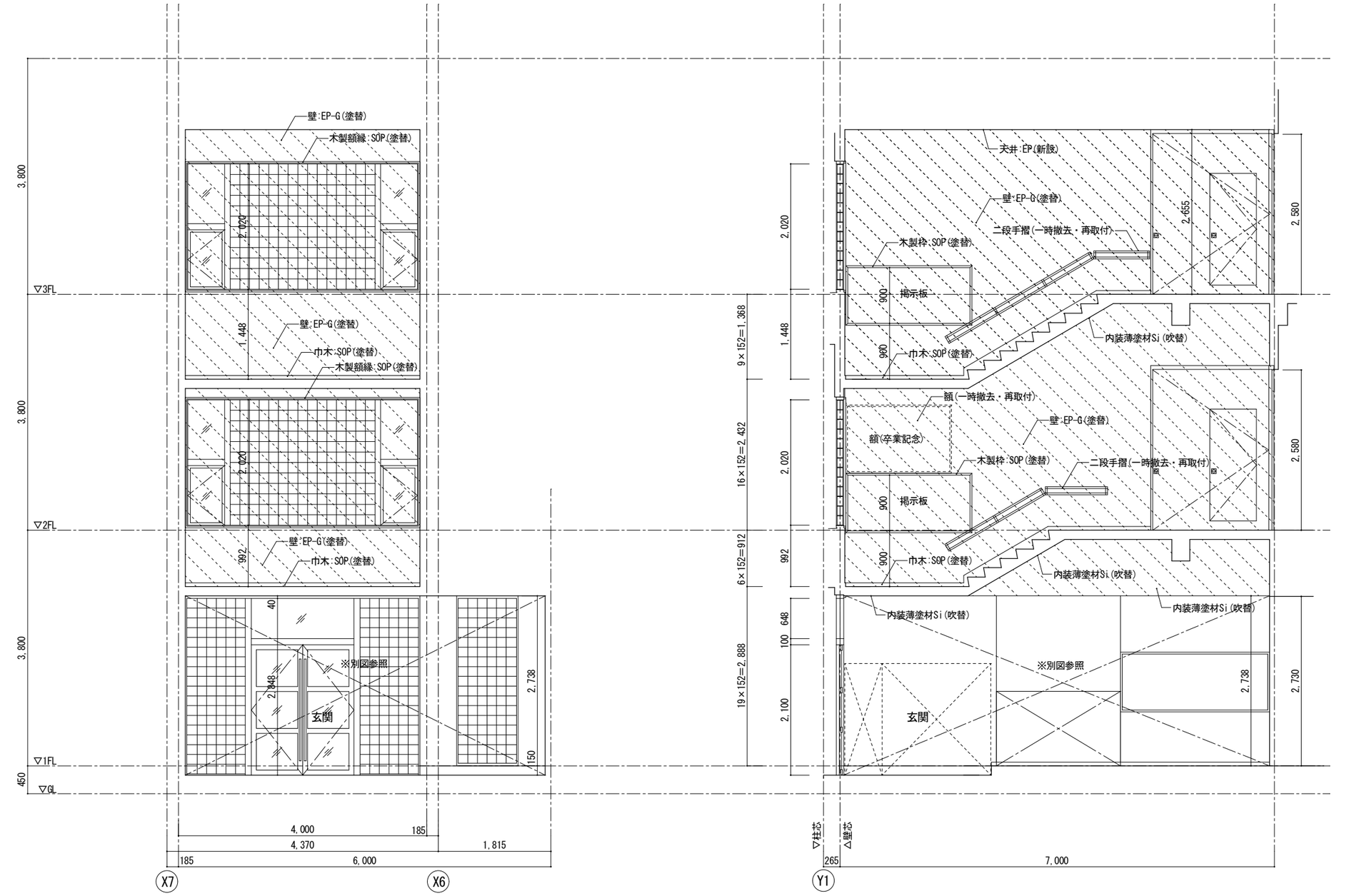
階段室　［A］　［B］

凡例

	内部改修範囲を示す
	撤去を示す
	カッター切を示す。

〔 管理・特別教室棟 〕

事業年度　年度 工事完成　年度	設 計 令和 年 月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 西小学校長寿命化改修工事（建築主体工事）	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社　ＭａｓＭａｓ 一級建築士登録　第198542号 美野　健治　印	図面名称・縮尺　S=1/50　(A3版-71%縮小) 屋内階段廻り展開図（１）	図 番 A-27

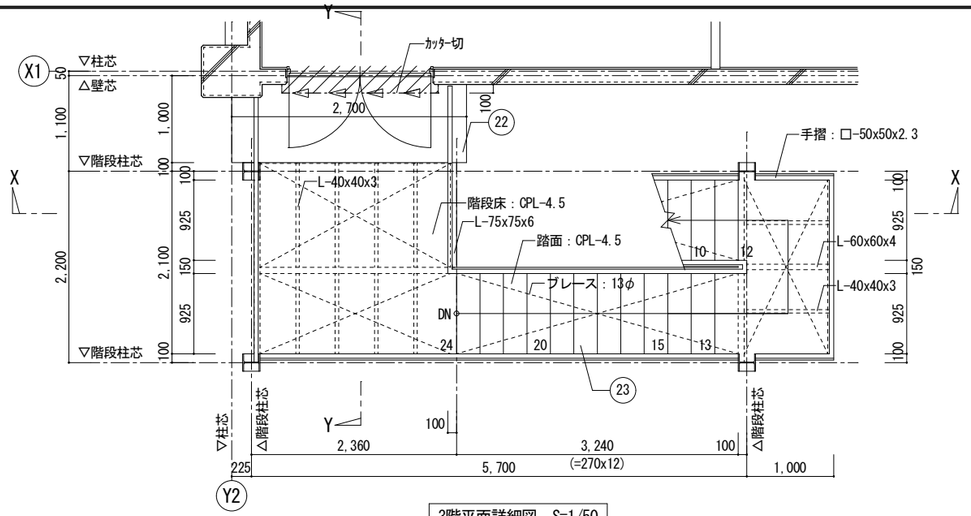


凡例

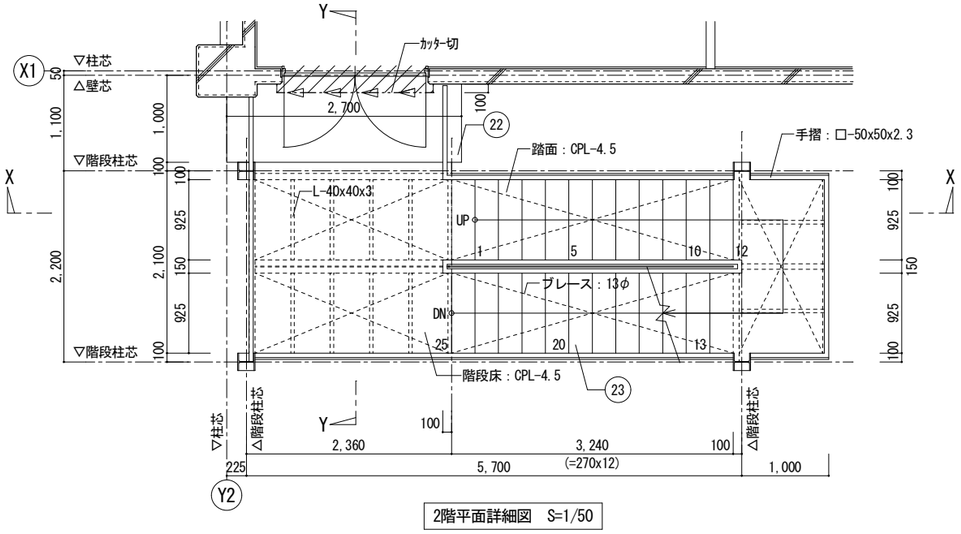
	内部改修範囲を示す
	撤去を示す
	カッター切を示す。

〔 管理・特別教室棟 〕

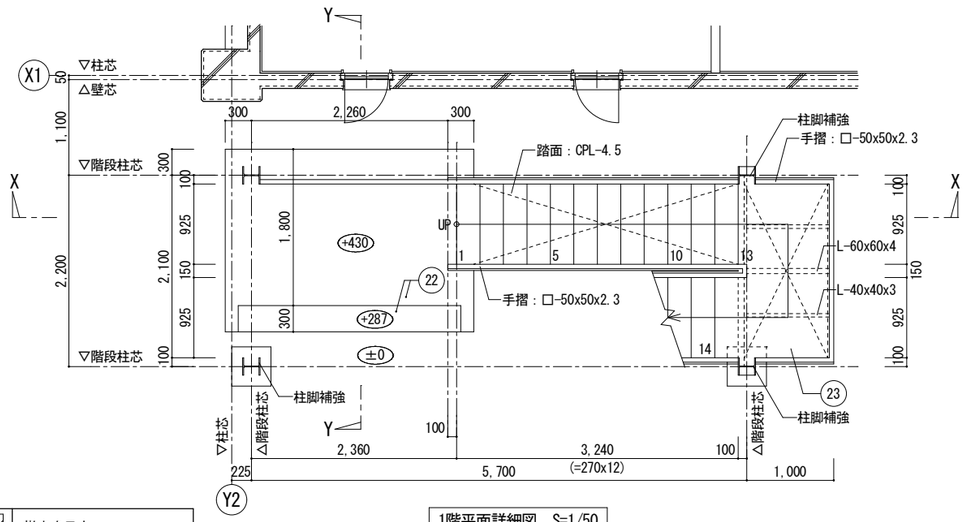
事業年度　年度 工事完成　年度	設 計 令和 年 月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 西小学校長寿命化改修工事（建築主体工事）	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社　ＭａｓＭａｓ 一級建築士登録　第198542号 美野　健治　印	図面名称・縮尺　S=1/50　(A3版-71%縮小) 屋内階段廻り展開図（２）	図 番 A-28



3階平面詳細図　S=1/50



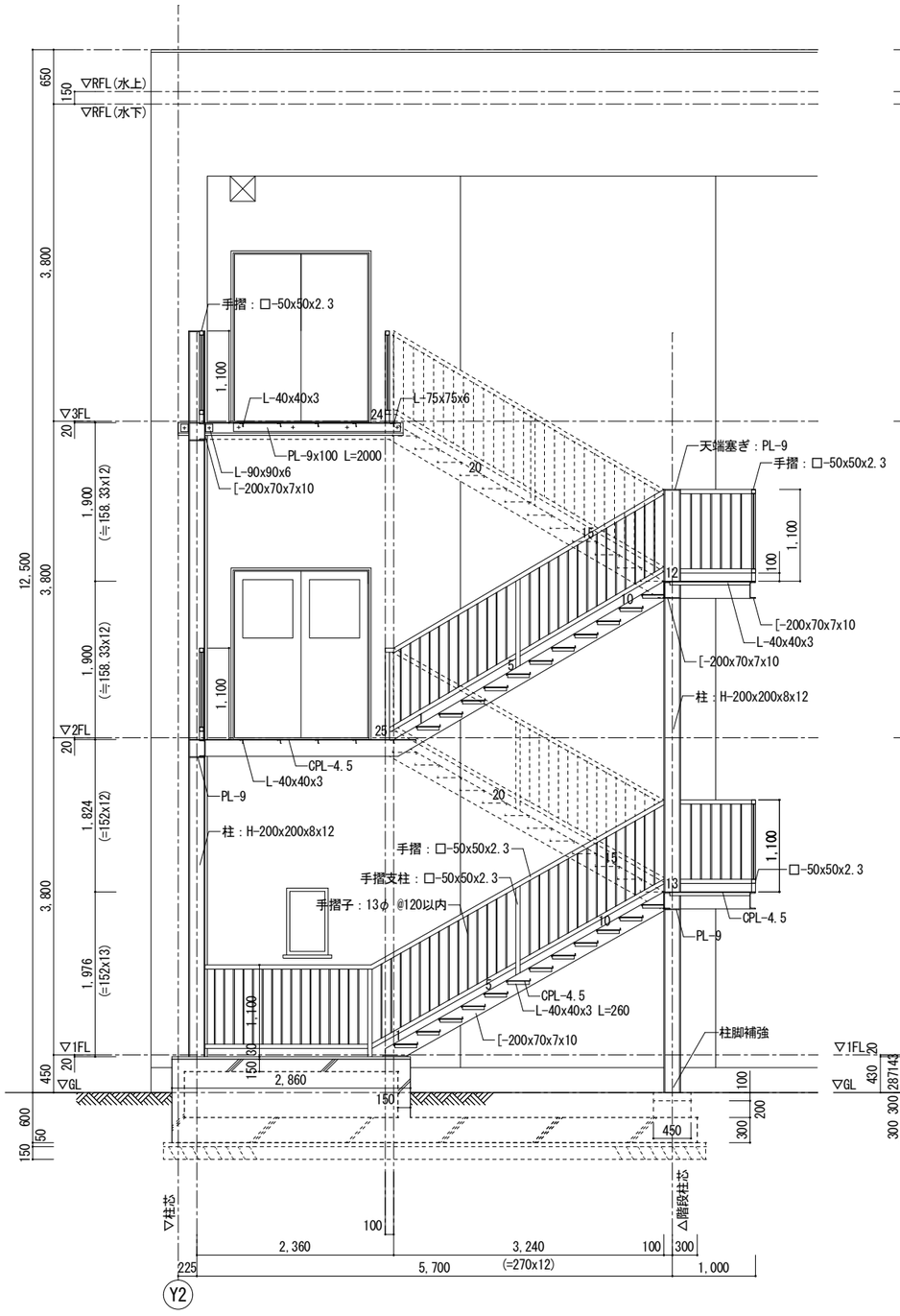
2階平面詳細図　S=1/50

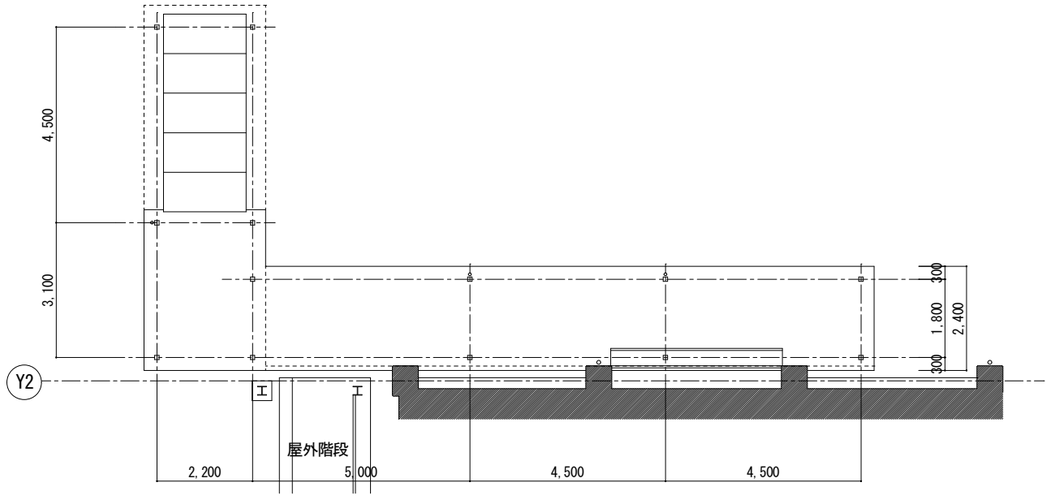


1階平面詳細図　S=1/50

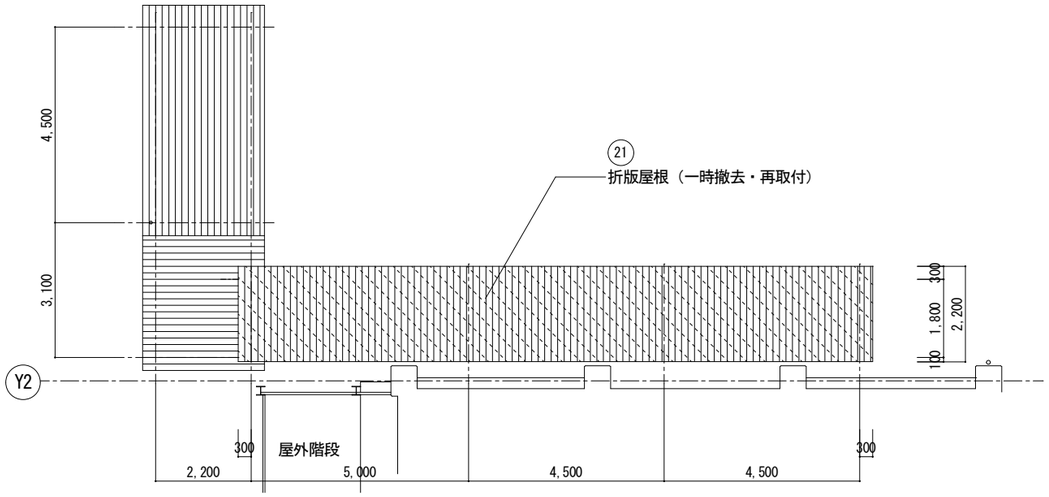
凡例

	撤去を示す
	カッター切を示す。

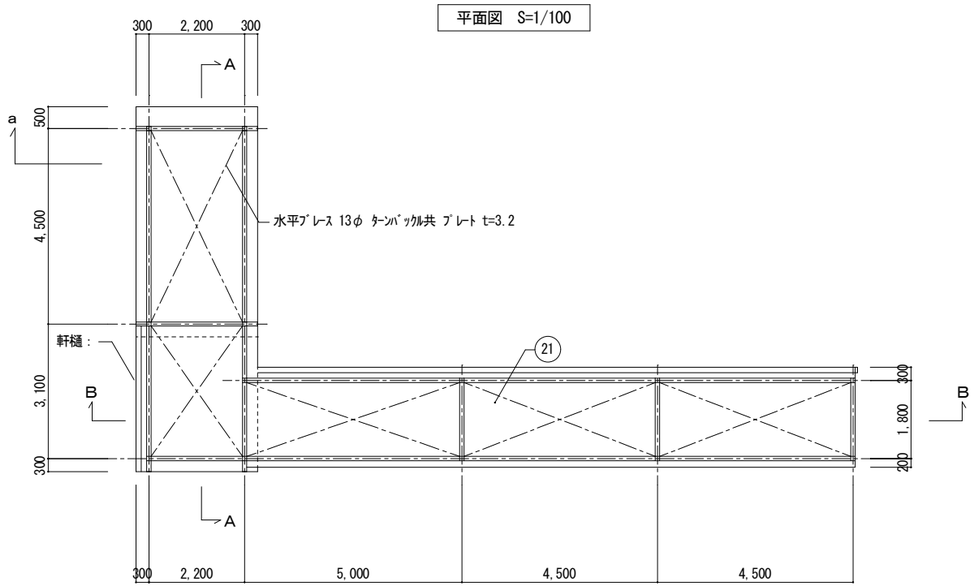

▽RFL(水上)
▽RFL(水下)
▽3FL
▽2FL
▽1FL
▽GL
手摺：□-50x50x2.3
L-40x40x3
L-75x75x6
PL-9x100 L=2000
L-90x90x6
[-200x70x7x10
天端塞ぎ：PL-9
手摺：□-50x50x2.3
[-200x70x7x10
L-40x40x3
柱：H-200x200x8x12
CPL-4.5
L-40x40x3
PL-9
柱：H-200x200x8x12
手摺：□-50x50x2.3
手摺支柱：□-50x50x2.3
手摺子：13φ：@120以内
□-50x50x2.3
CPL-4.5
PL-9
CPL-4.5
L-40x40x3 L=260
[-200x70x7x10
柱脚補強
2,860
150
450
100
200
300
▽柱芯
△階段柱芯
100
2,360
3,240
100
300
225
5,700
(=270x12)
1,000
Y2
650
150
3,800
12,500
3,800
20
1,900
(≒158.33x12)
1,900
(≒158.33x12)
1,824
(=152x12)
3,800
1,976
(≒152x13)
450
20
600
150
50
1,100
1,100
1,100



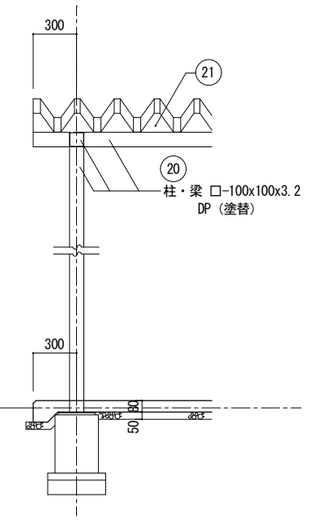
平面図　S=1/100



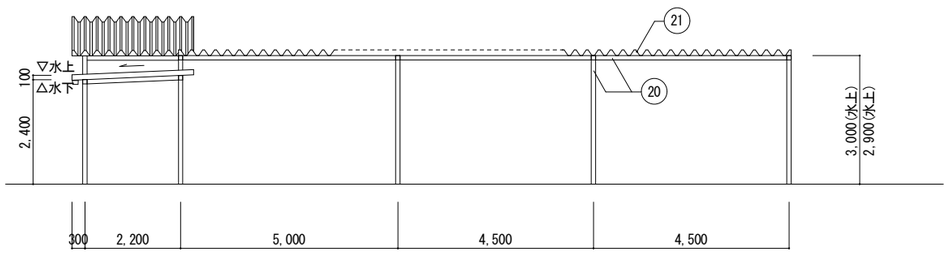
屋根伏図　S=1/100



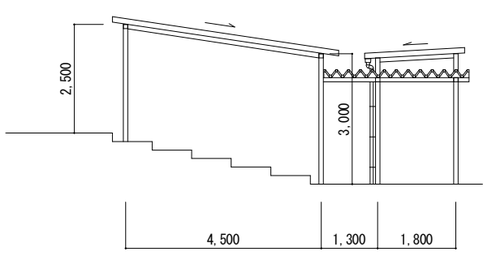
天井伏図　S=1/100



a断面詳細図　S=1/30



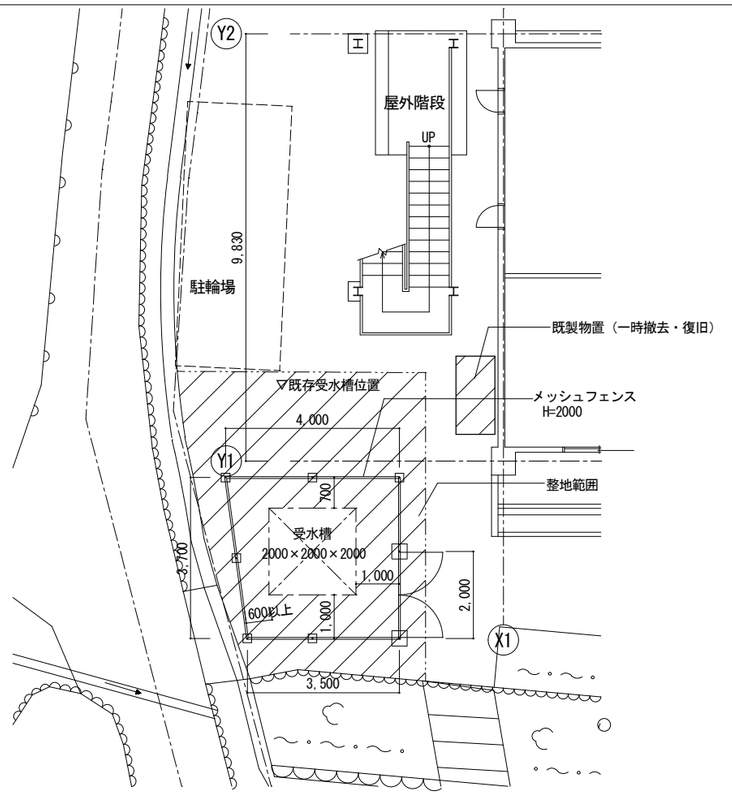
B-B断面図　S=1/100



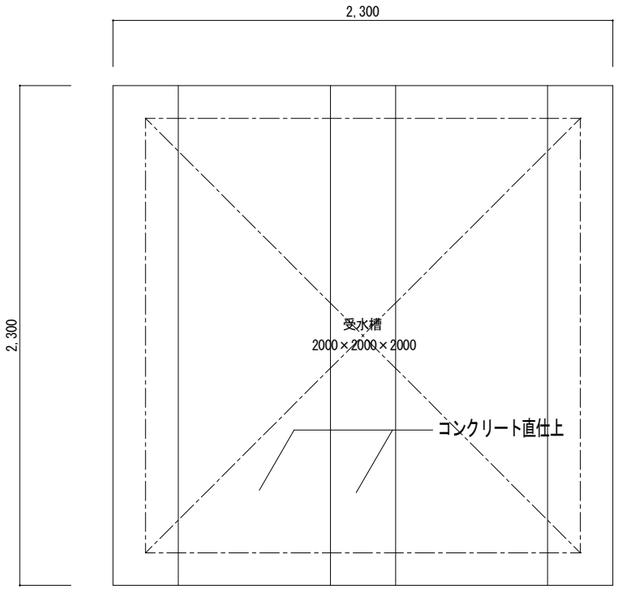
A-A断面図　S=1/100

〔 管理・特別教室棟 〕

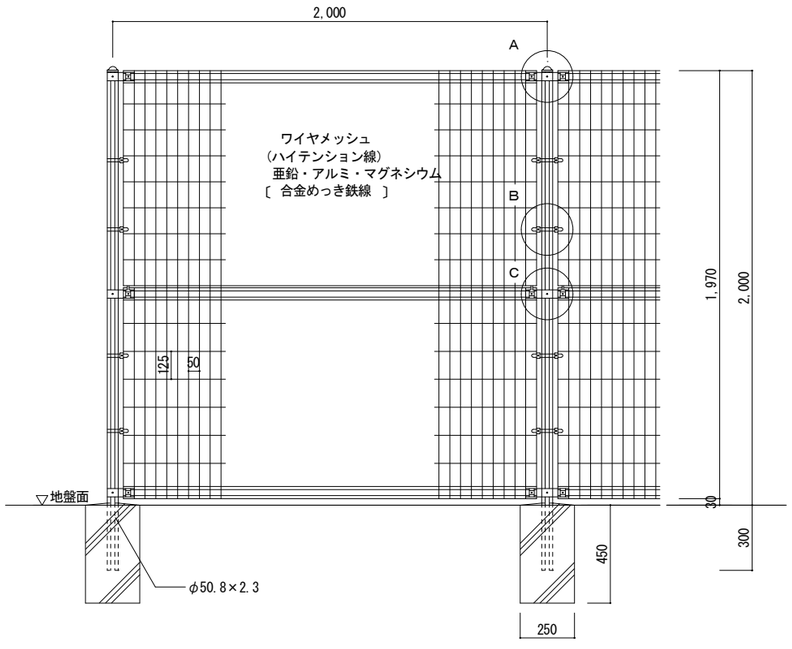
事業年度　年度 工事完成　年度	設 計 令和 年 月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 西小学校長寿命化改修工事（建築主体工事）	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社　ＭａｓＭａｓ 一級建築士登録　第198542号 美野　健治　印	図面名称・縮尺　S=1/100　(A3版-71%縮小) 渡り廊下 平面図・断面図	図 番 A-30



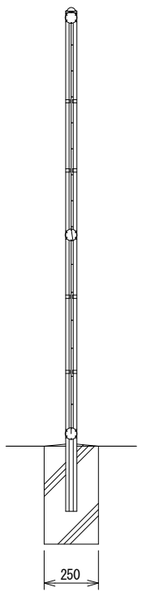
受水槽廻り平面図　S=1/100



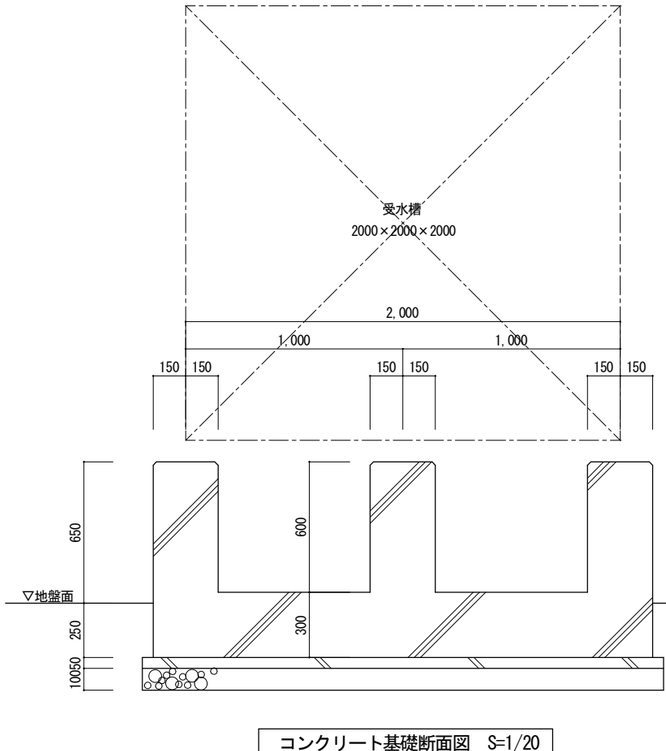
コンクリート基礎平面図　S=1/20



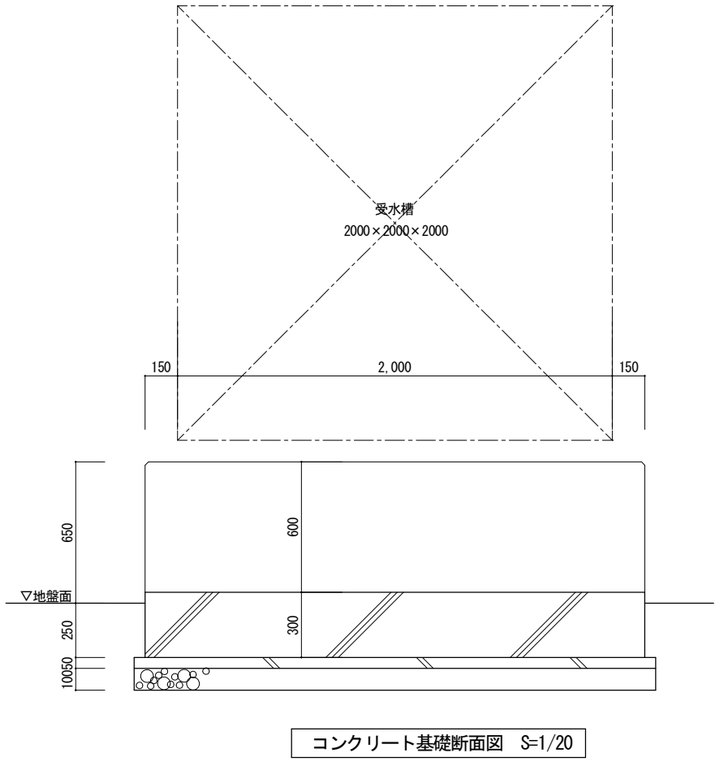
メッシュフェンス姿図　S=1/20



メッシュフェンス断面図　S=1/20

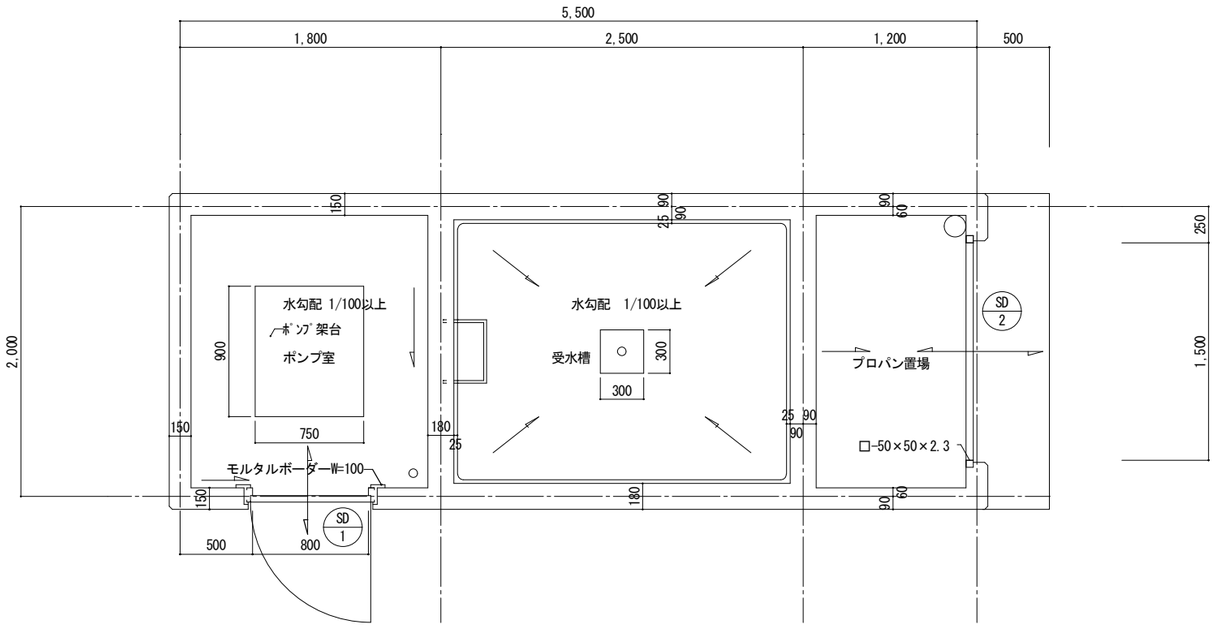


コンクリート基礎断面図　S=1/20

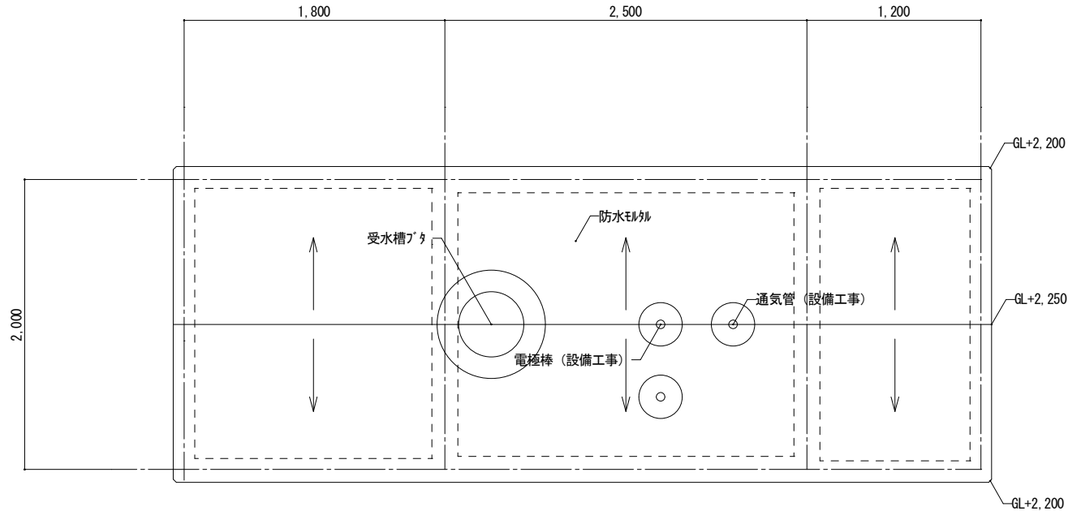


コンクリート基礎断面図　S=1/20

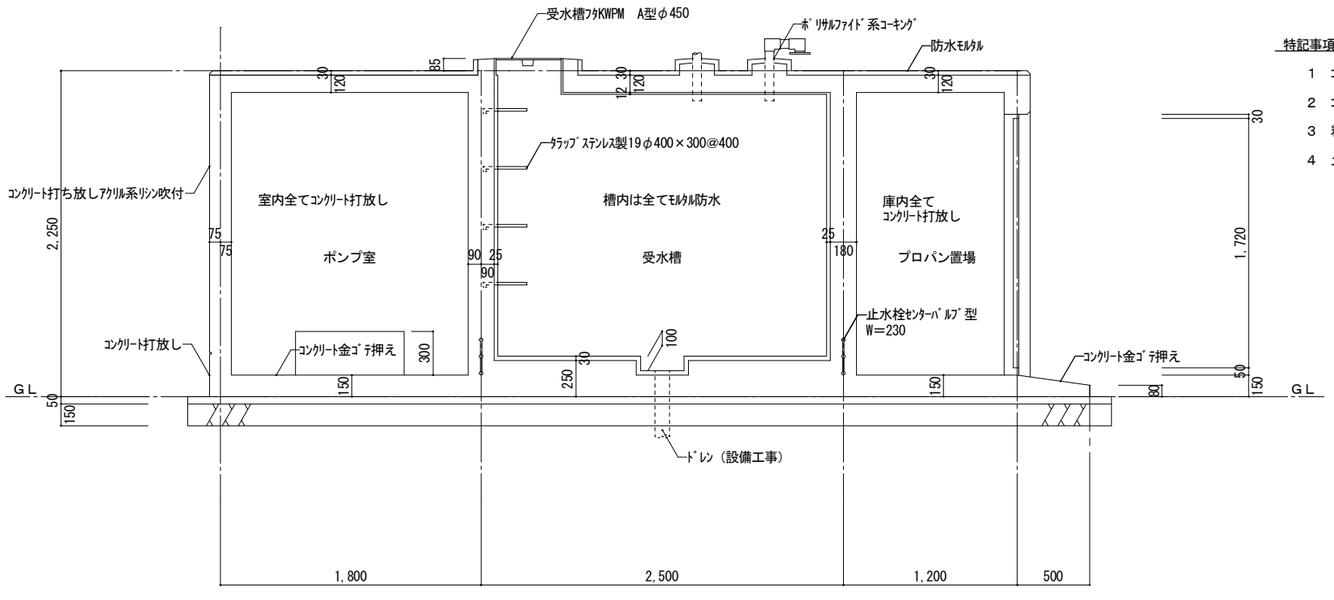
事業年度　年度 工事完成　年度	設 計 令和 年 月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 西小学校長寿命化改修工事（建築主体工事）	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社　ＭａｓＭａｓ 一級建築士登録　第198542号 美野　健治　印	図面名称・縮尺　S=1/20・1/100　(A3版-71%縮小) 受水槽廻り詳細図	図 番 A-31



平 面 図　1/30



屋 根 伏 図　1/30

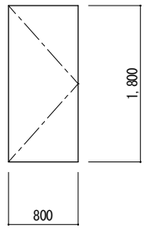


断 面 図　1/30

特記事項

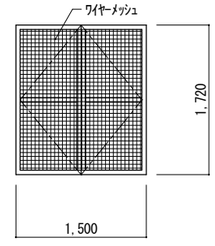
1　ｺﾝｸﾘｰﾄ強度　Fc t＝210kg/m2
2　ｺﾝｸﾘｰﾄｽﾗﾝﾌﾟ　21cm
3　粗骨材寸法　20m/m
4　土間壁ｽﾗﾌﾞ配筋D13@200ｸﾛｽﾀﾞﾌﾞﾙ配筋巾止め筋D10@900

SD 1　1 カ 所



ｽﾁｰﾙ1.6m/m鉄板両面貼り
片引き戸　86　FP塗り
ﾄﾞｱﾁｪｯｸｽﾄｯﾌﾟなし　ﾓﾉﾛｯｸ丁番
沓摺ｽﾃﾝﾚｽ@2.0m/m

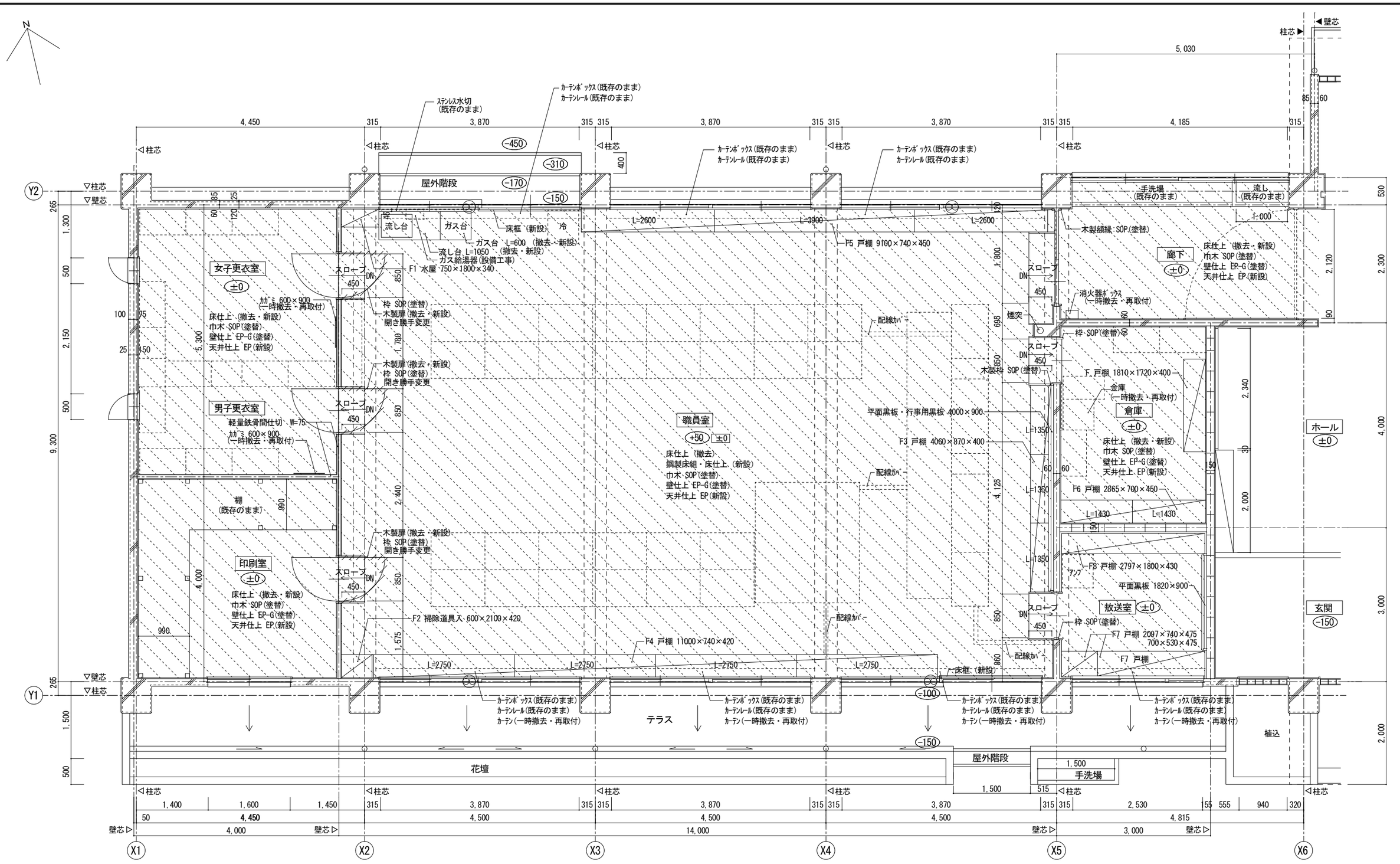
SD 2　1 カ 所



ｱﾝｸﾞﾙﾄﾞｱ　両開き戸（撤去済）
L-30×30×3　FP塗り
南京錠　ﾌﾗｼｽ落し　ｽﾃﾝﾚｽ丁番

建 具 姿 図　1/50

事業年度　年度 工事完成　年度	設 計 令和 年 月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 西小学校長寿命化改修工事（建築主体工事）	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社　ＭａｓＭａｓ 一級建築士登録　第198542号 美野　健治　印	図面名称・縮尺　S=1/30・1/50　(A3版-71%縮小) 既存受水槽撤去図	図 番 A-32



凡例

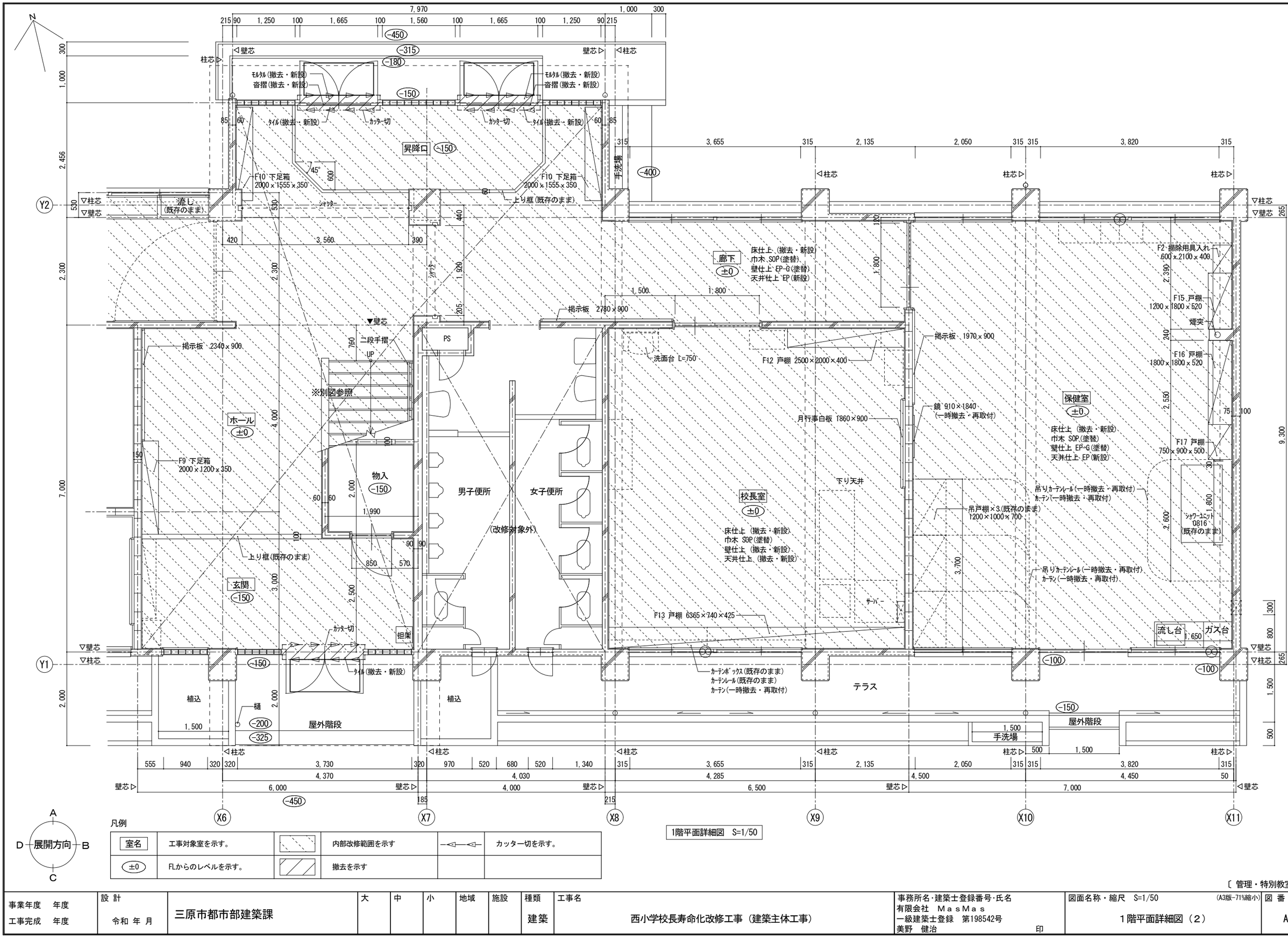
室名	工事対象室を示す。		内部改修範囲を示す		カッター切を示す。
±0	FLからのレベルを示す。		撤去を示す		
±0	既存床：FLからのレベルを示す。				

1階平面詳細図 S=1/50

A
D 展開方向 B
C

〔 管理・特別教室棟 〕

事業年度 年度 工事完成 年度	設 計 令和 年 月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 西小学校長寿命化改修工事（建築主体工事）	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社 ＭａｓＭａｓ 一級建築士登録 第198542号 美野 健治 印	図面名称・縮尺 S=1/50 (A3版-71%縮小) 1階平面詳細図（1）	図 番 A-33



凡例

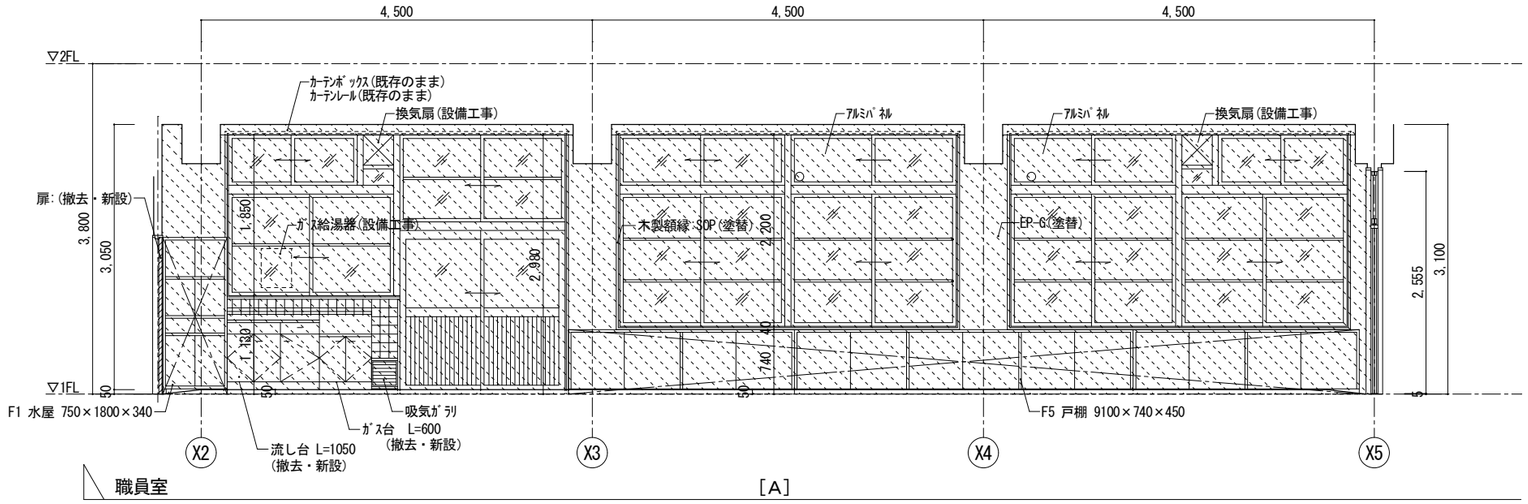
室名	工事対象室を示す。		内部改修範囲を示す	←←←	カッター切を示す。
±0	FLからのレベルを示す。		撤去を示す		

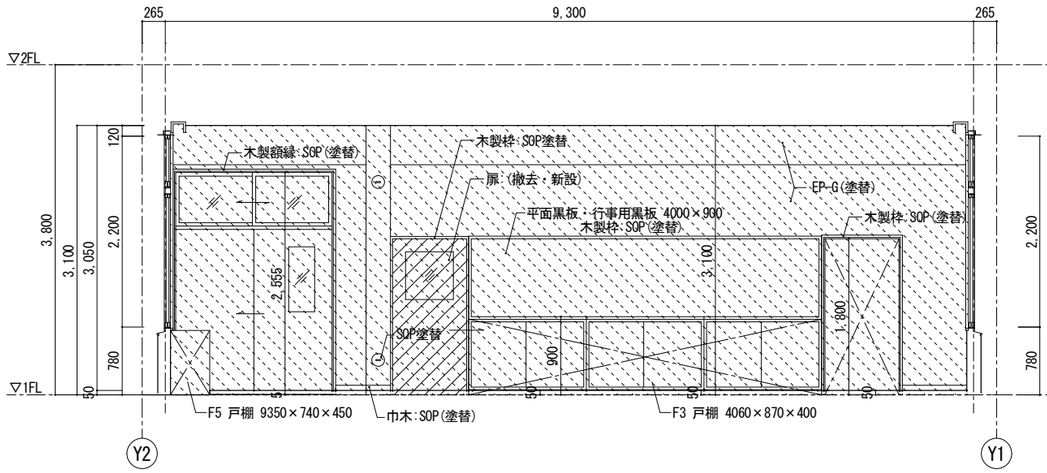
A
D 展開方向 B
C

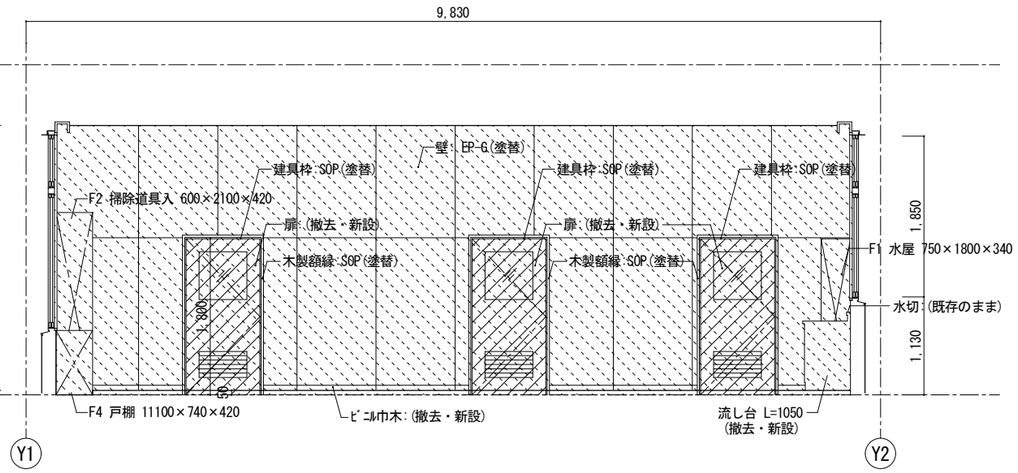
1階平面詳細図 S=1/50

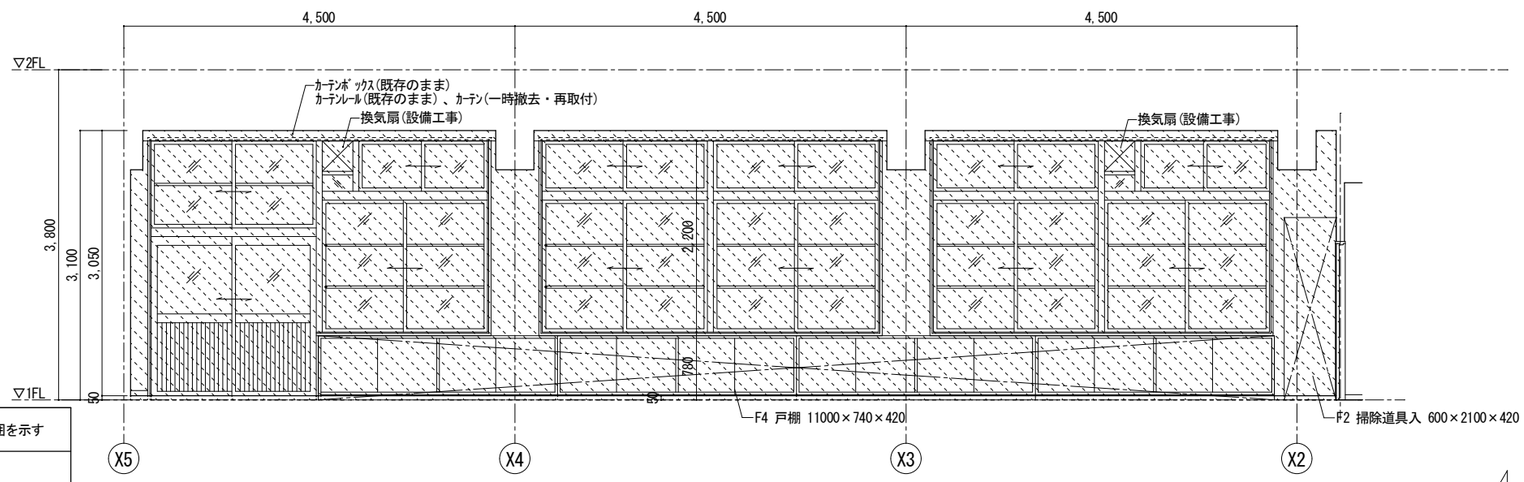
〔 管理・特別教室棟 〕

事業年度 年度 工事完成 年度	設 計 令和 年 月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 西小学校長寿命化改修工事（建築主体工事）	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社 ＭａｓＭａｓ 一級建築士登録 第198542号 美野 健治 印	図面名称・縮尺 S=1/50 (A3版-71%縮小) 1階平面詳細図（2）	図 番 A-34







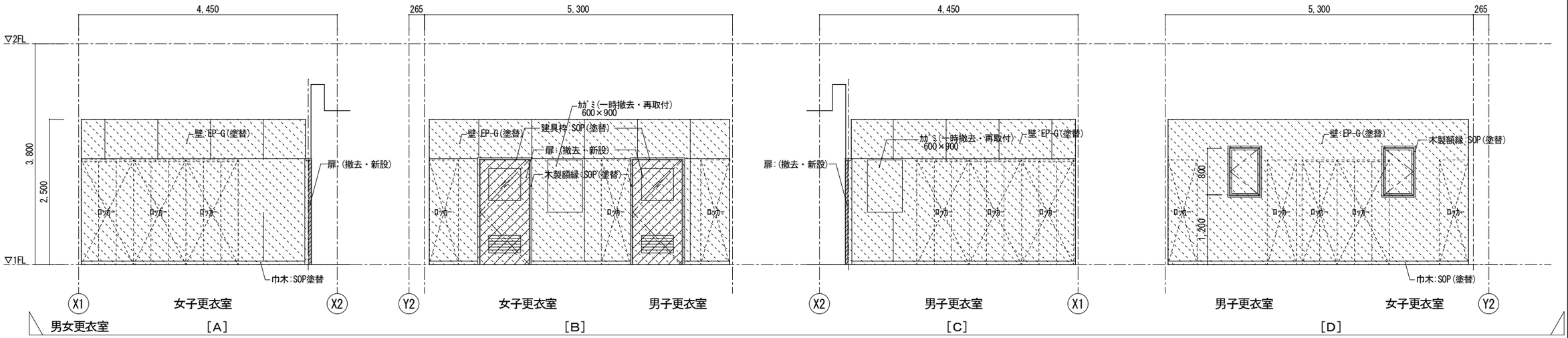


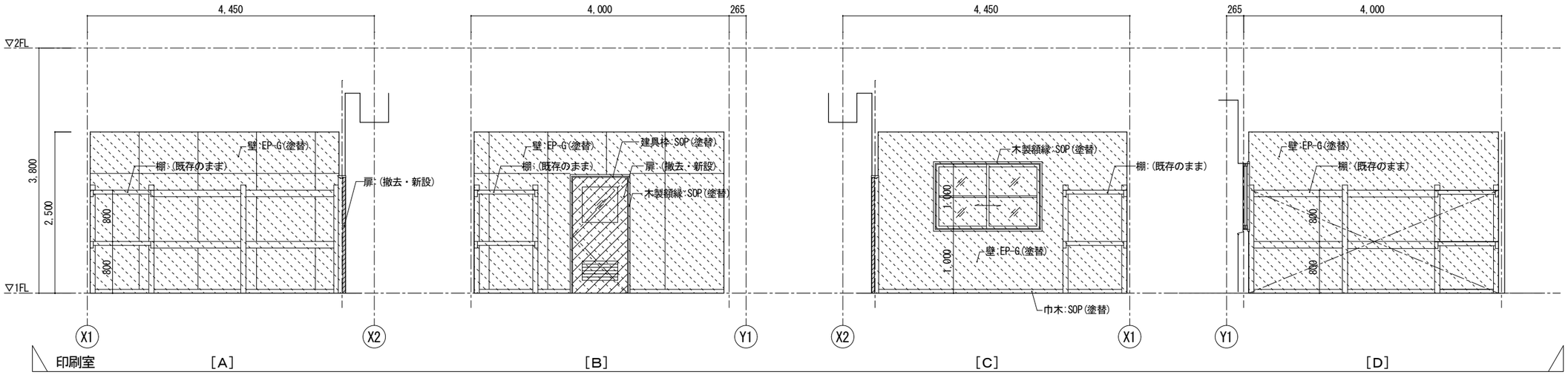
凡例

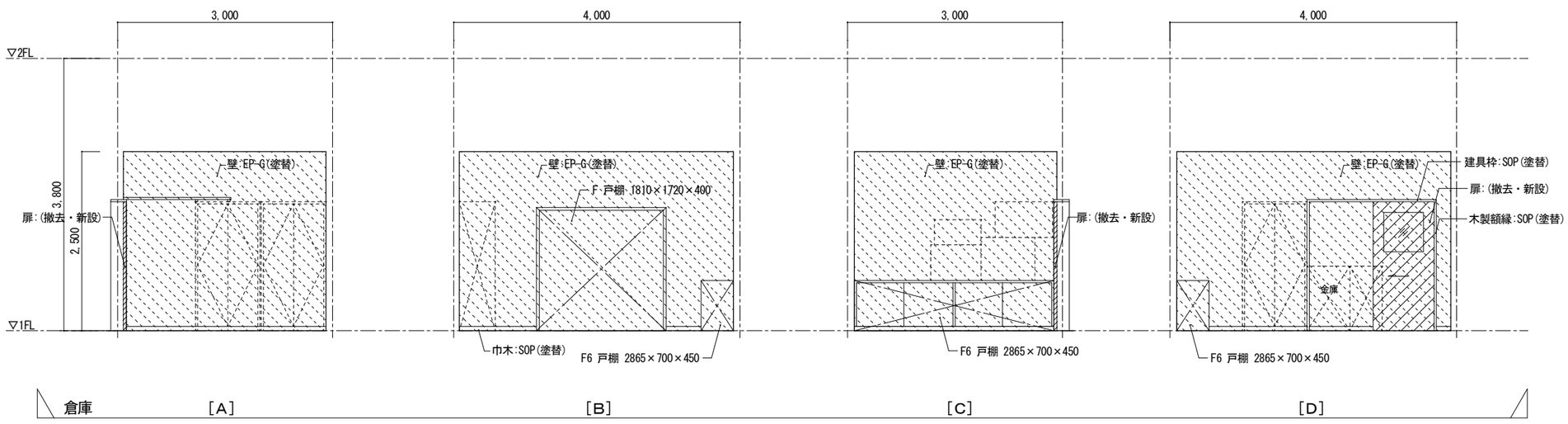
	内部改修範囲を示す
	撤去を示す
	カッター切を示す。

〔 管理・特別教室棟 〕

事業年度　年度 工事完成　年度	設 計 令和 年 月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 西小学校長寿命化改修工事（建築主体工事）	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社　ＭａｓＭａｓ 一級建築士登録　第198542号 美野　健治　印	図面名称・縮尺　S=1/50　(A3版-71%縮小) １階展開図（１）	図 番 A-35





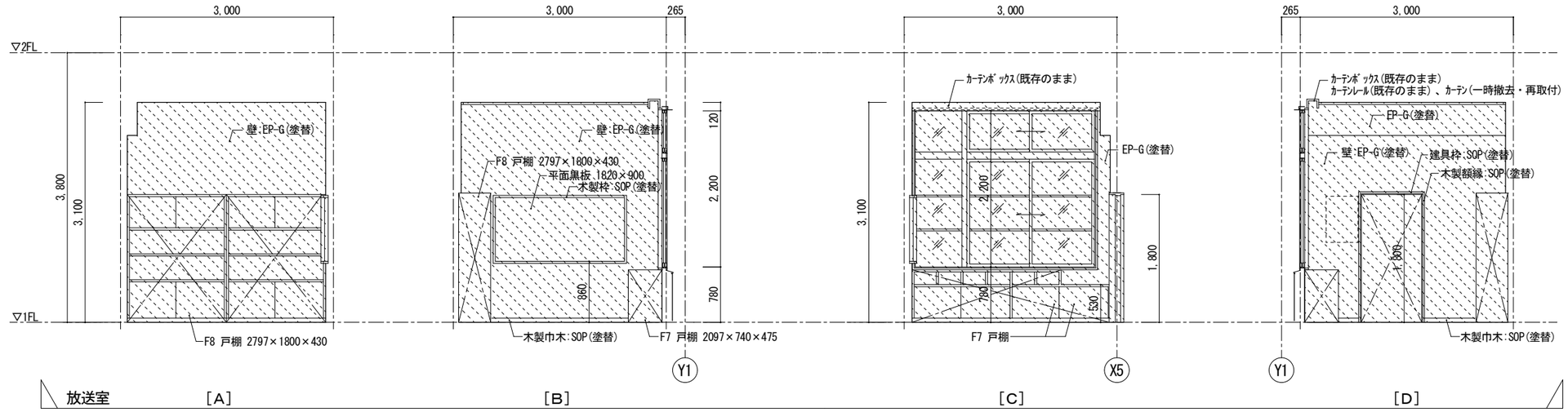


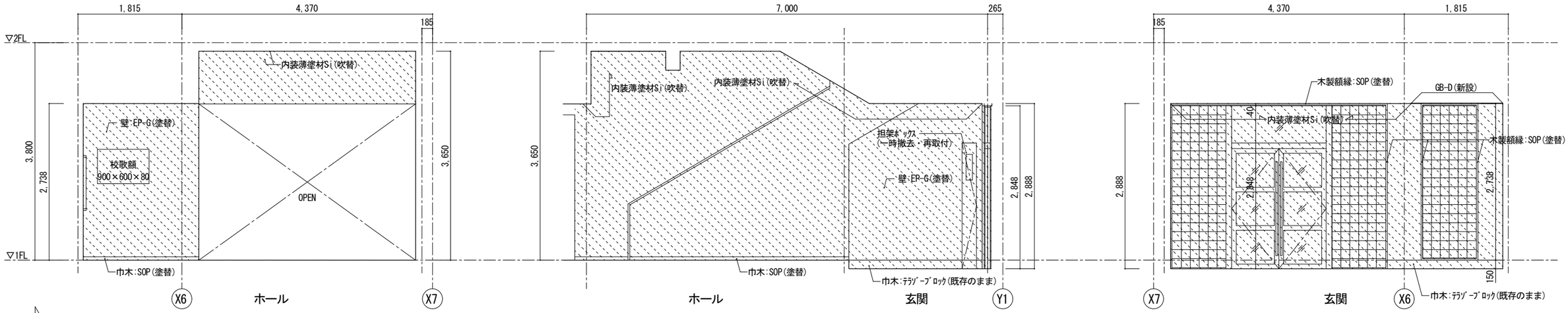
凡例

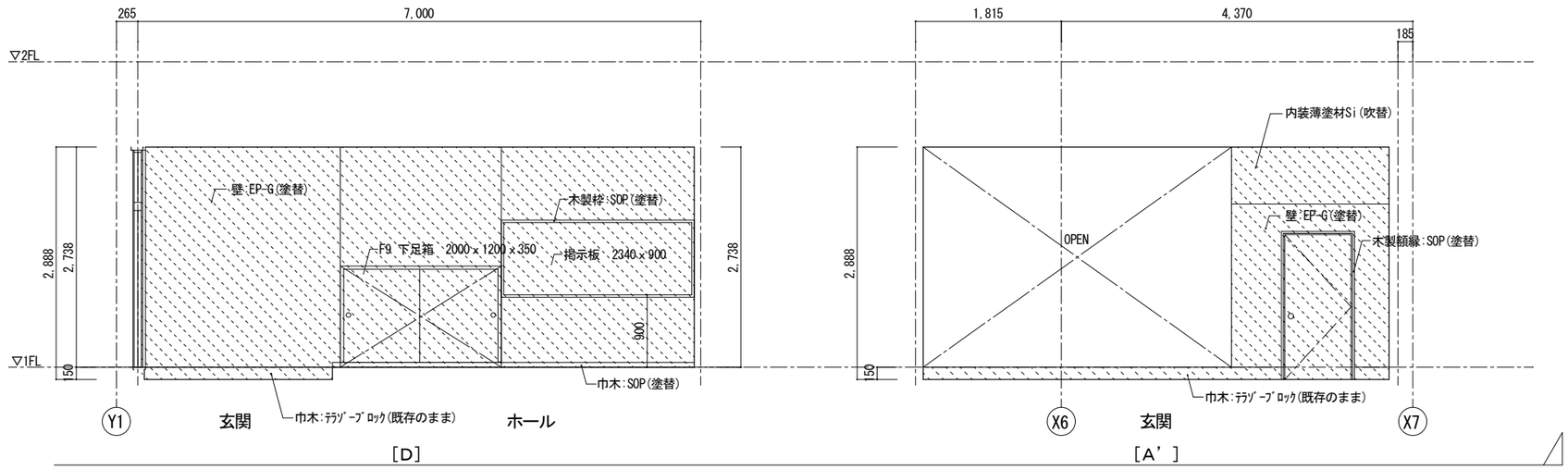
	内部改修範囲を示す
	撤去を示す
	カッター切を示す。

〔 管理・特別教室棟 〕

事業年度　年度 工事完成　年度	設 計 令和 年 月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 西小学校長寿命化改修工事（建築主体工事）	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社　ＭａｓＭａｓ 一級建築士登録　第198542号 美野　健治　印	図面名称・縮尺　S=1/50　(A3版-71%縮小) １階展開図（２）	図 番 A-36





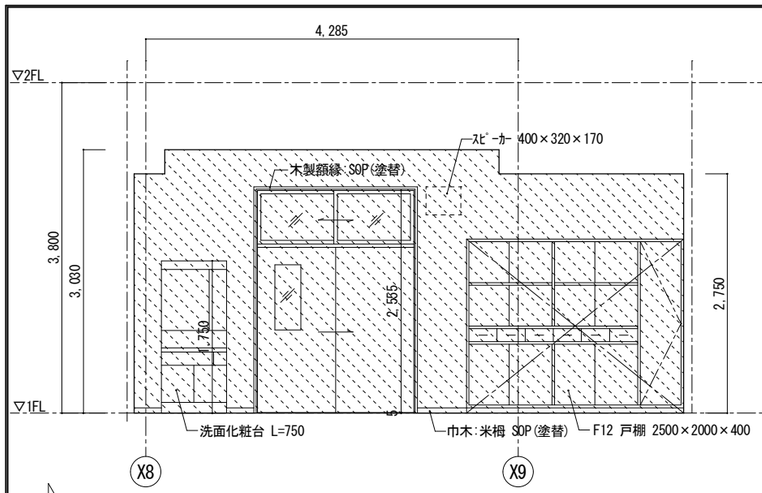


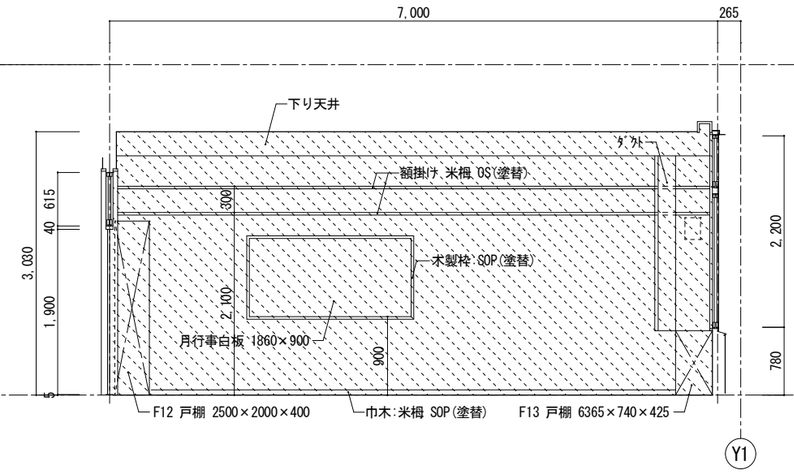
凡例

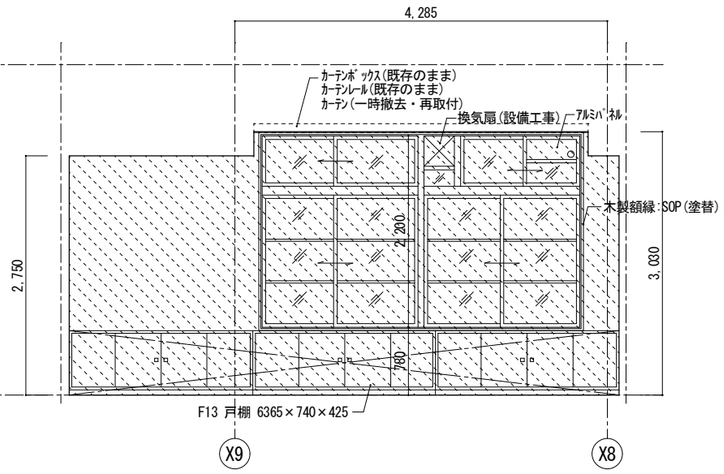
	内部改修範囲を示す
	撤去を示す
	カッター切を示す。

〔 管理・特別教室棟 〕

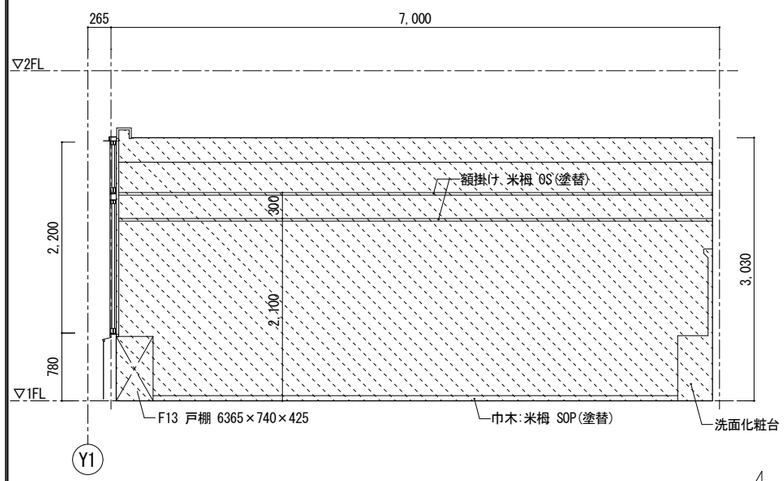
事業年度 年度 工事完成 年度	設 計 令和 年 月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 西小学校長寿命化改修工事（建築主体工事）	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社 ＭａｓＭａｓ 一級建築士登録 第198542号 美野 健治 印	図面名称・縮尺 S=1/50 (A3版-71%縮小) 1階展開図（3）	図 番 A-37

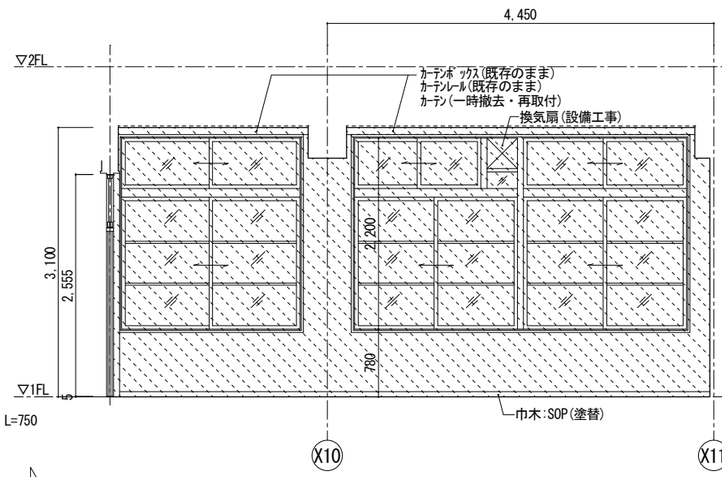


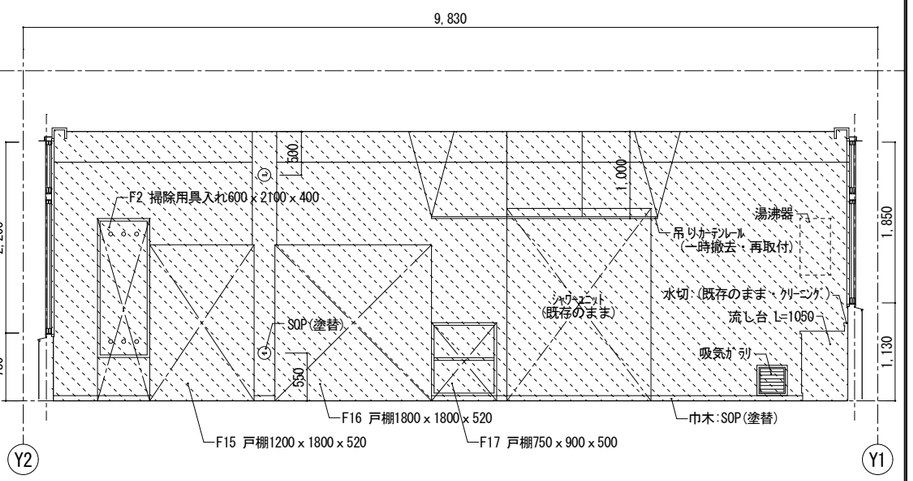




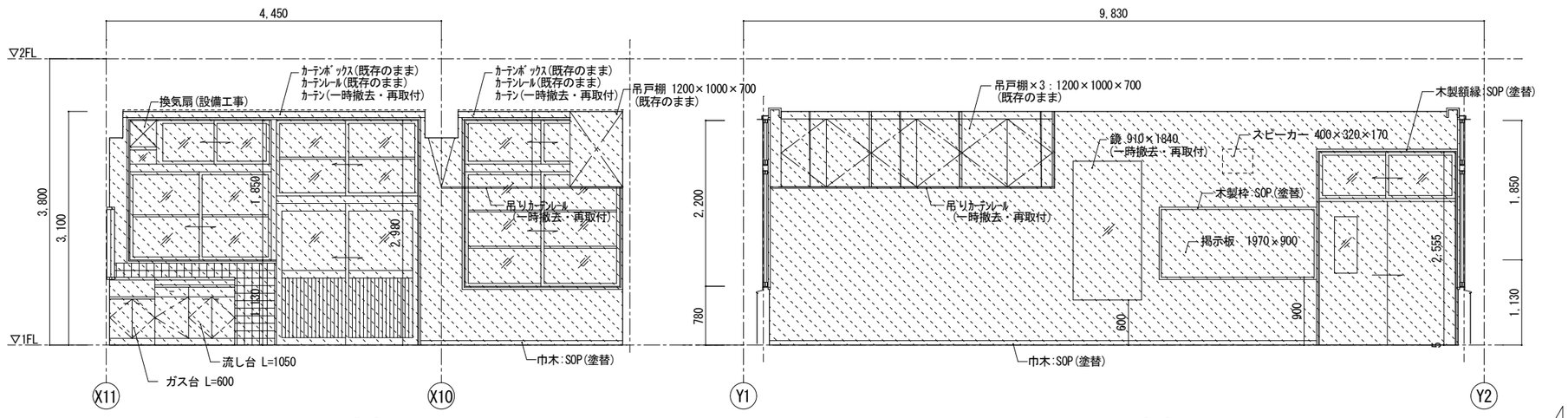
校長室 [A] [B] [C]







保健室 [D] [A] [B]



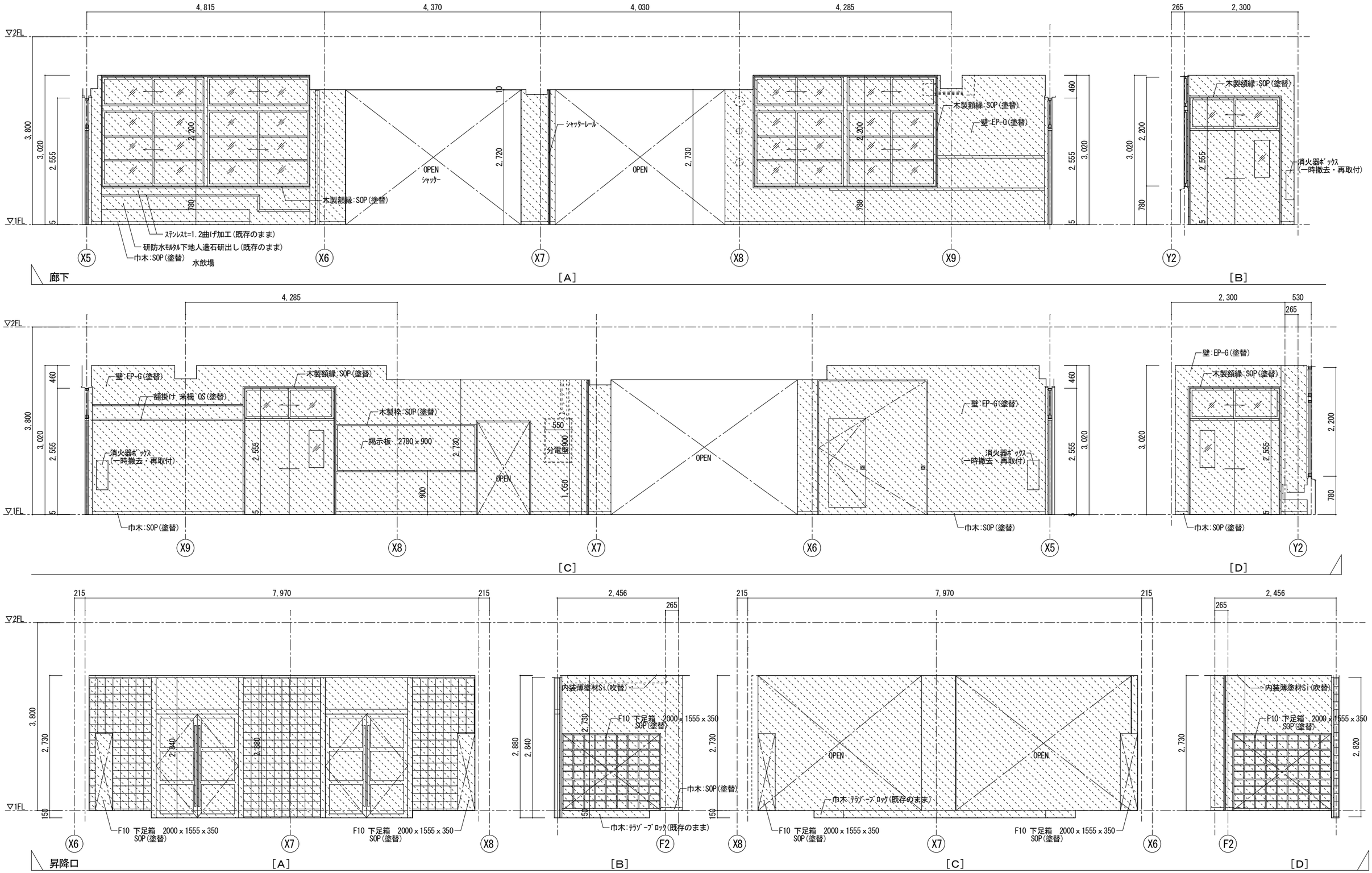
[C] [D]

凡例

	内部改修範囲を示す
	撤去を示す
	カッター切を示す。

〔 管理・特別教室棟 〕

事業年度 年度 工事完成 年度	設 計 令和 年 月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 西小学校長寿命化改修工事（建築主体工事）	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社 ＭａｓＭａｓ 一級建築士登録 第198542号 美野 健治 印	図面名称・縮尺 S=1/50 (A3版-71%縮小) 1階展開図（4）	図 番 A-38

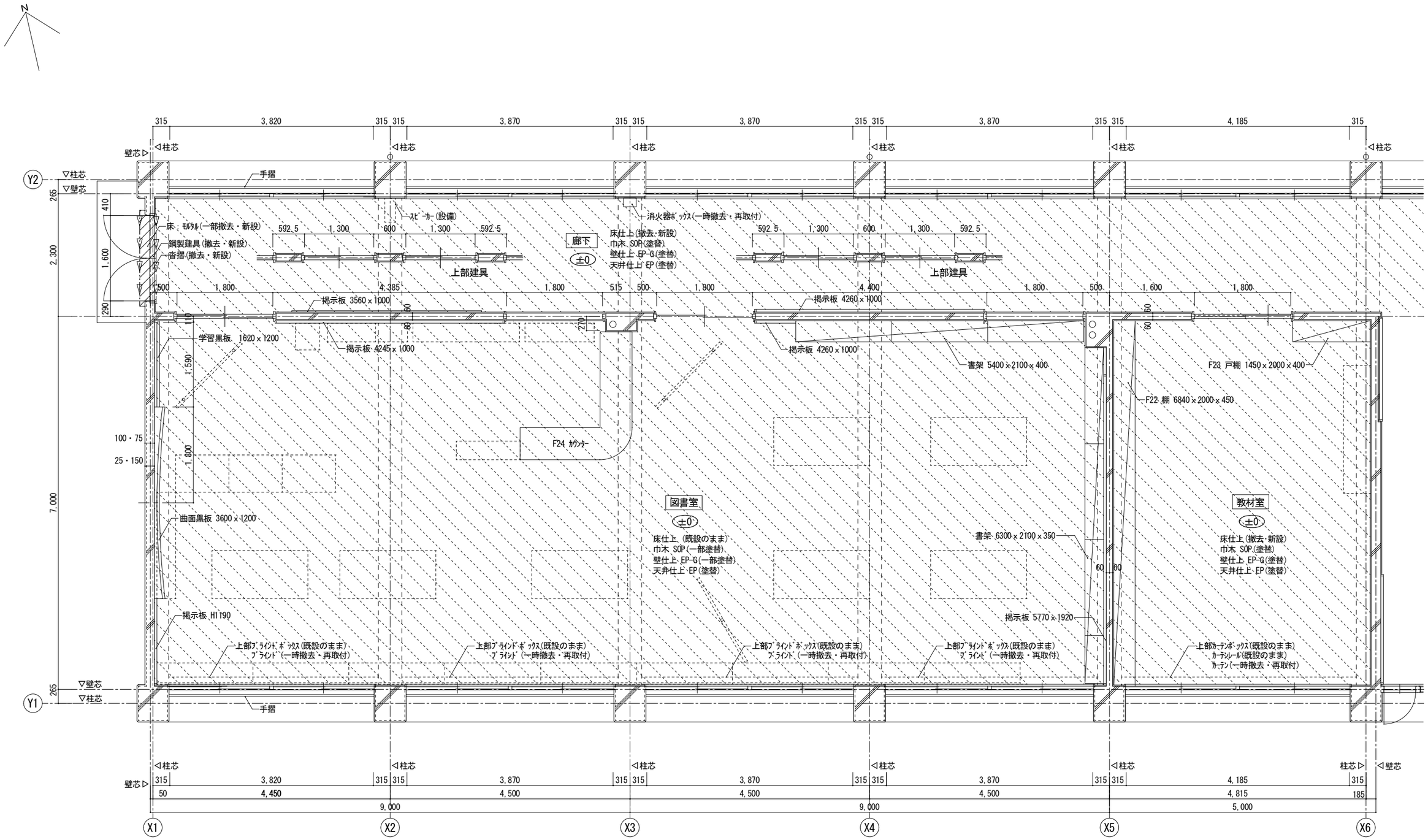


凡例

	内部改修範囲を示す		撤去を示す		カッター切を示す。

〔 管理・特別教室棟 〕

事業年度 年度 工事完成 年度	設 計 令和 年 月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 西小学校長寿命化改修工事（建築主体工事）	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社 ＭａｓＭａｓ 一級建築士登録 第198542号 美野 健治 印	図面名称・縮尺 S=1/50 (A3版-71%縮小) 1階展開図（5）	図 番 A-39



2階平面詳細図　S=1/50

A
D 展開方向 B
C

凡例

室名	工事対象室を示す。		内部改修範囲を示す	←◁—◁→	カッター切を示す。
±0	FLからのレベルを示す。		撤去を示す		

〔 管理・特別教室棟 〕

事業年度　年度 工事完成　年度	設 計 令和 年 月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 西小学校長寿命化改修工事（建築主体工事）	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社　ＭａｓＭａｓ 一級建築士登録　第198542号 美野　健治　印	図面名称・縮尺　S=1/50　(A3版-71%縮小) ２階平面詳細図（１）	図 番 A-40

N

ルーフドレイン　ルーフドレイン

屋根(2)

315 3,740 315 315 3,400 315 315 3,655 315 315 3,870 315 315 3,820 315

柱芯▷ ◁柱芯 ◁柱芯 ◁柱芯 柱芯▷ 柱芯▷ ◁壁芯

上部ｶｰﾃﾝﾎﾞｯｸｽ(既設のまま)
ｶｰﾃﾝﾚｰﾙ(既設のまま)
ｶｰﾃﾝ(一時撤去・再取付)

Y2 ▽柱芯 ▽壁芯

手摺

流し

SUS手洗場
(一時撤去・再取付)

ﾓﾙﾀﾙ部：EP-G(新設)

1,000

120

1,800

680

1,800

棚 3000×740×300

F2 掃除具入 600×2100×400

木製額縁：SOP(塗替)

上部掲示板 2170×690

F26 戸棚 1630×2100×400

廊下
±0

床仕上(撤去:新設)
巾木 SOP(塗替)
壁仕上 EP-G(塗替)
天井仕上 EP(塗替)

1,880 1,540 1,050

掲示板 3415×900

工事範囲

60 60 600

PS

1,130

90・40

階段室
±0

90・90

UP

50

平面黒板 1800×900

音楽室
±0

(改修対象外)

90・90

二段手摺

※別図参照
(階段廻り平面詳細図)

DN

260×5=1,300

260×15=3,900

50

2,080

1,560

男子便所

女子便所

(改修対象外)

掲示板 2000×900

F25 戸棚 6430×2100×400

上部掲示板 6370×690

音楽準備室
±0

床仕上(撤去:新設)
巾木 SOP(塗替)
壁仕上 EP-G(塗替)
天井仕上 EP(塗替)

見切三方 SOP(塗替)

棚 3000×740×300

Y1 ▽壁芯 ▽柱芯

手摺

上部ｶｰﾃﾝﾎﾞｯｸｽ(既設のまま)
ｶｰﾃﾝﾚｰﾙ(既設のまま)
ｶｰﾃﾝ(一時撤去・再取付)

屋根(3)

ルーフドレイン

2,985 265 2,565 2,300 7,000 265 530 2,330 440 9,300 265

柱芯▷ ◁壁芯 壁芯▷ ◁柱芯 壁芯▷ ◁柱芯 ◁柱芯 柱芯▷ 柱芯▷ ◁壁芯

335 3,700 385 970 520 680 520 1,340 315 3,655 315 315 3,870 315 315 3,820 315

4,370 4,030 4,285 4,500 4,450 50

185 4,000 4,000 13,500

185 215

X6 X7 X8 X9 X10 X11

2階平面詳細図 S=1/50

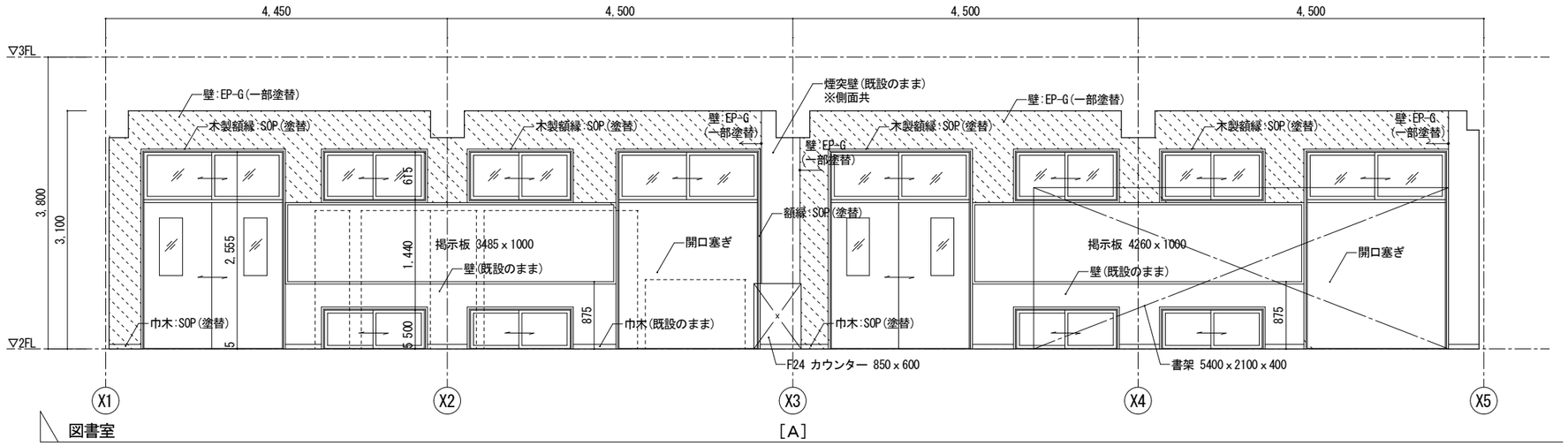
〔 管理・特別教室棟 〕

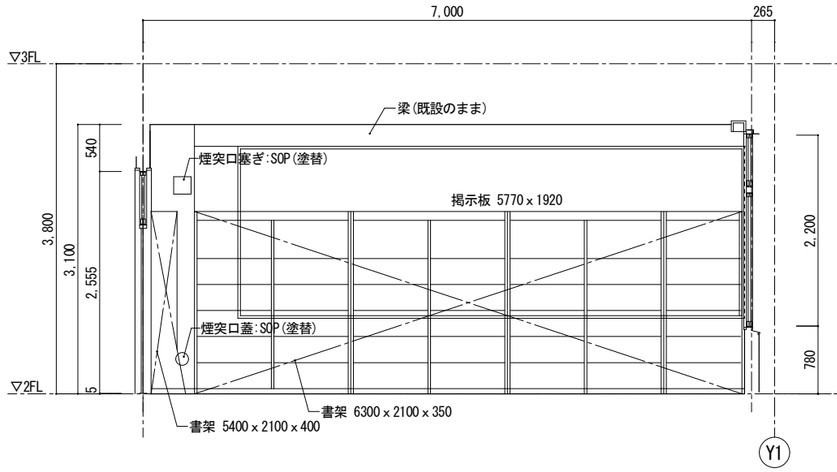
A
D 展開方向 B
C

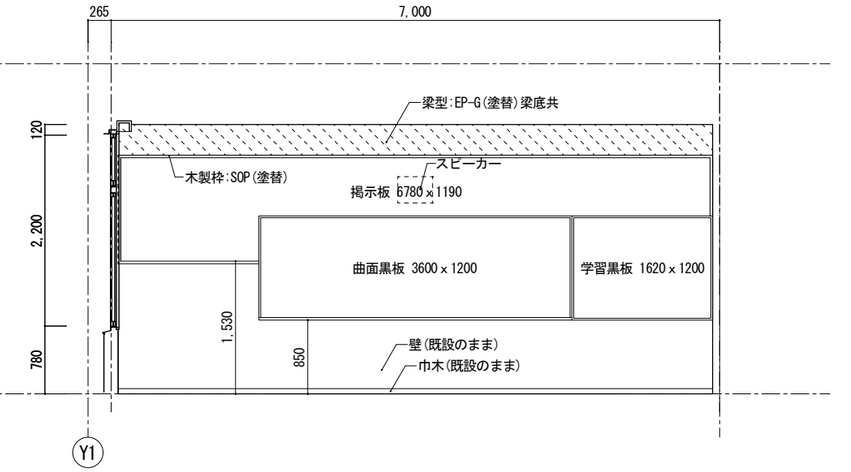
凡例

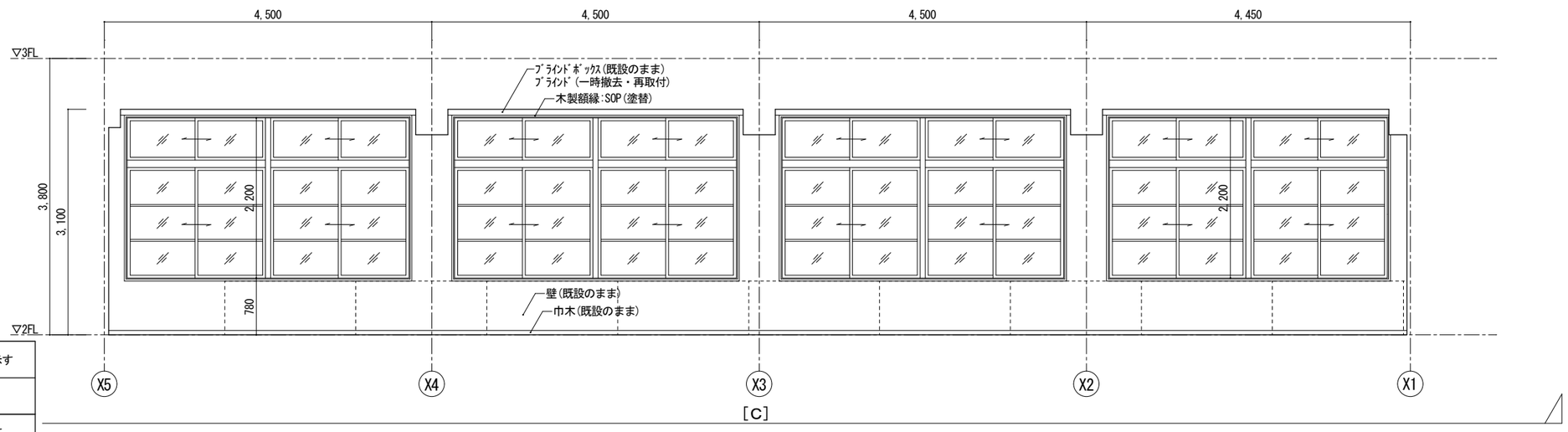
室名	工事対象室を示す。		内部改修範囲を示す		カッター切を示す。
±0	FLからのレベルを示す。		撤去を示す		

事業年度 年度 工事完成 年度	設 計 令和 年 月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 西小学校長寿命化改修工事（建築主体工事）	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社 ＭａｓＭａｓ 一級建築士登録 第198542号 美野 健治 印	図面名称・縮尺 S=1/50 (A3版-71%縮小) 2階平面詳細図（2）	図 番 A-41







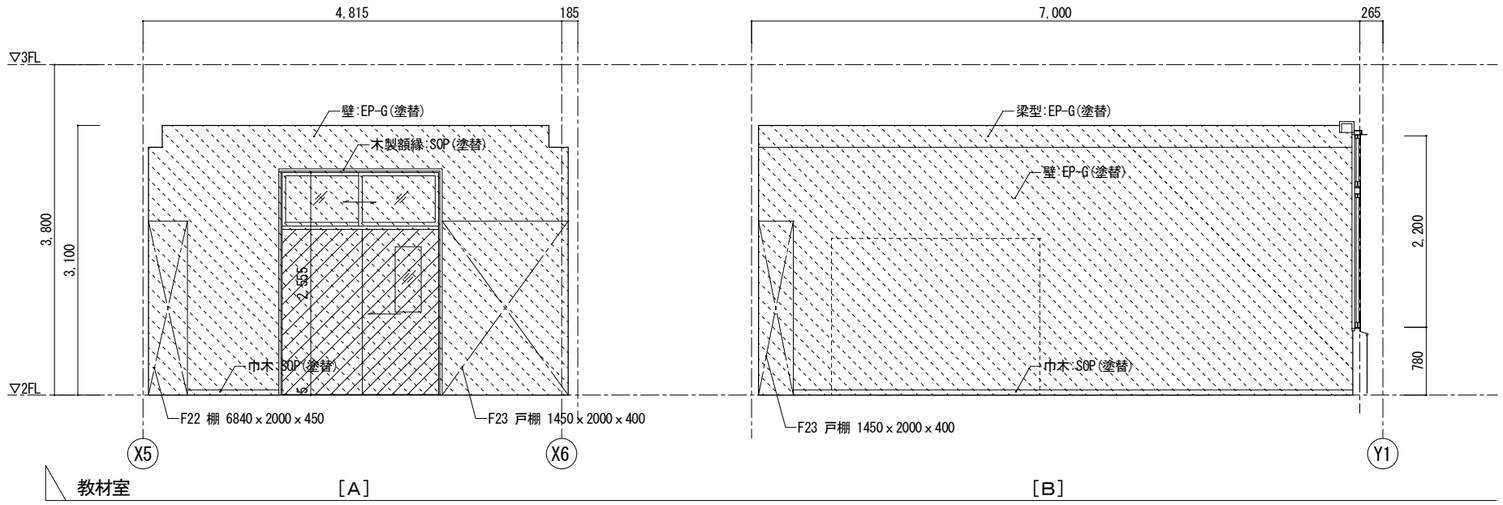


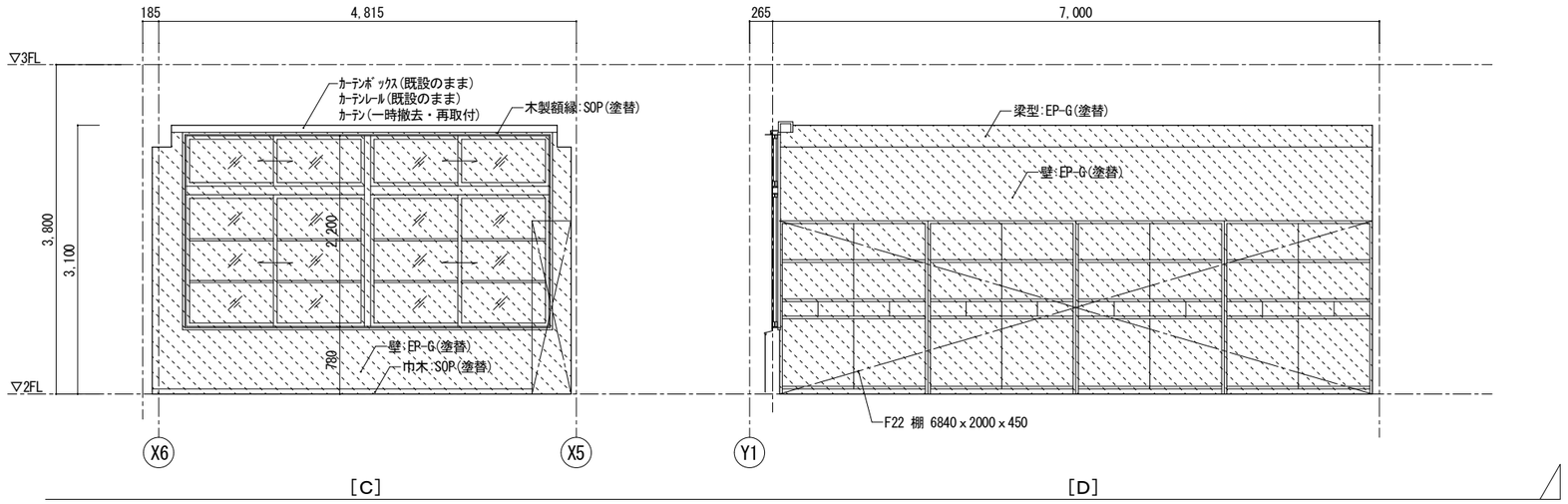
凡例

	内部改修範囲を示す
	撤去を示す
	カッター切を示す。

〔 管理・特別教室棟 〕

事業年度　年度 工事完成　年度	設 計 令和 年 月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 西小学校長寿命化改修工事（建築主体工事）	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社　ＭａｓＭａｓ 一級建築士登録　第198542号 美野　健治　印	図面名称・縮尺　S=1/50　(A3版-71%縮小) ２階展開図（１）	図 番 A-42



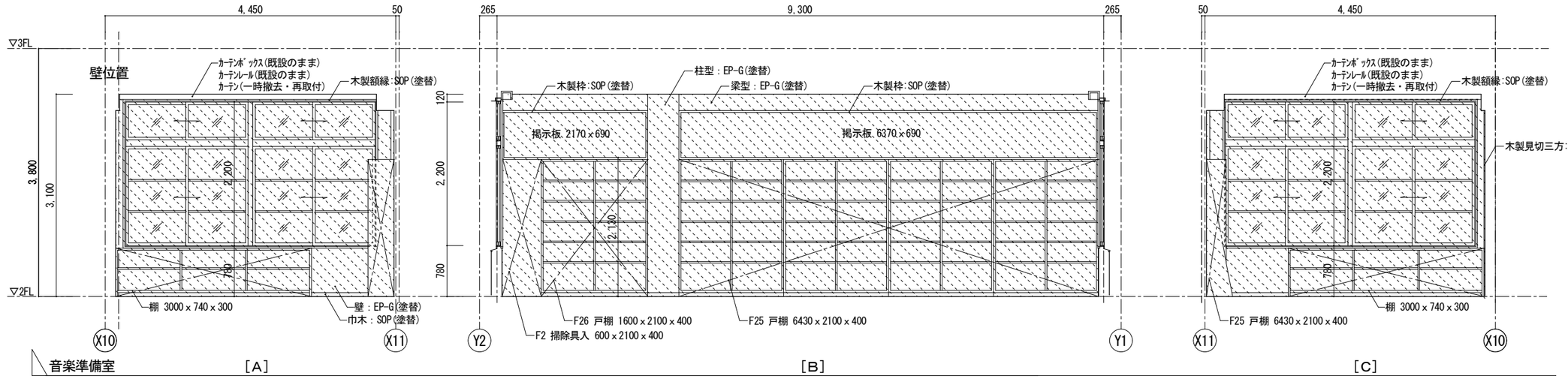


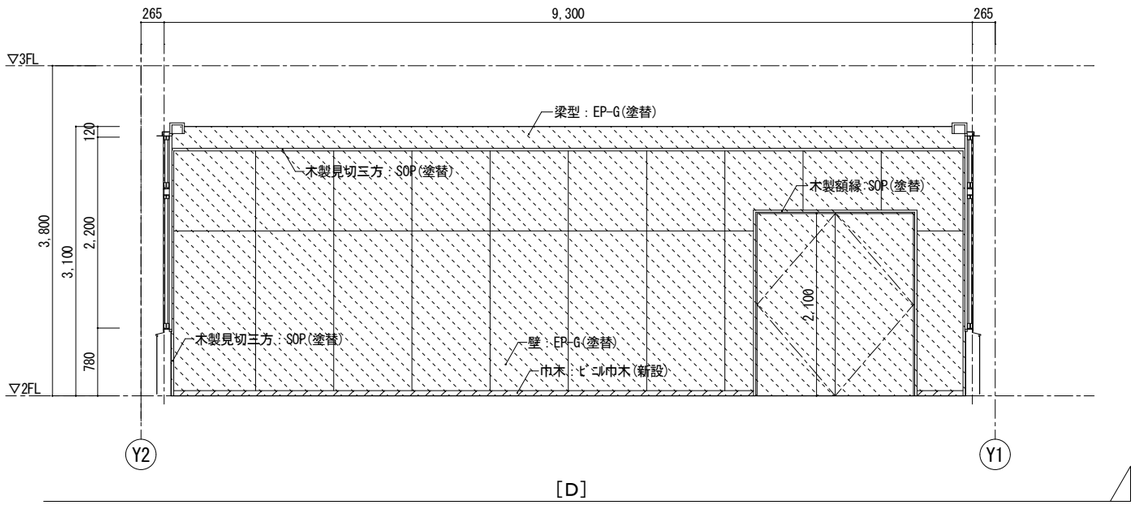
凡例

	内部改修範囲を示す
	撤去を示す
	カッター切を示す。

〔 管理・特別教室棟 〕

事業年度　年度 工事完成　年度	設 計 令和 年 月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 西小学校長寿命化改修工事（建築主体工事）	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社　ＭａｓＭａｓ 一級建築士登録　第198542号 美野　健治　印	図面名称・縮尺　S=1/50　(A3版-71%縮小) 2階展開図（2）	図 番 A-43



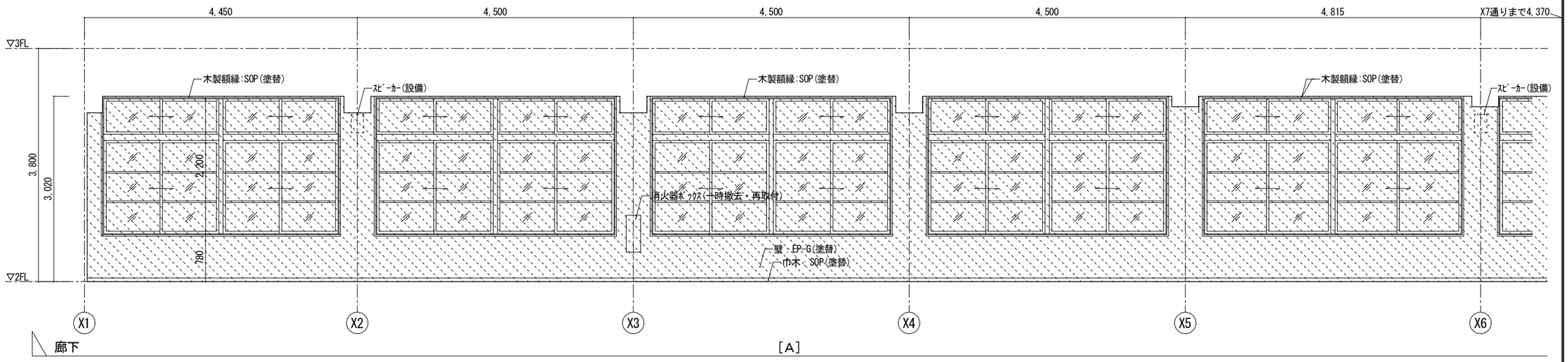


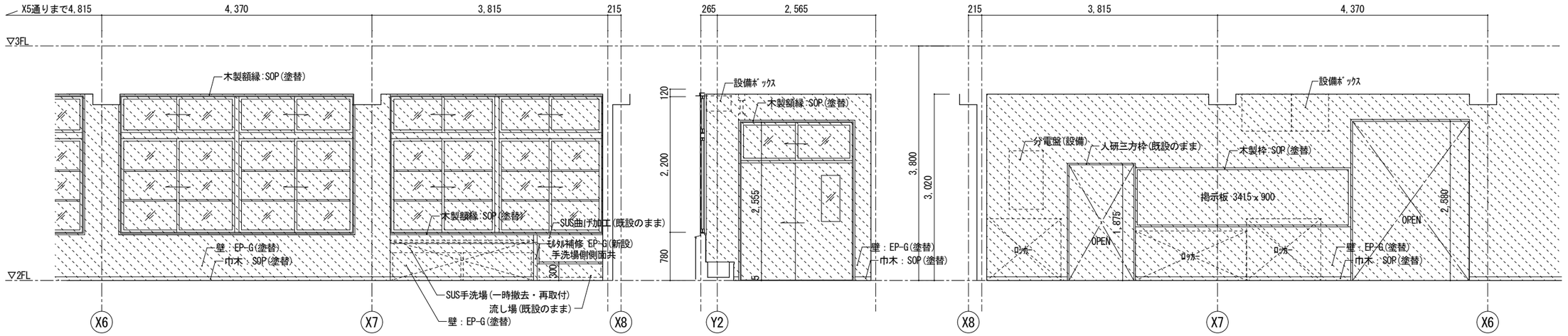
凡例

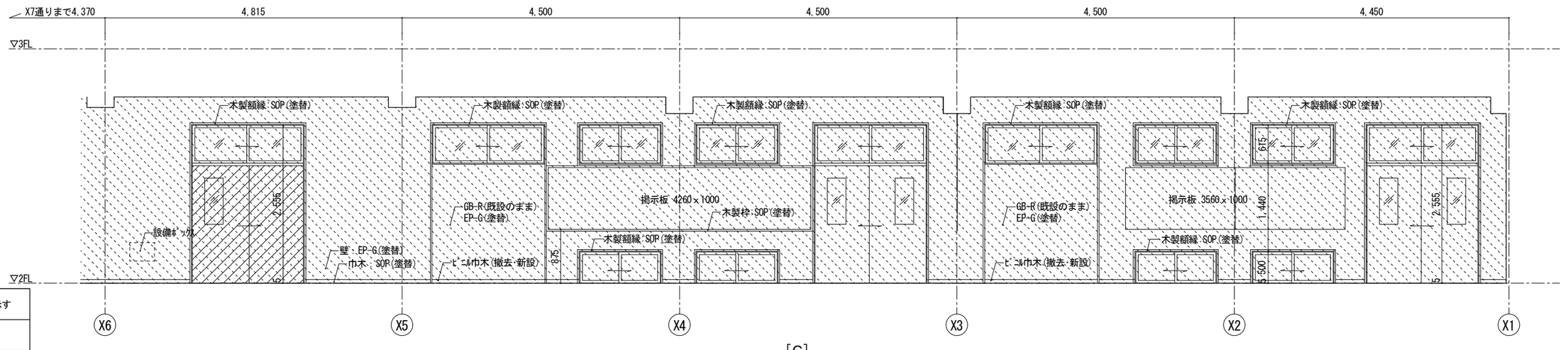
	内部改修範囲を示す
	撤去を示す
	カッター切を示す。

〔 管理・特別教室棟 〕

事業年度　年度 工事完成　年度	設 計 令和 年 月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 西小学校長寿命化改修工事（建築主体工事）	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社　ＭａｓＭａｓ 一級建築士登録　第198542号 美野　健治　印	図面名称・縮尺　S=1/50　(A3版-71%縮小) ２階展開図（３）	図 番 A-44





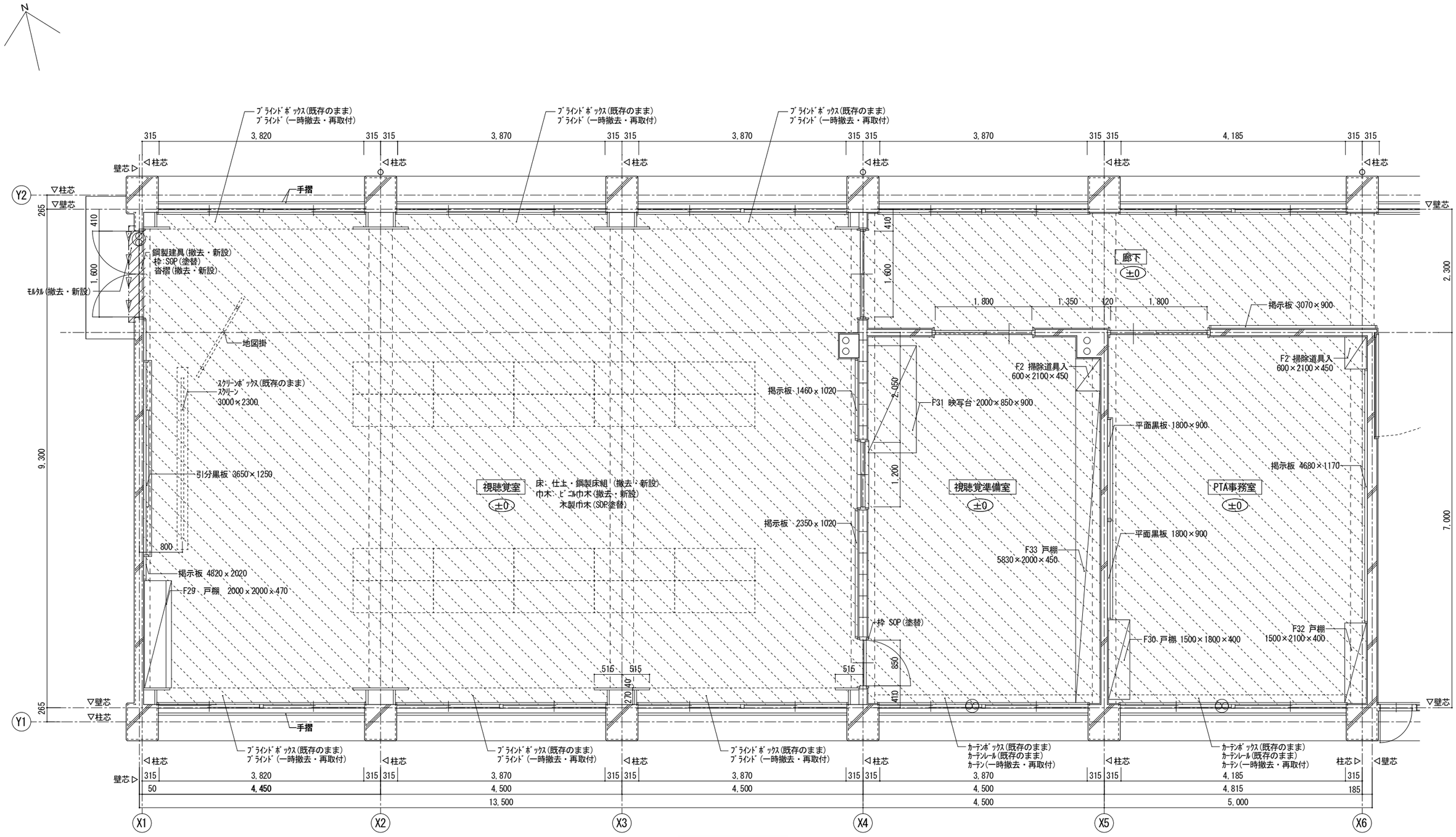


凡例

	内部改修範囲を示す
	撤去を示す
	カッター切を示す。

〔 管理・特別教室棟 〕

事業年度　年度 工事完成　年度	設 計 令和 年 月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 西小学校長寿命化改修工事（建築主体工事）	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社　ＭａｓＭａｓ 一級建築士登録　第198542号 美野　健治　印	図面名称・縮尺　S=1/50　(A3版-71%縮小) ２階展開図（４）	図 番 A-45



3階平面詳細図　S=1/50

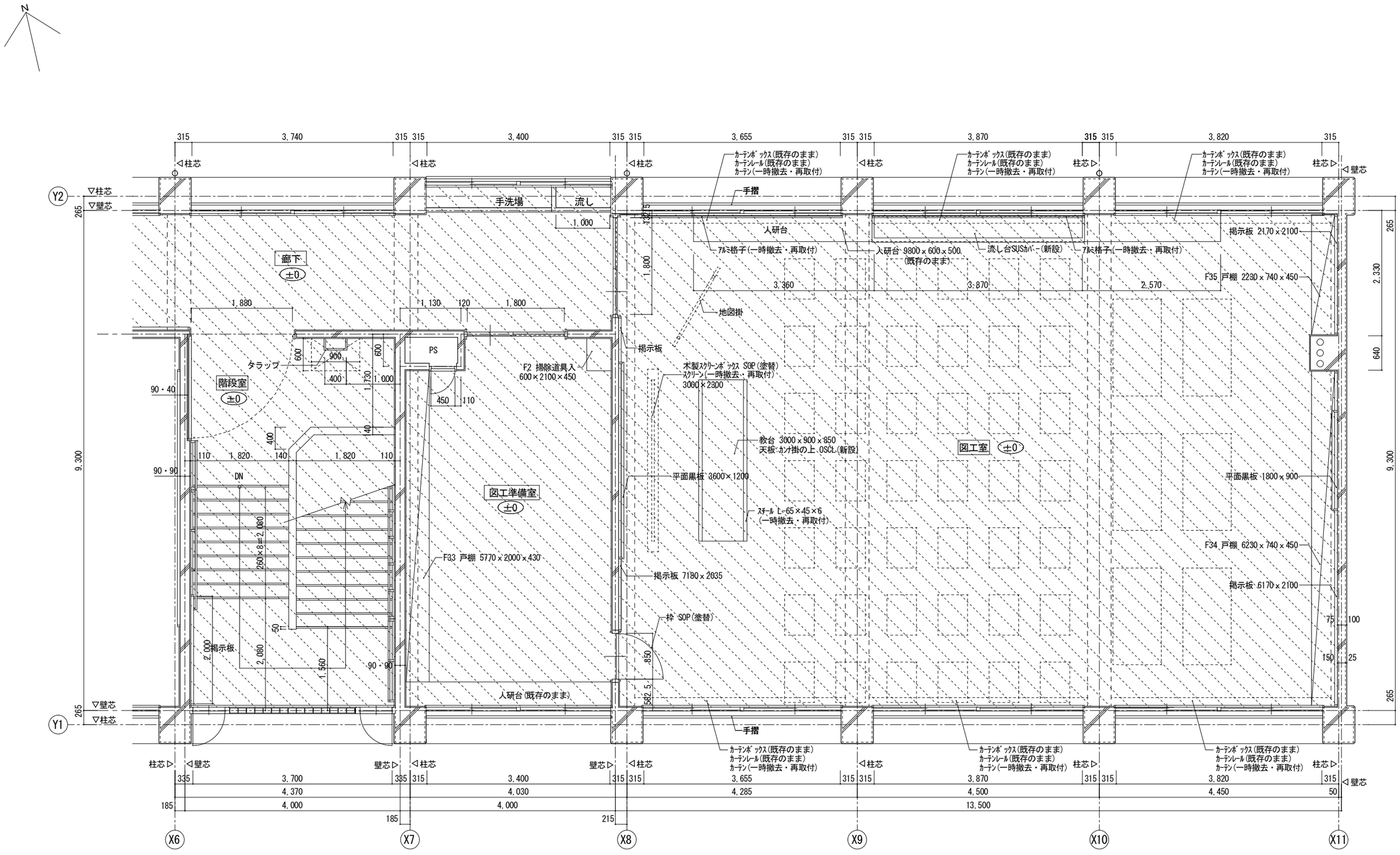
凡例

室名	工事対象室を示す。		内部改修範囲を示す		カッター切を示す。
±0	FLからのレベルを示す。		撤去を示す		

A
D 展開方向 B
C

〔 管理・特別教室棟 〕

事業年度　年度 工事完成　年度	設 計 令和 年 月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 西小学校長寿命化改修工事（建築主体工事）	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社　ＭａｓＭａｓ 一級建築士登録　第198542号 美野　健治　印	図面名称・縮尺　S=1/50　(A3版-71%縮小) 3階平面詳細図（1）	図 番 A-46



3階平面詳細図　S=1/50

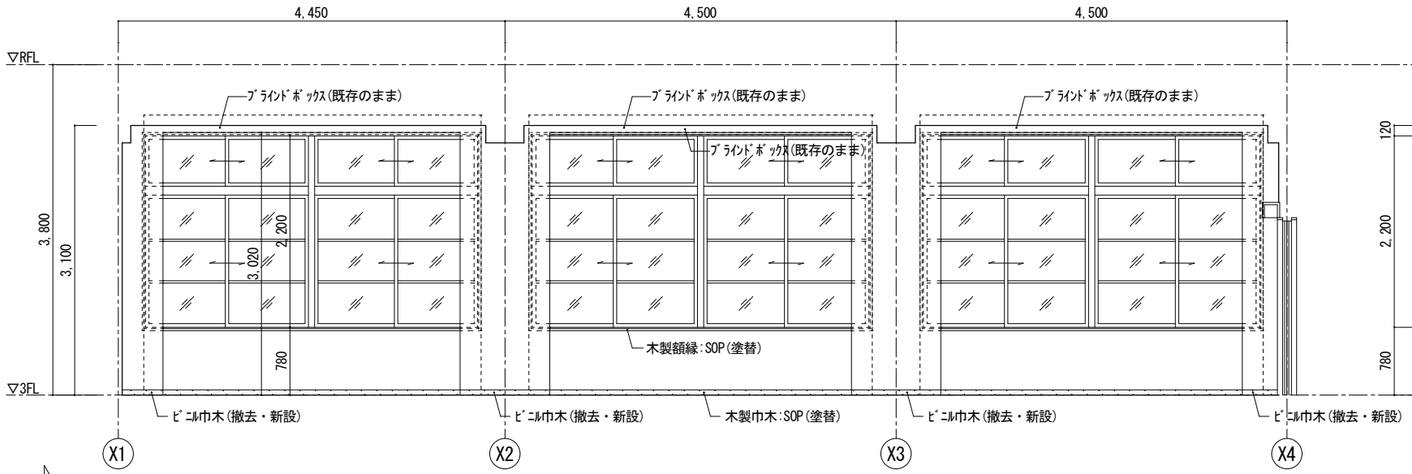
凡例

室名	工事対象室を示す。		内部改修範囲を示す	←◁—◁	カッター切を示す。
±0	FLからのレベルを示す。		撤去を示す		

A
D 展開方向 B
C

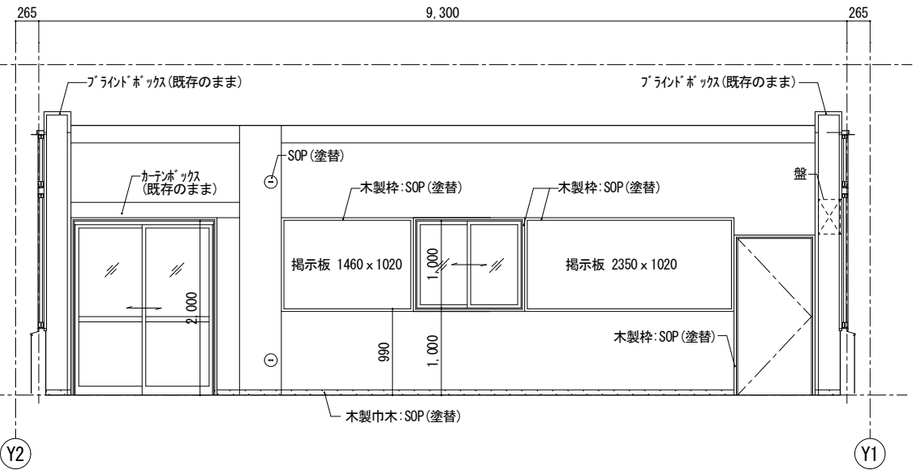
〔 管理・特別教室棟 〕

事業年度　年度 工事完成　年度	設 計 令和 年 月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 西小学校長寿命化改修工事（建築主体工事）	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社　ＭａｓＭａｓ 一級建築士登録　第198542号 美野　健治　印	図面名称・縮尺　S=1/50　(A3版-71%縮小) 3階平面詳細図（2）	図 番 A-47

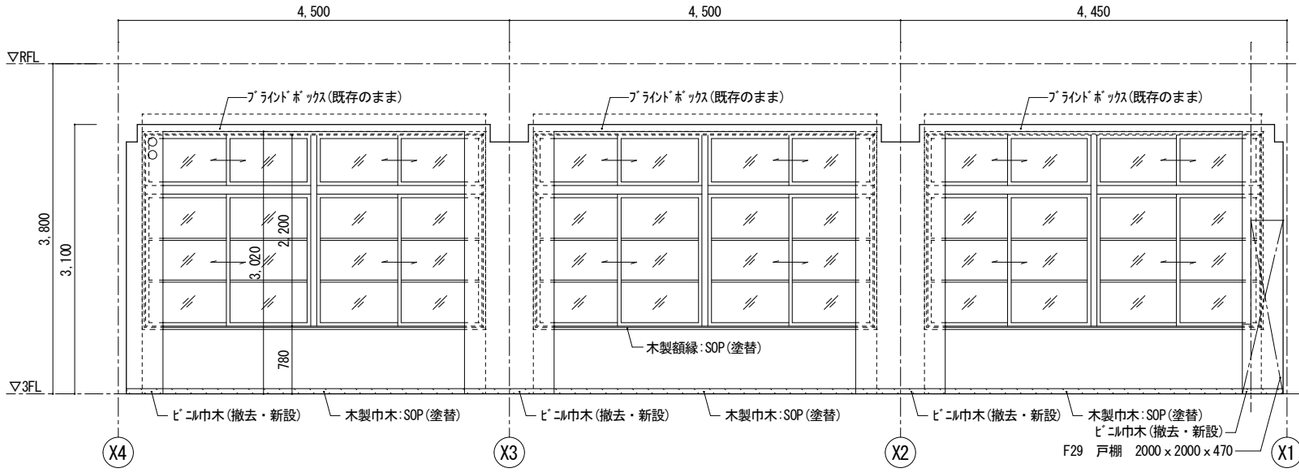


視聴覚室

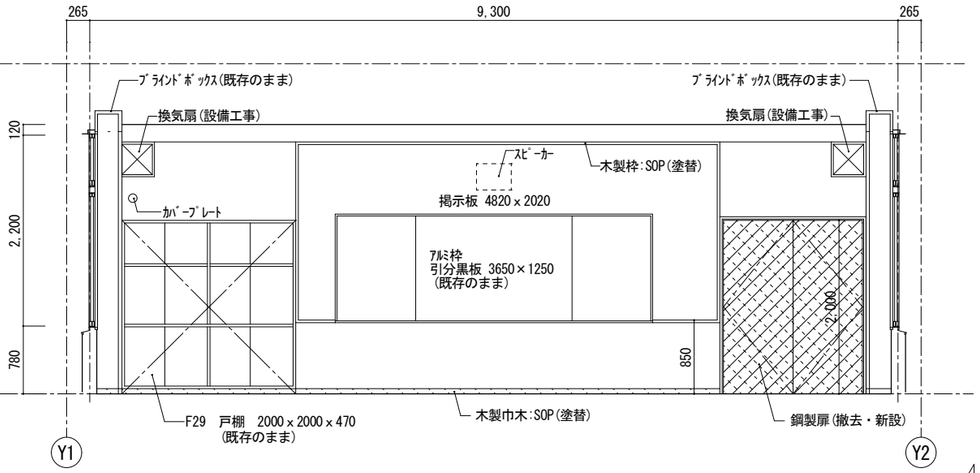
[A]



[B]



[C]



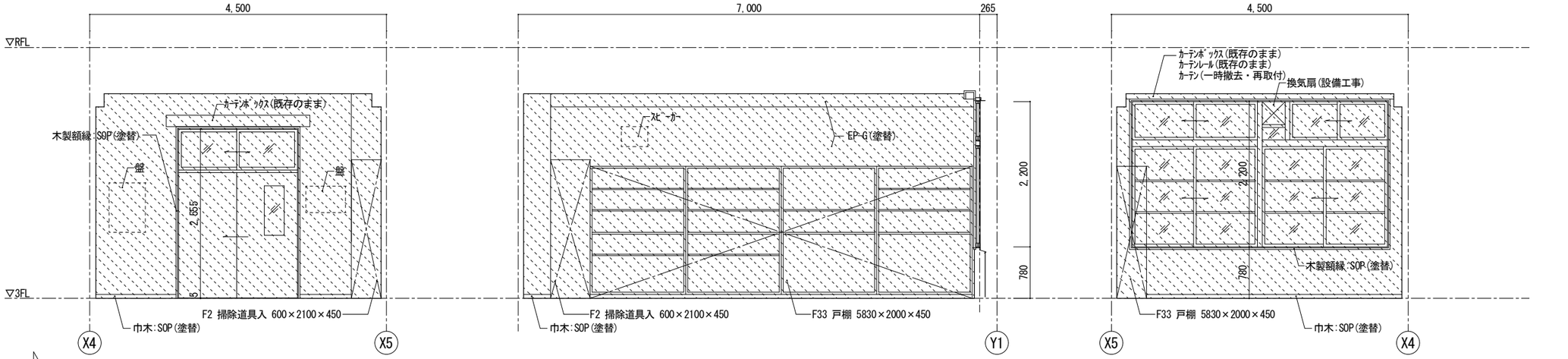
[D]

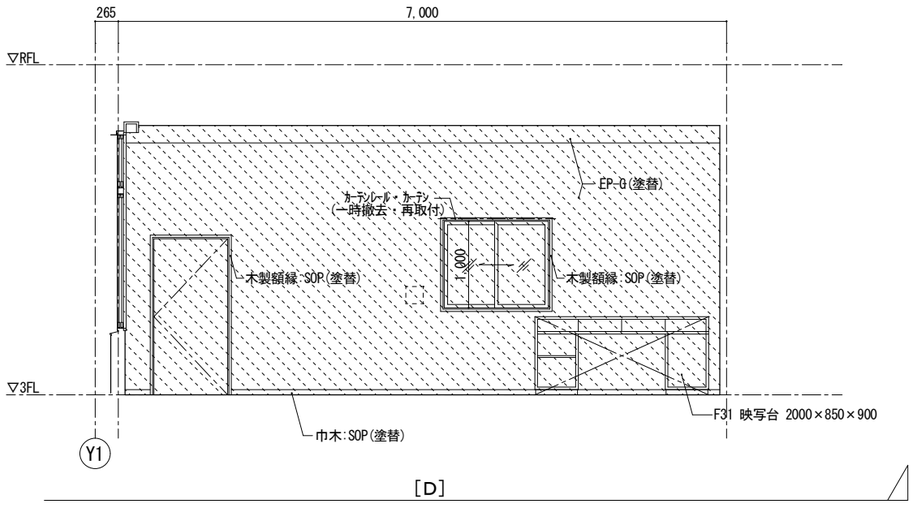
凡例

	内部改修範囲を示す
	撤去を示す
	カッター切を示す。

〔 管理・特別教室棟 〕

事業年度 年度 工事完成 年度	設 計 令和 年 月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 西小学校長寿命化改修工事（建築主体工事）	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社 ＭａｓＭａｓ 一級建築士登録 第198542号 美野 健治 印	図面名称・縮尺 S=1/50 (A3版-71%縮小) 3階展開図（1）	図 番 A-48



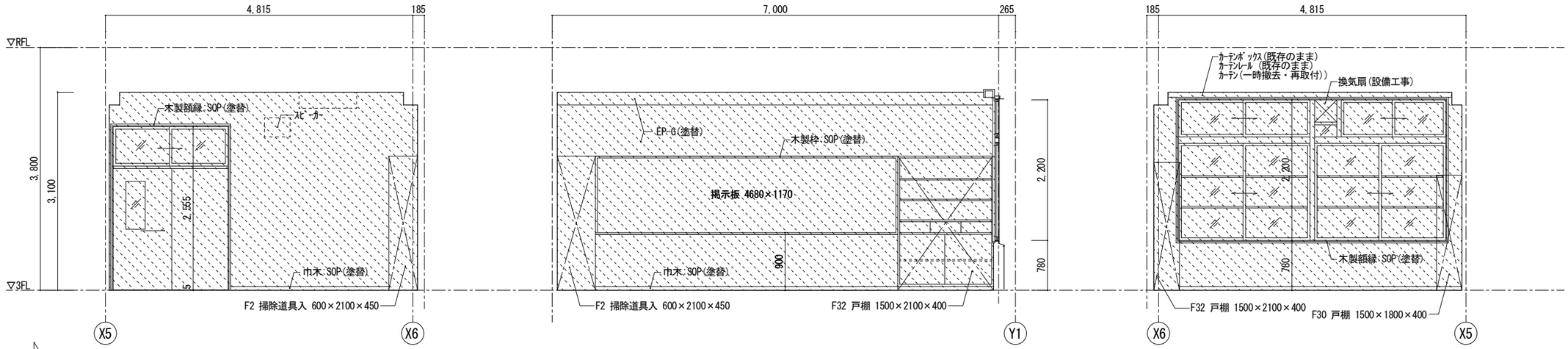


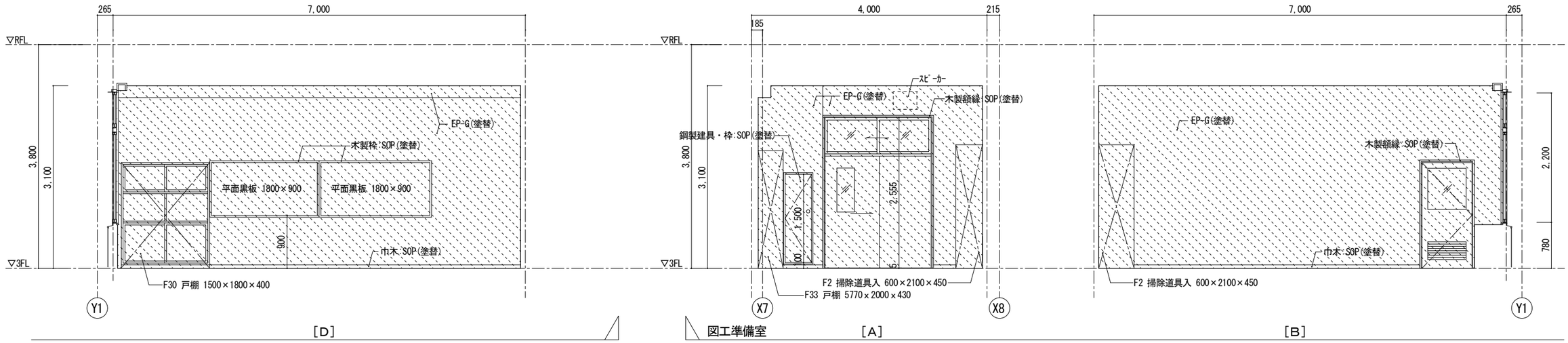
凡例

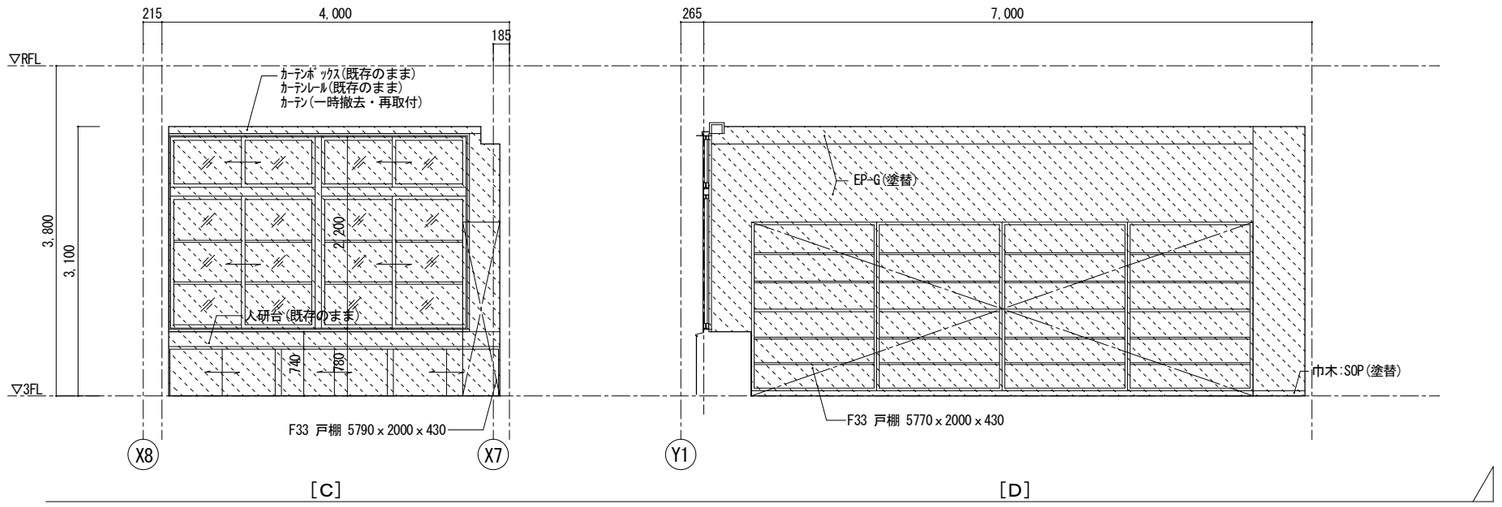
	内部改修範囲を示す
	撤去を示す
	カッター切を示す。

〔 管理・特別教室棟 〕

事業年度　年度 工事完成　年度	設 計 令和 年 月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 西小学校長寿命化改修工事（建築主体工事）	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社　ＭａｓＭａｓ 一級建築士登録　第198542号 美野　健治　印	図面名称・縮尺　S=1/50　(A3版-71%縮小) ３階展開図（２）	図 番 A-49





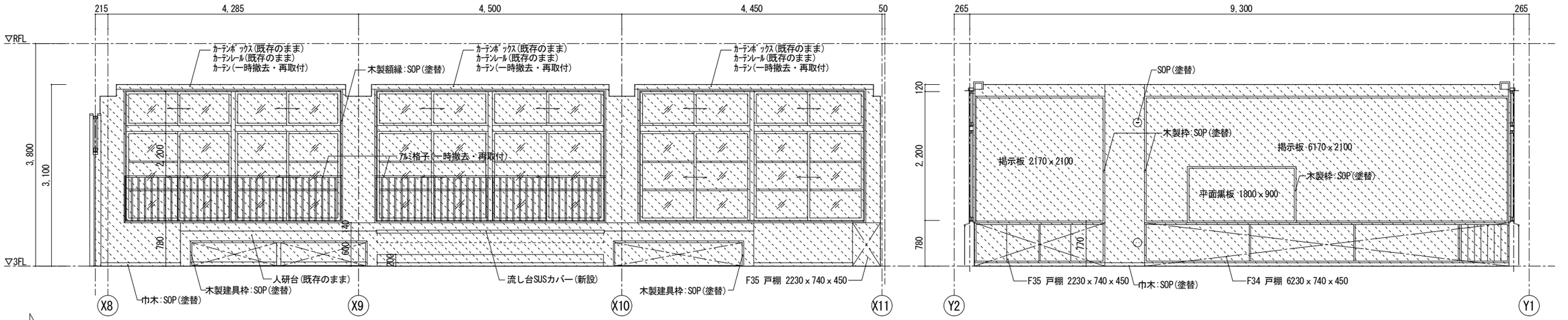


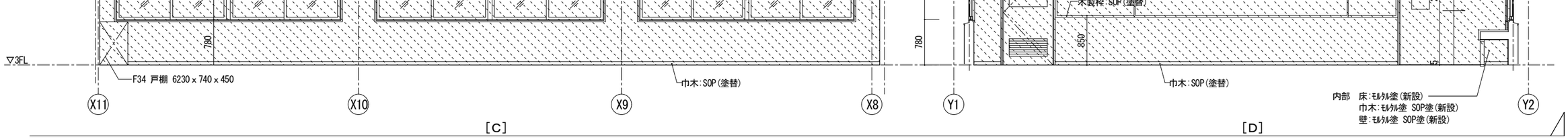
凡例

	内部改修範囲を示す
	撤去を示す
	カッター切を示す。

〔 管理・特別教室棟 〕

事業年度　年度 工事完成　年度	設 計 令和 年 月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 西小学校長寿命化改修工事（建築主体工事）	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社　ＭａｓＭａｓ 一級建築士登録　第198542号 美野　健治　印	図面名称・縮尺　S=1/50　(A3版-71%縮小) ３階展開図（３）	図 番 A-50



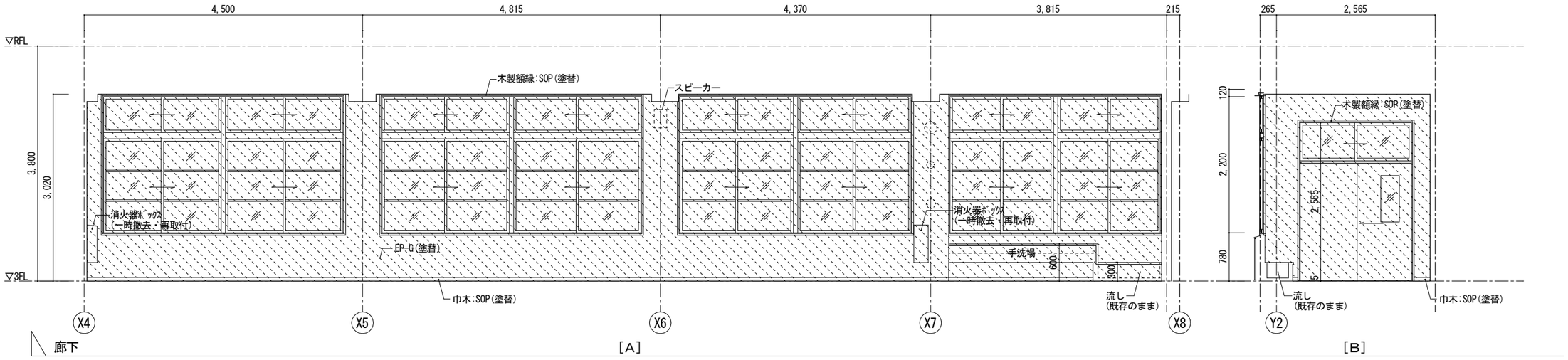


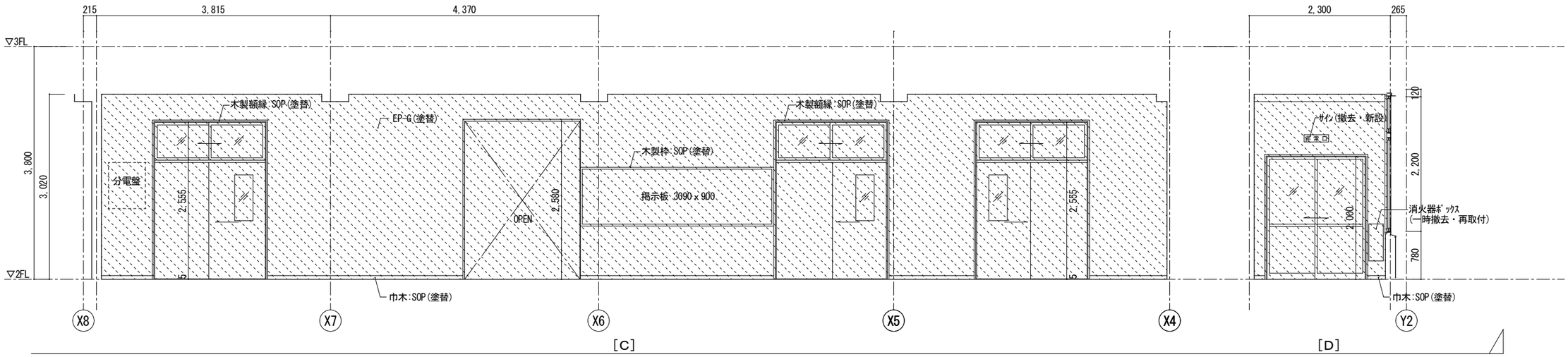
凡例

	内部改修範囲を示す
	撤去を示す
	カッター切を示す。

〔 管理・特別教室棟 〕

事業年度 年度 工事完成 年度	設 計 令和 年 月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 西小学校長寿命化改修工事（建築主体工事）	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社 ＭａｓＭａｓ 一級建築士登録 第198542号 美野 健治 印	図面名称・縮尺 S=1/50 (A3版-71%縮小) 3階展開図（4）	図 番 A-51



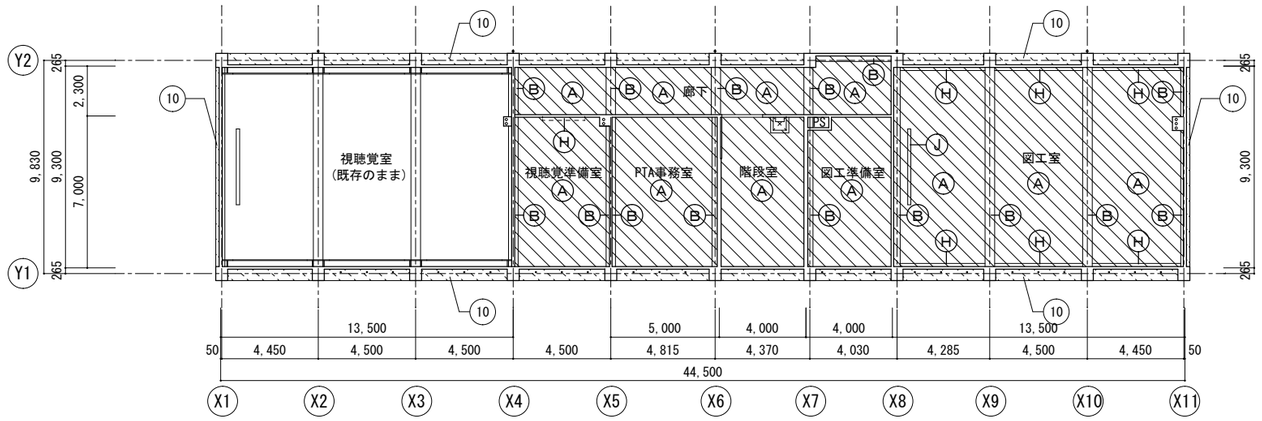


凡例

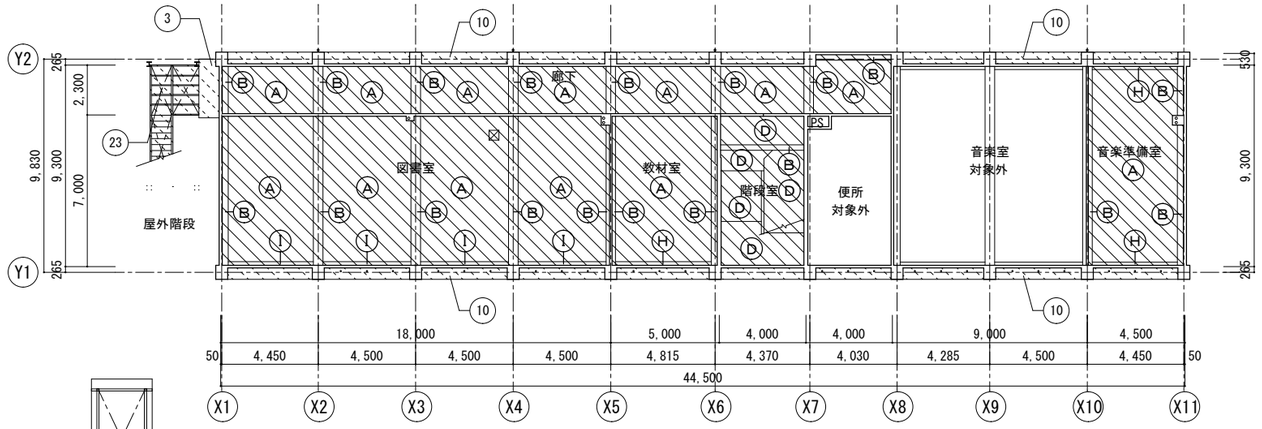
	内部改修範囲を示す
	撤去を示す
	カッター切を示す。

〔 管理・特別教室棟 〕

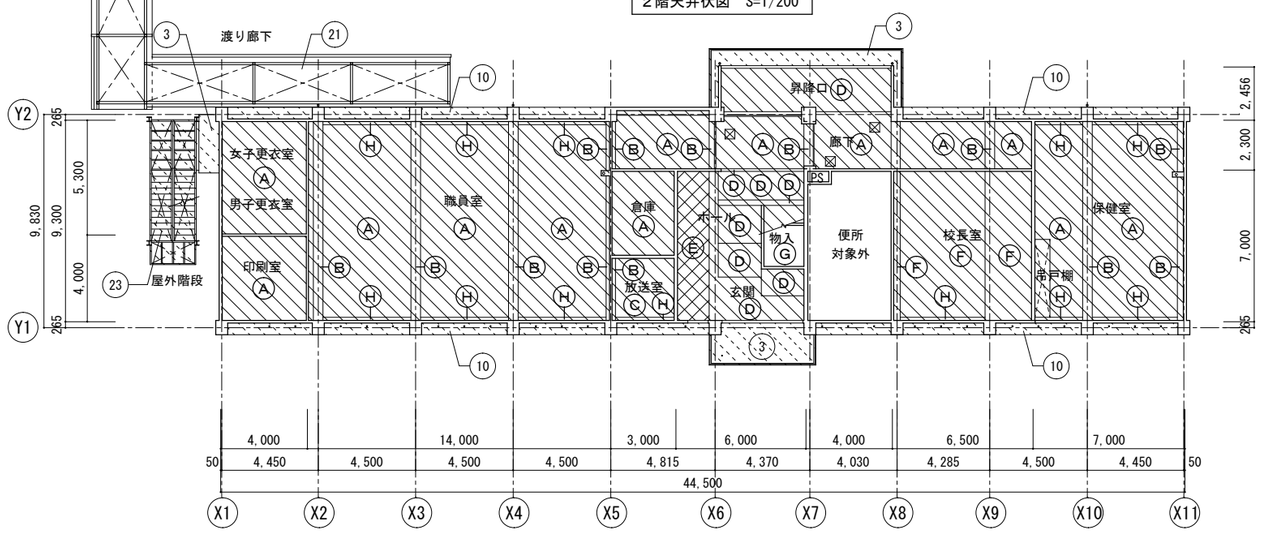
事業年度　年度 工事完成　年度	設 計 令和 年 月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 西小学校長寿命化改修工事（建築主体工事）	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社　ＭａｓＭａｓ 一級建築士登録　第198542号 美野　健治　印	図面名称・縮尺　S=1/50　(A3版-71%縮小) ３階展開図（５）	図 番 A-52



３階天井伏図　S=1/200



２階天井伏図　S=1/200



１階天井伏図　S=1/200

凡例

	外部改修範囲を示す （符号は外部仕上げ表に依る）
	改修範囲を示す
	撤去・新設を示す
Ⓐ	石膏化粧吸音ﾎﾞｰﾄﾞt=9（下地調整）の上 EP(塗替)
Ⓑ	梁型：ﾓﾙﾀﾙ（既存のまま）AEP(撤去）の上 EP-G(塗替)
Ⓒ	ﾌﾚｷｼﾌﾞﾙﾎﾞｰﾄﾞ有孔板 t=4(下地調整) ｶﾝﾚｲｼｬ裏打ｸﾞﾗｽｳｰﾙ充填 t=25(既存のまま) AEP(撤去)の上 EP(塗替)
Ⓓ	ｺﾝｸﾘｰﾄ打放し(ﾓﾙﾀﾙ補修・下地調整) ﾐﾈｺｰﾄS t=4吹付(撤去)の上 内装薄塗材Si(吹替)
Ⓔ	石綿板 t=4[ｱｽﾍﾞｽﾄ含有](撤去) ﾐﾈｺｰﾄS t=4吹付(撤去) LGS(撤去・新設) GB-D t=9.5(新設)
Ⓕ	石膏ﾎﾞｰﾄﾞ t=9（既存のまま） ﾋﾞﾆﾙｸﾛｽ張り(撤去・新設)
Ⓖ	ﾓﾙﾀﾙ塗(既存のまま)
Ⓗ	ｶｰﾃﾝﾎﾞｯｸｽ:(既存のまま)
Ⓘ	ﾌﾞﾗｲﾝﾄﾞﾎﾞｯｸｽ:(既存のまま)
Ⓙ	木製ｽｸﾘｰﾝﾎﾞｯｸｽ:SOP(塗替)
☒	天井点検口(450×450)（既存のまま）

〔 管理・特別教室棟 〕

事業年度　年度 工事完成　年度	設 計 令和 年 月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 西小学校長寿命化改修工事（建築主体工事）	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社　ＭａｓＭａｓ 一級建築士登録　第198542号 美野　健治　印	図面名称・縮尺　S=1/200　(A3版-71%縮小) 天井伏図	図 番 A-53

共　通　事　項

表示略号

略　号	建　具	略　号	ガ　ラ　ス
ＡＤ	アルミ製戸	Ｐ	フロート板ガラス
ＡＷ	アルミ製窓	Ｆ	型板ガラス
ＡＧ	アルミ製がらり	ＮＦ	網入型板ガラス
ＳＴ	鋼製三方枠	ＷＦ	線入型板ガラス
ＳＳＴ	ステンレス製三方枠	ＮＰ	網入磨板ガラス
ＳＤ	鋼製戸	ＷＰ	線入磨板ガラス
ＳＷ	鋼製窓	ＨＡＰ	熱線吸収フロート板ガラス
ＳＧ	鋼製がらり	Ｔ（　）	強化ガラス（材料板ガラス）
ＳＳ	重量シャッター	ＩＧ（Ｏ）（　）	複層ガラス（材料板ガラス）（Ｏ）は断熱性、日射取得性・日射遮蔽性による区分を示す
ＬＤ	鋼製軽量戸		
ＬＳ	軽量シャッター		
ＳＳＤ	ステンレス製戸	ＨＲ（　）	熱線反射ガラス（材料板ガラス）
ＳＳＷ	ステンレス製窓	ＤＳ（　）	倍強度ガラス（材料板ガラス）
ＳＳＧ	ステンレス製がらり	Ｌ（　）	合わせガラス（材料板ガラス）
ＯＨＤ	オーバーヘッドドア		
ＡＣＷ	アルミ製カーテンウォール	Ｌｏｗ-Ｅ	低放射ガラス
ＰＤ	樹脂製戸		
ＰＷ	樹脂製窓		
Ｈ	ふすま		
ＰＡ	紙張り障子		
ＷＤ	木製戸		
ＷＷ	木製窓		

（○－○○－○○）、（○－○○）は国交省標準詳細図の詳細番号を示す。
複層ガラスは、室内・室外側に使用するガラスは下記のとおりとする。
［内（材料板ガラス）＋Ａ＋外（材料板ガラス）］
【内：室内側ガラス、外：室外側ガラス、Ａ：空気、ＡＲ：アルゴン】
網入りガラスの網の形状は（ ※ ひし網　・かく網）とする。

平面図表示建具金物記号



平面図表示建具符号



アルミニウム製建具の枠見込み寸法（mm）

特記なき場合は、形式が引違い・片引き・上げ下げ窓で、複層ガラスを使用する場合は、枠見込み100mmとする。

ＳＤ及びＳＳＤ	40（Ｈ＝2,400以下、扉一枚の幅＝950以下） 50（Ｈ＝2,400超える、扉一枚の幅＝1,600以下） 50（Ｈ＝2,700以上、扉一枚の幅＝1,500以下） 60（Ｈ＝3,200以上、扉一枚の幅＝2,000以下）	Ｈ ＰＡ ＷＤ	19.5（戸ぶすまは30mm） 30 30（Ｈ＝1,000未満、扉一枚の幅＝950以下） 36（Ｈ＝2,000未満、扉一枚の幅＝950以下） 40（Ｈ＝2,400未満、扉一枚の幅＝950以下）
ＬＤ	36	ＷＤ（かまち戸）	36mm

形状

（１）ＳＤのうち、点検扉は特記以外は片面フラッシュ戸とする。
（２）排煙窓の適用は「備考」欄による。
（３）特殊な性能（簡易気密、防音、断熱、耐震）の建具の適用は「備考」欄による。
（４）水切りの幅は、「備考」欄による。
（５）標準型建具の適用は「標準型建具の適用」欄にＯが付いたものとする。

仕上げ

（１）ＳＴ、ＳＤ、ＳＷ、ＳＧ、ＳＳ及びＬＤの仕上げは特記以外はＳＯＰとする。
（２）ＳＤ及びＬＤのドアガラリは、鋼板⑦1.2にＳＯＰとする。
（３）ふすまの上張りの種類は、「備考」欄による。

建具金物

（１）ドアクローザーの適用は建具配置図（平面図）による。なお、ドアクローザーの取付は室内側を原則とする。
（２）壁当たりとなる開き戸は壁面からの逃げ寸法を100mm程度とし、ドアクローザーの有無にかかわらず戸当たりを設ける。
（３）クレセントの高さは1,500mm以下、排煙窓オペレーター装置の高さは800mmから1,500mmとする。
（４）扉の把手は特記なき場合は、レバーハンドルとし握り玉の適用は「建具金物」欄による。
（５）扉の握り玉、把手類の取付位置は床面から1,000mmとし、押板類は1,100mmとする。
（６）防犯建物部品は「建具金物」欄による。
（７）建具金物は下表により、それ以外は「建具金物」欄による。

外部	一般扉	丁番　　シリンダー箱錠（片面サムターン）	
	自由開き扉	フロアヒンジ（片自由、ストップ付き）シリンダー本締り錠（片面サムターン） 押棒（引手）（内外共）はステンレス押棒（SUS 304 HL程度、L≒400）	
	自動ドア（スライディングドア）	引戸用本締り錠（片面サムターン）	
内部	一般室	ピボットヒンジ　シリンダー箱錠（片面サムターン）	
	湯沸室	ピボットヒンジ　錠なし	
	便所、洗面所	ピボットヒンジ　錠なし 押棒（引手）（内外共）はステンレス押棒（SUS 304 HL程度、L≒400）	
	自閉式上吊り引戸	自閉・制御装置（ストップ付）　ステンレス製振れ止め軸 押棒（引手）（内外共）はステンレス押棒（SUS 304 HL程度、L≒400） 多機能便所：表示装置・非常開錠置・大型サムターン付引戸錠（ロッド式） 多機能便所以外：引戸錠（ロッド式）	
	随時閉鎖式防火戸	ヒンジクローザー（ピボット型、ストップなし）　ケースハンドル錠	
	点検扉	軸吊りヒンジ　　点検口錠	
	自由開き扉	フロアヒンジ（片自由、ストップ付き）シリンダー本締り錠（片面サムターン） 押棒（引手）（内外共）はステンレス押棒（SUS 304 HL程度、L≒400）	
	窓	クレセント	

防火戸

（１）ヒューズ装置、熱感知器又は煙感知器との連動は「備考」欄による。
（２）防火戸の種類は下表により、適用は「防火戸の種類」欄による。
（３）防火戸の解錠機構は別途とする。
（４）扉にラッチ受座用切込み開口補強を行う。

種　類		性　能
特	特定防火設備（遮炎１時間）	耐火建築物及び準耐火建築物（以下「耐火建築物等」という）の各階において、特定の床面積以内ごとに設ける防火設備
		11階以上の各階において内装に不燃又は準不燃材料を用いた場合に、特定の床面積ごとに設ける防火設備
		耐火建築物等において用途が異なる部分の相互間に設ける防火設備
防	防火設備（遮炎２０分）	耐火建築物等の外壁に設ける防火設備
		防火地域及び準防火地域以外の建築物の外壁に設ける防火設備
		11階以上の各階において内装に難燃材料を用いた場合に、特定の床面積ごとに設ける防火設備
		準耐火建築物に形成された竪穴の周囲に設ける防火設備
		木造建築物等において用途が異なる部分の相互間に設ける防火設備

自動ドア開閉装置

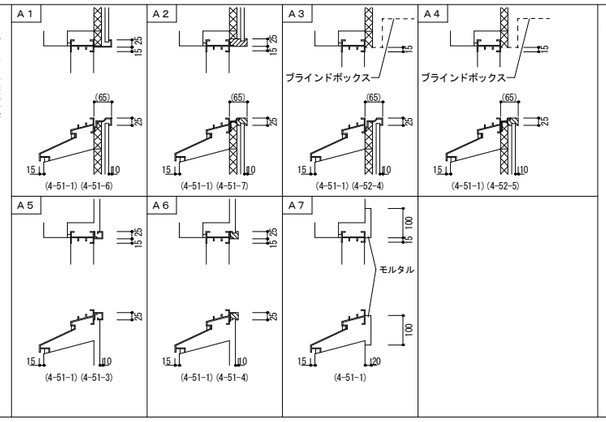
（１）自動ドアの開閉装置は「備考」欄による。
（２）自動ドアの開閉装置の防錆性能、凍結防止措置の適用は、「備考」欄による。
（３）センサーの種類は、「備考」欄による。

付属電気設備

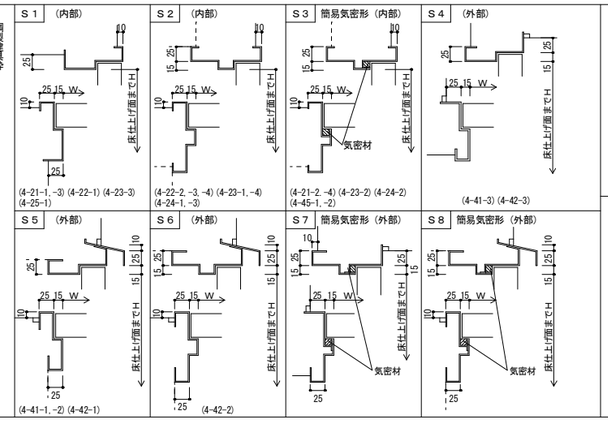
自動扉、電動シャッター、電動オーバーヘッドドアの電動機が三相電動機０．４ＫＷ以上の場合は、機器付属の操作盤内に電動機保護用遮断機及び進相用コンデンサーを設置する。

建具枠・くつずり詳細図（枠廻り記号）

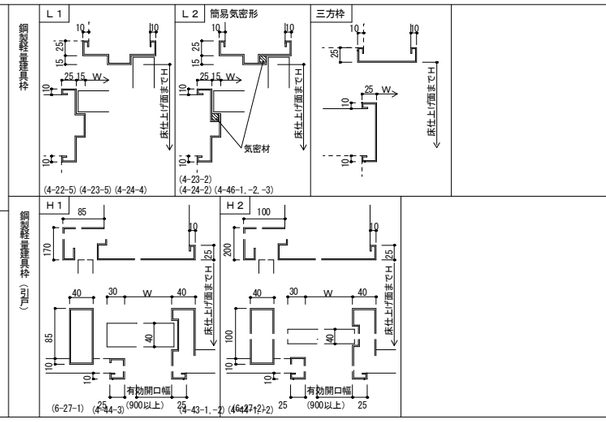
アルミニウム製建具枠



鉄骨製建具枠

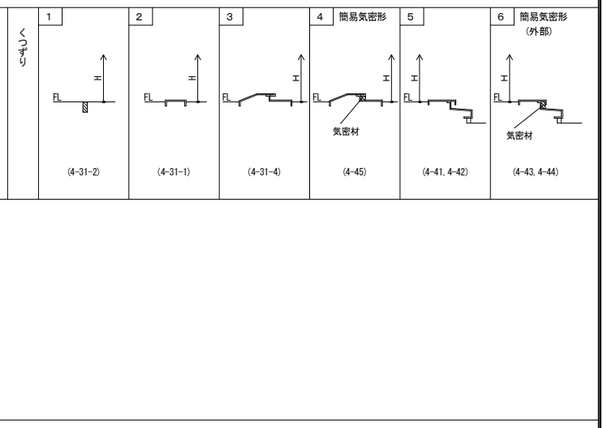


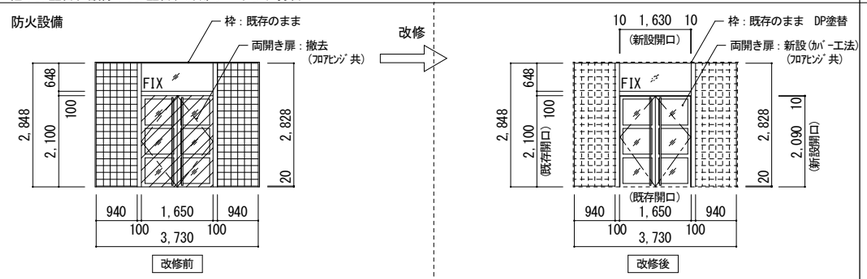
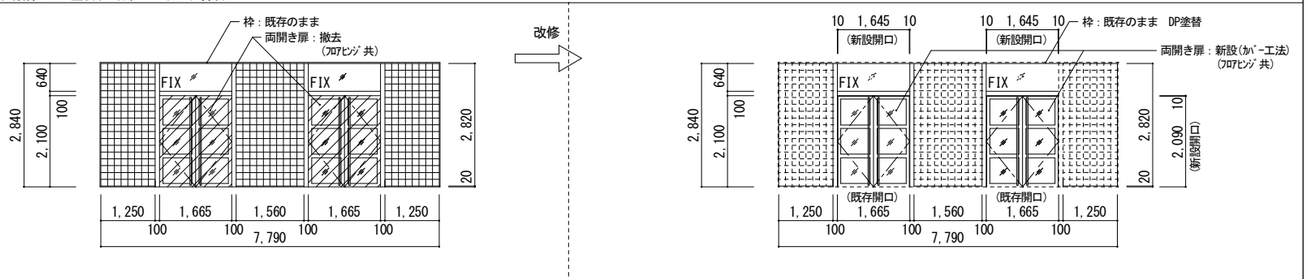
鉄骨製建具枠



鉄骨製建具枠

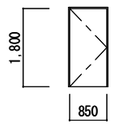
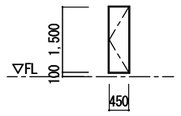
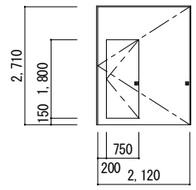
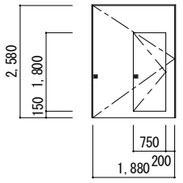
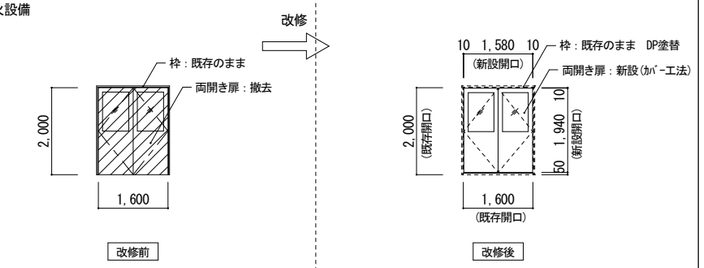
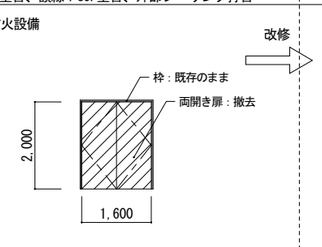
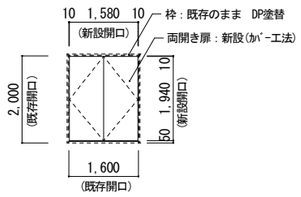
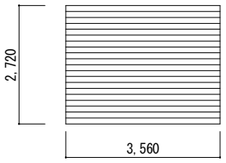
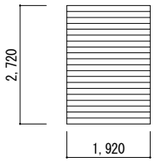
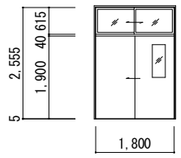
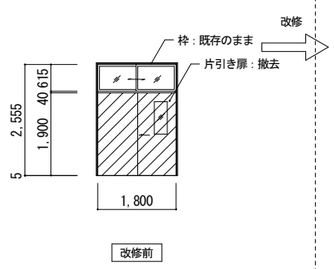
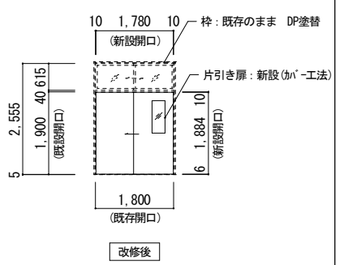
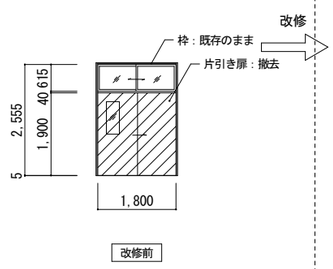
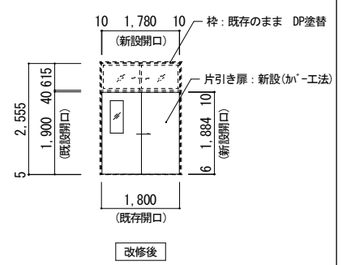
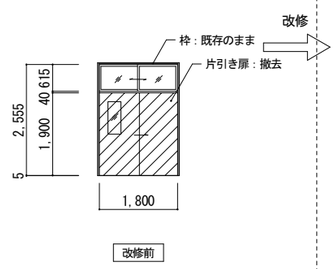
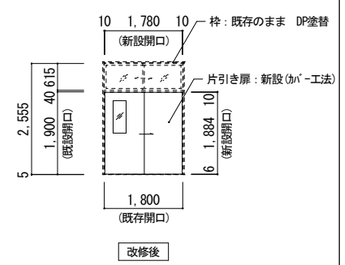
くつずり



	1 SD × 1		2 SD × 1	
符号・数量				
改修内容	両開き扉部：撤去・新設（カバー工法） 他：DP塗替、額縁：SOP塗替、外部シーリング打替		両開き扉部：撤去・新設（カバー工法） 他：DP塗替、額縁：SOP塗替、外部シーリング打替	
図示				
室名	1階　玄関		1階　昇降口	1階　昇降口
付属金物	ﾌﾛｱﾋﾝｼﾞｽﾄｯﾊﾟｰ無（撤去）、ｼﾘﾝﾀﾞｰ本締錠（撤去） ｽﾃﾝﾚｽ押棒L=1800（撤去）、ﾌﾗﾝｽ落とし（撤去）	ﾌﾛｱﾋﾝｼﾞｽﾄｯﾊﾟｰ無（新設）、ｼﾘﾝﾀﾞｰ本締錠（新設） ｽﾃﾝﾚｽ押棒L=1800（新設）、ﾌﾗﾝｽ落とし（新設）	ﾌﾛｱﾋﾝｼﾞｽﾄｯﾊﾟｰ無（撤去）、ｼﾘﾝﾀﾞｰ本締錠（撤去）、 ｽﾃﾝﾚｽ押棒L=1800（撤去）、ﾌﾗﾝｽ落とし（撤去）	ﾌﾛｱﾋﾝｼﾞｽﾄｯﾊﾟｰ無（新設）、ｼﾘﾝﾀﾞｰ本締錠（新設）、 ｽﾃﾝﾚｽ押棒L=1800（新設）、ﾌﾗﾝｽ落とし（新設）
枠巾見込	120		120	
硝子	WP-6.8（扉部のみ撤去）、ｶﾞﾗｽﾌﾞﾛｯｸ	WP-6.8（扉部のみ新設）	WP-6.8（扉部のみ撤去）、ｶﾞﾗｽﾌﾞﾛｯｸ	WP-6.8（扉部のみ新設）、ｶﾞﾗｽﾌﾞﾛｯｸ
備考	ｽﾁｰﾙ　FP塗 ｱﾝｸﾞﾙﾋﾟｰｽ三方		ｽﾁｰﾙ　FP塗、ｱﾝｸﾞﾙﾋﾟｰｽ上方のみ 沓摺（撤去）	沓摺（新設）

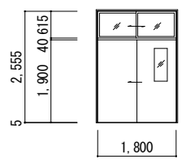
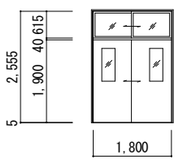
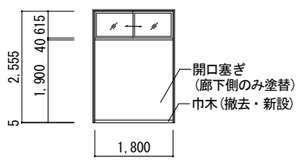
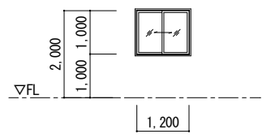
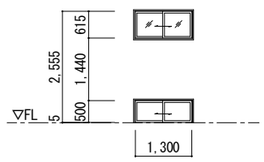
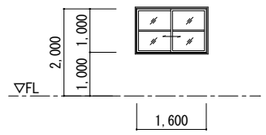
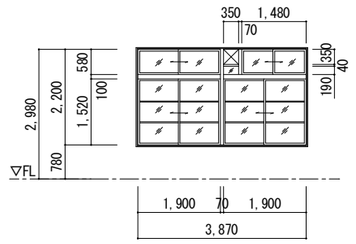
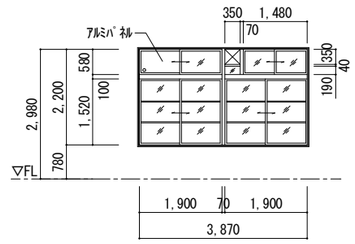
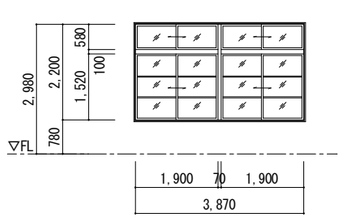
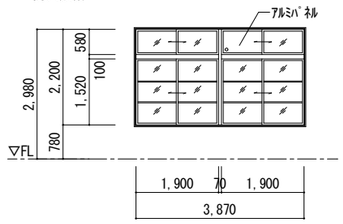
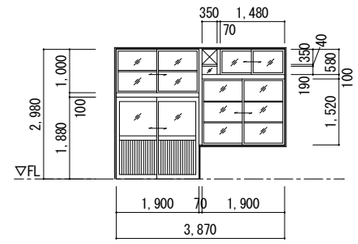
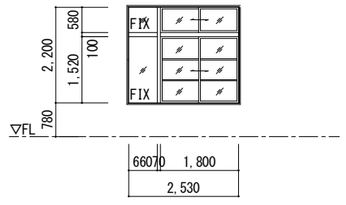
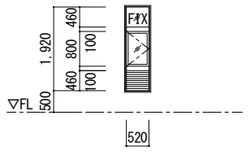
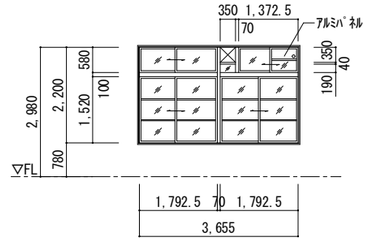
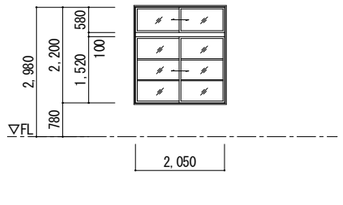
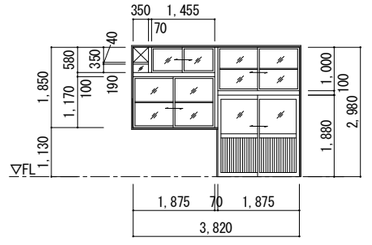
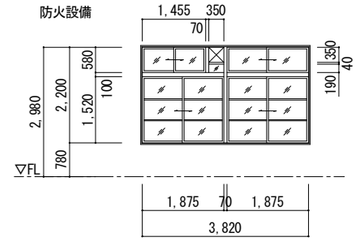
〔 管理・特別教室棟 〕

事業年度　年度 工事完成　年度	設計 令和 年 月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 西小学校長寿命化改修工事（建築主体工事）	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社　ＭａｓＭａｓ 一級建築士登録　第198542号 美野　健治　印	図面名称・縮尺　S=1/100　(A3版-71%縮小) 建具表（１）	図番 A-54

符号・数量	3/SD × 1	5/SD × 1	6/SD × 1	7/SD × 2	8/SD × 1	
改修内容	SOP塗替(額縁共)、建具調整	SOP塗替、建具調整	SOP塗替、建具調整	SOP塗替、建具調整	両開き扉部：撤去・新設（カバー工法） 枠：DP塗替、額縁：SOP塗替、外部シーリング打替	
図示	特定防火設備 	特定防火設備 	特定防火設備 	特定防火設備 	防火設備 改修 	
室名	1階 物入	3階 PS	1階 ホール	2・3階 階段室	2階 廊下	
付属金物	ﾋﾟﾎﾞｯﾄﾋﾝｼﾞ、ﾓﾉﾛｯｸ、ﾄﾞｱﾁｪｯｸ(ｽﾄｯﾊﾟｰ無)	ｽﾌﾟﾘﾝｸﾞ丁番、分電盤錠	ﾌﾛｱﾋﾝｼﾞ、ｹｰｽﾊﾝﾄﾞﾙ、煙感知連動	ﾌﾛｱﾋﾝｼﾞ、ｹｰｽﾊﾝﾄﾞﾙ、煙感知連動	ﾋﾟﾎﾞｯﾄﾋﾝｼﾞ（撤去）、ﾓﾉﾛｯｸ(撤去)、ﾌﾗﾝｽ落とし(撤去) ﾄﾞｱﾁｪｯｸ(ｽﾄｯﾊﾟｰ無)(撤去)、順位調整器(撤去)	ﾋﾟﾎﾞｯﾄﾋﾝｼﾞ（新設）、ﾓﾉﾛｯｸ(新設)、ﾌﾗﾝｽ落とし(新設) ﾄﾞｱﾁｪｯｸ(ｽﾄｯﾊﾟｰ無)(新設)、順位調整器(新設)
枠巾見込	86	86	枠：80 扉：45	枠：80 扉：45	86	86
硝子	-	-	-	-	NF-6.8(撤去)	NF-6.8(新設)
備考	沓摺ｽﾃﾝﾚｽ t 2.0					DP塗(新設) 沓摺(新設)
符号・数量	10/SD × 1		1/SS × 1	2/SS × 1		1/SW × 6
改修内容	両開き扉部：撤去・新設（カバー工法） 枠：DP塗替、額縁：SOP塗替、外部シーリング打替		改修なし	改修なし		SOP塗替(額縁両面共)、建具調整
図示	特定防火設備 改修  		防火設備 	防火設備 		 ※片引戸、引き方向左右あり
室名	3階 視聴覚室		1階 ホール	1階 ホール		1階 職員室、校長室、保健室、2階 音楽室 3階 視聴覚準備室、PTA事務室
付属金物	ﾋﾟﾎﾞｯﾄﾋﾝｼﾞ（撤去）、ﾓﾉﾛｯｸ(撤去)、ﾌﾗﾝｽ落とし(撤去) ﾄﾞｱﾁｪｯｸ(ｽﾄｯﾊﾟｰ無)(撤去)、順位調整器(撤去)	ﾋﾟﾎﾞｯﾄﾋﾝｼﾞ（新設）、ﾓﾉﾛｯｸ(新設)、ﾌﾗﾝｽ落とし(新設) ﾄﾞｱﾁｪｯｸ(ｽﾄｯﾊﾟｰ無)(新設)、順位調整器(新設)	付属金物一式	付属金物一式		戸車一式、堀込引手、ｸﾚｾﾝﾄ、ｼﾘﾝﾀﾞｰ錠
枠巾見込	86	86	-	-		80
硝子	-	-	-	-		F-3、ランマ：P-3
備考		DP塗(新設) 沓摺(新設)				下枠：ｽﾃﾝﾚｽ
符号・数量	1a/SW × 1		1b/SW × 1		1c/SW × 1	
改修内容	片引き扉部：撤去・新設(カバー工法) 他：SOP塗替(額縁両面共)		片引き扉部：撤去・新設(カバー工法) 他：SOP塗替(額縁両面共)		片引き扉部：撤去・新設(カバー工法) 他：SOP塗替(額縁両面共)	
図示	 		 		 
室名	2階 教材室		3階 図工準備室		3階 図工室	
付属金物	戸車一式(撤去)、堀込引手(撤去)、ｸﾚｾﾝﾄ(撤去)、 ｼﾘﾝﾀﾞｰ錠(撤去)	戸車一式(新設)、堀込引手(新設)、ｸﾚｾﾝﾄ(新設)、 ｼﾘﾝﾀﾞｰ錠(新設)	戸車一式(撤去)、堀込引手(撤去)、ｸﾚｾﾝﾄ(撤去)、 ｼﾘﾝﾀﾞｰ錠(撤去)	戸車一式(新設)、堀込引手(新設)、ｸﾚｾﾝﾄ(新設)、 ｼﾘﾝﾀﾞｰ錠(新設)	戸車一式(撤去)、堀込引手(撤去)、ｸﾚｾﾝﾄ(撤去)、 ｼﾘﾝﾀﾞｰ錠(撤去)	戸車一式(新設)、堀込引手(新設)、ｸﾚｾﾝﾄ(新設)、 ｼﾘﾝﾀﾞｰ錠(新設)
枠巾見込	80		80		80	
硝子	F-3(撤去)、ランマ：P-3	F-3(新設)	F-3(撤去)、ランマ：P-3	F-3(新設)	F-3(撤去)、ランマ：P-3	F-3(新設)
備考			下枠：ｽﾃﾝﾚｽ		下枠：ｽﾃﾝﾚｽ	

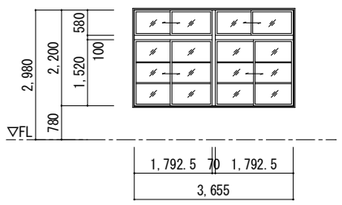
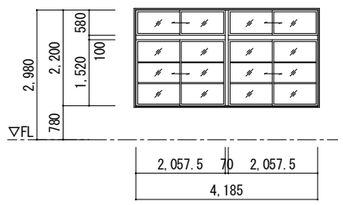
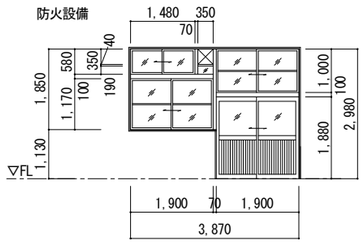
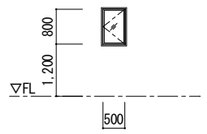
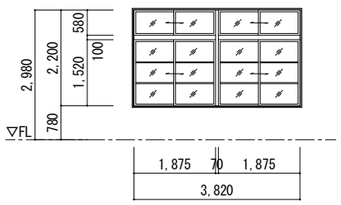
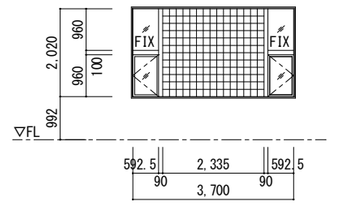
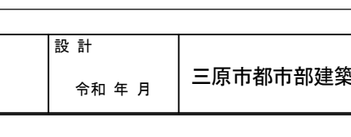
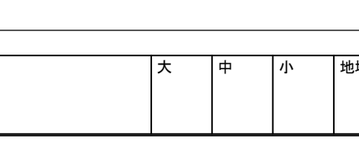
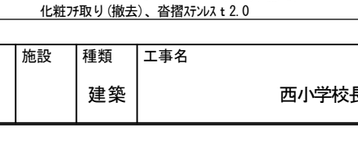
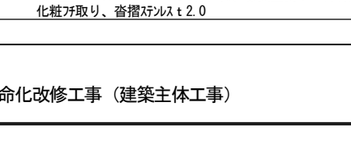
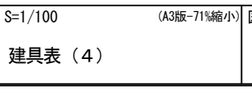
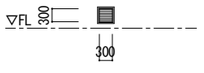
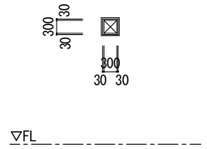
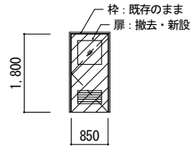
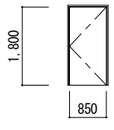
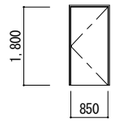
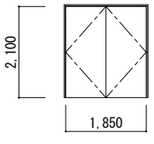
〔 管理・特別教室棟 〕

事業年度 年度 工事完成 年度	設計 令和 年 月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 西小学校長寿命化改修工事（建築主体工事）	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社 ＭａｓＭａｓ 一級建築士登録 第198542号 美野 健治 印	図面名称・縮尺 S=1/100 (A3版-71%縮小) 建具表（２）	図番 A-55

符号・数量	1' SW × 1	2 SW × 2	2a SW × 2	3 SW × 1	4 SW × 4	
改修内容	扉小ロクッションゴム：撤去・新設 SOP塗替(額縁両面共)、建具調整	SOP塗替(額縁両面共)、建具調整	開口塞ぎ部:EP-G塗替(廊下側のみ)、 SOP塗替(額縁両面共)、建具調整	SOP塗替(額縁両面共)、建具調整	SOP塗替(額縁両面共)、建具調整	
図　示						
室　名	1階　職員室	2階　図書室	2階　図書室	3階　視聴覚準備室	2階　図書室	
付属金物	戸車一式、ｸﾚｾﾝﾄ、ｼﾘﾝﾀﾞｰ鎌錠	戸車一式、堀込引手、ｸﾚｾﾝﾄ、ｼﾘﾝﾀﾞｰ鎌錠	戸車一式、ｸﾚｾﾝﾄ	戸車一式、ｸﾚｾﾝﾄ、	戸車一式、ｸﾚｾﾝﾄ、	
枠巾見込	80	80	80	80	80	
硝　子	F-3、ランマ：P-3	F-3、ランマ：P-3	ランマ：P-3	P-5	上部：P-5、下部：強化ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ t 3.0	
備　考	下枠：ｽﾃﾝﾚｽ	下枠：ｽﾃﾝﾚｽ	下枠：ｽﾃﾝﾚｽ	ｱﾝｸﾞﾙﾋﾞｰｽ四方	ｱﾝｸﾞﾙﾋﾞｰｽ四方	
符号・数量	1 AW × 1	2 AW × 2	2a AW × 1	3 AW 3' AW × 8 [8]	3a' AW × 1	4 AW × 1
改修内容	清掃、建具調整、外部シーリング打替 額縁：SOP塗替	清掃、建具調整、外部シーリング打替 額縁：SOP塗替	清掃、建具調整、外部シーリング打替 額縁：SOP塗替	清掃、建具調整、外部シーリング打替 額縁：SOP塗替(音楽室2か所を除く)	清掃、建具調整、外部シーリング打替 額縁：SOP塗替	清掃、建具調整、外部シーリング打替 額縁：SOP塗替
図　示				[防火設備] 	防火設備 	
				[ ]内は3'の内容を示す		
室　名	1階　印刷室	1階　職員室、3階　視聴覚準備室	1階　職員室	1階 職員室、2階 図書室、音楽室 3階 視聴覚室、図工室 [2階 廊下、音楽室 3階 視聴覚室、図工室]	1階 職員室	1階　職員室
付属金物	戸車一式、ｸﾚｾﾝﾄ、水切	戸車一式、ｸﾚｾﾝﾄ、水切	戸車一式、ｸﾚｾﾝﾄ、水切	戸車一式、ｸﾚｾﾝﾄ、水切	戸車一式、ｸﾚｾﾝﾄ、水切	戸車一式、ｸﾚｾﾝﾄ、本締錠、水切
枠巾見込	70	70	70	70	70	70
硝　子	F-4	P-3	P-3	P-3、[NP-6.8]	NP-6.8	P-3、出入口部：P-5
備　考	ｱﾝｸﾞﾙﾋﾞｰｽ四方	ｱﾝｸﾞﾙﾋﾞｰｽ四方、北側換気扇防火ﾀﾞﾝﾊﾟｰ取付用ｱﾝｸﾞﾙ付	ｱﾝｸﾞﾙﾋﾞｰｽ四方、北側換気扇防火ﾀﾞﾝﾊﾟｰ取付用ｱﾝｸﾞﾙ付	ｱﾝｸﾞﾙﾋﾞｰｽ四方	ｱﾝｸﾞﾙﾋﾞｰｽ四方	ｱﾝｸﾞﾙﾋﾞｰｽ四方、沓摺ｽﾃﾝﾚｽ t 2.0
符号・数量	5 AW × 1	6 AW × 4	7 AW × 1	8 AW 8' AW × 1 [1]	9 AW × 1	10 AW × 1
改修内容	清掃、建具調整、外部シーリング打替 額縁：SOP塗替	清掃、建具調整、外部シーリング打替	清掃、建具調整、外部シーリング打替 額縁：SOP塗替	清掃、建具調整、外部シーリング打替 額縁：SOP塗替	清掃、建具調整、外部シーリング打替 額縁：SOP塗替	清掃、建具調整、外部シーリング打替 額縁：SOP塗替
図　示		 ※開き方向左右あり		[防火設備]  [ ]内は8'の内容を示す		防火設備 
室　名	1階　放送室	1・2階　男子便所、女子便所	1階　校長室	1階　保健室	1階　保健室	1階　保健室
付属金物	戸車一式、ｸﾚｾﾝﾄ、錠、水切	開き金物一式、水切	戸車一式、ｸﾚｾﾝﾄ、水切	戸車一式、ｸﾚｾﾝﾄ、水切	戸車一式、ｸﾚｾﾝﾄ、本締錠、水切	戸車一式、ｸﾚｾﾝﾄ、水切
枠巾見込	70	70	70	70	70	70
硝　子	P-3	F-4	P-3	P-3、[NP-6.8]	P-3、出入口部：P-5	NP-6.8
備　考	ｱﾝｸﾞﾙﾋﾞｰｽ四方	ｱﾝｸﾞﾙﾋﾞｰｽ四方	ｱﾝｸﾞﾙﾋﾞｰｽ四方	ｱﾝｸﾞﾙﾋﾞｰｽ四方	ｱﾝｸﾞﾙﾋﾞｰｽ四方、沓摺ｽﾃﾝﾚｽ t 2.0	ｱﾝｸﾞﾙﾋﾞｰｽ四方

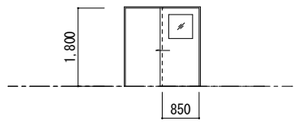
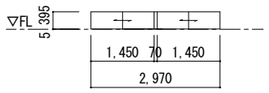
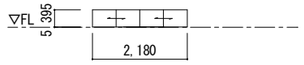
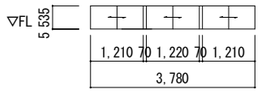
〔 管理・特別教室棟 〕

事業年度　年度 工事完成　年度	設 計 令和 年 月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 西小学校長寿命化改修工事（建築主体工事）	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社　ＭａｓＭａｓ 一級建築士登録　第198542号 美野　健治　印	図面名称・縮尺　S=1/100　(A3版-71%縮小) 建具表（３）	図 番 A-56

符号・数量	11 AW 11' AW × 2 [3]	12 AW 12' AW × 1 [3]	13 AW × 1	14 AW × 2	15 AW 15' AW × 2 [6]	16 AW × 2
改修内容	清掃、建具調整、外部シーリング打替 額縁：SOP塗替(音楽室2か所を除く)	清掃、建具調整、外部シーリング打替 額縁：SOP塗替	清掃、建具調整、外部シーリング打替 額縁：SOP塗替	清掃、建具調整、外部シーリング打替 額縁：SOP塗替	清掃、建具調整、外部シーリング打替 額縁：SOP塗替	清掃、建具調整、外部シーリング打替 額縁：SOP塗替
図示	[防火設備]  [ ]内は11'の内容を示す	[防火設備]  [ ]内は12'の内容を示す	防火設備 	防火設備  ※開き方向左右あり	[防火設備]  [ ]内は15'の内容を示す	
室名	2階 音楽室、3階 図工室 [1階 廊下、2階 音楽室、3階 図工室]	2階 教材室、[各階 廊下]	1階 職員室	1階 更衣室	2階 音楽準備室、3階 図工室 [2階 廊下、図書室、音楽準備室、3階 視聴覚室、図工室]	各階 階段室
付属金物	戸車一式、ｸﾚｾﾝﾄ、水切	戸車一式、ｸﾚｾﾝﾄ、水切	戸車一式、ｸﾚｾﾝﾄ、本締錠、水切	開き金物一式、水切	戸車一式、ｸﾚｾﾝﾄ、水切	開き金物一式
枠巾見込	70	70	70	70	70	枠：120、ｻｯｼ：70
硝子	P-3、[NP-6.8]	P-3、[NP-6.8]	NP-6.8	NF-6.8	P-3、[NP-6.8]	P-3、ｶﾞﾗｽﾌﾞﾛｯｸ
備考			沓摺ｽﾃﾝﾚｽｔ2.0、換気扇防火ﾀﾞﾝﾊﾟｰ取付用ｱﾝｸﾞﾙ付			
符号・数量	17 AW 17' AW × 1 [1]	17a AW × 1	18 AW × 2	19 AW × 1		1 AD × 1
改修内容	清掃、建具調整、外部シーリング打替 額縁：SOP塗替	清掃、建具調整、外部シーリング打替 額縁：SOP塗替	清掃、建具調整、外部シーリング打替 額縁：SOP塗替	清掃、建具調整、外部シーリング打替 額縁：SOP塗替		清掃、建具調整 SD枠部：SOP塗替(額縁両面共)
図示	[防火設備]  [ ]内は17'の内容を示す	防火設備 	防火設備 			
室名	3階 図工準備室、[3階 廊下]	2階 廊下	2･3階 廊下	3階 PTA事務室		3階 視聴覚室
付属金物	戸車一式、ｸﾚｾﾝﾄ、水切	戸車一式、ｸﾚｾﾝﾄ、水切	戸車一式、ｸﾚｾﾝﾄ、水切	戸車一式、ｸﾚｾﾝﾄ、水切		戸車一式、堀込引手、引き戸錠
枠巾見込	70	70	70	70		100
硝子	P-3、[NP-6.8]	NP-6.8	NP-6.8	P-3		P-3
備考						SDからADへ改修あり
符号・数量	1 AG 1' AG × 1 [1]	1 AK × 2	1 WD × 4	2 WD × 1	3 WD × 1	4 WD × 1
改修内容	清掃、建具調整、外部シーリング打替 額縁：SOP塗替	清掃、建具調整、外部シーリング打替 額縁：SOP塗替	扉：撤去・新設(図工準備室を除く) SOP塗替(枠のみ)、建具調整	SOP塗替(枠のみ)、建具調整	SOP塗替(枠共)、建具調整	SOP塗替(額縁共)、建具調整
図示	[防火設備] 	防火設備 		 既設：枠のみ、扉取り外し		
室名	1階 保健室、[1階 職員室]	3階 視聴覚室	1階 更衣室、印刷室 3階 図工準備室	1階 放送室	3階 視聴覚準備室	2階 音楽準備室
付属金物	水切	水切	ﾓﾉﾛｯｸ(撤去・新設)、ﾋﾞﾎﾞｯﾄﾋﾝｼﾞ(撤去・新設) ﾄﾞｱﾁｪｯｸ(ｽﾄｯﾊﾟｰ付)(撤去・新設)	ﾓﾉﾛｯｸ、ﾋﾞﾎﾞｯﾄﾋﾝｼﾞ、ﾄﾞｱﾁｪｯｸ(ｽﾄｯﾊﾟｰ付)	ﾓﾉﾛｯｸ、ﾋﾞﾎﾞｯﾄﾋﾝｼﾞ、ﾄﾞｱﾁｪｯｸ(ｽﾄｯﾊﾟｰ付)	ﾚﾊﾞｰﾊﾝﾄﾞﾙ、丁番、ﾌﾗﾝｽ落とし
枠巾見込	70	70	40	40	40	-
硝子	-	-	F-2.2(撤去)、F-3(新設)	-		-
備考			ﾎﾟﾘ合板ﾌﾗｯｼｭ(撤去・新設)、木製ｶﾞﾗﾘ(撤去) 化粧ﾌｶ取り(撤去)、沓摺ｽﾃﾝﾚｽｔ2.0	放送室側：ﾌﾚｷｼﾌﾞﾙﾎﾞｰﾄﾞｔ4有孔板、職員室側：ﾎﾟﾘ合板貼 化粧ﾌｶ取り、沓摺ｽﾃﾝﾚｽｔ2.0		音楽室側：有孔ﾎﾞｰﾄﾞ仕上

〔 管理・特別教室棟 〕

事業年度 年度 工事完成 年度	設計 令和 年 月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 西小学校長寿命化改修工事（建築主体工事）	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社 ＭａｓＭａｓ 一級建築士登録 第198542号 美野 健治 印	図面名称・縮尺 S=1/100 (A3版-71%縮小) 建具表（4）	図番 A-57

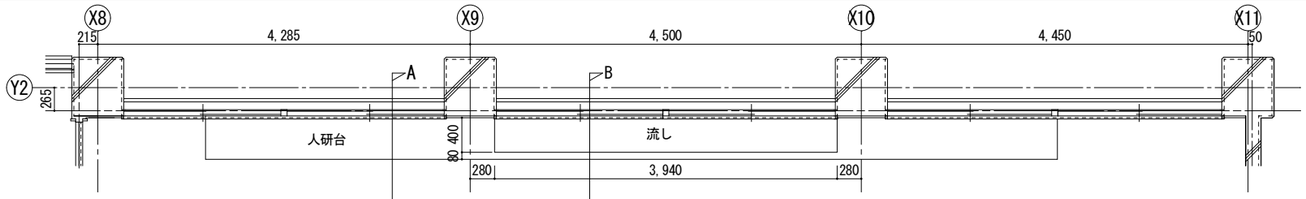
符号・数量	1 WW × 1	2 WW × 1	3 WW × 1	4 WW × 1	
改修内容	SOP塗替(枠のみ)、建具調整	SOP塗替(枠共)、建具調整	SOP塗替(枠共)、建具調整	SOP塗替(枠共)、建具調整	
図　示		 既設：枠のみ、扉取り外し	 既設：枠のみ、扉取り外し		
室　名	1階　倉庫	3階　図工室	3階　図工室	3階　図工準備室	
付属金物	戸車一式、引手	戸車一式、引手	戸車一式、引手	戸車一式、引手	
枠巾見込	40	24	24	24	
硝　子	F-2.2	-	-	-	
備　考	ﾎﾟﾘ合板ﾌﾗｯｼｭ 化粧ﾌﾁ取り、沓摺ｽﾃﾝﾚｽｔ2.0	ｼﾅﾍﾞﾆﾔｔ4.0ﾌﾗｯｼｭ	ｼﾅﾍﾞﾆﾔｔ4.0ﾌﾗｯｼｭ	ｼﾅﾍﾞﾆﾔｔ4.0ﾌﾗｯｼｭ	
符号・数量					
改修内容					
図　示					
室　名					
付属金物					
枠巾見込					
硝　子					
備　考					
符号・数量					
改修内容					
図　示					
室　名					
付属金物					
枠巾見込					
硝　子					
備　考					

〔 管理・特別教室棟 〕

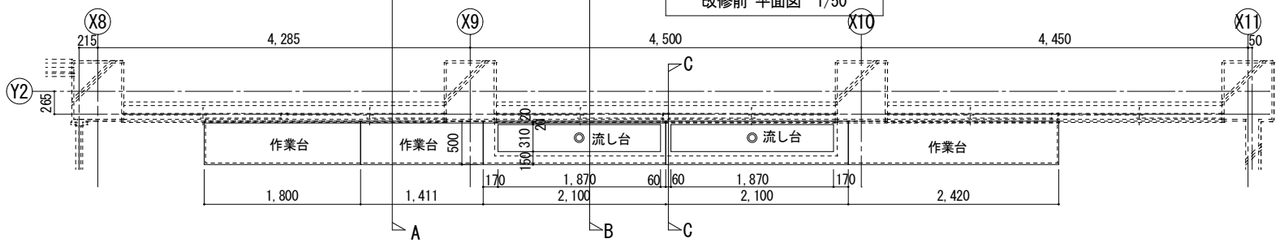
事業年度　年度 工事完成　年度	設 計 令和 年 月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 西小学校長寿命化改修工事（建築主体工事）	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社　ＭａｓＭａｓ 一級建築士登録　第198542号 美野　健治　印	図面名称・縮尺　S=1/100 (A3版-71%縮小) 建具表（５）	図 番 A-58

図工室 流し台改修

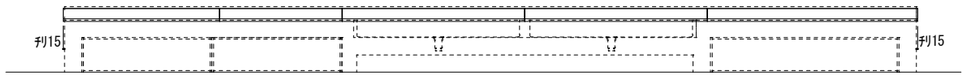
1/50 1/20



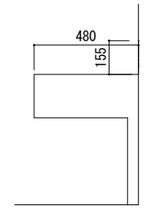
改修前 平面図 1/50



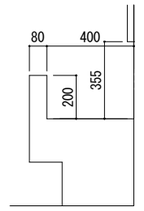
改修後 平面図 1/50



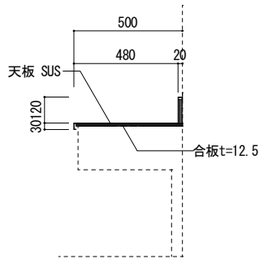
改修後 正面図 1/50



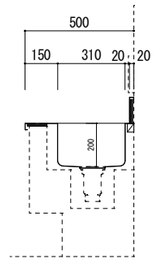
改修前 A断面図 1/20



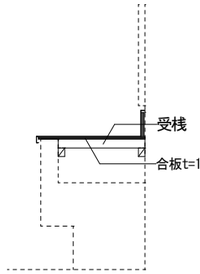
改修前 B断面図 1/20



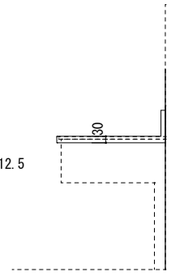
改修後 A断面図 1/20



改修後 B断面図 1/20



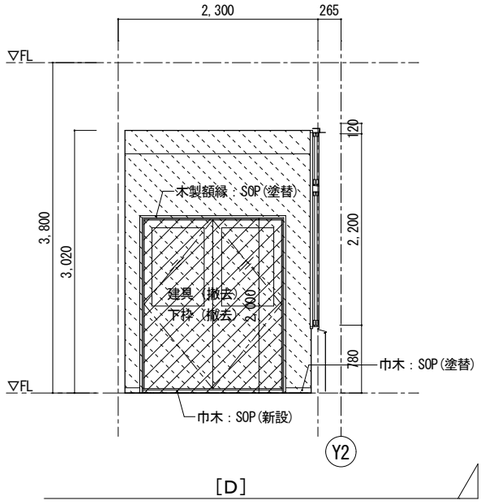
改修後 C断面図 1/20
（シンクジョイント部）

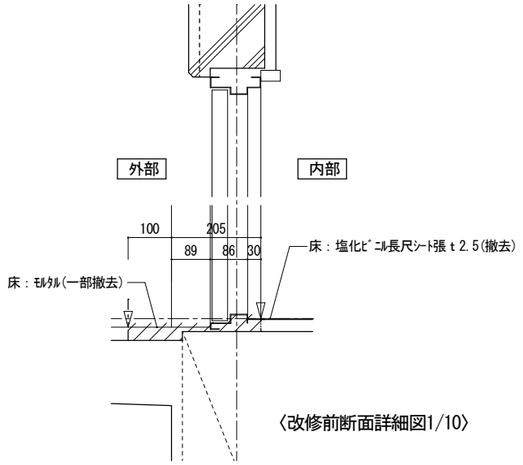


改修後 側面図 1/20

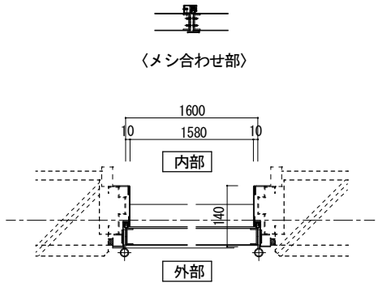
SD-8, 10（カバー工法）詳細図

1/50 1/10

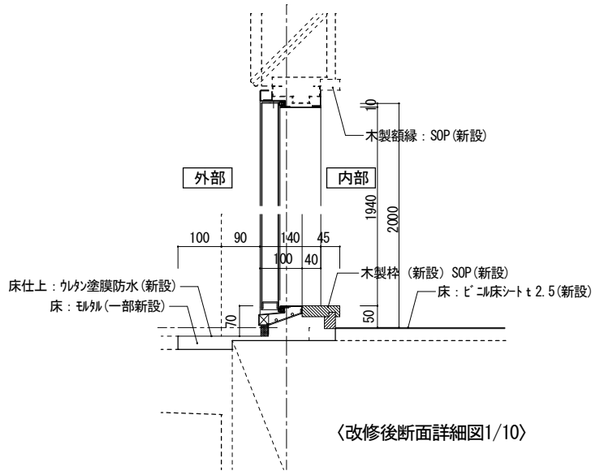




〈改修前断面詳細図1/10〉



〈改修後平面詳細図1/10〉

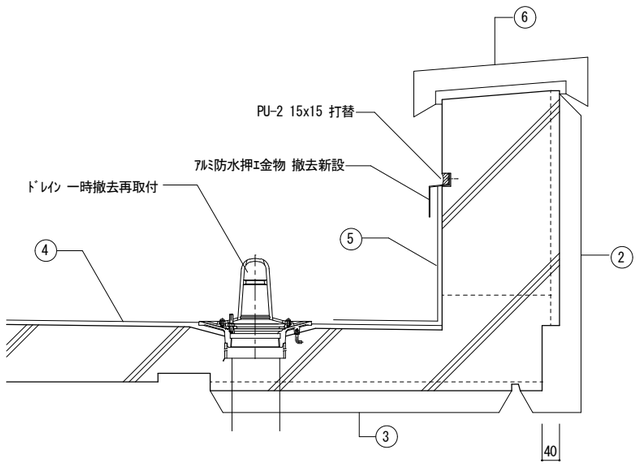


〈改修後断面詳細図1/10〉

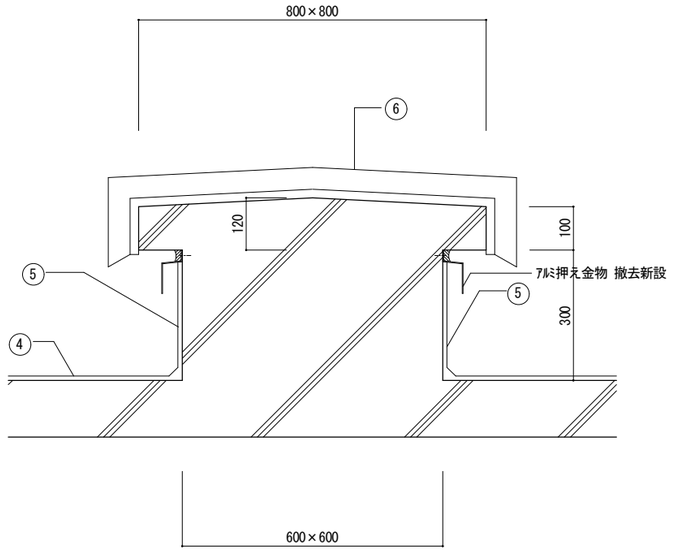
〔 管理・特別教室棟 〕

事業年度 年度 工事完成 年度	設 計 令和 年 月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 西小学校長寿命化改修工事（建築主体工事）	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社 ＭａｓＭａｓ 一級建築士登録 第198542号 美野 健治 印	図面名称・縮尺 S=1/50・1/20・1/10 (A3版-71%縮小) 部分詳細図（１）	図 番 A-59

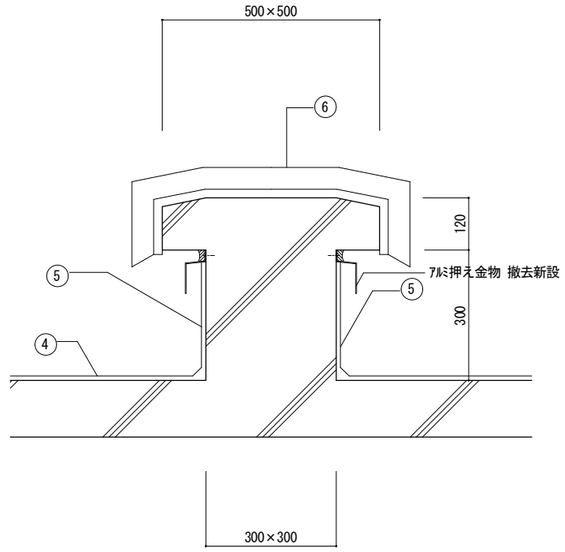
玄関庇パラペット廻り断面詳細図　1/10



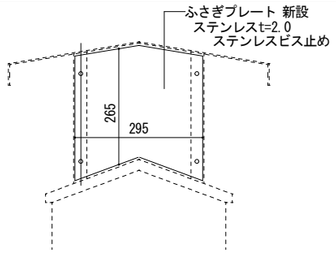
ＴＶアンテナ架台基礎 断面詳細図　1/10

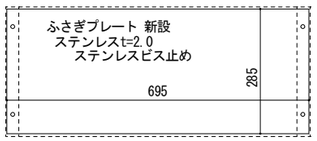


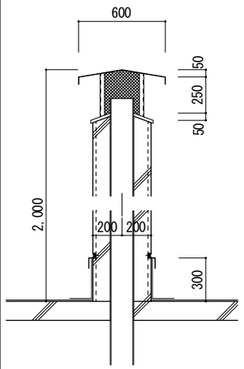
高架タンク架台基礎 断面詳細図　1/10



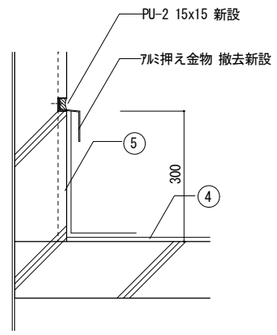
煙突 断面詳細図　1/30 1/10





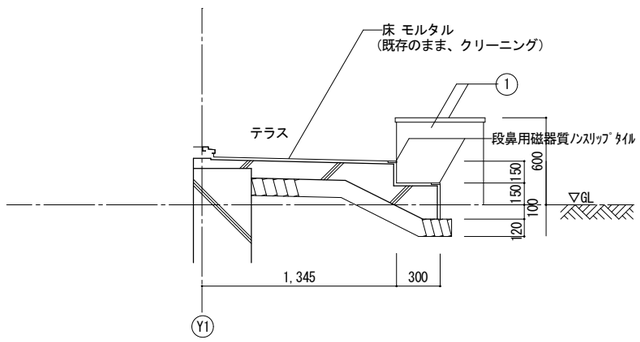


断面詳細図　1/30

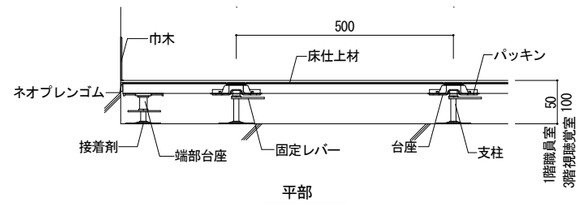


断面詳細図　1/10

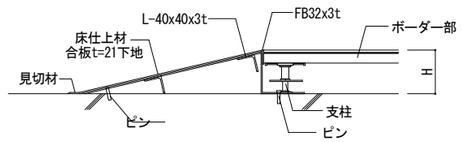
テラス階段 断面詳細図　1/30



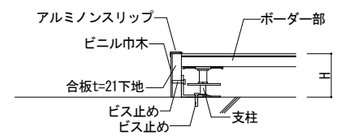
鋼製床（H=50・100） 詳細図　1/10



平部



スロープ

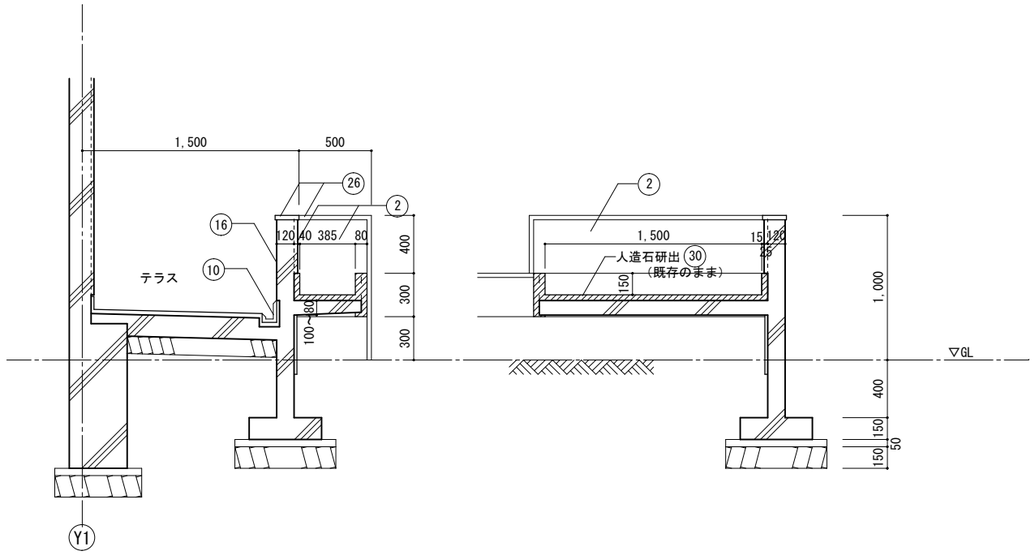


スロープ部框

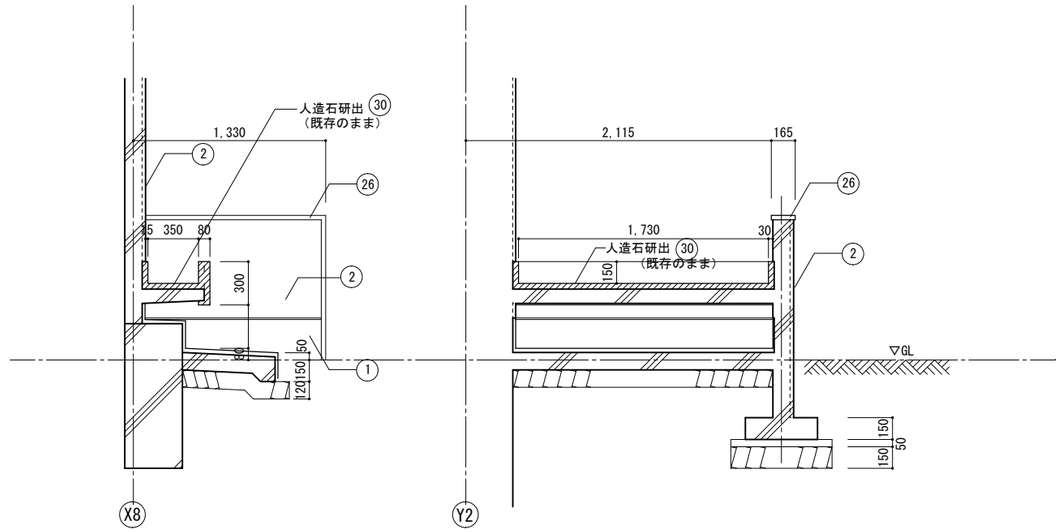
〔 管理・特別教室棟 〕

事業年度　年度 工事完成　年度	設 計 令和 年 月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 西小学校長寿命化改修工事（建築主体工事）	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社　ＭａｓＭａｓ 一級建築士登録　第198542号 美野　健治　印	図面名称・縮尺　S=1/10・1/30　(A3版-71%縮小) 部分詳細図（２）	図 番 A-60

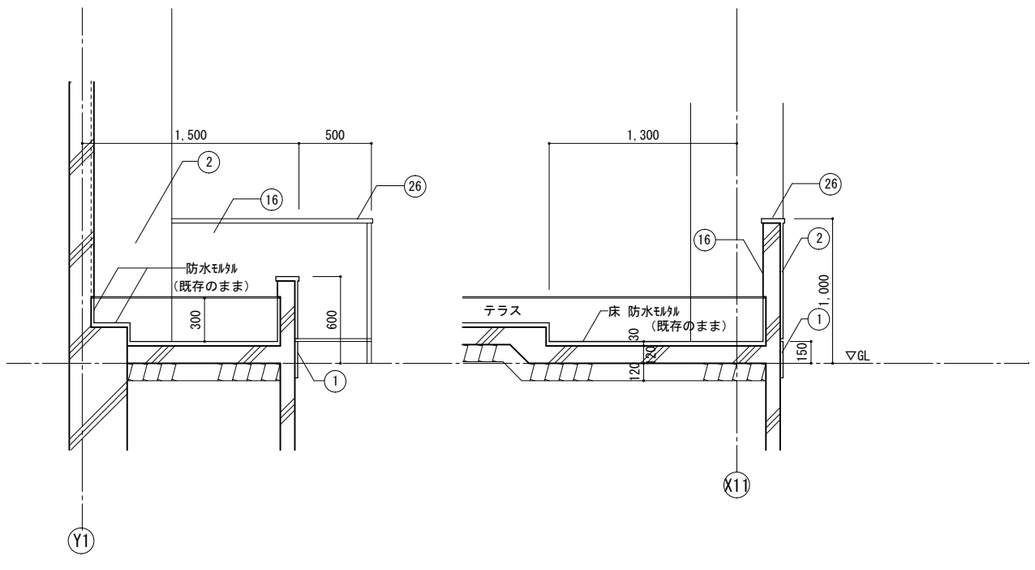
(Y1) 通り　手洗場 断面詳細図　1/30



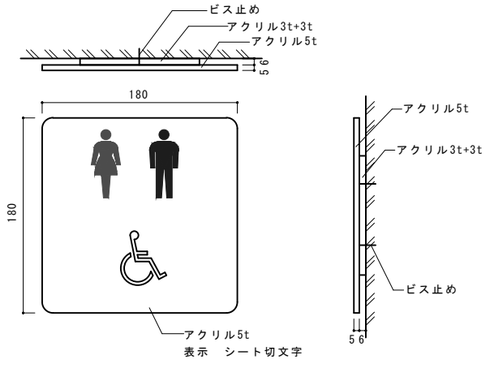
(X8) 通り　手洗場 断面詳細図　1/30



(Y1) 通り　足洗場 断面詳細図　1/30



ピクト（平付け型）及び室名札　1/4



ピクトサインリスト

設置階	設置場所	表示面（組合せ）	数量
1階	男子便所		1
	女子便所		1

室名札リスト

工区	1階	2階	3階		合計
平付	2	2	2		6
片持	1	2	3		6

※　表示色は、現場監督員の指示による。
　　詳細は、国交省標準図を準拠のこと。

〔 管理・特別教室棟 〕

事業年度　年度 工事完成　年度	設 計 令和 年 月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 西小学校長寿命化改修工事（建築主体工事）	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社　ＭａｓＭａｓ 一級建築士登録　第198542号 美野　健治　印	図面名称・縮尺　S=1/30・1/4・1/10　(A3版-71%縮小) 部分詳細図（３）	図 番 A-61

外部仕上げ表

改修前					下地補修																既存塗膜等の除去			下地調整							改修後			
					コンクリート打放し仕上げ							モルタル塗り仕上げ																						
					ひび割れ部				欠損部			ひび割れ部					欠損部																	
符号	場所・部位	下地	仕上げ		(1)	(1)	(2)	(1)	(1)	(2)		(1)	(1)	(2)	(1)	(2)	(3)	(1)	(1)		(1)	(1)	(2)	(3)	(イ)	(ロ)	(ハ)	(ニ)	(ホ)	(ヘ)	符号	仕上げ		備　考
					樹脂注入工法	Uカットシール材充填工法（0.2mm～1.0mm）	Uカットシール材充填工法（1.0mm超）	シール工法（0.2mm未満）	充填工法	充填工法（発錆部分）	充填工法（番線・セパ跡等）	樹脂注入工法（0.2mm～1.0mm）	Uカットシール材充填工法（0.2mm～1.0mm）	Uカットシール材充填工法（1.0mm超）	シール工法（0.2mm未満）	充填工法（撤去部）	充填工法	充填工法（発錆部分）	充填工法（0.25㎡以上）	モルタル塗替え工法	サンダー工法	高圧水洗工法 30MPa以上	泡噴出・集塵装置付湿式ディスクグラインダーケレン工法	水洗い工法 9MPa以上	ポリマーセメントベースト	下地調整材 C-2	鉄鋼面	コンクリート面モルタル面・ボード面	VP管面	鋼製建具面				
①	根廻り	C	ﾓﾙﾀﾙ刷毛引き	（既存のまま）		○		○													○			○							①	下地調整塗材C-2	（新設）	
②	外壁	C	ｺﾝｸﾘｰﾄ打放 ｱｸﾘﾙﾘｼﾝ吹付[ｱｽﾍﾞｽﾄ含有]	（既存のまま） （撤去）		○		○															○	○							②	防水形複層塗材E	（新設）	
③	屋根１	S	塩ﾋﾞ鋼板 t=0.4 A号 瓦棒葺 ｱｽﾌｧﾙﾄﾙｰﾌｨﾝｸﾞ 22kg	（既存のまま） （既存のまま）																											③	高靭性ウレタン塗膜防水密着工法(ｶﾗｰ)	（新設）	
④	屋根１（軒樋）	C	ｼｰﾄ防水 t=1.5 均しﾓﾙﾀﾙ	（撤去） （既存のまま）																											④	下地調整材C-2の上 ウレタン塗膜防水［X-2］ -	（新設）	
⑤	屋根１（鼻先）	C	ｱｸﾘﾙﾘｼﾝ吹付[ｱｽﾍﾞｽﾄ含有]	（撤去）																			○						○		⑤	防水形複層塗材E	（新設）	
⑥	屋根１（軒裏）	C	ｱｸﾘﾙﾘｼﾝ吹付[ｱｽﾍﾞｽﾄ含有]	（撤去）		○		○	○	○													○	○	○				○		⑥	可とう形外装薄塗材E	（新設）	
⑦	屋根１（笠木）	S	塩ﾋﾞ鋼板t=0.4加工	（既存のまま）																											⑦	ウレタン塗膜防水［X-2］(ｶﾗｰ)	（新設）	
⑧	屋根２	C	ｼｰﾄ防水 t=1.5 防水ﾓﾙﾀﾙ	（撤去） （既存のまま）																											⑧	下地調整材C-2の上 ウレタン塗膜防水［X-2］	（新設）	
⑨	欠番																														⑨			
⑩	屋根２（笠木）	C	防水ﾓﾙﾀﾙ	（既存のまま）																											⑩	下地調整材C-2の上 ウレタン塗膜防水［X-2］	（新設）	
⑪	庇１（屋根）	S	塩ﾋﾞ鋼板t=0.8ﾙｰﾌﾃﾞｯｷH150	（一時撤去）																											⑪	ｸﾘｰﾆﾝｸﾞ	（再取付）	水切り金物（撤去・新設）
⑫	庇１（鼻先）	S	塩ﾋﾞ鋼板t=0.4	（一時撤去）																											⑫	ｸﾘｰﾆﾝｸﾞ	（再取付）	
⑬	庇１（柱梁等鉄部）	S	OP塗	（撤去）																							○				⑬	SOP	（塗替）	
⑭	庇２（屋根）	C	防水ﾓﾙﾀﾙ	（既存のまま）																											⑭	下地調整材C-2の上 ウレタン塗膜防水［X-2］	（新設）	
⑮	庇２（鼻先）	C	防水ﾓﾙﾀﾙ	（既存のまま）																											⑮	防水形複層塗材E	（新設）	
⑯	庇２（軒裏）	C	ｱｸﾘﾙﾘｼﾝ吹付[ｱｽﾍﾞｽﾄ含有]	（撤去）		○		○	○	○												○	○	○			○			⑯	可とう形外装薄塗材E	（新設）	
⑰	梁型	C	防水ﾓﾙﾀﾙ	（既存のまま）																											⑰	下地調整材C-2の上 ウレタン塗膜防水［X-2］	（新設）	
⑱	ﾙｰﾌﾄﾞﾚｲﾝ		ﾙｰﾌﾄﾞﾚｲﾝ シート防水用 φ100	（既存のまま）																											⑱	改修用ﾙｰﾌﾄﾞﾚｲﾝ	（新設）	
⑲	ｺｰﾅｰﾄﾞﾚｲﾝ		ｺｰﾅｰﾙｰﾌﾄﾞﾚｲﾝ シート防水用	（既存のまま）																											⑲	ｸﾘｰﾆﾝｸﾞ		
⑳	竪樋（屋根１・屋根２）		硬質塩化ﾋﾞﾆﾙ管 φ100	（既存のまま）																									○		⑳	SOP	（新設）	掴金物亜鉛ﾒｯｷ19x6 （撤去） 掴金物ｽﾃﾝﾚｽ （新設）
㉑	竪樋（庇１）		硬質塩化ﾋﾞﾆﾙ管 φ75	（既存のまま）																									○		㉑	SOP	（新設）	
㉒	ﾎﾟｰﾁ（床）	C	ﾓﾙﾀﾙt=30 ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄ t=2.0端部押え金物共	（既存のまま） （撤去）																											㉒	防滑性ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄt=2.0(端部押え金物共)	（新設）	段鼻ﾉﾝｽﾘｯﾌﾟﾀｲﾙ（一部撤去・新設）
㉓	ﾎﾟｰﾁ（壁・笠木）	C	ﾓﾙﾀﾙt=30	（既存のまま）																								○			㉓	下地調整材C-2	（新設）	
㉔	犬走	C	ﾓﾙﾀﾙt=30	（既存のまま）																								○			㉔	下地調整材C-2	（新設）	
㉕	屋外階段	C	ﾓﾙﾀﾙt=30	（既存のまま）																								○			㉕	下地調整材C-2	（新設）	段鼻ﾉﾝｽﾘｯﾌﾟﾀｲﾙ（撤去・新設）
㉖	床下換気口		鋳鉄製300x150	（既存のまま）																							○				㉖	ｺｰﾙﾀｰﾙ塗	（新設）	
㉗	竪樋養生管	S	SGP 125φ SOP塗	（撤去）																							○				㉗	ｶﾗVP 125φ	（新設）	掴み金物（撤去・新設）
㉘	目地シーリング		PU-2 20×20	（撤去）																											㉘	PU-2 20×20	（打替）	
参考数量					m	873.00 m		1,964.25 m	㎡	㎡	か所	㎡	㎡	㎡	㎡	㎡	㎡	㎡	㎡		㎡	㎡	㎡										

略号
C ：コンクリート
M ：モルタル塗り
S ：軽量鉄骨
SOP ：合成樹脂調合ペイント
防水形複層塗材E ：アクリルゴム系複層仕上塗材
複層塗材RE ：水性エポキシ樹脂エマルション系複層仕上塗材

特記事項

1　外壁改修については、設計時の全数調査報告書を基に、下地補修の前にひび割れ、コンクリートの剥落、タイルひび割れ・浮き及び仕上塗材の劣化部分等の不良箇所を十分に調査して、施工数量調査報告書及び工事施工計画書を作成し、監督員の承諾を受けた後、改修に着手すること。

2　外部建具周囲・打継目地等のシーリングは既存シーリング材を除去後打替えとする。
※　シーリングの打替えを行う場合は、既存シーリング材及びバックアップ材を除去し、下地及び除去したシーリング材について監督員の確認を受けた後に施工すること。また、除去したシーリング材は重量を測り、全量の写真撮影を行うこと。

3　本工事に支障となるものは、一時取外し、支障のないよう復旧すること。既設配管等により、取外しできない場合は監督員と協議すること。

4　水洗い工法は、高圧水洗機（９MPa以上）を使用して、粉化物・付着物等の除去、清掃を行う。

5　クリーニングは、金属、建具及びガラスに適合する洗剤での水洗い程度とする。

6　外壁塗材の除去
(1)　改修範囲内の塗材除去を行うこと。
(2)　除去作業については、平らな面を集塵装置付ディスクグライダーケレン工法で行い、建具取合い・出隅・入隅等を超音波ケレン工法で行うこと。

7　屋外既設 防水層（立上り共）は、撤去とする。脱気テープは@3.0m程度とする。

8　既存塗膜壁面で脆弱と思われる箇所については、付着強度が1.0 N/㎟以上であることを各面３ヶ所以上であることを確認すること

9　外壁のひび割れから常時漏水が認められた場合は、別途漏水防止工事を行う必要があるため、監督員と協議すること。

10　軒裏及び外壁のﾘｼﾝ吹付は、アスベストを含有している。

11　アスベスト含有仕上塗材等の除去
(1) 改修範囲内のアスベストは全面除去を行うこと。
(2) 除去作業については、「泡噴出＋集塵装置付湿式ディスクグラインダーケレン工法」で除去を行うこと。
(3) アスベストが飛散することのないよう「建築物等の解体等に係る石綿ばく露防止及び石綿飛散漏えい防止対策徹底マニュアル 令和3年3月（厚生労働省、環境省 ）」及び「建築物等の改修・解体時における石綿含有建築用仕上塗材からの石綿粉じん飛散防止処理技術指針 平成28年4月（国立研究開発法人建築研究所、日本建築仕上材工業会）」等を参考に適切に施工すること。

12　硬質塩化ビニル製雨樋のSOP塗りは、C-2種を適用する。下地調整は、研磨紙ずりによる目荒しの上、溶剤ふきにより油類の除去を行う。

〔 屋内運動場 〕

事業年度　年度 工事完成　年度	設計 令和 年 月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 西小学校長寿命化改修工事（建築主体工事）	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社　ＭａｓＭａｓ 一級建築士登録　第198542号 美野　健治　印	図面名称・縮尺　non scale (A3版-71%縮小) 外部仕上表（１）	図番 A-62

外部仕上げ表

改修前				下地補修															既存塗膜等の除去			下地調整							改修後		
				コンクリート打放し仕上げ							モルタル塗り仕上げ												下地調整（塗装面下地）								
				ひび割れ部				欠損部			ひび割れ部					欠損部														
符号	場所・部位	下地	仕上げ	（1）樹脂注入工法	（1）Uカットシール材充填工法（0.2mm～1.0mm）	（2）Uカットシール材充填工法（1.0mm超）	（1）シール工法（0.2mm未満）	（1）充填工法	（2）充填工法（発錆部分）	充填工法（番線・セパ跡等）	（1）樹脂注入工法（0.2mm～1.0mm）	（1）Uカットシール材充填工法（0.2mm～1.0mm）	（2）Uカットシール材充填工法（1.0mm超）	（1）シール工法（0.2mm未満）	（2）充填工法（撤去部）	（3）充填工法	（1）充填工法（発錆部分）	（1）モルタル塗替え工法（0.25㎡以上）	（1）サンダー工法	（1）高圧水洗工法 30MPa以上	（2）泡噴出・集塵装置付湿式ディスクグラインダーケレン工法	（3）水洗い工法 9MPa以上	（イ）ポリマーセメントペースト	（ロ）下地調整材 C-2	（ハ）鉄鋼面	（ニ）コンクリート面モルタル面・ボード面	（ホ）VP管面	（ヘ）鋼製建具面	符号	仕上げ	備　考
㉙	竪樋養生管	S	ｶﾗｰVP 100φ （既存のまま）																										㉙	ｶﾗｰVP 100φ	ｽﾃﾝﾚｽつかみ金物（新設）
㉚	外壁　塩ビ鋼板ｽﾊﾟﾝﾄﾞﾚﾙ t=0.5	S	（既存のまま）																					◯					㉚	DP （新設）	
参考数量				m	m	m	m	㎡	㎡	か所	㎡	㎡	㎡	㎡	㎡	㎡	㎡	㎡	㎡	㎡	㎡										

略号　C：コンクリート　M：モルタル塗り　S：軽量鉄骨　SOP：合成樹脂調合ペイント　防水形複層塗材E：アクリルゴム系複層仕上塗材　複層塗材RE：水性エポキシ樹脂エマルション系複層仕上塗材

特記事項

1　外壁改修については、設計時の全数調査報告書を基に、下地補修の前にひび割れ、コンクリートの剥落、タイルひび割れ・浮き及び仕上塗材の劣化部分等の不良箇所を十分に調査して、施工数量調査報告書及び工事施工計画書を作成し、監督員の承諾を受けた後、改修に着手すること。

2　外部建具周囲・打継目地等のシーリングは既存シーリング材を除去後打替えとする。
※　シーリングの打替えを行う場合は、既存シーリング材及びバックアップ材を除去し、下地及び除去したシーリング材について監督員の確認を受けた後に施工すること。
また、除去したシーリング材は重量を測り、全量の写真撮影を行うこと。

3　本工事に支障となるものは、一時取外し、支障のないよう復旧すること。
既設配管等により、取外しできない場合は監督員と協議すること。

4　水洗い工法は、高圧水洗機（９MPa以上）を使用して、粉化物・付着物等の除去、清掃を行う。

5　クリーニングは、金属、建具及びガラスに適合する洗剤での水洗い程度とする。

6　外壁塗材の除去
(1)　改修範囲内の塗材除去を行うこと。
(2)　除去作業については、平らな面を集塵装置付ディスクグライダーケレン工法で行い、建具取合い・出隅・入隅等を超音波ケレン工法で行うこと。

7　屋外既設 防水層（立上り共）は、撤去とする。脱気テープは@3.0m程度とする。

8　既存塗膜壁面で脆弱と思われる箇所については、付着強度が1.0 N/㎟以上であることを各面３ヶ所以上であることを確認すること

9　外壁のひび割れから常時漏水が認められた場合は、別途漏水防止工事を行う必要があるため、監督員と協議すること。

10　軒裏及び外壁のﾘｼﾝ吹付は、アスベストを含有している。

11　アスベスト含有仕上塗材等の除去
(1) 改修範囲内のアスベストは全面除去を行うこと。
(2) 除去作業については、「泡噴出＋集塵装置付湿式ディスクグラインダーケレン工法」で除去を行うこと。

(3) アスベストが飛散することのないよう「建築物等の解体等に係る石綿ばく露防止及び石綿飛散漏えい防止対策徹底マニュアル 令和3年3月（厚生労働省、環境省 ）」及び「建築物等の改修・解体時における石綿含有建築用仕上塗材からの石綿粉じん飛散防止処理技術指針 平成28年4月（国立研究開発法人建築研究所、日本建築仕上材工業会）」等を参考に適切に施工すること。

12　硬質塩化ビニル製雨樋のSOP塗りは、C-2種を適用する。下地調整は、研磨紙ずりによる目荒しの上、溶剤ぶきにより油類の除去を行う。

〔 屋内運動場 〕

事業年度　年度 工事完成　年度	設計 令和 年 月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 西小学校長寿命化改修工事（建築主体工事）	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社　ＭａｓＭａｓ 一級建築士登録　第198542号 美野　健治　印	図面名称・縮尺　non scale　(A3版-71%縮小) 外部仕上表（２）	図番 A-63

階	室名		床 下地	床 仕上	床ﾚﾍﾞﾙ	巾木 下地	巾木 仕上	巾木 塗装	腰壁・壁 下地	腰壁・壁 仕上	腰壁・壁 塗装	天井 下地	天井 仕上	天井 塗装	天井 廻り縁	天井高(CH)	天井 梁型	備考
共通	体育室	改修前	大引・根太	ｽﾍﾟﾘ止めﾜｯｸｽ掛け (撤去) 複合化粧ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞt=15張 ｺﾝﾊﾟﾈt=12捨張 鋼製床下地	±0	C	ﾗﾜﾝ H=100	OP (撤去)	W	複合ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞt=8.5 有孔ｼﾅﾍﾞﾆﾔ t=6 目透張	OP (撤去)	S	着色木毛ﾏｸﾞﾈｼｳﾑ板t=25張現し ｷﾞｬﾗﾘｰ裏：ｺﾝｸﾘｰﾄ合板打放	OP(鉄部) EDA (撤去)		9,150		暗幕(一時撤去)、暗幕ﾎﾞｯｸｽ、ﾚｰﾙ、床下点検口 肋木(一時撤去)、防球ﾈｯﾄ(一時撤去)、姿見鏡、移動式階段 ｺｰﾄﾗｲﾝ引き(撤去)、吊縄(撤去) (ﾊﾞｽｹｯﾄｺｰﾄ：1面、ﾊﾞﾚｰｺｰﾄ：1面、ｿﾌﾄﾊﾞﾚｰｺｰﾄ：2面) 各種体育器具 (各支柱及び基礎、肋木(固定式)、高鉄棒基礎、吊桟)
		改修後	大引・根太 (既存のまま)	ｳﾚﾀﾝ塗装 (新設) 複合化粧ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞt=15張 (既存のまま) ｺﾝﾊﾟﾈt=12捨張 (既存のまま) 鋼製床下地 (既存のまま) 床改修(仕上・下地)は全体の20%程度計上のこと	±0	C (既存のまま)	ﾗﾜﾝ H=100 (下地調整)	SOP (塗替)	W (既存のまま)	複合ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞt=8.5 (下地調整) 有孔ｼﾅﾍﾞﾆﾔ t=6 目透張 (下地調整)	OSCL (新設) EP－G (塗替)	S (既存のまま)	着色木毛ﾏｸﾞﾈｼｳﾑ板t=25張現し (既存のまま) ｷﾞｬﾗﾘｰ裏：ｺﾝｸﾘｰﾄ合板打放	OP(鉄部) (既存のまま) EP－G (新設)		9,150		暗幕(再取付)、暗幕ﾎﾞｯｸｽ(SOP塗替)、ﾚｰﾙ、床下点検口(既存のまま) 肋木(再取付)、防球ﾈｯﾄ(再取付)、姿見鏡(SOP塗替) 移動式階段(既存のまま)、ｺｰﾄﾗｲﾝ引き(新設) (ﾊﾞｽｹｯﾄｺｰﾄ：1面、ﾊﾞﾚｰｺｰﾄ：1面、ｿﾌﾄﾊﾞﾚｰｺｰﾄ：2面) 各種体育器具(既存のまま) (各支柱及び基礎、肋木(固定式)、高鉄棒基礎、吊桟)
	体育器具庫	改修前	C	ﾓﾙﾀﾙ塗t=30	±0	C	ﾓﾙﾀﾙ H=100	EPA (撤去)	C	ﾓﾙﾀﾙ塗	AEP (撤去)	C	着色木毛ﾏｸﾞﾈｼｳﾑ板t=25打込 梁型：モルタル金コテ押え	AEP (撤去) AEP (撤去)		直天 3,025		棚
		改修後	C (既存のまま)	ﾓﾙﾀﾙ塗t=30 (既存のまま)	±0	C (既存のまま)	ﾓﾙﾀﾙ H=100 (下地調整)	SOP (塗替)	C (既存のまま)	ﾓﾙﾀﾙ塗 (下地調整)	EP－G (新設)	C (既存のまま)	着色木毛ﾏｸﾞﾈｼｳﾑ板t=25打込 (下地調整) 梁型：モルタル金コテ押え	EP－G (新設) EP－G (塗替)		直天 3,025		棚 (既存のまま)
	ステージ	改修前	大引・根太	ｽﾍﾟﾘ止めﾜｯｸｽ掛け (撤去) 複合化粧ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞt=15張 (撤去) ｺﾝﾊﾟﾈt=12捨張 (撤去) 鋼製床下地	+1000	C	ﾗﾜﾝ H=100	OP (撤去)	W	有孔ｼﾅﾍﾞﾆﾔ t=6 目透張	OP (撤去)	S	着色木毛ﾏｸﾞﾈｼｳﾑ板t=25張現し	OP(鉄部)		8,150		ｽﾃｰｼﾞ幕一式(一時撤去) 上部ﾌﾞﾄﾞｳ棚 演台、花台 三方枠 時計(一時撤去)
		改修後	大引・根太 (既存のまま)	ｳﾚﾀﾝ塗装 (新設) 複合化粧ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞt=15張 (新設) ｺﾝﾊﾟﾈt=12捨張 (新設) 鋼製床下地 (既存のまま)	+1000	C (既存のまま)	ﾗﾜﾝ H=100 (下地調整)	SOP (塗替)	W (既存のまま)	有孔ｼﾅﾍﾞﾆﾔ t=6 目透張 (下地調整)	EP－G (塗替)	S (既存のまま)	着色木毛ﾏｸﾞﾈｼｳﾑ板t=25張現し	OP(鉄部) (既存のまま)		8,150		ｽﾃｰｼﾞ幕一式(再取付) 上部ﾌﾞﾄﾞｳ棚(既存のまま) 演台、花台(既存のまま) 三方枠(OSCL塗替) 時計(再取付)
	控室	改修前	大引・根太	ｽﾍﾟﾘ止めﾜｯｸｽ掛け (撤去) 複合化粧ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞt=15張 ｺﾝﾊﾟﾈt=12捨張 鋼製床下地	±0	C	ﾗﾜﾝ H=100	OP (撤去)	W	有孔ｼﾅﾍﾞﾆﾔ t=6 目透張	OP (撤去)	S	着色木毛ﾏｸﾞﾈｼｳﾑ板t=25張現し ｷﾞｬﾗﾘｰ裏：ｺﾝｸﾘｰﾄ合板打放	OP(鉄部) EDA (撤去)		2,500		ﾀﾗｯﾌﾟ 暗幕(一時撤去)、ﾚｰﾙ、暗幕ﾎﾞｯｸｽ
		改修後	大引・根太 (既存のまま)	ｳﾚﾀﾝ塗装 (新設) 複合化粧ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞt=15張 (ｻﾝﾀﾞｰ掛け) ｺﾝﾊﾟﾈt=12捨張 (既存のまま) 鋼製床下地 (既存のまま) 床改修(仕上・下地)は全体の20%程度計上のこと	±0	C (既存のまま)	ﾗﾜﾝ H=100 (下地調整)	SOP (塗替)	W (既存のまま)	有孔ｼﾅﾍﾞﾆﾔ t=6 目透張 (下地調整)	EP－G (塗替)	S (既存のまま)	着色木毛ﾏｸﾞﾈｼｳﾑ板t=25張現し (既存のまま) ｷﾞｬﾗﾘｰ裏：ｺﾝｸﾘｰﾄ合板打放	OP(鉄部) (既存のまま) EP－G (塗替)		2,500		ﾀﾗｯﾌﾟ (SOP塗替) 暗幕(再取付)、ﾚｰﾙ、暗幕ﾎﾞｯｸｽ(既存のまま)
	台車収納庫	改修前	C	ﾓﾙﾀﾙ塗t=30	±0				C	ﾗﾜﾝﾍﾞﾆﾔt=5.5						1,000		椅子庫
		改修後	C (既存のまま)	ﾓﾙﾀﾙ塗t=30 (既存のまま)	±0				C (既存のまま)	ﾗﾜﾝﾍﾞﾆﾔt=5.5 (既存のまま)						1,000		椅子庫(既存のまま)
2	ｷﾞｬﾗﾘｰ	改修前	C	ﾓﾙﾀﾙ塗t=30	±0	C	ﾗﾜﾝ H=100	OP (撤去)	W	有孔ｼﾅﾍﾞﾆﾔ t=6 目透張	OP (撤去)	S	着色木毛ﾏｸﾞﾈｼｳﾑ板t=25張現し	OP(鉄部)		5,950		暗幕(一時撤去)、ﾚｰﾙ、暗幕ﾎﾞｯｸｽ
		改修後	C (既存のまま)	ﾓﾙﾀﾙ塗t=30 (既存のまま)	±0	C (既存のまま)	ﾗﾜﾝ H=100 (下地調整)	SOP (塗替)	W (既存のまま)	有孔ｼﾅﾍﾞﾆﾔ t=6 目透張 (下地調整)	EP－G (塗替)	S (既存のまま)	着色木毛ﾏｸﾞﾈｼｳﾑ板t=25張現し	OP(鉄部) (既存のまま)		5,950		手摺SOP塗(新設) 暗幕(再取付)、ﾚｰﾙ、暗幕ﾎﾞｯｸｽ(既存のまま)

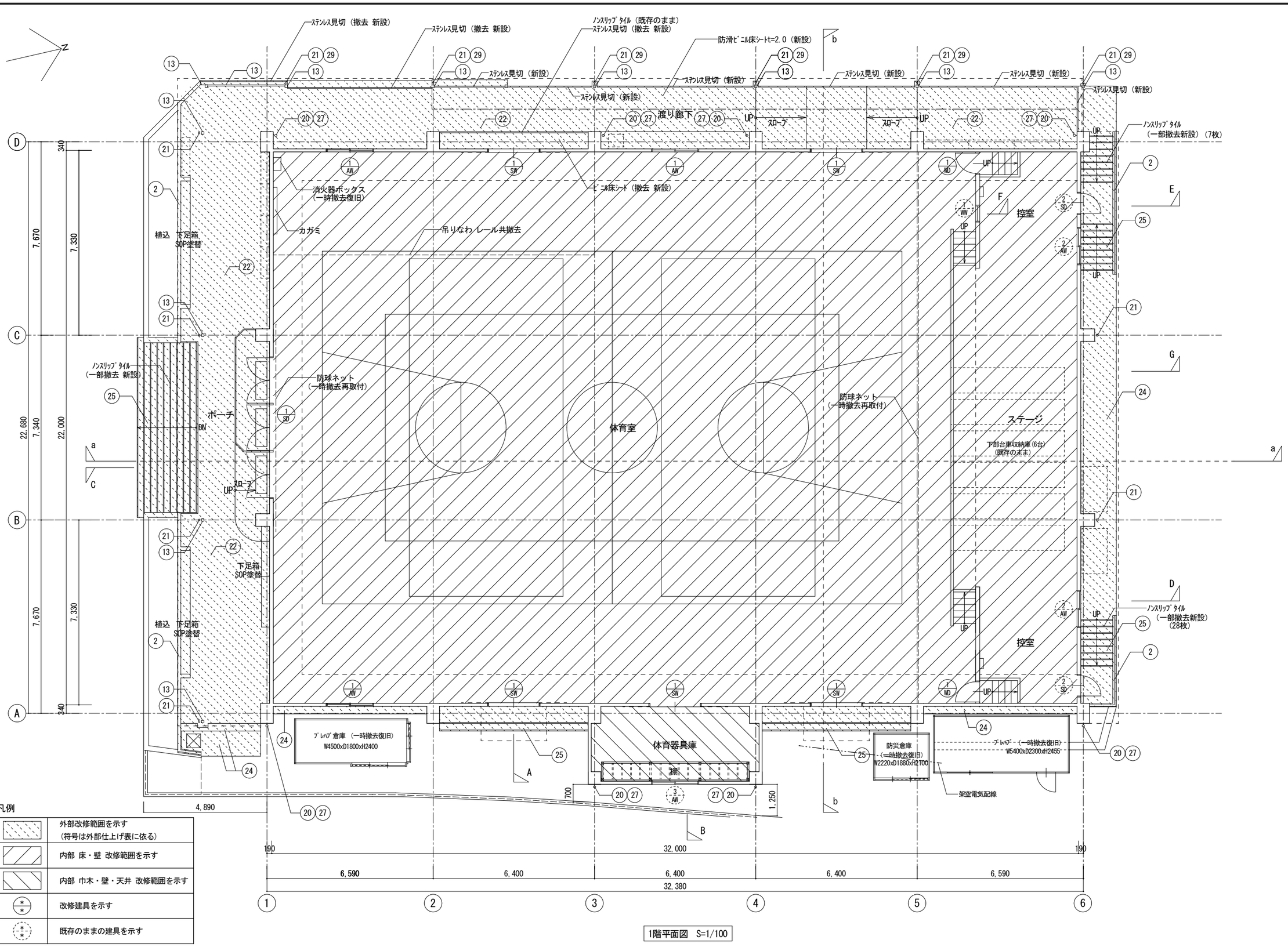
凡例

符号	名称	符号	名称	符号	名称	符号	名称		
M	モルタル	OP	油性調合ペイント	GB-S	耐水ボード				
C	コンクリート	SOP	合成樹脂調合ペイント	GB-R	石膏ボード				
CB	コンクリートブロック	EP	合成樹脂エマルションペイント	GB-D	化粧石膏ボード				
RC	鉄筋コンクリート	EP-G	つや有合成樹脂エマルションペイント	GB-F	強化石膏ボード				
LGS	軽量鉄骨下地	AEP	アクリル樹脂水性エマルションペイント	GB-R-H	普通硬質強化石膏ボード				
		OSCL	オイルステンクリアラッカー	DR	ロックウール化粧吸音板				

＊特記事項　巾木・壁の塗装(新設)は、既存塗装面の下地調整を行うこと。

〔 屋内運動場 〕

事業年度　年度 工事完成　年度	設計 令和 年 月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 西小学校長寿命化改修工事（建築主体工事）	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社　ＭａｓＭａｓ 一級建築士登録　第198542号 美野　健治　印	図面名称・縮尺　non scale (A3版-71%縮小) 内部仕上表	図番 A-64



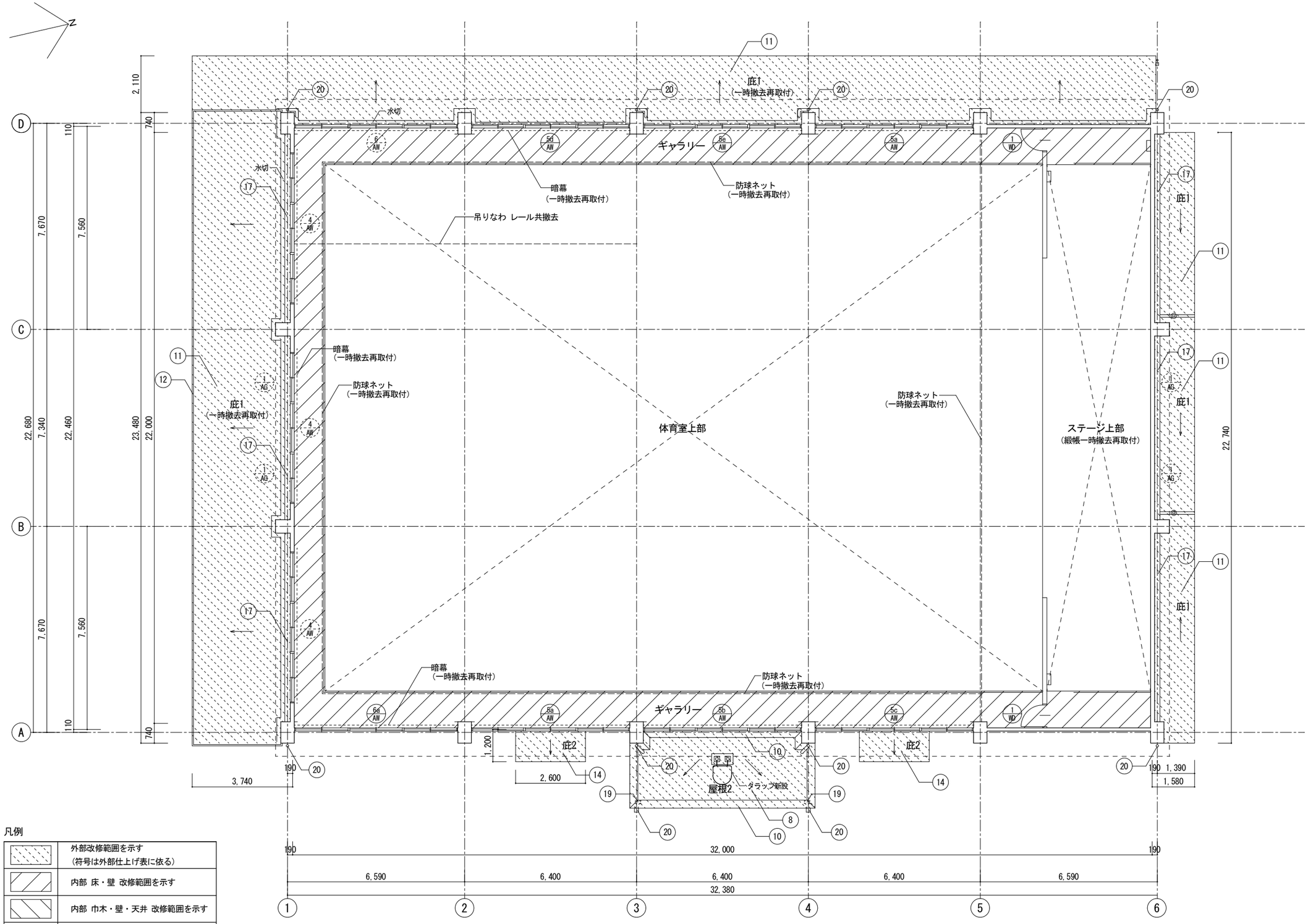
凡例

	外部改修範囲を示す（符号は外部仕上げ表に依る）
	内部 床・壁 改修範囲を示す
	内部 巾木・壁・天井 改修範囲を示す
＊＊	改修建具を示す
＊＊	既存のままの建具を示す

1階平面図 S=1/100

〔 屋内運動場 〕

事業年度 年度 工事完成 年度	設 計 令和 年 月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 西小学校長寿命化改修工事（建築主体工事）	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社 ＭａｓＭａｓ 一級建築士登録 第198542号 美野 健治 印	図面名称・縮尺 S=1/100 (A3版-71%縮小) 1階平面図	図 番 A-65



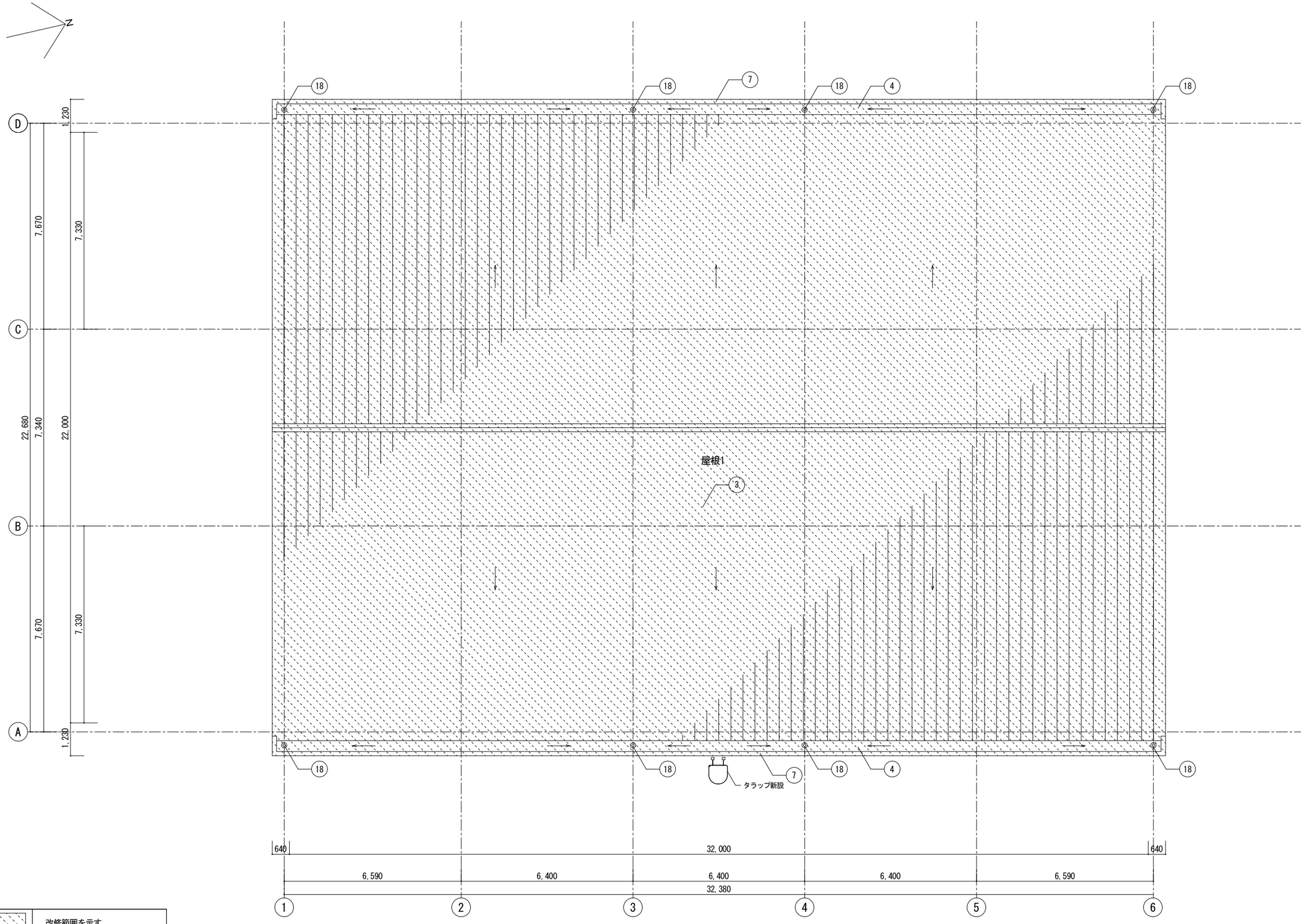
凡例

	外部改修範囲を示す （符号は外部仕上げ表に依る）
	内部 床・壁 改修範囲を示す
	内部 巾木・壁・天井 改修範囲を示す
	改修建具を示す
	既存のままの建具を示す

2階平面図　S=1/100

〔 屋内運動場 〕

事業年度　年度 工事完成　年度	設 計 令和 年 月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 西小学校長寿命化改修工事（建築主体工事）	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社　ＭａｓＭａｓ 一級建築士登録　第198542号 美野　健治　印	図面名称・縮尺　S=1/100　(A3版-71%縮小) ２階平面図	図 番 A-66



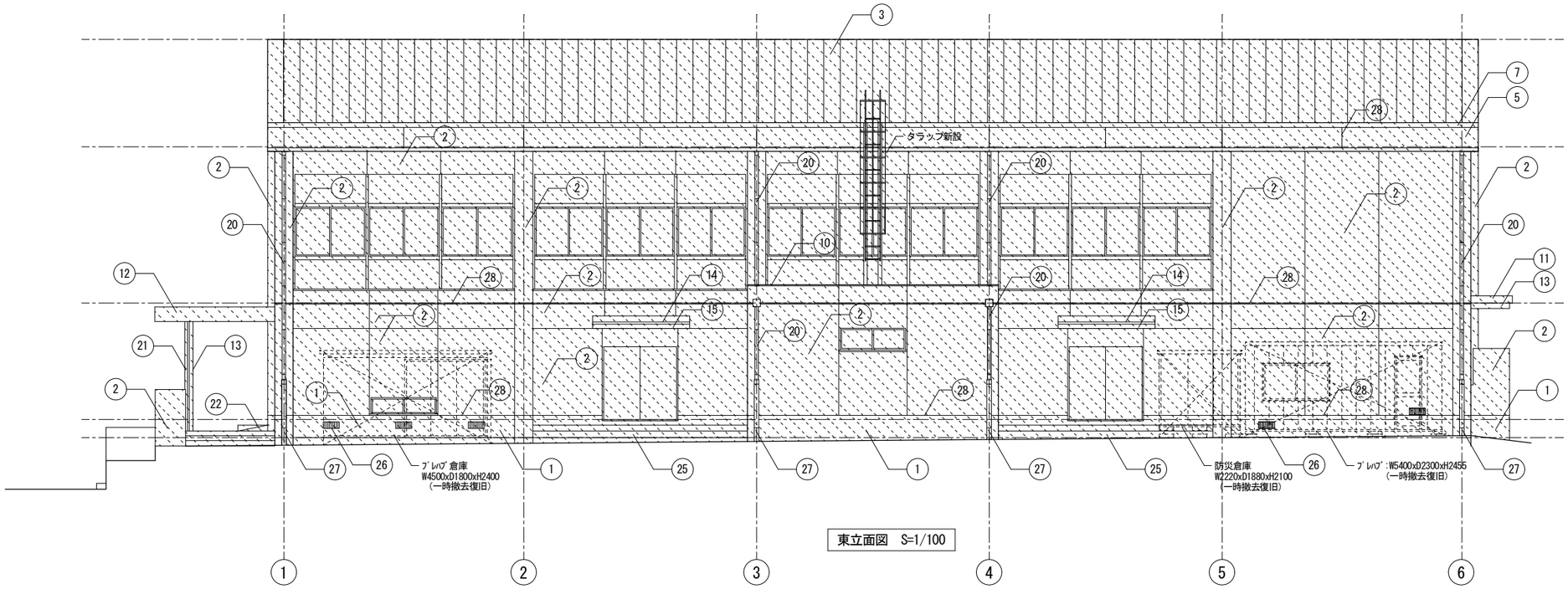
屋根伏図　S=1/100

凡例

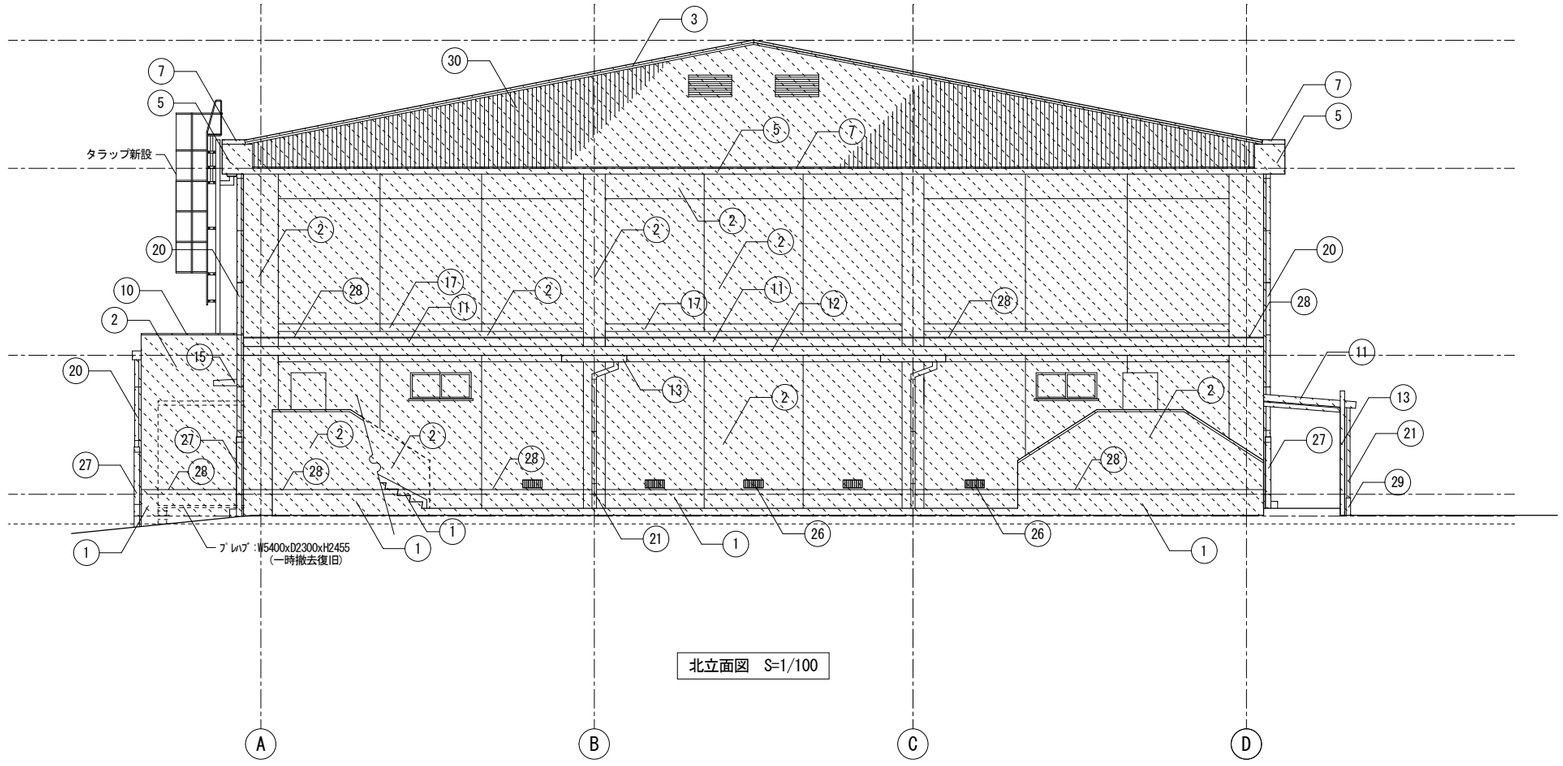
	改修範囲を示す

〔 屋内運動場 〕

事業年度　年度 工事完成　年度	設 計 令和 年 月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 西小学校長寿命化改修工事（建築主体工事）	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社　ＭａｓＭａｓ 一級建築士登録　第198542号 美野　健治　印	図面名称・縮尺　S=1/100　(A3版-71%縮小) 屋根伏図	図 番 A-67



東立面図　S=1/100



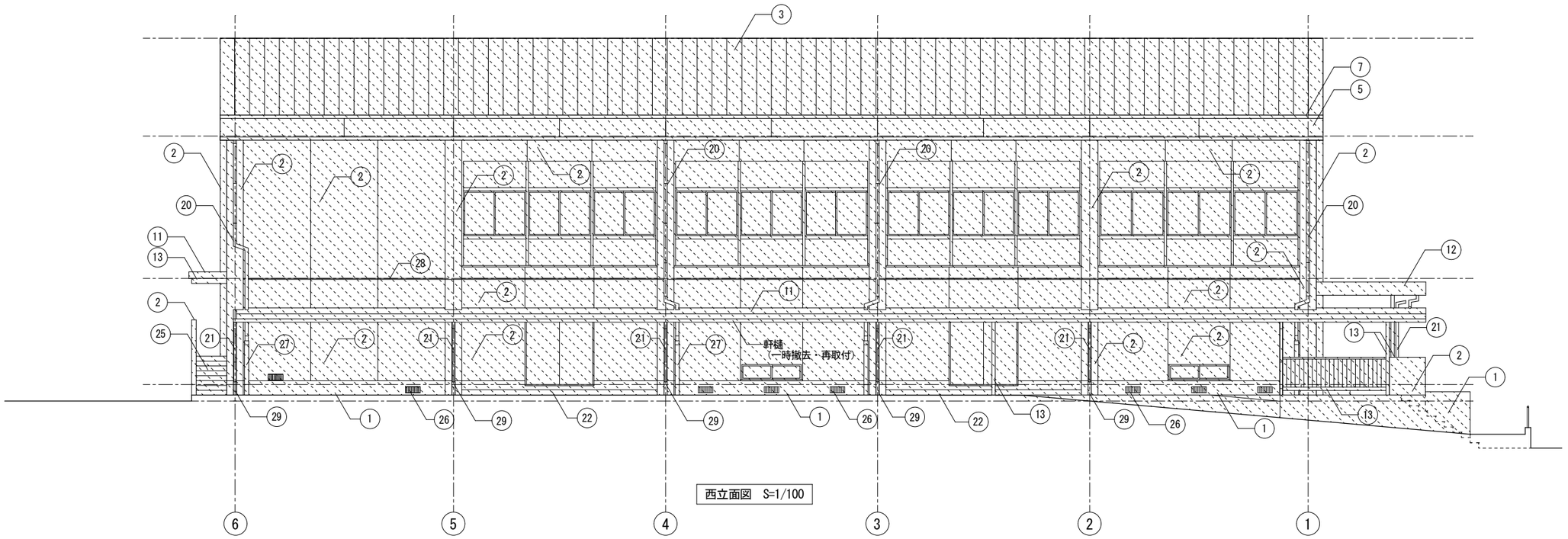
北立面図　S=1/100

凡例

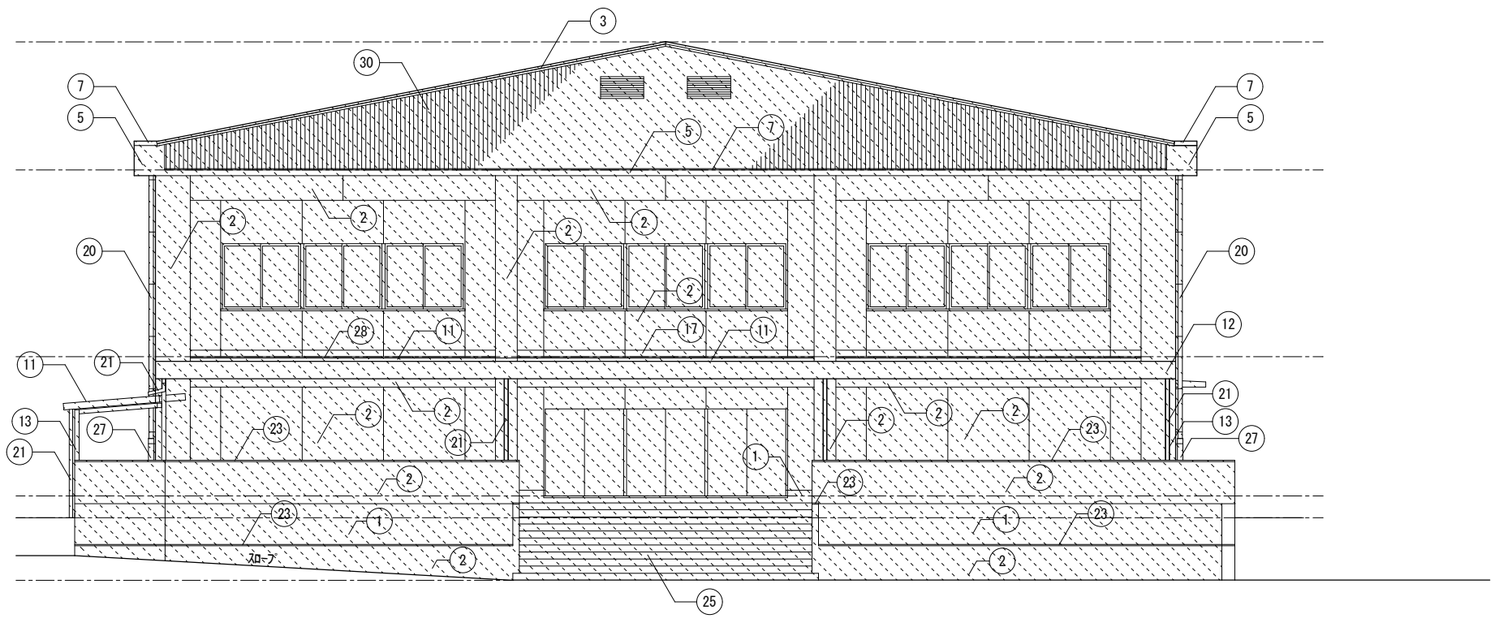
	改修範囲を示す

〔 屋内運動場 〕

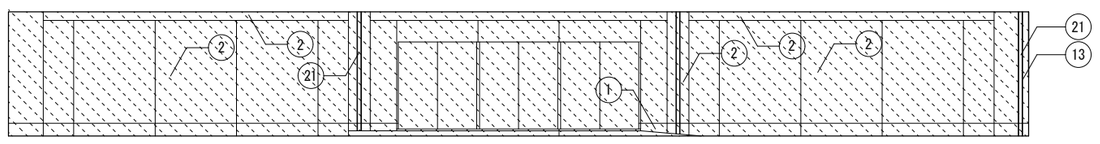
事業年度　年度 工事完成　年度	設 計 令和 年 月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 西小学校長寿命化改修工事（建築主体工事）	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社　ＭａｓＭａｓ 一級建築士登録　第198542号 美野　健治　印	図面名称・縮尺　S=1/100　(A3版-71%縮小) 立面図（１）	図 番 A-68



西立面図　S=1/100



南立面図　S=1/100



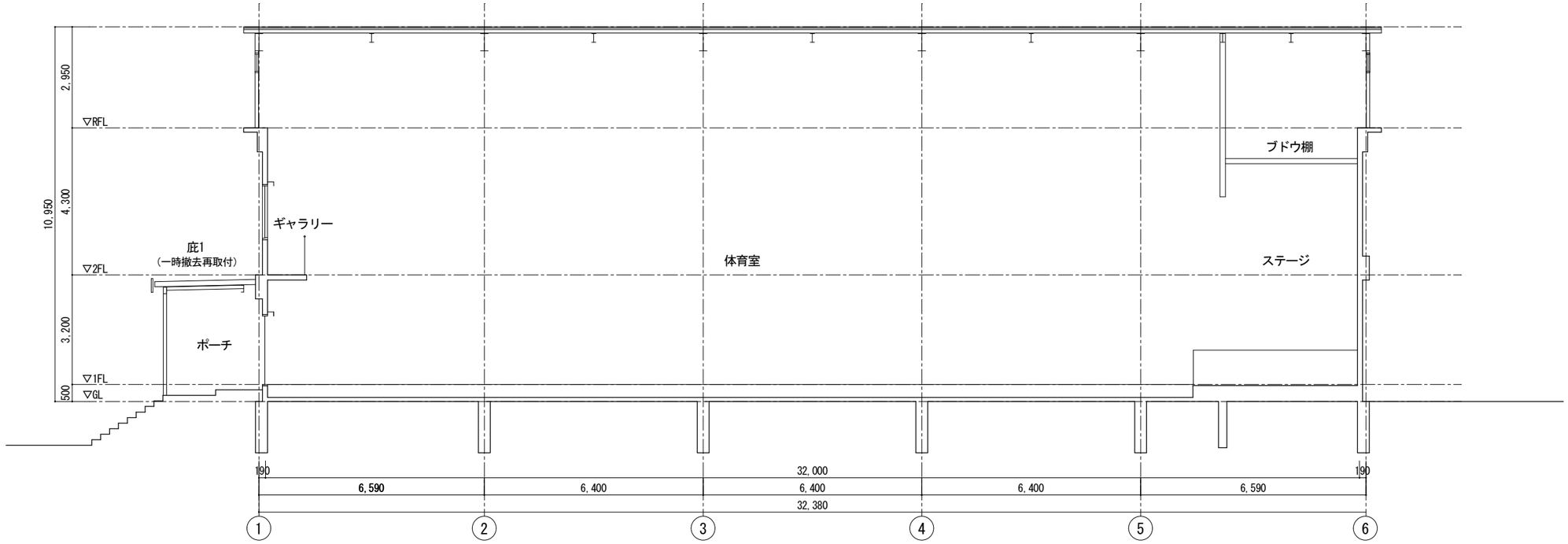
ﾎﾟｰﾁ展開図　S=1/100

凡例

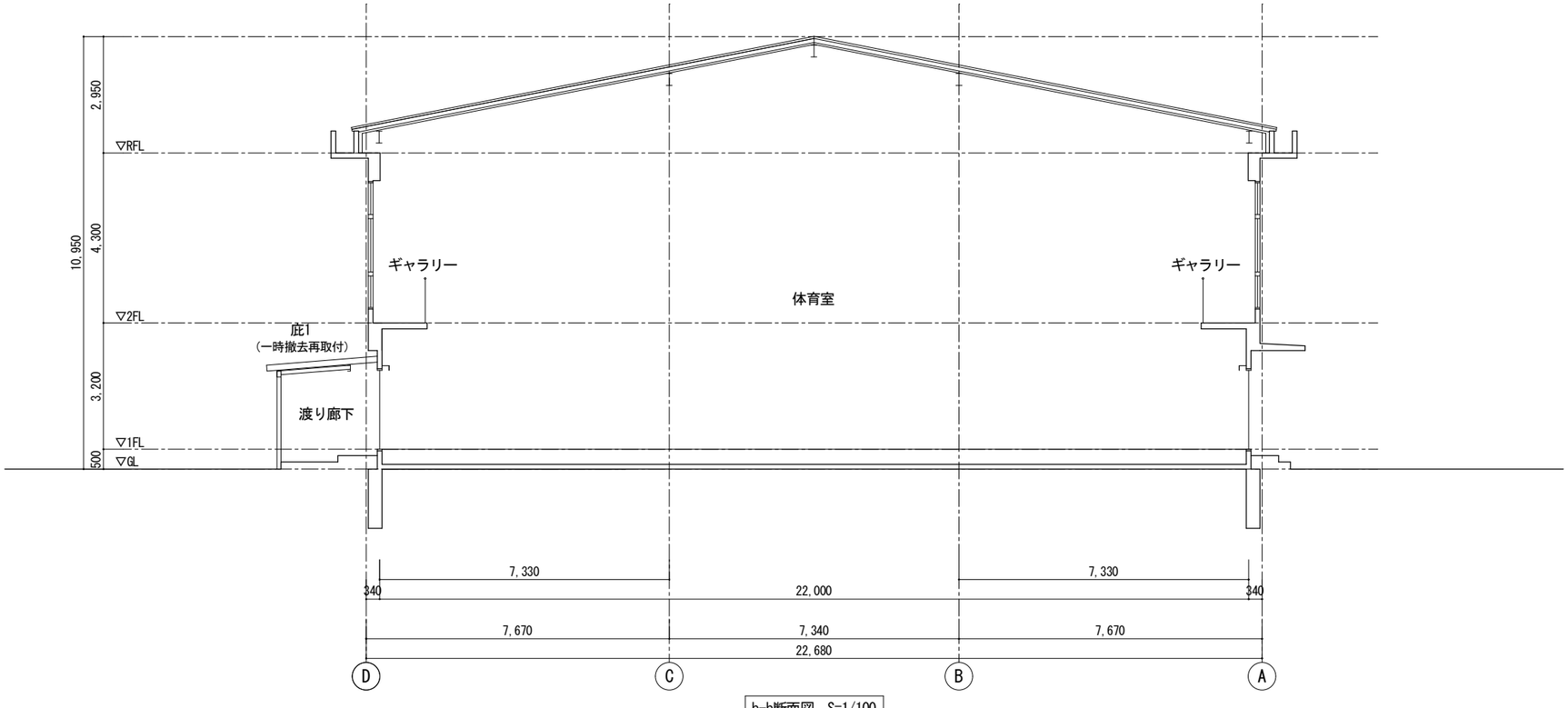
	改修範囲を示す

〔 屋内運動場 〕

事業年度　年度 工事完成　年度	設 計 令和 年 月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 西小学校長寿命化改修工事（建築主体工事）	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社　ＭａｓＭａｓ 一級建築士登録　第198542号 美野　健治　印	図面名称・縮尺　S=1/100　(A3版-71%縮小) 立面図（２）	図 番 A-69



a-a断面図　S=1/100



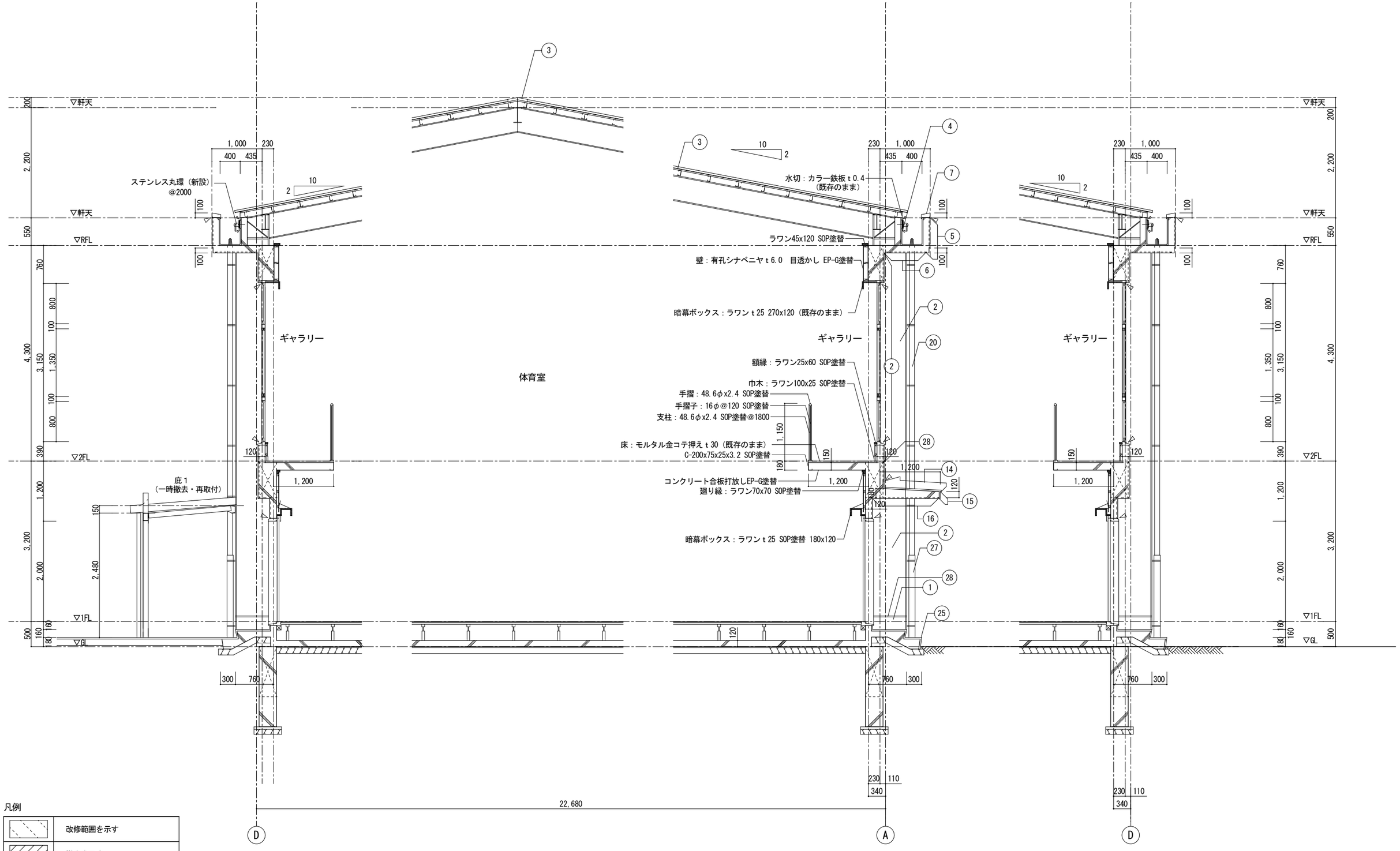
b-b断面図　S=1/100

凡例

	改修範囲を示す

〔 屋内運動場 〕

事業年度　年度 工事完成　年度	設 計 令和 年 月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 西小学校長寿命化改修工事（建築主体工事）	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社　ＭａｓＭａｓ 一級建築士登録　第198542号 美野　健治　印	図面名称・縮尺　S=1/100　(A3版-71%縮小) 断面図	図 番 A-70



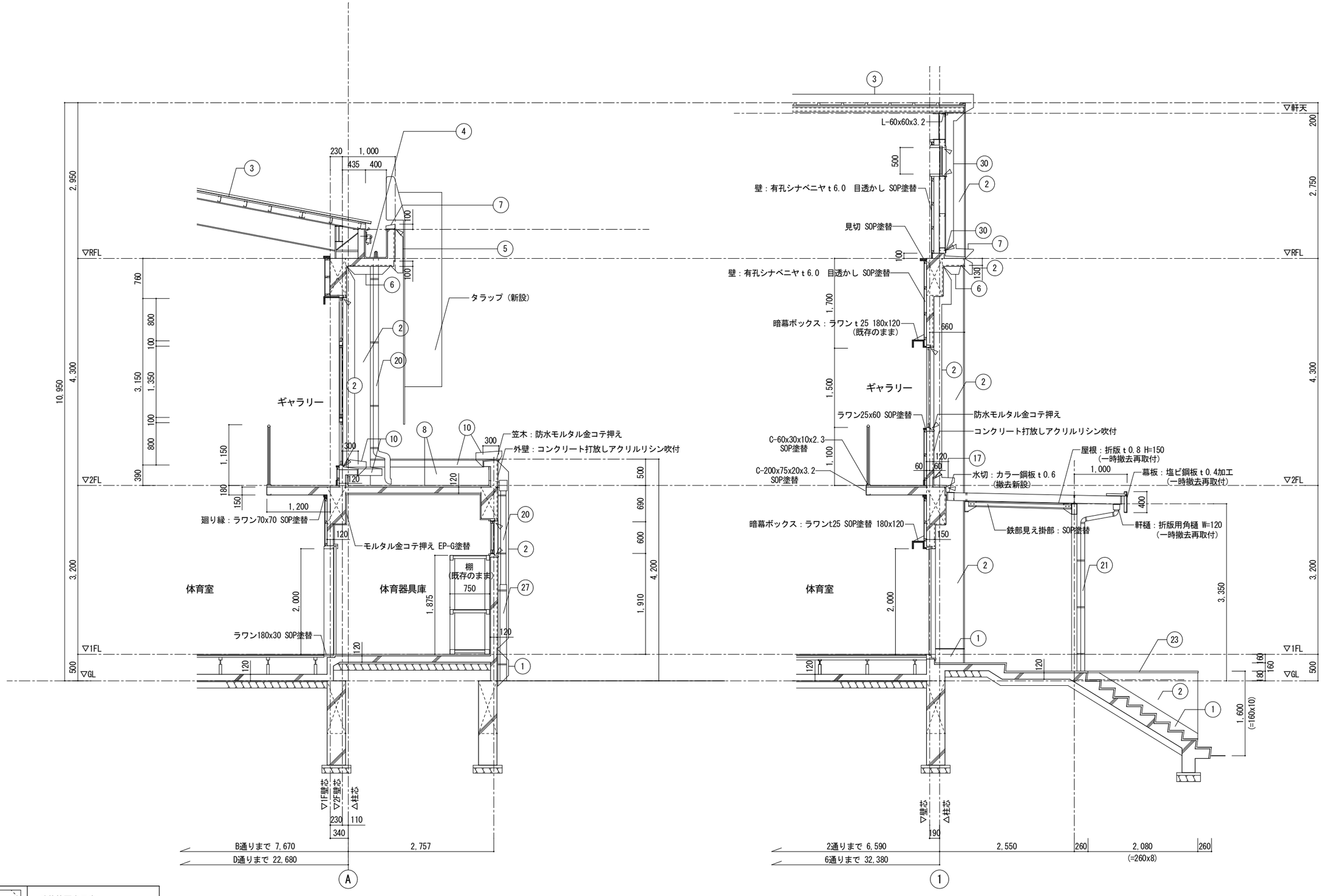
凡例

	改修範囲を示す
	撤去を示す
	カッター切を示す。
	シーリング PU-2 20×20 打替

A 断面詳細図 S=1/50

〔 屋内運動場 〕

事業年度 年度 工事完成 年度	設 計 令和 年 月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 西小学校長寿命化改修工事（建築主体工事）	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社 ＭａｓＭａｓ 一級建築士登録 第198542号 美野 健治 印	図面名称・縮尺 S=1/50 (A3版-71%縮小) 断面詳細図（１）	図 番 A-71



B 断面詳細図 S=1/50

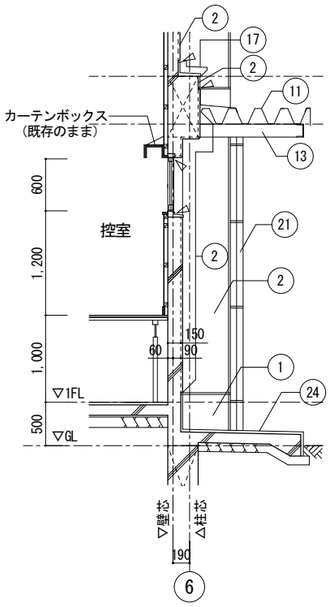
C 断面詳細図 S=1/50

凡例

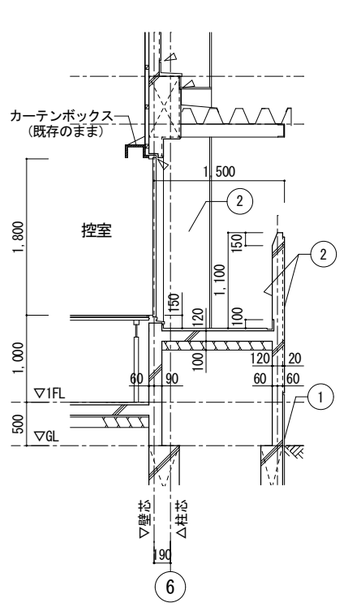
	改修範囲を示す
	撤去を示す
	カッター切を示す。

〔 屋内運動場 〕

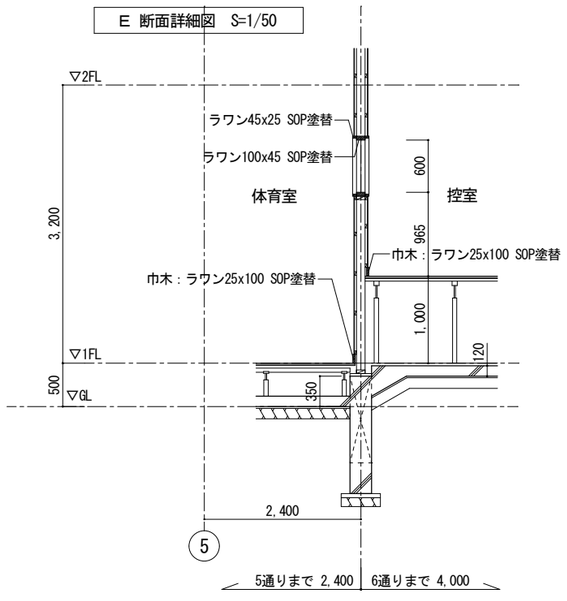
事業年度 年度 工事完成 年度	設 計 令和 年 月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 西小学校長寿命化改修工事（建築主体工事）	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社 ＭａｓＭａｓ 一級建築士登録 第198542号 美野 健治 印	図面名称・縮尺 S=1/50 (A3版-71%縮小) 断面詳細図（２）	図 番 A-72



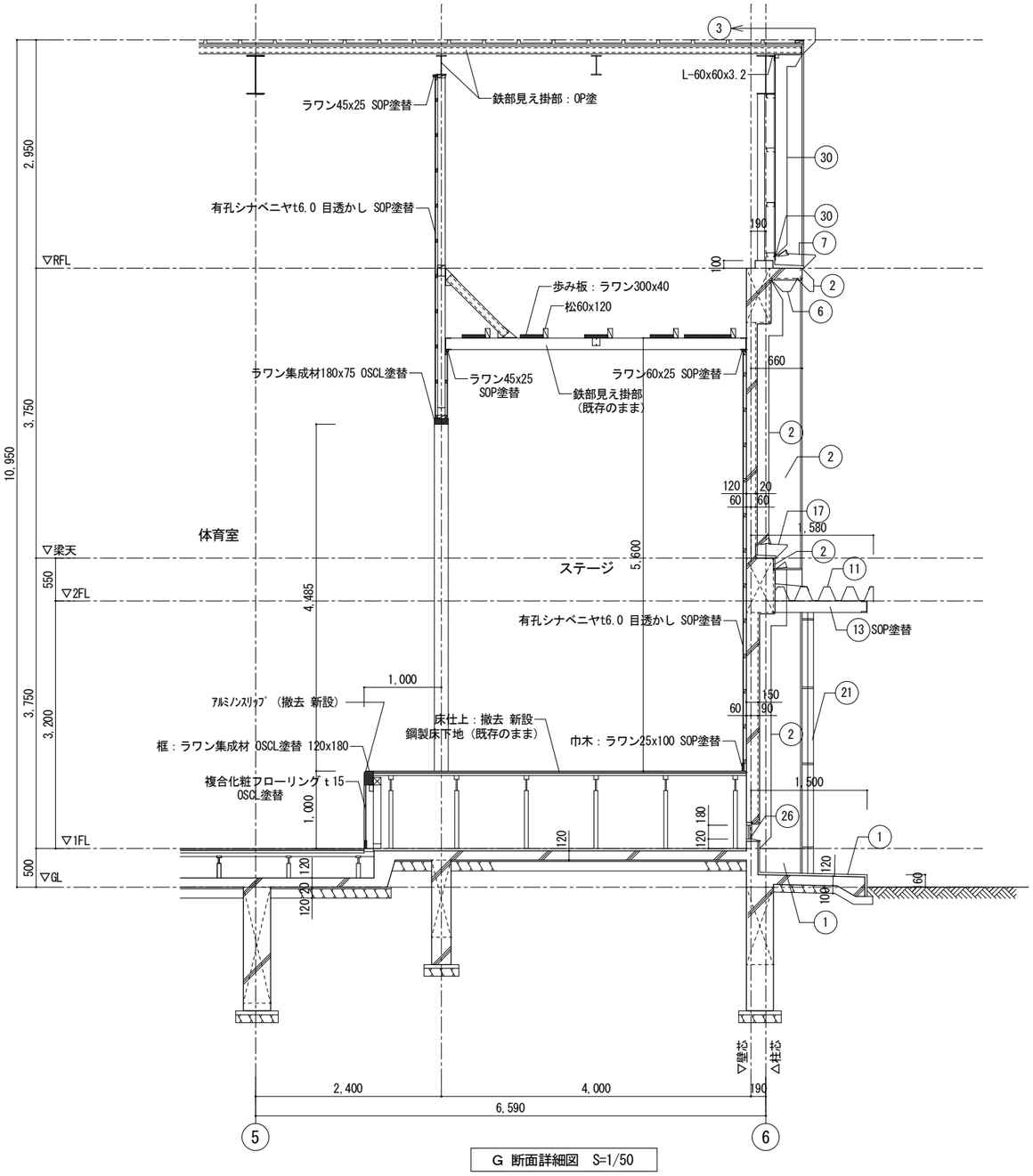
D 断面詳細図 S=1/50



E 断面詳細図 S=1/50



F 断面詳細図 S=1/50



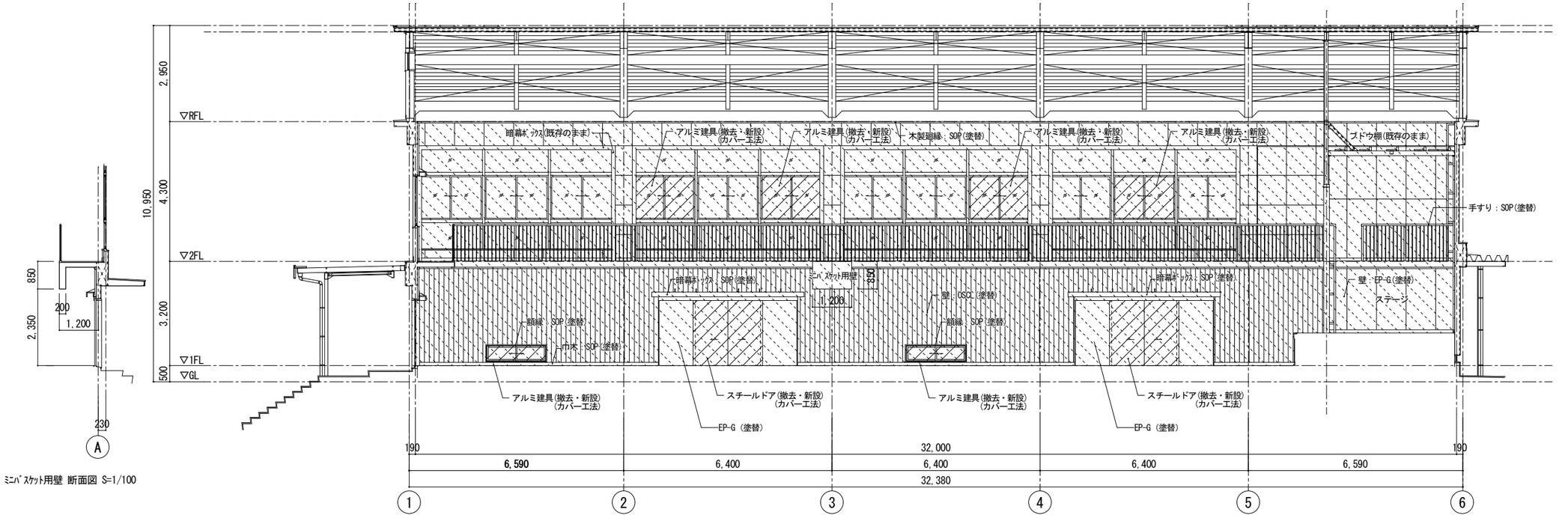
G 断面詳細図 S=1/50

凡例

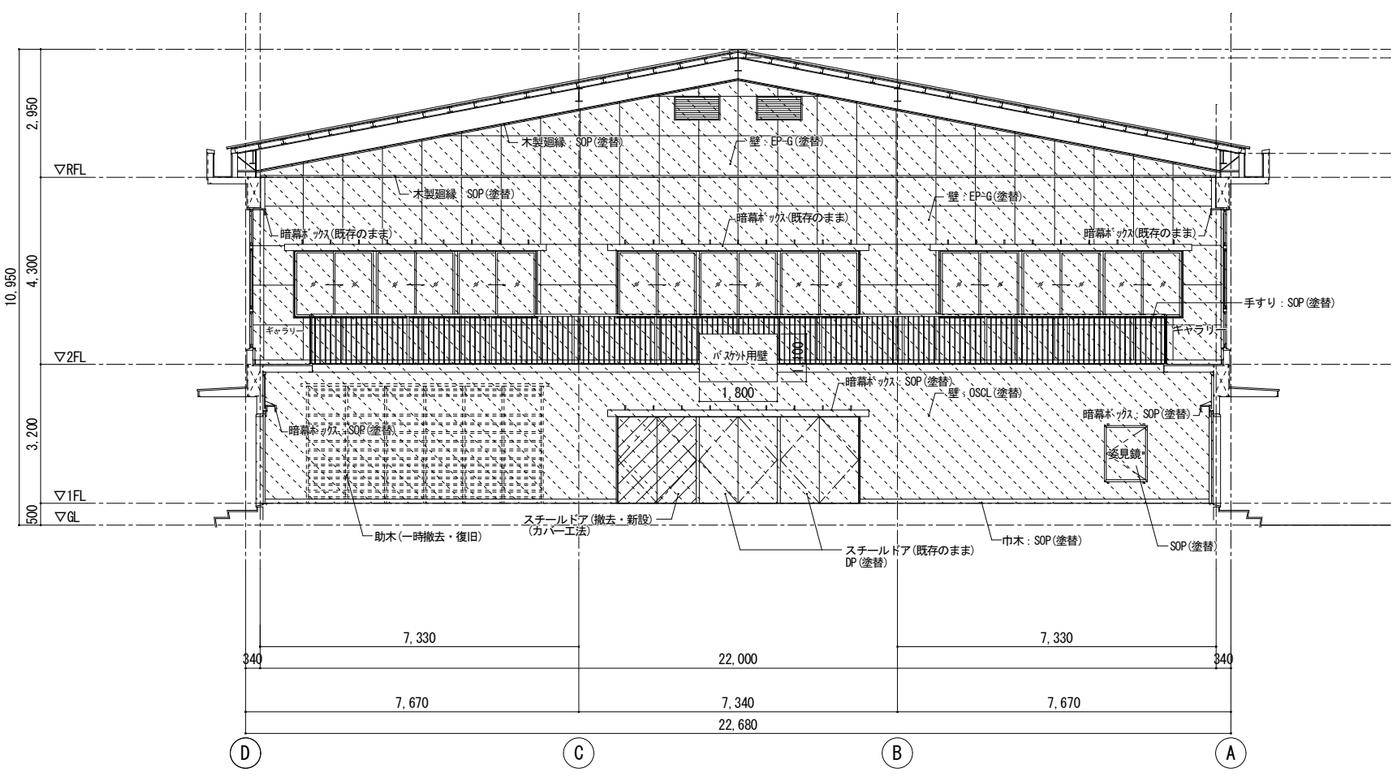
	改修範囲を示す
	撤去を示す
	カッター切を示す。

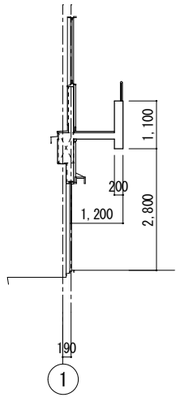
〔 屋内運動場 〕

事業年度 年度 工事完成 年度	設 計 令和 年 月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 西小学校長寿命化改修工事（建築主体工事）	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社 ＭａｓＭａｓ 一級建築士登録 第198542号 美野 健治 印	図面名称・縮尺 S=1/50 (A3版-71%縮小) 断面詳細図（３）	図 番 A-73



ﾐﾆﾊﾞｽｹｯﾄ用壁 断面図 S=1/100





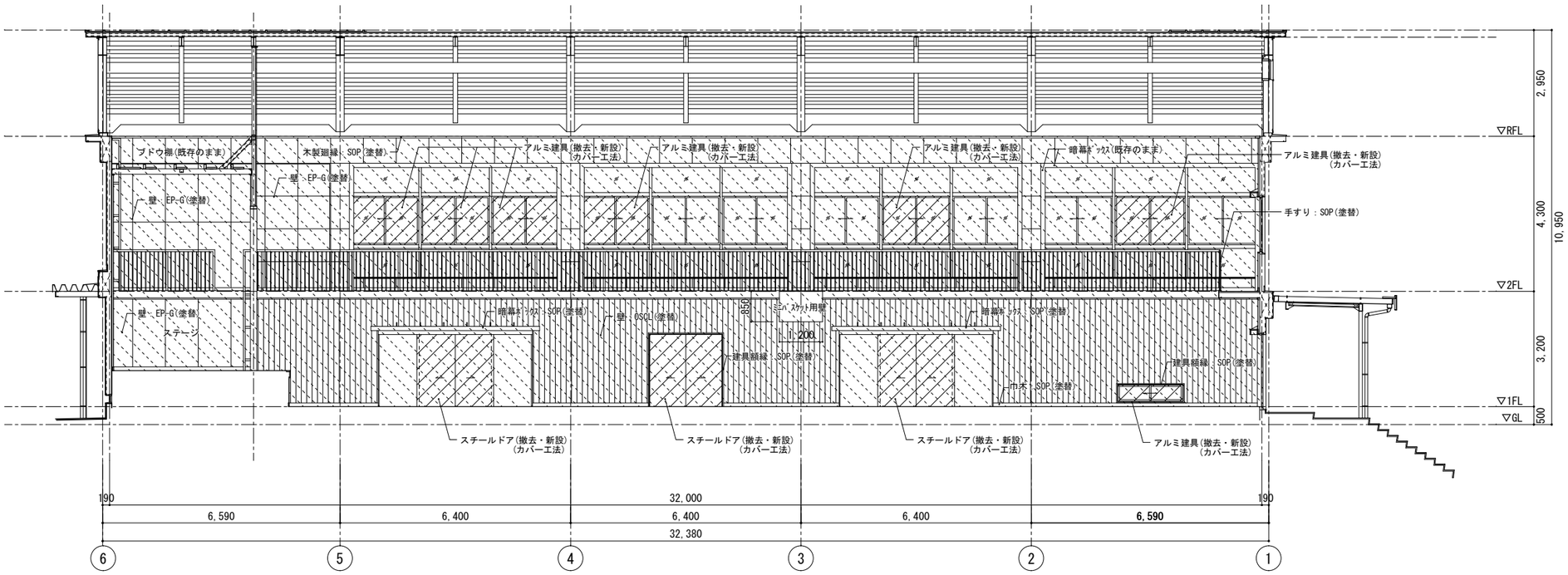
ﾊﾞｽｹｯﾄ用壁 断面図 S=1/100

凡例

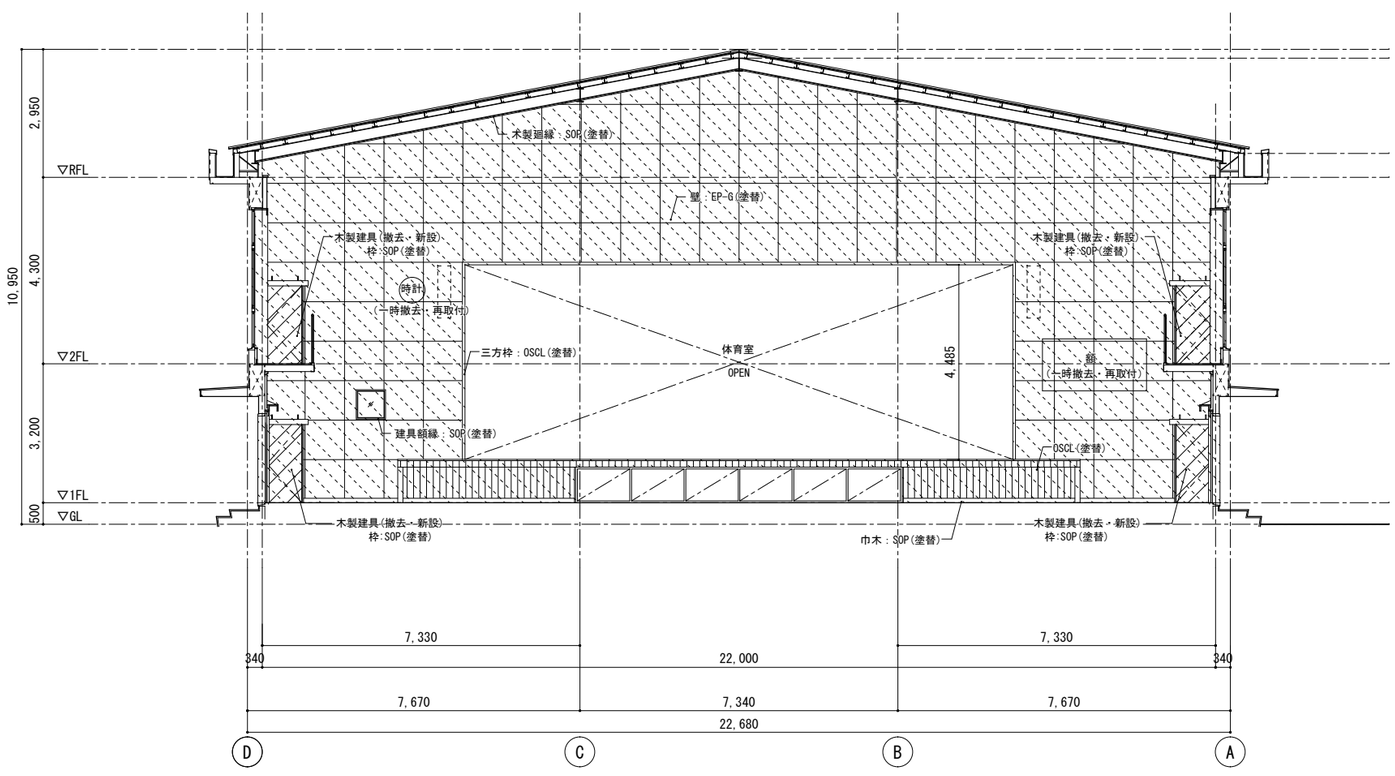
	内部改修範囲を示す
	撤去を示す

〔 屋内運動場 〕

事業年度 年度 工事完成 年度	設 計 令和 年 月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 西小学校長寿命化改修工事（建築主体工事）	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社 ＭａｓＭａｓ 一級建築士登録 第198542号 美野 健治 印	図面名称・縮尺 S=1/100 (A3版-71%縮小) 展開図（１）	図 番 A-74



体育室・ステージ　C



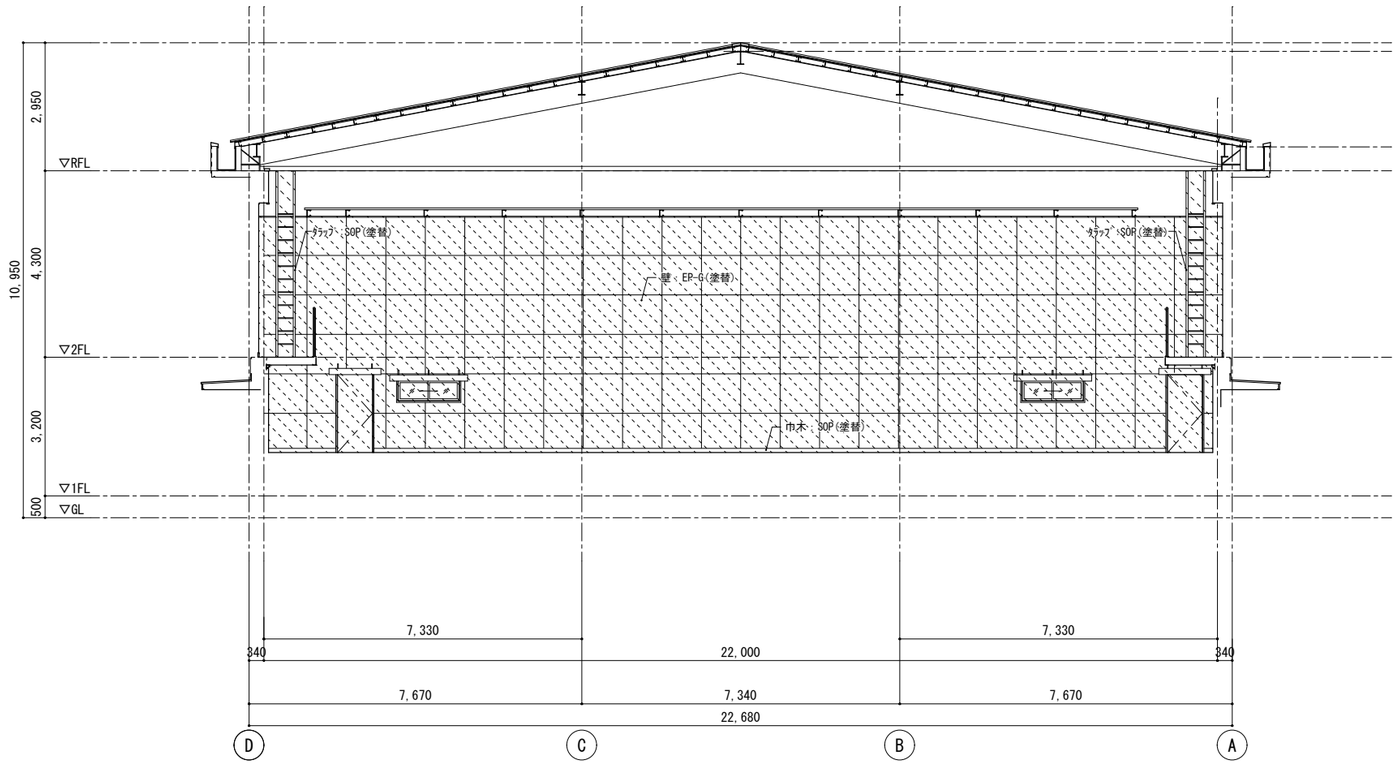
体育室　B

凡例

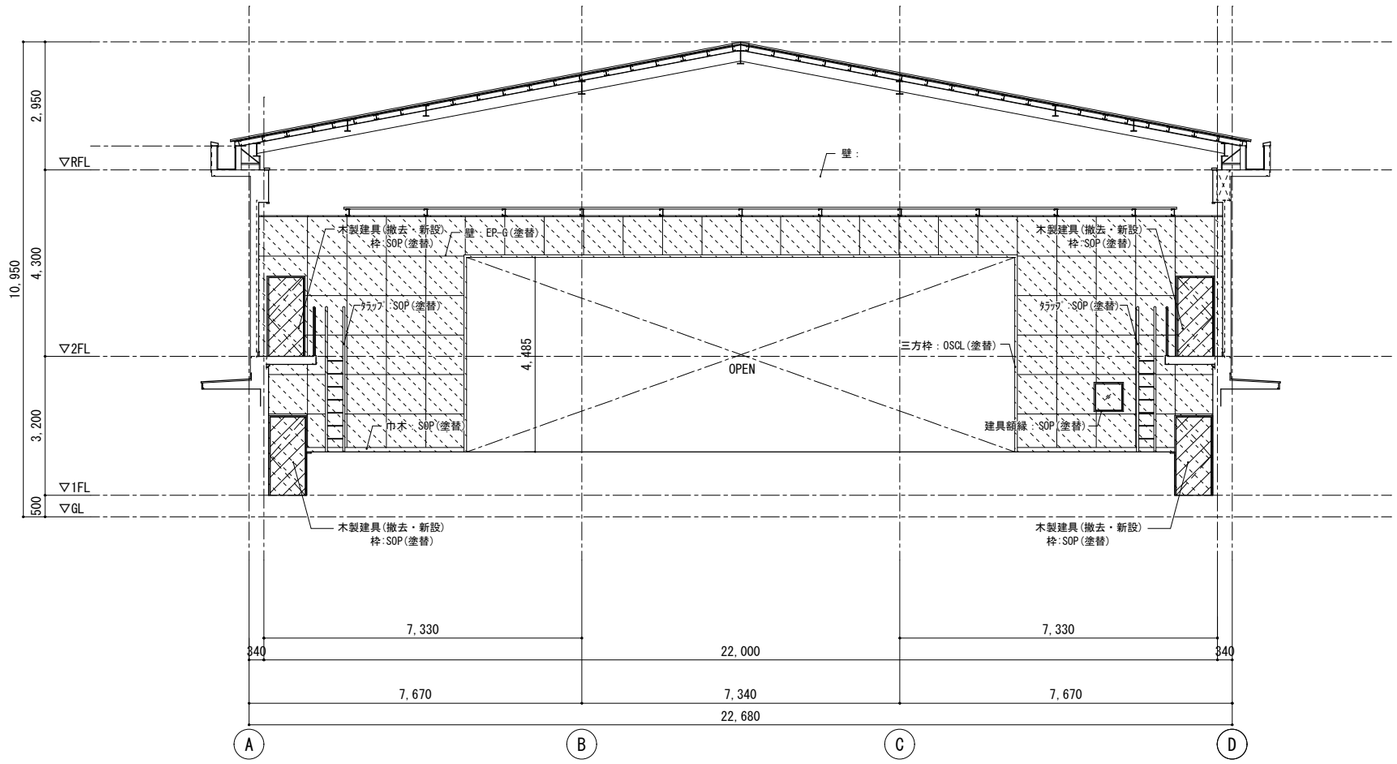
	内部改修範囲を示す
	撤去を示す

〔 屋内運動場 〕

事業年度　年度 工事完成　年度	設 計 令和 年 月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 西小学校長寿命化改修工事（建築主体工事）	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社　ＭａｓＭａｓ 一級建築士登録　第198542号 美野　健治　印	図面名称・縮尺　S=1/100　(A3版-71%縮小) 展開図（２）	図 番 A-75



ステージ・控室　　B



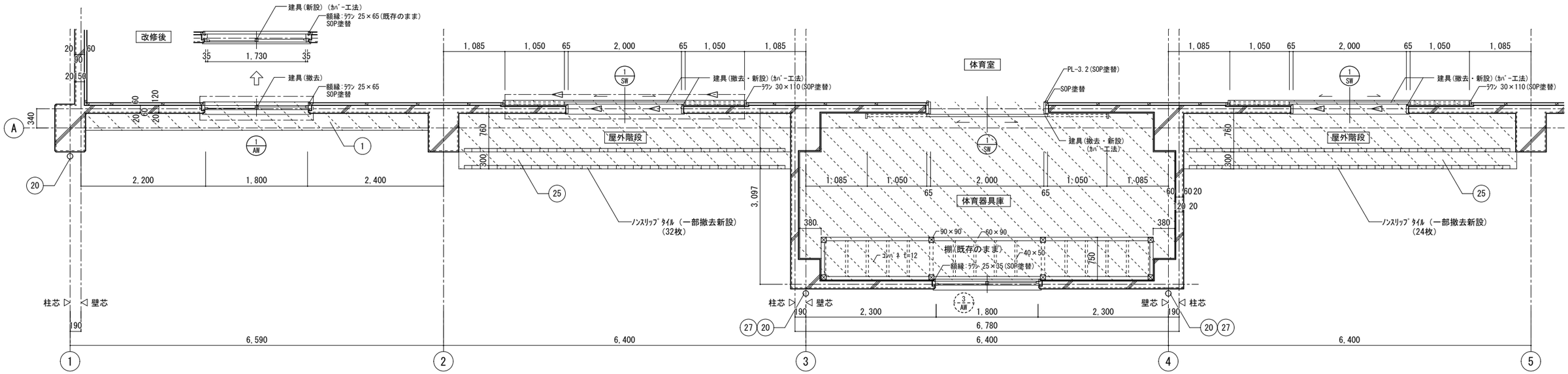
ステージ・控室　　D

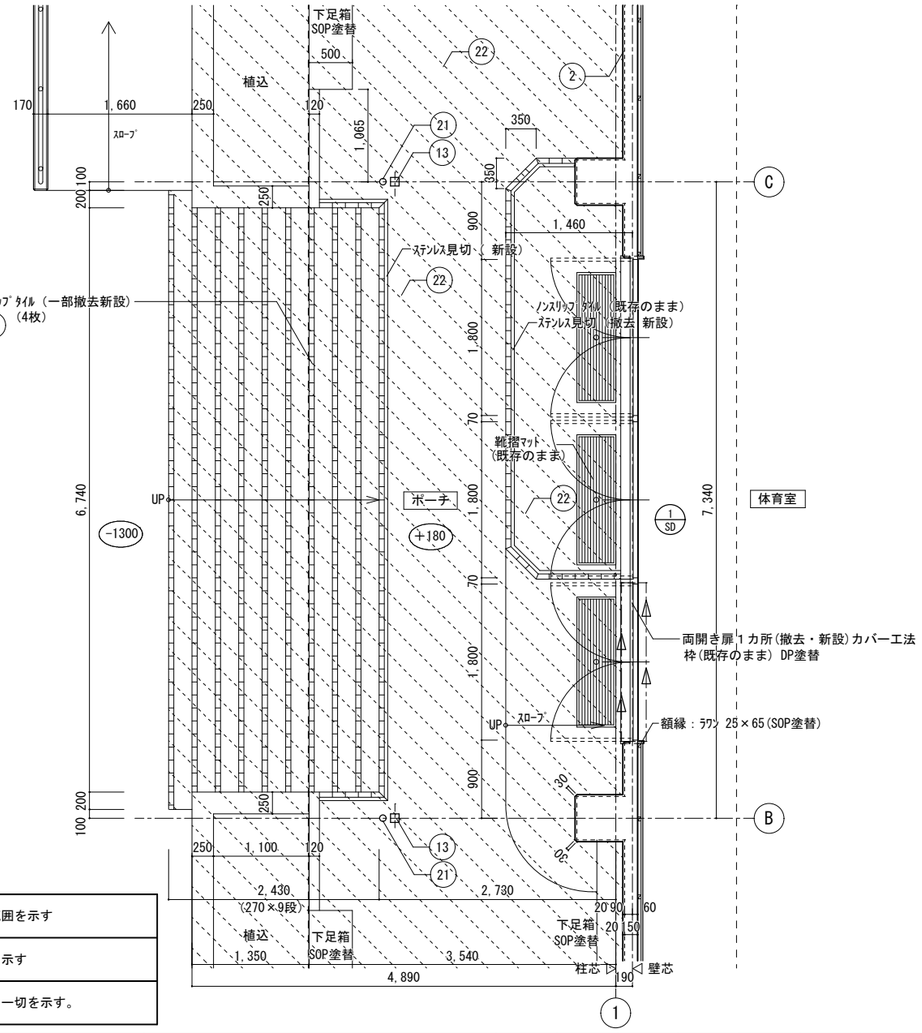
凡例

	内部改修範囲を示す
	撤去を示す

〔 屋内運動場 〕

事業年度　年度 工事完成　年度	設 計 令和 年 月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 西小学校長寿命化改修工事（建築主体工事）	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社 ＭａｓＭａｓ 一級建築士登録 第198542号 美野 健治 印	図面名称・縮尺 S=1/100 (A3版-71%縮小) 展開図（３）	図 番 A-76



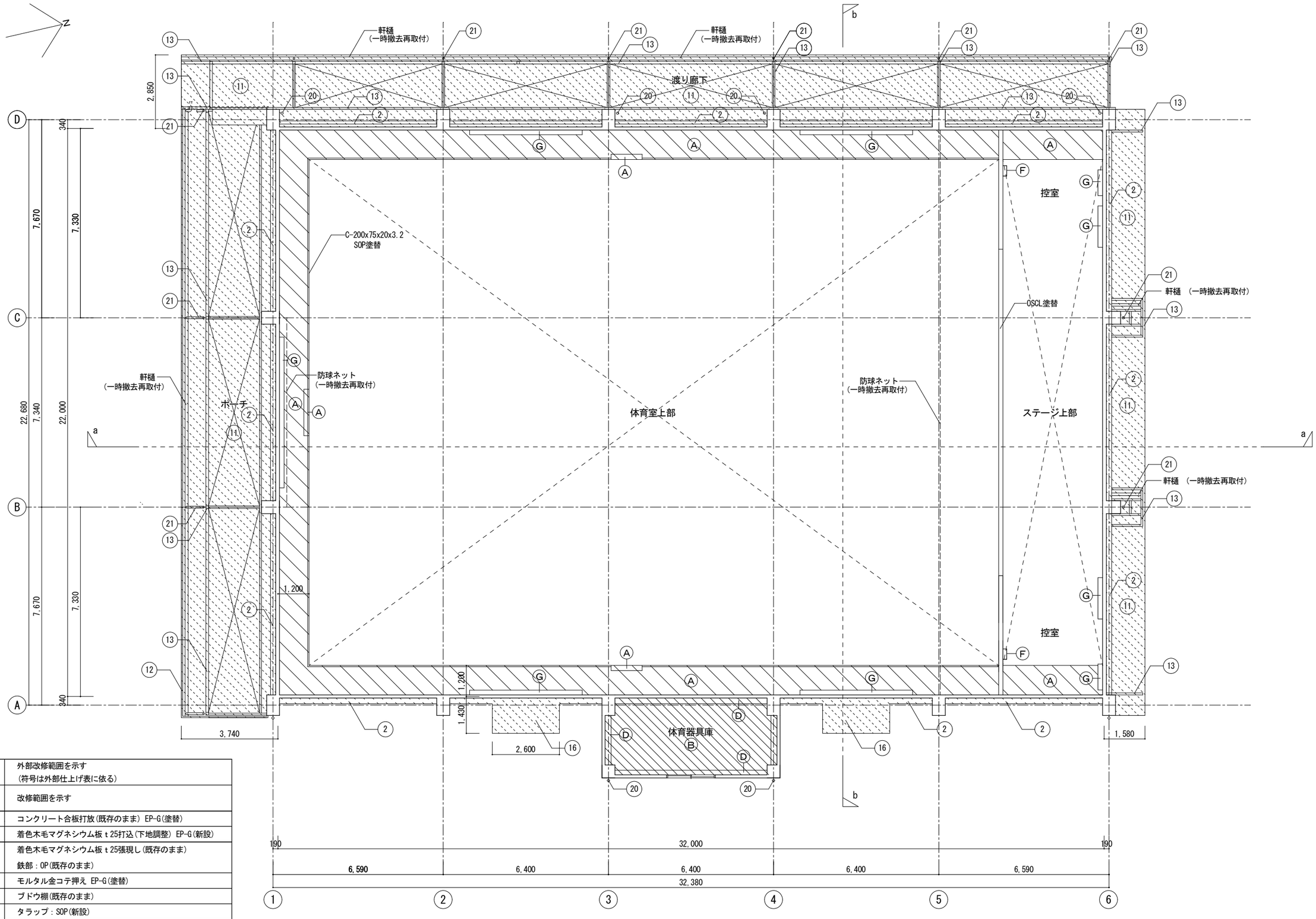


凡例

	改修範囲を示す
	撤去を示す
	カッター切を示す。

〔 屋内運動場 〕

事業年度 年度 工事完成 年度	設 計 令和 年 月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 西小学校長寿命化改修工事（建築主体工事）	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社 ＭａｓＭａｓ 一級建築士登録 第198542号 美野 健治 印	図面名称・縮尺 S=1/50 (A3版-71%縮小) ポーチ・器具庫 平面詳細図・展開図	図 番 A-77



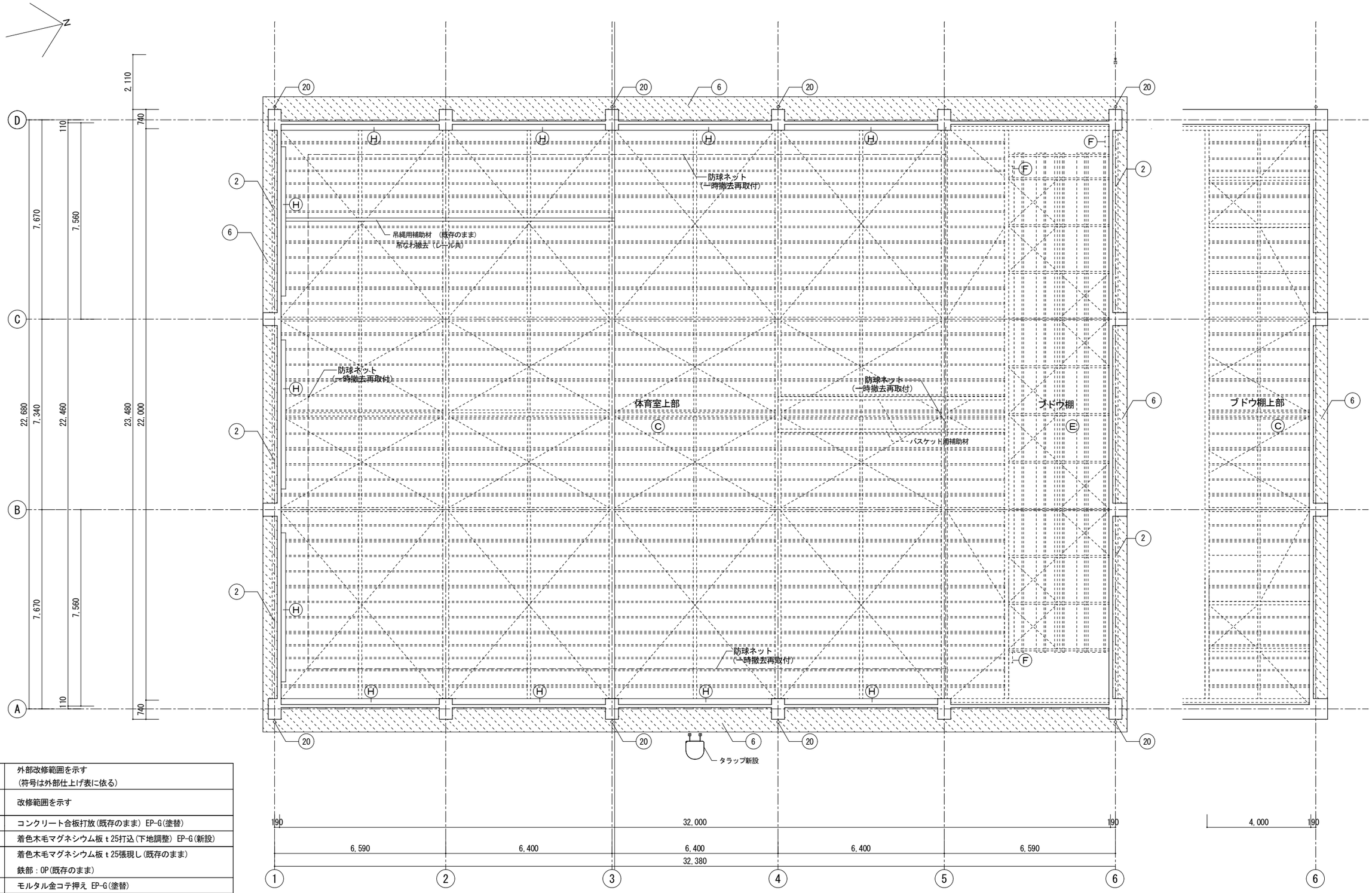
1階天井伏図　S=1/100

凡例

	外部改修範囲を示す （符号は外部仕上げ表に依る）
	改修範囲を示す
Ⓐ	コンクリート合板打放（既存のまま）EP-G（塗替）
Ⓑ	着色木毛マグネシウム板ｔ25打込（下地調整）EP-G（新設）
Ⓒ	着色木毛マグネシウム板ｔ25張現し（既存のまま） 鉄部：OP（既存のまま）
Ⓓ	モルタル金コテ押え EP-G（塗替）
Ⓔ	ブドウ棚（既存のまま）
Ⓕ	タラップ：SOP（新設）
Ⓖ	暗幕ボックス：木製（SOP塗替）
Ⓗ	暗幕ボックス：木製（既存のまま）

〔 屋内運動場 〕

事業年度　年度 工事完成　年度	設 計 令和 年 月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 西小学校長寿命化改修工事（建築主体工事）	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社　ＭａｓＭａｓ 一級建築士登録　第198542号 美野　健治　印	図面名称・縮尺　S=1/100　(A3版-71%縮小) 1階天井伏図	図 番 A-78



2階天井伏図 S=1/100

ブドウ棚上部 S=1/100

凡例

	外部改修範囲を示す （符号は外部仕上げ表に依る）
	改修範囲を示す
Ⓐ	コンクリート合板打放（既存のまま） EP-G(塗替)
Ⓑ	着色木毛マグネシウム板 t 25打込（下地調整） EP-G(新設)
Ⓒ	着色木毛マグネシウム板 t 25張現し（既存のまま） 鉄部：OP(既存のまま)
Ⓓ	モルタル金コテ押え EP-G(塗替)
Ⓔ	ブドウ棚(既存のまま)
Ⓕ	タラップ：SOP(新設)
Ⓖ	暗幕ボックス：木製(SOP塗替)
Ⓗ	暗幕ボックス：木製(既存のまま)

〔 屋内運動場 〕

事業年度 年度 工事完成 年度	設 計 令和 年 月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 西小学校長寿命化改修工事（建築主体工事）	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社 ＭａｓＭａｓ 一級建築士登録 第198542号 美野 健治 印	図面名称・縮尺 S=1/100 (A3版-71%縮小) ２階天井伏図	図 番 A-79

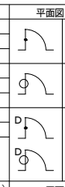
共　通　事　項

表示略号

略　号	建　具	略　号	ガ　ラ　ス
ＡＤ	アルミ製戸	Ｐ	フロート板ガラス
ＡＷ	アルミ製窓	Ｆ	型板ガラス
ＡＧ	アルミ製がらり	ＮＦ	網入型板ガラス
ＳＴ	鋼製三方枠	ＷＦ	線入型板ガラス
ＳＳＴ	ステンレス製三方枠	ＮＰ	網入磨板ガラス
ＳＤ	鋼製戸	ＷＰ	線入磨板ガラス
ＳＷ	鋼製窓	ＨＡＰ	熱線吸収フロート板ガラス
ＳＧ	鋼製がらり	Ｔ（　）	強化ガラス（材料板ガラス）
ＳＳ	重量シャッター	ＩＧ（Ｏ）（　）	複層ガラス（材料板ガラス）（Ｏ）は断熱性、日射取得性・日射遮蔽性による区分を示す
ＬＤ	鋼製軽量戸		
ＬＳ	軽量シャッター		
ＳＳＤ	ステンレス製戸	ＨＲ（　）	熱線反射ガラス（材料板ガラス）
ＳＳＷ	ステンレス製窓	ＤＳ（　）	倍強度ガラス（材料板ガラス）
ＳＳＧ	ステンレス製がらり	Ｌ（　）	合わせガラス（材料板ガラス）
ＯＨＤ	オーバーヘッドドア		
ＡＣＷ	アルミ製カーテンウォール	Ｌｏｗ-Ｅ	低放射ガラス
ＰＤ	樹脂製戸		
ＰＷ	樹脂製窓		
Ｈ	ふすま		
ＰＡ	紙張り障子		
ＷＤ	木製戸		

（Ｏ－ＯＯ－ＯＯ）、（Ｏ－ＯＯ）は国交省標準詳細図の詳細番号を示す。
複層ガラスは、室内・室外側に使用するガラスは下記のとおりとする。
［内（材料板ガラス）＋Ａ＋外（材料板ガラス）］
【内：室内側ガラス、外：室外側ガラス、Ａ：空気、ＡＲ：アルゴン】
網入りガラスの網の形状は（※ ひし網　・かく網）とする。

平面図表示建具金物記号



平面図表示建具符号



アルミニウム製建具の枠見込み

枠見込み寸法（mm）	ＳＤ　40（Ｈ＝2,400以下、扉一枚の幅＝950以下）	Ｈ	19.5（戸ぶすまは30mm）
	及び　50（Ｈ＝2,400超える、扉一枚の幅＝1,600以下）	ＰＡ	30
	ＳＳＤ　50（Ｈ＝2,700以上、扉一枚の幅＝1,500以下）	ＷＤ	30（Ｈ＝1,000未満、扉一枚の幅＝950以下）
	60（Ｈ＝3,200以上、扉一枚の幅＝2,000以下）		36（Ｈ＝2,000未満、扉一枚の幅＝950以下）
	ＬＤ　36		40（Ｈ＝2,400未満、扉一枚の幅＝950以下）
		ＷＤ（かまち戸）	36mm

特記なき場合は、形式が引違い・片引き・上げ下げ窓で、複層ガラスを使用する場合は、枠見込み100mmとする。

形　状
（１）ＳＤのうち、点検扉は特記以外は片面フラッシュ戸とする。
（２）排煙窓の適用は「備考」欄による。
（３）特殊な性能（簡易気密、防音、断熱、耐震）の建具の適用は「備考」欄による。
（４）水切りの幅は、「備考」欄による。
（５）標準型建具の適用は「標準型建具の適用」欄にＯが付いたものとする。

仕　上　げ
（１）ＳＴ、ＳＤ、ＳＷ、ＳＧ、ＳＳ及びＬＤの仕上げは特記以外はＳＯＰとする。
（２）ＳＤ及びＬＤのドアガラリは、鋼板⑦1.2にＳＯＰとする。
（３）ふすまの上張りの種類は、「備考」欄による。

建具金物
（１）ドアクローザーの適用は建具配置図（平面図）による。なお、ドアクローザーの取付は室内側を原則とする。
（２）壁当たりとなる開き戸は壁面からの逃げ寸法を100mm程度とし、ドアクローザーの有無にかかわらず戸当たりを設ける。
（３）クレセントの高さは1,500mm以下、排煙窓オペレーター装置の高さは800mmから1,500mmとする。
（４）扉の把手は特記なき場合は、レバーハンドルとし握り玉の適用は「建具金物」欄による。
（５）扉の握り玉、把手類の取付位置は床面から1,000mmとし、押板類は1,100mmとする。
（６）防犯建物部品は「建具金物」欄による。
（７）建具金物は下表により、それ以外は「建具金物」欄による。

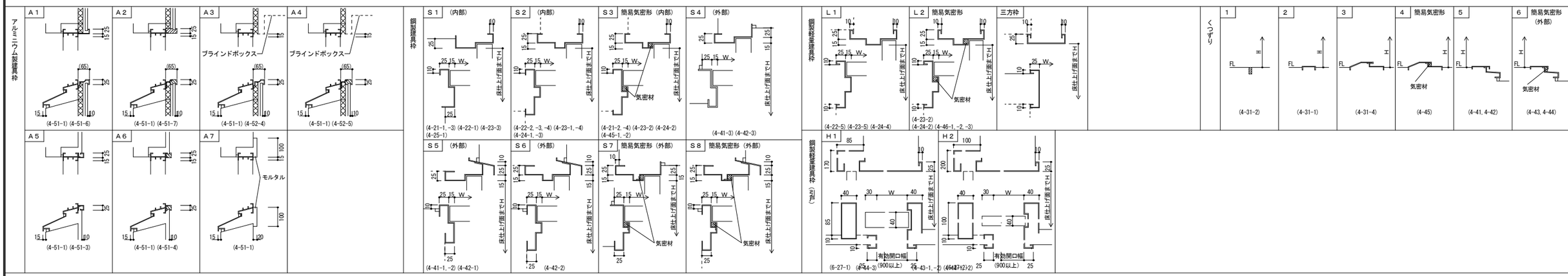
外部	一般扉	丁番　　シリンダー箱錠（片面サムターン）	
	自由開き扉	フロアヒンジ（片自由、ストップ付き）シリンダー本締り錠（片面サムターン）	
		押棒（引手）（内外共）はステンレス押棒（ＳＵＳ 304 ＨＬ程度、Ｌ≒400）	
	自動ドア（スライディングドア）	引戸用本締り錠（片面サムターン）	
内部	一般室	ピボットヒンジ　シリンダー箱錠（片面サムターン）	
	湯沸室	ピボットヒンジ　錠なし	
	便所、洗面所	ピボットヒンジ　錠なし	
		押棒（引手）（内外共）はステンレス押棒（ＳＵＳ 304 ＨＬ程度、Ｌ≒400）	
	自閉式上吊り引戸	自閉・制御装置（ストップ付）　ステンレス製振れ止め軸	
		押棒（引手）（内外共）はステンレス押棒（ＳＵＳ 304 ＨＬ程度、Ｌ≒400）	
		多機能便所：表示装置・非常開錠置・大型サムターン付引戸錠（ロッド式）	
		多機能便所以外：引戸錠（ロッド式）	
	随時閉鎖式防火戸	ヒンジクローザー（ピボット型、ストップなし）　ケースハンドル錠	
	点検扉	軸吊りヒンジ　　点検口錠	
	自由開き扉	フロアヒンジ（片自由、ストップ付き）シリンダー本締り錠（片面サムターン）	
		押棒（引手）（内外共）はステンレス押棒（ＳＵＳ 304 ＨＬ程度、Ｌ≒400）	
	窓	クレセント	

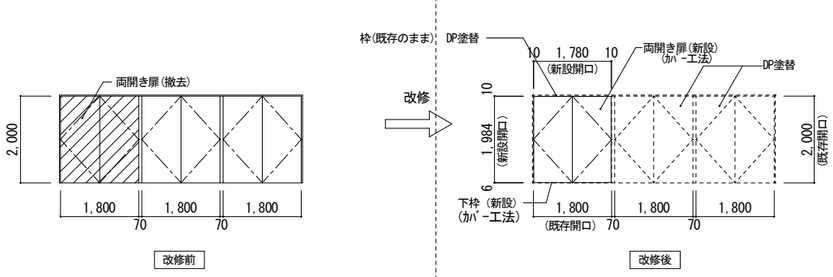
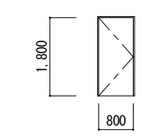
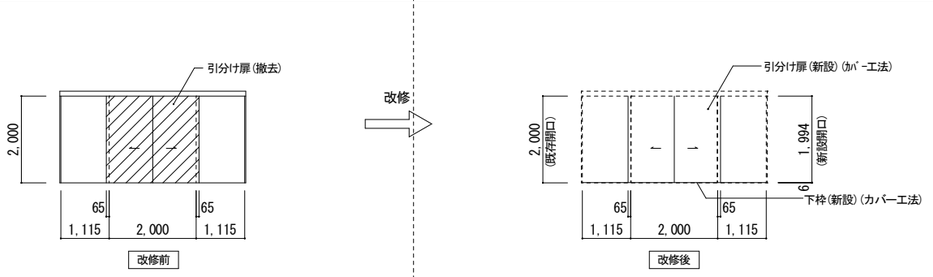
防火戸	（１）ヒューズ装置、熱感知器又は煙感知器との連動は「備考」欄による。 （２）防火戸の種類は下表により、適用は「防火戸の種類」欄による。 （３）防火戸の解錠機構は別途とする。 （４）扉にラッチ受座用切込み開口補強を行う。

種　類		性　能
特	特定防火設備（遮炎１時間）	耐火建築物及び準耐火建築物（以下「耐火建築物等」という）の各階において、特定の床面積以内ごとに設ける防火設備
		11階以上の各階において内装に不燃又は準不燃材料を用いた場合に、特定の床面積ごとに設ける防火設備
		耐火建築物等において用途が異なる部分の相互間に設ける防火設備
防	防火設備（遮炎２０分）	耐火建築物等の外壁に設ける防火設備
		防火地域及び準防火地域以外の建築物の外壁に設ける防火設備
		11階以上の各階において内装に難燃材料を用いた場合に、特定の床面積ごとに設ける防火設備
		準耐火建築物に形成された竪穴の周囲に設ける防火設備
		木造建築物等において用途が異なる部分の相互間に設ける防火設備

自動ドア開閉装置	（１）自動ドアの開閉装置は「備考」欄による。 （２）自動ドアの開閉装置の防錆性能、凍結防止措置の適用は、「備考」欄による。 （３）センサーの種類は、「備考」欄による。
付属電気設備	自動扉、電動シャッター、電動オーバーヘッドドアの電動機が三相電動機０．４ＫＷ以上の場合は、機器付属の操作盤内に電動機保護用遮断機及び進相用コンデンサーを設置する。

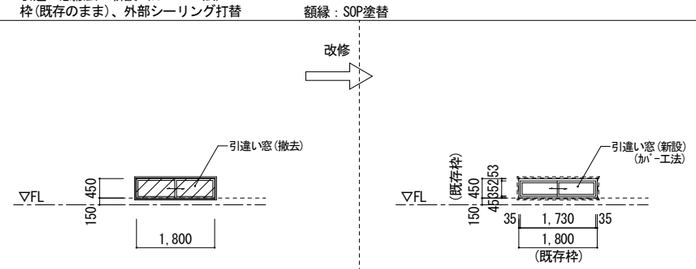
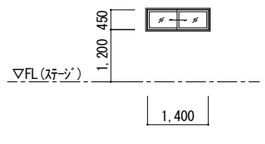
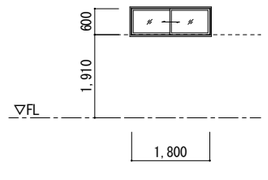
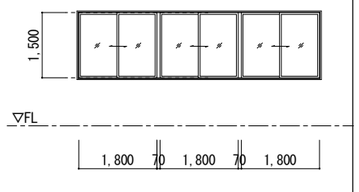
建具枠・くつずり詳細図（枠廻り記号）

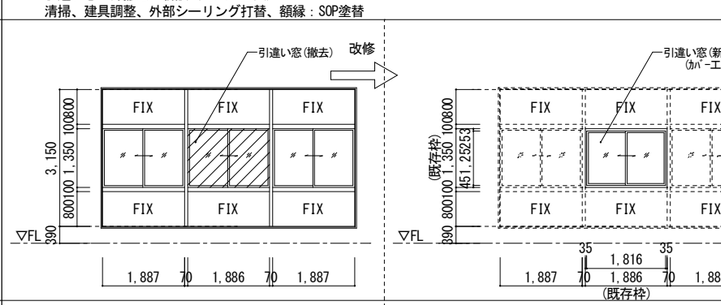
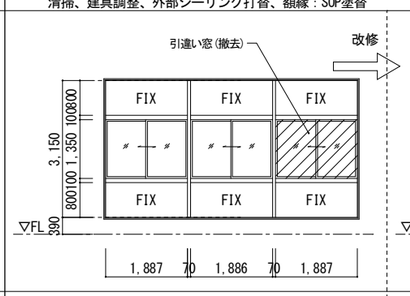
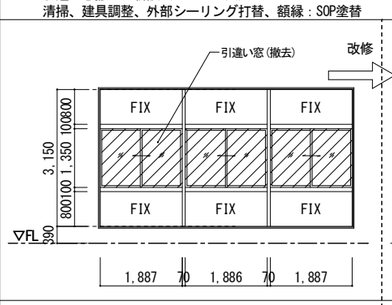


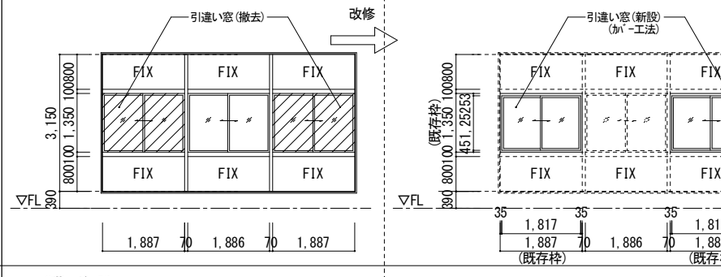
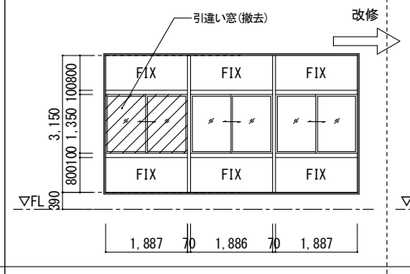
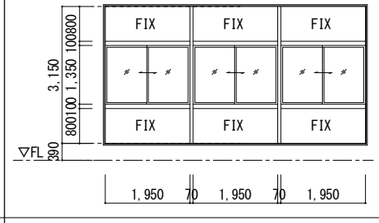
符号・数量	1/SD × 1	2/SD × 2	1/SW × 5
改修内容	両開き扉１箇所：撤去・新設 他：DP塗替、建具調整　　額縁：SOP塗替　外部シーリング打替	DP塗替、建具調整 外部シーリング打替	引分け扉：撤去・新設（カバー工法）、三方枠(既存のまま) 枠：DP塗替、額縁：SOP塗替　外部シーリング打替
図　示			
室　名	1階　正面入口	1階　控室	1階　体育室、体育器具庫
付属金物	ｱﾝｸﾞﾙﾋﾞｰｽ　ﾌﾛｱﾋﾝｼﾞ（ｽﾄｯﾌﾟ付） 丁番 ﾌﾗﾝｽ落とし、ｼﾘﾝﾀﾞｰ錠 戸当り 握り玉 、ﾄﾞｱﾁｪｯｸ（一部撤去）	ｱﾝｸﾞﾙﾋﾞｰｽ　ﾌﾛｱﾋﾝｼﾞ（ｽﾄｯﾌﾟ付） 丁番 ﾌﾗﾝｽ落とし、ｼﾘﾝﾀﾞｰ錠 戸当り 握り玉 、ﾄﾞｱﾁｪｯｸ　（一部新設）	ｱﾝｸﾞﾙﾋﾞｰｽ　ﾋﾟﾎﾞｯﾄﾋﾝｼﾞ 丁番 ﾌﾗﾝｽ落とし、ｼﾘﾝﾀﾞｰ錠 戸当り 握り玉	戸車 ｽﾃﾝﾚｽ引手(撤去)、錠(撤去)、戸当り　(撤去)	戸車 ｽﾃﾝﾚｽ引手(新設)、錠(新設)、戸当り(新設) 下枠(新設)（カバー工法）
枠巾見込	86	86	40	
硝　子	－	－	－	
備　考	ｽﾁｰﾙ 芯材ﾍﾟｰﾊﾟｰｺｱﾍﾟﾝﾀｲﾄ鋼板t=0.8(両面貼)	下枠：ｽﾃﾝﾚｽ（新設 ｶﾊﾞｰ工法）	ｽﾁｰﾙ 芯材ﾍﾟｰﾊﾟｰｺｱﾍﾟﾝﾀｲﾄ鋼板t=0.8(両面貼)	

〔 屋内運動場 〕

事業年度　年度 工事完成　年度	設 計 令和 年 月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 西小学校長寿命化改修工事（建築主体工事）	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社　ＭａｓＭａｓ 一級建築士登録　第198542号 美野　健治　　印	図面名称・縮尺　S=1/100　(A3版-71%縮小) 建具表（１）	図 番 A-80

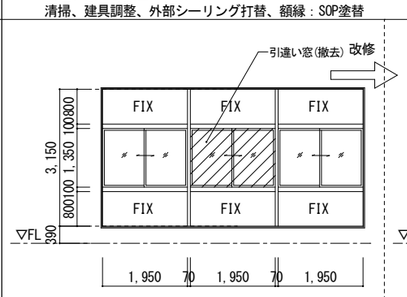
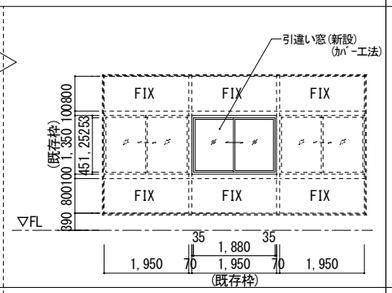
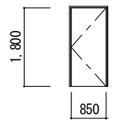
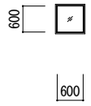
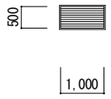
符号・数量	1 AW × 3	2 AW × 2	3 AW × 1	4 AW × 3	
改修内容	引違い窓撤去・新設（カバー工法） 枠(既存のまま)、外部シーリング打替　　額縁：SOP塗替	清掃、建具調整、外部シーリング打替 額縁：SOP塗替	清掃、建具調整、外部シーリング打替 額縁：SOP塗替	清掃、建具調整、外部シーリング打替 額縁：SOP塗替	
図　示					
室　名	1階　体育室	1階　控室	1階　体育器具庫	2階　ｷﾞｬﾗﾘｰ	
付属金物	標準金物一式（引違い）（撤去）	戸車、ｱﾝｸﾞﾙﾋﾟｰｽ、ｸﾚｾﾝﾄ、付属金物一式、水切	戸車、ｱﾝｸﾞﾙﾋﾟｰｽ、ｸﾚｾﾝﾄ、付属金物一式、水切	戸車、ｱﾝｸﾞﾙﾋﾟｰｽ、ｸﾚｾﾝﾄ、付属金物一式、水切	
枠巾見込	70	70	70	70	
硝　子	―	F-4	F-4	T(ｽｸｰﾙﾃﾝﾊﾟｰ・ﾄｳﾒｲ)-4	
備　考	ｱﾙﾐﾊﾟﾈﾙ t=3 ﾌﾗｯｼｭ(撤去) RC用ｱﾙﾐｻｯｼ　安全内外し窓	ｱﾙﾐﾊﾟﾈﾙ t=3 ﾌﾗｯｼｭ(新設) RC用ｱﾙﾐｻｯｼ　安全内外し窓	RC用ｱﾙﾐｻｯｼ　安全内外し窓	RC用ｱﾙﾐｻｯｼ　安全内外し窓	

符号・数量	5a AW × 2	5b AW × 1	5c AW × 1		
改修内容	引違い窓一部撤去・新設（カバー工法） 清掃、建具調整、外部シーリング打替、額縁：SOP塗替	引違い窓一部撤去・新設（カバー工法） 清掃、建具調整、外部シーリング打替、額縁：SOP塗替	引違い窓撤去・新設（カバー工法） 清掃、建具調整、外部シーリング打替、額縁：SOP塗替		
図　示					
室　名	2階　ｷﾞｬﾗﾘｰ	2階　ｷﾞｬﾗﾘｰ	2階　ｷﾞｬﾗﾘｰ		
付属金物	戸車、ｱﾝｸﾞﾙﾋﾟｰｽ、ｸﾚｾﾝﾄ、付属金物一式、（一部撤去） 水切	戸車、ｱﾝｸﾞﾙﾋﾟｰｽ、ｸﾚｾﾝﾄ、付属金物一式、（一部撤去） 水切	戸車、ｱﾝｸﾞﾙﾋﾟｰｽ、ｸﾚｾﾝﾄ、付属金物一式、（撤去） 水切		
枠巾見込	70	70	70		
硝　子	T(ｽｸｰﾙﾃﾝﾊﾟｰ・ﾄｳﾒｲ)-4（一部撤去）	T(ｽｸｰﾙﾃﾝﾊﾟｰ・ﾄｳﾒｲ)-4（一部撤去）	T(ｽｸｰﾙﾃﾝﾊﾟｰ・ﾄｳﾒｲ)-4（一部撤去）		
備　考	RC用ｱﾙﾐｻｯｼ　安全内外し窓	RC用ｱﾙﾐｻｯｼ　安全内外し窓	RC用ｱﾙﾐｻｯｼ　安全内外し窓		

符号・数量	5d AW × 1	5e AW × 1	6 AW × 1		
改修内容	引違い窓一部撤去・新設（カバー工法） 清掃、建具調整、外部シーリング打替、額縁：SOP塗替	引違い窓一部撤去・新設（カバー工法） 清掃、建具調整、外部シーリング打替、額縁：SOP塗替	清掃、建具調整、外部シーリング打替、額縁：SOP塗替		
図　示					
室　名	2階　ｷﾞｬﾗﾘｰ	2階　ｷﾞｬﾗﾘｰ	2階　ｷﾞｬﾗﾘｰ		
付属金物	戸車、ｱﾝｸﾞﾙﾋﾟｰｽ、ｸﾚｾﾝﾄ、付属金物一式、（一部撤去） 水切	戸車、ｱﾝｸﾞﾙﾋﾟｰｽ、ｸﾚｾﾝﾄ、付属金物一式、（一部撤去） 水切	戸車、ｱﾝｸﾞﾙﾋﾟｰｽ、ｸﾚｾﾝﾄ、付属金物一式(既存のまま) 水切(既存のまま)		
枠巾見込	70	70	70		
硝　子	T(ｽｸｰﾙﾃﾝﾊﾟｰ・ﾄｳﾒｲ)-4（一部撤去）	T(ｽｸｰﾙﾃﾝﾊﾟｰ・ﾄｳﾒｲ)-4（一部撤去）	T(ｽｸｰﾙﾃﾝﾊﾟｰ・ﾄｳﾒｲ)-4(既存のまま)		
備　考	RC用ｱﾙﾐｻｯｼ　安全内外し窓	RC用ｱﾙﾐｻｯｼ　安全内外し窓	RC用ｱﾙﾐｻｯｼ　安全内外し窓		

〔 屋内運動場 〕

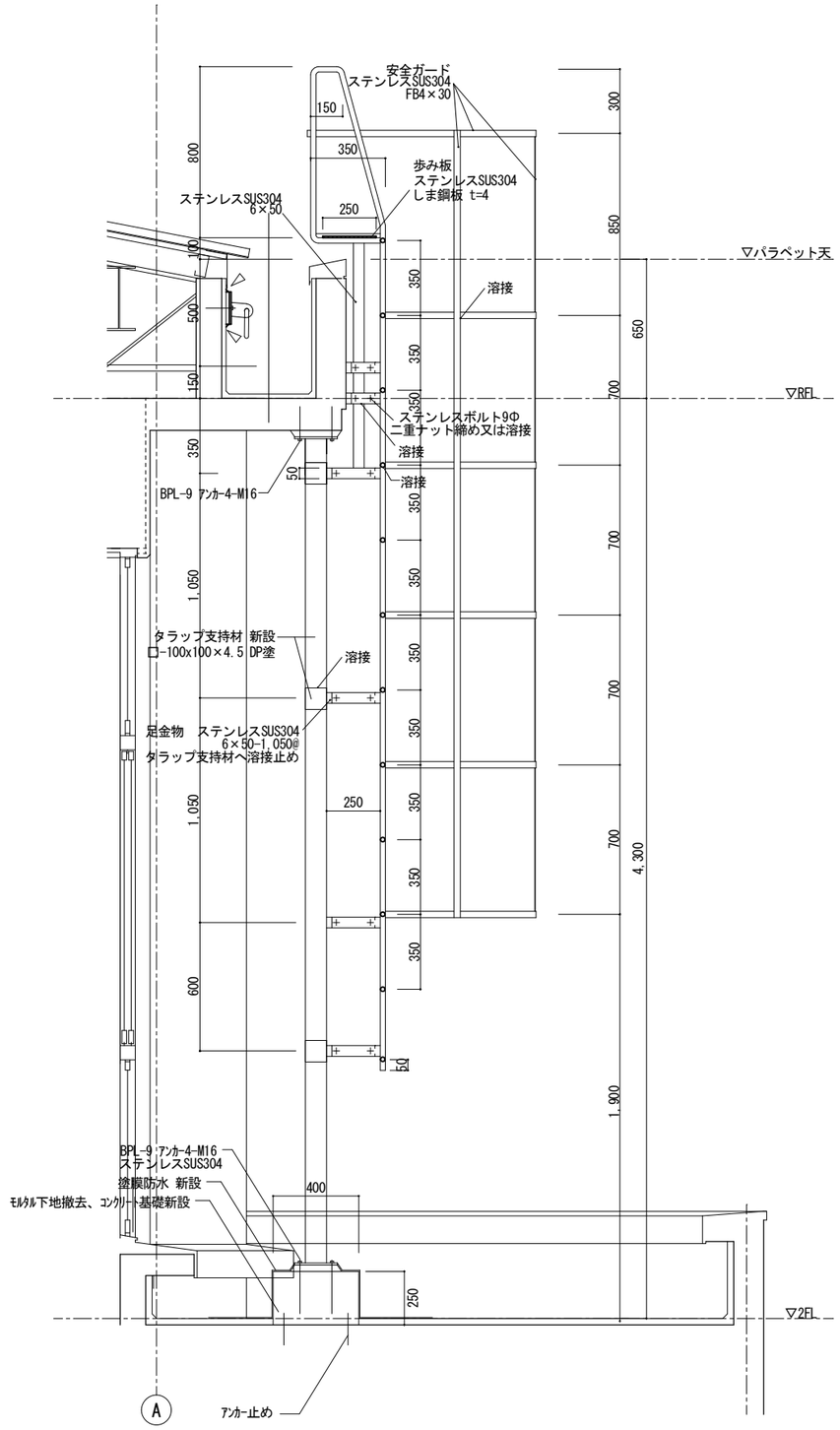
事業年度　年度 工事完成　年度	設 計 令和 年 月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 西小学校長寿命化改修工事（建築主体工事）	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社　ＭａｓＭａｓ 一級建築士登録　第198542号 美野　健治　　印	図面名称・縮尺　S=1/100　(A3版-71%縮小) 建具表（2）	図 番 A-81

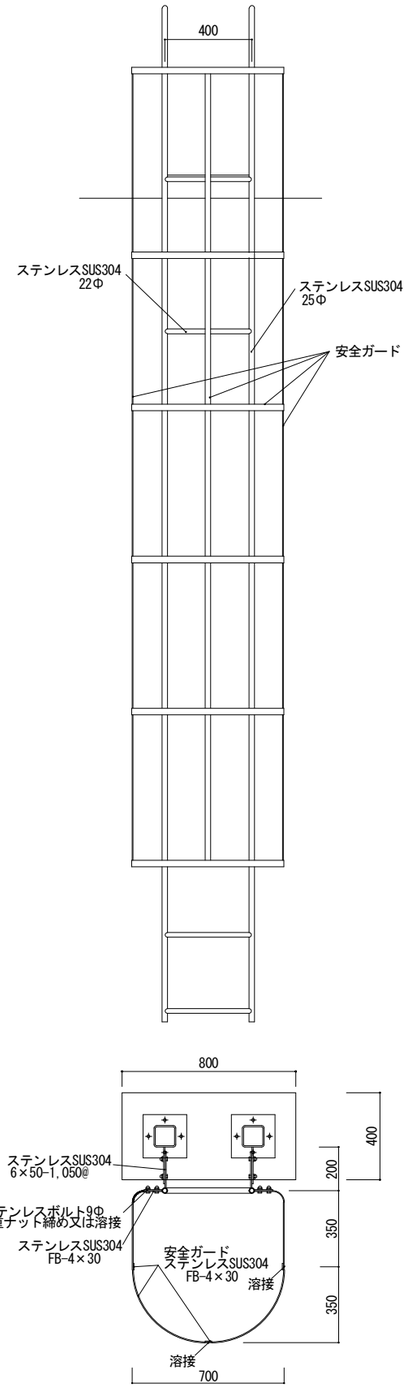
符号・数量	6a / AW × 1		1 / WD × 4	1 / WW × 1	1 / AG × 4
改修内容	引違い窓一部撤去・新設（カバー工法） 清掃、建具調整、外部シーリング打替、額縁：SOP塗替		扉：撤去新設 枠SOP塗替	SOP塗替(枠)	清掃、外部シーリング打替 額縁：SOP塗替
図　示					
室　名	2階　ｷﾞｬﾗﾘｰ		1階　控室、2階　ｷﾞｬﾗﾘｰ	1階　控室	上部　妻面
付属金物	戸車、ｱﾝｸﾞﾙﾋﾟｰｽ、ｸﾚｾﾝﾄ、付属金物一式、（一部撤去） 水切	戸車、ｱﾝｸﾞﾙﾋﾟｰｽ、ｸﾚｾﾝﾄ、付属金物一式、（一部新設） 水切(既存のまま)	引手、丁番、ｼﾘﾝﾀﾞｰ錠	－	－
枠巾見込	70		40	36	29
硝　子	T(ｽｸｰﾙﾃﾝﾊﾟｰ・ﾄｳﾒｲ)-4(一部撤去)	T(ｽｸｰﾙﾃﾝﾊﾟｰ・ﾄｳﾒｲ)-4(一部新設)	-	P-3	P-3
備　考	RC用ｱﾙﾐｻｯｼ　安全内外し窓				RC用ｱﾙﾐ固定ｶﾞﾗﾘ 内部 防虫網付
符号・数量					
改修内容					
図　示					
室　名					
付属金物					
枠巾見込					
硝　子					
備　考					
符号・数量					
改修内容					
図　示					
室　名					
付属金物					
枠巾見込					
硝　子					
備　考					

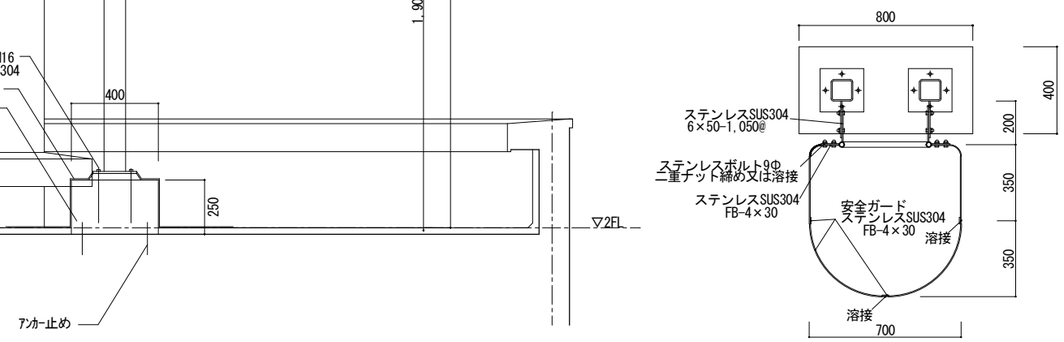
〔 屋内運動場 〕

事業年度　年度 工事完成　年度	設 計 令和 年 月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 西小学校長寿命化改修工事（建築主体工事）	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社　ＭａｓＭａｓ 一級建築士登録　第198542号 美野　健治　印	図面名称・縮尺　S=1/100　(A3版-71%縮小) 建具表（3）	図 番 A-82

ステンレス製タラップ（安全ガード付） 新設　詳細図　1/20

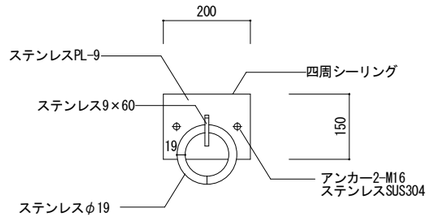




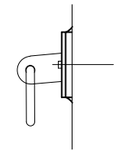


平　面　1/20

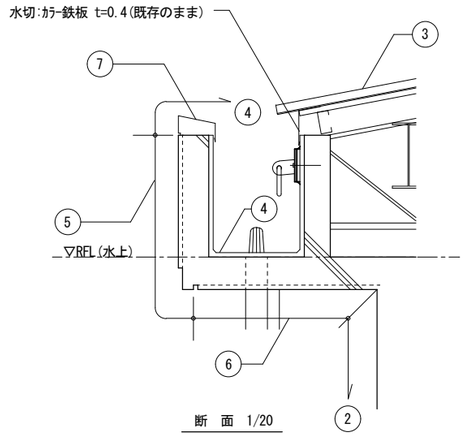
パラペット廻り　及び　ステンレス製丸環 新設　詳細図　1/20 1/10



正　面　1/10

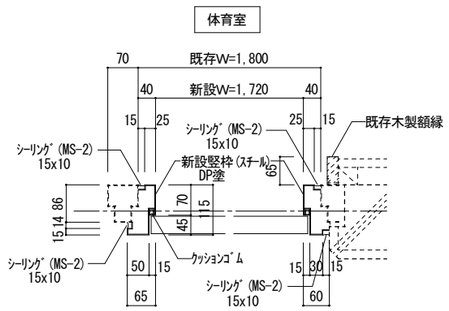


側　面　1/10

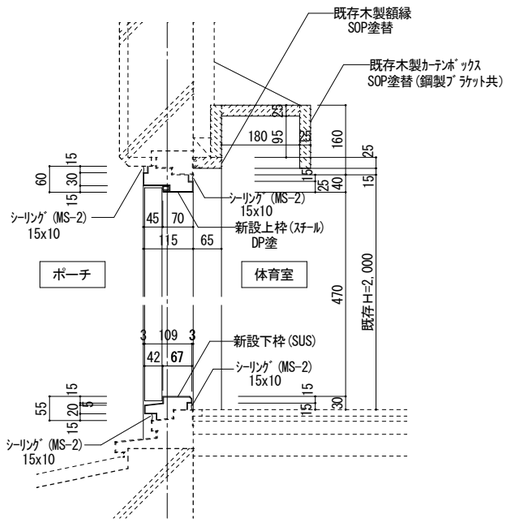


断　面　1/20

ＳＤ－１（カバー工法）新設　詳細図　1/10



平面詳細図　1/10

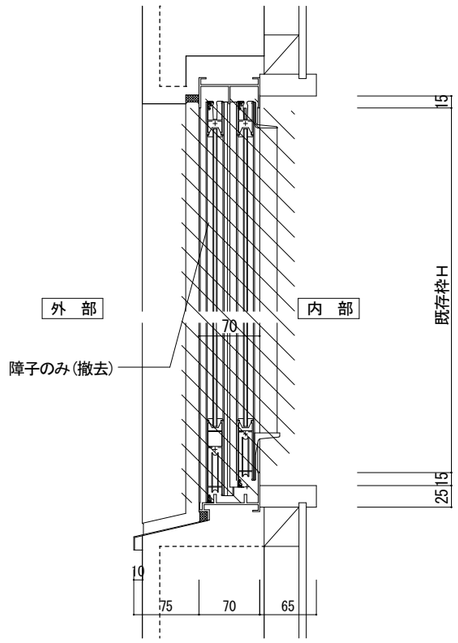


断面詳細図　1/10

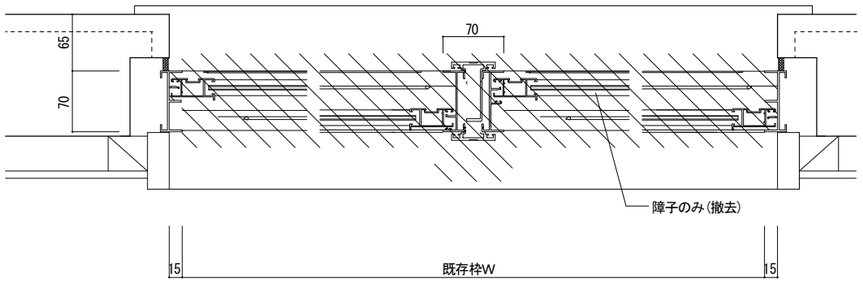
〔 屋内運動場 〕

事業年度　年度 工事完成　年度	設 計 令和 年 月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 西小学校長寿命化改修工事（建築主体工事）	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社　ＭａｓＭａｓ 一級建築士登録　第198542号 美野　健治　印	図面名称・縮尺　S=1/20・1/10　(A3版-71%縮小) 部分詳細図（１）	図 番 A-83

改修前

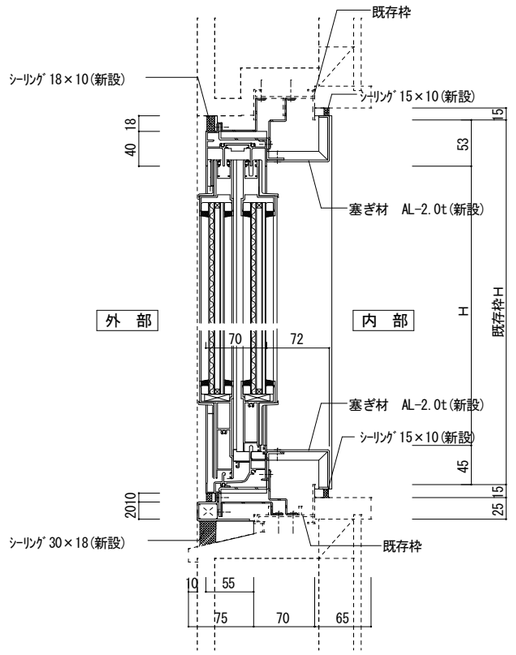


外　部

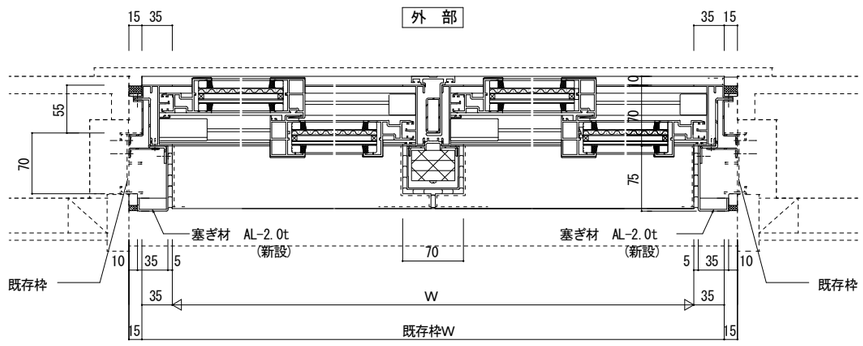


内　部

改修後



外　部

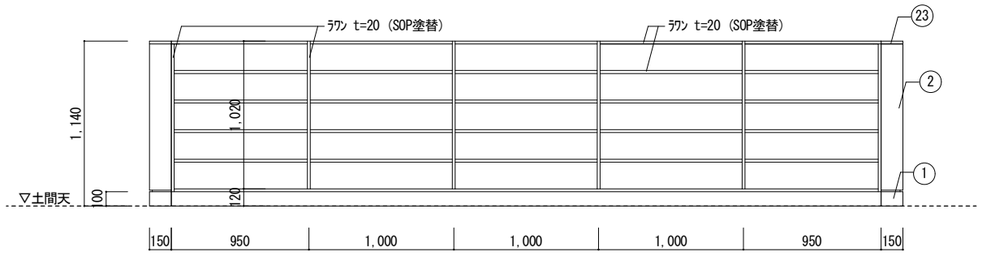


内　部

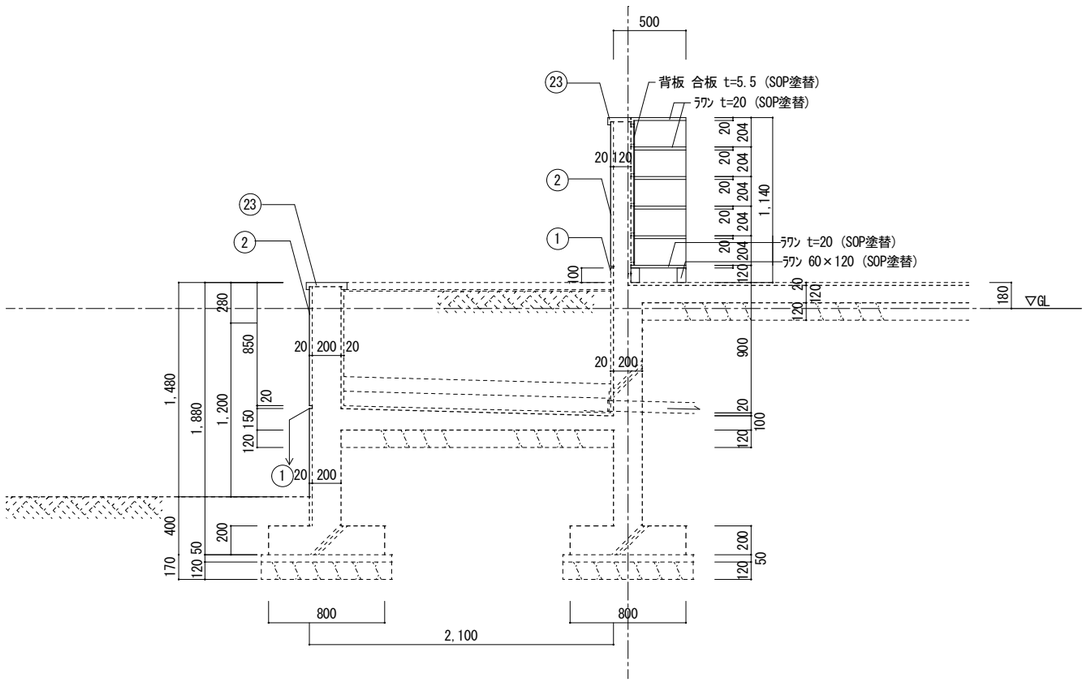
〔 屋内運動場 〕

事業年度　年度 工事完成　年度	設 計 令和 年 月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 西小学校長寿命化改修工事（建築主体工事）	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社　ＭａｓＭａｓ 一級建築士登録　第198542号 美野　健治　印	図面名称・縮尺　S=1/5　(A3版-71%縮小) 部分詳細図（２） 図 番　A-84

ポーチ廻り・下足箱　詳細図　1/30



正面図　S=1/30

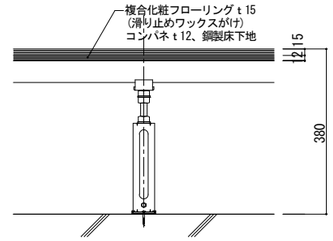


断面図　S=1/30

凡例

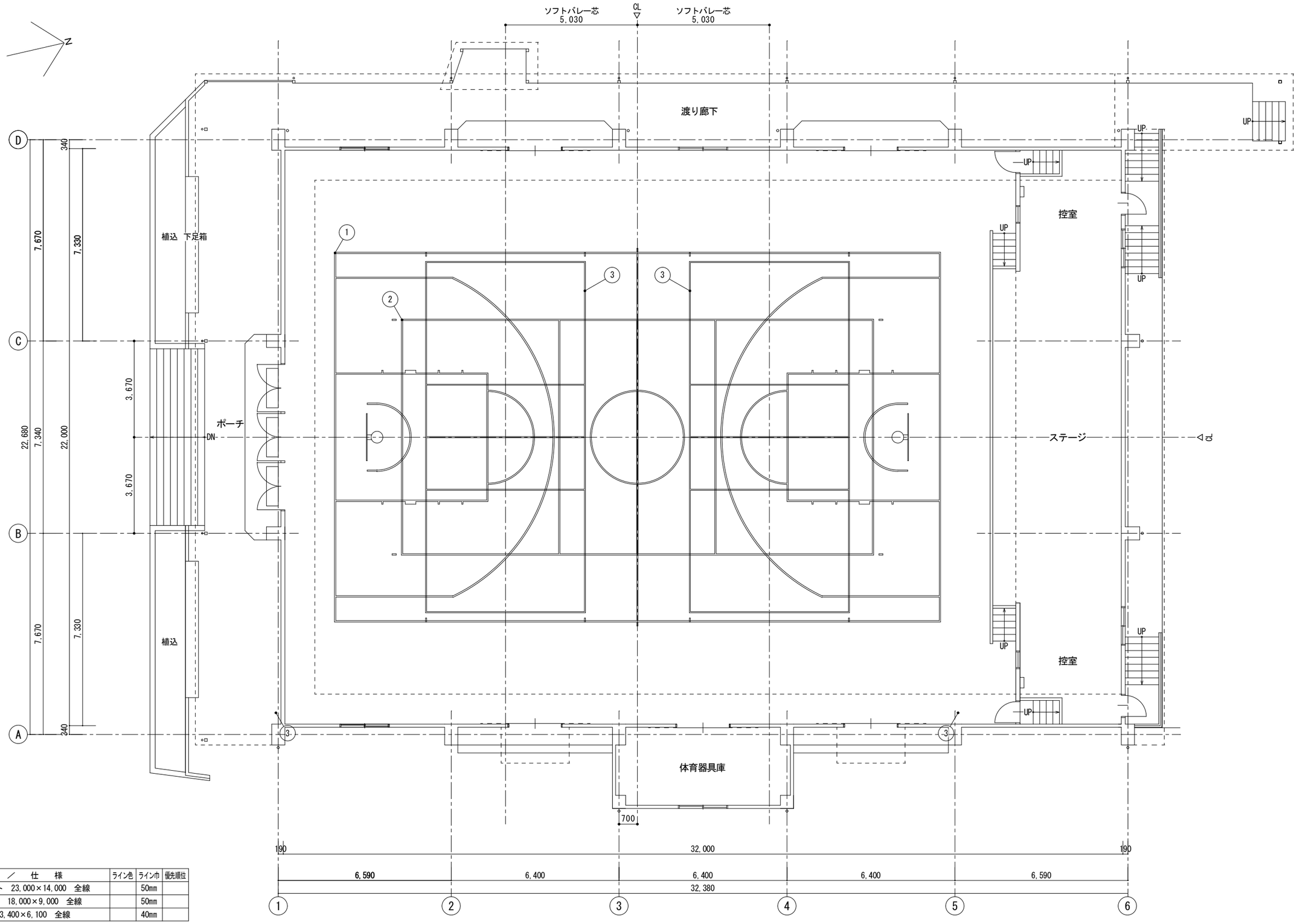
———	実線：新設部分
- - - - - - - -	破線：既存のまま

鋼製床下地　詳細図　1/10



〔 屋内運動場 〕

事業年度　年度 工事完成　年度	設 計 令和 年 月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 西小学校長寿命化改修工事（建築主体工事）	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社　ＭａｓＭａｓ 一級建築士登録　第198542号 美野　健治　印	図面名称・縮尺　S=1/30・1/10　(A3版-71%縮小) 部分詳細図（３）	図 番 A-85



体育室コートライン図　S=1/100

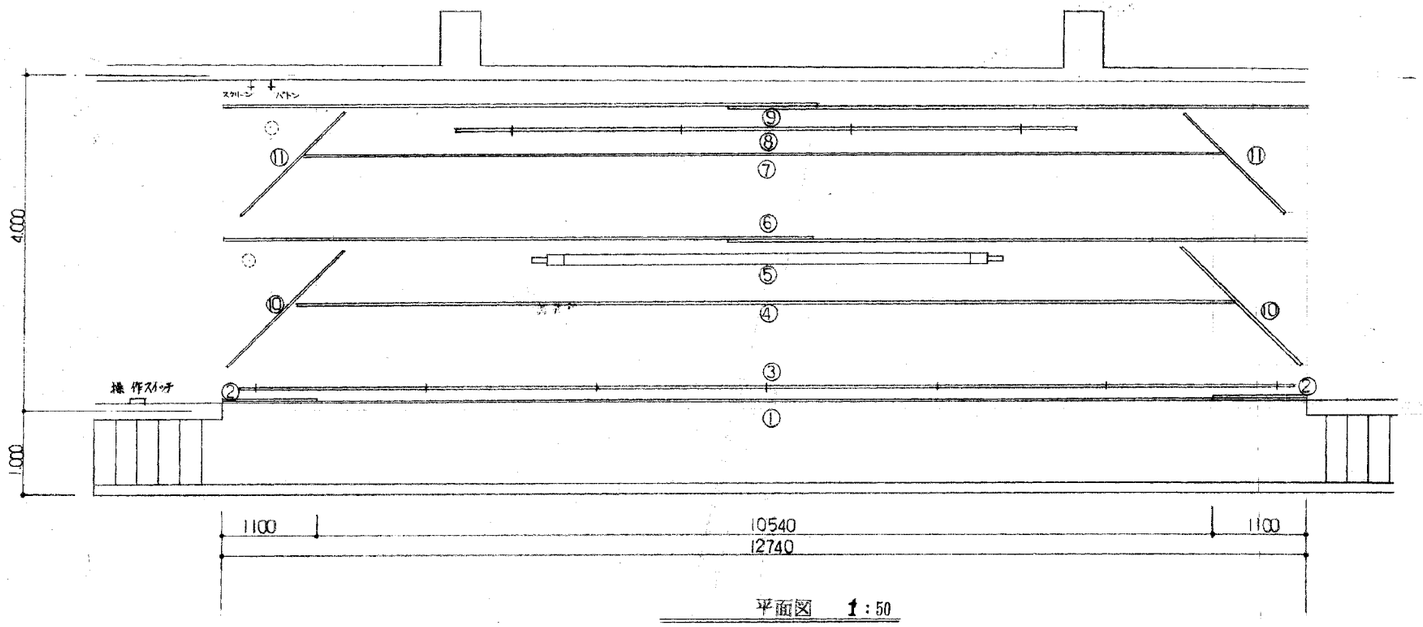
コートライン一覧表

NO	品　番	数量	品　名　／　仕　様	ライン色	ライン巾	優先順位
1	SL211	1面	バスケットボールコート　23,000×14,000　全線		50mm	
2	SL213	1面	一般6人制バレーコート　18,000×9,000　全線		50mm	
3	SL225	2面	ソフトバレーコート　13,400×6,100　全線		40mm	

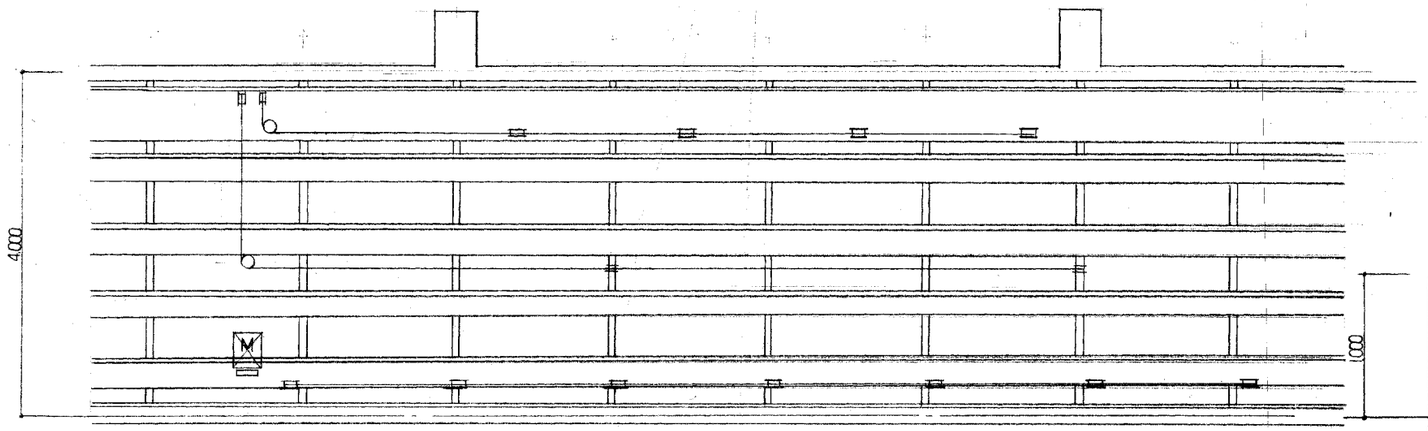
※優先順位・ライン色は、打合せ等により決定のこと
※コートライン配置位置等は全て参考図示とする
※各コートライン芯は既存バスケットゴール、既存床金具合せとすること

〔 屋内運動場 〕

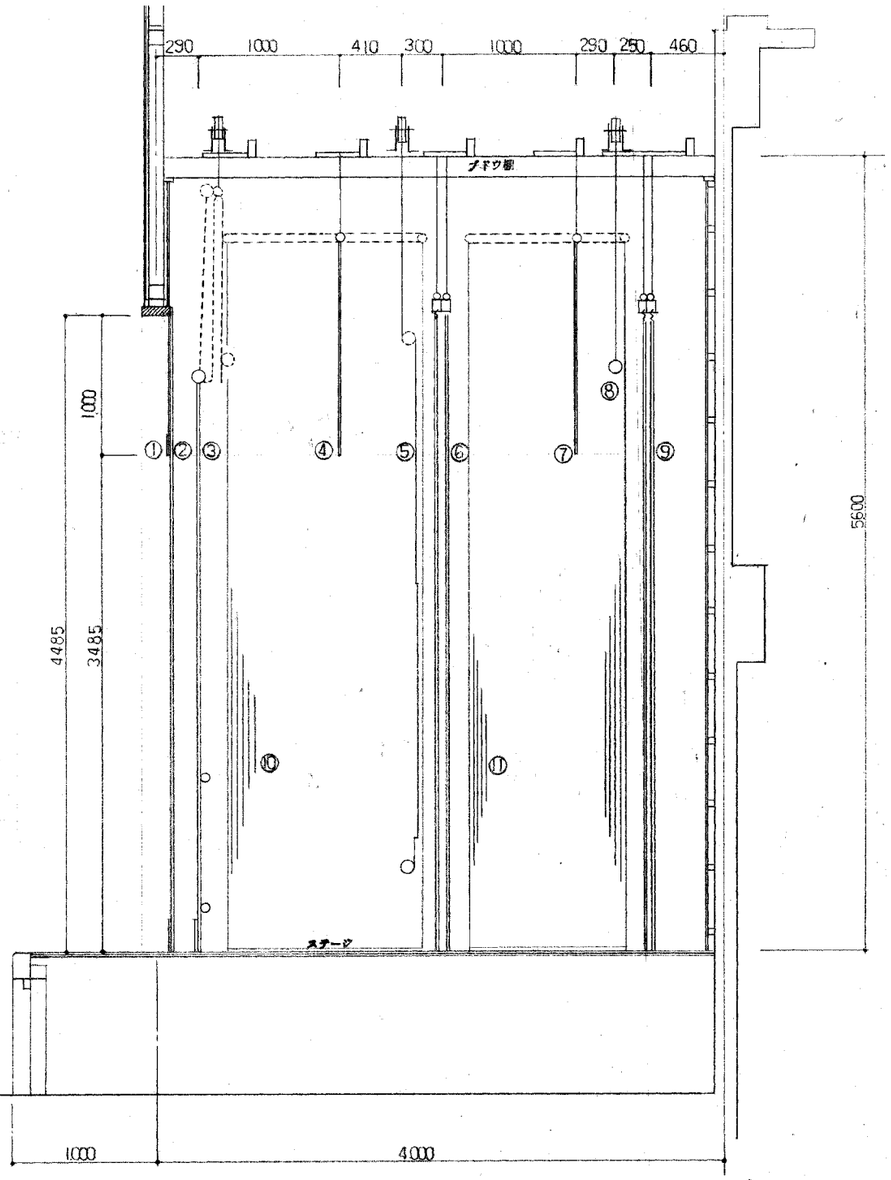
事業年度　年度 工事完成　年度	設 計 令和 年 月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 西小学校長寿命化改修工事（建築主体工事）	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社　ＭａｓＭａｓ 一級建築士登録　第198542号 美野　健治　印	図面名称・縮尺　S=1/100　(A3版-71%縮小) 体育室コートライン図	図 番 A-86



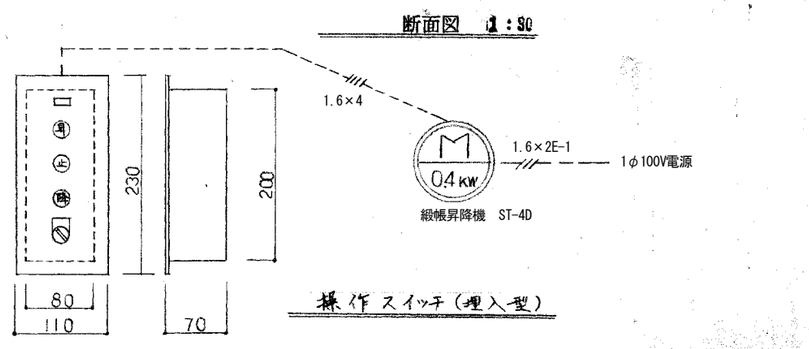
平面図　1：50



ブドウ棚　平面図　1：50



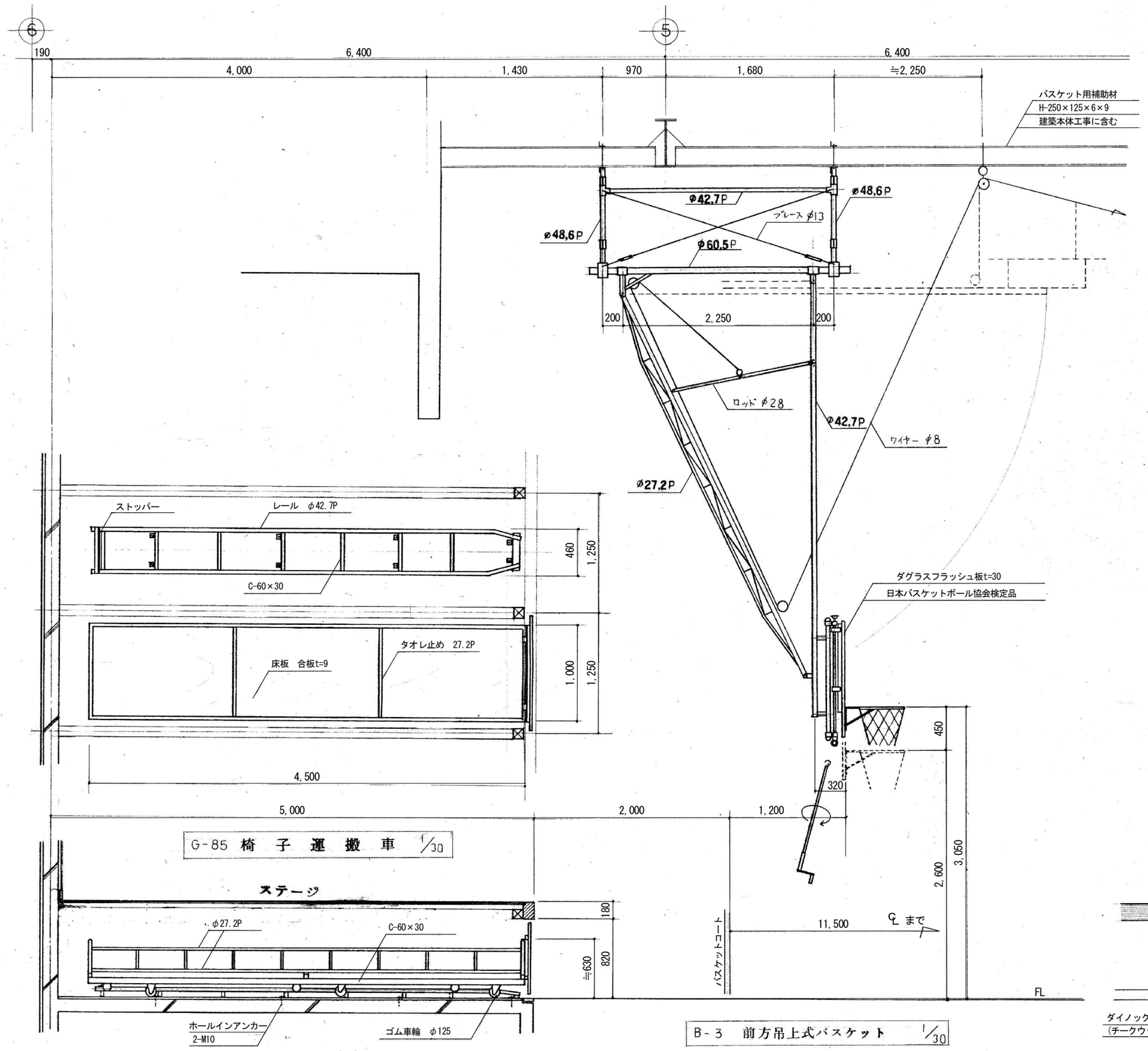
断面図　1：80

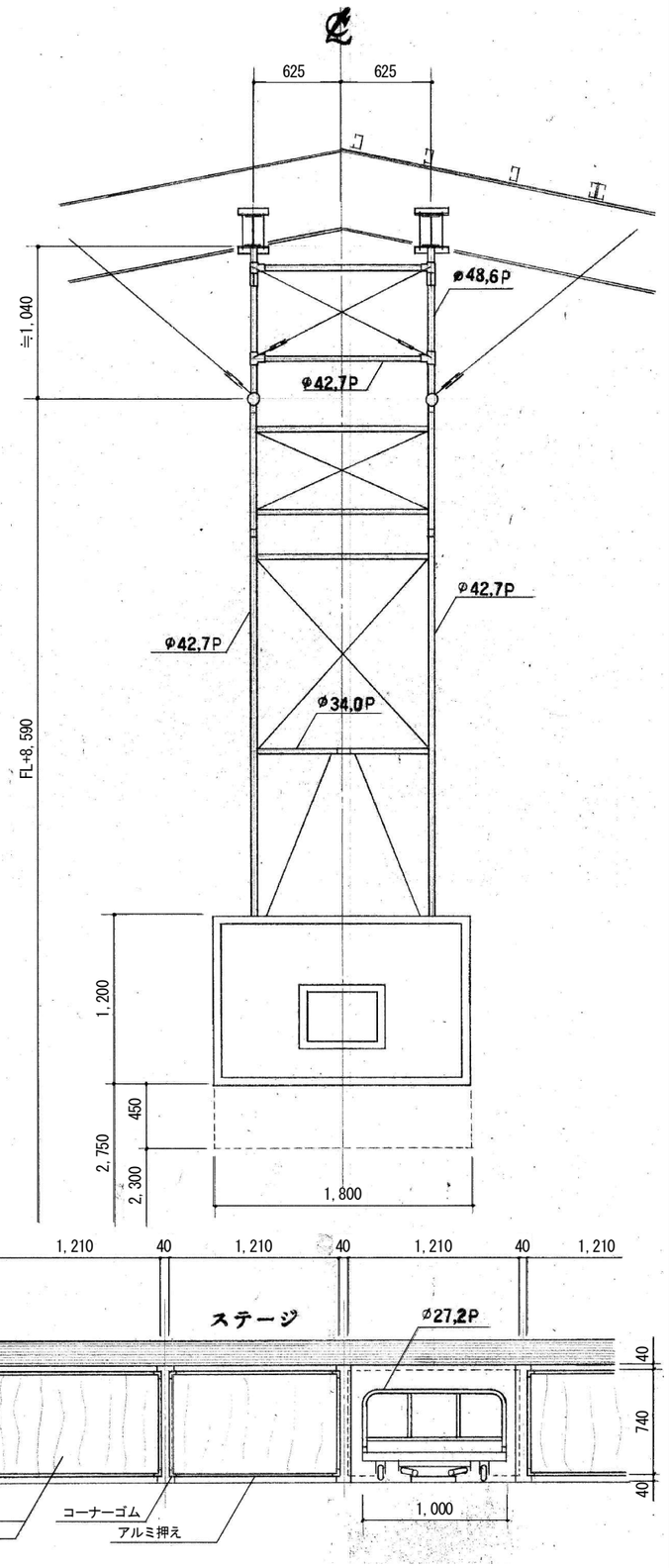


No	名　称	数	方　式	備　考	幕　仕　様	幕寸法 巾	幕寸法 高さ	枚数
①	一文字幕	1	固　定	釘　打　校章ぬいこみ	カワシマ パルコ ヒダなし フレンチ150m/m	12,800	1,000	1
②	袖　幕	1対	固　定	釘　打　校章ぬいこみ	カワシマ パルコ ヒダなし フレンチ210m/m	1,100	4,500	2
③	緞　帳	1	電動昇降	ミツ折　電動1φ100VST-0.4kw4D直巻式　7点吊	カワシマ 松栄 フレンチ210m/m	12,400	4,000	1
④	カスミ幕（1）	1	固　定	パイプ吊　CP-25φ	カワシマ パルコ 1.5倍ヒダ	11,000	1,500	1
~~⑤~~	~~スクリーン~~	~~1~~	~~手動昇降~~	~~ロープ引　イメージ4800(W)×1800(H)　2点吊~~	~~サンライトスクリーン~~			
⑥	中　幕	1	手動開閉	SMZ40レールパイプ吊レール交叉　ロープ引	カワシマ パルコ 1.5倍ヒダ	6,900	4,500	2
⑦	カスミ幕（2）	1	固　定	パイプ吊　CP-25φ	カワシマ パルコ 1.5倍ヒダ	10,800	1,500	1
⑧	バ　ト　ン	1	手動昇降	簡易式ロープ引　L=7200　4点吊				
⑨	後　幕	1	手動開閉	SMZ40レールパイプ吊レール交叉　ロープ引	カワシマ パルコ 1.5倍ヒダ	6,900	4,500	2
⑩	脇　幕	1対	固　定	パイプ吊　CP-25φ	カワシマ パルコ 1.5倍ヒダ	2,000	5,000	2
⑪	脇　幕	1対	固　定	パイプ吊　CP-25φ	カワシマ パルコ 1.5倍ヒダ	1,700	5,000	2

〔 屋内運動場 〕

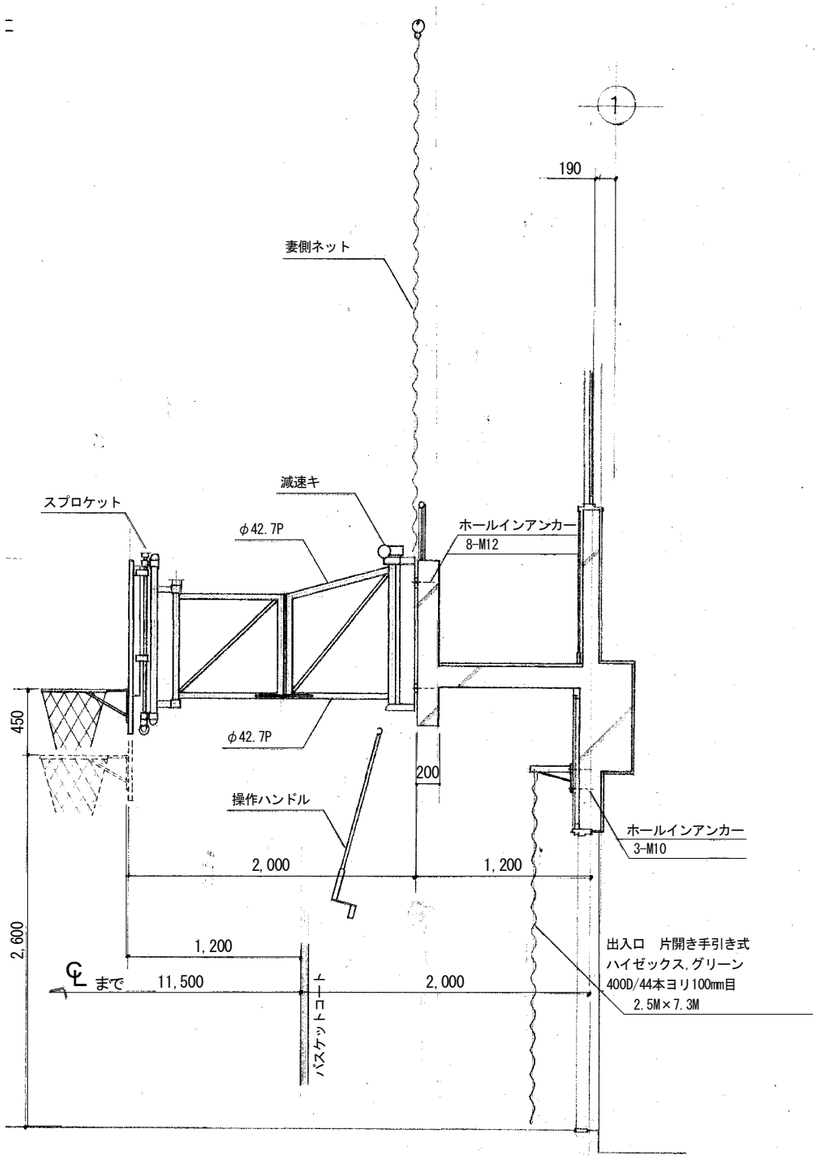
事業年度　年度 工事完成　年度	設計 令和 年 月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 西小学校長寿命化改修工事（建築主体工事）	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社　MasMas 一級建築士登録　第198542号 美野　健治　印	図面名称・縮尺　S=1/30・1/50　(A3版-71%縮小) （参考図１）ブドウ棚正面図・断面図	図番 A-87



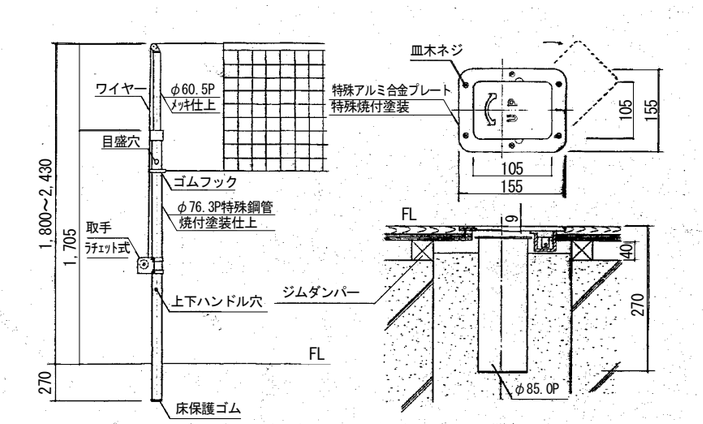


〔 屋内運動場 〕

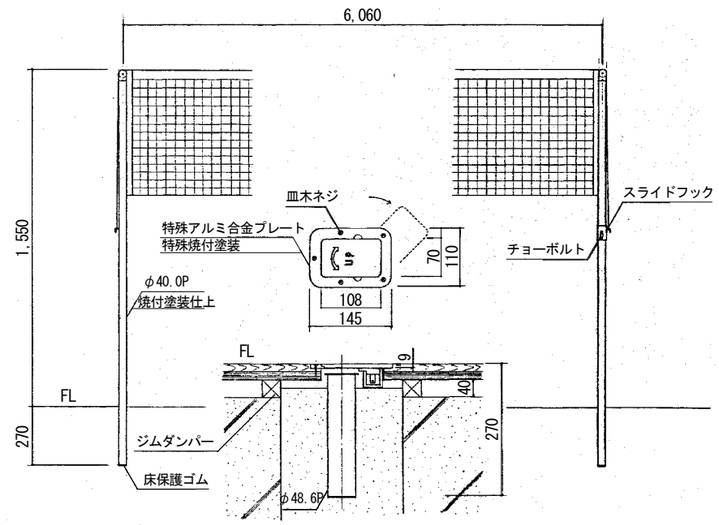
事業年度 年度 工事完成 年度	設計 令和 年 月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 西小学校長寿命化改修工事（建築主体工事）	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社 ＭａｓＭａｓ 一級建築士登録 第198542号 美野 健治 印	図面名称・縮尺 S=1/30 (A3版-71%縮小) （参考図２）前方吊上式バスケット	図番 A-88



ジャバラ式バスケット　S=1/30



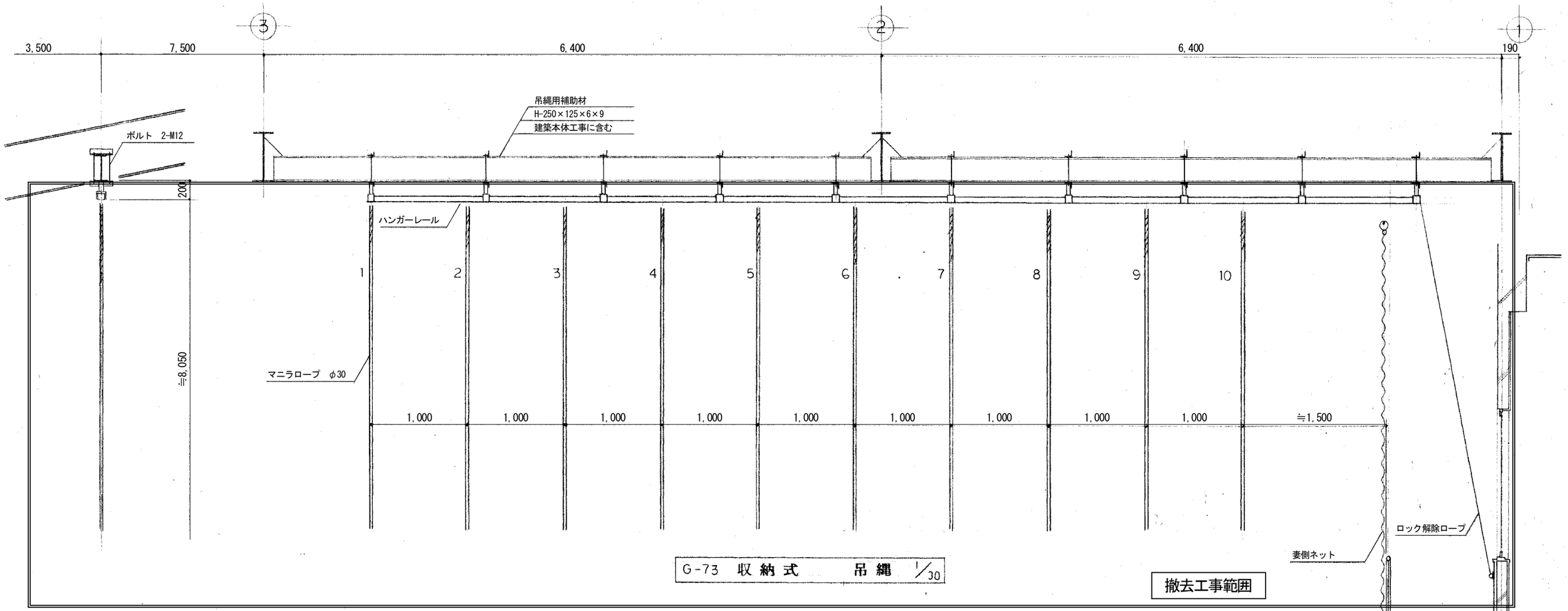
B-49　パレーポスト　S=1/30
B-58　同上床金具　S=NON



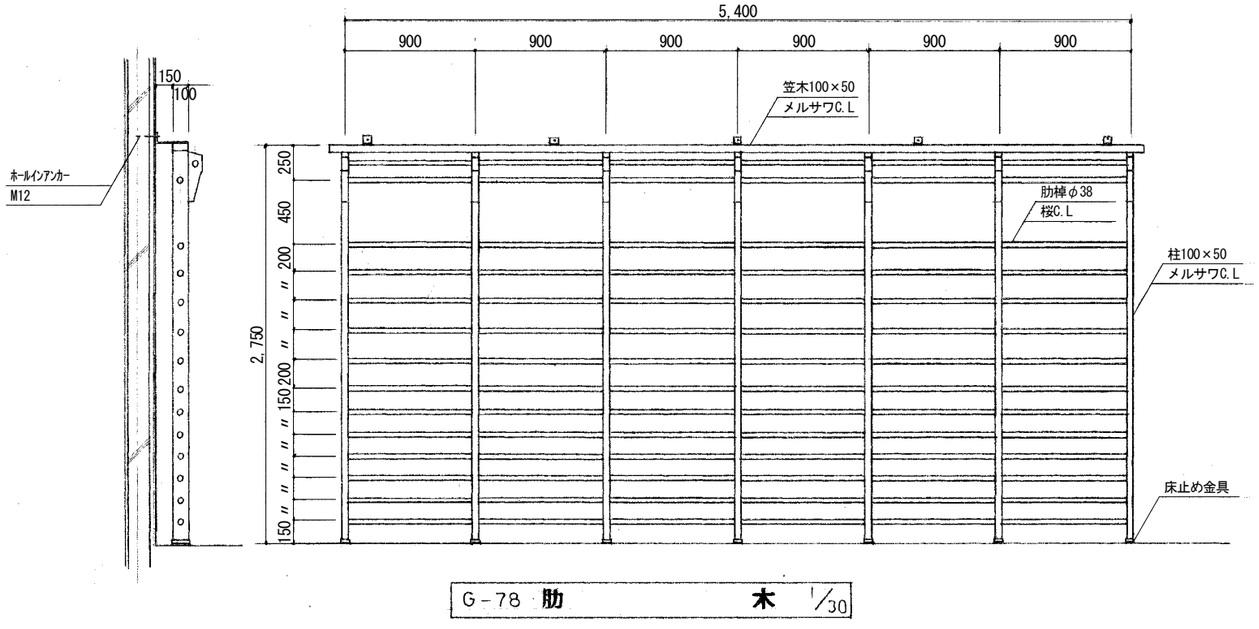
B-57　バドミントンポスト　S=1/20
B-60　同上床金具　S=NON

〔 屋内運動場 〕

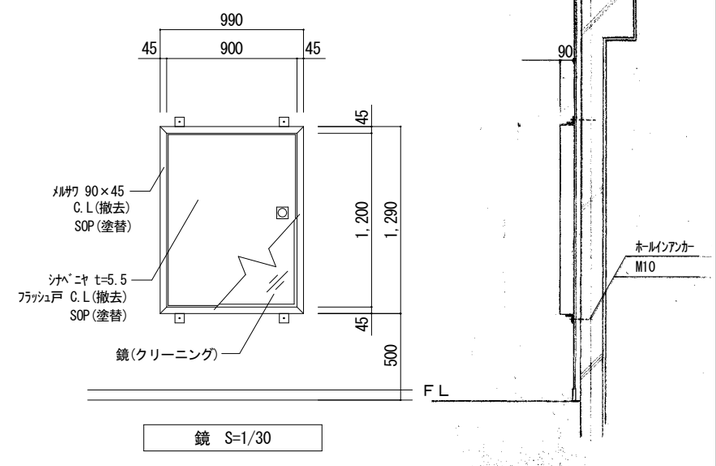
事業年度　年度 工事完成　年度	設計 令和 年 月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 西小学校長寿命化改修工事（建築主体工事）	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社　MasMas 一級建築士登録　第198542号 美野　健治　印	図面名称・縮尺　S=1/30・1/20　(A3版-71%縮小) （参考図3）ジャバラ式バスケット バレーポスト・バドミントンポスト・床金具	図番 A-89



G-73 収納式 吊縄 1/30



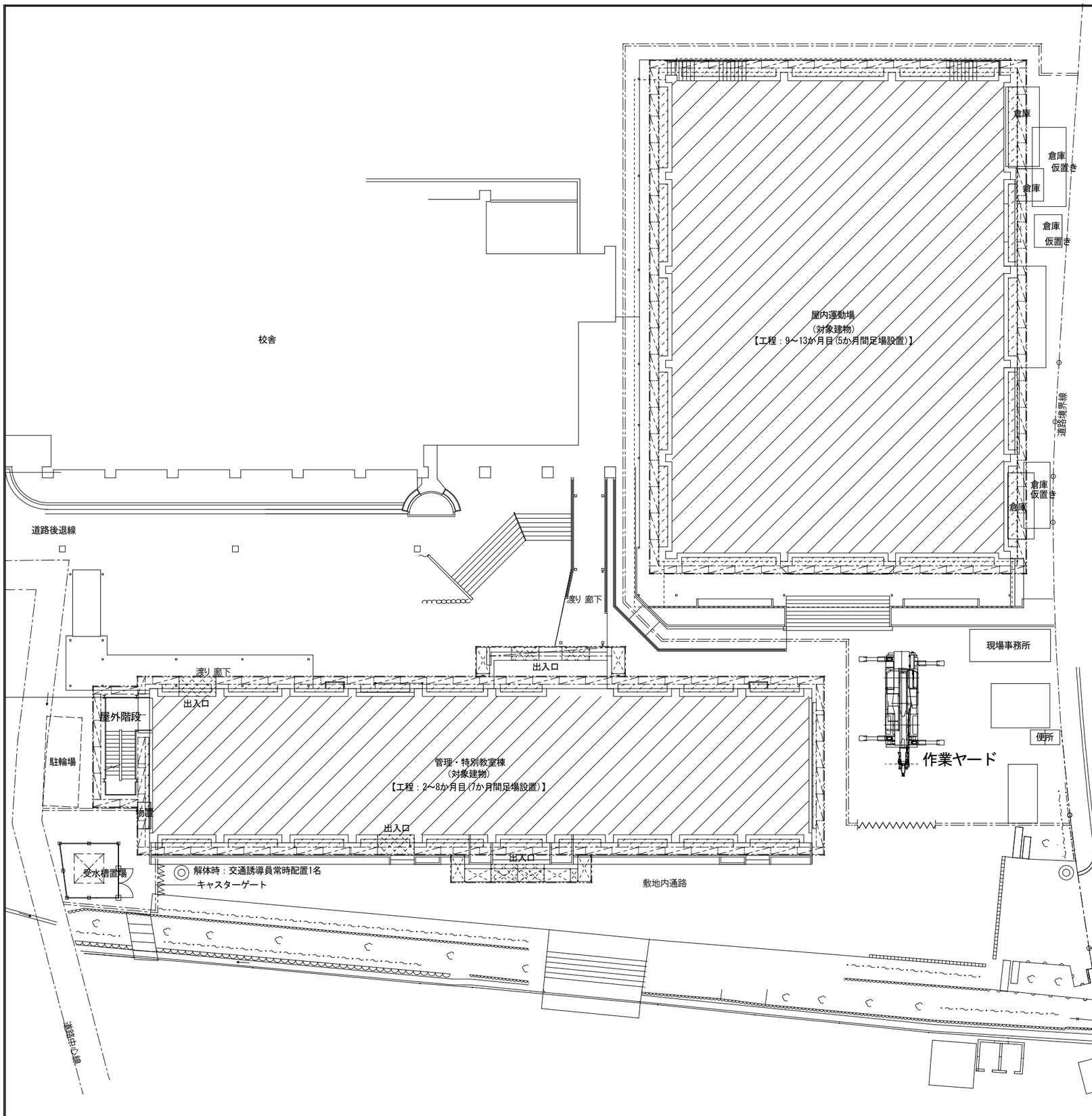
G-78 肋木 1/30



鏡 S=1/30

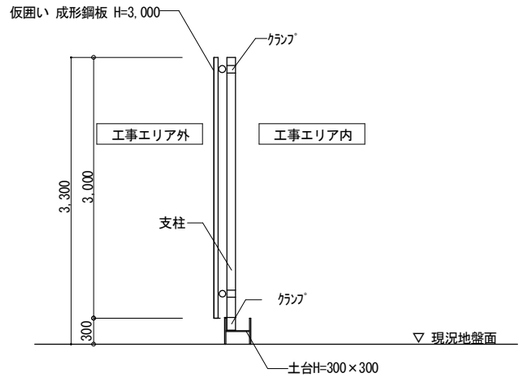
〔 屋内運動場 〕

事業年度 年度 工事完成 年度	設 計 令和 年 月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 西小学校長寿命化改修工事（建築主体工事）	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社 ＭａｓＭａｓ 一級建築士登録 第198542号 美野 健治 印	図面名称・縮尺 S=1/30 (A3版-71%縮小) （参考図４）吊縄・肋木・鏡	図 番 A-90



凡例

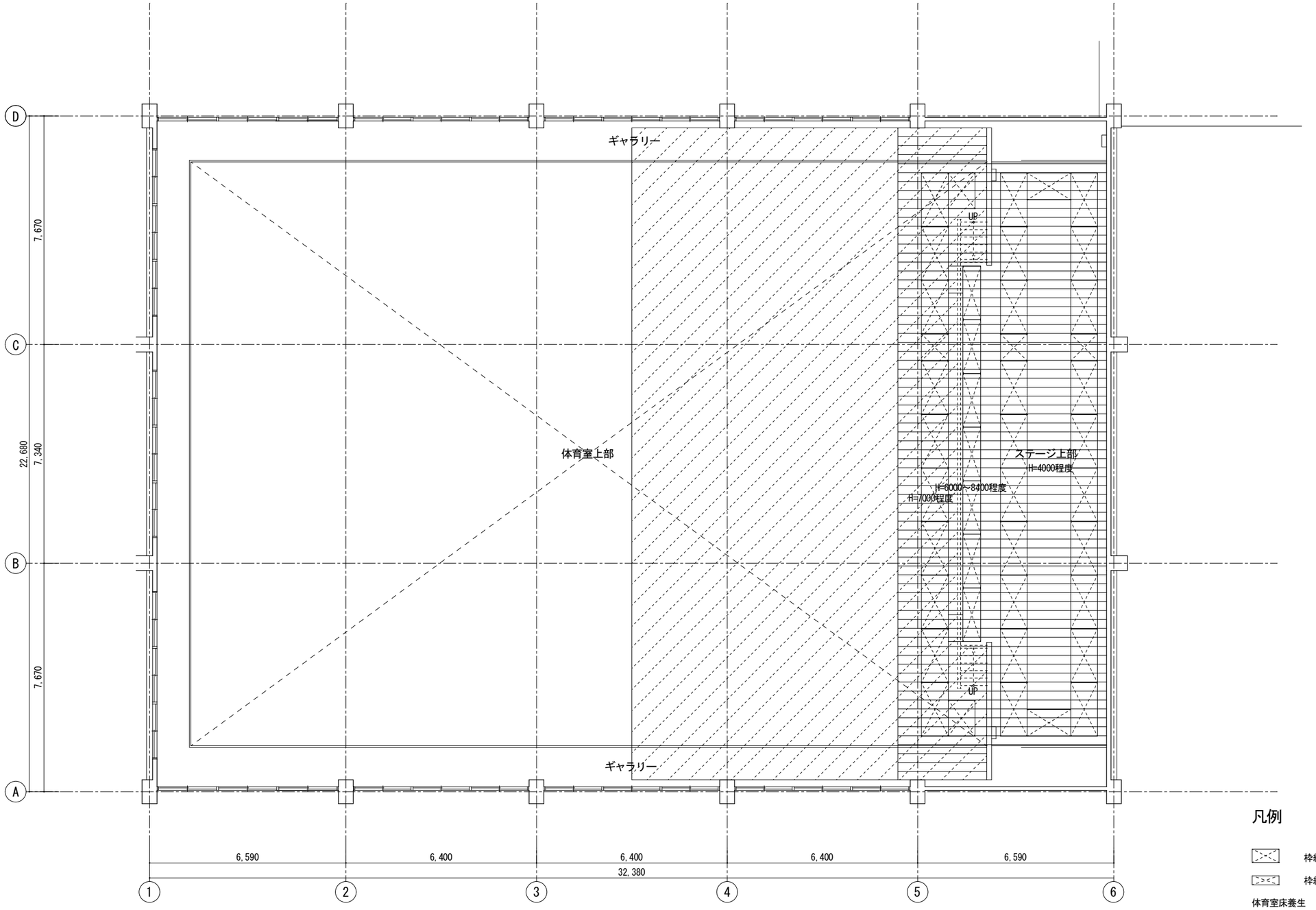
- 枠組み本足場W=900(手摺先行足場とする)
- 単管本足場W=500～600（繋ぎ共）
- ブラケット足場
- 足場外部養生シート
  ※管理・特別教室棟：足場周囲（4周）H=1800以下：枠付金網張り
- 出入口：仮設足場下部　開口養生
- 仮囲い：成形鋼板H=3000　L=109.6m
- パネルゲートL=5400、H=4000
- 交通誘導員常時配置1名（大型車両進入時1名追加）
  ※管理・特別教室棟内部足場は、脚立足場とする。



※撤去後は見栄え良く現況復旧すること。

仮囲い参考図　1/50

事業年度　年度 工事完成　年度	設 計 令和 年 月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 西小学校長寿命化改修工事（建築主体工事）	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社　ＭａｓＭａｓ 一級建築士登録　第198542号 美野　健治　印	図面名称・縮尺　S=1/200・1/50　(A3版-71%縮小) 仮設計画図（１）	図 番 A-91



凡例

枠組み本足場W=900(手摺先行足場とする)

枠組み本足場W=600(手摺先行足場とする)

体育室床養生

合板 t=5.5

養生シート

足場板　木製t=35 2段

事業年度　年度 工事完成　年度	設 計 令和 年 月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 西小学校長寿命化改修工事（建築主体工事）	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社　ＭａｓＭａｓ 一級建築士登録　第198542号 美野　健治　印	図面名称・縮尺　S=1/100　(A3版-71%縮小) 仮設計画図（２）	図 番 A-92

特記仕様書(構造関係)

8 耐震改修工事 共通事項

1 適用範囲

※改修標準仕様書 8章 耐震改修工事
・改修標準仕様書において8章耐震改修工事以外の改修工事で8章を引用している部分

工事内容
・現場打ち鉄筋コンクリート壁の増設工事
・鉄骨ブレースの設置工事
・柱補強工事 (溶接金網巻き工法又は溶接閉鎖フープ巻き工法)
・柱補強工事 (鋼板巻き工法又は帯板巻き付け工法)
・連続繊維補強工事
・耐震スリット新設工事
・免震改修工事
・制振改修工事
・土工事及び地業工事
・(　　)

2 既存部分の処理等

既存構造体の撤去 [8.21.2][8.22.2][8.23.2][8.24.4][8.25.2]
撤去範囲
※構造図による
はつり出した鉄筋及び鉄骨の処置
※露出部分は、錆止め塗料塗りを行う
既存構造体コンクリート面の目荒らしの程度及び範囲 [8.21.3][8.22.3][8.23.3]
既存柱、梁面
※打継ぎ面の15～30%程度に、平均深さ 2～5mm (最大7mm) 程度の凹凸処理を施す。
・構造図による
既存壁
※打継ぎ面の10～15%程度に、平均深さ 2～5mm (最大7mm) 程度の凹凸処理を施す。
・構造図による

既存杭の撤去等 [8.28.2]
・撤去範囲及び撤去方法 ※構造図による

8-1 鉄筋工事

① 鉄筋

鉄筋の種類等 [8.2.1]

種類の記号	呼び名	備考
※ SD295	※ D16以下	
※ SD345	※ D19以上	
・		
・		

② 溶接金網

鉄線の形状等 [8.2.2]

種類	種類の記号	網目寸法、鉄線の径 (mm)	使用部位
※ 溶接金網			
・ 鉄筋格子			

③ 鉄筋の継手及び定着

鉄筋の継手の方法等 [8.3.4][8.4.2.3]

部位	継手方法	呼び名
柱、梁の主筋	※ ガス圧接 ・ 機械式継手 ・ 溶接継手	
耐力壁の鉄筋	※ 重ね継手 ・	
その他の鉄筋(　　)	・ 重ね継手 ・	

継手位置 [8.3.4]
※構造図による
・柱及び梁の主筋の重ね継手の長さ
※構造図による
耐力壁の重ね継手の長さ
※改修標準仕様書 8.3.4(3)(ア)による [8.3.4]
・改修標準仕様書 表8.3.2
鉄筋の定着長さ [8.3.4]
※改修標準仕様書 8.3.4(5),(6)による
・構造図による

機械式定着工法
・適用する
適用箇所
・図示による(　　) ・
種類
・摩擦圧接接合 ・螺合グラウト固定
・嵌合グラウト固定 ・
工法
※第三者機関の評定等を取得している工法とする
必要定着長さ
※評定等の評価内容による
補強筋形状
※評定等の評価内容による
かぶり厚さ
※評定等の評価内容による
品質確認
※評定等の評価内容による
検査
※評定等の評価内容による

④ 鉄筋のかぶり厚さ及び間隔 (溶接金網を含む)

最小かぶり厚さ [8.3.5]
※改修標準仕様書 表8.3.6による
・軽量コンクリートを適用する場合
適用箇所(　　)
・最小かぶり厚さに加える厚さ (　　)mm

・耐久性上不利な箇所がある場合(塩害を受けるおそれのある部分等)
適用箇所(　　)
・最小かぶり厚さに加える厚さ (　　)mm

5 圧接完了後の圧接部の試験

超音波探傷試験 [8.3.8]
※行う (全圧接部)

6 機械式継手

適用箇所
※構造図による
H12建告第1463号に適合する性能 [8.4.2]
※A級 ・(　　)
種類 [8.4.2]
・ねじ式鉄筋継手
充填方式
・無機グラウト方式 ・有機グラウト方式 ・
・端部ねじ加工継手
・モルタル充填式継手
・
工法
※第三者機関の評定等を取得している工法
鉄筋相互のあき
※評定等の評価内容による
品質の確認
※評定等の評価内容による
検査
※評定等の評価内容による
施工完了後の継手部の試験
・外観試験
試験対象
※全数
試験項目
・評定等の評価内容による ・
試験方法
・評定等の評価内容による ・
・超音波測定試験
試験対象
・抜取り
ロット
・1組の作業班が1日に行った継手箇所で、最大200箇所程度とする。
・
試験の箇所数
1ロットに対して(　　)箇所
・全数
試験項目
※挿入長さ
試験方法
※JIS Z 3064 (鉄筋コンクリート用機械式継手の鉄筋挿入長さの超音波測定方法及び判定基準)による
不合格となった場合の措置 (5.5.5)
・

7 溶接継手

適用箇所
※構造図による
H12建告第1463号に適合する性能 [8.4.3]
※A級 ・(　　)
溶接継手の工法 [8.4.3]
・図示による(　　) ・
鉄筋相互のあき
・標準仕様書5.3.5(4)による
・評定等の評価内容による
・図示による(　　)
施工完了後の溶接部の試験
・外観試験
試験対象
※全数
試験項目
・評定等の評価内容による ・
試験方法
・評定等の評価内容による ・
・超音波探傷試験
試験対象
・抜取り
ロット
・1組の作業班が1日に行った溶接箇所で、最大200箇所程度とする。
・
試験の箇所数
1ロットに対して(　　)箇所
・全数
試験項目
※内部欠陥の検出
試験方法
※JIS Z 3063 (鉄筋コンクリート用異形棒鋼溶接部の超音波測定方法及び判定基準)による
不合格となった場合の措置 (5.6.5)
・

8 割裂補強筋

仕様 [8.21.6][8.22.7]
形状
・スパイラル筋 ・(　　)
種類の記号
・SR235またはSWM-P ・(　　)
呼び径、曲げ直径、ピッチ

8-2 コンクリート工事

① コンクリートの種類

コンクリートの類別 [8.1.3]
※Ⅰ類 (JIS A 5308への適合を認証されたコンクリート)
・Ⅱ類 (JIS A 5308に適合したコンクリート)

② コンクリートの気乾単位容積質量による種類及び強度等

※普通コンクリート [8.1.3,4][8.2.5]

設計基準強度 (N/mm²)	スランプ (cm)	気乾単位容積質量 (t/m³)	適用箇所
○21 ○24	・改修標準仕様書表8.1.2による	2.3程度	構造図による
○18	○15		

構造体強度補正値 ※改修標準仕様書表8.2.4による ・構造図による

・軽量コンクリート [8.1.3,4][8.2.5][8.9.2]

設計基準強度 (N/mm²)	スランプ (cm)	気乾単位容積質量 (t/m³)	種類	適用箇所
・	※21	・	・1種 ・2種	構造図による
・	・	・		

構造体強度補正値 ※改修標準仕様書表8.2.4による ・構造図による

③ セメント

種類 [8.2.5]
※普通ポルトランドセメント、高炉セメントA種、シリカセメントA種又は
フライアッシュセメントA種
普通ポルトランドセメントの品質は、JIS R 5210 に示された規定の他、水和熱が7日目で
352J/g 以下、かつ28日目で 402J/g 以下のものとする
・高炉セメントB種 G 適用箇所(　　)
・フライアッシュセメントB種 G 適用箇所(　　)

④ 骨材

アルカリシリカ反応性による区分 [8.2.5]
※A ・B

⑤ 混和材料

・混和剤 [8.2.5]
混和剤の種類
※改修標準仕様書 8.2.5(4)(a)による ・構造図による
・混和材 [8.2.5]
混和材の種類
※改修標準仕様書 8.2.5(4)(b)による ・構造図による

6 構造体用モルタル

圧縮強度(　　) [8.2.6]
フロー値(　　)

7 暑中コンクリート

構造体強度補正値 ※6N/mm² ・構造図による [8.10.2]

8 マスコンクリート

適用箇所 (6.13.1)
※構造図による
セメントの種類 (6.13.2)
・普通ポルトランドセメント
・中庸熱ポルトランドセメント
・低熱ポルトランドセメント
・高炉セメントB種 G
・フライアッシュセメントB種 G
・シリカセメント
・(　　)
混和材料
・混和剤 (6.13.2)
混和剤の種類
※標準仕様書6.13.2(2)(ア)による
・構造図による
・混和材 (6.13.2)
混和材の種類
※標準仕様書6.13.2(2)(イ)による
・構造図による
スランプ (6.13.2)
※15cm ・(　) cm
構造体強度補正値 ※標準仕様書表6.13.1による ・構造図による

9 無筋コンクリート

コンクリートの種類
※普通コンクリート ・(　　)
設計基準強度 [8.11.1]
※18N/mm² ・(　) N/mm²
スランプ [8.11.1]
※15cm又は18cm ・(　) cm
セメントの種類
※普通ポルトランドセメント、高炉セメントA種、シリカセメントA種又は
フライアッシュセメントA種
・高炉セメントB種 G
・フライアッシュセメントB種 G
適用箇所
※構造図による

10 流動化コンクリート

適用箇所 (6.15.1)
※構造図による

11 打継ぎの位置、ひび割れ誘発目地、打継目地

打継ぎの位置 (6.6.4)(6.8.1)(9.7.3)[3.7.3]
・図示による(　　) ・
目地寸法
・標準仕様書 9.7.3(1)(ア)による ・図示による(　　)
ひび割れ誘発目地の位置・形状・寸法
・図示による(　　) ・

⑫ 構造体コンクリートの仕上り

合板せき板を用いるコンクリートの打放し仕上げ [8.1.4]
※意匠図による

コンクリートの仕上がりの平たんさ [8.1.4]
※意匠図による

13 打増し厚さ (打放し仕上げ部)

・打放し仕上げの打増し厚さ(外部に面する部分に限る) [8.7.8]
・20mm ・(　) mm
・打放し仕上げの打増し厚さ(内部に面する部分に限る)
・10mm ・20mm ・(　) mm
・外装タイル後張り面の打増し処理
・20mm
・床型枠用鋼製デッキプレート梁側面部の打増し処理
プレートが支持される梁の側面について下記の打増しを行う
・10mm ・20mm ・(　) mm

⑭ 型枠

せき板の材料及び厚さ [8.2.7]
※合板 G
厚さ ※12mm ・(　) mm
・メッシュ型枠 (使用部位 ※構造図による)
・床型枠用鋼製デッキプレート (施工範囲 ※構造図による)

・断熱材を兼用した型枠材 (6.8.2)
使用箇所
※構造図による
・MCR工法用シート (6.8.2)
適用箇所
※構造図による
打増し厚さ
・20mm ・(　) mm
打増し範囲
※構造図による
スリーブの材種・規格等 [8.2.7]
※構造図による

15 型枠の加工及び組立

シアコネクタをセパレーターとして使用 [8.7.8]
使用箇所 ※構造図による

⑯ コンクリートの打込み工法等

コンクリートの打設工法の種類 [8.21.8][8.23.5]

補強工法	打設工法	部位
・現場打ちコンクリート壁の増設工事	・流込み工法 8.21.8(1)(ア),(2)	・全ての増設壁 ・構造図による
	・圧入工法 8.21.8(1)(イ),(3)	・全ての増設壁 ・構造図による
	・	・
	・	・
・柱補強工事 (溶接金網巻き及び溶接閉鎖フープ巻き工法)	・流込み工法 8.21.8(1)(ア),(2)	・全ての柱補強部分 ・構造図による
	・圧入工法 8.21.8(1)(イ),(3)	・全ての柱補強部分 ・構造図による
・	・	・
	・	・
・柱脚保護コンクリート	○流込み工法 8.21.8(1)(ア),(2)	○全て
	・圧入工法 8.21.8(1)(イ),(3)	・
	・	・

鋼板巻き工法及び帯板巻き付け工法での型枠等 [8.23.6]
柱頭及び柱脚の隙間の寸法
※構造図による
柱頭及び柱脚の隙間部間の型枠
・発泡プラスチック保温材等を埋込む
・構造図による
既存柱外周部あと打ちコンクリート又は構造体用モルタルの厚さ
※構造図による
補強後の仕上げ [8.23.7]
※構造図による

8-3 鉄骨工事

① 鉄骨製作工場

鉄骨製作工場の加工能力 [8.1.5]
※建築基準法 第68条の25に基づき国土交通大臣から構造方法等の認定を取得している
鉄骨製作工場又は同等以上の能力のある工場
(　M　)グレード以上
・監督職員の承諾する工場

② 鉄骨製作工場における施工管理技術者

※ 配置する [8.1.6]
・ 配置しない

③ 鋼材

種類等 [8.2.8]

種類の記号	適用箇所 (主要な部分)	規格
SS400	鋼板	※JIS規格による ・
		※JIS規格による ・
		※JIS規格による ・
		※JIS規格による ・
		※JIS規格による ・
		※JIS規格による ・

事業年度 年度 工事完成 年度	設計 令和 年 月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 西小学校長寿命化改修工事 (建築主体工事)	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社 MasMas 一級建築士登録 第198542号 美野 健治 印	図面名称・縮尺 - (A3版-71%縮小) 改修工事特記仕様書-10 (構造関係)	図番 S-01

④ 高力ボルト

高力ボルトの種類 [8.2.9]
※トルシア形高力ボルト　2種（S10T）
・JIS形高力ボルト　2種（F10T）
・（　　）
ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等 [8.13.2]
※構造関係共通事項（鉄骨標準図）1-1 縁端距離及びボルト間隔
・構造図による
摩擦面の処理方法 [8.14.2]
※自然発錆（黒皮等を除去した後に自然放置して表面に赤さびが発生した状態）
・ブラスト処理（表面粗度50μmRz以上）
・すべり試験の実施
※すべり係数試験　・すべり耐力試験
試験方法等　※構造図による
すべり試験を実施する場合、改修標準仕様書8.14.2(1)(イ)による摩擦面の確認は、本試験で作成した対比試験片で行うこと。

5 溶融亜鉛めっき高力ボルト

セットの種類
※1種（F8T）相当
ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等 [8.13.2]
※構造関係共通事項（鉄骨標準図）1-1 縁端距離及びボルト間隔
・構造図による
摩擦面の処理方法等 [8.20.5]
※ブラスト処理（表面粗度50μmRz以上）又はりん酸塩処理
・構造図による
・すべり試験の実施
※すべり係数試験　・すべり耐力試験
試験方法等　※構造図による
すべり試験を実施する場合、改修標準仕様書8.14.2(1)(ア)又は(イ)による摩擦面の確認は、本試験で作成した対比試験片で行うこと。

6 普通ボルト

ボルト及びナットの材料 (7.2.3)
※標準仕様書 表7.2.3(JIS附属書品)又は次による
ボルトの規格は、JIS B 1180とする。ボルトの種類を呼び径六角ボルト又は全ねじ六角ボルトとし、材料は鋼とする。ボルトの強度区分は、4.6又は4.8とする。なお、呼び径六角ボルトの軸径の最大寸法は、ボルトの径の値以下とする。ナットの規格は、JIS B 1181とする。ナットの種類は、六角ナット-Cとし、材料は鋼とする。
座　金 (7.2.3)
※JIS B 1256による　・構造図による
ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等 [8.13.2]
※構造関係共通事項（鉄骨標準図）1-1 縁端距離及びボルト間隔
・構造図による
母屋又は胴縁の取付けに使用するボルトの孔径 (7.3.8)
※ねじの呼び径+1.0mm
・構造図による

7 アンカーボルト

・構造用アンカーボルト (7.2.4)(7.3.2)
セットの種類（JIS B1220）
・ABR400　・ABR490　・（　　）
・建方用アンカーボルト
種類
・SS400　・（　　）
アンカーボルト及びナットのねじの公差域クラス及び仕上げの程度
※標準仕様書　表7.2.3による
・構造図による
・標準仕様書7.2.4以外のアンカーボルト (7.3.2)
適用所
・図示による（　　）　・
種類
・SS400　・
アンカーボルト及びナットのねじの公差域クラス及び仕上げの程度
※標準仕様書 表7.2.3による　・

ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等
※構造図による　（構造関係共通事項（鉄骨標準図）1-1 縁端距離及びボルト間隔）

8 溶接材料

溶接材料 [8.2.10]
・改修標準仕様書 8.2.10(1)(2)による
・構造図による

9 スタッド

種類等 [8.2.11]

呼び名	呼び長さ（mm）	適用箇所
・16		
・19		
・22		

JIS B1198（頭付きスタッド）

10 製作精度

鉄骨の製作精度は、JASS 6 付則 6［鉄骨精度検査基準］に加えて、次による [8.13.3]
通しダイアフラムの突合せ継手の食い違いの寸法
・H12建告第1464号第二号イ(2)による
・構造図による
アンダーカットの寸法
・H12建告第1464号第二号イ(3)による
・構造図による
食い違い・仕口のずれの検査方法及び補強方法
・「突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」による
・構造図による

11 溶接作業を行う技能資格者の技量付加試験

試験の要領 [8.15.3]
※構造図による

12 溶接接合

開先の形状 [8.15.4]
※構造関係共通事項（鉄骨標準図）1-2
・鋼製エンドタブの切断する部分 [8.15.7]
切断する箇所
※構造図による
切断する範囲
・構造図による
・鋼製エンドタブ、裏当て金等は、梁フランジの端から5mm以下を残して直線状に切断する。
なお、切断線が交差する場合は、交差部をアール状に加工する
切断面の仕上げ
※改修標準仕様書8.15.7(1)(カ)(b)②による
・構造図による
スカラップの形状 [8.15.7]
※構造関係共通事項（鉄骨標準図）1-4

13 入熱、パス間温度の溶接条件

鋼材と溶接材料の組合せと溶接条件
※構造関係共通事項（鉄骨標準図）1-4
・構造図による
適用箇所
※柱、梁、ブレースのフランジ端部の完全溶け込み溶接部
・構造図による

14 溶接部の試験

平12建告第1464号第二号に関する外観試験方法等 [8.15.12]
・「突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」3.5.2　受入検査による
・抜き取り検査①
※抜き取り検査②

JASS 6 付則 6［鉄骨精度検査基準］の付表3「溶接」に関する試験方法等
・JASS 6 10.4[受入検査]e. 溶接部の外観検査(1)から(5)までによる。ただし、完全溶込み溶接部の外観検査の抜取箇所は、超音波探傷試験の抜取箇所と同一とする。外観試験の不合格箇所は、すべて標準仕様書7.6.13による補修を行い、再試験する
完全溶込み溶接部の超音波探傷試験
・工場溶接の場合
※全数
・工場現場溶接の場合
※全数

⑮ 錆止め塗装

塗料の範囲 [8.17.2]
・耐火被覆材の接着する面の塗装
範囲　※構造図による
・耐火被覆材の接着する面以外の塗装
範囲　※標準仕様書 8.17.2（ア）～（オ）以外
・構造図による
塗料種別 [8.17.4]
下記以外の鉄鋼面は、7章［塗装改修工事］による
・鉄骨鉄筋コンクリート造の鋼製スリーブで鉄骨に溶接されたものの内側の錆止め塗料の種別
※A種
・B種
・耐火被覆材が接着する面の塗料の種別 [8.18.2～8]
・（　　）

16 耐火被覆

種類、材料、工法等

種　類	材料・工法	性能（耐火時間）	適用箇所（部位・部分）
・耐火材吹付け	・乾式吹付けロックウール		
	・半乾式吹付けロックウール		
	・湿式ロックウール		
	・		
	・		
・耐火板張り	・繊維混入けい酸カルシウム板		
	・		
・耐火材巻付け	・高断熱ロックウール		
	・		
・ラス張りモルタル塗り	—		
・耐火塗料	・		

17 アンカーボルト等の設置等

構造用アンカーボルトの形状及び寸法 (7.10.3)
※構造図による
構造用アンカーフレームの形状及び寸法 (7.10.3)
※構造図による
建方用アンカーボルトの形状及び寸法
※構造図による
建方用アンカーボルトの保持及び埋込み工法 (7.10.3)
種別
・A種　・B種
柱底均しモルタル厚さ及び工法の種別 (7.10.3)
厚さ　・（　　）
種別　※A種　・B種

18 鉄骨ブレース設置後の仕上げ

※意匠図による [8.22.9]

8-4 あと施工アンカー工事

① あと施工アンカー

材料等 [8.2.4]
⊙接着系アンカー
アンカーの種類　※カプセル方式回転・打撃式　・（　　）
接着剤の品質
・有機系　・無機系
アンカー筋の径及び埋込み長さ
※構造図による
アンカー筋の種類
・（　　）
アンカー筋の新設壁内への定着の長さ
※構造図による
・性能確認試験
試験方法及び試験数
※構造図による

・金属系アンカー
アンカー本体の径及び埋込み長さ
※構造図による
セット方式　※本体打込み式改良型　・（　　）
接合筋の種類、径、長さ
※構造図による
・性能確認試験
試験方法及び試験数
※構造図による

② 穿孔

埋込み配管等の探査方法 [8.12.4]
※鉄筋探知器（金属探知器）により探査し、鉄筋、配管類の位置に墨出しを行う
・はつり出しによる
・（　　）

③ 施工確認試験

試験方法 [8.12.7]
※引張試験機による引張試験
確認強度
※構造図による

④ 施工管理技術者

（社）日本建築あと施工アンカー協会が定める「あと施工アンカー技術管理士」の資格以上の能力を有する者とする。 [8.12.1]

8-5 グラウト工事

1 柱底均しモルタル及びグラウト材

・柱底均しモルタル [8.2.12]
※無収縮モルタル
・（　　）

・グラウト材 [8.2.11]
無収縮グラウト材の材質等

混和材	
砂	セメント系（酸化カルシウム及びカルシウム・サルフォ・アルミネート等によって膨張する性質を利用するもの）とする。
セメント	JIS R 5210「ポルトランドセメント」に適合した普通または早強ポルトランドセメントとする。
砂	土木学会コンクリート標準示方書に定められた品質を有するもので、特に精選されたものを絶対乾燥状態で使用する。 ただし、現場調合形に使用される砂の乾燥状態については、規定しない。

無収縮グラウト材の品質及び試験方法

コンシステンシー	Jロートによる流下時間 練混ぜ完了から3分以内の値　：　8±2秒
ブリージング	練り混ぜ2時間後のブリージング率　：　2.0%以下
凝結時間	凝結開始時間　：　1時間以上 終結時間　：　10時間以内
無収縮性	材齢　7日　収縮しない
圧縮強度	材齢　3日　20.0 N/mm^{2}以上 材齢　28日　40.0 N/mm^{2}以上
塩化物量	0.30kg/m^{3}以下
試験方法	1）NEXCO試験方法　試験法 312-1999「無収縮モルタル品質管理試験方法」による。プレミックス形と現場調合形で混和材が同一の場合の試験はプレミックス形のみとする。 2）塩化物量の試験は、JIS A 1144「フレッシュコンクリート中の水の塩化物イオン濃度試験方法」による。

8-6 連続繊維補強工事

1 連続繊維シート

連続繊維の材料 [8.2.13]
・炭素繊維
・アラミド繊維
・（　　）

引張強度（含浸硬化後） [8.2.13]
・（　　）N/mm^2
ヤング係数（含浸硬化後）
・（　　）N/mm^2
・下地処理 [8.24.6]
・ひび割れ部改修
範囲
※構造図による
工法の種類
※構造図による
・柱及び梁の隅角部の面取りの大きさ [8.24.6]
※構造図による
連続繊維補強材の強度試験 [8.24.6]
・引張強度試験
※JIS A 1191（コンクリート用連続繊維シートの引張試験方法）による
・構造図による
試験数量
※構造図による
・付着強度試験 [8.24.6]
※JIS A 6909（建築用仕上塗材）による
・構造図による
試験数量
※構造図による

2 仕上げ

補強工事後の仕上げ [8.24.7]
※構造図による

8-7 耐震スリット新設工事

1 耐震スリットの方式、幅及び深さ

方式 [8.25.2]
・完全　・部分
幅及び深さ
※構造図による
設置箇所
※構造図による

2 耐震スリットの施工前の埋め込み配管等の探査

既存撤去部の埋込み配管等の探査方法 [8.12.4]
※鉄筋探査機（金属探知機）により探査し、鉄筋、配管類の位置に墨出しを行う
・はつりだしによる

3 耐震スリット充填材の挿入及び周囲補修等

・耐火材 [8.25.2]
使用箇所及び仕様
※構造図による

・遮音材 [8.25.2]
使用箇所及び仕様
※構造図による

撤去部の補修 [8.25.2]
※撤去材と同一材で補修
・構造図による

8-8 土工事及び地業工事

1 埋戻し及び盛土

埋戻し及び盛土の材料及び工法
※改修標準仕様書 8.28.3(2)(ウ)(b) 表8.28.1による [8.28.3]
・A種　適用場所（　　）
・B種　適用場所（　　）
・C種　適用場所（　　）　土質（　　）　受渡場所（　　）
・D種　適用場所（　　）
品質　細粒分（75μm以下）の含有率（重力百分率）の上限を50%未満とする
・材料（　　）　工法（　　）

2 山留めの撤去

鋼矢板等の抜き跡の処理 [8.28.3]
※直ちに砂で充填する　・意匠図による
山留めの存置
・行う
存置範囲　※現場説明書の施工条件明示による

3 杭地業

支持層の位置及び土質（基礎ぐいの先端位置含む） [8.28.4]
※構造図による
杭の材料、工法、寸法、施工方法等 [8.2.14][8.28.4]
※構造図による
・試験杭の位置、本数及び寸法並びに施工方法 [8.28.4]
※構造図による
・杭の継手の箇所数、材料、工法等 [8.2.14]
※構造図による
・杭の溶接継手 [8.28.4]
技能資格者の技量　※構造図による
溶接部の確認　※構造図による
・杭頭を処理する [8.28.4]
処理方法（切断にともなう補強方法含む）
※構造図による
・杭頭の中詰め材料 (4.3.7)
・基礎のコンクリートと同調合のもの　・構造図による
杭の精度 [8.28.4]
水平方法の位置ずれ　・杭径の1/4かつ100mm以下　・構造図による
杭の鉛直度　・1/100以内　・構造図による
記録する施工状況等 [8.28.4]
※構造図による

4 砂利地業

材料
・再生クラッシャラン [8.2.15]
・切込砂利又は切込砕石
砂利厚さ [8.28.4]
※60mm　・（　）mm

5 捨コンクリート地業

捨コンクリートの厚さ [8.28.4]
※50mm　・（　）mm
コンクリートの種類
※普通コンクリート　・（　　）
設計基準強度 [8.11.1]
※18N/mm^2　・（　）N/mm^2
スランプ [8.11.1]
※15cm又は18cm　・（　）cm

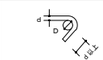
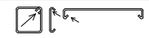
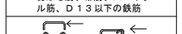
事業年度　年度 工事完成　年度	設計 令和　年　月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 西小学校長寿命化改修工事（建築主体工事）	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社　ＭａｓＭａｓ 一級建築士登録　第198542号 美野　健治　印	図面名称・縮尺　－　(A3版-71%縮小) 改修工事特記仕様書-11（構造関係）	図番 S-02

鉄筋コンクリート構造配筋標準図

設計図書に記載なき場合は本標準図による。

§１　一般共通事項

１．１　鉄筋の折曲げ形状及び寸法

折曲げ角度	折曲げ図	折曲げ内法直径(D) SD295A SD295B SD345 D16以下	SD390 D19～D38	使用箇所
180°		3ｄ以上	4ｄ以上	5ｄ以上	柱・梁の主筋及び杭基礎のベース筋並びにＤ１６以上の鉄筋
135°					 あばら筋、帯筋、スパイラル筋、Ｄ１３以下の鉄筋
90°					 Ｔ形及びＬ形の梁のあばら筋
135°及び90°					 幅止め筋
90°以下		4ｄ以上(5ｄ以上)	6ｄ以上(6ｄ以上)	8ｄ以上(8ｄ以上)	その他の鉄筋

(注) 1. Dは、曲げ内法直径
2. dは、呼び名に用いた数値
3. 片持ちスラブ先端、壁際の自由端側の先端で９０°フック又は１３５°フックを用いる場合には、余長は４ｄ以上とする。
4. ＳＤ３９０は、（ ）内を適用する。

１．２　鉄筋の継手

（１）鉄筋の継手は重ね継手、ガス圧接継手又は特殊な鉄筋継手（「鉄筋の継手の構造方法を定める件」（平成12年5月31日　建設省告示第1463号）に適合する機械式継手）とし、適用は特記による。

（２）鉄筋の溶接は、アーク溶接とし、公共建築工事標準仕様書(建築工事編)７．６．５[部材の組立]（ｄ）及び７．６．７[溶接施工]格者]に準じ、工事に相応した技量を有する者とする。

（３）重ね継手は、次による。

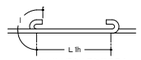
なお、径が異なる鉄筋の重ね継手の長さは、細い鉄筋の径による。

１）主筋及び耐力壁の鉄筋の重ね継手の長さは、突起による。特記がなければ、４０ｄ(軽量コンクリートの場合は５０ｄ)と下記表の重ね継手長さのうち大きい値とする。

２）１）以外の鉄筋の重ね継手の長さは、下記表による。

鉄筋の種別	コンクリートの設計基準強度 Ｆｃ(Ｎ/mm2)	Ｌ1(フックなし)	Ｌ1h(フックあり)
SD295A SD295B	１８	４５ｄ	３５ｄ
	２１	４０ｄ	３０ｄ
	２４，２７	３５ｄ	２５ｄ
	３０，３３，３６	３５ｄ	２５ｄ
SD345	１８	５０ｄ	３５ｄ
	２１	４５ｄ	３０ｄ
	２４，２７	４０ｄ	３０ｄ
	３０，３３，３６	３５ｄ	２５ｄ
SD390	２１	５０ｄ	３５ｄ
	２４，２７	４５ｄ	３５ｄ
	３０，３３，３６	４０ｄ	３０ｄ

(注) 1. Ｌ1、Ｌ1h：重ね継手の長さ及びフックあり重ね継手の長さ
2. フックありの場合のＬ1hは、下図に示すようにフック部分Ｉを含まない。
3. 軽量コンクリートの場合は、表の値に５ｄを加えたものとする。

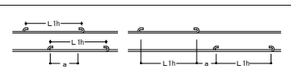
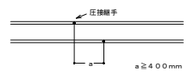
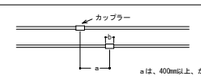


フックありの場合の重ね継手長さ

１．３　隣り合う継手の位置

（１）隣合う継手の位置は下記表による。但し、壁の場合及びスラブ筋でＤ１６以下の場合は除く。

なお、先組込み工法等で、柱、梁の主筋の継手を同一箇所に設ける場合は、特記による。

重ね継手	フックありの場合	 a＝０．５Ｌ1h　a≧０．５Ｌ1h
	フックなしの場合	 a＝０．５Ｌ1　a≧０．５Ｌ1
圧接継手	―	 a≧４００mm
機械式継手	―	 aは、400mm以上、かつ、(b-40)mm以上

１．４　鉄筋の定着

１．４．１　鉄筋の定着の長さ

（１）柱に取り付ける梁の引張り鉄筋の定着の長さは、特記による。特記がなければ、４０ｄ(軽量コンクリートの場合は５０ｄ)と下記表の定着長さのうち大きい値とする。

（２）（１）以外の鉄筋の定着の長さは、下記表による。

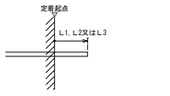
鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 Ｆｃ(Ｎ/mm2)	フックなし Ｌ1	フックなし Ｌ3 小梁	フックなし Ｌ3 スラブ	フックあり Ｌ1h	フックあり Ｌ2h	フックあり Ｌ3h 小梁	フックあり Ｌ3h スラブ
SD295A SD295B	１８	４５ｄ	２０ｄ	１０ｄかつ１５０mm以上	３５ｄ	３０ｄ	１０ｄ	―
	２１	４０ｄ			３０ｄ	２５ｄ		
	２４，２７	３５ｄ			２５ｄ	２０ｄ		
	３０，３３，３６	３５ｄ			２５ｄ	２０ｄ		
SD345	１８	５０ｄ			３５ｄ	３０ｄ		
	２１	４５ｄ			３０ｄ	２５ｄ		
	２４，２７	４０ｄ			３０ｄ	２５ｄ		
	３０，３３，３６	３５ｄ			２５ｄ	２０ｄ		
SD390	２１	５０ｄ			３５ｄ	３０ｄ		
	２４，２７	４５ｄ			３５ｄ	３０ｄ		
	３０，３３，３６	４０ｄ			３０ｄ	２５ｄ		

(注) 1. Ｌ1、Ｌ1h：2．以外の直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ
2. Ｌ2、Ｌ2h：躯側端面のおそれのない箇所への直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ
3. Ｌ3：小梁及びスラブの下端筋の直線定着の長さ。ただし、基礎梁にスラブ及びこれを受ける小梁は除く。
4. Ｌ3h：小梁の下端筋のフックあり定着の長さ
5. フックあり定着の場合は、１．４．２に示すようにフック部分Ｉを含まない。また、中間部での折曲げは行わない。
6. 軽量コンクリートの場合は、表の値に５ｄを加えたものとする。

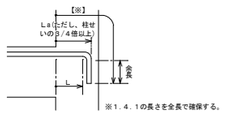
１．４．２　定着の方法

（１）定着の方法は下図による。

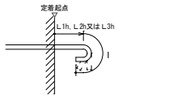
（２）仕口内に縦に折り曲げて定着する鉄筋の定着長さＬが、１．４．１のフックあり定着の長さを確保できない場合は、全長を１．４．１に示す直線定着の長さとし、かつ、余長を８ｄ、仕口面から鉄筋外面までの投影定着長さを下記表に示す長さ(かつ、梁主筋の柱内定着においては、原則として、柱せいの３／４倍以上)をのみ込ませる。



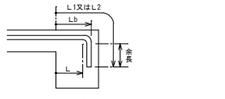
フックなし



梁主筋の柱内折曲げ定着の投影定着長さ



フックあり
(イ) 直線定着



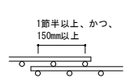
小梁及びスラブの上端筋の梁内折曲げ定着の投影定着長さ
(ロ) 折曲げ定着

鉄筋の種別	コンクリートの設計基準強度 Ｆｃ(Ｎ/mm2)	Ｌa	Ｌb
SD295A SD295B	１８	２０ｄ	１５ｄ
	２１	１５ｄ	１５ｄ
	２４，２７	１５ｄ	１５ｄ
	３０，３３，３６	１５ｄ	１５ｄ
SD345	１８	２０ｄ	２０ｄ
	２１	２０ｄ	２０ｄ
	２４，２７	２０ｄ	１５ｄ
	３０，３３，３６	１５ｄ	１５ｄ
SD390	２１	２０ｄ	２０ｄ
	２４，２７	２０ｄ	２０ｄ
	３０，３３，３６	２０ｄ	１５ｄ

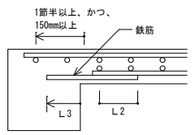
(注) 1. Ｌa：梁主筋の柱内折曲げ定着の投影定着長さ（基礎梁、片持ち梁及び片持ちスラブを含む。）
2. Ｌb：小梁及びスラブの上端筋の梁内折曲げ定着の投影定着長さ（片持ち小梁及び片持ちスラブを除く。）
3. 軽量コンクリートの場合は、表の値に５ｄを加えたものとする。

１．４．３　溶接金網の継手及び定着

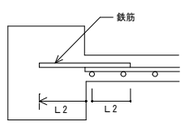
（１）溶接金網の継手及び定着は下図による。なお、Ｌ2及びＬ3は、１．４．１の（注）による。



重ね継手



定着(スラブの場合)



定着(壁の場合)

１．５　鉄筋の最小かぶり厚さ及び間隔

１．５．１　鉄筋の最小かぶり厚さ

（１）鉄筋及び溶接金網の最小かぶり厚さは、下記表による。

（２）貫通孔に接する鉄筋かぶり厚さは最小かぶり厚さ以上とする。

（３）柱、梁の主筋にＤ２９以上を使用する場合は、主筋のかぶり厚さを径の１．５倍以上として最小かぶり厚さを定める。

構造部分の種別				最小かぶり厚さ
土に接しない部分	スラブ・耐力壁以外の壁	仕上げあり		２０
		仕上げなし		３０
	柱 梁 耐力壁	屋内	仕上げあり	３０
			仕上げなし	３０
		屋外	仕上げあり	３０
			仕上げなし	４０
	擁壁、耐圧スラブ			４０
土に接する部分	柱、梁、スラブ、壁			＊４０
	基礎、擁壁、耐圧スラブ			＊６０
煙突等高熱を受ける部分				６０

(注) 1. ＊印のかぶり厚さは普通コンクリートに適用し、軽量コンクリートの場合は特記による。
2. 「仕上げあり」とは、モルタル塗り等の仕上げのあるものとし、鉄筋の耐久性上有効でない仕上げ（仕上塗材、塗装等）のものを除く。
3. スラブ、梁、基礎及び擁壁で直接土に接する部分のかぶり厚さには、捨コンクリートの厚さを含まない。
4. 杭基礎の場合のかぶり厚さは、杭天端からとする。
5. 塩害を受けるおそれのある部分等、耐久性上不利な箇所は、特記による。

１．５．２　鉄筋の間隔

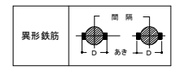
（１）鉄筋相互のあきは、下記の値のうち最大のもの以上とする。

１）粗骨材の最大寸法の１．２５倍

２）２５mm

３）隣り合う鉄筋の平均径（呼び名に用いた数値）の１．５倍

４）鉄骨鉄筋コンクリート造の場合、主筋と平行する鉄骨とのあきは上記（１）～（３）のうち最大のもの以上とする。



(注) Ｄ：鉄筋の最大外径

§２　基礎及び基礎梁の配筋

２．１　基礎の配筋

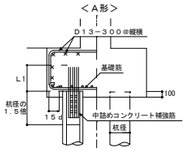
２．１．１　一般事項

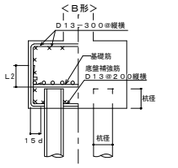
（１）杭基礎のはかま筋は縦筋、横筋ともＤ１３－３００㎝を標準とする。

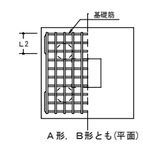
（２）地業の種別及び厚さは特記とする。ただし捨コンクリート厚さ５０mm、砂利地業厚さ６０mmを標準とする。

２．１．２　基礎の配筋及び杭頭補強の方法

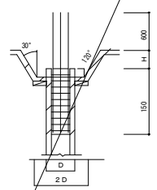
（１）杭基礎の場合







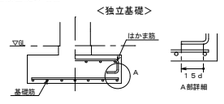
Ａ形、Ｂ形とも(平面)

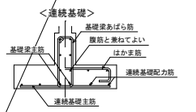


Ｈ＜2Ｄの範囲で杭が下がった場合。

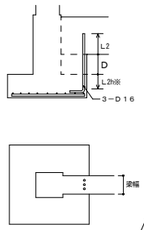
(注) 1. 中詰めコンクリート補強筋は、下記による。
●杭径300ｓ以下……4-D13
〃　350ｓ～400ｄ…6-D13
〃　450ｓ～ｓ…8-D13
●帯筋…Ｄ10－100㎝
2. 中詰めコンクリート補強筋にはフックをつけない。

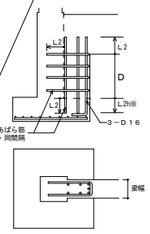
（２）直接基礎の場合





２．２　基礎接合部の補強





※Ｌ2hを確保できない場合は、１．４．２によることができる。

２．３　基礎梁筋の継手、定着及び余長

２．３．１　一般事項

（１）梁筋は、原則として、柱をまたいで引き通すものとし、引き通すことができない場合は、柱内に定着する。

ただし、やむを得ず梁内に定着する場合は、図２．２．１による。

（２）梁筋を柱内に定着する場合は、４．１．１(3)による。

（３）継手中心位置は図２．３／２の斜線部分とする。

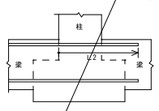
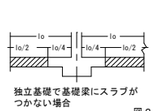
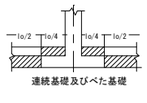


図２．３．１



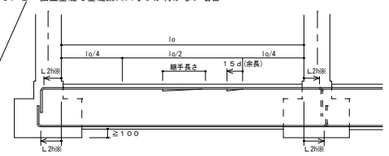
独立基礎で基礎梁にスラブがつかない場合



連続基礎及びべた基礎

図２．３．２

２．３．２　独立基礎で基礎梁にスラブが付かない場合



(注) 1. 図示のない事項は、４．１による。
2. ▭▭印は、継手及び余長位置を示す。
3. 破線は、柱内定着の場合を示す。
※　Ｌ2hを確保できない場合は、１．４．２によることができる。

§３　柱

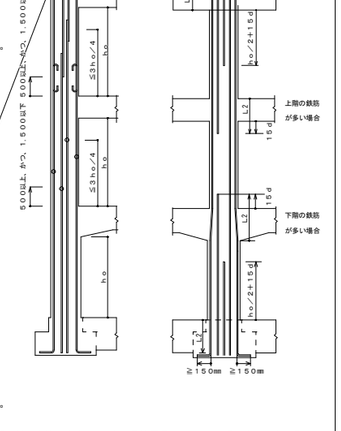
３．１　柱筋の継手及び定着

３．１．１　一般事項

（１）継手中心位置は、梁上端から５００mm以上１，５００mm以下、かつ３ｈｏ／４（ｈｏは柱の内法高さ）以下とする。

（２）柱頭定着長さＬ2が確保できない場合は、構造計算等により必要長さの確認を行うものとする。

（３）柱頭柱主筋について、梁上端主筋との取合いを考慮し、適切なかぶり厚さを確保する。



(注) 1. 隣り合う継手の位置は１．３の表による。
2. 柱の四面にある主筋で、重ね継手が場合及び最上階の柱頭にある場合はフックを付ける。

３．２　帯　　筋

３．２．１　帯　　筋

（１）帯筋の種類及び間隔は、特記による。

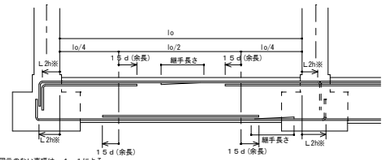
（２）帯筋組立の形は、特記がなければ、下記による。

（３）フック及び継手の位置は、交互とする。

（４）上下の柱断面寸法が異なる場合は、帯筋は、一般の帯筋より１サイズ太い鉄筋又は同径のものを２本重ねたものとする。

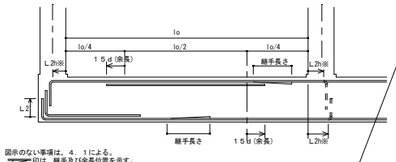


２．３．３　独立基礎で基礎梁にスラブが付く場合（耐圧スラブが付く場合は、２．３．４による）



(注) 1. 図示のない事項は、４．１による。
2. ▭▭印は、継手及び余長位置を示す。
3. 破線は、柱内定着の場合を示す。
※　Ｌ2hを確保できない場合は、１．４．２によることができる。

２．３．４　連続基礎及びべた基礎の場合



(注) 1. 図示のない事項は、４．１による。
2. ▭▭印は、継手及び余長位置を示す。
3. 破線は、柱内定着の場合を示す。
※　Ｌ2hを確保できない場合は、１．４．２によることができる。

２．４　基礎梁のあばら筋

（１）あばら筋組立の形及びフックの位置は、４．２．２による。

（２）梁の上下にスラブが付く場合で、かつ、梁せいが１．５m以上の場合は、下図によることができる。

一般の場合

重ね継手とする場合

事業年度　年度 工事完成　年度	設計 令和　年　月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 西小学校長寿命化改修工事（建築主体工事）	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社　ＭａｓＭａｓ 一級建築士登録　第198542号 美野　健治　印	図面名称・縮尺　－　(A3版-71%縮小) 鉄筋コンクリート構造配筋標準図	図番 S-03

鉄 骨 構 造 標 準 図 (1)

1．一般事項

（1）材料及び検査
（a）構造設計仕様による
（b）適用範囲は，鋼材を用いる工事に適用し，かつ鋼材の厚さが４０ｍｍ以下のもの とする
（c）社内検査結果の検査報告書には，鉄骨の寸法，精度及びその他の結果を添付 する

（2）工作一般
（a）鉄骨製作及び施工に先立って「鉄骨工事施工要領書」を提出し工事監理者の 承認を得る
（b）鋼管部材の分岐継手部の相貫切断は，鋼管自動切断機による
（c）高張力鋼の歪み矯正は，冷間矯正とする

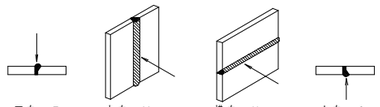
（3）高力ボルト接合
（a）本締めに使用するボルトと，仮締めボルトの併用はしてはならない

（4）溶接接合
(a) 溶 接 工
溶接工は施工する溶接に適応するＪＩＳ Ｚ３８０１（手溶接）又はＪＩＳ Ｚ３８４１（半自動溶接）の溶接技術検定試験に合格し引続き，半年以上溶接に従事している者と する

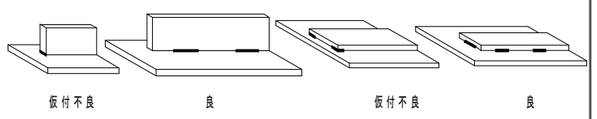
(b) 溶接機器
（イ）交流アーク溶接機 ３００Ａ～５００Ａ　（ニ）炭酸ガスアーク半自動溶接機
（ロ）アークエアーガウジング機（直流）　（ホ）溶接電流を測定する電流計
（ハ）サブマージアーク溶接機１式　（ヘ）溶接棒乾燥器

(c) 溶接方法
アーク手溶接（ＭＣ）　ガスシールドアーク半自動溶接（ＧＣ）
セルフ（ノンガス）シールドアーク半自動溶接（ＮＧＣ）　アークエアーガウジング（ＡＡＧ）

(d) 溶接姿勢



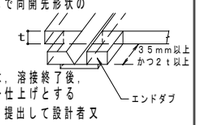
（e）仮付溶接工は，原則として本工事に従事する者が行う
（イ）仮付位置
仮付溶接は溶接の始，終端，隅角部など強度上，工作上，問題となり易い箇所は 避ける



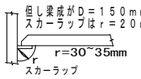
（ロ）突合せ溶接部の仮付溶接は必ず裏はつり側に施工する



(f) 溶接施工
（イ）エンドタブ
Ⅰ）突合せ溶接，部分溶込み溶接の両端部に母材と同厚で同開先形状の エンドタブを取り付ける
Ⅱ）エンドタブの材質は，母材と同質とする
Ⅲ）エンドタブの長さは，ＭＣ：３５ｍｍ以上
ＮＧＣ，ＧＣ：４０ｍｍ以上とし特記のない場合は，溶接終了後，母材より１０ｍｍ程度残し切断して，グラインダー仕上げとする
Ⅳ）ブレス鋼板タブ，固形タブ使用については，資料を提出して設計者又は工事監理者の承認を得る



（ロ）裏あて金
材質は母材と同質材料とし厚さは手溶接で６ｍｍ，半自動溶接で９ｍｍ以上とする



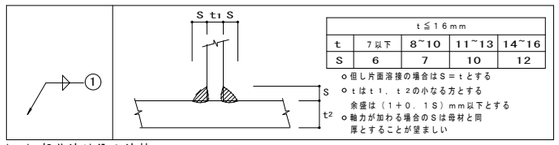
（ハ）スカーラップ 半径は３０～３５ｍｍとする
（ニ）裏はつり
規準図の溶接においてＡＡＧと記載のある部分は全て，溶接監理者の確認を励行し，部材に確認マークをつける
（ホ）現場溶接の開先面には，溶接に支障のない防錆材を塗布する。又，開先部を痛めない様に，養生を行なう

（5）塗装
コンクリートに埋め込まれる部分及びコンクリートとの接触面で，コンクリートと一体とする設計仕様になっている部分は，塗装をしない

2．溶接規準図

（注）ｆ：余盛 Ｇ：ルート間隔 Ｒ：フエース Ｓ：脚長
（単位ｍｍ）

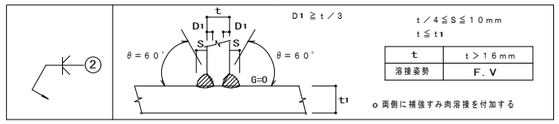
（1）スミ肉溶接



t≦16mm				
t	7以下	8~10	11~13	14~16
S	6	7	10	12

○但し片面溶接の場合はＳ＝ｔとする
○ｔはｔ１，ｔ２の小なる方とする
余盛は（１＋０．１Ｓ）ｍｍ以下とする
○軸力が加わる場合のＳは母材と同厚とすることが望ましい

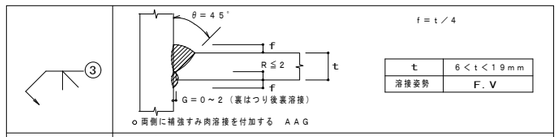
（2）部分溶け込み溶接 （使用箇所に注意）



t	t＞16mm
溶接姿勢	F．V

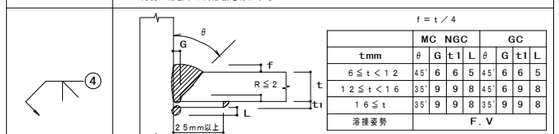
○両側に補強すみ肉溶接を付加する

（3）突合せ溶接 （平継手 Ｔ形継手）



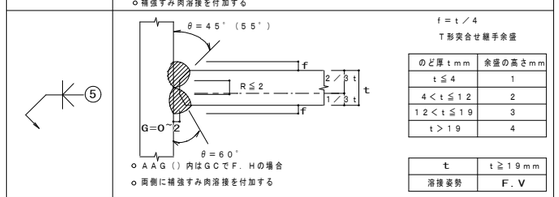
t	６＜ｔ＜１９ｍｍ
溶接姿勢	F．V

○両側に補強すみ肉溶接を付加する ＡＡＧ



	MC NGC				GC			
tmm	θ	G	t1	L	θ	G	t1	L
６≦ｔ＜１２	45°	６	６	５	45°	６	６	５
１２≦ｔ＜１６	35°	９	９	８	45°	６	９	８
１６≦ｔ	35°	９	９	８	35°	９	９	８
溶接姿勢	F．V							

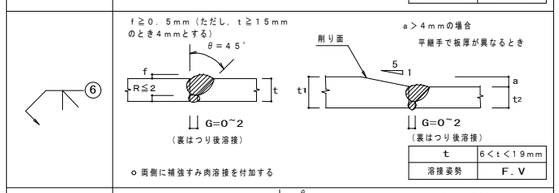
○補強すみ肉溶接を付加する



のど厚ｔmm	余盛の高さmm
ｔ≦４	１
４＜ｔ≦１２	２
１２＜ｔ≦１９	３
ｔ＞１９	４

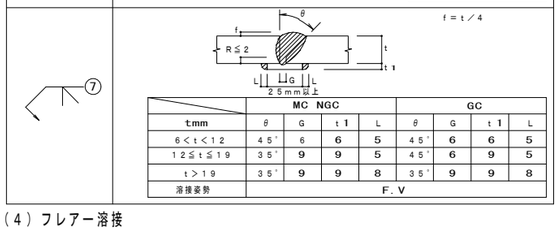
t	t≧19mm
溶接姿勢	F．V

○ＡＡＧ（）内はＧＣでＦ．Ｈの場合
○両側に補強すみ肉溶接を付加する



t	６＜ｔ＜１９mm
溶接姿勢	F．V

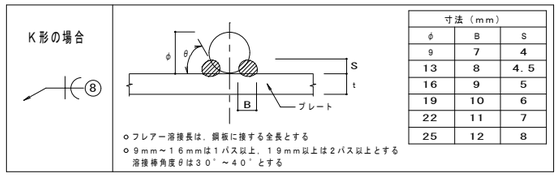
○両側に補強すみ肉溶接を付加する



	MC NGC				GC			
tmm	θ	G	t1	L	θ	G	t1	L
６＜ｔ＜１２	45°	６	６	５	45°	６	６	５
１２≦ｔ≦１９	35°	９	９	５	45°	６	９	５
ｔ＞１９	35°	９	９	８	35°	９	９	８
溶接姿勢	F．V							

（4）フレアー溶接

K形の場合

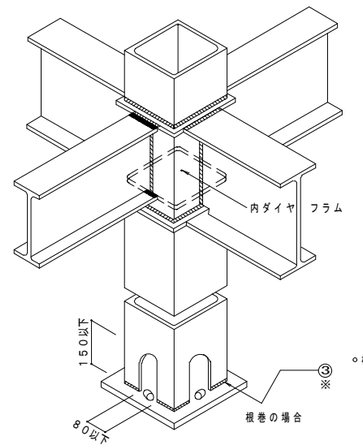


寸法（mm）		
ϕ	B	S
９	７	４
１３	８	４．５
１６	９	５
１９	１０	６
２２	１１	７
２５	１２	８

○フレアー溶接長は，鋼板に接する全長とする
○９ｍｍ～１６ｍｍは１パス以上，１９ｍｍ以上は２パス以上とする
溶接棒角度θは３０°～４０°とする

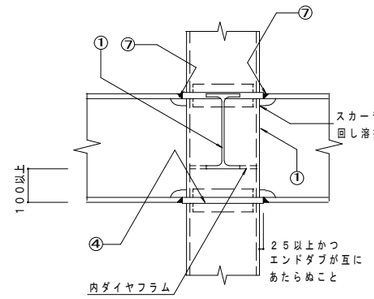
○溶接記号番号を○中に記入のこと

○ＢＯＸ型 （通しダイヤフラムの場合）

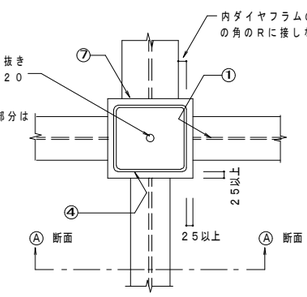


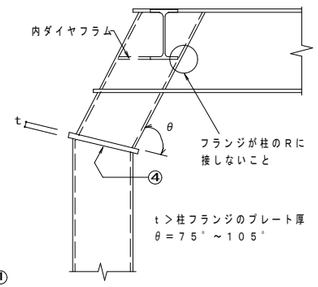
○柱が途中で折れる場合
及梁成が異なる場合

Ⓐ-Ⓐ 断面図

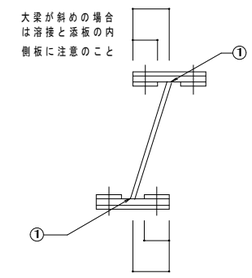


平面詳細

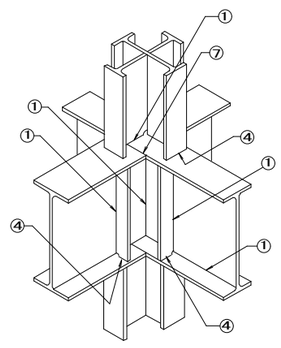


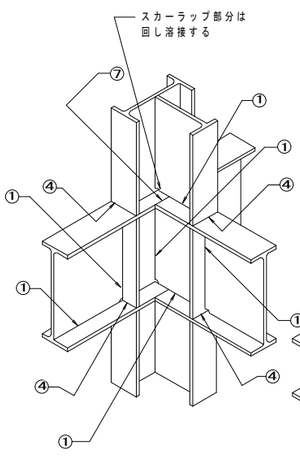


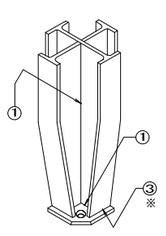
大梁が斜めの場合は溶接と添板の内側板に注意のこと

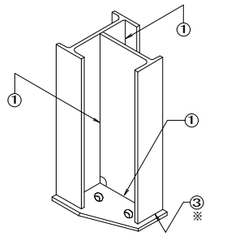


○Ｈ，Ｉ，Ｈ 型

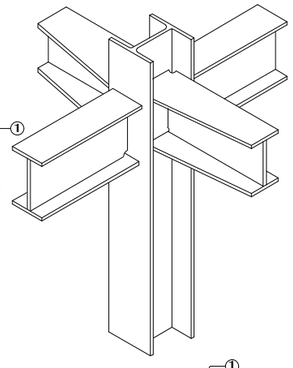


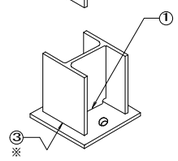




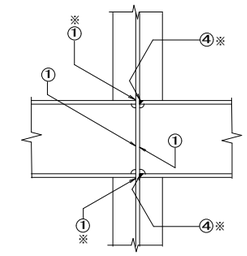


○Ｂ．Ｈ方式

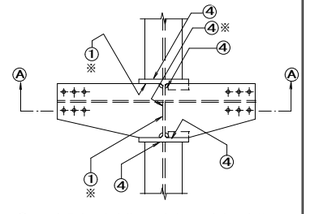




Ⓐ-Ⓐ 断面図



平面詳細



① ※全周すみ肉溶接又は突合せ（裏あて金付）
③ ※裏はつり及び裏溶接なし

事業年度 年度 工事完成 年度	設 計 令和 年 月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 西小学校長寿命化改修工事（建築主体工事）	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社 ＭａｓＭａｓ 一級建築士登録 第198542号 美野 健治 印	図面名称・縮尺 － 鉄骨構造標準図(1) (A3版-71%縮小)	図 番 S-04

鉄 骨 構 造 標 準 図 （2）

3．継手規準図，その他

（1）ボルトピッチ（P），

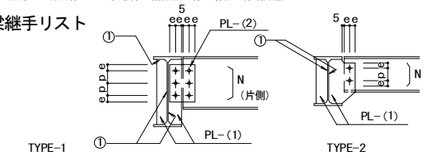
ボルト穴径・最小縁端距離

(mm)

呼 び	ボルト穴 径	最 小 縁 端 距 離 （e）				ピ ッ チ （P）	
		(1)	(2)	(3)	(2) (3) の標準	最 小	標 準
M16	17.0	40	28	22	40	40	60
M20	21.5	50	34	26	40	50	60
M22	23.5	55	38	28	40	55	60
M24	25.5	60	44	30	45	60	70

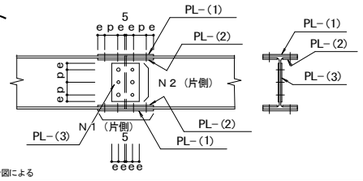
〔注〕（1）引張材の接合部で応力方向にボルトが３本以上並ばない場合の応力方向の縁端距離
（2）せん断縁・手動ガス切断縁の場合の縁端距離
（3） 圧延縁・自動ガス切断縁・のこ引き縁・機械仕上縁の場合の縁端距離

（2）ピン接合梁継手リスト



符 号	タイプ	部 材	PL-(1)	PL-(2)	N-径

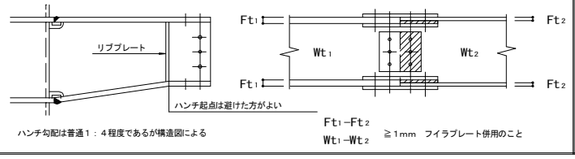
（3）剛接合継手リスト



注）端部をＢＨとする場合の部材は設計図による

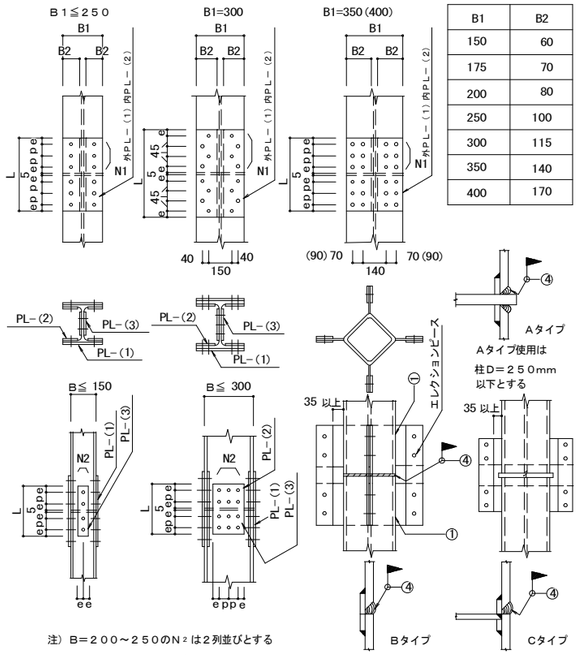
符 号	部 材	フランジ			ウエブ	
		PL-(1)	PL-(2)	N1-径	PL-(3)	N2-径

（4）ハンチ部の継手



ハンチ勾配は普通１：４程度であるが構造図による

（5）柱継手リスト



B1	B2
150	60
175	70
200	80
250	100
300	115
350	140
400	170

注）B＝２００～２５０のN２は２列並びとする

注）現場溶接は原則として超音波探傷試験を１００%を行う

符 号	部 材	フランジ			ウエブ	
		PL-(1)	PL-(2)	N1-径	PL-(3)	N2-径

（6）鉄筋ブレース

（ＪＩＳ規格品とする･･･ＪＩＳＡ５５４０～５５４２ ･･１９８２）

（a）羽子板ボルト

ねじの呼び（d）		M12	M14	M16	M18	M20	M22	M24
軸径 d 1	最 大	10.81	12.65	14.65	16.33	18.33	20.33	21.99
	最 小	10.64	12.46	14.46	16.11	18.11	20.11	21.77
調整ねじの長さ S		100	115	125	140	150	165	175
取付ボルト穴径 許容差＋0．－0．5mm R		13	17	17	21.5	21.5	23.5	21.5
はしあき（最小） (2) e1		35	40	45	50	50	55	50
切板製	へりあき（最小） (1) e2	22	28	28	34	34	38	38
	板 厚 t	4.5	6	6	9	9	9	9
平鋼製	へりあき（最小） (1) e2	19	25	25	32.5	32.5	37.5	37.5
	板 厚 t	4.5	6	6	9	9	9	9
ボルト端から取付ボルト穴心のあき（最小） e3		47	52	59	66	66	73	70
溶接長さ（最小） l		40	50	55	60	75	85	85
(2) 取付ボルト	種 類	ＪＩＳ Ｂ １１８６ ２種高力ボルト（Ｆ１０Ｔ）又は ＪＩＳ Ｂ １１８０ 中８ｇ １０．９						
	ねじの呼び	M12	M16	M16	M20	M20	M22	M20
	本 数	1	1	1	1	1	1	2

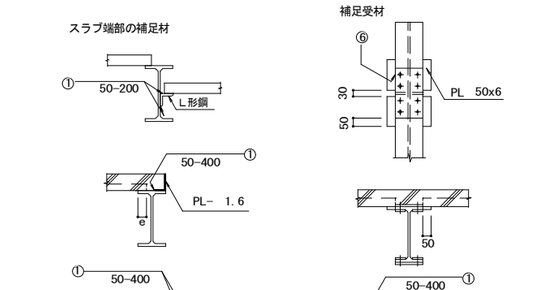
注（1）e1，e2 が確保されていれば形状は自由でよい

（2）羽子板とガセットプレートの接合は表に示す取付ボルトを使用し，一面せん断（支圧）接合とする

（b）形鋼ブレース

符 号	部 材	PL-(1)	N-径	l

羽子板ボルト　　形鋼ブレース



（7）デッキプレート

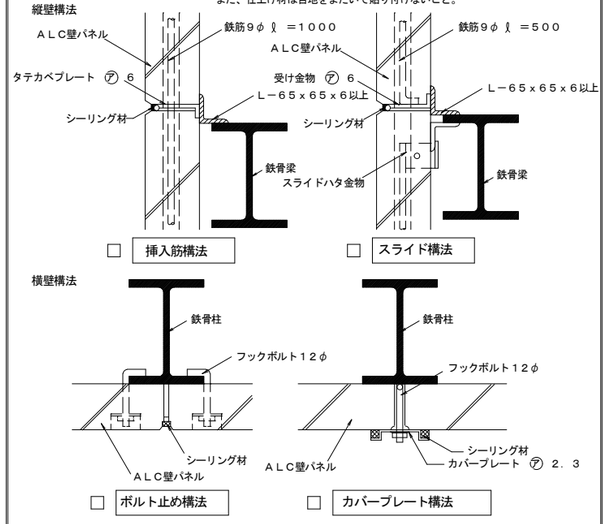
（床剛性を考慮する合成床，合成梁のときは構造図参照）

梁との溶接およびコネクター

受梁へのかかり寸法および端部処理

（8）ＡＬＣ板取付要領

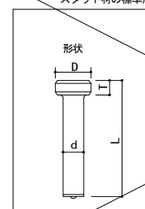
※ＡＬＣ取付要領については、旭化成建材ベーベルのＨＤＲ工法同等とする。
また、仕上げ材は目地をまたいで貼り付けないこと。



（9）頭付きスタッド

（JIS 1198）

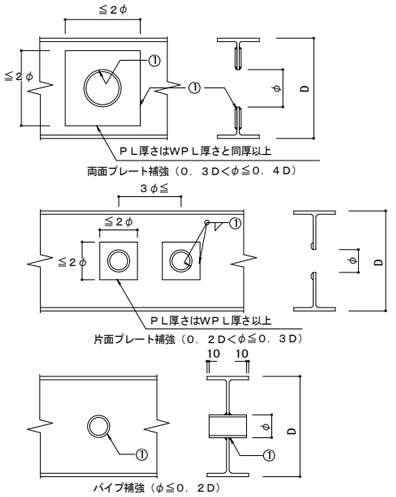
スタッド材の標準形状・寸法



呼び名	スタッド材 軸径 d mm	頭径 D mm	頭高さ T mm	溶接後の長さ L mm
φ13mm	13.0 12.7	22.0 25.4	10.0 7.9	50, 80, 100, 130
φ16mm	16.0 15.8	29.0 31.7	10.0 7.9	80, 100, 130
φ19mm	19.0 19.0	32.0 31.7	10.0 9.5	80, 100, 130, 150
φ22mm	22.0 22.2	35.0 34.9	10.0 9.5	100, 130, 150

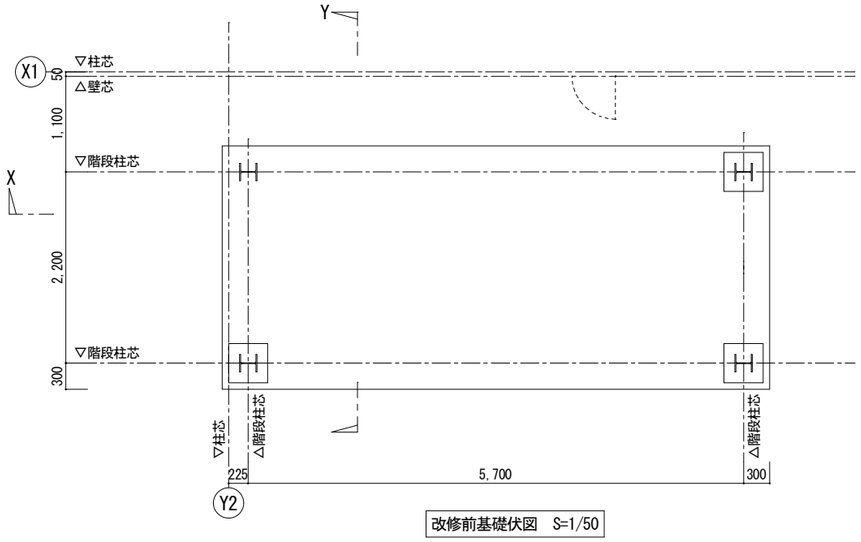
（10）梁貫通補強

- ●計算で確認された場合は下記の位置，寸法によらなくて良い。
- ●梁端部（スパンの ℓ／１０以内かつ２Ｄ以内）は避ける
- ●φ≦０．４Ｄかつ 穴ピッチ≧３．０φとする
- ●スリーブは，梁成の中央の１／２の範囲内とする

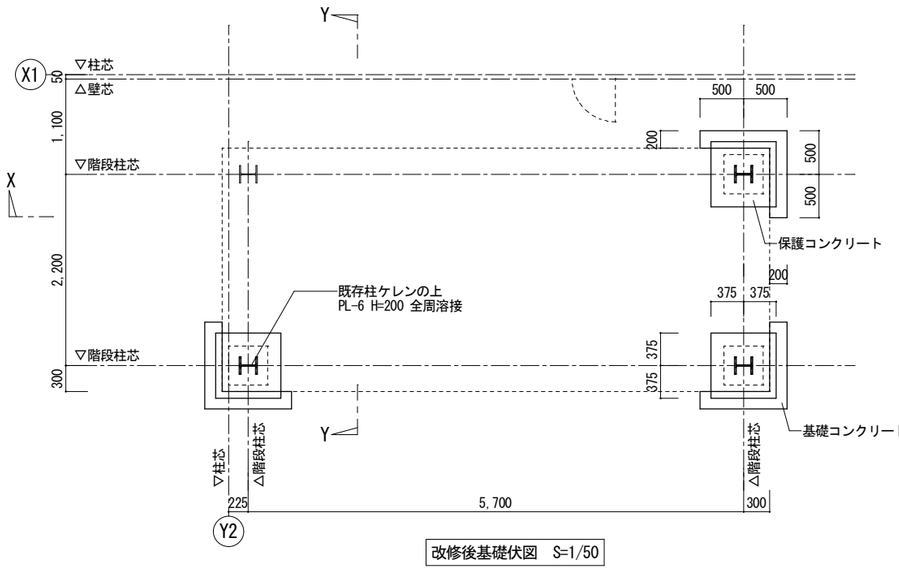


（11）その他

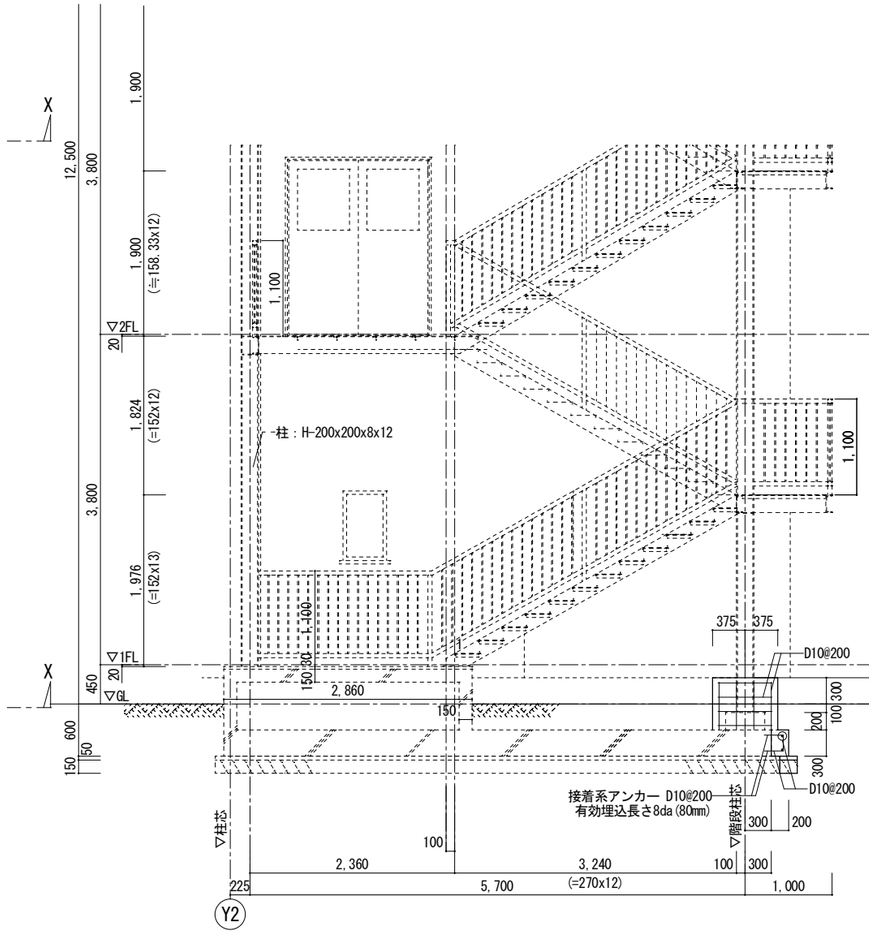
事業年度 年度 工事完成 年度	設 計 令和 年 月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 西小学校長寿命化改修工事（建築主体工事）	事務所名･建築士登録番号･氏名 有限会社 ＭａｓＭａｓ 一級建築士登録 第198542号 美野 健治 印	図面名称・縮尺 － 鉄骨構造標準図(2)	(A3版-71%縮小) 図 番 S-05



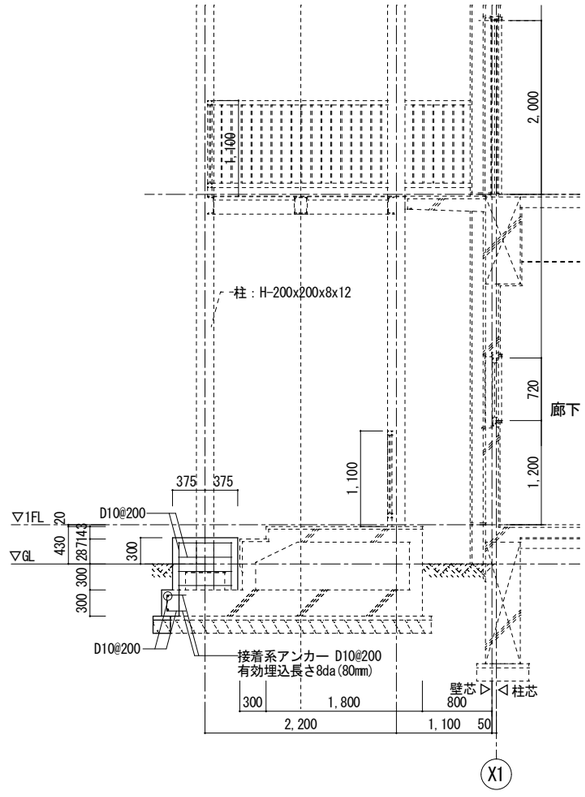
改修前基礎伏図　S=1/50



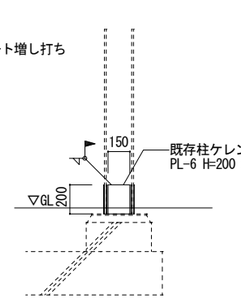
改修後基礎伏図　S=1/50

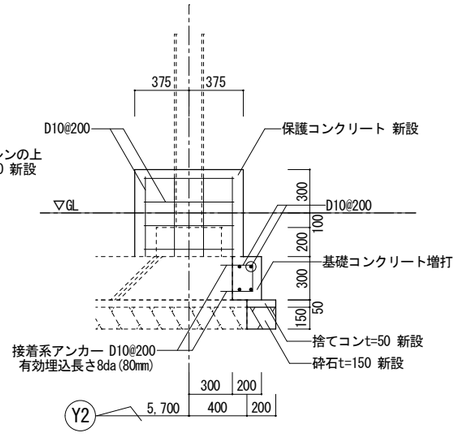


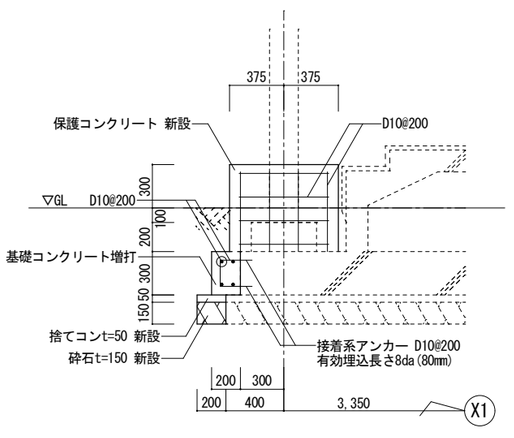
X-X 断面詳細図　S=1/50



Y-Y 断面詳細図　S=1/50







保護コンクリート新設部 部分詳細図　S=1/30

凡例

	改修範囲を示す
	撤去を示す
	カッター切を示す。

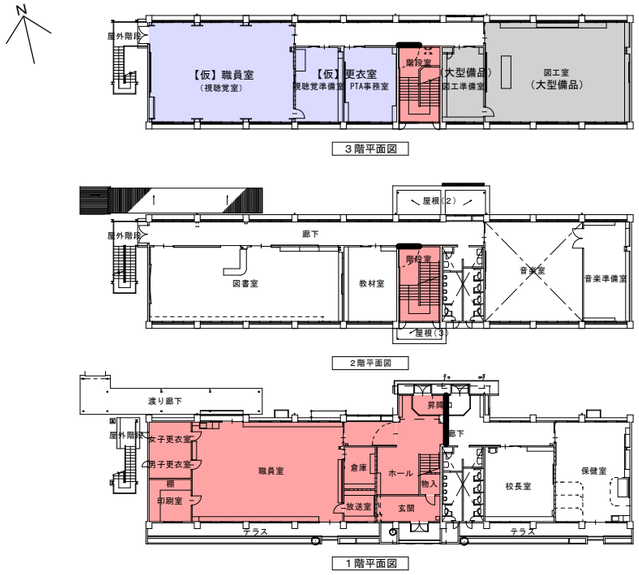
コンクリート	Fc=24N/mm2
鉄筋	SD295

事業年度　年度 工事完成　年度	設 計 令和　年　月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 西小学校長寿命化改修工事（建築主体工事）	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社　ＭａｓＭａｓ 一級建築士登録　第198542号 美野　健治　印	図面名称・縮尺　S=1/30, 1/50　(A3版-71%縮小) 屋外鉄骨階段改修図	図 番 S-06

【ＳＴＥＰ　１】

・３階：視聴覚室、準備室、PTA事務室の大型備品を全て図工室、準備室へ移動
・３階：視聴覚室、準備室、PTA事務室を、職員室、更衣室として仮使用
・１階：職員室の内装改修
・屋内階段改修（完了次第開放）

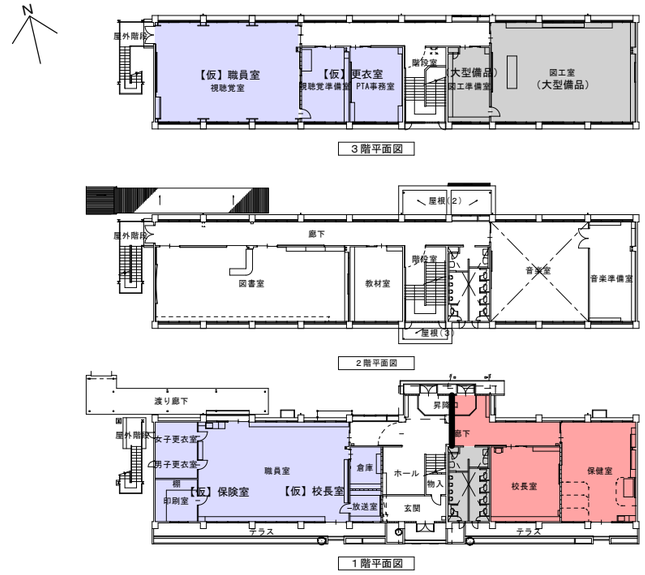
工期：１．５ヵ月　※屋内階段は夏季休暇中の工事とする



【ＳＴＥＰ　２】

・３階：STEP 2 を継続（屋内階段利用可能）
・１階：職員室を、校長室、保健室として仮使用
・１階：校長室、保健室の内装改修
・外部階段改修

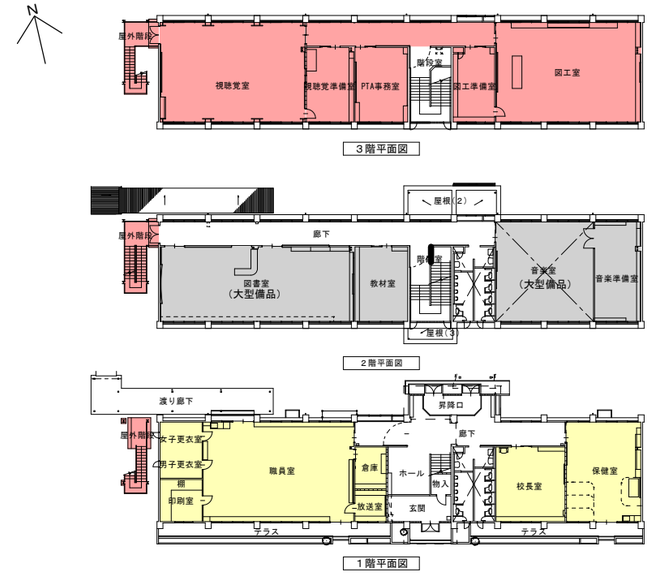
工期：１．０ヵ月



【ＳＴＥＰ　３】

・３階：内装改修
・２階：３階大型備品を２階図書室、音楽室へ移動
・１階：校長室、職員室、保健室を元に戻し、本使用
・外部階段改修

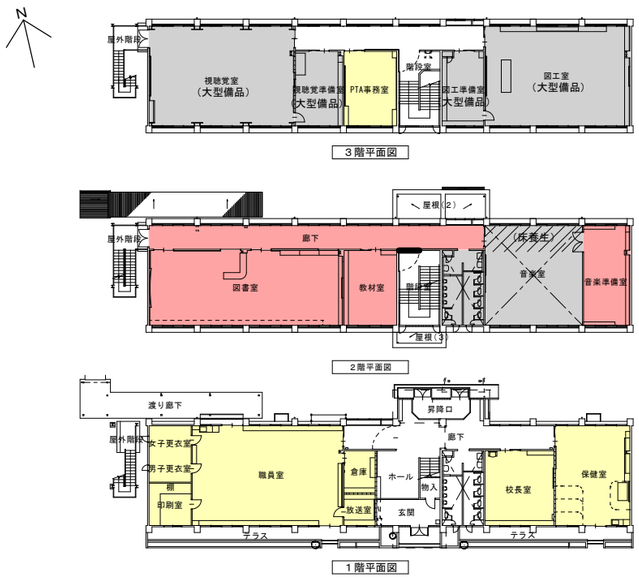
工期：１．５ヵ月



【ＳＴＥＰ　４】

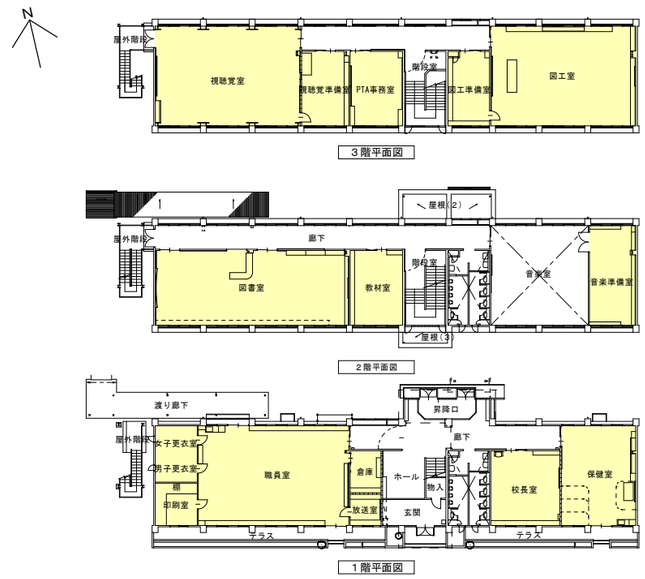
・３階：２階大型備品を３階視聴覚室、図工室へ移動
・３階：PTA事務室の本使用
・２階：内装改修
・１階：STEP 3 を継続

工期：１．５ヵ月



【ＳＴＥＰ　５】

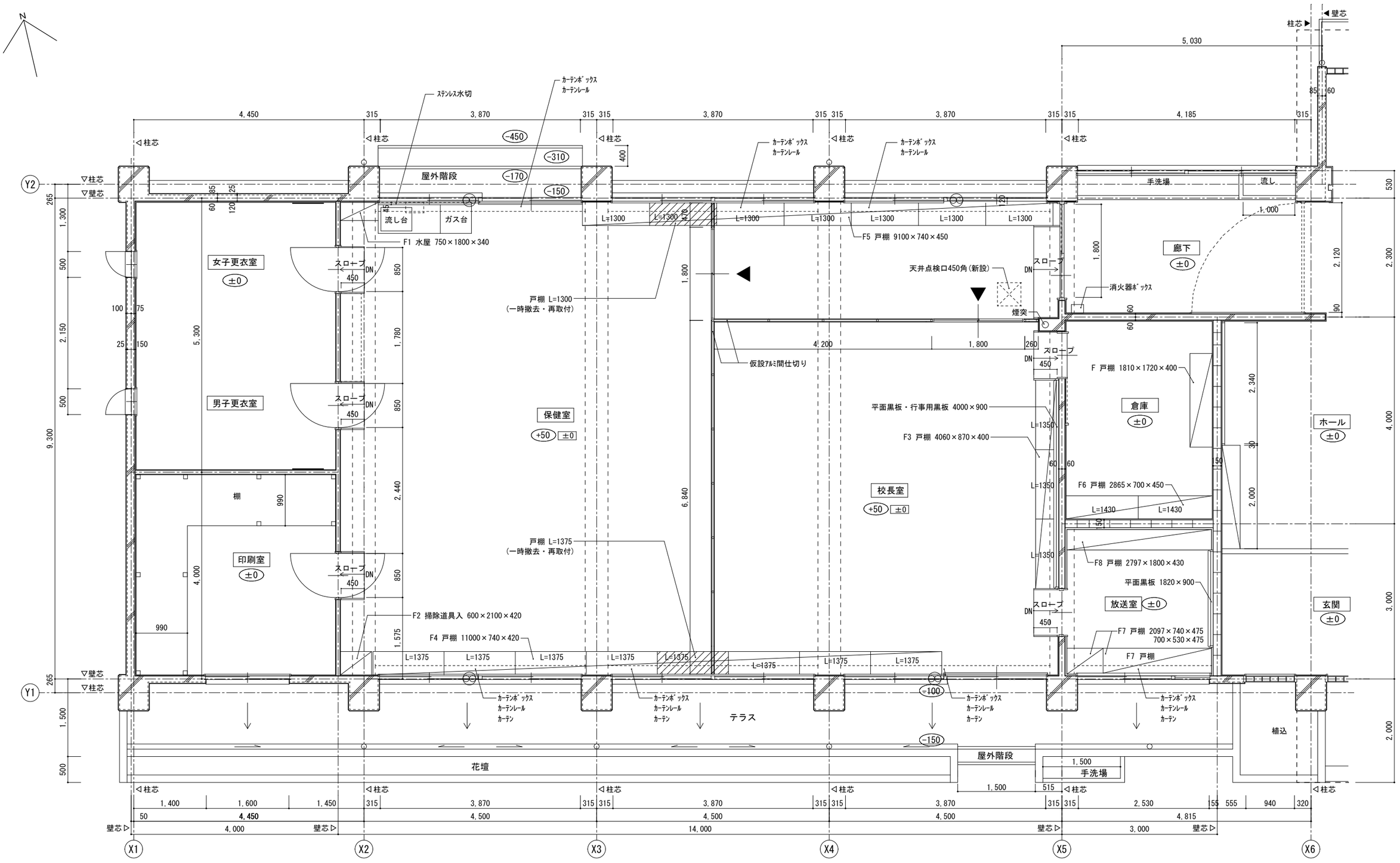
・各階の機能を戻し、各室を本使用



〈凡例〉

・　は改修工事対象室を示す
・　は移転先室を示す
・　は改修済み利用可能室を示す
・　は使用不可室を示す
・　は改修対象外を示す
・　は床養生範囲を示す
・　は仮設間仕切壁を示す

事業年度　年度 工事完成　年度	設計 令和　年　月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 西小学校長寿命化改修工事（建築主体工事）	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社　ＭａｓＭａｓ 一級建築士登録　第198542号 美野　健治　印	図面名称・縮尺　S=1/400　(A3版-71%縮小) 仮設計画ステップ図	図　番 K-01



1階平面詳細図 S=1/50

A
D 展開方向 B
C

凡例

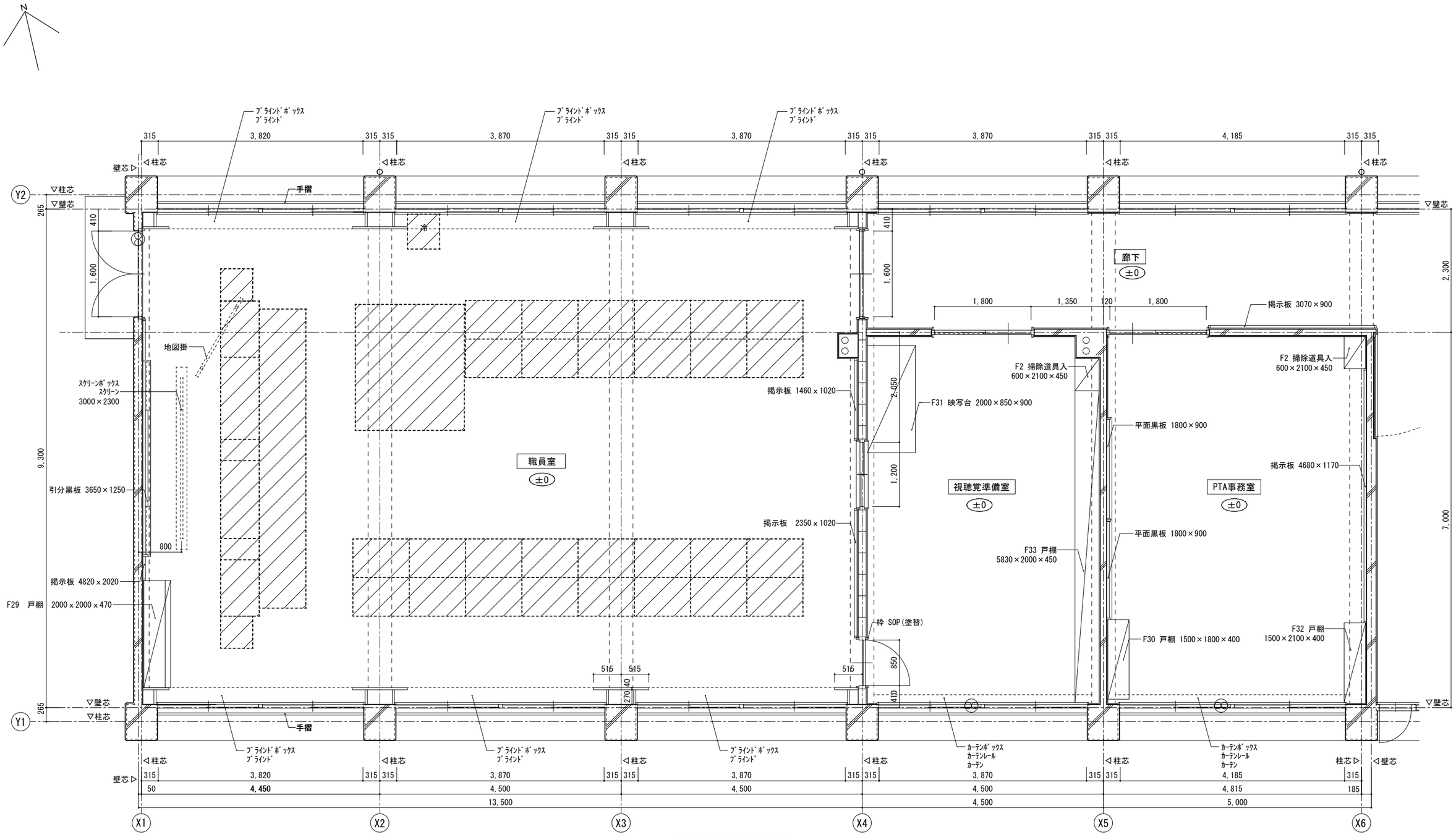
±0	FLからのレベルを示す。		一時撤去・再取付を示す
±0	既存床：FLからのレベルを示す。	▲	仮設間仕切 出入口

〈 特 記 〉

・配線ｶﾊﾞｰは撤去(設備工事)とすること。

〔 管理・特別教室棟 〕

事業年度 年度 工事完成 年度	設 計 令和 年 月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 西小学校長寿命化改修工事（建築主体工事）	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社 ＭａｓＭａｓ 一級建築士登録 第325897号 小松木 靖之	図面名称・縮尺 S=1/50 (A3版-71%縮小) （参考図） 1階平面詳細図(仮設図)	図 番 K-02



3階平面詳細図　S=1/50

凡例

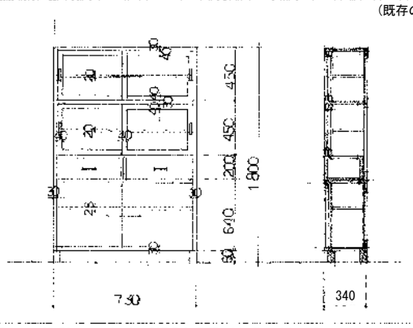
±0	FLからのレベルを示す。
	移設家具を示す。

〔 管理・特別教室棟 〕

事業年度　年度 工事完成　年度	設 計 令和 年 月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 西小学校長寿命化改修工事（建築主体工事）	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社　ＭａｓＭａｓ 一級建築士登録　第325897号 小松木 靖之	図面名称・縮尺　S=1/50　(A3版-71%縮小) （参考図）　３階職員室レイアウト図	図 番 K-03

F1 靴箱高

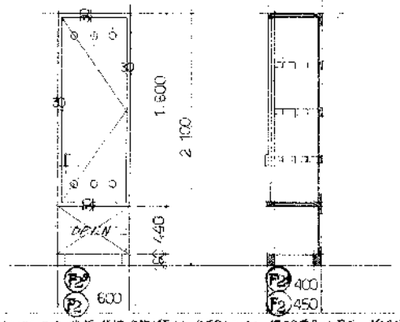
寸法数量		
730×1,800×340	1ケ所	(既存のまま)



主材ラワン練 最大30×60 割付図参照り 引部前部 扉上段1段可動型 全てポリ合成塗り
仕様は フラッシュ5. 前板は全て裏ルーバー付きとする 上部扉裏 鍵メモト入れ設置り
台輪60×60 レベルフム アキ、塩ビ、引手、掛金 下部扉裏フラッシュ製20 ガラス戸は のかりつ
は下段上ガラス張り

F2 教具室、表現教室、図書室、図工準備室、PTA準備室

寸法数量		
600×2,100×450	4ケ所	



主材60×30 天板、前張、背板 白版 補助桟 台輪60×60 棚板 適度 可動棚 ガラス
扉 框 25 下段 2枚建 上段 複層ガラス ガラス 設置上段ガラス 設置上段ガラス

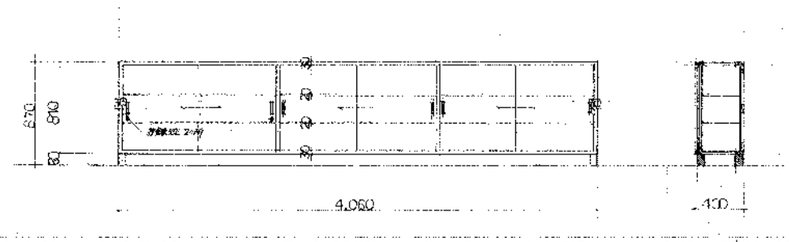
F2' 保健室 音楽準備室

寸法数量		
600×2,100×400	2ケ所	(既存のまま)

全てラワン材 材質 30×60 割付図参照り、天板、ポリ合成塗り 側板 仕切板、フラッシュ 棚板、底板 白版 背板 ラワン合板 補助桟 裏ルーバー付き 扉とする
側板 フラッシュ 表裏 スモ 引違戸 60×60、下部ヤトイ レール ステンレス製 2ヶ所 レール下端 段引き 扉上段引き 下部扉 床仕上げより 5mm 浮かせる

F3 教具庫

寸法数量		
4,060×870×400	1ケ所	(既存のまま)



全てラワン材 材質 30×60 割付図参照り、天板、ポリ合成塗り 側板 仕切板、フラッシュ 棚板、底板 白版 背板 ラワン合板 補助桟 裏ルーバー付き 扉とする
側板 フラッシュ 表裏 スモ 引違戸 60×60、下部ヤトイ レール ステンレス製 2ヶ所 レール下端 段引き 扉上段引き 下部扉 床仕上げより 5mm 浮かせる

F4 教具室

寸法数量		
11,000×740×420	1ケ所	

F5 教具室

寸法数量		
9,100×740×450	1ケ所	(既存のまま)

F6 倉庫

寸法数量		
2,865×700×450	1ケ所	(既存のまま)

F3 二段ズル

F3 二段ズル

F7 教室

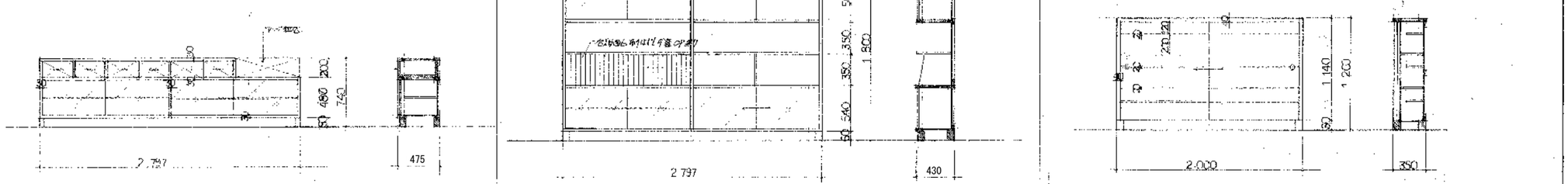
寸法数量		
2,797×710×475	1ケ所	(既存のまま)

F8 放送室

寸法数量		
2,797×1,800×430	1ケ所	(既存のまま)

F9 ホール

寸法数量		
2,000×1,200×350	1ケ所	(既存のまま)



F2 二段ズル 上段ガラス張り 下段扉 前板 金属 表面仕上げ

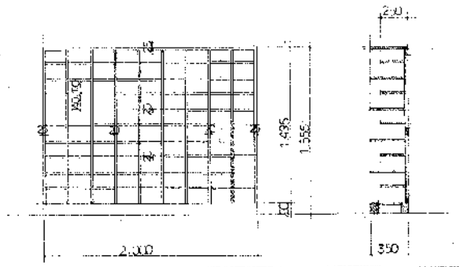
全てラワン材 材質 30×60 割付図参照り、中間棚はサブロク20 OPラワン合板 ニス塗り
天板 背板 ラワン合板 補強桟 60×60 扉 框 25 上段ガラス張り

全てラワン材 材質 30×60 割付図参照り、天板、前張、背板 ラワン合板 ニス塗り、ヤトイ 仕切板 60×60 ヤトイ棚 40×60 中棚 ランプフラッシュ 表裏 ポリ合成塗り 下段扉 框 25
前板 ラワン合板 補強桟 60×60 割付図参照り、石こうボード 9mm 貼り 上段 ガラス張り

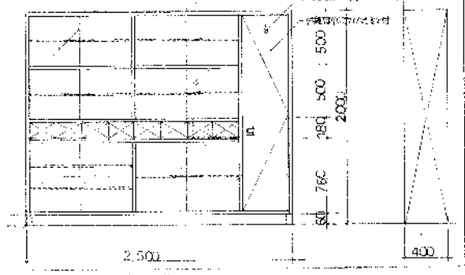
〔 管理・特別教室棟 〕

事業年度 年度 工事完成 年度	設計 令和 年 月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 西小学校長寿命化改修工事（建築主体工事）	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社 MasMas 一級建築士登録 第325897号 小松木 靖之	図面名称・縮尺 S=1/40 (A3版-71%縮小) 家具図（1）	図番 K-04

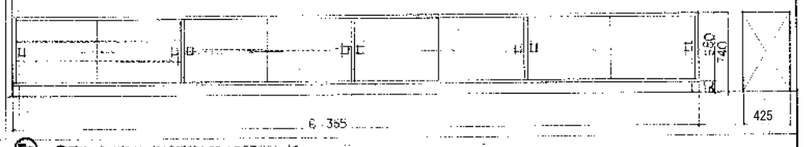
F10 掲示板
寸法数量 2,000×1,555×250　2ケ所（既存のまま）



F12 教室棚
寸法数量 2,500×2,000×400　1ケ所（既存のまま）



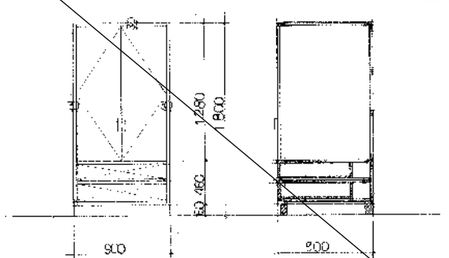
F13 教室棚
寸法数量 6,365×740×425　1ケ所（既存のまま）



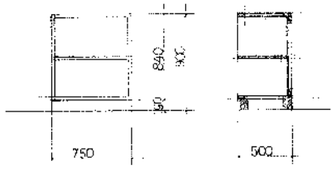
F8 出窓ボス　窓下張り全てを板張り

F3 二重ボス　全て既存窓枠取り外しスチール製取替えとする

F14 保健室
寸法数量 900×1,800×900　1ケ所（撤去済）

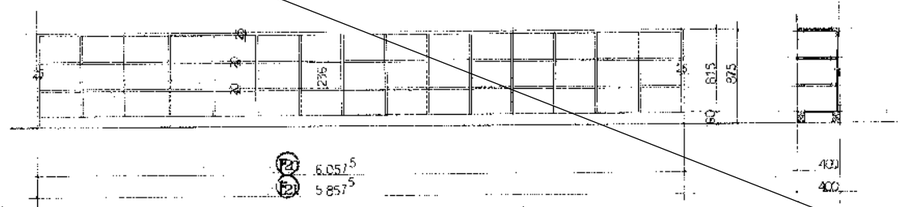


F17 保健室
寸法数量 750×900×500　1ケ所（既存のまま）

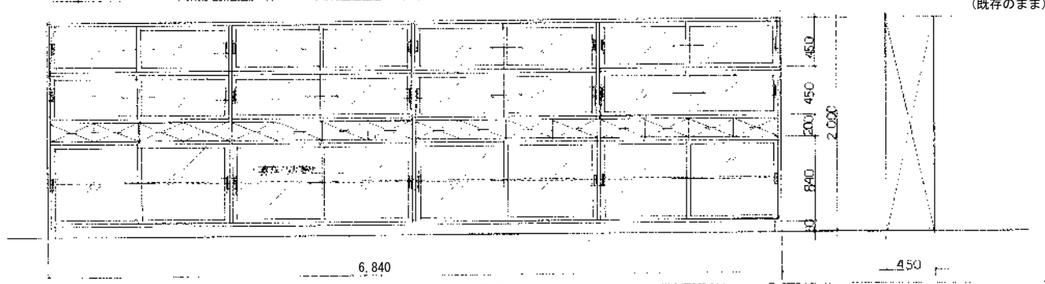


F20 管理準備室
寸法数量 6,057⁵×875×400　1ケ所

F21 準備室
寸法数量 5,857⁵×875×400　1ケ所（撤去済）

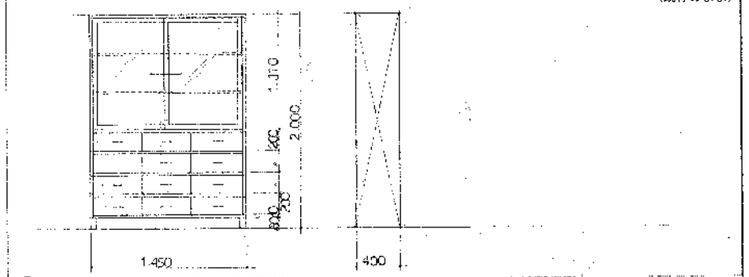


F22 教材室
寸法数量 6,840×2,000×450　1ケ所（既存のまま）



F1 二重ボス　窓下張り全て撤去取替え

F23 教材室
寸法数量 1,450×2,000×400　1ケ所（既存のまま）



F1 二重ボス　窓下張り全て撤去取替え

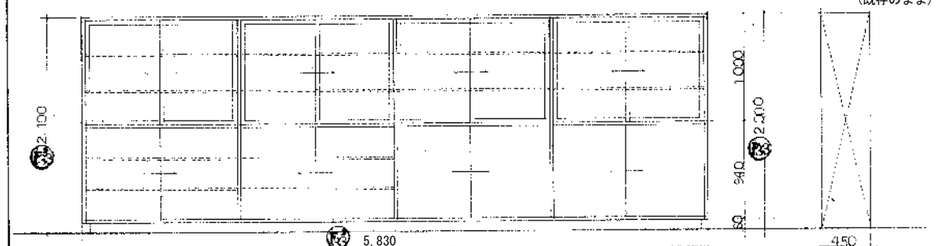
〔 管理・特別教室棟 〕

事業年度　年度 工事完成　年度	設計 令和 年 月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 西小学校長寿命化改修工事（建築主体工事）	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社 ＭａｓＭａｓ 一級建築士登録 第325897号 小松木 靖之	図面名称・縮尺 S=1/40 (A3版-71%縮小) 家具図（2）	図 番 K-05

〔 管理・特別教室棟 〕

事業年度　年度 工事完成　年度	設計 令和 年 月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 西小学校長寿命化改修工事（建築主体工事）	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社　ＭａｓＭａｓ 一級建築士登録　第325897号 小松木 靖之	図面名称・縮尺　S=1/40　(A3版-71%縮小) 家具図（3）	図 番 K-06

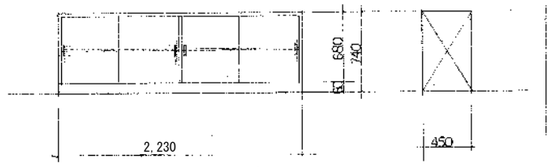
F3 図工準備室
寸法数量 5,770 × 2,000 × 430 1ケ所



F1 ニ部ズル 壁仕掛り全てズリ合板張り

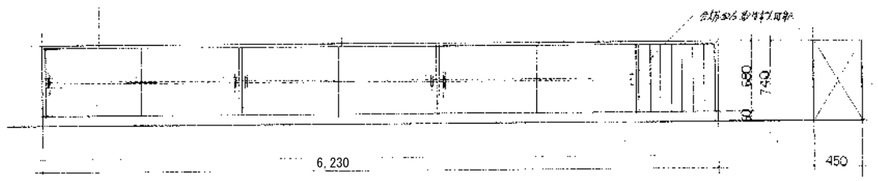
F4 視聴覚準備室
寸法数量 5,830 × 2,100 × 450 1ケ所
(既存のまま)

F2 図工室
寸法数量 2,230 × 740 × 450 1ケ所
(既存のまま)



F2 ニ部ズル 壁仕掛りモズリ合板張り

F3 図工室
寸法数量 6,230 × 740 × 450 1ケ所
(既存のまま)



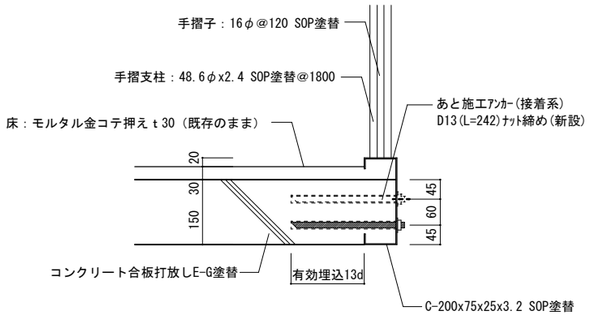
F3 ニ部ズル 壁仕掛りモズリ合板張り

F11	倉庫	棚板に 置 調	750×300×600	3ケ所	(撤去済)
F5	図書室	書架置	1200×800×520 DALTON SC-CU型	1ケ所	(既存のまま)
F6	図書室	書架置	1800×1800×520 DALTON SC-CU型	1ケ所	(既存のまま)
F14	図書室	学習机置	1200×1500×500	2ケ所	(撤去済)
F10	テレビ台	図書室 学習室 視聴覚室 保健室	800×570	10ケ所	(撤去済)
F13	カウンター	図書室	800×350×600 1500×850×600 DALTON LC-1型 カウンター	1ケ所	(既存のまま)

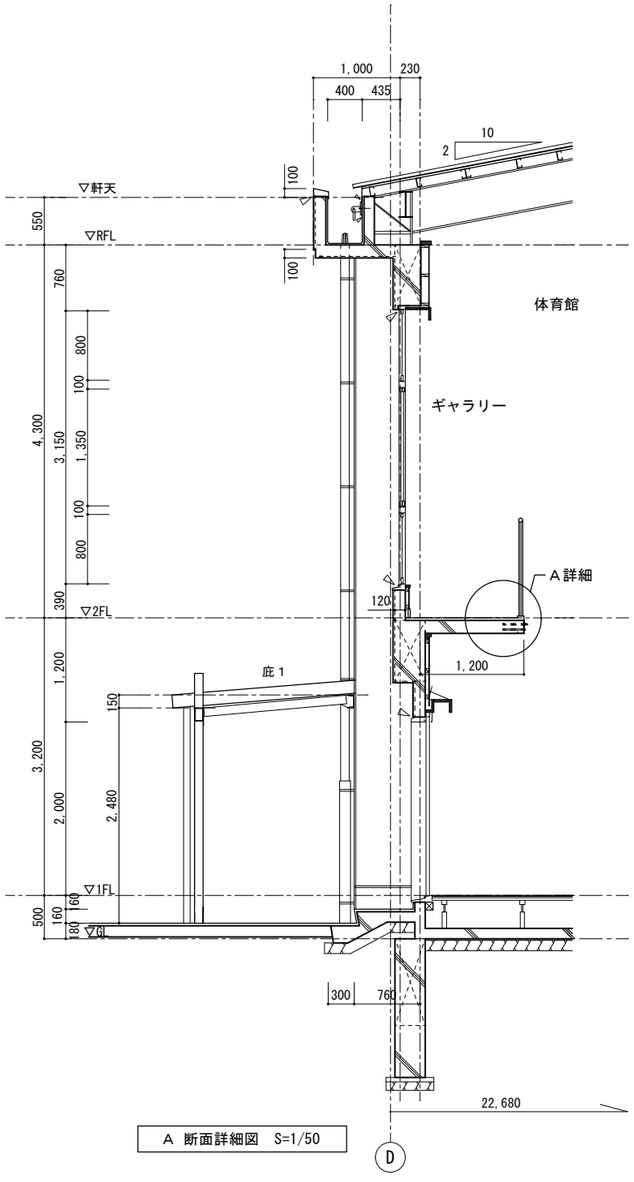
特記事項
・1製品毎はがセをアリ工法ですみ(床/壁に固定済み)

〔 管理・特別教室棟 〕

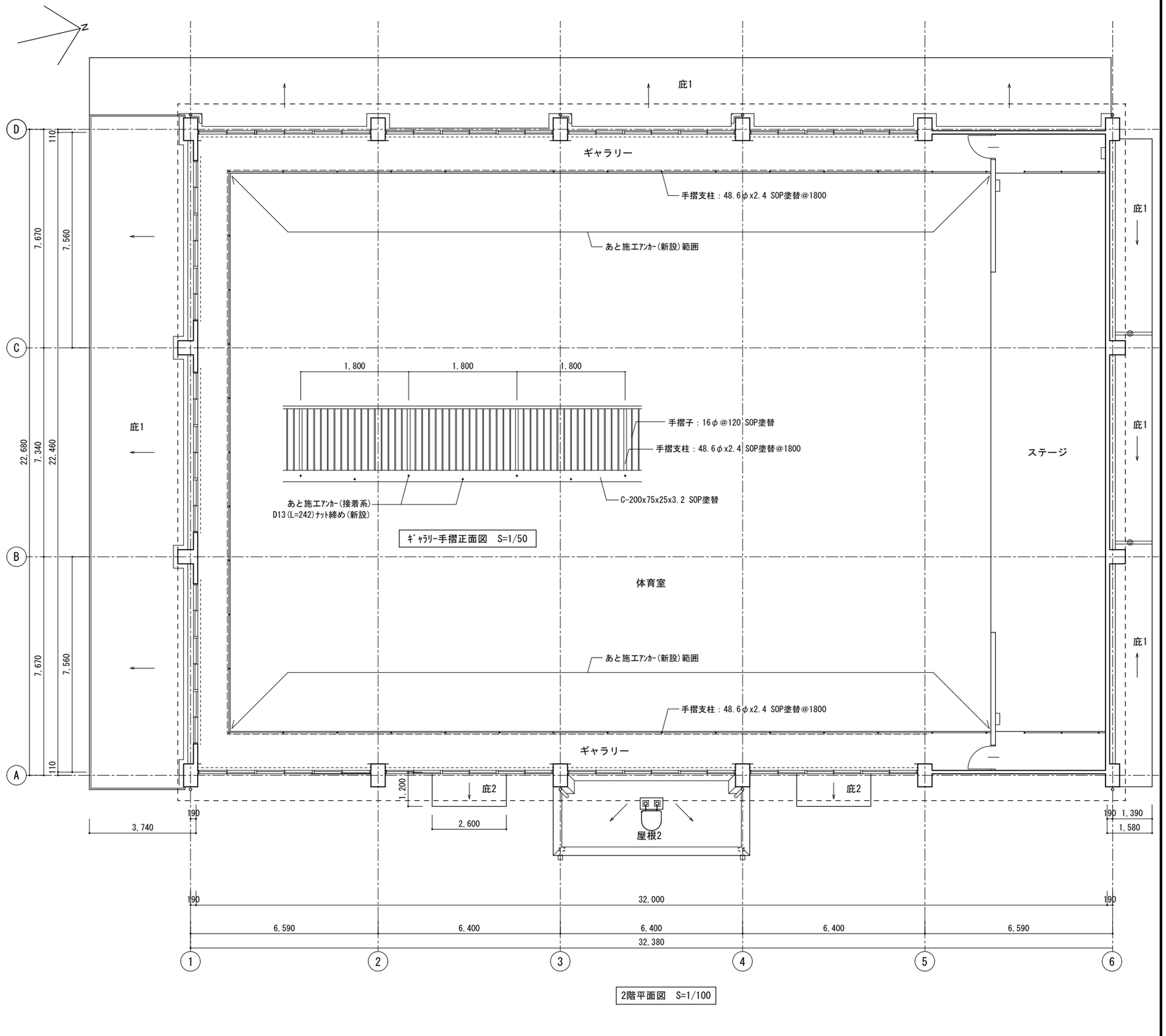
事業年度 年度 工事完成 年度	設計 令和 年 月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 西小学校長寿命化改修工事（建築主体工事）	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社 ＭａｓＭａｓ 一級建築士登録 第325897号 小松木 靖之	図面名称・縮尺 S=1/40 (A3版-71%縮小) 家具図（4）	図番 K-07



A詳細断面図　S=1/10



A 断面詳細図　S=1/50



2階平面図　S=1/100

〔 屋内運動場 〕

事業年度　年度 工事完成　年度	設 計 令和 年 月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 西小学校長寿命化改修工事（建築主体工事）	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社　ＭａｓＭａｓ 一級建築士登録　第325897号 小松木 靖之	図面名称・縮尺　S=1/10・1/50・1/100 (A3版-71%縮小) 手摺補強図	図 番 K-08

工事費内訳

名　　称	数　　量	単 位	金　　額	備　　考
直接工事費				
建築工事	1	式		
計				
共通費				
共通仮設費	1	式		
現場管理費	1	式		
一般管理費等	1	式		
計				
工事価格	1	式		
消費税等相当額	1	式		消費税率 10 %
工事費	1	式		
調査基準価格	1	式		
調査基準価格の100/110	1	式		

工事種別内訳

名　　称	数　　量	単 位	金　　額	備　　考
建築工事	1	式		
計				

建築工事　種目別内訳

名　　称	数　　量	単 位	金　　額	備　　考
西小学校　屋内運動場	1	式		
西小学校　特別教室棟　内部	1	式		
西小学校　特別教室棟　外部	1	式		
西小学校　屋外階段	1	式		
西小学校　受水槽	1	式		
計				

建築工事　科目別内訳

西小学校　屋内運動場

名　　称	数　　量	単 位	金　　額	備　　考
直接仮設	1	式		
屋根及びとい	1	式		
金属	1	式		
建具	1	式		
内外装	1	式		
ユニット及びその他	1	式		
防水改修	1	式		
外壁改修	1	式		
建具改修	1	式		
内装改修	1	式		
塗装改修	1	式		
解体	1	式		
発生材処理	1	式		
計				

建築工事　科目別内訳

西小学校　特別教室棟　内部

名　　称	数　　量	単 位	金　　額	備　　考
防水	1	式		
ﾀｲﾙ	1	式		
金属	1	式		
左官	1	式		
建具	1	式		
塗装	1	式		
ユニット及びその他	1	式		
内装改修	1	式		
解体	1	式		
発生材処理	1	式		
計				

建築工事　科目別内訳

西小学校　特別教室棟　外部

名　　称	数　　量	単 位	金　　額	備　　考
防水	1	式		
屋根及びとい	1	式		
金属	1	式		
塗装	1	式		
内外装	1	式		
防水改修	1	式		
外壁改修	1	式		
解体	1	式		
発生材処理	1	式		
計				

建築工事　科目別内訳

西小学校　屋外階段

名　　称	数　　量	単 位	金　　額	備　　考
土工	1	式		
地業	1	式		
鉄筋	1	式		
コンクリート	1	式		
型枠	1	式		
鉄骨	1	式		
防水	1	式		
金属	1	式		
塗装	1	式		
外壁改修	1	式		
解体	1	式		
発生材処理	1	式		
計				

建築工事　科目別内訳

西小学校　受水槽

名　　称	数　　量	単 位	金　　額	備　　考
土工	1	式		
地業	1	式		
鉄筋	1	式		
コンクリート	1	式		
型枠	1	式		
ユニット及びその他	1	式		
外構	1	式		
解体	1	式		
発生材処理	1	式		
計				

建築工事　中科目別内訳

西小学校　屋内運動場

科目名称	中科目名称	数量	単位	金額	備考
直接仮設		1	式		
計					
屋根及びとい	外部	1	式		
計					
金属	外部	1	式		
計					
建具	建具	1	式		
計					
内外装	外部	1	式		
計					
ユニット及びその他	ユニット及びその他	1	式		
計					
防水改修	防水改修	1	式		
計					
外壁改修	外壁改修	1	式		

建築工事　中科目別内訳

西小学校　屋内運動場

科目名称	中科目名称	数量	単位	金額	備考
計					
建具改修	建具改修	1	式		
計					
内装改修	内装改修	1	式		
計					
塗装改修	塗装改修	1	式		
計					
解体	解体	1	式		
計					
発生材処理	運搬	1	式		
発生材処理	処分	1	式		
計					

建築工事　中科目別内訳

西小学校　特別教室棟　内部

科目名称	中科目名称	数量	単位	金額	備考
防水		1	式		
計					
ﾀｲﾙ		1	式		
計					
金属		1	式		
計					
左官		1	式		
計					
建具		1	式		
計					
塗装		1	式		
計					
ユニット及びその他		1	式		
計					
内装改修		1	式		

建築工事　中科目別内訳

西小学校　特別教室棟　内部

科目名称	中科目名称	数量	単位	金額	備考
計					
解体		1	式		
計					
発生材処理	運搬	1	式		
発生材処理	処分	1	式		
計					

建築工事　中科目別内訳

西小学校　特別教室棟　外部

科目名称	中科目名称	数量	単位	金額	備考
防水		1	式		
計					
屋根及びとい		1	式		
計					
金属		1	式		
計					
塗装		1	式		
計					
内外装		1	式		
計					
防水改修		1	式		
計					
外壁改修		1	式		
計					
解体		1	式		

建築工事　中科目別内訳

西小学校　特別教室棟　外部

科目名称	中科目名称	数量	単位	金額	備考
計					
発生材処理	運搬	1	式		
発生材処理	処分	1	式		
計					

建築工事　中科目別内訳

西小学校　屋外階段

科目名称	中科目名称	数量	単位	金額	備考
土工		1	式		
計					
地業		1	式		
計					
鉄筋		1	式		
計					
コンクリート		1	式		
計					
型枠		1	式		
計					
鉄骨		1	式		
計					
防水		1	式		
計					
金属		1	式		

建築工事　中科目別内訳

西小学校　屋外階段

科目名称	中科目名称	数量	単位	金額	備考
計					
塗装		1	式		
計					
外壁改修		1	式		
計					
解体		1	式		
計					
発生材処理	運搬	1	式		
発生材処理	処分	1	式		
計					

建築工事　中科目別内訳

西小学校　受水槽

科　目　名　称	中　科　目　名　称	数　　量	単位	金　　額	備　　考
土工		1	式		
計					
地業		1	式		
計					
鉄筋		1	式		
計					
コンクリート		1	式		
計					
型枠		1	式		
計					
ユニット及びその他		1	式		
計					
外構		1	式		
計					
解体		1	式		

建築工事　中科目別内訳

西小学校　受水槽

科　目　名　称	中　科　目　名　称	数　　量	単位	金　　額	備　　考
計					
発生材処理	運搬	1	式		
発生材処理	処分	1	式		
計					

建築工事　細目別内訳

西小学校　屋内運動場　　直接仮設

名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
単管本足場(繋ぎ共)	W=500～600　7か月	3,224	㎡			
手すり	単管本足場用　7か月	241	m			
枠組本足場(手すり先行方式)	W=900　7か月	544	㎡			
枠組本足場(手すり先行方式)	W=600　7か月	86.9	㎡			
手すり	枠組本足場用　7か月	103	m			
ﾌﾞﾗｹｯﾄ足場	7か月	585	㎡			
足場外部養生ｼｰﾄ	7か月	3,321	㎡			
合板	t=5.5	246	㎡			
床養生ｼｰﾄ	5か月	246	㎡			
開口養生ｼｰﾄ	7か月	43.5	㎡			
枠付金網張り	H=1800　7か月	238	㎡			
合板足場板	t=35　2段　7か月	207	枚			
ｱﾙﾐ間仕切	KW-50SW　W15370*H2950*D50 保健室・校長室	1	式			
ｱﾙﾐ間仕切取付		1	式			
墨出し	一 般 RC･SRC造 地上階	1,934	㎡			

建築工事　細目別内訳

西小学校　屋内運動場　　直接仮設

名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
養生	一 般 RC･SRC造 地上階	1,934	㎡			
整理清掃 後片付け	一 般 RC･SRC造 地上階	1,934	㎡			
計						

建築工事　細目別内訳

西小学校　屋内運動場　　屋根及びとい　　外部

名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
掴み金物	ｽﾃﾝﾚｽ製	64	か所			
竪樋養生管	ｶﾗｰVP125φ	10	か所			
塩ﾋﾞ鋼板	t=0.8　ﾙｰﾌﾃﾞｯｷH=175 一時撤去再取付	207	㎡			
塩ﾋﾞ鋼板	t=0.6 一時撤去再取付	30.4	m			
折板用角樋	W=120 一時撤去再取付	4	か所			
軒樋	一時撤去再取付	82.1	m			
水切り金物		87.8	m			
計						

建築工事　細目別内訳

西小学校　屋内運動場　　金属　　外部

名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
改修用ﾙｰﾌﾄﾞﾚｲﾝ	100φ	8	か所			
床目地棒	ｽﾃﾝﾚｽ製 5×12	60.3	m			
ﾀﾗｯﾌﾟ	W=400　H=5800　ｽﾃﾝﾚｽ製 安全ｶﾞｰﾄﾞ付	1	か所			
鋼製床下地	体育室	120	㎡			
あと施工ｱﾝｶｰ(接着系)	D13　横向き　L=620mm	60	本			
計						

建築工事　細目別内訳

西小学校　屋内運動場　　建具　　建具

名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
清掃		48.1	㎡			
計						

建築工事　細目別内訳

西小学校　屋内運動場　　内外装　　外部

名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
防滑性ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄ	t=2.0	157	㎡			
床ﾀｲﾙ (階段用ﾀｲﾙ張り)	垂れ付き段鼻　Ⅰ類　　無ゆう 100㎜角　下地ﾓﾙﾀﾙ別途	95	m			
計						

建築工事　細目別内訳

西小学校　屋内運動場　　ユニット及びその他　　ユニット及びその他

名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
倉庫	4500*1800*2400　一時撤去再取付	1	か所			
倉庫	2220*1880*2100　一時撤去再取付	1	か所			
物置	一時撤去再取付	1	か所			
掛け時計	一時撤去再取付	1	か所			
額	2400*1200　一時撤去再取付	1	か所			
暗幕 15か所	一時撤去再取付	1	式			
防球ﾈｯﾄ	20000*7600　一時撤去再取付	3	か所			
防球ﾈｯﾄ	20000*4000　一時撤去再取付	1	か所			
防球ﾈｯﾄ	27000*4000　一時撤去再取付	2	か所			
助木	一時撤去再取付	1	か所			
舞台幕		1	式			
ﾗｲﾝ引き	ﾊﾞｽｹｯﾄﾎﾞｰﾙ　23*14m	1	面			
ﾗｲﾝ引き	ﾊﾞﾚｰﾎﾞｰﾙ6人制　18*9m	1	面			
ﾗｲﾝ引き	ｿﾌﾄﾊﾞﾚｰﾎﾞｰﾙ　13.4*6.1m	2	面			
計						

建築工事　細目別内訳

西小学校　屋内運動場　　防水改修　　防水改修

名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
高靭性ｳﾚﾀﾝ塗膜防水	密着工法（ｶﾗｰ	792	㎡			
ｳﾚﾀﾝ塗膜防水	X-2平部　下地調整材C-2共	118	㎡			
ｳﾚﾀﾝ塗膜防水	X-2立上部　下地調整材C-2共	184	㎡			
ｼｰﾘﾝｸﾞ	一般部 ﾎﾟﾘｳﾚﾀﾝ系(PU-2) 20×10	71.8	m			
ｼｰﾘﾝｸﾞ	一般部 ﾎﾟﾘｳﾚﾀﾝ系(PU-2) 20×10	256	m			
ｶﾞﾗｽとめ(ｼｰﾘﾝｸﾞ) (両面)	ｼﾘｺﾝ　　1成分形 SR-1 ｶﾞﾗｽ規格2.18㎡以下	79.1	㎡			
計						

建築工事　細目別内訳

西小学校　屋内運動場　　外壁改修　　外壁改修

名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
（屋根）						
水洗い	9MPa以上	301	㎡			
（立上）						
下地調整 改修仕様	ｺﾝｸﾘｰﾄ面 RB種(塗替え面)	166	㎡			
水洗い	9MPa以上	166	㎡			
ｼｰﾙ工法		33.2	m			
Ｂ－２ 打放し面Uｶｯﾄｼｰﾙ 材充填工法	1.0㎜以上　挙動　有り	82.9	m			
（外壁）						
防水形 複層塗材 E	ｺﾝｸﾘｰﾄ面　凹凸状　吹付け ｱｸﾘﾙ系 水系 つやあり 上塗2回 下地調整費(C-1)共	874	㎡			
水洗い	9MPa以上	873	㎡			
ｼｰﾙ工法		1,964	m			
Ｂ－２ 打放し面Uｶｯﾄｼｰﾙ 材充填工法	1.0㎜以上　挙動　有り	873	m			
（軒裏）						
可とう形 外装薄塗材 E	ｺﾝｸﾘｰﾄ面　砂壁状 吹付け 下地調整費(C-1)共	81.1	㎡			
下地調整	ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄﾍﾟｰｽﾄ	16.2	㎡			

建築工事　細目別内訳

西小学校　屋内運動場　　外壁改修　　外壁改修

名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
ｼｰﾙ工法		16.2	m			
Ｂ－２ 打放し面Uｶｯﾄｼｰﾙ 材充填工法	1.0㎜以上　挙動　有り	40.5	m			
充填工法	ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄﾓﾙﾀﾙ　鉄筋露出部	0.8	㎡			
充填工法	ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄﾓﾙﾀﾙ	4.1	㎡			
計						

建築工事　細目別内訳

西小学校　屋内運動場		建具改修			建具改修	
名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
（建具）						
SD1	ｶﾊﾞｰ工法　建具調整	1	か所			
SD2	建具調整	2	か所			
SW1	ｶﾊﾞｰ工法　建具調整	5	か所			
AW1	ｶﾊﾞｰ工法　ｱﾙﾐﾊﾟﾈﾙt=3.0共	3	か所			
AW2	建具調整	2	か所			
AW3	建具調整	1	か所			
AW4	建具調整	3	か所			
AW5a	ｶﾊﾞｰ工法	2	か所			
AW5a	建具調整	2	か所			
AW5b	ｶﾊﾞｰ工法	1	か所			
AW5b	建具調整	1	か所			
AW5c	ｶﾊﾞｰ工法	1	か所			
AW5c	建具調整	1	か所			
AW5d	ｶﾊﾞｰ工法	2	か所			

建築工事　細目別内訳

西小学校　屋内運動場　　建具改修　　建具改修

名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
AW5d	建具調整	1	か所			
AW5e	ｶﾊﾞｰ工法	1	か所			
AW5e	建具調整	1	か所			
AW6	建具調整	1	か所			
AW6a	ｶﾊﾞｰ工法	1	か所			
AW6a	建具調整	1	か所			
WD1	扉、引手、丁番、ｼﾘﾝﾀﾞｰ錠	4	か所			
WW1	建具調整	1	か所			
AG1	建具調整	4	か所			
ｼｰﾘﾝｸﾞ	一般部 変成ｼﾘｺｰﾝ系(MS-2) 15×10	243	m			
（塗装）						
DP塗	鉄鋼面　下地調整共	31	㎡			
ＳＯＰ塗り 改修仕様	鉄鋼面　　工程B塗料1種 錆止工程C種　　現場2回塗り 鉛･ｸﾛﾑﾌﾘｰ錆止め RB種(塗替え面)	39.5	㎡			
SOP塗	鉄鋼面　下地調整共　糸巾	222	m			
ＥＰ－Ｇ塗り 改修仕様	ﾓﾙﾀﾙ面 工程B種(一般) 下地調整RB種(塗替え面)	22.3	㎡			

建築工事　細目別内訳

西小学校　屋内運動場　　建具改修　　建具改修

名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
ＳＯＰ塗り 改修仕様	木部　　工程B塗料1種 －　　－ －　　RB種(塗替え面)	26	㎡			
(ｶﾞﾗｽ)						
強化ｶﾞﾗｽ	特 寸 厚さ5　4.0㎡以下 ｶﾞﾗｽとめ材別途 清掃別途	9.1	㎡			
計						

建築工事　細目別内訳

西小学校　屋内運動場　　内装改修　　内装改修

名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
複合化粧ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞ	t=15　体育室	120	㎡			
ｺﾝﾊﾟﾈ	t=12　体育室	120	㎡			
複合化粧ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞ	t=15　ｽﾃｰｼﾞ	94.6	㎡			
ｺﾝﾊﾟﾈ	t=12　ｽﾃｰｼﾞ	94.6	㎡			
計						

建築工事　細目別内訳

西小学校　屋内運動場　　塗装改修　　塗装改修

名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
（立上）						
壁 下地調整塗材 (基準単価)	C-2 厚1～2mm程度 こて塗り 塗装下地　ｺﾝｸﾘｰﾄ面	166	㎡			
ｺｰﾙﾀｰﾙ塗	鉄鋼面　下地調整共	0.5	㎡			
（外壁）						
DP塗	鉄鋼面　下地調整共	78.6	㎡			
（床）						
ｳﾚﾀﾝ樹脂塗装	3回塗仕上　下地調整共　体育室	598	㎡			
ｳﾚﾀﾝ樹脂塗装	3回塗仕上　下地調整共　ｽﾃｰｼﾞ	94.6	㎡			
ＳＯＰ塗り (糸幅300mm以下) 改修仕様	木部　　工程B種 下地調整RB種(塗替え面)	22.5	m			
（幅木）						
ＳＯＰ塗り (糸幅300mm以下) 改修仕様	木部　　工程B種 下地調整RB種(塗替え面)	115	m			
ＳＯＰ塗り (糸幅300mm以下) 改修仕様	木部　　工程B種 下地調整RB種(塗替え面)	14.9	m			
（壁）						
OSCL塗	木部　下地調整共	192	㎡			
木部 ＥＰ－Ｇ塗り 改修仕様	工程B種 下地調整RB種(塗替え面)	602	㎡			

建築工事　細目別内訳

西小学校　屋内運動場　　塗装改修　　塗装改修

名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
ＥＰ－Ｇ塗り 改修仕様	ﾓﾙﾀﾙ面 工程B種(一般) 下地調整RB種(塗替え面)	46.6	㎡			
（天井）						
ＥＰ－Ｇ塗り 改修仕様	ｺﾝｸﾘｰﾄ面 工程B種(見上) 下地調整RB種(塗替え面)	94.7	㎡			
ＥＰ－Ｇ塗り 改修仕様	成形ｾﾒﾝﾄ板面 工程B種(見上) 下地調整RB種(塗替え面)	19.6	㎡			
（梁型）						
ＥＰ－Ｇ塗り 改修仕様	ﾓﾙﾀﾙ面 工程B種(一般) 下地調整RB種(塗替え面)	3.6	㎡			
（雑）						
ＳＯＰ塗り 改修仕様	鉄鋼面　　工程B塗料1種 錆止工程C種　　現場2回塗り 鉛・ｸﾛﾑﾌﾘｰ錆止め　RB種(塗替え面)	144	㎡			
ＳＯＰ塗り 改修仕様	木部　　工程B塗料1種 －　　－ －　　RB種(塗替え面)	264	㎡			
ＳＯＰ塗り (糸幅300㎜以下) 改修仕様	木部　　工程B種 下地調整RB種(塗替え面)	727	m			
ＳＯＰ塗り 改修仕様	木部　　工程B塗料1種 －　　－ －　　RB種(塗替え面)	2.2	㎡			
OSCL塗	木部　下地調整共　糸巾	65.6	m			
ＳＯＰ塗り 改修仕様	鉄鋼面　　工程B塗料1種 錆止工程C種　　現場2回塗り 鉛・ｸﾛﾑﾌﾘｰ錆止め　RB種(塗替え面)	67	㎡			
SOP塗	鉄鋼面下地調整共　糸巾	242	m			
計						

建築工事　細目別内訳

西小学校　屋内運動場　　解体　　解体

名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
吊縄	ﾚｰﾙ共	1	か所			
ﾘｼﾝ吹付 外壁,軒裏	下地調整材【ｱｽﾍﾞｽﾄ含有】	1	式			
既存防水層撤去	屋上防水層 ｼｰﾄ防水層　　集積共	225	㎡			
ｼｰﾘﾝｸﾞ撤去	集積共	256	m			
ｼｰﾘﾝｸﾞ撤去	集積共	71.8	m			
ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄ撤去	集積共	157	㎡			
床・縁甲板 ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞ撤去	集積共	94.6	㎡			
床下地板撤去	集積共	94.6	㎡			
SD1	両開き扉、丁番、ﾌﾗﾝｽ落とし、ｼﾘﾝ	1	か所			
SW1	引分け戸、戸車、ｽﾃﾝﾚｽ引手、錠	5	か所			
AW1	扉、標準金物一式	3	か所			
AW5a	引違い窓、戸車、ｱﾝｸﾞﾙﾋﾟｰｽ、ｸﾚｾﾝ	2	か所			
AW5b	引違い窓、戸車、ｱﾝｸﾞﾙﾋﾟｰｽ、ｸﾚｾﾝ	1	か所			
AW5c	引違い窓、戸車、ｱﾝｸﾞﾙﾋﾟｰｽ、ｸﾚｾﾝ	1	か所			
AW5d	引違い窓、戸車、ｱﾝｸﾞﾙﾋﾟｰｽ、ｸﾚｾﾝ	1	か所			

建築工事　細目別内訳

西小学校　屋内運動場　　解体　　解体

名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
AW5e	引違い窓、戸車、ｱﾝｸﾞﾙﾋﾟｰｽ、ｸﾚｾﾝ	1	か所			
AW6a	引違い窓、戸車、ｱﾝｸﾞﾙﾋﾟｰｽ、ｸﾚｾﾝ	1	か所			
WD1	扉、引手、丁番、ｼﾘﾝﾀﾞｰ錠	4	か所			
ｼｰﾘﾝｸﾞ撤去	集積共	361	m			
床ﾀｲﾙ撤去	下地ﾓﾙﾀﾙ共 集積共	3.42	㎡			
たてどい撤去	鋼管 集積共	7.2	m			
木製幅木撤去	集積共	32.2	m			
掴み金物		64	か所			
木製幅木撤去	集積共	15.8	m			
計						

建築工事　細目別内訳

西小学校　屋内運動場　　発生材処理　　運搬

名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
とりこわし 発生材運搬	ﾀﾞﾝﾌﾟﾄﾗｯｸ　2t積級 人力積込　無筋ｺﾝｸﾘｰﾄ類 DID区間無し 11.0km以下	10.3	m3			
とりこわし 発生材運搬	ﾀﾞﾝﾌﾟﾄﾗｯｸ　2t積級 人力積込　無筋ｺﾝｸﾘｰﾄ類 DID区間無し 11.0km以下	0.9	m3			
とりこわし 発生材運搬	ﾀﾞﾝﾌﾟﾄﾗｯｸ　2t積級 人力積込　無筋ｺﾝｸﾘｰﾄ類 DID区間無し 11.0km以下	0.1	m3			
とりこわし 発生材運搬	ﾀﾞﾝﾌﾟﾄﾗｯｸ　2t積級 人力積込　木材類 DID区間有り 10.5km以下	2.8	m3			
とりこわし 発生材運搬	ﾀﾞﾝﾌﾟﾄﾗｯｸ　2t積級 人力積込　無筋ｺﾝｸﾘｰﾄ類 DID区間無し 11.0km以下	0.01	m3			
発生材積込み	ｺﾝｸﾘｰﾄ類　人力	10.3	m3			
発生材積込み	ｺﾝｸﾘｰﾄ類　人力	0.9	m3			
発生材積込み	ｺﾝｸﾘｰﾄ類　人力	0.1	m3			
発生材積込み	ﾎﾞｰﾄﾞ・木材類 人力	2.8	m3			
発生材積込み	ｺﾝｸﾘｰﾄ類　人力	0.01	m3			
計						

建築工事　細目別内訳

西小学校　屋内運動場　　発生材処理　　処分

名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
発生材処分	金属くず	10.3	m3			
発生材処分	廃ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ	0.9	m3			
発生材処分	ｶﾞﾗｽ	0.1	m3			
発生材処分	木くず	2.8	m3			
発生材処分	がれき類	0.01	m3			
計						

建築工事　細目別内訳

西小学校　特別教室棟　内部　　防水

名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
ｼｰﾘﾝｸﾞ	一般部 変成ｼﾘｺｰﾝ系(MS-2) 10×10	636	m			
計						

建築工事　細目別内訳

西小学校　特別教室棟　内部　　ﾀｲﾙ

名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
床ﾀｲﾙ張り	一般床ﾀｲﾙ張　Ⅰ類　　無ゆう 100㎜角　下地ﾓﾙﾀﾙ別途	0.9	㎡			
計						

建築工事　細目別内訳

西小学校　特別教室棟　内部　　金属

名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
くつずり	ｽﾃﾝﾚｽ製 厚さ2.0 幅40	5.9	m			
階段滑り止め	ｽﾃﾝﾚｽ製 ｴﾝﾄﾞ無し　幅40	91	m			
流し台補修	天板　1800*500*30	1	台			
流し台補修	天板　1411*500*30	1	台			
流し台補修	天板　2420*500*30	1	台			
流し台補修	手洗いｼﾝｸ　2100*500*200	2	台			
計						

建築工事　細目別内訳

西小学校　特別教室棟　内部　　左官

名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
下地調整費	ｺﾝｸﾘｰﾄ面　屋内外 C-1	728	㎡			
床ﾓﾙﾀﾙ塗り	金ごて ﾓﾙﾀﾙ仕上げ　　厚30	1	㎡			
床ﾓﾙﾀﾙ塗り	ﾓﾙﾀﾙ仕上げ　　厚30	0.1	㎡			
計						

建築工事　細目別内訳

西小学校　特別教室棟　内部　　建具

名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
AW1	建具調整	1	か所			
AW2	建具調整	2	か所			
AW2a	建具調整	1	か所			
AW3	建具調整	8	か所			
AW3’	建具調整	8	か所			
AW3a’	建具調整	1	か所			
AW4	建具調整	1	か所			
AW5	建具調整	1	か所			
AW6	建具調整	4	か所			
AW7	建具調整	1	か所			
AW8	建具調整	1	か所			
AW8’	建具調整	1	か所			
AW9	建具調整	1	か所			
AW10	建具調整	1	か所			
AW11	建具調整	2	か所			

建築工事　細目別内訳

西小学校　特別教室棟　内部　　建具

名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
AW11’	建具調整	3	か所			
AW12	建具調整	1	か所			
AW12’	建具調整	3	か所			
AW13	建具調整	1	か所			
AW14	建具調整	2	か所			
AW15	建具調整	2	か所			
AW15’	建具調整	6	か所			
AW16	建具調整	2	か所			
AW17	建具調整	1	か所			
AW17’	建具調整	1	か所			
AW17a’	建具調整	1	か所			
AW18	建具調整	2	か所			
AW19	建具調整	1	か所			
AG1	建具調整	1	か所			
AG1’	建具調整	1	か所			

建築工事　細目別内訳

西小学校　特別教室棟　内部　　建具

名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
AK1	建具調整	2	か所			
AD1	建具調整	1	か所			
WW1	建具調整	1	か所			
WW2	建具調整	1	か所			
WW3	建具調整	1	か所			
WW4	建具調整	1	か所			
WD1	扉,建具調整	4	か所			
WD2	建具調整	1	か所			
WD3	建具調整	1	か所			
WD4	建具調整	1	か所			
SD1		1	か所			
SD2		1	か所			
SD3	建具調整	1	か所			
SD5	建具調整	1	か所			
SD6	建具調整	1	か所			

建築工事　細目別内訳

西小学校　特別教室棟　内部　　建具

名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
SD7	建具調整	2	か所			
SD8		1	か所			
SD10		1	か所			
SW1	建具調整	6	か所			
SW1’	建具調整	1	か所			
SW2	建具調整	2	か所			
SW2a	建具調整	2	か所			
SW3	建具調整	1	か所			
SW4	建具調整	1	か所			
SS1	建具調整	1	か所			
SS2	建具調整	1	か所			
SW1a		1	か所			
SW1b		1	か所			
SW1c		1	か所			
清掃		407	㎡			

建築工事　細目別内訳

西小学校　特別教室棟　内部　　建具

名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
計						

建築工事　細目別内訳

西小学校　特別教室棟　内部　　塗装

名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
ＳＯＰ塗り 改修仕様	木部　　工程B塗料1種 －　　－ －　　RB種(塗替え面)	86.9	㎡			
ＳＯＰ塗り 改修仕様	木部　　工程B種 塗料1種 － 下地RB種(塗替え面)	13.7	㎡			
ＳＯＰ塗り (糸幅300㎜以下) 改修仕様	木部　　工程B種 下地調整RB種(塗替え面)	1,351	m			
SOP塗装	鉄鋼面RB種	125.4	m			
ＥＰ－Ｇ塗り 改修仕様	ﾓﾙﾀﾙ面　　工程B種(一般) 下地調整RB種(塗替え面)	1,754.1	㎡			
ＥＰ－Ｇ塗り 改修仕様	ﾓﾙﾀﾙ面　　工程B種(見上) 下地調整RB種(塗替え面)	136	㎡			
ＥＰ－Ｇ塗り 改修仕様	ﾎﾞｰﾄﾞ面　　工程B種(一般) 下地調整RB種(塗替え面)	60.8	㎡			
ＥＰ塗り 改修仕様	ﾎﾞｰﾄﾞ面　　工程B種(見上) 下地調整RB種(塗替え面)	681	㎡			
ＯＳ塗り (糸幅300㎜以下) 改修仕様	木部 下地調整RB種(塗替え面)	33.4	m			
DP塗装	鉄鋼面RB種	163	m			
複層塗材 Si	ｺﾝｸﾘｰﾄ面　凹凸状　吹付け ｱｸﾘﾙ系 水系 つやあり 上塗2回 下地調整費(C-1)共	70.7	㎡			
計						

建築工事　細目別内訳

西小学校　特別教室棟　内部　　ユニット及びその他

名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
流し台	L=1,050	1	か所			
ｶﾞｽ台	L=600	1	か所			
ｼｰﾘﾝｸﾞ（基準単価）	変成ｼﾘｺｰﾝ(2成分形) MS-2 10×10	1.9	m			
校歌額	900*600*80　一時撤去・再取付	1	か所			
額	910*1,840　一時撤去・再取付	1	か所			
額	600*900　一時撤去・再取付	2	か所			
ｱﾙﾐ格子	3,950*800　一時撤去・再取付	2	か所			
消火器ﾎﾞｯｸｽ	一時撤去・再取付	5	か所			
SUS手洗場	一時撤去・再取付	1	か所			
階段手摺	一時撤去・再取付	19.9	m			
額	一時撤去・再取付	1	か所			
担架ﾎﾞｯｸｽ	一時撤去・再取付	1	か所			
ｶｰﾃﾝ	一時撤去・再取付	31	枚			
吊りｶｰﾃﾝﾚｰﾙ	一時撤去・再取付	13.6	m			
金庫	一時撤去・再取付	1	か所			

建築工事　細目別内訳

西小学校　特別教室棟　内部　　ユニット及びその他

名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
ﾌﾞﾗｲﾝﾄﾞ	一時撤去・再取付	14	か所			
ｶｰﾃﾝﾚｰﾙ	一時撤去・再取付	1	本			
男子便所ﾋﾟｸﾄｻｲﾝ		1	か所			
女子便所ﾋﾟｸﾄｻｲﾝ		1	か所			
室名札	平付	6	か所			
室名札	片持	6	か所			
VOC検査		5	か所			
計						

建築工事　細目別内訳

西小学校　特別教室棟　内部　　内装改修

名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
帯電防止ﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙ	t=5.0	234	㎡			
ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄ	無 地 厚さ2.5 複層ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄFS 一般床 突付け	615	㎡			
床ﾀｲﾙｶｰﾍﾟｯﾄ	総厚6.5 500角 1種ﾙｰﾌﾟﾊﾟｲﾙ 一般事務室用	37.2	㎡			
鋼製床組	H=100	121	㎡			
鋼製床組	H=50	113	㎡			
ﾋﾞﾆﾙ幅木	高さ60	28.7	m			
ｼｰﾙ工法		180	m			
Ｂ－６ ﾓﾙﾀﾙ面Uｶｯﾄｼｰﾙ材 注入工法	1.0㎜以上　挙動　有り	450	m			
充填工法	ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄﾓﾙﾀﾙ	18	㎡			
軽量鉄骨天井下地	19形(屋内) ふところ1.5m未満 下地張りなし @300 ｲﾝｻｰﾄ別途	10.1	㎡			
天井　化粧 せっこうﾎﾞｰﾄﾞ 張り(GB-D)	厚 9.5　準不燃 ﾄﾗﾊﾞｰﾁﾝ 突付け	10.1	㎡			
天井　吸音用 あなあきせっこう ﾎﾞｰﾄﾞ張り(GB-P)	厚 9.5　φ6-22 不燃紙裏打(準不燃) 突付け	3.7	㎡			
水洗い工法	9MPa以上	11.6	m			
水洗い工法	9MPa以上	1.7	m			
ｽﾛｰﾌﾟ	W1,755*D450	1	か所			

建築工事　細目別内訳

西小学校　特別教室棟　内部　　内装改修

名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
ｽﾛｰﾌﾟ	W880*D450	4	か所			
ﾋﾞﾆﾙｸﾛｽ	壁	46.7	㎡			
ﾋﾞﾆﾙｸﾛｽ	梁型,天井	45.2	㎡			
天井点検口	一般ﾀｲﾌﾟ ｱﾙﾐ製 内外枠共額縁 450角	9	個			
計						

建築工事　細目別内訳

西小学校　特別教室棟　内部　　解体

名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
ｶｯﾀｰ入れ	ﾓﾙﾀﾙ面　厚さ20～30㎜	51.5	m			
ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄ撤去	集積共	730	㎡			
木製幅木撤去	集積共	5.9	m			
木製幅木撤去	集積共	91	m			
床ﾀｲﾙ撤去	下地ﾓﾙﾀﾙ共 集積共	0.9	㎡			
ﾀｲﾙｶｰﾍﾟｯﾄ撤去	集積共	37.2	㎡			
床・縁甲板 ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞ撤去	集積共	121	㎡			
床組撤去	つか立て 集積共	121	㎡			
床ﾓﾙﾀﾙ・床人研ぎ 撤去	集積共	1	㎡			
天井下地撤去	集積共	10.1	㎡			
天井合板・ﾎﾞｰﾄﾞ 撤去	一重張り 石綿含有 集積共	10.1	㎡			
壁ｸﾛｽ撤去	集積共	46.7	㎡			
天井ｸﾛｽ撤去	集積共	45.2	㎡			
木製幅木撤去	集積共	28.7	m			
天井合板・ﾎﾞｰﾄﾞ 撤去	一重張り 一般 集積共	3.7	㎡			

建築工事　細目別内訳

西小学校　特別教室棟　内部　　解体

名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
流し台	L=1,050	1	か所			
ｶﾞｽ台	L=600	1	か所			
鋼製戸撤去	両開き戸 扉のみ 集積共	3.2	㎡			
鋼製戸撤去	両開き戸 扉のみ 集積共	3.2	㎡			
木製戸撤去	片開き戸 扉のみ 集積共	4.59	㎡			
鋼製戸撤去	両開き戸 扉のみ 集積共	3.2	㎡			
鋼製戸撤去	片開き戸 扉のみ 集積共	4	㎡			
鋼製戸撤去	片開き戸 扉のみ 集積共	4	㎡			
鋼製戸撤去	片開き戸 扉のみ 集積共	4	㎡			
男子便所ﾋﾟｸﾄｻｲﾝ		1	か所			
女子便所ﾋﾟｸﾄｻｲﾝ		1	か所			
室名札	平付	6	か所			
室名札	片持	6	か所			
計						

建築工事　細目別内訳

西小学校　特別教室棟　内部　　発生材処理　　運搬

名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
とりこわし 発生材運搬	ﾀﾞﾝﾌﾟﾄﾗｯｸ　2t積級 人力積込　無筋ｺﾝｸﾘｰﾄ類 DID区間有り　10.5km以下	2.1	m3			
とりこわし 発生材運搬	ﾀﾞﾝﾌﾟﾄﾗｯｸ　2t積級 人力積込　無筋ｺﾝｸﾘｰﾄ類 DID区間有り　10.5km以下	1.7	m3			
とりこわし 発生材運搬	ﾀﾞﾝﾌﾟﾄﾗｯｸ　2t積級 人力積込　無筋ｺﾝｸﾘｰﾄ類 DID区間有り　10.5km以下	0.03	m3			
とりこわし 発生材運搬	ﾀﾞﾝﾌﾟﾄﾗｯｸ　2t積級 人力積込　無筋ｺﾝｸﾘｰﾄ類 DID区間有り　10.5km以下	0.01	m3			
とりこわし 発生材運搬	ﾀﾞﾝﾌﾟﾄﾗｯｸ　2t積級 人力積込　木材類 DID区間有り　10.5km以下	0.7	m3			
とりこわし 発生材運搬	ﾀﾞﾝﾌﾟﾄﾗｯｸ　10t積級 ﾊﾞｯｸﾎｳ0.45m3 木材類 DID区間有り　12.0km以下	62	m3			
とりこわし 発生材運搬	ﾀﾞﾝﾌﾟﾄﾗｯｸ　2t積級 人力積込　石こうﾎﾞｰﾄﾞ類 DID区間有り　10.5km以下	0.03	m3			
とりこわし 発生材運搬	ﾀﾞﾝﾌﾟﾄﾗｯｸ　2t積級 人力積込　石こうﾎﾞｰﾄﾞ類 DID区間有り　10.5km以下	0.04	m3			
発生材積込み	ｺﾝｸﾘｰﾄ類　人力	2.1	m3			
発生材積込み	ｺﾝｸﾘｰﾄ類　人力	1.7	m3			
発生材積込み	ｺﾝｸﾘｰﾄ類　人力	0.03	m3			
発生材積込み	ｺﾝｸﾘｰﾄ類　人力	0.01	m3			
発生材積込み	ﾎﾞｰﾄﾞ・木材類　人力	0.7	m3			
発生材積込み	ﾎﾞｰﾄﾞ・木材類　人力	62	m3			
発生材積込み	ﾎﾞｰﾄﾞ・木材類　人力	0.03	m3			

建築工事　細目別内訳

西小学校　特別教室棟　内部　　発生材処理　　運搬

名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
発生材積込み	ﾎﾞｰﾄﾞ・木材類 人力	0.04	m3			
計						

建築工事　細目別内訳

西小学校　特別教室棟　内部　　発生材処理　　処分

名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
発生材処分	廃ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ	2.1	m3			
発生材処分	金属くず	1.7	m3			
発生材処分	がれき類	0.03	m3			
発生材処分	ｶﾞﾗｽくず	0.01	m3			
発生材処分	繊維くず	0.7	m3			
発生材処分	木くず	62	m3			
発生材処分	ﾎﾞｰﾄﾞ類	0.03	m3			
発生材処分	ﾎﾞｰﾄﾞ類(ｱｽﾍﾞｽﾄ含有)	0.04	m3			
計						

建築工事　細目別内訳

西小学校　特別教室棟　外部　　防水

名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
ｼｰﾘﾝｸﾞ (基準単価)	変成ｼﾘｺｰﾝ(2成分形) MS-2 10×10	164	m			
計						

建築工事　細目別内訳

西小学校　特別教室棟　外部　　屋根及びとい

名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
DP塗	鉄鋼面　下地調整RB種	4.1	㎡			
DP塗	VP管面　下地調整RB種	19.9	㎡			
計						

建築工事　細目別内訳

西小学校　特別教室棟　外部　　金属

名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
煙突開口塞ぎPL-2.0	SUS製W295*H265	18	か所			
煙突開口塞ぎPL-2.0	SUS製W695*H285	18	か所			
計						

建築工事　細目別内訳

西小学校　特別教室棟　外部　　塗装

名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
DP塗	鉄鋼面　下地調整RB種	80.1	㎡			
DP塗	鉄鋼面　下地調整RB種	40.4	㎡			
ｺｰﾙﾀｰﾙ塗	発錆部	0.8	㎡			
計						

建築工事　細目別内訳

西小学校　特別教室棟　外部　　内外装

名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
水洗い	9MPa以上	53.1	㎡			
計						

建築工事　細目別内訳

西小学校　特別教室棟　外部　　防水改修

名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
ｳﾚﾀﾝ塗膜防水	X-1平部　下地調整材C-2	457	㎡			
ｳﾚﾀﾝ塗膜防水	X-2立上部　下地調整材C-2	61.1	㎡			
ｳﾚﾀﾝ塗膜防水	X-1平部　下地調整材C-2	21.7	㎡			
ｳﾚﾀﾝ塗膜防水	X-2立上部　下地調整材C-2	10.6	㎡			
ｳﾚﾀﾝ塗膜防水	X-2立上部　下地調整材C-2	85.3	㎡			
改修用ﾄﾞﾚｲﾝ		5	か所			
防水押え金物	FB-25xt4.0	132	m			
脱気筒	SUS製	5	か所			
点検口	一時撤去再取付	1	か所			
ﾙｰﾌﾄﾞﾚﾝ	横形ろく屋根用 ｱｽﾌｧﾙﾄ・ｼｰﾄ防水用 SGP 100A　　張掛け幅 100	2	か所			
ﾙｰﾌﾄﾞﾚﾝ	ﾊﾞﾙｺﾆｰ用　　塗膜防水用 SGP 50A　　張掛け幅 100	1	か所			
水切		32.9	m			
計						

建築工事　細目別内訳

西小学校　特別教室棟　外部　　外壁改修

名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
床ﾀｲﾙ (階段用ﾀｲﾙ張り)	垂れ付き段鼻　Ⅰ類　　無ゆう 100mm角　下地ﾓﾙﾀﾙ別途	20.4	m			
床ﾀｲﾙ張り	一般床ﾀｲﾙ張　Ⅰ類　　無ゆう 100mm角　下地ﾓﾙﾀﾙ別途	0.1	㎡			
防水形 複層塗材 E	ｺﾝｸﾘｰﾄ面　凹凸状　吹付け ｱｸﾘﾙ系 水系 つやあり 上塗2回 下地調整費(C-1)共	8.6	㎡			
防水形 複層塗材 E	ｺﾝｸﾘｰﾄ面　凹凸状　吹付け ｱｸﾘﾙ系 水系 つやあり 上塗2回 下地調整費(C-1)共	1,262	㎡			
充填工法	ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄﾓﾙﾀﾙ　鉄筋露出部	1.3	㎡			
充填工法	ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄﾓﾙﾀﾙ	12.6	㎡			
充填工法	ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄﾓﾙﾀﾙ　鉄筋露出部	1.4	㎡			
充填工法	ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄﾓﾙﾀﾙ	6.8	㎡			
壁 下地調整塗材 (基準単価)	C-2 厚1～2mm程度 こて塗り 吹付け下地 ｺﾝｸﾘｰﾄ面	58.4	㎡			
壁 下地調整塗材 (基準単価)	C-2 厚1～2mm程度 こて塗り 吹付け下地 ｺﾝｸﾘｰﾄ面	11.8	㎡			
可とう形 外装 薄塗材E 弾性ﾘｼﾝ (基準単価)	砂壁状 吹付け 下塗1回･主材塗2回	136	㎡			
ｼｰﾙ工法		2,145	m			
Ｂ－２ 打放し面Uｶｯﾄｼｰﾙ 材充填工法	1.0mm以上　挙動　有り	3,155	m			
ｳﾚﾀﾝ塗膜防水	X-2　立上部　下地調整C-2	93.6	㎡			
ｼｰﾘﾝｸﾞ (基準単価)	ﾎﾟﾘｳﾚﾀﾝ(2成分形)　PU-2 15×10	421	m			

建築工事　細目別内訳

西小学校　特別教室棟　外部　　外壁改修

名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
折版一時撤去再取付	軒樋共	32.1	㎡			
水洗い	9MPa ﾎﾟｰﾁ　ｺﾝｸﾘｰﾄ・ﾓﾙﾀﾙ部	71.1	㎡			
水洗い	9MPa 腰壁　ｺﾝｸﾘｰﾄ・ﾓﾙﾀﾙ部	16.6	㎡			
水洗い	9MPa ﾎﾟｰﾁ　ﾀｲﾙ部	8.5	㎡			
水洗い	9MPa 外壁　ｽﾃﾝﾚｽ部	2.8	㎡			
DP塗	鉄鋼面　下地調整RB種	38.5	㎡			
計						

建築工事　細目別内訳

西小学校　特別教室棟　外部　　解体

名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
木製幅木撤去	集積共	13.3	m			
木製幅木撤去	集積共	6.7	m			
床ﾀｲﾙ撤去	下地ﾓﾙﾀﾙ共 集積共	0.1	㎡			
既存防水層撤去	屋上防水層 ｱｽﾌｧﾙﾄ防水層 集積共	21.7	㎡			
既存防水層撤去	屋上防水層 ｱｽﾌｧﾙﾄ防水層 集積共	7.4	㎡			
既存防水層撤去	屋上防水層 ｼｰﾄ防水層　　集積共	457	㎡			
既存防水層撤去	屋上防水層 ｼｰﾄ防水層　　集積共	61.1	㎡			
ｳﾚﾀﾝ塗膜防水撤去		65.3	㎡			
横引ﾄﾞﾚｲﾝ撤去		5	か所			
入隅ｷﾞﾙｷｬﾝﾄ撤去		132	m			
防水押え金物撤去	FB-25xt4.0	132	m			
脱気筒撤去	SUS製	5	か所			
高架水槽台撤去		1	か所			
ﾙｰﾌﾄﾞﾚｲﾝ撤去	100φ	2	か所			
ﾙｰﾌﾄﾞﾚｲﾝ撤去	50φ	1	か所			

建築工事　細目別内訳

西小学校　特別教室棟　外部　　解体

名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
水切撤去		32.9	m			
ｼｰﾘﾝｸﾞ撤去	集積共	164	m			
ｼｰﾘﾝｸﾞ撤去	集積共	421	m			
ｱｸﾘﾙﾘｼﾝ吹付撤去	屋根	8.6	㎡			
ｱｸﾘﾙﾘｼﾝ吹付撤去	外壁	1,262	㎡			
ｱｸﾘﾙﾘｼﾝ吹付撤去	天井	136	㎡			
計						

建築工事　細目別内訳

西小学校　特別教室棟　外部　　発生材処理　　運搬

名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
とりこわし 発生材運搬	ﾀﾞﾝﾌﾟﾄﾗｯｸ　2t積級 人力積込　無筋ｺﾝｸﾘｰﾄ類 DID区間有り　10.5km以下	0.53	m3			
とりこわし 発生材運搬	ﾀﾞﾝﾌﾟﾄﾗｯｸ　2t積級 人力積込　無筋ｺﾝｸﾘｰﾄ類 DID区間有り　10.5km以下	2.69	m3			
とりこわし 発生材運搬	ﾀﾞﾝﾌﾟﾄﾗｯｸ　2t積級 人力積込　無筋ｺﾝｸﾘｰﾄ類 DID区間有り　10.5km以下	0.27	m3			
とりこわし 発生材運搬	ﾀﾞﾝﾌﾟﾄﾗｯｸ　2t積級 人力積込　無筋ｺﾝｸﾘｰﾄ類 DID区間有り　10.5km以下	0.01	m3			
発生材積込み	ｺﾝｸﾘｰﾄ類　人力	0.53	m3			
発生材積込み	ｺﾝｸﾘｰﾄ類　人力	2.69	m3			
発生材積込み	ｺﾝｸﾘｰﾄ類　人力	0.27	m3			
発生材積込み	ｺﾝｸﾘｰﾄ類　人力	0.01	m3			
計						

建築工事　細目別内訳

西小学校　特別教室棟　外部　　発生材処理　　処分

名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
発生材処分	金属くず	0.53	m3			
発生材処分	廃ﾌﾟﾗ	2.69	m3			
発生材処分	ｱｽﾌｧﾙﾄがら	0.27	m3			
発生材処分	ｺﾝｸﾘｰﾄがら	0.01	m3			
計						

建築工事　細目別内訳

西小学校　屋外階段　　土工

名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
根切り (基準単価)	つぼ,布掘り 深さ2.5m程度	7	m3			
埋戻し	人力土工 － A種（山砂の類）	5.9	m3			
計						

建築工事　細目別内訳

西小学校　屋外階段　　地業

名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
砂利地業	再生切込砕石	0.3	m3			
計						

建築工事　細目別内訳

西小学校　屋外階段　　鉄筋

名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ用 異形棒鋼	JIS G3112 SD295　D10	0.1	t			
鉄筋運搬費 (基準単価)	4ｔ車　30km程度	0.1	t			
鉄筋加工組立	小型構造物	0.1	t			
計						

建築工事　細目別内訳

西小学校　屋外階段　　コンクリート

名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
普通ｺﾝｸﾘｰﾄ	JIS A5308　呼び強度18 S15 粗骨材20	0.1	m3			
普通ｺﾝｸﾘｰﾄ	JIS A5308　呼び強度24 S18 粗骨材20	0.7	m3			
普通ｺﾝｸﾘｰﾄ	JIS A5308　呼び強度24 S18 粗骨材20	0.5	m3			
ｺﾝｸﾘｰﾄ打設手間 (基準単価)	土間　　ﾎﾟﾝﾌﾟ打設 50m3/回程度　　S15～S18 -　　圧送費､基本料別途	1.2	m3			
ｺﾝｸﾘｰﾄ打設手間 (基準単価)	捨てｺﾝｸﾘｰﾄ　　ﾎﾟﾝﾌﾟ打設 30m3/回程度　　S15～S18 -　　圧送費､基本料別途	0.1	m3			
ｺﾝｸﾘｰﾄﾎﾟﾝﾌﾟ 圧送 (基準単価)	30m3以上 50m3/回未満 基本料金別途加算	1.3	m3			
ｺﾝｸﾘｰﾄﾎﾟﾝﾌﾟ圧送 基本料金 (基準単価)	30m3以上 50m3/回未満	2	回			
計						

建築工事　細目別内訳

西小学校　屋外階段　　型枠

名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
型枠 (基準単価)	打放合板型枠B種 ﾗｰﾒﾝ構造　　地上軸部 階高3.5～4.0m程度	2.5	㎡			
型枠運搬費 (基準単価)	4ｔ車　30km程度 往復	2.5	㎡			
計						

建築工事　細目別内訳

西小学校　屋外階段　　鉄骨

名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
鋼板	PL-6　SS400	0.03	t			
軽量鉄骨加工・組立	母屋.胴縁の類 一 般 普通ﾎﾞﾙﾄ締共	0.03	t			
鉄骨現場建方	低層(標準) 建方機械別途	0.03	t			
鉄骨運搬	6t車	0.03	t			
鉄骨現場溶接	半自動(すみ肉6㎜換算)	15.7	m			
計						

建築工事　細目別内訳

西小学校　屋外階段　　防水

名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
壁 下地調整塗材 (基準単価)	C-2 厚1～2㎜程度 こて塗り 吹付け下地 ｺﾝｸﾘｰﾄ面	11.3	㎡			
ｳﾚﾀﾝ塗膜防水	X-2	11.3	㎡			
計						

建築工事　細目別内訳

西小学校　屋外階段　　金属

名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
計						

建築工事　細目別内訳

西小学校　屋外階段　　塗装

名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
DP塗	鉄部細幅	520	m			
DP塗	鉄部	318	㎡			
下地調整費	ｺﾝｸﾘｰﾄ	4.7	㎡			
可とう形 外装薄塗材E 弾性ﾘｼﾝ(基準単価)	砂壁状 吹付け 下塗1回･主材塗2回	4.7	㎡			
計						

建築工事　細目別内訳

西小学校　屋外階段　　外壁改修

名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
ｼｰﾙ工法		0.9	m			
Ｂ－２ 打放し面Uｶｯﾄｼｰﾙ 材充填工法	1.0㎜以上　挙動　有り	2.4	m			
充填工法	ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄﾓﾙﾀﾙ　鉄筋露出部	0.01	㎡			
充填工法	ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄﾓﾙﾀﾙ	0.1	㎡			
計						

建築工事　細目別内訳

西小学校　屋外階段　　解体

名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
ｱｸﾘﾙﾘｼﾝ吹付		5.6	㎡			
計						

建築工事　細目別内訳

西小学校　屋外階段　　発生材処理　　運搬

名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
建設発生土運搬	ﾀﾞﾝﾌﾟﾄﾗｯｸ　2t積級 ﾊﾞｯｸﾎｳ0.13m3 土砂 DID区間有り 11.0km以下	1.1	m3			
発生材積込み	ｺﾝｸﾘｰﾄ類　人力	1.1	m3			
計						

建築工事　細目別内訳

西小学校　屋外階段　　発生材処理　　処分

名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
発生材処分	建設発生土	1.1	m3			
計						

建築工事　細目別内訳

西小学校　受水槽　　土工

名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
埋戻し(B種) (基準単価)	-　　発生土	3.1	m3			
埋戻し	人力土工 - -	3	m3			
床付け (基準単価)	総掘り	16.5	㎡			
根切り (基準単価)	つぼ,布掘り 深さ2.5m程度	4.6	m3			
床付け (基準単価)	つぼ,布掘り	5.8	㎡			
計						

建築工事　細目別内訳

西小学校　受水槽　　地業

名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
砂利地業	再生切込砕石	0.3	m3			
計						

建築工事　細目別内訳

西小学校　受水槽　　鉄筋

名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ用 異形棒鋼	JIS G3112 SD295　D13	0.3	t			
工場加工鉄筋運搬	細物	0.3	t			
鉄筋運搬費 (基準単価)	4ｔ車　30km程度	0.3	t			
鉄骨ｽｸﾗｯﾌﾟ		1	式			
計						

建築工事　細目別内訳

西小学校　受水槽　　コンクリート

名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
普通ｺﾝｸﾘｰﾄ	JIS A5308　FC=18　S15 粗骨材20	0.3	m3			
普通ｺﾝｸﾘｰﾄ	JIS A5308　FC=24　S18 粗骨材20	1.3	m3			
普通ｺﾝｸﾘｰﾄ	JIS A5308　FC=24　S18 粗骨材20	1.5	m3			
計						

建築工事　細目別内訳

西小学校　受水槽　　型枠

名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
普通型枠	小型構造物	11.4	㎡			
型枠運搬	4t車 2階建以下	11.4	㎡			
計						

建築工事　細目別内訳

西小学校　受水槽　　ユニット及びその他

名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
物置	一時撤去再取付	1	か所			
計						

建築工事　細目別内訳

西小学校　受水槽　　外構

名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
ﾒｯｼｭﾌｪﾝｽ	W2000　H2000	12.9	m			
ﾒｯｼｭﾌｪﾝｽ	□250*450　設置共	6	基			
計						

建築工事　細目別内訳

西小学校　受水槽　　解体

名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
ｺﾝｸﾘｰﾄ撤去	無筋　　人力　　集積共	0.7	m3			
ｺﾝｸﾘｰﾄ撤去	鉄筋切断共 ｺﾝｸﾘｰﾄﾌﾞﾚｰｶ 集積共	11.9	m3			
床ﾓﾙﾀﾙ・床人研ぎ撤去	集積共	16.5	㎡			
壁ﾓﾙﾀﾙ・ﾌﾟﾗｽﾀｰ撤去	集積共	19.2	㎡			
鋼製戸撤去	片開き戸 枠共　集積共	14.4	㎡			
すきとり（基準単価）	積み込み共 H300程度	0.4	m3			
計						

建築工事　細目別内訳

西小学校　受水槽　　発生材処理　　運搬

名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
とりこわし 発生材運搬	ﾀﾞﾝﾌﾟﾄﾗｯｸ　　4t積級 ﾊﾞｯｸﾎｳ0.28m3 無筋ｺﾝｸﾘｰﾄ類 DID区間有り　12.0km以下	11.9	m3			
とりこわし 発生材運搬	ﾀﾞﾝﾌﾟﾄﾗｯｸ　　2t積級 ﾊﾞｯｸﾎｳ0.13m3 無筋ｺﾝｸﾘｰﾄ類 DID区間有り　11.0km以下	0.7	m3			
とりこわし 発生材運搬	ﾀﾞﾝﾌﾟﾄﾗｯｸ　　2t積級 人力積込　　無筋ｺﾝｸﾘｰﾄ類 DID区間有り　10.5km以下	3.2	m3			
とりこわし 発生材運搬	ﾀﾞﾝﾌﾟﾄﾗｯｸ　　2t積級 人力積込　　無筋ｺﾝｸﾘｰﾄ類 DID区間有り　10.5km以下	0.1	m3			
建設発生土運搬	ﾀﾞﾝﾌﾟﾄﾗｯｸ　　2t積級 ﾊﾞｯｸﾎｳ0.13m3 土砂 DID区間有り 11.0km以下	1.6	m3			
発生材積込み	ｺﾝｸﾘｰﾄ類　　人力	11.9	m3			
発生材積込み	ｺﾝｸﾘｰﾄ類　　人力	0.7	m3			
発生材積込み	ｺﾝｸﾘｰﾄ類　　人力	3.2	m3			
発生材積込み	ｺﾝｸﾘｰﾄ類　　人力	0.1	m3			
積込み	人力土工　－	1.6	m3			
計						

建築工事　細目別内訳

西小学校　受水槽　　発生材処理　　処分

名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
発生材処分	ｺﾝｸﾘｰﾄ類(有筋)	2.1	m3			
発生材処分	ｺﾝｸﾘｰﾄ類(無筋)	1.7	m3			
発生材処分	がれき類	0.03	m3			
発生材処分	金属くず	0.01	m3			
発生材処分	建設発生土	0.7	m3			
計						

建築工事　別紙明細

西小学校　屋内運動場　　解体　　解体

名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
ﾘｼﾝ吹付 外壁,軒裏	下地調整材【ｱｽﾍﾞｽﾄ含有】	1	式			
床養生	ﾌﾟﾗｽﾁｯｸｼｰﾄ(厚0.15mm以上)二重+吸水ｼｰﾄ	166.4	㎡			
床養生	ﾌﾟﾗｽﾁｯｸｼｰﾄ(厚0.15mm以上)一重	664	㎡			
壁・開口養生	ﾌﾟﾗｽﾁｯｸｼｰﾄ(厚0.08mm以上)一重	880.9	㎡			
天井養生	ﾌﾟﾗｽﾁｯｸｼｰﾄ(厚0.08mm以上)一重	166.4	㎡			
外壁塗材撤去(下地調整材共)	AGﾊﾞﾌﾞﾙｼｽﾃﾑ	954.1	㎡			
AGﾊﾞﾌﾞﾙｼｽﾃﾑ機械接地解体費		1	式			
AGﾊﾞﾌﾞﾙｼｽﾃﾑ機械運搬費	4tﾕﾆｯｸ　燃料費共	3	車			
AGﾊﾞﾌﾞﾙｼｽﾃﾑ設置箇所屋根設置	W5.0*L5.0*H3.0程度(単管,ｺﾝﾊﾟﾈ)	1	式			
発電機	45KVA　燃料,運搬費共	1	式			
ｺﾝﾌﾟﾚｯｻｰ	7.5馬力　ｱﾌﾀｰｸｰﾗｰ付き　燃料・運搬費共	1	式			
ｶﾊﾞｰｱｯﾌﾟ剤散布	除去面	954.1	㎡			
廃赤面密封処理	二重梱包(除去塗材,床養生材共)	1	式			
清掃費	施工区画二回清掃	830.4	㎡			
消耗品費	手袋,ﾏｽｸ等	954.1	㎡			

建築工事　別紙明細

西小学校　屋内運動場　　解体　　解体

名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
ﾘｼﾝ吹付 外壁,軒裏	下地調整材【ｱｽﾍﾞｽﾄ含有】	1	式			
粉塵濃度測定費 処理作業前	測定1・2(2回×4工区)	8	回			
粉塵濃度測定費 処理作業中	測定3・4・5(3回×4工区)	12	回			
粉塵濃度測定費 処理作業後(養生撤去前)	測定6(1回×4工区)	4	回			
粉塵濃度測定費 処理作業後(養生撤去後)	測定7・8(2回×4工区)	8	回			
特別産業廃棄物運搬費	4t(1車-8㎥)	3	台			
特別産業廃棄物処分費	除去・ｱｽﾍﾞｽﾄ,養生材(床養生のみ) 共	24	m3			
計						

建築工事　別紙明細

西小学校　受水槽　　鉄筋

名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
鉄骨ｽｸﾗｯﾌﾟ		1	式			
ｽｸﾗｯﾌﾟ控除	鉄屑　H2	▲0.01	t			
計						

共通仮設費(積上)　明細

名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
仮囲い	成形鋼板H=3000　7か月	125	m			
ﾊﾟﾈﾙｹﾞｰﾄ	L=5400　H=4000　7か月	1	か所			
交通誘導員B	常時	242	人			
交通誘導員B	大型車両進入時	50	人			
ﾗﾌﾃﾚｰﾝｸﾚｰﾝ運転 (油圧伸縮ｼﾞﾌﾞ型)	25t吊り　　ｵﾍﾟﾚｰﾀ付き　賃料 標準	10	日			
計						

現場管理費(積上)　明細

名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
広島県工事中情報共有システム		1	式			
計						